●臨時衞生事務講習規程

明治三十五年十一月
臺灣總督府訓令第二百八十九號

【民政部】【廳】

改正 大正八年訓令第一六九號

臨時衞生事務講習規程左ノ通相定ム

臨時衞生事務講習規程

第一條 臨時衞生事務講習ハ必要ニ應シ隨時之ヲ開始シ【廳】衞生主任ニ衞生事務及衞生警察上緊要ノ事項ヲ講習セシムルモノトス

第二條 講習事務ハ【民政部警察本署】ニ於テ之ヲ取扱フ

第三條 講習科目ハ左ノ如シ

一 保健ニ關スル事項
一 醫務ニ關スル事項
一 阿片ニ關スル事項
一 衞生統計ニ關スル事項

第四條 講習期間ハ二箇月トシ開講期日ハ其ノ時時之ヲ定ム

第五條 授業時間ハ一日六時間以內トシ休業ハ一般官衙ノ例ニ依ル

第六條 講習期ノ終ニ於テ修業ノ成績ヲ試驗シ合格者ニハ別記樣式ノ修業證書ヲ付與ス

第七條 修業試驗ヲ終リタルトキハ【警察本署長】ハ其ノ成績表ニ一件書類ヲ添ヘ總務長官ニ報告スヘシ

第八條 講習ニ關スル心得ハ別ニ之ヲ定ム

【案[illegible]】

別記樣式（竪七寸五分 横一尺二寸）

修業證書

何廳官 氏 名

講習科程ヲ修了ス

年 月 日

衞生

臺灣總督府
事務
警察本署印

臺灣總督府民政部警察本署長氏名印

●臨時蕃語講習所規程

大正二年三月
臺灣總督府訓令第三十七號

【民政部】【廳】

改正 大正八年訓令第一六九號

臨時蕃語講習所規程左ノ通相定ム

臨時蕃語講習所規程

第一條 【廳長】ハ蕃地勤務警察職員ニ蕃語ヲ講習セシムル爲必要ニ應シ臨時蕃語講習所ヲ開設スヘシ

前項ノ講習所ハ名稱、位置及開所期日ハ臺灣總督ニ報告スヘシ其ノ變更、廢止シタルトキ亦同シ

第二條 臨時蕃語講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

一 所長
二 敎官
三 舍監
四 講師

【案[illegible]】

第三條 所長ハ所轄【廳】ノ警務課長又ハ【支廳長】ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 所長ハ【廳長】ノ指揮ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第五條 敎官及舍監ハ警部、警部補又ハ通譯、講師ハ巡查、【巡查補】、囑託員又ハ雇員ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 敎官ハ所長ノ指揮ヲ受ケ敎務ヲ掌リ講師ハ敎官ヲ補助ス

第七條 舍監ハ所長ノ指揮ヲ承ケ講習生ノ紀律ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 講習生ハ【廳長】之ヲ命ス

第九條 講習生ニシテ素行修ラス又ハ成業ノ見込ナキ者ハ【廳長】ノ認可ヲ得テ所長之ニ退所ヲ命スルコトヲ得

第十條 講習ノ方法ハ講演及實地講習ノ二種トス實地講習ハ蕃人ニ就キ講習セシムルモノトス

第十一條 講習期間ハ六箇月以內トス

第十二條 講習時間ハ一日六時間以上トス

第十三條 休暇ハ一般官衙ノ休暇日ニ依ル

第十四條 試驗ヲ分チテ臨時試驗及卒業試驗トシ臨時試驗ハ必要ノ場合ニ之ヲ行ヒ卒業試驗ハ講習期ノ終ニ於テ之ヲ行フモノトス

第十五條 試驗ハ筆記、口述又ハ實地ニ依リ之ヲ行フモノトス

試驗ノ成績ハ所長之ヲ【廳長】ニ報告スヘシ

第十六條 試驗成績ノ評點ハ一科目一百點ヲ以テ滿點トシ各科目五十點以上平均六十點以上ヲ以テ合格トス

第十七條 卒業試驗ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ與ヘ優等ノ者ニハ尙褒狀ヲ付與ス

卒業證書及褒狀ハ別記樣式ニ依ル

第十八條 卒業證書及褒狀ハ所長之ヲ授與スルモノトス

第十九條 講習生ニハ上衣並外套ノ左腕上膊外部ニ別記雛形ノ徽章ヲ附著セシム

第二十條 本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ【廳長】之ヲ定メ臺灣總督ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式） 用紙鳥ノ子

一尺
七寸五分

證

官職 氏 名

右者本所規定ニ依リ何々語何箇月間ノ講習ヲ修了セリ仍テ之ヲ證ス

年 月 日

何々臨時蕃語講習所

七寸五分

一尺

褒狀

官職 氏 名

右者試驗ノ成績優等ニシテ平素ノ品行方正ニ付特ニ之ヲ賞ス

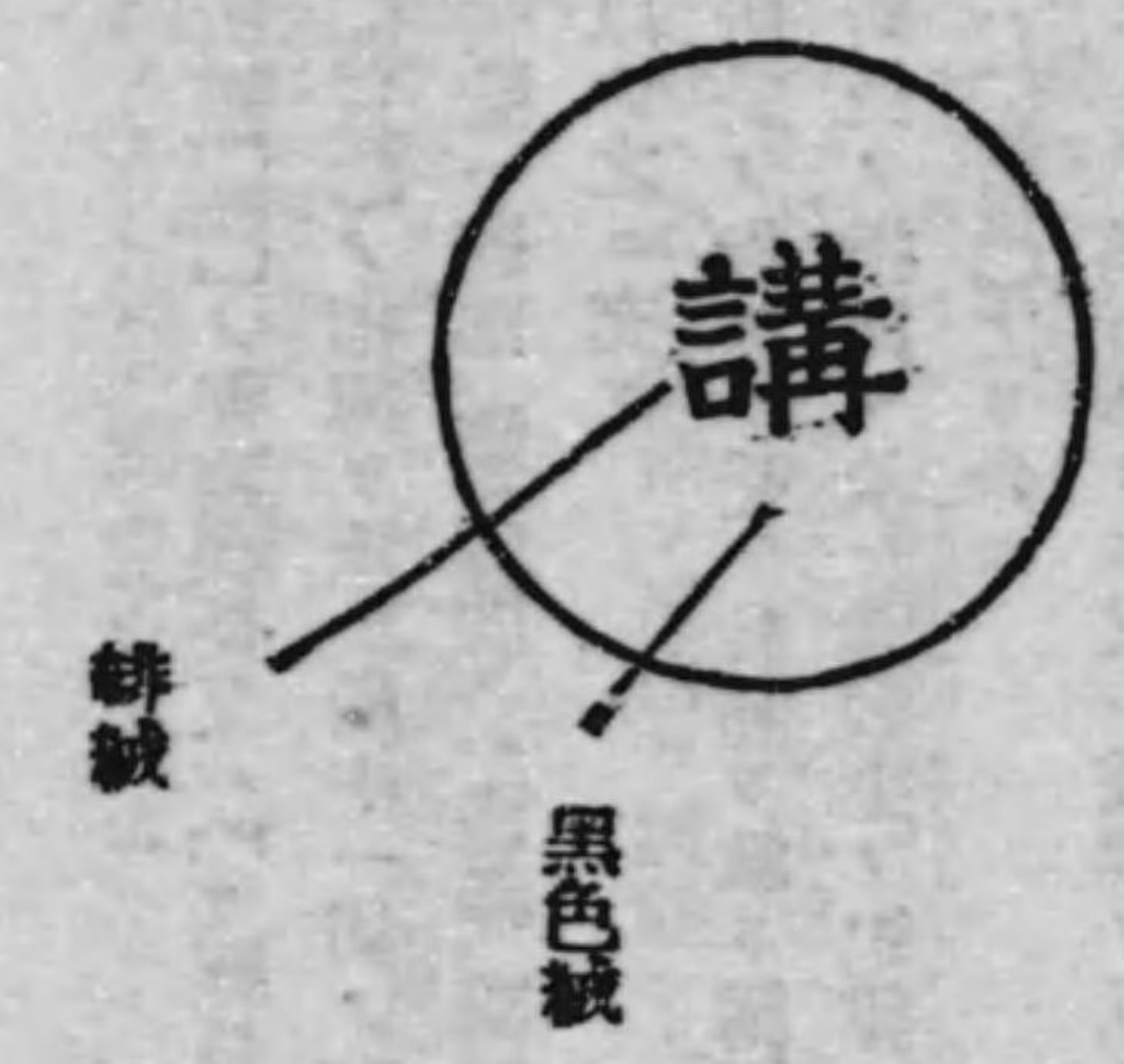
年 月 日

何々臨時蕃語講習所長

官 氏 名印

證形

直徑一寸二分



●臺灣總督府通信事務練習規程

明治四十年二月
臺灣總督府訓令第二十四號

臺灣總督府（官房ヲ除ク） 各郵便局

改正 大正七年訓令第一五〇號、八年第一七八號、第二二三號

臺灣總督府通信事務練習規程左ノ通相定ム

臺灣總督府通信事務練習規程

第一條 通信事務練習ニ關スル事務ハ遞信局長ヲシテ之ヲ管理セシム

第二條 通信事務練習ノ科程ヲ分テ甲科（一部二部）及乙科トシ甲科一部ハ主トシテ郵便、電信業務ニ從事スヘキ者甲科二部ハ主トシテ電氣通信業務ニ從事スヘキ者ヲ養成シ乙科ハ現ニ通信官署ニ奉職スル吏員ヲシテ執務上必要ナル講習ヲ爲サシムルモノトス

第三條 甲科生ト爲スコトヲ得ヘキ者ハ年齡十五歳以上二十五歳以下ノ男子又ハ女子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セス成規ノ入學試驗ニ合格シタル者ニ限ル但シ中學校若ハ高等女學校三學年以上ヲ修業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ハ學術試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ

一 故意ヲ以テ通信ニ關スル罪ヲ犯シタル者

二 前號以外ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者又ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

四 懲戒ニ依リ免職トナリ二年ヲ經過セサル者

五 在學中徴兵現役ニ關係ナキ者

練習生ハ練習終了後採用スヘキ郵便局長ニ於テ之ヲ選出スルコトヲ得其ノ選出ニ係ル者ニシテ高等小學校若ハ臺灣公學校（修業年限六年）ヲ卒業シ又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ハ前項但書ノ例ニ依ル

第四條 乙科生ト爲スコトヲ得ヘキ者ハ通信官署ノ吏員ニシテ所屬長ノ指定シタル者ニ限ル但シ時宜ニ依リ一般ニ募集スルコトアルヘシ

第五條 練習期間ハ甲科ハ一年以內乙科ハ三箇月以內トス

練習生ニ教授スヘキ科目左ノ如シ但シ乙科ニ在リテハ其ノ一部ヲ課セサルコトヲ得

甲科一部

一 電信、電話、郵便、爲替、貯金ニ關スル法規及事務

二 電氣通信術

三 電氣學初步

四 英語

五 作文

六 修身

甲科二部

一 電氣通信術

二 電氣學初步

三 電信法規及事務

四 英語

五 修身

乙科

一 電信、電話、郵便、爲替、貯金ニ關スル法規及事務

二 會計法規、簿記及會計ニ關スル事務

三 法制

四 統計學及統計事務

第六條 練習生ニハ在學中手當トシテ甲科生ニ對シテハ日額金五十錢以內、乙科生（臺北所在ノ官署ニ奉職スル者ヲ除ク）ニ對シテハ日額金六十錢以內ヲ給與ス

第七條 授業ニ要スル物品中消耗品ハ之ヲ給與シ器具機械及書籍類ハ之ヲ貸與ス

第八條 甲科生ハ練習終了後滿二箇年間臺灣總督府ノ指定スル通信官署ニ奉職スル義務アルモノトス

甲科生ニハ制服、制帽及靴ヲ貸與ス

第九條 練習生ニシテ不都合ノ行爲アルカ又ハ成業ノ見込ナキ者ハ甲科生ニ在リテハ退學ヲ命シ乙科生ニ在リテハ除名スルコトアルヘシ

第十條 甲科生ニシテ不都合ノ行爲ニ因リテ退學ヲ命セラレ若ハ自己ノ便宜ニ因リテ退學シ又ハ義務年限中免職セラレ若ハ自己ノ便宜ニ依リ辭職シタルトキハ在學中給與シタル手當金ノ全部若ハ一部ヲ辨償セシムヘシ但シ止ムヲ得サル事故ニ因リ退學又ハ辭職シタル者ニ對シテハ辨償金ノ全部若ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第十一條 本令施行ニ關スル細則ハ遞信局長之ヲ定ムヘシ

附則

明治三十八年三月訓令第五十號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年三月訓令第五十號ニ依ル通信生ハ本令ニ依ル甲科生トス但シ

第七條中服制ノ規定ハ之ヲ適用セス

●臺灣總督府遞信官吏練習所依託生規則

大正十一年八月五日
臺灣總督府令第百四十六號

改正　大正一四年府令第二四號

臺灣總督府遞信官吏練習所依託生規則左ノ通相定ム

臺灣總督府遞信官吏練習所依託生規則

第一章　總則

第一條　臺灣總督府遞信官吏練習所依託生（以下委託生ト稱ス）ハ臺灣總督府交通局總長ノ選拔ニ依リ遞信省所管遞信官吏練習所ニ依託シ遞信事業ニ必要ナル特殊ノ學藝技術ヲ修習セシムルモノトス

第二條　依託生ハ之ヲ分チテ第一部行政科、第二部行政科、技術科、無線通信科、專修科及技術補習科ノ六種トス

第三條　第一部行政科依託生ニハ郵便、郵便爲替、郵便貯金其ノ他遞信行政上必要ナル學術ヲ修習セシム

第四條　第二部行政科依託生ニハ電信、電話事業其ノ他遞信行政上必要ナル學術及特殊電氣通信術ヲ修習セシム

第五條　技術科依託生ニハ電信、電話、無線電信、無線電話及電力ニ關スル學術ヲ修習セシム

第五條ノ二　無線通信科依託生ニハ無線電信及無線電話ノ通信上必要ナル學術ヲ修習セシム

第六條　專修科依託生ニハ遞信事業ニ關スル特殊ノ業務又ハ學術ヲ專修セシム

專修科依託生ハ之ヲ外國郵便科、無線電信技術科、外國電信業務科及無線電信通信科ノ四種ニ分ツ

第七條　技術補習科依託生ニハ電信及電話ニ關スル學術ヲ修習セシム

第八條　第一部行政科、第二部行政科、技術科及無線通信科ノ修習開始期日ハ毎年六月一日トス

專修科及技術補習科ノ修習開始期日ハ修習開始ノ都度之ヲ定ム

第九條　修習期間ハ第一部行政科、第二部行政科、技術科及無線通信科ハ二年專修科及技術補習科ハ六月トス但シ時宜ニ依リ此ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第十條　各科ノ學科目、學修期、休業期日、敎務、試驗及依託生在學中ノ取締ニ關シテハ遞信官吏練習所規則、遞信官吏練習所專修科規程及遞信官吏練習所技術補習科規程ノ定ムル所ニ依ル

第二章　入學及退學

第十一條　第一部行政科、技術科及無線通信科依託生トシテ入學ヲ許スヘキ者ハ左記各號ノ資格ヲ具フル男子ニ限ル

一　年齡十七年以上二十五年以下ノ者
二　品行方正身元確實ナル者
三　將來永ク遞信官吏トシテ在職スル志望確固タル者

第十二條　第二部行政科依託生トシテ入學ヲ許スヘキ者ハ現ニ臺灣總督府遞信部內ニ在職スル職員ニシテ左記各號ノ資格ヲ具フル男子ニ限ル

一　年齡十七年以上二十五年以下ノ者

二　將來永ク遞信官吏トシテ在職スル志望確固タル者
三　遞信部內ニ於テ引續キ六月以上電氣通信事務ニ從事シ現ニ其ノ職ニ在ル者又ハ一年以上其ノ事務ニ從事シタル者

第十三條　專修科依託生トシテ入學ヲ許スヘキ者ハ現ニ臺灣總督府遞信部內ニ在職スル職員ニシテ在學中徵兵現役又ハ演習召集ニ關係ナキ左ノ資格ヲ具フル男子ニ限ル

一　外國郵便科依託生トシテ入學ヲ許スヘキ者ハ遞信官吏練習所第一部行政科又ハ從前ノ規定ニ依ル行政科ヲ卒業シタル者
二　無線電信技術科依託生トシテ入學ヲ許スヘキ者ハ遞信官吏練習所無線電信通信科又ハ本令若ハ從前ノ規定ニ依ル技術科ヲ卒業シタル者
三　外國電信業務科及無線電信通信科依託生トシテ入學ヲ許スヘキ者ハ從前ノ規定ニ依ル遞信官吏練習所電信科ヲ卒業シタル者

前項各號ノ資格ヲ有セサル者ト雖相當學力ヲ有スト認メタルモノハ特ニ之ヲ選拔スルコトアルヘシ

第十四條　技術補習科依託生トシテ入學ヲ許スヘキ者ハ現ニ臺灣總督府遞信部內ニ在職スル職員ニシテ在學中徵兵現役又ハ演習召集ニ關係ナキ左ノ資格ヲ具フル男子ニ限ル

一　遞信部內ニ於テ電信電話ノ技術ニ關スル職務ニ從事シ相當練熟セル者
二　普通學ニ關シ中學校第三學年修業程度ノ學力アル者

第十五條　依託生ノ豫選ハ入學試驗ノ上之ヲ決定ス但シ專修科及技術補習科依託生ニ付テハ時宜ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

依託生ノ豫選決定シタルトキハ之ヲ通知ス

第十六條　入學試驗ハ之ヲ分チテ體格檢査及學業試驗トシ體格檢査ニ合格シタル者ニ非サレハ學業試驗ヲ受ケシメサルモノトス

第一部行政科、第二部行政科、技術科及無線通信科ノ學業試驗ハ左ノ科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ヲ以テ之ヲ行フ

國語及漢文
英語
數學
物理學
化學
地理
歷史
電氣通信術（第二部行政科ニ限ル）

前項ノ學業試驗科目中左記各號ノ一ニ該當スル者ハ地理及歷史ノ科目ニ就キ試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ

一　中學校ヲ卒業シタル者
二　專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラレタル者
三　專門學校入學者檢定ニ關スル規定ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

專修科及技術補習科ノ學業試驗ノ科目及程度ハ交通局總長ノ定ムル所ニ依ル

第十七條　入學試驗ハ毎年四月臺北ニ於テ之ヲ行フ

前項ニ依ル受驗ニ要スル旅費ハ受驗者ノ自辨トス

第十八條　第一部行政科、第二部行政科、技術科及無線通信科依託生ハ現ニ臺灣總督府遞信部内ニ在職スル者タルト否トヲ問ハス臺灣總督府交通局無給雇員トシテ入學ヲ命スヘシ

第十九條　第一部行政科、第二部行政科、技術科及無線通信科依託生ニシテ在學中徵兵現役ニ服シタルトキハ其ノ服役中休學ヲ命シ除隊後相當ノ學年ニ編入ス

第二十條　第一部行政科、第二部行政科、技術科及無線通信科依託生ノ志願者ハ毎年二月末日（別ニ期日ヲ指定スル場合ニ在リテハ其ノ期日）迄ニ、專修科及技術補習科依託生ノ志願者ハ募集ノ都度志願書（別記書式第一號）ニ履歷書（別記書式第二號）及戸籍謄本（本島人ニ在リテハ戸口調査簿ノ抄本）ヲ添ヘ臺灣總督府交通局ニ提出スヘシ但シ現ニ臺灣總督府遞信部内ニ在職スル者ニ在リテハ戸籍謄本（本島人ニ在リテハ戸口調査簿ノ抄本）ノ添附ヲ省略シ提出書類ハ所屬局長ヲ經由セシムルモノトス

第二十一條　第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタル者ハ速ニ身元保證人ヲ定メ誓約書（別記書式第三號）ヲ臺灣總督府交通局ニ提出スヘシ

第二十二條　身元保證人ハ二名トシ不動産ヲ所有シ若ハ所得税ヲ納付スル者又ハ臺灣總督府部内ニ於ケル判任官七級俸以上ノ官吏タルヲ要ス

前項ニ定ムル不動産又ハ所得税ニ付テハ其ノ所有若ハ納付ヲ證スル爲關係アル官公署ノ證明書ヲ添附スヘシ

第二十三條　身元保證人改姓名、轉居又ハ改印ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第二十四條　身元保證人死亡シ又ハ第二十二條ノ資格ヲ喪失シタルトキハ更ニ身元保證人ヲ定メ身元保證人變更屆（別記書式第四號）ヲ提出スヘシ

【臺轄】

第二十五條　依託生ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ退學ヲ命スヘシ

一　成績不良ニシテ成業ノ見込ナキトキ

二　疾病其ノ他ノ事故ニ因リ成業ノ見込ナキトキ

三　出席常ナラサルトキ又ハ三月以上引續キ出席セサルトキ

第三章　給與

第二十六條　第一部行政科、第二部行政科、技術科及無線通信科依託生ニハ學資トシテ毎月金四十圓ヲ給與ス

專修科及技術練習科依託生ニハ加俸ノ支給ヲ停止ス

第一部行政科又ハ技術科依託生ヨリ引續キ專修科依託生ニ轉シタル者ニ對シテハ仍前項ニ依ラス第一項ノ學資ヲ給與スルモノトス

第二十七條　學資ハ十二月分ニ限リ當月分ヲ其ノ月二十一日以後ニ於テ支給シ其ノ他ノ月分ハ翌月一日之ヲ支給ス但シ當日日曜又ハ祭日ニ當ルトキハ順次翌日ニ繰下ケ月ノ中途ニ於テ給與スヘキ事實ノ消滅シタルトキハ其ノ際之ヲ支給スルモノトス

第二十八條　學費ノ支給ハ左ノ方法ニ依ル

一　一月未滿ハ日割計算トス

二　依託生トシテ入學セシムル爲雇員ニ採用シタルトキハ其ノ翌日ヨリ起算ス

三　支給ノ終期ハ雇員ヲ免シタル當日トス

四　死亡シタルトキハ當月分ノ學費ノ全額ヲ支給ス

五　日割計算ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第二十九條　學費ノ給與ヲ受クル依託生ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ期間學費ヲ給與セス

一　休學ヲ命セラレタルトキ

二　停學ヲ命セラレタルトキ

三　刑事被告人ト爲リタルトキ

第三十條　依託生ニ入學又ハ復歸ヲ命シタルトキ若ハ實習又ハ卒業試驗ノ爲旅行ヲ命シタルトキハ遞信局、通信官署及燈臺職員特別旅費規程ニ依リ旅費ヲ支給ス

第三十一條　依託生ニハ遞信官吏練習所所定ノ制服、制帽、靴及修習用ノ器具書籍ヲ給與又ハ貸與スルコトアルヘシ

第四章　賞罰

第三十二條　依託生ニシテ在學中試驗ノ成績優秀ナル者ニ對シテハ特待生トシテ學習期中學費月額五圓ヲ增給シ又ハ褒賞ヲ授與スルコトアルヘシ

第三十三條　依託生本令ニ違背シ又ハ操行不良ナルトキハ左ノ區別ニ依リ懲罰ニ附スヘシ

一　譴責

二　停學

三　退學

第五章　義務

第三十四條　依託生ハ修習終了ノ翌日ヨリ起算シ左ノ期間臺灣總督府遞信部内ニ在職スル義務アルモノトス

一　第一部行政科、第二部行政科、技術科ハ無線通信科ヲ修了シタル者　各五年

【臺轄】

二　專修科又ハ技術補習科ヲ修了シタル者　各二年

在職義務期間ハ各科ニ付之ヲ併算ス但シ五年ヲ超ユルトキハ之ヲ五年トス

第三十五條　依託生在職義務期間内兵役ニ服スルトキハ其ノ期間在職義務ノ履行ヲ猶豫ス

第三十六條　休職期間及依託生トシテノ在職期間ハ之ヲ在職義務期間ニ算入ス但シ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　兵役ニ服スル爲休職ヲ命セラレタルトキ

二　文官分限令第十一條第一項第一號又ハ第二號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニシテ刑ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケ免官トナリタルトキ

第三十七條　依託生ニシテ退學ヲ命セラレ若ハ退學ヲ許可セラレタル者又ハ第十九條ニ依リ休學ヲ命セラレタル者ニシテ除隊後引續キ修學セサル者ハ第三十九條ニ定ムル金額ヲ其ノ際一時ニ本人又ハ保證人ヨリ償納スヘシ但シ特殊ノ事情アリト認ムルトキハ其ノ分納ヲ許可シ又ハ其ノ全部若ハ一部ノ償納ヲ猶豫又ハ免除スルコトアルヘシ

第三十八條　依託生卒業後在職義務期間中左記各號ノ一ニ該當スルトキハ第三十九條ニ定ムル金額ヲ其ノ際一時ニ本人又ハ保證人ヨリ償納スヘシ但シ第二號乃至第四號ニ該當スル者ニシテ特殊ノ事情アリト認ムルトキハ其ノ分納ヲ許可シ又ハ其ノ全部若ハ一部ノ償納ヲ猶豫又ハ免除スルコトアルヘシ

一　刑ノ宣告又ハ懲戒處分ニ因リ免官又ハ免職トナリタルトキ

二　疾病又ハ自己ノ便宜ニ因リ退官又ハ退職シタルトキ

三 兵役ニ服スル爲休職、退官又ハ退職ヲ命セラレタル者ニシテ其ノ除隊後三月内ニ疾病又ハ自己ノ便宜ニ因リ復職セサルトキ

四 臺灣總督府遞信部外ニ轉官又ハ轉職シタルトキ

第三十九條 第三十七條及前條ノ規定ニ依ル償納金ハ依託生トシテ在學中給與セラレタル學費及第三十條ニ依リ給與セラレタル旅費ニ相當スル額トス

在職義務期間中ニ在ル者ノ償納金ハ前項ノ金額ヨリ其ノ金額ト在職義務期間トノ比例ニ依ル在職義務ヲ終ヘタル期間ニ相當スル金額ヲ控除シタル額トス

第四十條 前各條ニ依リ償納ノ義務ハ本人死亡シタルトキハ之ヲ免除ス

附則

本令ハ大正十一年六月一日ヨリ之ヲ適用ス

本令第五章義務ニ關スル規定ハ本令施行前ノ依託生ニ付テモ之ヲ適用ス

但シ第三十八條ノ規定ニ該當スル事項ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令中專修科依託生ニ對スル給與及義務ニ關スル規定ハ電信協會管理無線電信講習所又ハ其ノ他ノ私設講習所等ニ依託シ無線電信ヲ專修セシムル者ニ付之ヲ準用ス

（別記）

書式第一號（用紙美濃紙）

依託生志願書

私儀

遞信官吏練習所何科依託生志願ニ付試驗ノ上入學許可相成度履歴書及

〔臺輯〕

戸籍謄本（本島人ニ在リテハ戸口調査簿抄本）相添此段奉願候也

年月日

原籍
現住所
現官職 何局勤務官職
何 某㊞
生年月日

臺灣總督府交通局總長宛

書式第二號（用紙美濃紙）

履歴書

原籍
現住所
何 某
生年月日

學業

一 何年何月何日 何學校入學 何學專修又ハ修業
一 何年何月何日 何學校卒業
一 何年何月何日 何々ニ於テ電氣通信術修業

官職

一何年何月何日 通信事務員ヲ命ス 何局
日給金何錢給與
一何年何月何日 任臺灣總督府通信書記補 臺灣總督府
月俸何圓給與

〔臺輯〕

一何年何月何日 何課何掛勤務ヲ命ス 何局

賞罰

一何年何月何日 事務格別勉勵ニ付慰勞トシテ金何圓給與 臺灣總督府
一何年何月何日 何々ニ付文官懲戒令ニ依リ譴責ス 臺灣總督

右ノ通相違無之候也

年月日

右 何 某㊞

書式第三號（用紙美濃紙）

印紙

誓約書

原籍 族籍何某子弟
現住所
現官職 何局勤務官職
何 某
生年月日

右者今般遞信官吏練習所何科依託生トシテ入學許可相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ在學中ハ專心勉勵可致ハ勿論萬一不得已事故ニ因リ中途退學又ハ卒業後ノ在職義務期間中退職シタル場合ハ身元保證人連帶ヲ以テ御規則ニ從ヒ修業費用償納ノ責ニ任スヘク候仍テ身元保證人連署誓約書提出候也

年月日

右 何 某㊞

原籍
現住所
官職
身元保證人 何 某㊞
生年月日

原籍
現住所
官職
身元保證人 何 某㊞
生年月日

臺灣總督府交通局總長宛

書式第四號（用紙美濃紙）

印紙

身元保證人變更屆

原籍
現住所
官職
身元保證人 何 某

今般誓約書連帶身元保證人何某死去又ハ何々ニ付更ニ前記ノ者ヲ身元保證人ト相定メ候間及御屆候也

年月日

（元）遞信官吏練習所何科依託生
（何局勤務官職）　何　某㊞

臺灣總督府交通局總長宛

私儀前書何某ノ身元保證人ト相成候ニ就テハ本人連帶ヲ以テ前身元保證人ノ義務ヲ繼承シ修業費用償納ニ關スル一切ノ事項ハ成規ノ通其ノ責ニ任シ可申候也

年　月　日

原籍
現住所
官職
身元保證人　何　某㊞
生年月日

●臺灣總督府測候技術官養成委託生規則

昭和二年二月二十日
臺灣總督府令第十二號

臺灣總督府測候技術官養成委託生規則左ノ通相定ム

臺灣總督府測候技術官養成委託生規則

第一條 臺灣總督府測候技術官養成委託生（以下單ニ委託生ト稱ス）ハ臺灣ニ於ケル測候所事務ニ從事セシムル目的ヲ以テ中央氣象臺附屬測候技術官養成所ノ生徒ニ就キ臺灣總督之ヲ命ス

第二條 委託生ヲ命セラレタル者ハ保證人ヲ定メ別記書式ノ誓約書ヲ臺灣總督ニ提出スヘシ

保證人其ノ責ニ任スルコト能ハサルニ至リタルトキハ速ニ代ルヘキ者ヲ定メ誓約書ヲ提出スヘシ

第三條 保證人ヲ不適當ナリト認メタルトキハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 委託生又ハ保證人ノ本籍（本居）、住所及氏名等ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨速ニ臺灣總督ニ屆出ツヘシ

第五條 委託生ニハ委託生ヲ命シタル月ヨリ卒業ノ月迄每月二十五圓以內ノ月手當ヲ給與ス

第六條 委託生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ委託生ヲ免シ其ノ翌月ヨリ月手當ノ給與ヲ廢止ス

一 懲戒ニ依リ退所處分ヲ受ケタルトキ
二 學業不進又ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタルトキ
三 其ノ他測候所職員トシテ不適當ナリト認メタルトキ

第七條 委託生ハ第五條ノ給與ヲ辭シ又ハ退所スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ豫メ臺灣總督ノ指揮ヲ受クヘシ

第八條 委託生ハ卒業後月手當ノ給與ヲ受ケタル期間ト同一期間臺灣總督ノ指定シタル職務ニ從事スル義務アルモノトス

第九條 委託生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ既ニ給與シタル月手當ヲ償還セシム但シ事情ニ依リ其ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトアルヘシ

一 第六條各號ノ一ニ該當シタルトキ
二 第五條ノ給與ヲ辭シ又ハ退所シタルトキ

三 正當ノ理由ナクシテ第八條ノ義務ヲ履行セサルトキ
四 前條ノ就職義務中禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ懲戒免官若ハ懲戒免職ニ處セラレタルトキ

第十條 委託生ニシテ就職前又ハ在職中ニ於テ現役ニ服シタルトキハ其ノ間第八條ノ義務ノ履行ヲ猶豫ス疾病ノ爲就職シ難キトキ亦同シ

附則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

誓約書書式

收入印紙㊞

誓約書

某儀

臺灣總督府測候技術官養成所委託生規則ニ依リ月手當相受ケ候ニ付テハ御規則御命令等固ク相守リ決シテ違背仕間敷ハ勿論萬一給與セラレタル月手當ノ償還ヲ命セラレタルトキハ本人及保證人ハ連帶ノ責ニ任シ速ニ償還可致此段連署ヲ以テ誓約候也

年　月　日

本籍又ハ本居地
住所
本人　氏　名㊞

本籍又ハ本居地
住所
職業
保證人　氏　名㊞
生年月日

〔臺轄〕

第四章 分限 服務 賞罰

第一節 分限 休職 退官

●文官分限令

（明治三十二年三月二十八日 勅令第六十二號）

改正 明治三六年勅令第一五六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官分限令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官分限令

第一條 本令ハ親任式ヲ以テ敍任スル官、公使、祕書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官ニ適用ス

第二條 官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ免セラルルコトナシ

第三條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

一 不具、癈疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス

第四條 官吏ハ廢官若ハ廢廳ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第五條 第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス

第六條 官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラルルコトナシ

第七條 文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク

審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第八條 文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク

第九條 懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ

第十條 第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一 懲戒令ノ規定ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四 官廳事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在テハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在テハ高等官ニ付テハ滿二年、判任官ニ付テハ滿一年トス

第十二條 休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職官吏ト異ナルコトナシ

前條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第十三條 第十一條ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ

三分ノ一ヲ給ス

第十四條　免官ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣、奏任官ニ在テハ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ休職ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在テハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ス其ノ復職ヲ命スルトキ亦同シ

附　則

第十五條　本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏非職條例、明治二十三年勅令第二百八十六號其ノ他從前ノ命令ニシテ本令ノ規定ニ牴觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條　本令施行前官吏非職條例又ハ明治二十三年勅令第二百八十六號ニ依リ非職又ハ休職ヲ命セラレ未タ滿期ニ至ラサル者ハ本令第十一條第一項第四號ノ休職者ニ關スル規定ヲ適用ス但シ本令第十三條ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　本令中休職トアルハ他ノ法令ニ於テ規定スル非職ト看做ス

●陸海軍武官ニシテ朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ官職ニ在ル者ノ分限ニ關スル件

大正八年八月二十日
勅令第四百二號

〔臺轄〕

朕陸海軍武官ニシテ朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ官職ニ在ル者ノ分限ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍武官ニシテ朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ官職ニ在ル者ハ現役トス但シ豫備役、後備役又ハ退役ノ武官ニシテ其ノ官職ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●官吏ノ勤續ニ關スル件

明治二十六年十月三十一日
勅令第百九十八號

朕官吏ノ勤續ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム廢官廢廳若クハ官名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在ル者即日他官ニ任セラルルトキハ勤續者トス

●臺灣ニ於ケル官立公立學校教員ノ休職ニ關スル件

大正十年十一月十二日
勅令第四百三十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣ニ於ケル官立公立學校教員ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣ニ於ケル官立又ハ公立ノ學校ノ判任官以上ノ教職ニ在ル者教員養成ヲ目的トスル官立又ハ公立ノ學校ニ入學スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

休職ノ期間ハ其ノ事故止ミタル後尚三月トス

休職中ハ俸給ノ三分ノ一以下ヲ給シ又ハ全ク之ヲ給セサルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣ニ於ケル官立公立ノ小學校又ハ公學校ノ訓導ノ失官ノ件

〔臺轄〕

大正十二年七月十一日
勅令第三百四十三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣ニ於ケル官立公立ノ小學校又ハ公學校ノ訓導ノ失官ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣ニ於ケル官立又ハ公立ノ小學校又ハ公學校ノ訓導教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ教員免許狀效力ヲ失ヒタルトキハ當然其ノ官ヲ失フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百二十號ハ之ヲ廢止ス

●臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導退職、失職ニ關スル規則

明治三十九年二月八日
臺灣總督府令第九號

改正　大正六年府令第六三號、八年第三五號、一一年第八一號

臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導退職、失職ニ關スル規則左ノ通相定ム

臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導退職、失職ニ關スル規則

第一條　臺灣公立小學校准訓導又ハ臺灣公立公學校准訓導左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職ヲ命スルコトヲ得

一　不具・癈疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

三　學校編制ノ變更ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

第二條　削除

第三條　臺灣公立小學校准訓導又ハ臺灣公立公學校准訓導左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ職ヲ失フ

一　教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

二　教員免許狀其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

第四條　第一條第一號ニ依リ處分セントスルトキハ恩給顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第五條　第一條ノ事由ニ因ラスシテ退職ヲ命スル必要アリト認メタルトキハ州知事又ハ廳長ハ臺灣總督ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十九年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣公立幼稚園保姆ノ退職、失職ニ關スル件

大正十二年三月二十七日
臺灣總督府令第三十八號

臺灣公立幼稚園保姆ノ退職、失職ニ關シテハ明治三十九年府令第九號臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導退職、失職ニ關スル規則ヲ

準用ス

附　則

本令ハ大正十二年勅令第四十九號臺灣公立幼稚園官制施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

●戰時又ハ事變ニ際シ召集ノ巡査看守休職ノ件

明治三十七年二月十三日
勅令第三十三號

朕明治二十七年勅令第八十八號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十七年勅令第八十八號左ノ通改正ス

戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル巡査看守ニハ其ノ間休職ヲ命スルコトヲ得

前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

●臺灣總督府ノ保健技師、保健技手、教誨師、教師及作業技手ノ休職ニ關スル件

大正七年十二月九日
勅令第三百九十二號

改正　大正一二年勅令第五〇〇號

朕臺灣總督府監獄醫教誨師及教師ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府ノ保健技師、保健技手、教誨師、教師及作業技手ノ休職ニ關シテハ大正七年勅令第三百六十六號ヲ準用ス

【臺轄】

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師及作業技手ノ休職ニ關スル件

大正七年十月二日
勅令第三百六十六號

改正　大正一一年勅令第四三七號、一四年第二三〇號

朕監獄醫教誨師及教師ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戰時又ハ事變ニ際シ陸軍又ハ海軍ニ召集セラレタル保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師及作業技手ニハ其ノ間休職ヲ命スルコトヲ得

前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

第一項ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ノ陸軍又ハ海軍ニ於テ受クル俸給又ハ給料ノ額休職ヲ命セラレタル當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以内ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●神宮司廳、神宮神部署及官國幣社以下神社判任以上ノ待遇職員ノ休職ニ關スル件

大正四年二月二十二日
勅令第十三號

改正　大正六年勅令第二九號、一〇年第四七五號、昭和二年第二八號

【臺轄】

朕神宮神部署職員及神宮衞士長衞士副長衞士並官國幣社職員ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　神宮司廳、神宮神部署及官國幣社以下神社判任以上ノ待遇職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一　懲戒事件ニ關シ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二　刑事事件ニ關シ告訴又ハ告發セラレタルトキ

三　事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

四　定員ノ改正ニ依リ過員ヲ生シタルトキ

五　戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在リテハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ二年判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ一年トシ第五號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三月トス

第二條　前條第一項第三號、第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退職者トス

第三條　休職者ハ其ノ本職ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職者ト異ナルコトナシ

第一條第一項第三號、第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第四條　休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一以内ヲ給スルコトヲ得

第五條　休職ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ内務大臣、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ内務大臣樺太廳長官北海道廳長官府縣知事又ハ神宮大宮司之ヲ命ス其ノ復職ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依リ内務大臣ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ニ付テハ陸軍大臣及海軍大臣、朝鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ行フ

第二節　服務

●官吏服務紀律

明治二十年七月三十日
勅令第三十九號

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム

官吏服務紀律

第一條　凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條　官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條　官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謙愼懇切ナルコトヲ務ムヘ

シ

第四條　官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同樣トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第五條　官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條　官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第七條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條　左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗讌ヲ受クルコトヲ得ス

一官廳ノ工事ヲ受負フ者
一官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
一官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
一官廳ノ用品ヲ調達スル者
一官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

【臺訓】

第十條　凡ソ上官タル者ハ職務ノ內外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　官吏竝ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條　官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條　官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ內ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ禀告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ禀告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條　本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

●臺灣憲兵隊行政司法警察服務規程

大正八年十月十四日
臺灣總督府訓令第百八十五號

憲兵隊

臺灣憲兵隊行政司法警察服務規程左ノ通相定ム

【臺訓】

臺灣憲兵隊行政司法警察服務規程

第一條　臺灣ニ於ケル行政警察司法警察ニ關スル憲兵ノ服務ハ本令ニ依ルヘシ

第二條　憲兵ハ常ニ高等警察ニ關スル管內ノ情況ヲ審ニシ必要ト認ムル事項ハ臺灣總督ニ報告スヘシ

第三條　憲兵ハ水火震災等ノ場合ニ際シテハ速ニ現場ニ至リ人命ノ救護、財產ノ保護及混雜ノ防制等必要ノ處置ヲ爲スヘシ

第四條　憲兵分隊長、分遣所長ハ非常若ハ緊急事件ヲ知リタルトキハ直ニ其ノ處分ニ著手シ憲兵隊長及地方法院檢察官長ニ報告シ【隊長】其ノ他關係諸官ニ通報スヘシ

第五條　憲兵隊長前條ノ事件ヲ知リタルトキハ速ニ臺灣總督ニ報告シ且高等法院檢察官長ニ申報スヘシ

第六條　憲兵ハ上官ノ命令アルトキ又ハ時機猶豫スヘカラサルトキハ制規ノ服裝ヲ爲サスシテ勤務スルコトヲ得

第七條　憲法ハ其ノ職務上ニ關シテハ警察官ト相互密接ノ連絡ヲ保持スヘシ

第八條　憲兵行政警察ノ職務ヲ行フニ當リ他ノ事務官吏其ノ場ニ臨ミタルトキハ之ニ其ノ處分ヲ讓ルヘシ

第九條　司法警察ニ關スル憲兵ノ服務ハ司法警察官執務心得ニ依ルヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府三等郵便局長服務規程

大正十三年一月十九日
臺灣總督府訓令第八號

臺灣總督府三等郵便局

臺灣總督府三等郵便局長服務規程左ノ通相定ム

臺灣總督府三等郵便局長服務規程

第一條　臺灣總督府三等郵便局長（以下三等局長ト稱ス）ハ其ノ局及出張所（以下局所ト稱ス）ニ要スル適當ナル土地及家屋ヲ供給スヘシ但シ國有財產ヲ使用セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　三等局長ハ別ニ定ムル所ニ依リ給與スル渡切經費ヲ以テ所屬職員ノ給與竝其ノ局所ニ要スル一切ノ費用ヲ支辨シ法令ニ依ル各般ノ事務ヲ執行スヘシ但シ渡切經費ニ屬セサル費用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　三等局長ハ其ノ事務取扱ニ因リ官損ヲ生セシメタルトキハ直ニ之ヲ辨償スヘシ但シ不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　三等局長ハ其ノ局所所屬職員ノ行爲ニ付一切ノ責ヲ負ヒ其ノ行爲ニ因リ官損ヲ生セシメタルトキハ直ニ代テ之ヲ辨償スヘシ但シ指定三等局長ハ其ノ推薦、採用及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ其ノ損害ヲ免ルヘカラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　三等局長ハ退職後ト雖其ノ在職中ニ係ル事件ニ付テハ本令ニ定ムル損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第六條　三等局長局舍ノ新設、改修又ハ移轉費ニ對シ政府ノ補給ヲ受ケタルトキハ臺灣總督ノ承認ヲ受クルニ非サレハ其ノ局舍ヲ賣買、贈與

又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第七條　經費ノ補給ヲ受ケタル前條ノ局舍ハ其ノ局長免官、轉勤、休職又ハ死亡ノ場合之ヲ其ノ後任者ニ引繼キ經費ノ補給ヲ受ケサル部分ニ對シテハ時價ヲ以テ之ヲ後任者ニ讓渡又ハ貸與スヘシ

前項ノ時價ニ付協定調ハサルトキハ臺灣總督之ヲ裁定ス

第八條　前二條ニ違反シタルトキハ補給金ノ全部又ハ一部ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　三等局長他ノ職務ニ從事セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ但シ臺灣總督府評議會員又ハ州、市、街庄協議會員ニ任命セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ハ直ニ臺灣總督ニ屆出ツヘシ

第十條　三等局長及其ノ同居ノ家族ハ左記事業ヲ營ムコトヲ得ス

一　局所ト同一ノ家屋内ニ於テ爲ス爲替、貯金、兩替又ハ之ニ類似ノ業務

二　新聞紙又ハ雜誌ニ關スル業務

三　運輸又ハ之ニ類似ノ商業

四　藝娼妓、貸座敷、料理店又ハ之ニ類似ノ營業

第十一條　三等局長及其ノ家族前條規定以外ノ事業ヲ營マムトスルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　三等局長第九條第一項ノ職務ヲ退キ又ハ本人若ハ其ノ家族ノ營業ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨臺灣總督ニ屆出ツヘシ

第十三條　三等局長ハ其ノ日數七日以内ノ場合ニ限リ許可ヲ得スシテ臨時本島内ヲ旅行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發著ノ都度之ヲ臺灣總督府遞信局長ニ屆出ツヘシ

【臺轄】

附　則

左ノ訓令ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年訓令第百十七號臺灣總督府三等郵便局長服務規程
大正二年訓令第百七十六號三等局長隨時旅行ニ關スル件
大正十年訓令第三號臺灣總督府三等郵便局長擔保金取扱規程

●臺灣總督府郵便局船員及舸子服務規則

明治三十二年六月
臺灣總督府訓令第百六十六號

郵便局

臺灣總督府郵便局船員及舸子服務規則左ノ通相定ム

臺灣總督府郵便局船員及舸子服務規則

第一條　船員及舸子ハ常ニ此規則ヲ服膺シ誠實ニ其職務ヲ盡スヘシ

第二條　削除

第三條　船員及舸子ハ郵便電信ニ關スル犯罪アリト認知シ又ハ思料シタルトキハ速ニ所屬局ニ申立ツヘシ

第四條　船長ハ機關長以下船員ヲ監督シ乘込汽船ニ關スル一切ノ責任ヲ有スルモノトス

第五條　船員ハ總テ船長ノ指揮ニ從ヒ其職務ヲ行フヘシ

船長及舸子ハ碇泊中ト雖擅ニ船舶ヲ離ルヘカラス

第六條　船長及舸子ハ常ニ船體ヲ檢査シ船體機關又ハ器具機械毀損亡失ノ有無ニ注意スヘシ

第七條　汽船又ハ艀船ハ常ニ出發ニ差支ナキ樣豫テ準備シ努テ進行ヲ敏速ナラシムヘシ

第八條　船員及舸子ハ豫テ安全ナル碇繫場ヲ定メ常ニ天候ニ注意シ風浪等ノ虞アルトキハ直ニ警戒ヲ加ヘ天災ニ際シタルトキハ臨機ノ措置ヲ施シ郵便物電報ハ勿論船體其他器機ノ保護ニ努テ注意スヘシ

第九條　汽船ハ平素艀船ノ進行中必ス郵便旗ヲ掲ケ夜間ハ燈火ヲ點スヘシ

第十條　汽船及艀船ハ私事ニ運用シ又ハ外來人若ハ他ノ貨物ヲ搭載スヘカラス

第十一條　汽船及艀船ハ清潔ヲ主トシ常ニ船體機關其他器具機械ノ洗除ヲ怠ルヘカラス若毀損亡失等ノトキハ速ニ所屬局ニ申出修補又ハ代品ノ交付ヲ受クヘシ

第十二條　船員及舸子ハ疎虞懈怠ニ依リ船體若ハ機械類ヲ毀損亡失セシメタルトキハ辨償ヲ命セラルルコトアルヘシ

第十三條　削除

第十四條　此規則ニ記載ナキ事項ハ總テ所屬局長ノ指示ニ從フヘシ

●臺灣總督府州、廳巡査出勤簿整理規程

大正三年七月
臺灣總督府訓令第百十九號

改正　大正一四年訓令第四〇號

臺灣總督府州、廳巡査出勤簿整理規程左ノ通相定ム

臺灣總督府州、廳巡査出勤簿整理規程

【臺轄】

第一條　巡査ノ出勤簿ハ本令ニ依リ整理スヘシ

第二條　出勤簿ハ別記様式ニ依リ調製シテ之ヲ備付ケ巡査出勤シタルトキ之ニ捺印セシムヘシ

警察官署所在地外ニ勤務スル巡査ノ出勤簿ハ之ヲ其ノ勤務所ニ備付クルモノトス但シ特別ノ事情アルトキハ之ヲ警察官署ニ備付ケ適宜整理ヲ爲スコトヲ得

第三條　出勤時刻ヲ經過シタルトキハ直ニ出勤簿ヲ納メ之カ整理ヲナスヘシ

第四條　出勤時刻ヲ經過シ出勤シタルトキハ「遲刻」勤務中退廳シタルトキハ「早引」出勤出張相互重複スルトキハ「出張」ト記入スヘシ

第五條　左記ノ場合ハ出勤簿ニ各符號ヲ記入ス但シ第十號入所中ト雖第六條各號ニ該當スル場合ハ同條ニ依リ整理スルモノトス

一	非番	（非番）
二	祝祭日	（祝祭）
三	忌引	（忌引）
四	出張	（出張）
五	出向	（出向）
六	赴任	（赴任）
七	慰勞休暇	（慰勞）
八	父母祭日	（祭日）
九	公務ニ基因スル疾病又ハ傷痍	（疾傷）
十	警察官及司獄官練習所又ハ巡査教習所入所中	（入所）

十一 陸海軍ノ召集（簡閲點呼ヲ含ム） （召集）

第六條 左記事故ニ因リ出勤スルコト能ハサル場合ハ出勤簿ニ各符號ヲ記入シ第二號乃至第九號ハ病氣缺勤ト看做ス

一 病氣 （病氣）
二 轉地療養 （轉地）
三 看護 （看護）
四 看護歸省 （歸省）
五 職務ニ關セサル法院又ハ裁判所ノ召喚 （召喚）
六 試驗ヲ受クル場合 （受驗）
七 傳染病ノ爲交通遮斷又ハ隔離 （遮斷）
八 天災其ノ他避クヘカラサル事變 （變災）

九 私事故障 （缺勤）

第七條 第四條、第五條ノ記入ニハ朱ヲ用キ前條ノ記入ニハ黒ヲ用ウルモノトス

第八條 出勤簿ハ警察官署ニ在リテハ其ノ長警察課分室ニ在リテハ其ノ主任ニ於テ毎週一回以上、其ノ他ニ在リテハ監督者巡視ノ際之ヲ檢閲スヘシ

第九條 削除

第十條 轉勤者ノ出勤簿ハ轉勤先ヘ送付スヘシ

第十一條 本令ハ警手ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記様式）

氏名

區分		出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日
月／日		一月		二月		三月		四月		五月		六月		七
一日	十七日													
二日	十八日													
三日	十九日													
四日	二十日													
五日	二十一日													
六日	二十二日													
七日	二十三日													
八日	二十四日													
九日	二十五日													
十日	二十六日													
十一日	二十七日													
十二日	二十八日													
十三日	二十九日													
十四日	三十日				／									
十五日	三十一日				／				／				／	
十六日			／		／		／		／		／		／	

缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	出勤 勤務 日 出張 日 休暇 日	缺勤 日	備考
月	八	月	九	月	十	月	十一	月	十二	月	

記載例

一　勤務ニハ非番、祝祭、出向、赴任、入所、召集、早引遲刻ヲ休暇ニハ忌引、慰勞休暇、祭日、傷病ヲ算入スルコト

二　缺勤ニハ出勤簿整理規程第六條各號ノ事項ヲ算入スルコト

●休日ニ關スル件

昭和二年三月四日
勅令第二十五號

朕大正元年勅令第十九號休日ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

左ノ祭日及祝日ヲ休日トス

元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日
紀元節	二月十一日
神武天皇祭	四月三日
天長節	四月二十九日
神嘗祭	十月十七日
明治節	十一月三日
新嘗祭	十一月二十三日
大正天皇祭	十二月二十五日
春季皇靈祭	春分日
秋季皇靈祭	秋分日

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府及其ノ所屬各官廳執務時間ニ關スル件

明治三十一年七月十五日
閣令第三號

臺灣總督府及其ノ所屬各官廳ノ執務時間ハ臺灣總督ニ於テ適宜之ヲ定メ施行スルコトヲ得

前項ニ揭クル外ノ在臺灣各官廳ハ臺灣總督ノ定メタル執務時間ノ規定ヲ準用スヘシ

●臺灣總督府部內各官廳執務時間

大正十一年七月二十八日
臺灣總督府令第百四十四號

臺灣總督府部內各官廳ノ執務時間左ノ通相定ム

第一條　臺灣總督府部內各官廳ノ執務時間ハ六月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前八時ヨリ午十二時迄トシ十月一日ヨリ五月三十一日迄ハ午前九時ヨリ午後四時迄トス但シ土曜日ハ午十二時迄トス

土地ノ狀況ニ依リ又ハ事務ノ性質上必要アル場合ニ於テハ各官廳ハ臺灣總督ノ許可ヲ得テ前項ノ執務時間ノ變更、繰替又ハ延長ヲ爲スコトヲ得

第二條　臺灣總督府專賣局神戶支局ノ執務時間ハ大正十一年閣令第六號第一項ノ規定ヲ準用ス

第三條　臺灣總督府稅關ノ執務時間ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年府令第六十六號ハ之ヲ廢止ス

●官廳執務時間及休暇

大正十一年七月四日
閣令第六號

改正　大正一三年閣令第四號

官廳ノ執務時間ハ休日及休暇日ヲ除キ左ノ通トス

四月一日ヨリ七月二十日迄
午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス
七月二十一日ヨリ八月三十一日迄
午前八時ヨリ午十二時迄
九月一日ヨリ十月三十一日迄
午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス
十一月一日ヨリ三月三十一日迄
午前九時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

土地ノ狀況ニ依リ又ハ事務ノ性質上必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ內閣總理大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ執務時間ノ變更、繰替又ハ延長ヲ爲スコトヲ得

事務ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ執務時間外ト雖執務スヘキモノトス

本屬長官ハ所屬職員ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ノ繁閑ヲ計リ二十日以內ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間內ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ妨ケス

現業ニ從事スル者ノ執務時間及休暇ニ付テハ主務大臣別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年閣令第六號ハ之ヲ廢止ス

明治九年太政官達第二十七號中但書ヲ削ル

●臺灣ニ於ケル稅關執務時間ニ關スル件

明治四十二年五月一日
勅令第百二十二號

朕臺灣ニ於ケル稅[illegible]務時間ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣ニ於ケル關稅法ノ施行ニ關シ稅關ノ執務時間ハ休日ヲ除クノ外左ノ通之ヲ定ム

五月一日ヨリ九月三十日迄（午前八時ヨリ午後二時ニ至ル）
十月一日ヨリ四月三十日迄（午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ午後三時迄トス）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府稅關執務時間

明治四十三年十二月十三日
臺灣總督府令第八十五號

改正　明治四四年府令第四八號

臺灣總督府稅關執務時間左ノ通相定ム

臺灣總督府稅關執務時間ハ明治四十二年勅令第百二十二號ニ依ルモノノ外休日ヲ除キ左ノ通トス

五月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前八時ヨリ午後二時ニ至ル
十月一日ヨリ翌年四月三十日迄ハ午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ午後三時迄トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府宿直規程

大正三年三月
臺灣總督府訓令第十九號

官房【民政部】

改正　大正八年訓令第一六九號

明治三十三年二月訓令第十四號臺灣總督府【民政部】宿直規程左ノ通改正ス

臺灣總督府【官房民政部】宿直規程

第一條　【官房民政部】宿直ハ文書課長ノ監督ニ屬シ每日文書課員二名ヲ以テ之ニ充ツ但シ各局、署、部ノ必要ニ依リ特ニ設置スル宿直ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　宿直員ハ執務時間外ニ到著スル諸文書、物品ヲ收受配送シ守衛以下ヲ指揮シテ廳中ノ取締ヲ爲スヘシ

第三條　宿直ニ備付ヘキ簿册左ノ如シ
一　發送簿
二　收受簿
三　宿直日誌

第四條　宿直員ニ於テ發送スヘキ文書、物品ヲ收受シタルトキハ之ヲ簿册ニ記入シ直ニ發送スヘシ

第五條　宿直員ニ於テ收受シタル總督又ハ總務長官宛電報又ハ封書ニシテ親展ノ記識ナキモノハ之ヲ開緘シ至急ヲ要スルモノハ即時ニ文書課長又ハ當該局、署、部、課長ニ送付スヘシ

第六條　親展電報又ハ至急親展ノ記識アル封書ハ封緘ノ儘總督宛ハ祕書官ニ總務長官宛ハ文書課長ニ局、署、部、課長宛ハ當該局、署、部、課長ニ即時送付スヘシ

第七條　他官衙其ノ他ヨリ到達スル諸囘文ニシテ至急ヲ要スルモノハ謄寫シテ直ニ文書課長ニ送付スヘシ

第八條　收受文書等ニシテ前三條ニ揭クルモノノ外ハ翌日文書課長ニ提出スヘシ但シ翌日休日ナルトキハ當日ノ宿直員ニ引繼クヘシ

第九條　宿直員ハ退廳後守衛ヲシテ廳內ヲ巡視セシメ文書、諸帳簿類ノ保管及扉戶ノ閉鎖等總テ事務室ノ情況等ヲ點檢シ不整頓ナルモノハ之ヲ整備セシメ翌日文書課長ニ申告シ文書課長ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ旨ヲ當該局、署、部、課長ニ通報スヘシ

第十條　宿直員ハ天災事變其ノ他臨時ニ發生シタル事變アルトキハ先ツ總務長官、文書課長、會計課長ニ急報シ次ニ局、署、部、課長ニ急報

スヘシ

宿直員ハ天災事變其ノ他臨時必要アリト認メタルトキハ直ニ守衞以下ヲ召集、指揮シ廳舍ノ防禦警戒及文書、物品ノ持退等臨機適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第十一條 宿直日誌ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

一 宿直者官氏名
二 守衞及小使ノ氏名
三 收發文書ノ件數
四 其ノ他重要ナル事項

●臺灣總督府職員休暇規程

明治四十三年七月
臺灣總督府訓令第百五十號

官房【民政部】法院 課【所屬民政各官廳】

改正 大正八年訓令第一四五號

臺灣總督府職員休暇規程左ノ通相定ム

臺灣總督府職員休暇規程

第一條 臺灣總督府職員ニハ別段ノ規程アルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ休暇ヲ許可ス

第二條 休暇ハ賜暇、轉地療養、看護歸省及旅行ノ四種トス

第三條 賜暇ハ事務上支障ナキ限リ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ與フ

一 勤續二年未滿ノ者　每曆年内三十日以内
二 勤續二年以上ノ者　六十日以內
三 勤續三年以上ノ者　九十日以內

前項第二號及第三號ノ賜暇日數ハ二箇年以內ニ分與スルコトヲ得

第一項第二號及第三號ノ賜暇日數ハ病氣缺勤日數アルトキハ之ヲ控除ス但シ第一號ノ期間ヲ下ルコトナシ

第四條 前條ノ規定ハ學校敎員ニハ之ヲ適用セス但シ兼官兼職ノ爲夏季休業中休業シ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 轉地療養ハ事務上支障ナキ場合ニ限リ往復共六十日以內之ヲ許可ス

第六條 公務ニ基因シタル傷痍疾病ノ爲轉地療養ヲ許可スル場合ハ前條ノ制限ニ依ラス

醫院ノ設置ナキ地方ニ在ル者ノ入院治療ノ爲本島內轉地療養ヲ許可スル場合亦同シ

第七條 看護歸省ハ父母（父母ナキ者ニ在リテハ祖父母）病氣ノ場合ニ限リ往復共四十五日以內之ヲ許可ス

第八條 旅行ハ賜暇及公暇中支障ナキ場合ニ限リ之ヲ許可ス

第九條 一箇年內ニ於テ賜暇、轉地療養及看護歸省ヲ相互ニ許可スル場合ハ通シテ左ノ日數ヲ超ユルコトヲ得ス

一 勤續二年未滿ノ者　九十日
二 勤續二年以上ノ者　百二十日
三 勤續三年以上ノ者　百五十日

前項第二號及第三號ノ日數ハ病氣缺勤日數アルトキハ之ヲ控除ス但シ第一號ノ期間ヲ下ルコトナシ

【臺灣】

第十條 判任官待遇ニ至ラサル職員及本島人職員ニハ每曆年內三十日以內ノ賜暇ヲ與ヘ且第五條乃至第八條ノミヲ適用ス

前項ノ職員ニ對シ一曆年內ニ賜暇、轉地療養及看護歸省ヲ相互ニ許可スル場合ニ於テハ通シテ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ勤續三年以上ノ者（本島人職員ヲ除ク）ニシテ轉地療養ノ爲止ムヲ得サル場合ハ更ニ三十日以內ノ追願ヲ許可スルコトアルヘシ

臨時雇ニハ公暇中ノ旅行ニ限リ之ヲ許可ス

第十一條 本令ノ勤續期間ノ計算方法ハ出願當日ヨリ左記期日ニ向ツテ計算スルモノトス

一 新任、復職又ハ拜命ノ日
一 臺灣外ヨリノ轉任者ハ轉任ノ日
一 賜暇、轉地療養又ハ看護歸省滿了就職ノ日
一 第四條但書ノ者ニ在リテハ夏季休業ヲ爲シタル翌年ノ一月一日

第十二條 試驗ヲ受クル爲缺勤、旅行セントスル者ニシテ賜暇ヲ受クルコトヲ得サル者ニハ事情ニ因リ所要期間之ヲ許可ス

第十三條 演習召集、敎育召集、徵兵檢查、簡閱點呼、參會及法院又ハ裁判所ノ召喚等ニ應スル爲缺勤、旅行ヲ要スル場合ハ其ノ所要期間之ヲ許可ス但シ三日以內ノ日數ニ在リテハ屆書ヲ提出シテ缺勤及旅行ヲ爲スコトヲ得

第十四條 前條中演習召集、敎育召集、徵兵檢查、簡閱點呼、參會等應召間ノ日數ハ之ヲ缺勤日數ニ算入セス其ノ他ノ場合及第十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 許可ヲ得テ旅行シタル者天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲期間內ニ歸任スルコト能ハサルトキハ事實ノ證明書ヲ添ヘ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ若認可ヲ受ケ難キ場合ハ歸任ノ後追認ヲ請フヘシ

第十六條 轉地療養ノ場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ、看護歸省及第十三條ノ場合ニハ證據書ノ寫ヲ願書又ハ屆書ニ添附スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニシテ本令ニ牴觸スルモノハ之ヲ廢止ス

【臺灣】

●臺灣總督府刑務所看守及女監取締休暇規程

大正十年二月十六日
臺灣總督府訓令第十九號

刑務所

改正 大正一二年府令第八七號、一四年訓令第四七號

臺灣總督府刑務所看守及女監取締休暇規程左ノ通相定ム

臺灣總督府刑務所看守及女監取締休暇規程

第一條 看守及女監取締ニシテ六月以上皆勤シタル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ慰勞休暇ヲ與フルコトヲ得

一 六月皆勤者　十日
二 一年皆勤者　三十日

三年以上皆勤シタル者ニハ前項ノ外三十日、皆勤三年ヲ加フル每ニ更ニ三十日ノ特別慰勞休暇ヲ與フルコトヲ得

第二條 慰勞休暇ハ之ヲ分與スルコトヲ得

第三條 皆勤日數ノ起算ハ左ノ例ニ依ル

一 新任又ハ復職ノ者ハ實務ニ服シタル日

二 缺勤ノ者ハ出勤ノ日

三 第一條第一項各號ノ一ニ依リ休暇ヲ受ケタル者ハ其ノ皆勤期間滿了ノ翌日但シ特別慰勞休暇ニ關シテハ同條第一項各號ニ休リ休暇ヲ受ケタルト否トニ拘ラス繼續皆勤中ノ最初ノ日

非番、父母祭日、忌引、陸海軍ノ召集（簡閲點呼ヲ含ム）、職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ因ル缺勤及慰勞休暇ノ日數ハ勤務ニ服シタルモノト看做ス

傳染病ノ爲交通遮斷其ノ他不可抗力ノ爲勤務ニ服スルコト能ハサリシ期間及警察官及司獄官練習所又ハ刑務官練習所入所中ノ期間ハ之ヲ控除シ其ノ前後ヲ通算ス

第四條 轉地療養ハ往復共五十日內之ヲ許可スルコトヲ得

職務上ノ傷痍疾病ノ爲轉地療養ヲ許可スル場合ハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五條 看護ハ父母又ハ祖父母重病ノ場合七日內、看護歸省ハ父母（父母ナキ者ニ在リテハ祖父母）重病ノ場合四十五日內之ヲ許可スルコトヲ得

第六條 一年內轉地療養、看護又ハ看護歸省ヲ相互ニ許可スル場合ハ通シテ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 旅行ハ慰勞休暇、非番、祝祭日、忌引、父母祭日等ノ場合之ヲ許可スヘシ

第八條 試驗ヲ受クル爲慰勞休暇ヲ受クルコトヲ得サル場合又ハ法院若ハ裁判所ノ召喚ニ應スル場合ハ所要期間缺勤、旅行ヲ許可スルコトヲ得

第九條 慰勞休暇ハ書面ヲ以テ所屬刑務所長ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 轉地療養及旅行ヲ爲サムトスル場合ハ其ノ事由、行先地及期間ヲ詳記シ尙轉地療養ニハ醫師ノ診斷書ヲ添附シタル願書ヲ所屬刑務所長ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第十一條 看護及看護歸省ヲ爲サムトスル場合ハ其ノ事由及期間ヲ詳記シ醫師ノ診斷書ヲ添附シタル願書ヲ所屬刑務所長ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

疾病急劇ニシテ前項看護歸省ノ手續ヲ爲ス遑ナキトキハ其ノ事實ヲ報知シタル信書ヲ添ヘ願出許可ヲ受クルコトヲ得但シ此ノ場合ニ在リテハ看護歸省地到著後七日以內ニ前項ノ診斷書ヲ差出スヘシ

第十二條 慰勞休暇、轉地療養、看護、看護歸省及旅行ノ追願ヲ要スル場合ハ第九條、第十條及前條第一項ニ依リ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

追願ニ當リ許可期間經過ノ虞アル場合ハ電報ヲ以テ願出テ同時ニ前項ニ依ル願書ヲ發送スヘシ

第十三條 轉地療養、看護歸省及旅行中天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲許可期間內ニ歸還スルコト能ハサル場合ハ其ノ旨所屬刑務所長ニ申出テ承認ヲ受クヘシ但シ承認ヲ受ケ難キ事情アル場合ハ歸還後其ノ旨ヲ疏明シ追認ヲ請フコトヲ得

第十四條 第八條ノ許可ヲ得ムトスル場合ハ其ノ事由、期間及行先地ヲ詳記シ證據書ノ寫ヲ添附シタル願書ヲ所屬刑務所長ニ差出スヘシ

第十五條 勤務地竝目的地發著ノ際ハ其ノ都度所屬刑務所長ニ屆出スヘシ

第十六條 刑務所及支所ニ別記樣式ノ慰勞休暇原簿ヲ備置キ慰勞休暇ニ關スル事項ヲ整理スヘシ

慰勞休暇原簿ハ本人他ノ刑務所ニ轉勤シタル場合ハ之ヲ轉勤先ヘ送致スヘシ

第十七條 本令ハ押丁ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年訓令第百十八號臺灣總督府巡査、巡査補、看守及女監取締休暇規程ハ之ヲ廢止ス

本令ハ舊規程ニ依リ受クヘキ休暇ニ之ヲ準用シ舊規程施行當時ニ於テ進行セル皆勤日數ハ之ヲ通算ス

（別記樣式）　（用紙美濃紙）

職　氏　名

皆勤期間	休暇		休暇許可		休暇殘日數	備考
	種別	日數	期間	日數		
自大正　年　月　日 至大正　年　月　日			自大正　年　月　日 至大正　年　月　日			

慰勞休暇原簿　刑務所名

皆勤期間	休暇		休暇許可		休暇殘日數	備考
	種別	日數	期間	日數		

●臺灣總督府州、廳巡査休暇規程

大正十年二月十六日
臺灣總督府訓令第二十號

改正　大正一四年訓令第四一號

州廳

臺灣總督府州、廳巡査休暇規程左ノ通相定ム

臺灣總督府州、廳巡査休暇規程

第一條 六月以上皆勤シタル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ慰勞休暇ヲ與フルコトヲ得

一 六月皆勤者	十日
二 一年皆勤者	三十日

滿三年以上皆勤シタル者ニハ前項ノ外三十日、皆勤三年ヲ加フル每ニ更ニ三十日ノ特別慰勞休暇ヲ與フルコトヲ得

第二條 慰勞休暇ハ之ヲ數回ニ分與スルコトヲ得

第三條 皆勤日數ハ新任又ハ復職ノ者ニ在リテハ實務ニ服シタル日、缺勤ノ者ニ在リテハ出勤ノ日、第一條第一項各號ノ一ニ依リ休暇ヲ受ケタル者ハ其ノ皆勤期間滿了ノ翌日但シ特別慰勞休暇ニ關シテハ同條第一項各號ニ依リ休暇ヲ受ケタルト否トニ拘ラス繼續皆勤中ノ最初ノ日ヨリ之ヲ起算ス

非番、忌引、父母祭日、陸海軍ノ召集（簡閲點呼ヲ含ム）、職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ因ル缺勤及慰勞休暇ノ日數ハ第一條ノ期間計算ニ關シテハ之ヲ勤務ニ服シタルモノト看做ス

警察官及司獄官練習所又ハ巡査教習所入所中ノ期間及傳染病ノ爲交通遮斷其ノ他不可抗力ノ爲勤務ニ服スルコト能ハサリシ期間ハ之ヲ控除シ其ノ前後ヲ通算ス

第四條 轉地療養ハ往復共五十日內之ヲ許可スルコトヲ得

職務上ノ傷痍疾病ノ爲轉地療養ヲ許可スル場合ハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

官設醫院ノ設置ナキ警察官署所轄內ニ在ル者ノ入院治療ノ爲本島內轉地療養ヲ許可スル場合亦前項ニ同シ

第五條 看護ハ父母又ハ祖父母重病ノ場合七日內、看護歸省ハ父母（父母ナキ者ニ在リテハ祖父母）重病ノ場合四十五日內之ヲ許可スルコトヲ得

第六條 一年內轉地療養、看護又ハ看護歸省ヲ相互ニ許可スル場合ハ通シテ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 旅行ハ慰勞休暇、非番、祝祭日、忌引、父母祭日等ノ場合之ヲ許可スヘシ

第八條 試驗ヲ受クル爲慰勞休暇ヲ受クルコトヲ得サル場合又ハ法院若ハ裁判所ノ召喚ニ應スル場合ハ所要期間缺勤、旅行ヲ許可スルコトヲ得

第九條 本令ハ警手ニ之ヲ準用ス

第十條 本令施行ノ爲必要ナル規定ハ知事又ハ廳長之ヲ定メ報告スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ職規程ニ依リ受クヘキ休暇ニ之ヲ準用ス

大正九年九月一日ニ於テ巡査補又ハ警手ヨリ巡査ニ採用セラレタル者ハ本令ニ依ル期間ノ進行ハ繼續スルモノトス

●臺灣總督府事務委任事項

大正十五年十月二十日
府報

改正 昭和二年七月一五日、一一月二九日府報

臺灣總督府事務委任事項ヲ左ノ通定メタリ

臺灣總督府事務委任事項

第一條 左ニ揭クル事項ハ總務長官限リ之ヲ施行スルコトヲ得

一 判任官以下ノ進退ニ關スル事項

二 判任官及月手當二百五十圓以上ノ囑託員ノ島外出張ニ關スル事項

三 恩給裁定ニ關スル事項

四 定例アル認可、許可、通達、通牒其ノ他照會往復竝供閲文書ノ査閲ニシテ輕易ナルモノニ關スル事項

五 輕易ナル各種工事設計變更ニ關スル事項

六 司法代書人ノ許否ニ關スル事項

七 保安林解除ニ關スル事項

八 勅語謄本交付ニ關スル事項

九 團體ノ費用徵收及寄附金品募集ニ關スル事項

一〇 會計檢査院照會ニ對スル答辯ニ關スル事項

一一 決算剩餘金、公債金、借入金等ノ繰入方大藏大臣ヘ請求ニ關スル事項

一二 地圖更正ニ關スル先例アル認可ニ關スル事項

一三 制限外無盡ノ新規開會認可ニ關スル事項

一四 知事又ハ廳長カ市場設置許可ノ取消ヲ爲シ又ハ市場ニ於ケル賣買取引ヲ停止シタルトキノ報告査閲ニ關スル事項

一五 正米市場役員認可ニ關スル事項

一六 同業組合ニ關スル左記事項

イ 經費豫算竝徵收法認可ニ關スル事項

ロ 代議員選定ノ認可ニ關スル事項

一七 産業組合員ノ有スヘキ出資口數ノ三十口ヲ超ユル場合ノ認可ニ關スル事項

一八 保險會社ニ關スル左記事項

イ 定款變更認可ニ關スル事項

ロ 事業方法書及財産利用方法書ノ變更認可ニ關スル事項

一九 農會肥料購買資金借入ニ關スル事項

二〇 巡査警手ノ定員配置ニ關スル事項

二一 蕃地及蕃地指定ニ關スル事項

第二條 左ニ揭クル事項ハ官房各課長又ハ各局長限リ之ヲ施行スルコトヲ得

一 部下職員（除高等官）ノ請暇及缺勤竝除服出仕ニ關スル事項

二 月收百圓以下ノ囑託員、雇員、傭員ノ進退賞與竝迂路旅行許否ニ關スル事項

三 判任官以下ノ島內出張巡回ニ關スル事項

四 月手當二百五十圓以下ノ囑託員、雇員、傭員ノ島外（除外國）出張ニ關スル事項

五 規則ニ依ルカ若ハ先例アル輕易ナル上申、伺、願屆ノ査閲及處分ニ關スル事項

六 輕易ニシテ定例アル諸報告ノ査閲ニ關スル事項

七 定例アル諸報告其ノ他回答等ノ督促及提出方延期申牒若ハ承認ニ關スル事項

八 定例アルカ若ハ輕易ナル告示、公告ニ關スル事項

九 輕易ナル陳情書又ハ請願書ノ査閲及處分ニ關スル事項

一〇 誤送文書ノ移牒若ハ返戾、違式違法書類ノ却下若ハ訂正及處分未了文書ノ下戾ニ關スル事項

一一 各官署ニ對シ處分上必要ナル事項調査方照會及參考事項ノ通牒ニ關スル事項

一二 其ノ他定例アルカ若ハ輕易ニ關スル通牒照會ニ關スル事項

一三 輕易ナル印刷及其ノ配本決定ニ關スル事項

一四 雜印刷物、官報、新聞雜誌ノ購入、寄贈及配付ニ關スル事項

一五 諸收入金ヲ歲入徵收官ニ通知ニ關スル事項

第三條 左ニ揭クル事項ハ官房祕書課長限リ之ヲ施行スルコトヲ得

一 恩給請求書ノ査閲、進達竝受恩給者異動通知ニ關スル事項

二 死亡賜金ニ關スル事項

三 死歿、傷痍、疾病手當ニ關スル事項

四 勳章、記章、褒狀竝恩給、扶助料證書送付ニ關スル事項

五 治療料實費制限外支給ニ關スル事項

第四條 左ニ揭クル事項ハ官房文書課長限リ之ヲ施行スルコトヲ得

一 定例アル旅券下付承認ニ關スル事項

二 外國旅券ノ不下付取扱及其ノ解除ヲ在外領事宛通報ニ關スル事項
三 外國旅券遺失報告ノ査閲及其ノ無效府報公告ニ關スル事項
四 公用旅券返納及廢棄ニ關スル事項
五 旅券用紙ノ請求、領收及送付ニ關スル事項
六 下付旅券及廢棄旅券報告ニ關スル事項
七 在外領事ヨリ民籍登錄數及月末人口統計通報査閲ニ關スル事項

第五條 左ニ揭クル事項ハ官房法務課長限リ之ヲ施行スルコトヲ得
一 輕易ナル高等法院長及同檢察官長ノ通達報告査閲ニ關スル事項
二 司法代書人異動報告ノ査閲ニ關スル事項
三 刑事犯人票送致書査閲ニ關スル事項
四 犯罪人名簿送付ニ關スル事項

第六條 左ニ揭クル事項ハ官房會計課長限リ之ヲ施行スルコトヲ得
一 事ノ重大又ハ違例ニ屬スルモノヲ除キ豫算ノ範圍內ニ於ケル左記契約及處分ニ關スル事項但シ其ノ金額參千圓ヲ超ユルモノハ財務局長ニ合議スルコト
イ 一般競爭契約
ロ 會計規則第百十條ノ指名競爭契約
ハ 會計規則第百十四條第一項第一號乃至第十二號ノ隨意契約但シ第一號乃至第三號ノ場合ハ工事製造ニ付テハ一萬圓、財產ノ買入ニ付テハ五千圓ヲ限リトス
二 出納官吏命免檢査員、立會人及計算書調製官吏任命ニ關スル事項
三 物品出納命令ニ關スル事項
四 政府保管金又ハ有價證券ノ出納ニ關スル事項
五 日本銀行諸突合表證明ニ關スル事項
六 支出命令及定額戾入命令ニ關スル事項
七 會計檢査院ニ對スル計算證明ニ關スル事項
八 工事豫算ノ內譯變更ニ關スル事項（但シ普通ノモノ）

第七條 左ニ揭クル事項ハ官房調査課長限リ之ヲ施行スルコトヲ得
一 新嘉坡商品陳列館報ノ內輕易ナルモノノ査閲ニ關スル事項

第八條 左ニ揭クル事項ハ內務局長限リ之ヲ施行スルコトヲ得
一 定例アルカ若ハ輕易ナル知事又ハ廳長ノ訓令、同告示、同告諭査閲ニ關スル事項
二 廳地方費收入支出報告査閲ニ關スル事項
三 少額ナル街庄借入金償還報告ノ査閲ニ關スル事項
四 街庄役場職員異動報告査閲ニ關スル事項
五 紳章返納ニ關スル事項
六 州協議會員異動報告査閲ニ關スル事項
七 徵兵身體檢査及同旅費ニ關スル事項
八 六週間現役兵ニ關スル事項
九 一年現役兵ニ關スル事項
一〇 召集免除ニ關スル事項
一一 召集事務ニ關スル事項
一二 戰時召集猶豫者ニ關スル事項
一三 徵用員及徵發物件ニ關スル事項
一四 「官有財產ニ關シ知事又ハ廳長取扱事項」ニ依ル（廳地方費所屬財產ヲ含ム）處分報告査閲ニ關スル事項

一五 官有財產管理規則ニ依リ貸付タル財產ノ返還許可ニ關スル事項
一六 官有森林原野及產物特別處分令ニ依ル知事又ハ廳長取扱事項第一號及第三號團地分割處分ノ承認及同第九號ノ返地願處理ニ關スル事項
一七 官有森林原野豫約賣渡規則取扱規程中左記報告竝屆書査閲ニ關スル事項
イ 地代金徵收
ロ 事業着手屆買受豫約人、法定代理人、管理人ノ身分ニ關スル諸屆
ハ 出願無效ニ關スル報告
ニ 豫約賣渡願書ノ處理成績報告
一八 保管林緣故拂下ニ關スル事項
一九 保管林拂下受人中名義變更及脫退許可ニ關スル事項
二〇 官租石代査定ニ關スル事項
二一 官租地地目變換ニ關スル事項
二二 事ノ重大又ハ違例ニ屬スルモノヲ除キ既定計畫及豫算ノ範圍內ニ於ケル工事又ハ調査ノ實施ニ關スル事項

第九條 左ニ揭クル事項ハ文敎局長限リ之ヲ施行スルコトヲ得
一 小公學校敎員免許狀授與及書換、再交付ニ關スル事項
二 小公學校敎員檢定願ニ關シ履歷照會ニ關スル事項
三 文部省中等學校敎員檢定手續ニ關スル事項
四 委託生規則ニ依ル者又ハ師範學校卒業者服務義務猶豫及免除ニ關スル事項
五 委託生規則ニ依ル者又ハ師範學校卒業者及退學者學資辨償ニ關スル事項
六 文部省直轄學校生徒委託試驗及薦擧ニ關スル事項
七 學校臨時休業報告（輕易ナルモノ）ニ關スル事項
八 內地修學旅行認可ニ關スル事項
九 特殊ノモノヲ除ク生徒退學報告ニ關スル事項
一〇 內地留學生ニ關スル通知照會ニ關スル事項
一一 中等學校建築ニ關スル報告査閲ニ關スル事項
一二 私立學校ニ關スル報告査閲ニ關スル事項
一三 島內ニ於ケル直轄學校生徒募集認可ニ關スル事項
一四 對岸諸學校學事月報査閲ニ關スル事項
一五 小公學校用拂下圖書保管轉換ニ關スル事項
一六 神社宗教臺帳異動報告査閲ニ關スル事項
一七 宗教家異動報告査閲ニ關スル事項
一八 罹災救助基金ノ收支ニ關スル事項（但シ支出ハ五百圓以下收入ハ千圓以下）
一九 慈惠院ノ收支豫算竝職員ノ就職解職及俸給支給ニ關スル事項
二〇 成德學院入院命令竝在院費徵收免除ニ關スル事項
二一 軍事救護費增額ニ關スル事項

第十條 左ニ揭クル事項ハ財務局長限リ之ヲ施行スルコトヲ得
一 規覽ノ決定シタル事件ノ範圍內ニ於ケル仕拂豫算及更定豫算ノ令達ニ關スル事項
二 出納官吏認可狀交付竝檢査成績會計檢査院ヘ報告ニ關スル事項
三 歲入歲出科目設置、科目解疏ノ訓令竝大藏大臣ヘ報告ニ關スル事

項

四　輕易ナル災害復舊見込額報告ノ査閲ニ關スル事項

五　總督ノ名ヲ以テ爲スヘキ計算報告其ノ他ノ査閲、進達ニ關スル事項

六　歲入徵收官ノ職務ニ關スル事項

七　貸付金編入、管理其ノ他處分ニ關スル事項

八　工業用酒精造石税相當金額下戻ニ關スル事項

九　地押調査施行地指定ニ關スル事項

一〇　臨時土地檢査施行報告査閲ニ關スル事項

一一　定期土地檢査時期變更報告査閲ニ關スル事項

一二　所得税調査委員任命解任及委員會開閉報告査閲ニ關スル事項

一三　祕密地圖管理者ヨリ提出スル受領證ノ査閲ニ關スル事項

一四　祕密地圖管理者交替ニ付圖簿引繼報告査閲ニ關スル事項

一五　祕密地圖取扱擔任者指定及指定替報告査閲ニ關スル事項

一六　定例又ハ先例アル輕易ナル祕密地圖ノ拔萃及謄寫方認可ニ關スル事項

一七　大正十年内訓第十三號ニ依ル高雄附近地圖ヲ普通圖トシテ使用方認可セル地圖檢閲ニ關スル事項

一八　知事又ハ廳長ニ對スル地圖ノ提出方照會ニ關スル事項

一九　異動地測量圖簿ノ描寫並記載方ニ關シ輕易ナル先例アル事項認可ニ關スル事項

二〇　土地測量表中總督府主管ニ屬スルモノノ移轉改廢等定例又ハ先例アル承認又ハ認可ニ關スル事項

〔[illegible]〕

二一　間税檢査監督報告ノ査閲ニ關スル事項

二二　税印ノ押捺ニ關スル事項

二三　標準額決定ニ關スル事項

二四　會計實地檢査ノ結果ニ依ル通達ニ對スル處理顚末報告ニシテ輕易ナルモノノ査閲ニ關スル事項

二五　工場財團擔保價格調査通牒ニ關スル事項

二六　市街地信用組合ニ關スル左記事項

イ　財產目錄、貸借對照表、事業報告書、剩餘金處分案ノ査閲ニ關スル事項

ロ　業務監査報告ノ査閲ニ關スル事項

ハ　定款變更認可報告査閲ニ關スル事項

ニ　組合員カ出資拂込ヲ終ラサルトキニ於ケル剩餘金配當ノ認可ニ關スル事項

ホ　信用組合貸付金、借入金最高限度報告ノ査閲ニ關スル事項

第十一條　左ニ掲クル事項ハ殖產局長限リ之ヲ施行スルコトヲ得

一　製糖機械貸付願及同破損機械處分ニ關スル事項

二　製糖會社各期營業報告書査閲ニ關スル事項

三　區域外原料臨時採取ニ關スル事項

四　中間苗圃用蔗苗下付願處理ニ關スル事項

五　甘蔗計量用及運搬用機器使用屆査閲ニ關スル事項

六　製糖機械繼續貸付ニ關スル事項

七　製糖場取締規則第一條第二項及第三條第四項ニ依リ報告、屆書ノ査閲ニ關スル事項

八　鑛業願不受理ニ關スル事項

九　鑛業願不許可ニ關スル事項

一〇　鑛業出願ニ對シ修正圖提出命令ニ關スル事項

一一　廢業ヲ除ク鑛業諸屆ニ關スル事項

一二　鑛業權擔保並擔保取消屆ニ關スル事項

一三　鑛區及坑内測定並實測圖下付ニ關スル事項

一四　鑛業着手並休業屆査閲ニ關スル事項

一五　鑛業用汽罐機械設置及使用認可ニ關スル事項

一六　鑛業變災統計査閲ニ關スル事項

一七　漁業法施行規則第三十五條第一項第一號、第二號及第八號乃至第十號以外ノ許可及免許漁業ニ關スル事項

一八　保險營業ニ關スル左記事項

イ　保險料及責任準備金算出基礎ノ變更ニ關スル事項

ロ　普通保險約款變更ニ關スル事項

ハ　事業報告書及役員並營業所變更其ノ他各種屆出書類ノ査閲ニ關スル事項

一九　市場設置許可報告ノ査閲ニ關スル事項

二〇　市場監督上必要ナル知事又ハ廳長ノ處分又ハ命令ノ報告査閲ニ關スル事項（但シ重要ナルモノヲ除ク）

二一　市場毎月相場表、毎月賣買高表、毎期收支豫算決算書及事業報告ノ査閲ニ關スル事項

二二　正米市場ニ關スル輕易ノ事項

二三　正米市場組合員加入承認方ニ關スル事項

〔[illegible]〕

二四　茶業公司、組合ノ各年度製茶作業成績ノ査閲ニ關スル事項

二五　商工業ニ關シ照會並報告ニ關スル事項（但シ重要ナルモノヲ除ク）

二六　同業組合ニ關スル左記事項

イ　組合檢査員服務ニ關スル規定ノ認可ニ關スル事項

ロ　組合檢査員ノ選任又ハ解任ノ認可ニ關スル事項

ハ　組合經費決算及業務成績ノ報告査閲ニ關スル事項

ニ　檢査員ノ資格、選任、解任及給與ニ關スル規定制定及之カ變更認可ニ關スル事項

ホ　重要物產同業組合法施行規則第四十五條ニ基ク報告査閲ニ關スル事項

二七　產業組合ニ關スル左記事項

イ　財產目錄、貸借對照表、事業報告書、剩餘金處分案ノ査閲ニ關スル事項

ロ　業務監査報告ノ査閲ニ關スル事項

ハ　定款變更認可報告ノ査閲ニ關スル事項

ニ　組合員カ出資拂込ヲ終ラサルトキニ於ケル剩餘金配當ノ認可ニ關スル事項

ホ　信用組合貸付金、借入金最高限度報告ノ査閲ニ關スル事項

二八　移出米及帽子檢査標準査定會ニ關スル事項

二九　米穀鑑定會ニ關スル事項

三〇　染料及鑛油輸入許可ニ關スル事項

三一　戰時輸出禁制品輸出許可ニ關スル事項

三二 軍需調査令ニ依ル左記事項
イ 工場事業場異動報告ノ査閲ニ關スル事項
ロ 自動車調査表、列車運轉時刻報告ニ關スル事項
三三 農會事業執行ニ關スル諸屆出書類査閲ニ關スル事項
三四 農具貸付願及破損農具處分ニ關スル事業
三五 獸醫免許證下付ニ關スル事項
三六 輕易ナル獸疫及害蟲豫防報告ノ査閲ニ關スル事項
三七 造林用種苗配付ニ關スル事項
三八 價格參千圓ヲ超エサル林產物處分ニ關スル事項
三九 輕微ナル官行造林地內ノ火災報告査閲ニ關スル事項
四〇 移住奬勵要領（大正六年六月府報第三百八號揭載）ニ基ク私營移民ノ渡臺ニ要スル船車賃引券下付ニ關スル事項
四一 度量衡器ニ關スル左記事項
イ 販賣竝輸移入特許及註文ニ關スル事項
ロ 部類番號追加及賣下價格査定ニ關スル事項
四二 鳳梨罐詰製造機械貸付願及同破損機械處分ニ關スル事項
四三 蕃殖用鳳梨種苗配付願處理ニ關スル事項
四四 鳳梨罐詰製造機械繼續貸付ニ關スル事項
四五 製茶機械貸付願及同破損機械處分ニ關スル事項
四六 製茶機械繼續貸付ニ關スル事項
四七 肥料取締法ニ依ル肥料ノ製造、輸入及移入營業ノ免許及認可ニ關スル事項
四八 肥料取締法第六條及第七條ニ依ル處分ニ關スル事項
四九 肥料取締法施行規則第二十七條ニ依ル公示事項

第十二條 左ニ揭クル事項ハ警務局長限リ之ヲ施行スルコトヲ得
一 豫算ノ範圍內ニ於テ處理スル臨時定員外警手ノ配置ニ關スル事項
二 豫算又ハ既定計畫ニ基ク警察電話施設ニ關スル事項
三 警察官吏ノ東京警察講習所入所生選任派遣竝練習所特科教養ニ關スル事項
四 醫師免許證下付ニ關スル事項
五 醫藥品輸出許可ニ關スル事項
六 火藥類取扱者（甲、乙）及作業主任者（甲、乙、丙）ノ資格銓衡竝免狀付與ニ關スル事項
七 火藥制限超過數量貯藏、貯藏所制限距離短縮及火藥類作業所設備ノ變更命令又ハ之カ許否ニ關スル事項
八 軍用銃砲火藥類ノ處分認可又ハ所持讓渡、讓受ノ許否ニ關スル事項
九 原動機取締規則施行心得第二條ニ依ル總督ノ認可又ハ同第六條ニ依ル總督ノ指揮竝同條但書ノ報告査閲ニ關スル事項
一〇 浮浪者強制就業解除認可及之ニ基ク其ノ後ノ狀況報告査閲ニ關スル事項
一一 支那勞働者上陸歸還調及退去報告ノ査閲ニ關スル事項
一二 阿片密輸出入發見報告ノ査閲ニ關スル事項
一三 阿片營業禁止報告査閲ニ關スル事項
一四 賣藥及其ノ類似品移出入許可報告ニ關スル事項
一五 輕易ナル贋造貨幣發見報告ノ査閲ニ關スル事項

【臺報】

一六 警察官吏派出所受持、駐在所ノ管轄區域變更報告ノ査閲ニ關スル事項

第十三條 前各條ニ該當スル事項ト雖文書課長ニ於テ特ニ總督、長官ノ裁決ヲ仰ク要アリト認ムルモノハ其ノ手續ヲ爲スコトアルヘシ

第十四條 第一條乃至第十二條ノ文書ニシテ總督又ハ總督府ノ名ヲ用フルモノハ總督ノ決裁ヲ受クル體式ヲ採リ總務長官ノ名ヲ用フルモノニシテ依命若ハ經伺處理スル文書ハ總督ノ、然ラサル文書ハ總務長官ノ決裁ヲ受クル體式ヲ採ルヘシ

第十五條 前條ニ依リ總督ノ決裁ヲ受クル體式ヲ採ル文書ハ總督若ハ總督及總務長官ノ官名ノ下ニ、總務長官ノ決裁ヲ受クル體式ヲ採ル文書ハ總務長官ノ官名ノ下ニ各「委任」ノ文字ヲ記入スヘシ

第十六條 委任ノ範圍ニ屬スル事項ト雖其ノ內容他局課ニ關涉アルモノハ總督府文書取扱規程第二十條ニ依リ關係各局課長ニ合議スヘシ

第十七條 委任ノ範圍ニ屬スル事項ト雖關係局課意見ヲ異ニスルモノノ事疑義ニ涉ルモノ、先例ナキモノ又ハ重要ナルモノ其ノ他必要アリト認メラルル事項ハ特ニ決裁ヲ經ヘシ

【臺報】

●人事事項委任規程

大正十五年八月二十五日
臺灣總督府訓令第七十一號

臺灣總督府法院 檢察局 州 廳
臺灣總督府所屬官署 各學校

改正 昭和三年訓令第二四號

人事事項委任規程左ノ通相定ム

人事事項委任規程

第一條 高等法院長ハ其ノ院、地方法院及供託局ニ於ケル、高等法院檢察官長ハ其ノ檢察局及地方法院檢察局ニ於ケル左記ノ事項ヲ施行ス但シ地方法院長、地方法院檢察官長ノ權限ニ屬スル事項及供託局長ノ任免竝懲戒ニ關スル事項ヲ除ク
一 高等官ノ本島內出張及除服出仕ニ關スル事項
二 所屬職員ノ休暇ニ關スル事項
三 判任官以下職員ノ任免竝賞與ニ關スル事項
四 判任官以下職員ノ懲戒ニ關スル事項
五 判任官以下職員ノ出張及除服出仕ニ關スル事項
六 死亡賜金ニ關スル事項

第二條 帝國大學總長、交通局總長、專賣局長及知事ハ左記ノ事項ヲ施行ス
一 前條第一號及第六號ノ事項
二 奏任待遇者以上職員ノ休暇ニ關スル事項
前項各號ノ外知事ハ左ノ事項ヲ施行ス
一 奏任待遇者以上職員ノ公共團體其ノ他ヨリ贈與金品受領ニ關スル事項
二 千圓未滿ノ寄附ニ對シ褒賞條例ニ依ル褒狀賜與ニ關スル事項
三 公立ノ中學校長、高等女學校長及實業學校長ノ職務代理ニ關スル事項

第三條 地方法院長、地方法院檢察官長、諸學校長、圖書館長、感化院長、醫院長、刑務所長、中央研究所長、營林所長及結核療養所長ハ左

記ノ事項ヲ施行ス
一　第一條第一號、第二號及第六號ノ事項
二　判任官以下ノ職員ニ對シ內地竝本島內出張及除服出仕ニ關スル事項
三　判任官以下ノ職員病氣危篤ノ場合ニ於テ臨時增給竝賞與ニ關スル事項

前項各號ノ外地方法院長ハ左ノ事項ヲ施行ス
一　其ノ院所在地供託局職員ノ內地竝本島內出張、除服出仕及休暇ニ關スル事項

第一項各號ノ外中央研究所長ハ左ノ事項ヲ施行ス
一　判任官五級俸以下職員ノ任免及判任官以下ノ賞與ニ關スル事項

第四條　稅關長ハ左記ノ事項ヲ施行ス
一　第一條第一號、第二號、第六號及前條第一項第二號、第三號ノ事項
二　判任官五級俸又ハ八十五圓以下ノ職員ノ任免及判任官以下ノ賞與ニ關スル事項
三　稅關監吏賞罰規則ニ依ル賞罰ニ關スル事項但シ懲戒免官ヲ除ク

第五條　警察官及司獄官練習所長ハ左記ノ事項ヲ施行ス
一　第一條第一號、第二號、第六號及第三條第一項第二號、第三號ノ事項
二　明治三十二年勅令第四百號ニ依ル巡査看守ノ任免賞罰ニ關スル事項

第六條　廳長ハ廳及廳管內小學校公學校ニ於ケル左記ノ事項ヲ施行ス
一　第一條第一號、第二號、第六號、第二條第二項第一號、第二號及第三條第一項第二號、第三號ノ事項
二　判任官五級俸又ハ八十五圓以下職員ノ任免及判任官以下ノ賞與ニ關スル事項
三　判任待遇者ノ懲戒ニ關スル事項
四　五級俸以下ノ小學校及公學校職員ノ管外ヨリ轉勤ニ關スル事項
五　判任官以下職員ノ公共團體其ノ他ヨリ贈與金品受領ニ關スル事項

第七條　懲戒、許可竝褒狀ノ詞令書ハ總督名其ノ他ハ總督府名ヲ以テ施行スヘシ

附　則

明治三十八年訓令第四十號ハ之ヲ廢止ス

【臺轄】

●臺灣總督府醫院長職務規程

大正九年九月十七日
臺灣總督府訓令第二百九號

醫院

臺灣總督府醫院長職務規程左ノ通相定ム

臺灣總督府醫院長職務規程

第一條　醫院長ハ別ニ定ムルモノノ外其ノ院ニ關スル左記ノ事項ヲ專行ス
一　患者診療時間ヲ定ムル事
二　主管事務ノ執行上必要アルトキハ公告ヲ爲スコト
三　主管事務ニ付總督府所屬官衙ニ往復スルコト

第二條　醫院長ハ知事又ハ廳長ノ請求ニ依リ所屬職員ヲシテ檢疫其ノ他公衆衞生事務ニ從事セシムルコトヲ得

【臺轄】

第三條　醫院長ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ所務規程ヲ定ムルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年七月訓令第百六十六號ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府結核療養所長職務規程

大正十四年六月十六日
臺灣總督府訓令第五十三號

結核療養所

臺灣總督府結核療養所長職務規程左ノ通相定ム

臺灣總督府結核療養所長ノ職務ニ關シテハ大正九年訓令第二百九號臺灣總督府醫院長職務規程ヲ準用ス

●臺灣總督府警察官及司獄官練習所長職務章程

明治三十一年七月
臺灣總督府訓令第百七十一號

警察官及司獄官練習所

臺灣總督府警察官及司獄官練習所長職務章程左ノ通相定ム

臺灣總督府警察官及司獄官練習所長職務章程

第一條　臺灣總督府警察官及司獄官練習所長ハ官制ニ規定スル外此章程ニ依リ事務ヲ處理スヘシ

第二條　所長ハ其職權內ニ於テ左ノ事項ヲ專決施行ス
一　練習生ヲ召集スルコト【及明治三十二年勅令第四百號ニ依ル巡査及看守ノ任免ヲ擧行スルコト】
二　教課ノ擔任ヲ規定スルコト
三　所員ノ服務ヲ指定スルコト
四　練習生及所員ノ看護歸省轉地療養ノ請願ヲ許否スルコト
五　練習生及所員ノ除服出仕ヲ命スルコト
六　學期及授業時間ヲ變更伸縮スルコト
七　定員未滿ニテ臨時授業ヲ開始スルコト
八　授業ヲ臨時ニ開始休止スルコト
九　本島地方ノ警察及獄務ヲ巡視スルコト
十　練習生及所員ニ派遣出張ヲ命スルコト
十一　本所ノ內規細則ヲ定ムルコト
十二　經費豫算內ニ於テ月額三十圓日給一圓五十錢以下ノ雇員傭員ヲ進退スルコト
十三　一箇所金額千圓以下ノ土木工事及家屋修繕ノコト
十四　一口千圓未滿ノ物品ヲ購入スルコト
十五　主管事務ニ就キ各官衙ト直接往復スルコト
十六　其他主管事務ニ就キ其執行上必要ナル輕易ノ事項

第三條　所長ハ制規ノ課程ヲ修了シ試驗ニ合格セル練習生ニ對シテ其科修了ノ證書ヲ授與ス

第四條　所長ハ練習生ノ病症其他ノ事情ニ因リ科程ヲ修了スヘキノ目途ナキ者タル證跡ヲ確認シタルトキハ隨時退所セシムルコトヲ得

第五條　所長ハ練習生ノ品格ヲ汚損スル行爲ニ關シテハ懲罰スルコトヲ得

第六條 所長ハ前條ノ懲罰ニ關スル規則ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 所長ハ現官現職者タルト否トニ拘ラス各練習生ノ素行勤惰ニ就キ臺灣總督ニ具狀シ又ハ關係ノ地方長官ニ通知スルコトヲ得

第八條 所長ハ所員ノ進退及功過賞罰ニ關シテ臺灣總督ニ具狀スルコトヲ得

第九條 所長ハ專決施行ニ屬スヘキノ事項ト雖重要ナリト思料スルトキハ豫メ意見ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 所長ハ毎年度ノ始メニ於テ前年度ノ事務成績ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

●臺北帝國大學總長職務規程

昭和三年三月十七日
臺灣總督府訓令第十九號

臺北帝國大學

臺北帝國大學總長職務規程左ノ通相定ム

臺北帝國大學總長職務規程

第一條 帝國大學總長ノ職務ニ關シテハ本令ニ依ル但シ別ニ規定セルモノヲ除ク

第二條 總長ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ大學令第九條ニ規定スル學生ノ入學資格及入學順位ニ關スル事項ヲ定ムルコトヲ得

第三條 總長ハ左ノ事項ヲ施行セムトスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

〔臺報〕

一 通則及學部規程ノ制定及改廢
二 八日以上ノ臨時休業
三 學生ノ外國修學旅行
四 學生ノ募集

第四條 總長ハ左ノ場合ハ之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

第一 其ノ都度報告スヘキモノ
一 事務分掌規程ヲ定メタルトキ
二 學生ノ服制ニ關スル規程ヲ定メタルトキ
三 臨時休業ヲ爲シタルトキ
四 卒業證書ヲ授與シタルトキ
五 學生ニ懲戒ヲ加ヘタルトキ
六 管理上又ハ訓育上注意ヲ要スル事件アリタルトキ

第二 豫メ報告スヘキモノ
一 卒業式ヲ擧行セムトスルトキ

第三 毎學年最初ノ月中ニ報告スヘキモノ
一 學生ヲ募集シテ入學許可ヲ爲シタルトキ

第四 毎年五月及十月ニ於テ其ノ月ノ十五日迄ニ報告スヘキモノ
一 其ノ月一日現在職員ノ教務及事務ノ擔任狀況

第五條 總長ハ前條ノ外非常變災其ノ他重要ト認ムル事項アルトキハ遲滯ナク臺灣總督ニ報告スヘシ

●臺灣官立學校長職務規程

〔臺報〕

大正十年六月七日
臺灣總督府訓令第百六號

改正 大正一一年訓令第一七四號、一四年第八〇號

各學校

臺灣官立學校長職務規程左ノ通相定ム

臺灣官立學校長職務規程

第一條 別段ノ規定アルモノノ外學校長ノ職務ニ關シテハ本令ニ依ルヘシ

第二條 學校長ハ生徒ヲ募集セムトスルトキハ募集要項ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 學校長ハ生徒ヲ本島外ニ修學旅行セシメムトスルトキハ其ノ目的、日程、旅費額（補助及本人負擔別金額）、部科學年別員數及引率者官職氏名等ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 學校長ハ生徒ノ服制ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 學校長ハ前數條ノ外特ニ重要ナル事項アルトキハ臺灣總督ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條 學校長事故アルトキハ特ニ命シタル者アル場合ノ外本官タル上席教官之ヲ代理ス

第七條 學校長ハ左ノ場合ハ各所定ノ期限内ニ之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

第一類 其ノ都度報告スヘキモノ
一 削除
二 當該學校規則ノ規定ニ依リ教科目若ハ學科目ヲ加除又ハ變更シタルトキ
三 削除
四 非常變災其ノ他急迫ノ場合ニ際シ認可ヲ受クル暇ナク臨時休業ヲ爲シタルトキ
五 卒業證書又ハ修了證書ヲ授與シタルトキ

師範學校長ハ別記第三號樣式ニ依リ卒業又ハ修了者氏名表ヲ、醫學專門學校長ニ在リテハ別記第四號樣式ニ依リ卒業者（大正十一年府令第八十七號附則第四項ノ規定ニ依ル者ヲ除ク）氏名表ヲ添附スヘシ

六 生徒ニ退學ヲ命シタルトキ（師範學校ニ限ル）
七 生徒ニ懲戒ヲ加ヘタルトキ
八 管理上又ハ訓育上注意ヲ要スル事件アリタルトキ
九 教授、訓練又ハ管理ニ關シ研究實驗セルモノニシテ參考トナルヘキ事項アルトキ

第二類 豫メ報告スヘキモノ
一 削除
二 特殊ノ目的ヲ以テ課外教授ヲ爲ストキ又ハ夏季休業、年末年始休業若ハ學年末休業中ニ授業ヲ爲ストキ
三 削除
四 卒業式又ハ修了式ヲ擧行スルトキ

第三類 毎學年最初ノ月中ニ報告スヘキモノ
一 生徒ヲ募集シテ入學許可ヲ爲シタルトキ（別記第一號樣式ニ依

ル）

第四類　毎年五月及十月ニ於テ其ノ月ノ十五日迄ニ報告スヘキモノ

一　職員ノ教務及事務ノ擔任ノ定メ又ハ異動アリタルトキ（別記第二號樣式ニ依ル）

第八條　學校長ハ前數條ノ外非常變災其ノ他重要ト認ムヘキ事項アルトキハ遲滯ナク臺灣總督ニ報告スヘシ

第九條　師範學校長ハ島內ニ於ケル初等普通教育ニ關スル學事ヲ視察シ其ノ狀況ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年訓令第百三十七號臺灣總督府師範學校長職務規程ハ之ヲ廢止ス

（別記）

第一號樣式

生徒募集狀況

其ノ一　地方別員數調　　　　學校

種別／地方別	入學志願者數	受驗者數	缺席者數	入學許可者數	
合計					

其ノ二　削除

其ノ三　經歷調　　　　學校

【臺轄】

種別／學歷別	入學志願者數	受驗者數	缺席者數	入學許可者數	
尋常小學校ヲ卒業セサル者					
尋常小學校ヲ卒業シタル者					
高等小學校第一學年ヲ修了シタル者					
、、、、					
臺灣ニ於ケル中學校ヲ卒業シタル者					
前項以外ノ中學校ヲ卒業シタル者					
專門學校入學者無試驗ノ指定ヲ受ケタル者					
專門學校入學者試驗檢定ニ合格シタル者					
、、、、					
、、、、					

備考

(一)　部科及學年別ニ別表ニ調製スヘシ

(二)　地方別ノ欄ハ父兄保護者ノ住所ニ依リ州、廳、府縣道廳名ヲ揭クヘシ

(三)　削除

(四)　無試驗ニ依リ入學者ヲ選拔シタルトキハ各欄共適宜ノ符號ヲ附シ區別シテ揭クヘシ

(五)　學歷二項以上ニ涉ル者アルトキハ最後ノ學歷ノ部ニ計入スヘシ

第二號樣式

何々學校職員ノ教務及事務ノ擔任ニ關スル報告

五月一日又ハ十月一日現在

擔任			俸給	本官及兼官名	氏名	學歷及免許狀等ニ關スル事項
學科目	每週教授時數	事項				

備考

(一)　二學科目以上擔任スルトキハ各學科目ノ每週教授時數ヲ明ニスヘシ

(二)　本官及兼官名ノ欄ニハ他ノ職ヲ兼ヌルモノ及他ノ職ヨリ兼ヌルモノ等總テ其ノ官名ヲ記載スヘシ

(三)　擔任事項ノ欄ニハ生徒監、學級主任、教務係等ノ事項ヲ記入スヘシ

(四)　書記ノ擔任事務ハ擔任ノ欄ニ其ノ重ナル事項ヲ揭クヘシ

第三號樣式

大正　年　月　日何師範學校何科卒業者（修了者）氏名表

【臺轄】

本人			保證人	
本居地	氏名	生年月日	住所	氏名

第四號樣式

年　月　日本校ヲ卒業シタル者

本籍地又ハ本居地	族稱	氏名	生年月日

●學校及幼稚園女教員及保姆ノ產前產後休暇ノ件

大正十二年十二月十一日
臺灣總督府訓令第百三十一號

州　廳　各學校

學校及幼稚園女教員及保姆ノ產前產後ニハ左記標準ニ依リ休暇ヲ與フヘシ

一　醫師ノ診斷書ニ依ル分娩豫定日前二週間內但シ特別ノ事情アル場合ニ在リテハ產婆ノ證明書ヲ以テ醫師ノ診斷書ニ代フルコトヲ得

二　前號ノ分娩豫定日ヲ超エ尙分娩セサルトキハ分娩ノ日迄

三　分娩後六週間內

●臺灣總督府圖書館長職務規程

大正四年六月
臺灣總督府訓令第七十七號

改正　大正一一年訓令第三六號、一二年第七〇號

圖書館

臺灣總督府圖書館長職務規程左ノ通相定ム

臺灣總督府圖書館長職務規程

第一條　圖書館長ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ事項ヲ專行ス
一　處務ノ細則ヲ定ムルコト
二　職員ノ事務擔任ヲ定ムルコト
三　輕易ナル事項又ハ例規アル事件ヲ處理スルコト
四　豫算ノ範圍內ニ於テ一件千五百圓以下ノ工事又ハ物件ノ賣買、貸借、運搬、勞力ノ供給其ノ他輕易ナル契約締結及處分ニ關スルコト

第二條　圖書館長ハ左ニ揭クル事項ハ其ノ都度臺灣總督ニ報告スヘシ
一　處務細則ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキ
二　圖書館ノ公開時間ヲ伸縮シタルトキ
三　曝書ノ爲休館シタルトキハ其ノ期日
四　臨時休館シタルトキハ其ノ期間及事由

第三條　圖書館長事故アルトキハ特ニ命シタル者アル場合ノ外上席司書之ヲ代理ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【臺灣】

●奏任及判任待遇刑務所職員職務規程

明治四十四年八月
臺灣總督府訓令第百五十一號

改正　大正八年訓令第一二三號、一三年第六三號

刑務所

奏任及判任待遇監獄職員職務規程左ノ通相定ム

奏任及判任待遇刑務所職員職務規程

第一章　通則

第一條　保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技手、看守及女監取締ノ職務ハ本令ニ依ルヘシ

第二條　本令中刑務所長ニ對シテ行フヘキ事項ハ支所ニ在リテハ支所長ニ對シ之ヲ行フヘシ

第三條　本令中具申、申報、報告又ハ答申ヲ爲スヘキ事項ニシテ事急速ヲ要スルモノハ直ニ口頭ヲ以テ上官ニ申告シタル後更ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第二章　保健技師、保健技手ノ職務

第四條　保健技師、保健技手ハ刑務所長ノ指揮ヲ承ケ在監者ノ檢診、治療、調劑及刑務衞生ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第五條　常ニ監房、工場、溝渠、塵芥場又ハ便所等ヲ視察スヘシ

第六條　作業ノ種類、就業ノ方法又ハ監房工場等ノ設備ニ付テハ常ニ衞生上ノ關係ヲ審査スヘシ

第七條　在監者ノ身體、被服、臥具等ノ清潔ニ注意シ入浴、洗濯、乾燥等ニ關スル規定ノ施行ヲ督勵スヘシ

【臺灣】

第八條　新入監者アリタルトキハ其ノ身體ヲ檢診シ健康診斷及診療票並身分帳ニ其ノ要領ヲ記載スヘシ

第九條　入監者ニ對シ每年少クトモ二回健康診斷ヲ行ヒ其ノ結果ヲ健康診斷及診療票ニ記載スヘシ若身體ニ特殊ノ變狀アルトキハ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ申報スヘシ

第十條　新ニ入監スル者臺灣傳染病豫防令ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹リタル者ナルトキハ直ニ診斷書ヲ添ヘ刑務所長ニ申報スヘシ

第十一條　在監者ニシテ刑事訴訟法第五百四十三條、第五百四十四條及第五百四十六條第一號、第三號並第四號ニ依リ刑ノ執行ヲ停止セラルヘキモノト認ムル者アルトキハ直ニ診斷書ヲ作リ刑務所長ニ申報スヘシ

第十二條　流行病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ刑務所長ニ稟議シ其ノ病症及感染ノ狀況ヲ詳悉シ豫防消毒ヲ勵行スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ差入及食物購求ノ停止等ノ處分ニ關シ其ノ意見ヲ刑務所長ニ具申スヘシ

第十三條　獨居拘禁ニ付スヘキ者アルトキハ精神又ハ身體ニ害アリヤ否ニ付意見ヲ身分帳ニ記載シ刑務所長ニ具申スヘシ獨居拘禁中ノ者ニシテ精神又ハ身體ニ害アリト認メタルトキ亦同シ

第十四條　獨居拘禁者、減食罰者其ノ他健康上特ニ視察ヲ要スヘキ在監者ニ對シテハ時時其ノ居所ニ就キ視察ヲ遂ケ其ノ狀況ヲ刑務所長ニ申報スヘシ

第十五條　被疑者、被告人、無定役受刑者、獨居拘禁者其ノ他健康上必要アル者ノ運動ニ於テハ特ニ其ノ適否ヲ監視スヘシ

第十六條　在監中精神異常ノ疑アリト認メタル者アルトキハ速ニ其ノ處遇ノ方法ニ付意見ヲ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ

第十七條　運動ノ停止、減食又ハ屛禁ノ懲罰ニ處セラルヘキ者アルトキハ其ノ執行前健康診斷ヲ行ヒ執行ニ差支ナキヤ否ノ意見ヲ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ其ノ解罰ニ付亦同シ

第十八條　笞刑ヲ執行スヘキ者アルトキハ其ノ執行前健康診斷ヲ行ヒ執行ニ堪フルヤ否ノ意見ヲ健康診斷及診療票ニ記載シテ刑務所長ニ報告スヘシ

第十九條　笞刑ノ執行ニ立會ヒ受刑者ノ健康ヲ監視スヘシ

第二十條　作業ノ賦課ニ付テハ當該者ノ健康狀態ニ對スル適否ノ意見ヲ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ

第二十一條　在監者ヲ他所ニ護送スヘキ場合ニ於テハ之ヲ診斷シ健康ニ害アリト認メタルトキハ直ニ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ

第二十二條　病者ヲ診斷シタルトキハ其ノ氏名、病性、徵候、既往症及處方等ヲ健康診斷及診療票並日誌ニ記載シ刑務所長ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十三條　病者ニシテ病監ニ收容ヲ要スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ其ノ退病監ノ場合亦同シ

第二十四條　急發病者アリタル場合ニ於テハ何時ニテモ直ニ診察治療ヲ爲スヘシ

第二十五條　在監者ニシテ疾病ヲ隱蔽シ、故造若ハ虛構シタルトキハ其ノ

旨ヲ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ

第二十六條 疾病快復シタルトキハ其ノ堪フヘキ作業ノ種類ヲ指定シ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ

第二十七條 危險ノ虞アル手術ヲ施スノ必要アリト認メタルトキハ豫メ其ノ旨ヲ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申シ許可ヲ受クヘシ

第二十八條 病監患者ハ病症ノ輕重若ハ其ノ症狀ニ應シ其ノ室房ヲ隔離スヘシ殊ニ傳染性病者ノ所用ニ係ル衣類食器其ノ他ノ物品ハ總テ他物ト區別シ消毒ヲ行フヘシ

第二十九條 毎日一回以上病監ニ臨ミ清潔、温度、換氣等ノ實況ニ注意シ尚患者ノ攝生、看護ノ方法ニ付病監相當ノ吏員ニ指示スヘシ

第三十條 健康上ノ必要ニ因リ特別ノ衣類物品等ヲ下付スル必要アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ身分帳ニ記載シ刑務所長ニ具申スヘシ

第三十一條 癈疾若ハ危篤ニ至リタル者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ

第三十二條 在監者中死亡シタル者アルトキハ檢屍ノ上其ノ死亡ノ原由、病症及死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢案書ヲ作製スヘシ

第三十三條 死後ニ解剖ヲ請フ者アルトキハ其ノ旨ヲ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ

第三十四條 在監者ニ給與スヘキ糧食ノ品目、數量等ニ付テハ豫メ主任者ト協議ヲ遂ケ且時時炊爨ノ狀況ヲ視察シ保健上不適當ナリト認メタルモノアルトキハ其ノ意見ヲ刑務所長ニ具申スヘシ

差入食糧及購求食物ハ其ノ都度檢定スヘシ

第三十五條 在監者ニ貸與ノ被服、臥具ニシテ衞生上不適當ナリト認メタルトキハ其ノ旨ヲ刑務所長ニ具申スヘシ

第三十六條 看護夫ニ對シテハ常ニ看護心得及急救療法等ヲ講說シ其ノ他看護上必要ナル事項ヲ練習セシメ其ノ看護夫タルニ適スルヤ否ヲ監視スヘシ

第三十七條 保健技師、保健技手ノ取扱ニ屬スル帳簿左ノ如シ

一 日誌
二 健康診斷及診療票
三 患者日表
四 病監入退錄
五 合劑原簿
六 看守診斷簿

第三十八條 看守、女監取締及押丁志願者ノ體格ヲ檢査シ其ノ他刑務所長ノ命ニ依リ吏員ノ診斷ヲ行フヘシ

第三十八條ノ二 藥品及其ノ他治療用ノ物品ハ愼密ノ注意ヲ以テ之ヲ取扱ヒ總テ一定ノ鍵アル戸棚ニ藏置シ劇藥、毒藥等ハ別ニ之ヲ藏置スヘシ

第三十八條ノ三 醫療器械、器具等ハ鄭寧ニ之ヲ保管シ其ノ清潔ト秩序ヲ保チ病者ニ貸與スル藥壜ノ類ハ常ニ之ヲ洗滌若ハ消毒スヘシ

第三十八條ノ四 井水又ハ飲食物ノ分析鑑識ノ結果其ノ他衞生上必要ト認メタル事項ハ其ノ旨ヲ刑務所長ニ申報スヘシ

第三十八條ノ五 藥品及雜品ノ受拂ハ毎月之ヲ製表シテ刑務所長ノ檢ニ供スヘシ

第三章 教誨師ノ職務

第三十九條 教誨師ハ刑務所長ノ指揮ヲ承ケ在監者ニ對スル德性涵養ノ任務ニ從事ス

第四十條 受刑者ノ罪質、犯數、性情、教育、職業其ノ他身上ニ關スル諸般ノ情況ヲ審査シ常ニ適切ノ個人教誨ヲ行フヘシ

第四十一條 日曜日及祝祭日ニ於テハ在監者ニ對シ一般教誨ヲ行フヘシ平日ト雖成ルヘク休業時間ヲ利用シ教誨ヲ行フヘシ

第四十二條 特赦、假出獄、假出場及懲罰ノ言渡又ハ賞表授與式ニ立會ヒ教誨ヲ行フヘシ

在監者ノ喪ニ遭ヒタルトキ若ハ其ノ他機宜ニ應シ適當ノ教誨ヲ行フヘシ

第四十三條 獨居拘禁者及在病監者ニ對シテハ一週一回以上其ノ居所ニ就テ個人教誨ヲ行フヘシ

第四十四條 常ニ監房、工場ヲ巡回シテ在監者ノ動靜ヲ視察スヘシ

第四十五條 監外者トノ接見、教誨、視察又ハ面接等ノ場合ニ於テ知リ得タル事項ニシテ處遇上參考ト爲ルヘキモノアルトキハ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ

第四十六條 在監者ノ賞罰ニ關スル刑務所長ノ諮詢ニ對シ其ノ意見ヲ答申スヘシ

第四十七條 懲罰ヲ受ケタル者ニ對シテハ特ニ時時其ノ動靜ヲ視察スヘシ

第四十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シテハ愼密ノ注意ヲ以テ教誨ヲ行ヒ特ニ精神ノ慰安ヲ圖ルヘシ

第四十九條 在監者中死亡シタル者アルトキハ特ニ棺前教誨ヲ行フヘシ

第五十條 在監者ヲ他ノ刑務所ニ移送スル場合ニ於テハ特ニ教誨上ニ於ケル注意其ノ他身上ニ關スル意見ヲ具スヘシ

第五十一條 受刑者ノ新入監又ハ出監ノ場合ハ特ニ個人教誨ヲ施シ出監者ニ對シテ保護ノ方法ヲ講スヘシ

第五十二條 在監者ニシテ書籍ノ看讀ヲ請フ者アルトキハ適否ノ意見ヲ刑務所長ニ具申スヘシ

第五十三條 受刑者ノ特赦、假出獄、假出場其ノ他處遇上ニ付意見アルトキハ身分帳ニ記載シ刑務所長ニ具申スヘシ

第五十四條 教誨師ノ取扱ニ屬スル帳簿左ノ如シ

一 日誌
二 感想錄
三 教誨原票
四 教務日表
五 看讀票

第五十五條 教師ヲ置カサル刑務所ニ於テハ教師ノ職務ハ教誨師之ヲ行フ

第四章 教師ノ職務

第五十六條 教師ハ刑務所長ノ指揮ヲ承ケ在監者ノ教育ニ從事ス

第五十七條 就學者ニ對シテハ其ノ年齡、智能、性情、境遇等ヲ斟酌シテ各個人ニ適當ナル教育ヲ施スヘシ

第五十八條 就學者ノ就學年月、修業ノ科目、學業ノ優劣等ヲ詳細ニ簿冊ニ記載シ刑務所長ノ檢閲ニ供スヘシ

第五十九條 就學者ノ授業其ノ他ノ場合ニ於テ知リ得タル事項ニシテ處

遇上參考ト爲ルヘキモノアルトキハ身分帳ニ記載シテ刑務所長ニ具申スヘシ

第六十條 教師ノ取扱ニ屬スル帳簿左ノ如シ

一 教育原票

二 就學者入退錄

第六十一條 授學上ニ要スル書籍、器具等ヲ管理シ散失、破損セサル樣注意スヘシ

第五章 作業技手ノ職務

第六十二條 作業技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ作業ノ教導及原動機取扱ノ事務ニ從事スヘシ

第六十三條 本令ニ於テ原動機ト稱スルハ蒸汽機關、石油機關、瓦斯機關、電動機其ノ他ノ發動機ヲ謂フ

汽罐、蒸罐ハ之ヲ原動機ト看做ス

第六十四條 作業ノ教導ハ嚴正、公平且親切ニ之ヲ爲スヘシ

第六十五條 作業ヲ監督シ就業者ヲ督勵シテ能率ノ增進ヲ圖リ素品ノ使用量及製作品ノ仕上ニ注意シ作業成績ノ檢査ニ立會スヘシ

第六十六條 就業者ノ勉否及技能ノ優劣ヲ調査シ上官ニ報告スヘシ就業者ニシテ紀律ニ違ヒタル者アルトキ亦同シ

第六十六條ノ二 作業ノ企畫、施業方法、科程、賃金及作業ノ能率等ニ關シ意見ヲ上官ニ具申スヘシ

第六十六條ノ三 作業ニ關スル機械、器具ノ取扱及整理ニ注意シ其ノ故障及危險ニ付警戒ヲ爲スヘシ

第六十六條ノ四 原動機ニ付テハ構造、來歷、性能、用法及效力ヲ知悉シ其ノ操作中ハ絕ヘス狀況ニ注意スヘシ

第六十六條ノ五 原動機及附屬機械ハ大切ニ之ヲ取扱ヒ掃除ヲ勵行シ火氣、漏電、短絡ニ付充分ノ取締ヲ爲スヘシ

第六十六條ノ六 原動機ハ每年一回精細ニ之ヲ檢査シ其ノ結果ヲ上官ニ報告スヘシ

臨時檢査ノ必要アリト認ムルトキハ上官ニ報告シテ其ノ指揮ヲ承クヘシ

第六十六條ノ七 原動機及附屬機械ニ缺損又ハ異狀ヲ認メタルトキハ其ノ原因ヲ精査シ應急處置ヲ施シ直ニ之ヲ上官ニ報告シテ其ノ指揮ヲ承クヘシ

第六章 看守及女監取締ノ職務

第六十七條 看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ刑務所ノ警戒在監者ノ戒護其ノ他刑務所ノ事務ニ從事ス

第六十八條 女監取締ハ上官ノ指揮ヲ承ケ在監婦女ノ戒護其ノ他刑務所ノ事務ニ從事ス

第六十九條 事務ニ從事スルトキハ敏速ニ其ノ擔任事務ヲ處理スヘシ

第七十條 看守ハ監門ヲ守衞シ其ノ出入者ニ注意シ濫ニ通行セシムヘカラス

閉監前、閉監後ハ刑務所長ノ許可アルニ非サレハ刑務官吏以外ノ者ヲ出入セシムヘカラス

刑務官吏ト雖正當ノ事由ナキトキ亦同シ

必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ檢査スヘシ但シ檢査ヲ受クルコトヲ肯セサルトキハ其ノ出入ヲ禁止スヘシ

第七十一條 上官ノ指揮ヲ承ケ刑務所ノ要所ヲ守衞スヘシ

第七十二條 上官ノ指揮ヲ承ケ受持區域ヲ巡警スヘシ

第七十三條 鑰匙ヲ保管シ又ハ所持スルトキハ濫ニ之ヲ授受スヘカラス

第七十四條 他ノ刑務官吏ノ立會ヲ受ケ房扉ノ開閉ヲ掌リ其ノ鎖鑰ノ整否ヲ檢査スヘシ

第七十五條 看守長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ物品ノ點檢ヲ爲スヘシ

第七十六條 戎具及銃ハ每日之ヲ點檢スヘシ

戎具劍又ハ銃ノ使用法ヲ練習シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ

第七十七條 消防器具ハ少クトモ每月一回之ヲ檢査シ時時消防演習ヲ爲スヘシ

第七十八條 戎具ヲ使用スル必要アルトキハ直ニ上官ニ申告シ刑務所長ノ指揮ヲ承ケ之ヲ使用スヘシ

第七十九條 劍又ハ銃ヲ使用シタルトキハ直ニ刑務所長ニ報告スヘシ

第八十條 在監者逃走シタルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ速ニ捕獲ノ手段ヲ講シ直ニ上官ニ申告シ其ノ指揮ヲ承クヘシ若捕獲ノ機ヲ失スル虞アルトキハ直ニ之ヲ追跡スヘシ

在監者騷擾スルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ鎭壓ノ手段ヲ講シ直ニ上官ニ申告シ指揮ヲ承クヘシ

第八十一條 看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ逃走者ノ逮捕ニ從事スヘシ

第八十二條 天災事變ニ際シテハ在監者ノ戒護ヲ嚴ニシテ已ムヲ得サル場合ニ於テハ避難ノ準備ヲ爲シ上官ノ指揮ヲ承クヘシ但シ事急遽ニ出テ其ノ遑ナキトキハ救護ノ爲在監者ヲシテ應急ノ要務ニ就カシメ又ハ一時之ヲ監房若ハ工場ノ外ニ出スコトヲ得

第八十三條 天災事變ノ際又ハ非常召集ノ命ニ接シタルトキハ直ニ昇廳シ上官ノ指揮ヲ承クヘシ

第八十四條 看守長ノ立會ヲ受ケテ在監者員ノ點檢ヲ爲スヘシ

第八十五條 新ニ入監スル者工場又ハ監外ヨリ還房スル者其ノ他必要アリト認メタル者ノ身體、衣服等ノ檢査ヲ爲スヘシ但シ男子ニ付テハ看守、婦女ニ付テハ女監取締之ヲ爲スヘシ

第八十六條 炊場、浴場其ノ他火氣ヲ取扱フ場所ハ特ニ嚴密ニ視察シ火災ノ虞ナキ樣取締ヲ爲スヘシ

第八十七條 在監者情願ヲ爲サムコトヲ申出タルトキハ速ニ刑務所長ニ報告スヘシ

刑務所長、典獄補、看守長、保健技師、保健技手、教誨師、教師及作業技手ニ對シ面接其ノ他ニ付願出タル場合亦同シ

第八十八條 在監者ノ暴行、脅迫、陰謀、變死、創傷、建物ノ破損其ノ他總テ拘禁ニ關スル異狀ヲ見聞シタルトキハ直ニ之ヲ刑務所長ニ報告スヘシ在監者ヨリ密告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第八十九條 受持在監者ノ稱呼番號、氏名、罪名、犯數、刑名、刑期其ノ他行刑上必要ナル事項ハ努メテ之ヲ記憶シ每日其ノ行狀ヲ視察シ細大トナク其ノ事故ノ概要ヲ錄取シ上官ノ檢閱ニ供スヘシ

第九十條 看守ハ在監者ノ護送ヲ掌リ其ノ護送中逃走其ノ他不當ノ擧動ヲ爲サシメサル樣嚴密ニ注意スヘシ

第九十一條 就業者ニ對シ作業ヲ督勵シ不正怠慢ノ行爲ナカラシムヘシ

第九十二條 每日終業ノ際作業ノ成績ヲ檢査シ且ツ作業ニ使用シタル器具、器械ヲ點檢スヘシ

第九十三條 就業者其ノ作業上必要ナキ交談ヲ爲シ又ハ故ナク器具、器

械、素品、製品其ノ他ノ物ヲ授受シ若ハ故ナク就業ノ場所ヲ離レシメサル樣嚴密ニ注意スヘシ

第九十四條 在監者器具、器械其ノ他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ事由ヲ具シ刑務所長ニ報告スヘシ

第九十五條 在監者ニ接スル其ノ態度ニ注意シ若疑ハシキ擧動アリト認メタルトキハ直ニ刑務所長ニ報告スヘシ

第九十六條 工場、倉庫、物置等ヲ清潔ニシ素品、製品、器具、器械其ノ他ノ物品ノ排列整否ヲ注視シ亡失、毀損若ハ紛亂セサル樣嚴密取締ヲ爲スヘシ

第九十七條 在監者ノ教誨ニ立會ヒ其ノ效果ニ注意スヘシ

在監者ノ教育ニ立會ヒ其勉否ヲ視察スヘシ

第九十八條 看守長ノ立會ヲ受ケ送致物又ハ差入物ヲ檢査スヘシ但シ飲食物ニ對シテハ尙保健技師若ハ保健技手ノ立會アルヲ要ス

第九十九條 上官ノ立會ヲ受ケ飲食物ノ配與及貸與品、給與品、送致物、差入物等ノ授受ヲ爲スヘシ

第百條 在監者ノ衣類、臥具及雜具ニ注意シ汚染又ハ破損ヲ認メタルトキハ上官ニ申告シ其ノ指揮ヲ承ケ交換、補綴、滌濯若ハ消毒ノ手續ヲ爲スヘシ

第百一條 在監者ノ頭髮、鬚髯ノ剪剃又ハ梳理、剪爪、入浴、運動其ノ他個人衞生ニ關シ注意スヘシ但シ男子ニ付テハ看守、婦女ニ付テハ女監取締之ヲ爲スヘシ

第百二條 病者ノ診斷、治療ニ立會ヒ其ノ擧動ヲ注視スヘシ

第百三條 在監中精神病又ハ傳染病若ハ懷胎ノ疑アル者アルトキ、急發病者又ハ危篤ニ陷リタル者アルトキ若ハ分娩シタル者アルトキハ直ニ上官ニ申告スヘシ

第百四條 上官ノ指揮ヲ承ケ傳染病ノ豫防消毒及傳染病者ノ取扱ニ從事スヘシ

第百五條 在監者ノ接見ニ際シテハ其ノ擧動及談話ノ趣旨ニ注意スヘシ

行刑上其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ其ノ要旨ヲ立會看守長ニ申告スヘシ

第百六條 文字ヲ知ラサル在監者ノ求ニ因リ信書其ノ他書類ヲ代書シ又ハ之ヲ讀聞カスヘシ

第百七條 在監者ヨリ領置金品ノ交付、物品ノ購入賣却、發信其ノ他ニ付願出タルトキハ直ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第百八條 在監者ノ私ニ所持スル物ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ取上ケ其ノ事實ヲ具シテ刑務所長ニ報告スヘシ藏匿物ニ付亦同シ

第百九條 在監者左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲アルトキハ其ノ事實ヲ具シテ刑務所長ニ報告スヘシ

一 在監者ノ逃走セムトスルコトヲ密告シタルトキ

二 人命ヲ救護シ又ハ在監者ニシテ逃走セムトスルモノヲ捕拿シタルトキ

三 天災事變又ハ傳染病流行ノ際刑務所ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

四 其ノ他ノ善行アリタルトキ

第百十條 在監者中紀律ニ違ヒタルモノアルトキハ直ニ其ノ事實ヲ具シテ刑務所長ニ報告スヘシ

他ノ刑務所ニ護送中前項ノ行爲アルトキハ其ノ刑務官吏ニ之ヲ通告スヘシ

第百十一條 懲罰執行中ニ在ル者ハ嚴重ニ之ヲ觀察シ時時其ノ狀況ヲ上官ニ申告スヘシ

第百十二條 看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ笞刑又ハ死刑ノ執行ニ從事スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年十月訓令第百二十三號臺灣總督府看守及監獄醫分掌例及明治三十年五月訓令第五十一號監獄教誨師、授業手、女監取締及押丁分掌例ハ之ヲ廢止ス

【臺報】

●監獄授業手ノ職務ニ關スル件

大正十三年七月十日
臺灣總督府訓令第六十四號

刑務所

授業手ノ職務ニ付テハ明治四十四年訓令第百五十一號奏任及判任待遇監獄職員職務規程第五章ノ規定ヲ準用ス

明治四十四年訓令第百五十二號監獄授業手及押丁職務規程ハ之ヲ廢止ス

●押丁職務規程

大正十三年七月十日
臺灣總督府訓令第六十五號

刑務所

押丁職務規程左ノ通相定ム

【臺報】

押丁職務規程

第一條 押丁ハ看守ノ助手ト爲リ戒護ノ補助ヲ爲シ其ノ他上官ノ指揮ヲ承ケ行刑ニ關スル雜務ニ從事ス

第二條 看守ノ助手ト爲リ新ニ入監スル者ノ身體、衣類及携帶品ヲ檢査スヘシ在監中ノ者ニ付亦同シ

第三條 看守ノ助手ト爲リ監房ノ檢査ヲ爲スヘシ

第四條 上官ノ指揮ヲ承ケ在監者ノ糧食ノ配與及被服臥具其ノ他ノ給與品、貸與品並差入物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第五條 上官ノ指揮ヲ承ケ死刑ノ執行又ハ死者ノ取片付ヲ爲スヘシ

第六條 行刑區域內ニ在ル物品ヲ毀損、紛亂セサル樣注意スヘシ

第七條 在監者ノ頭髮、身體、衣類等ニ注意シ汚損セシモノアルトキハ直ニ上官ニ申報スヘシ

第八條 天災事變ノ際又ハ非常召集ノ命ヲ承ケタルトキハ直ニ昇廳シ上官ノ指揮ヲ承クヘシ

第九條 在監者紀律ニ違ヒタル者アルトキハ直ニ其ノ事實ヲ上官ニ申報スヘシ

第十條 在監者ノ私ニ所持スル物ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ取上ケ其ノ事實ヲ上官ニ申報スヘシ藏匿物ニ付亦同シ

第十一條 在監者ノ逃走、暴行、脅迫、陰謀、變死、創傷、火災、建物ノ破壞其ノ他拘禁ニ關スル異狀ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ上官ニ申報スヘシ在監者ヨリ密告ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ事態急ヲ要スルトキハ非常合圖ヲ爲スヘシ

第十二條 在監者ノ行狀ニ付認知シタルモノアルトキハ之ヲ上官ニ申報スヘシ

●檢疫員及檢疫醫員ノ服務、任免、俸給其ノ他ノ給與及休職ニ關スル件

大正十三年十二月二十五日
臺灣總督府令第九十三號

檢疫員及檢疫醫員ノ服務、任免、俸給其ノ他ノ給與及休職ニ關シテハ臺灣地方待遇職員令ヲ準用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府殖産局附屬水産試驗船職務規程

明治四十三年九月
臺灣總督府訓令第百八十七號　臺灣總督府（官房ヲ除ク）

改正　大正八年訓令第一六九號、第一八四號、九年第一八號、一〇年第七六號、一一年第七九號

臺灣總督府殖産局附屬水産試驗船職務規程左ノ通相定ム

臺灣總督府殖産局附屬水産試驗船職務規程

第一條 臺灣總督府殖産局附屬水産試驗船ハ基隆港ヲ船籍港トス

第二條 水産試驗船ハ水産ニ關スル調査及試驗ノ任務ニ服ス

第三條 各船ニ左ノ職員ヲ置キ殖産局員ヲ以テ之ニ充ツ但シ殖産局長ニ於テ必要ナシト認メタル職員ハ之ヲ置カサルコトヲ得

【臺灣】

監督		
上級船員		
一	船長	一名
二	運轉士	一名
三	機關士	一名
四	事務員	一名
下級船員		
一	水夫長	一名
二	火夫長	一名
三	水夫	若干名
四	火夫	若干名
五	油差	若干名
漁撈員		
一	漁撈長	一名
二	漁夫長	一名
三	漁夫	若干名

第四條 漁撈長ハ監督ヲ以テ之ニ充ツ

監督ハ技師、技手又ハ囑託、上級船員ハ囑託又ハ雇員、下級船員ハ傭員、漁撈員ハ雇員又ハ傭員ノ中ヨリ之ヲ命ス但シ水夫長及火夫長ハ雇員ヨリ之ヲ命スルコトヲ得

第五條 監督ハ水産試驗船ノ事務ヲ總理ス

船長ハ水産試驗船ノ運航ニ關スル事項ヲ掌理シ監督事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

運轉士ハ船長ノ命ヲ承ケ運航ニ關スル事務ヲ補佐シ船長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

機關士ハ船長ノ命ヲ承ケ機關部ノ事務ニ從事ス

事務員ハ監督ノ命ヲ承ケ事務部ノ事務ニ從事ス

水夫長、火夫長ハ上級船員ノ指揮ヲ承ケ其ノ役務ニ服ス

水夫ハ上級船員及水夫長ノ命ヲ承ケ其ノ役務ニ服ス

火夫及油差ハ上級船員及火夫長ノ命ヲ承ケ其ノ役務ニ服ス

漁撈長ハ漁撈部ノ事務ニ從事ス但シ事務員ヲ置カサルトキ又ハ事務員事故アルトキハ其ノ事務ヲ掌理ス

漁夫長ハ漁撈長ノ指揮ヲ承ケ漁撈ノ役務ニ服ス

漁夫ハ漁撈長及漁夫長ノ命ヲ承ケ漁撈ノ役務ニ服ス

第六條 水産試驗船事務ノ分掌ヲ左ノ通區分ス

甲板部
一 船舶ノ操縱ニ關スルコト
二 船體ニ關スルコト
三 甲板部ノ屬具及需用品ノ整理ニ關スルコト、
四 旗章及信號ニ關スルコト
五 航海日誌ニ關スルコト

機關部
一 機關ノ運轉ニ關スルコト
二 機關ノ整頓保存ニ關スルコト
三 機關部ノ屬具及需用品ノ整理ニ關スルコト
四 機關日誌ニ關スルコト

漁撈部
一 漁業調査及試驗ニ關スルコト
二 漁具ノ操縱ニ關スルコト
三 漁具ノ保存整頓ニ關スルコト
四 漁撈部ノ屬具及需用品ノ整理ニ關スルコト
五 漁業日誌ニ關スルコト

事務部
一 職員ノ身分ニ關スルコト
二 書類ノ發受、整理及報告ニ關スルコト
三 會計事務ニ關スルコト
四 他部ニ屬セサル事項

第七條 水産試驗船職員勤務法及處務細則ハ殖産局長之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【臺灣】

第三節 賞罰

●臺灣總督府稅關監吏ノ賞罰ニ關スル件

明治三十三年一月二十五日
勅令第十二號

朕臺灣總督府稅關監吏ノ賞罰ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府稅關監吏ノ賞罰ハ稅關監吏賞罰規則ニ依ル但シ大藏大臣ニ屬スル職務ハ臺灣總督之ヲ行フ

【稅關】

●稅關監吏賞罰規則

明治二十三年十月九日
勅令第二百十八號

改正 明治三二年勅令第一六六號

朕稅關監吏賞罰規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

稅關監吏賞罰規則

第一條 監吏其職務上勤勞アル者ハ事ノ大小難易ニ由リ毎事五圓以下ノ賞ヲ與フ

第二條 監吏其職務上怠慢過失アル者ハ情狀ニ由リ左ノ懲罰ニ處ス

第一 譴責

第二 罰俸

第三 免職

第三條 罰俸ハ月俸額百分ノ一以上一箇月以下トス

第四條 罰俸ハ毎月俸給ヲ以テ納付セシム但月俸額三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 罰俸ニ處セラレタル者罰俸完納前退官免職又ハ死去スルトキハ之ヲ追徵セス

第六條 大藏大臣ハ本規則ノ執行ヲ稅關長ニ委任スルコトヲ得

●稅關監吏補賞罰方

明治三十三年六月
臺灣總督府訓令第百八十五號

【臺轄】

改正 昭和三年訓令第四一號

稅關監吏補ノ賞罰ハ臺灣總督府稅關監吏ノ賞罰ニ準シ稅關長之ヲ執行スヘシ但賞給額ハ臺灣總督府稅關監吏賞給額ノ半額トス

【鐵道部】

●臺灣總督府【鐵道部】職員表彰規程

大正十年六月五日
臺灣總督府訓令第百五號

臺灣總督府【鐵道部】職員表彰規程左ノ通相定ム

臺灣總督府【鐵道部】職員表彰規程

第一條 臺灣總督府【鐵道部】職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ彰狀ト共ニ效績章ヲ授與シ之ヲ表彰ス

一 滿二十年以上勤續シ成績操行共ニ拔群ニシテ一般職員ノ模範タルヘキ者

二 職務執行上特ニ一般ノ儀表トシテ推奬スヘキ所爲アリタル者

三 事業上顯著ナル改良若ハ有益ナル發明ヲ爲シ又ハ事故防止、災害豫防其ノ他業務ニ關シ特殊ノ功勞アリタル者

第二條 彰狀及效績章ヲ授與セラレタル者更ニ前條各號ノ一ニ依リ表彰スヘキ效績アリタルトキハ彰狀ノミヲ加授ス

第三條 效績章ノ佩用方ニ關シテハ【鐵道部長】之ヲ定ム

第四條 彰狀及效績章ヲ授與セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ返納セシム

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 懲戒處分ニ依リ免官又ハ退職セラレタルトキ

【臺轄】

第五條 彰狀及效績章ヲ授與セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ情狀ニ依リ之ヲ返納セシメ又ハ效績章ノ佩用ヲ停止スルコトアルヘシ

一 罰金以下ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 免官又ハ免職以外ノ懲戒處分ヲ受ケタルトキ

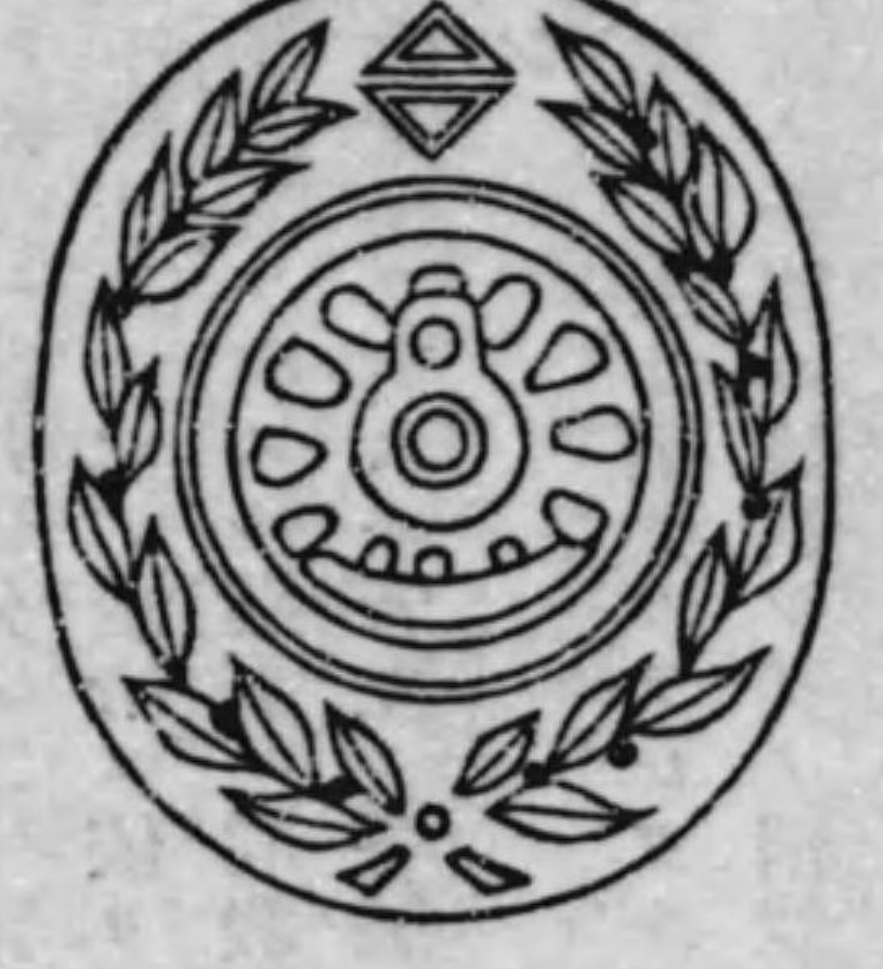
三 品行又ハ勤務上ニ關シ不都合ノ行爲アリタルトキ

前項ニ依リ效績章ノ佩用ヲ停止セラレタル者相當期間內ニ改悛ノ狀顯著ナリト認メタルトキハ其ノ停止ヲ解キ改悛ノ狀ナシト認メタルトキハ彰狀及效績章ヲ返納セシム

第六條 彰狀及效績章授與及返納竝效績章ノ佩用停止及其ノ解除ハ判任官以下ニ就テハ【鐵道部長】高等官ニ就テハ臺灣總督之ヲ決定ス

第七條 效績章圖式左ノ如シ

表

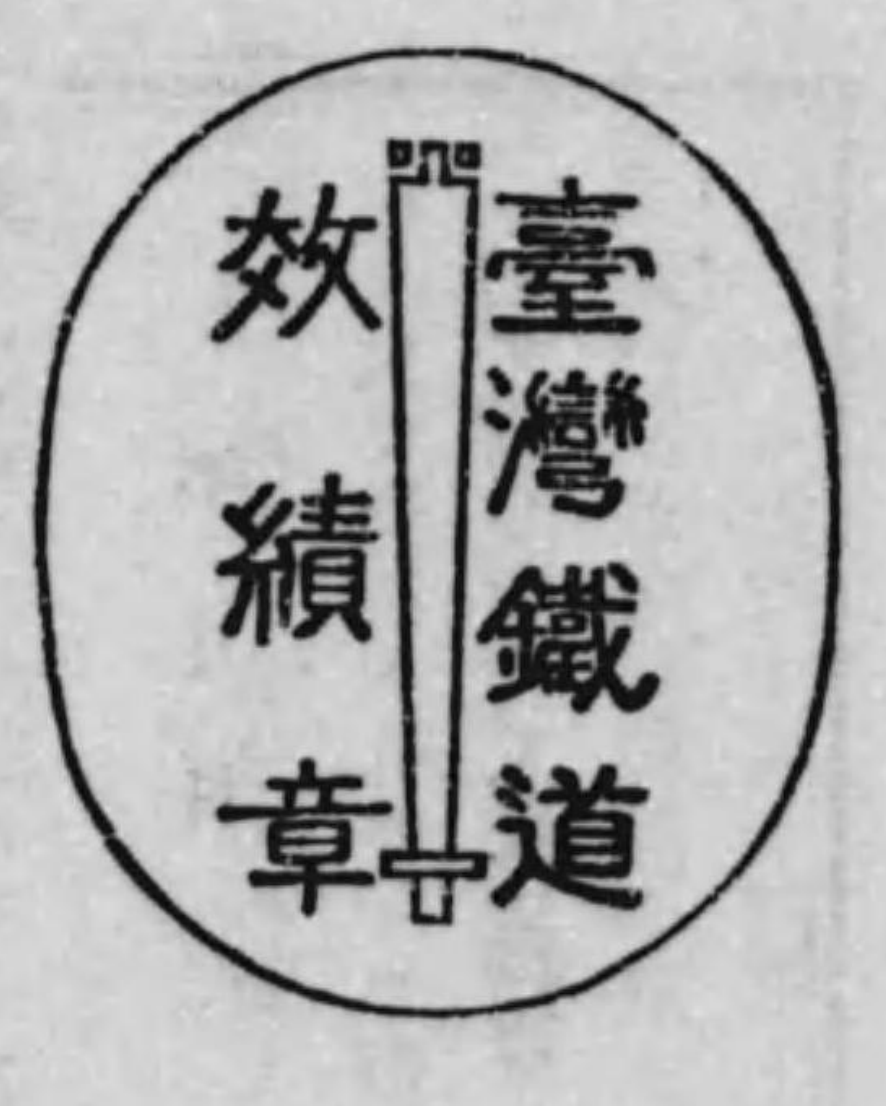


寸法 縱一寸一分 横九分

基材 銀

徑六分ノ金色機關車動輪ヲ銀燻製月桂樹葉ニテ抱キ其ノ上部ニ徑二分ノ金色臺字章ヲ附ス

裏



附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

州廳

●州廳巡査精勤證書授與規程

大正九年十月三十一日
臺灣總督府訓令第二百六十號

州廳巡査精勤證書授與規程左ノ通相定ム

州廳巡査精勤證書授與規程

第一條 精勤證書ハ巡査ノ精勤ヲ證シ其ノ名譽ヲ表彰スルモノトス

第二條 精勤證書ハ滿三年間勤續シ品行方正、勤務勉勵、事務及語學熟達ノ者ニ對シ知事又ハ廳長之ヲ授與ス

第三條 知事又ハ廳長ハ滿三年以上勤續巡査ノ素行及勤務成績ニ付毎年一回以上審査ヲ行フヘシ

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得ス

但シ懲罰又ハ處分ヲ受ケタル後三年以上ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　懲戒規程ニ依リ月俸一箇月百分ノ二十以上ノ減俸ニ處セラレタル者又ハ減俸一箇月百分ノ二十未滿ト雖一年內二回以上ニ及フ者

二　奉職中刑法其ノ他ノ法令ニ依リ處刑セラレタル者

第五條　精勤證書ヲ有スル巡査ハ同級巡査ノ上班トス

第六條　精勤證書ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ證書ヲ褫奪スヘシ

一　懲戒規程ニ依リ免職セラレタル者

二　第四條ノ各號ニ該當シ其ノ情狀重キ者

第七條　知事又ハ廳長ハ毎年一回以上精勤證書ヲ有スル者ノ素行及勤務成績ニ付審査ヲ行ヒ必要ト認ムルトキハ精勤證書ヲ褫奪スルコトヲ得

前項ニ依リ精勤證書ヲ褫奪シタル者ニハ爾後一年以上ヲ經過スルニ非サレハ再ヒ授與スルコトヲ得ス

第八條　巡査ニシテ他ノ州廳ニ轉勤シタル場合ハ本令ニ依ル期間ノ進行ハ繼續スルモノトシ前ノ州廳ニ於テ授與シタル精勤證書ハ尙其ノ效力ヲ有スルモノトス

第九條　精勤證書ハ別記雛形ニ依リ調製スヘシ

第十條　本令施行ノ爲必要ナル規定ハ知事又ハ廳長之ヲ定ム

附　則

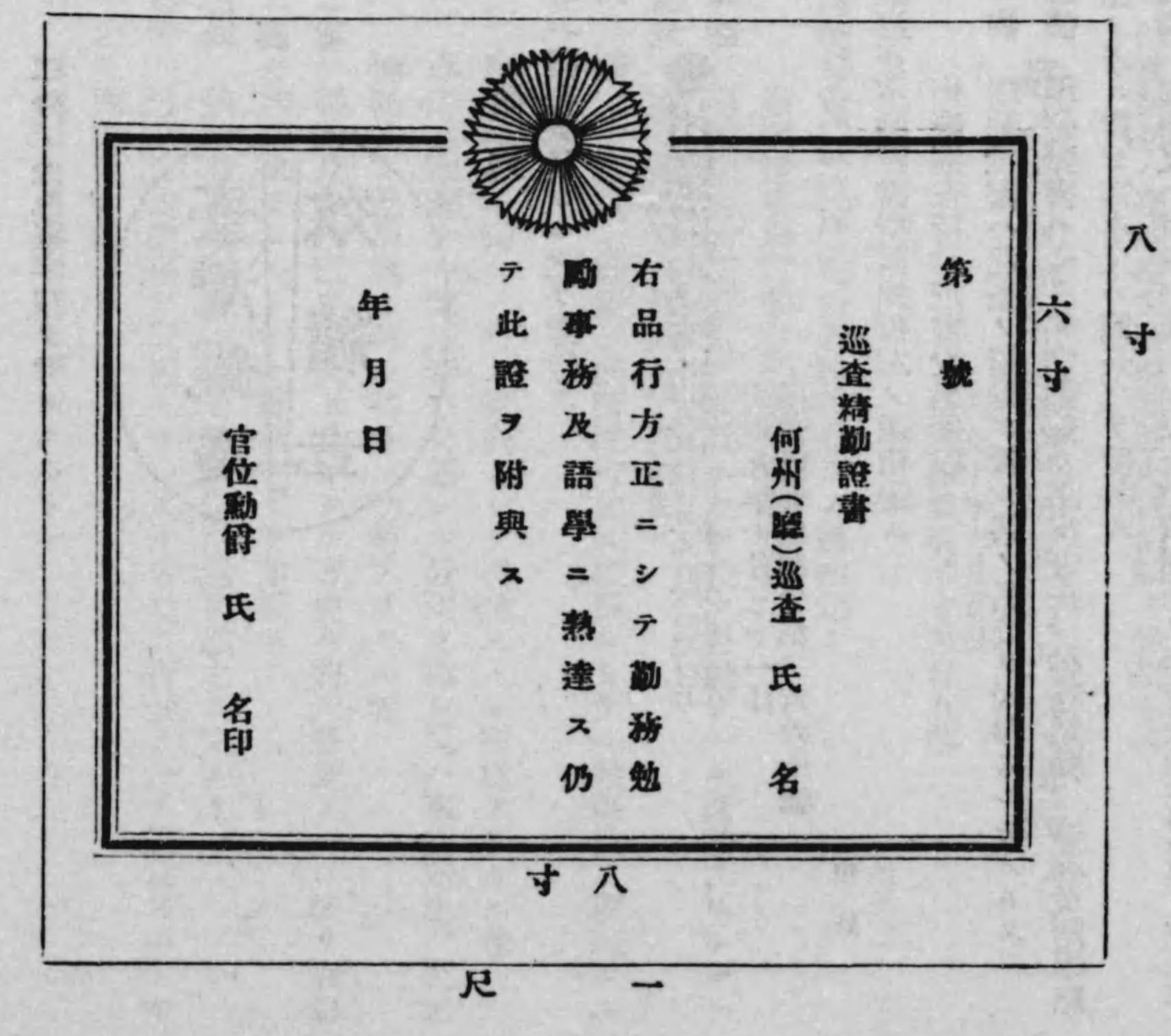
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ現ニ精勤證書ヲ有スル者（巡査補トシテ精勤證書ヲ授與セラレタル者ヲ含ム）ハ本令ニ依リ授與セラレタルモノト看做ス

【臺灣】

明治三十五年四月訓令第百十號中巡査巡査補ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

（別記）　用紙鳥ノ子



第　號

巡査精勤證書

何州（廳）巡査　氏　名

右品行方正ニシテ勤務勉勵事務及語學ニ熟達ス仍テ此證ヲ附與ス

年　月　日

官位勳爵　氏　名印

●臺灣總督府刑務所看守及女監取締精勤證書授與規程

大正十一年四月十三日
臺灣總督府訓令第八十一號

改正　大正一二年府令第八七號

刑務所

臺灣總督府刑務所看守及女監取締精勤證書授與規程左ノ通相定ム

臺灣總督府刑務所看守及女監取締精勤證書授與規程

第一條　精勤證書ハ看守、女監取締ノ精勤ヲ證シ其ノ名譽ヲ表彰スルモノトス

第二條　精勤證書ハ二年以上勤續シ行狀方正、勤務勉勵、事務熟達ノ者ニ對シ刑務所長之ヲ授與ス

第三條　刑務所長ハ精勤證書ヲ授與スヘキ者ノ有無ヲ毎年一回以上審査スヘシ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ懲戒又ハ處刑ヲ受ケタル後二年以上經過スルニ非サレハ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得ス

一　月俸百分ノ二十以上ノ減俸又ハ一年內二回以上月俸百分ノ二十未滿ノ減俸若ハ譴責ニ處セラレタル者

二　刑法其ノ他ノ法令ニ依リ處刑セラレタル者

一月百分ノ二十未滿ノ減俸ト雖數月ニ亙リ其ノ總額カ月俸ノ百分ノ二十ヲ超ユルトキハ前項第一號ノ適用ニ付之ヲ月俸百分ノ二十以上ノ減俸ト看做ス

第五條　精勤證書ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ證書ヲ褫奪スヘシ

一　前條各號ノ一ニ該當シ其ノ情重キ者

二　證書授與後行狀及勤務成績不良ト爲リタル者

前項第二號ニ依リ精勤證書ヲ褫奪シタル者ニハ爾後一年以上經過スルニ非サレハ再ヒ之ヲ授與スルコトヲ得ス

第六條　精勤證書ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ證書ヲ無效トス

一　懲戒ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者

二　退職後禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第七條　精勤證書ヲ有スル者ハ同級看守、女監取締ノ上班トス

第八條　精勤證書ハ別記雛形ニ依リ調製スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

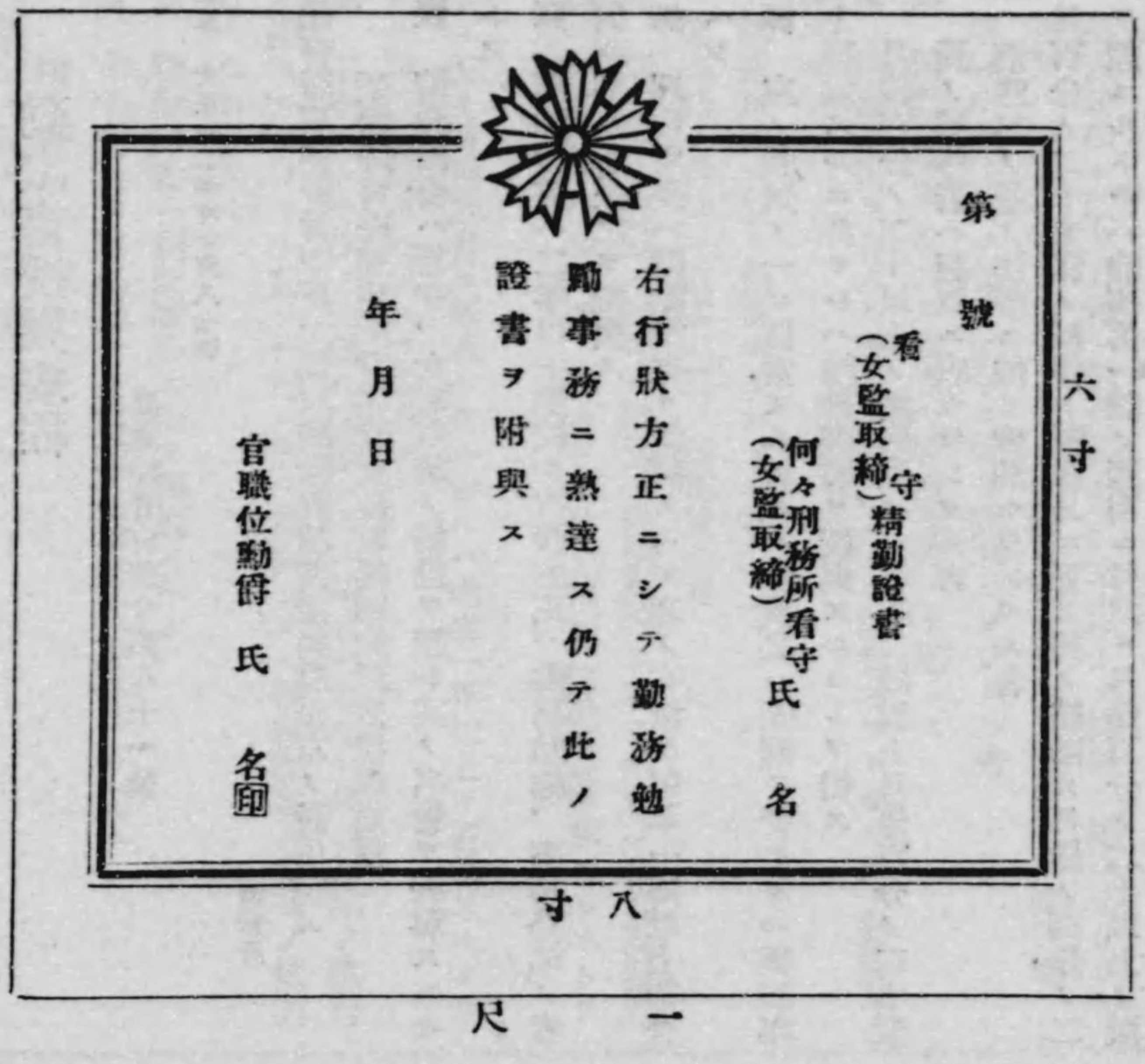
從前ノ規定ニ依リ現ニ精勤證書ヲ有スル者ハ本令ニ依リ授與セラレタルモノト看做ス

明治三十五年訓令第百十號ハ之ヲ廢止ス

【臺灣】

（別記） 用紙鳥ノ子

八寸



六寸

第　　號

看守（女監取締）精勤證書

何々刑務所看守（女監取締） 氏　　名

右行狀方正ニシテ勤務勉
勵事務ニ熟達ス仍テ此ノ
證書ヲ附與ス

年　月　日

官職位勳爵　氏　　名印

八寸

一尺

●臺灣總督府監獄職員賞與及表彰規程

大正十一年六月七日
臺灣總督府訓令第百十八號

臺灣總督府監獄職員賞與及表彰規程左ノ通相定ム

臺灣總督府監獄職員賞與及表彰規程

第一條 臺灣總督府監獄職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ賞狀ヲ授與ス

一 自己ノ監守ニ非サル在監人ノ逃走スルヲ捕獲シ其ノ功勞著シキ者

二 在監人ノ反獄ヲ鎭制シ其ノ功勞著シキ者

三 自己ノ危難ヲ顧ミス在監人ノ生命ヲ救助シタル者

四 監獄內ノ水火災其ノ他ノ事變又ハ惡疫流行ノ際防禦救濟ヲ爲シ其ノ功勞著シキ者

賞狀ヲ授與スヘキ者ニハ其ノ功績ノ程度ニ應シ賞狀ト共ニ金百圓以內ヲ授與スルコトヲ得

第二條 監獄職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ功勞章狀ト共ニ功勞章ヲ授與シ之ヲ表彰ス

一 前條各號ノ一ニ該當スル者ノ中其ノ功勞特ニ拔群ニシテ一般ノ龜鑑ト爲ルヘキ者

二 本島ニ於テ二十年以上勤續シ操行成績共ニ拔群ニシテ一般ノ龜鑑ト爲ルヘキ者

前項第二號ノ勤續期間ノ計算ニ付テハ監獄職員相互間ノ轉官轉職ハ前後之ヲ通算ス

第三條 功勞章ハ制服（制服ナキ者ニ在リテハ之ニ準スヘキ衣服）ノ上衣右胸部乳下ニ之ヲ佩用ス

第四條 功勞章ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ褫奪シ又ハ其ノ佩用ヲ停止スルコトアルヘシ

一 罰金以下ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 免官又ハ免職以外ノ懲戒ニ處セラレタルトキ

三 操行又ハ成績ノ佳良ナラサルニ至リタルトキ

佩用ヲ停止セラレタル者一年以上ヲ經過シ改悛ノ狀顯著ナルトキハ其ノ停止ヲ解除スルコトヲ得

第五條 功勞章ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ功勞章狀ト共ニ之ヲ褫奪ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 懲戒ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

三 佩用ヲ停止セラレタル後三年以上ヲ經過シ改悛ノ狀顯レサルトキ

第六條 第一條ノ賞與ハ判任官以下ニ在リテハ所屬監獄長、奏任官及奏任官待遇ノ者ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ

功勞章及功勞章狀ノ授與、褫奪、佩用停止又ハ其ノ解除ハ臺灣總督之ヲ行フ

第七條 賞狀及功勞章狀ノ書式、功勞章ノ圖式ハ別記ニ依ル

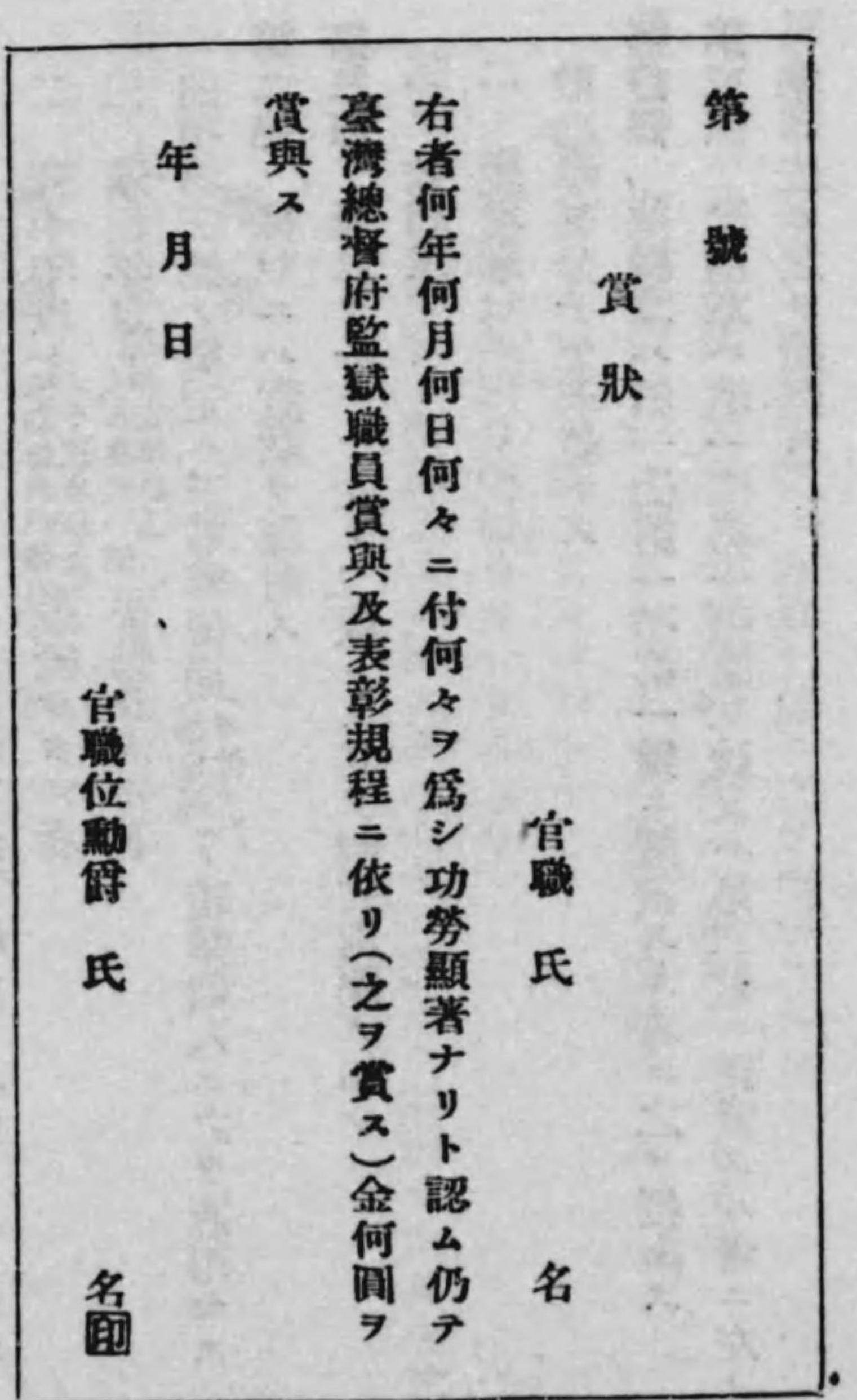
附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年訓令第四十二號ハ之ヲ廢止ス

（別記）

（賞狀書式） 用紙鳥ノ子



第　　號

賞　狀

官職　氏　　名

右者何年何月何日何々ニ付何々ヲ爲シ功勞顯著ナリト認ム仍テ
臺灣總督府監獄職員賞與及表彰規程ニ依リ（之ヲ賞ス）金何圓ヲ
賞與ス

年　月　日

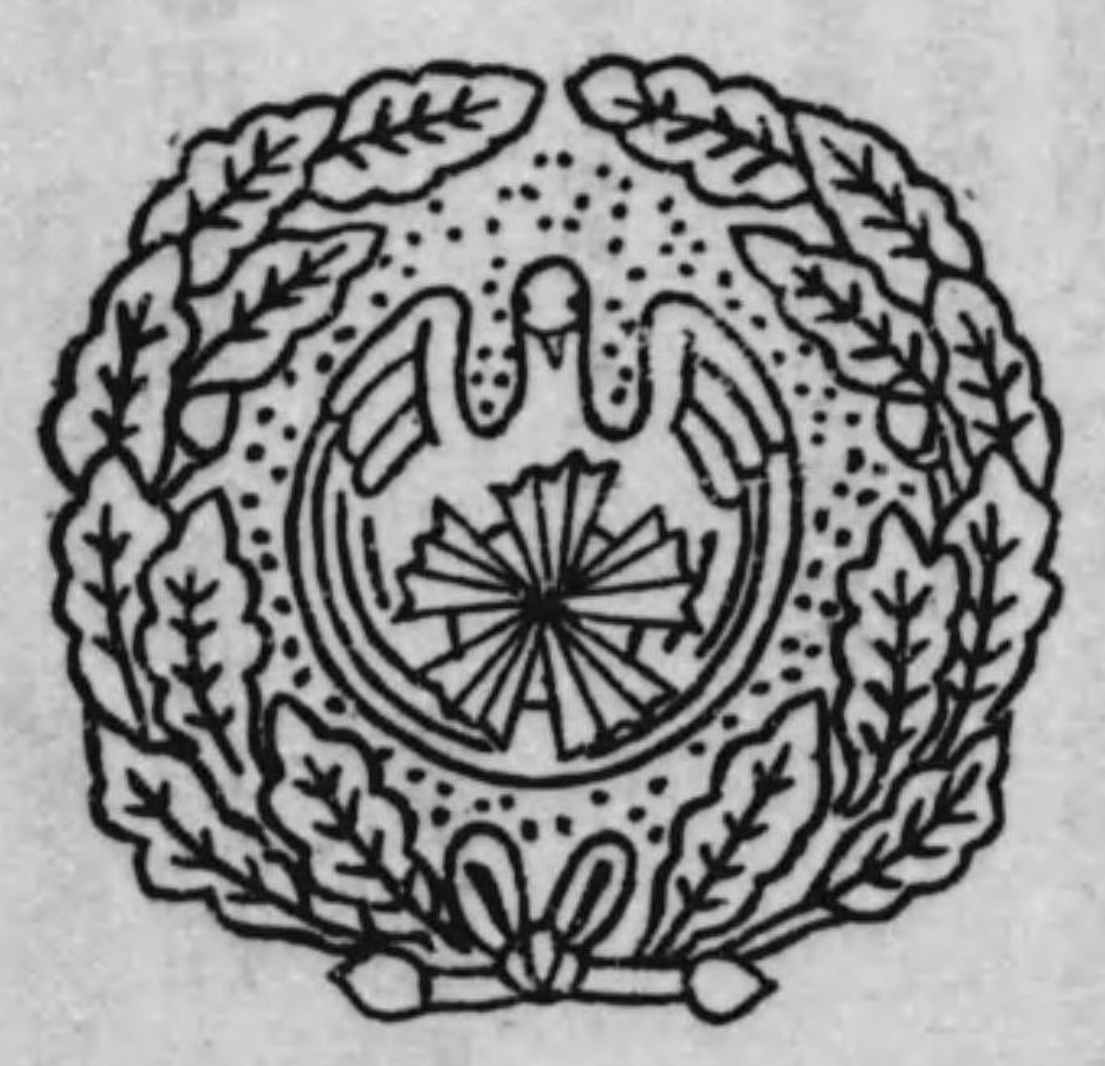
官職位勳爵　氏　　名印

寸法　縱八寸　橫一尺

適宜ノ輪廓ヲ附ス

（功勞章圖式）

表

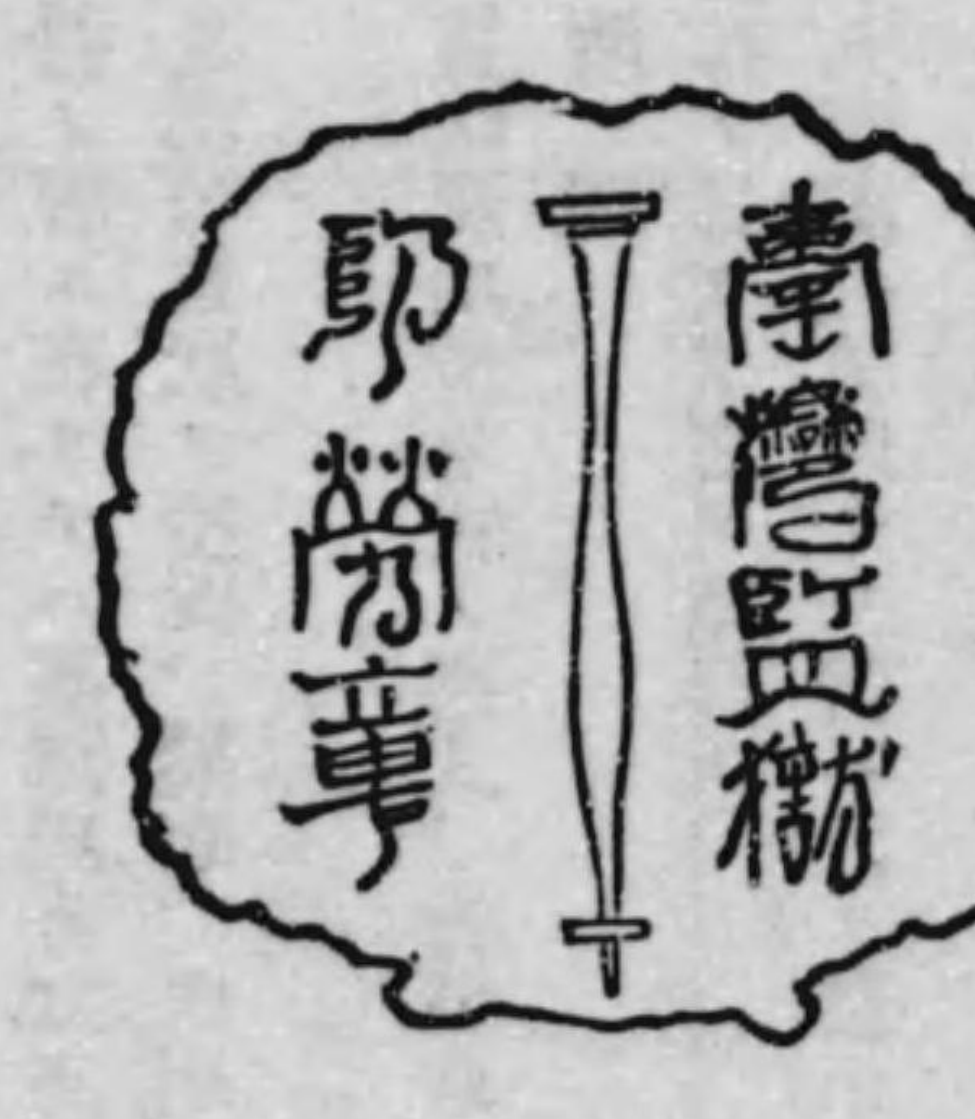


寸法　縱一寸四分
　　　橫一寸五分

基材　銀

表　徑七分ノ銀色鳩ヲ銀燻製樫ノ葉（實ハ銀色）ニテ抱キ鳩ノ中ニ徑五分ノ金色日章ヲ附ス
　　地ハ銀燻製「タタキ」トス

表



裏 銀色

（功勞章狀書式） 用紙鳥ノ子

第　　號

功勞章狀

官職　氏　　名

右者何年何月何日何々ニ付何々ヲ爲シ其ノ功勞特ニ拔群ニシテ（二十年以上勤續シ操行成績拔群ニシテ）一般ノ龜鑑ト爲ルヘキ者ト認ム仍テ臺灣總督府監獄職員賞與及表彰規程ニ依リ功勞章ヲ授與シ其ノ名譽ヲ表彰ス

年　月　日

官職位勳爵　氏　　名㊞

寸法　縱九寸　橫一尺三寸

適宜ノ輪廓ヲ附ス

【參照】

●現業傭人選獎規程

大正六年三月二十七日
臺灣總督府訓令第三十五號

【民政部】各郵便局　交通局

改正　昭和二年訓令第一一號

現業傭人選獎規程左ノ通相定ム

現業傭人選獎規程

第一條 現業傭人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且品行方正恪勤精勵ニシテ一般ノ儀表ト爲スニ足ル者ニハ本令ニ依リ徽章ヲ授與シテ之ヲ選獎ス

一 危害ヲ未發ニ防キ又ハ天災事變ニ際シ特殊ノ功勞アリタル者

二 滿十年以上（本島人ハ滿十三年以上）勤續シタル者

三 滿三年以上（本島人ハ滿五年以上）皆勤シタル者

前項第三號ノ規定ハ三等郵便局（指定局ヲ除ク）ノ現業傭人ニ之ヲ適用セス

第二條 徽章ニハ賞狀ヲ添附ス

第三條 徽章ヲ分チテ左ノ二種トス其ノ制式別圖ノ如シ

一 效績章

一 勤功章

勤功章ヲ分チテ三級トス

第四條 效績章ハ第一條第一項第一號ニ該當スル者ニ之ヲ授與ス

第五條 勤功章ハ第一條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スル者ニ左ノ標準ニ依リ之ヲ授與ス

【參照】

	內地人	本島人
一級	勤續滿二十年以上 皆勤滿八年以上	滿二十三年以上 滿十年以上
二級	勤續滿十五年以上 皆勤滿五年以上	滿十八年以上 滿七年以上
三級	勤續滿十年以上 皆勤滿三年以上	滿十三年以上 滿五年以上

前項ノ勤續又ハ皆勤年數ハ郵便局所相互間ニ繼續採用シタル者ニ在リテハ其ノ年數ヲ通算ス

始メテ勤功章ヲ授與セムトスル場合ニ於テ勤續及皆勤年數カ共ニ第一項ノ標準ニ適合シ其ノ等級同一ナル場合ハ當該勤功章一箇ヲ授與シ其ノ等級異ナル場合ハ上級ノ勤功章一箇ヲ授與ス

勤功章ヲ授與セラレタル者後ニ同級以下ノ勤續又ハ皆勤ヲ爲シタルトキハ賞狀ノミヲ授與シ上級ノ勤功章ヲ授與シタルトキハ下級ノ勤功章ヲ還納セシム

第五條ノ二 效績章及勤功章ニハ左記ノ賞金ヲ添與ス但シ前條第三項又ハ第四項ニ依リ賞狀ノミヲ授與シタル場合ハ該當勤功章ニ相當スル賞金ヲ給與ス

一 效績章	金三十圓以內
二 勤功章	
一級	金十圓
二級	金七圓
三級	金五圓

第六條 徽章及賞狀ハ臺灣總督府交通局總長之ヲ授與ス

第七條 徽章ハ服務中常ニ左胸上部ニ之ヲ佩用スヘシ

徽章ハ遞信部內ニ於ケル儀式典禮ノ際之ヲ佩用スルコトヲ得

第八條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ徽章ヲ還納セシム

一 罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 懲戒處分ニ因リ免職セラレタルトキ

前項ノ外不都合ノ所爲アリト認メタルトキハ徽章ヲ還納セシムルコトアルヘシ

附　則

本令ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二年訓令第十一號）

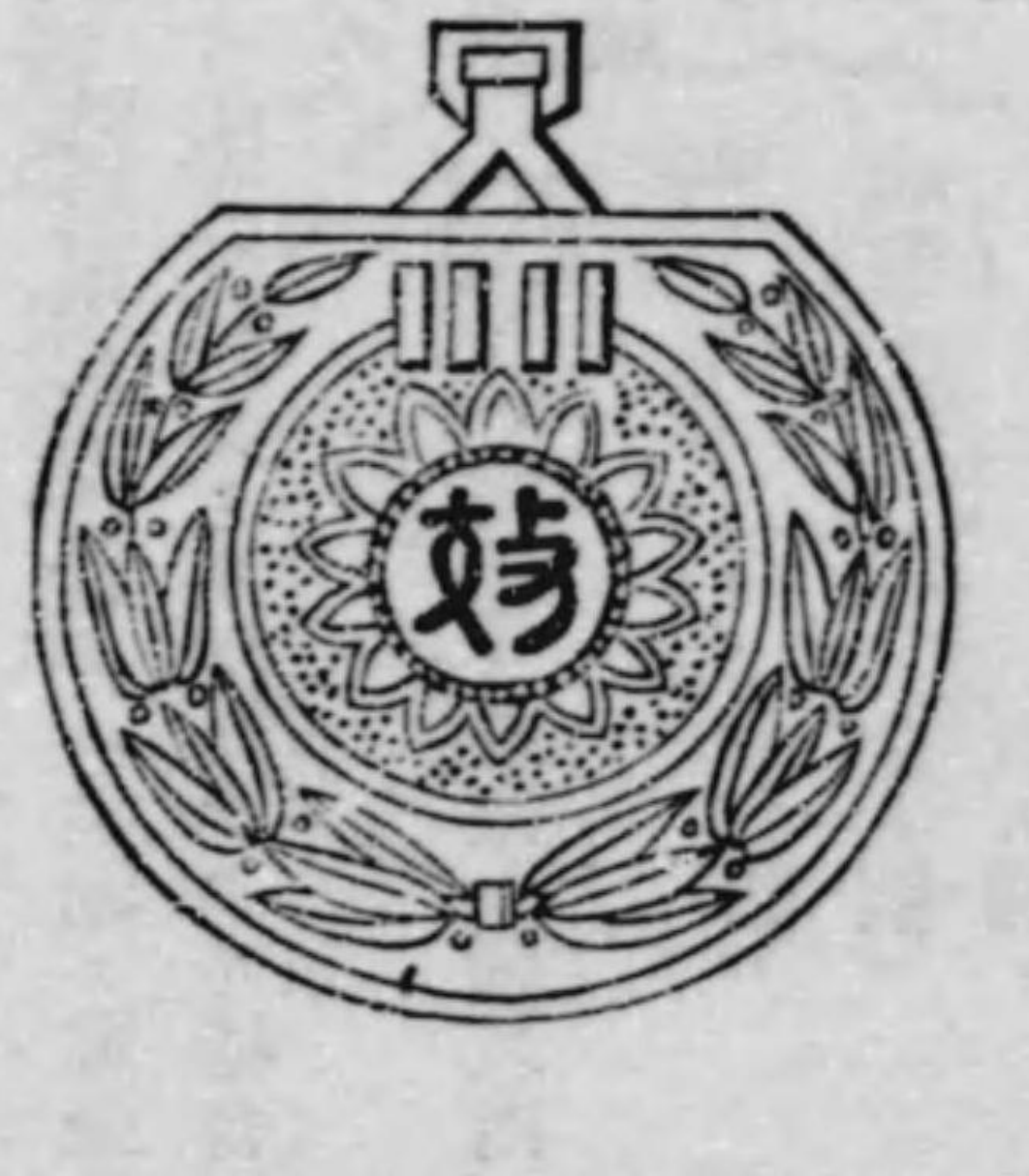
本令施行ノ際現ニ現業傭人ノ職ニ在リ勤功章ヲ有スル者ニハ該勤功章ニ對シ本令ニ依ル相當賞金ヲ給與ス但シ勤續又ハ皆勤ニ依リ各別ニ選獎セラレタル者ニハ各其ノ上級ノ分（皆勤ニシテ二回以上同級ニ選獎セラレタル者ハ最近ニ選獎セラレタルモノニ限ル）ニ對シ之ヲ給與ス

（別圖）

徽章制式

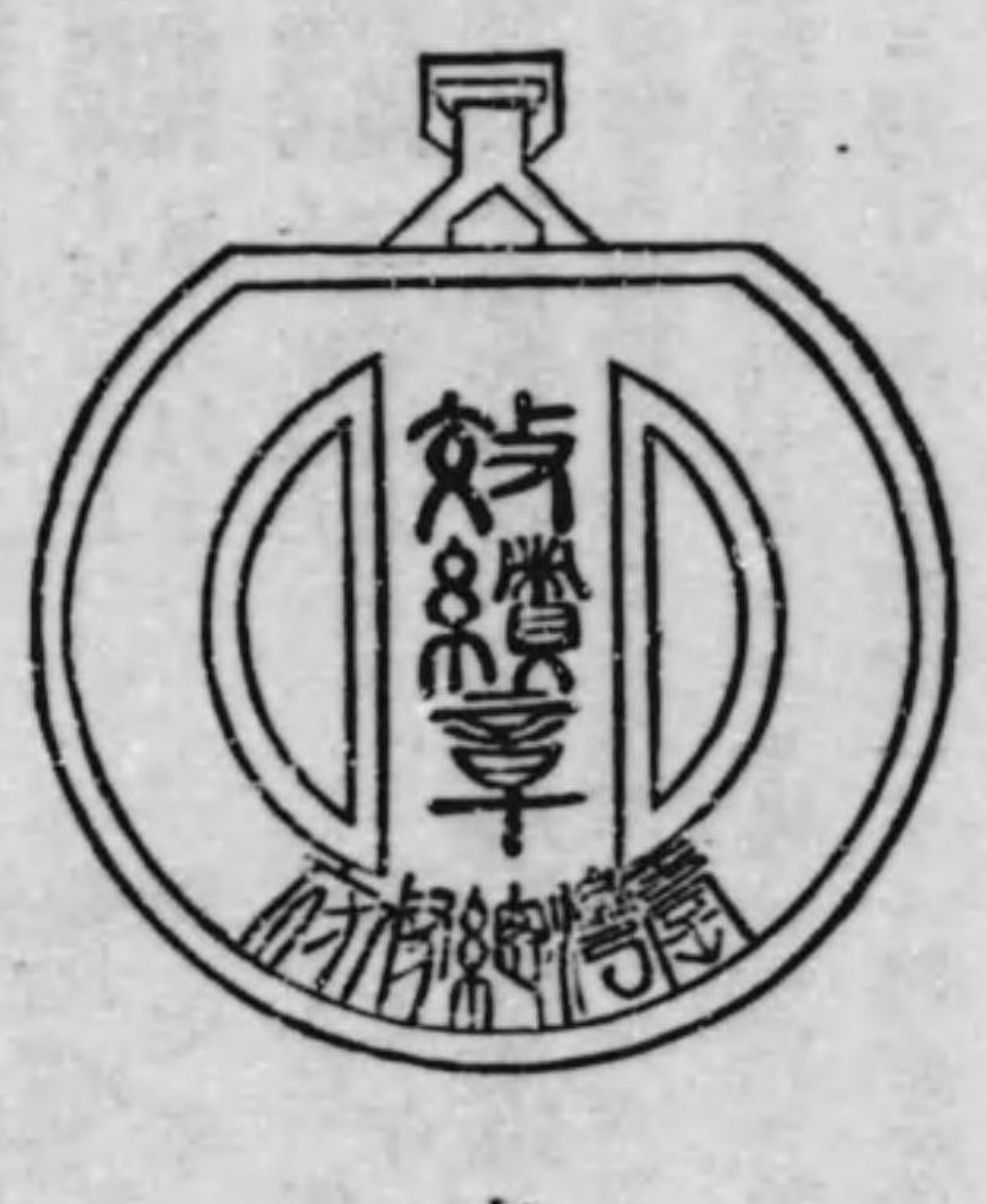
效績章（七寶金屬牌、寸法曲尺直徑一寸）

表面



基材　銀
中央效篆字ハ赤色七寶
向日葵ハ黃色七寶
向日葵ノ周圍ハ「タタキ」
月桂樹ハ綠色七寶其ノ實ハ赤色七寶
月桂樹ハ周圍及「タタキ」ノ部ハ艶消シ銀色
外線丁字竝向日葵ノ中心ハ銀色磨

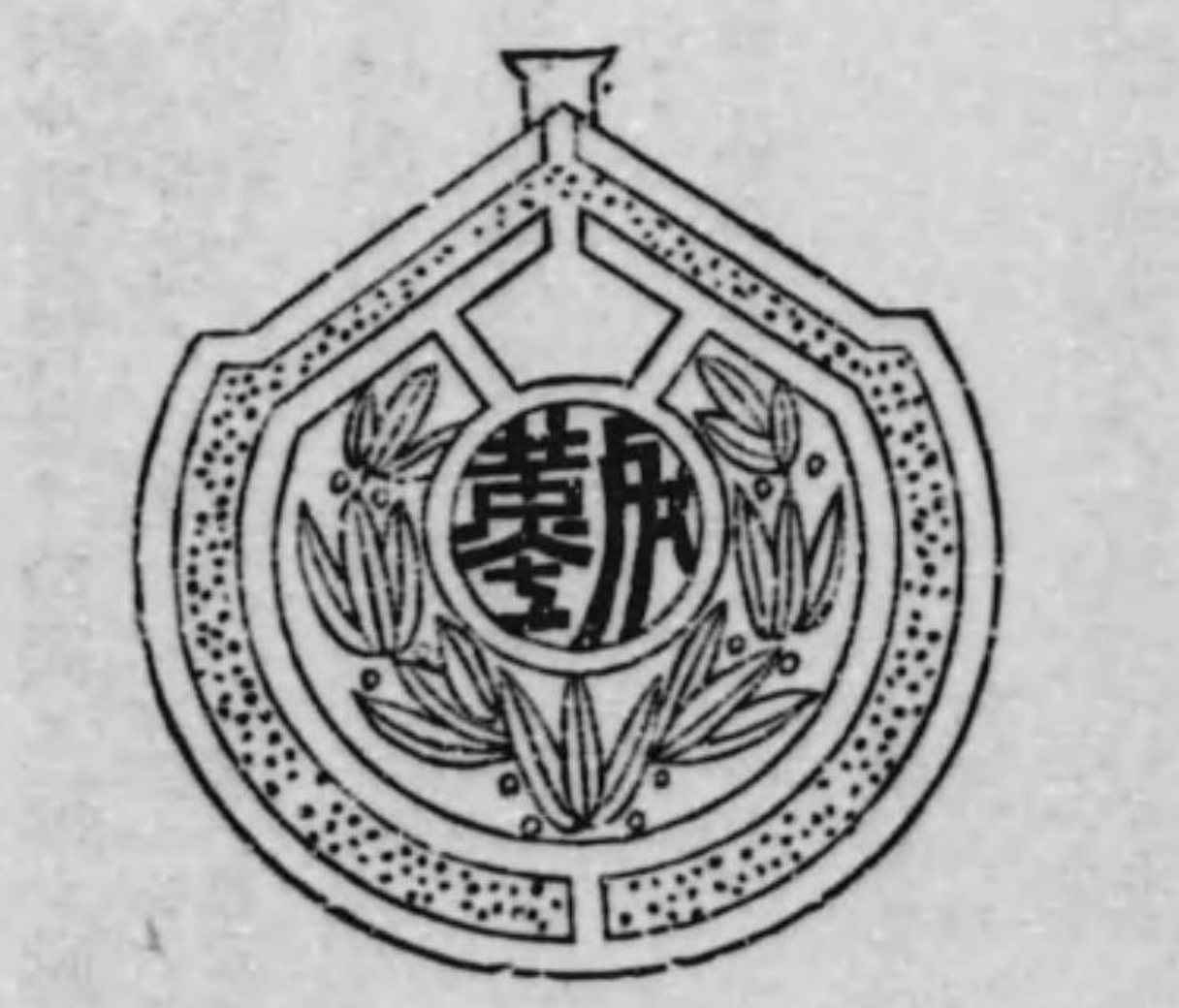
裏面



文字ハ總テ凸形浮出シ

勤功章（七寶入金屬牌、寸法曲尺直徑一寸）

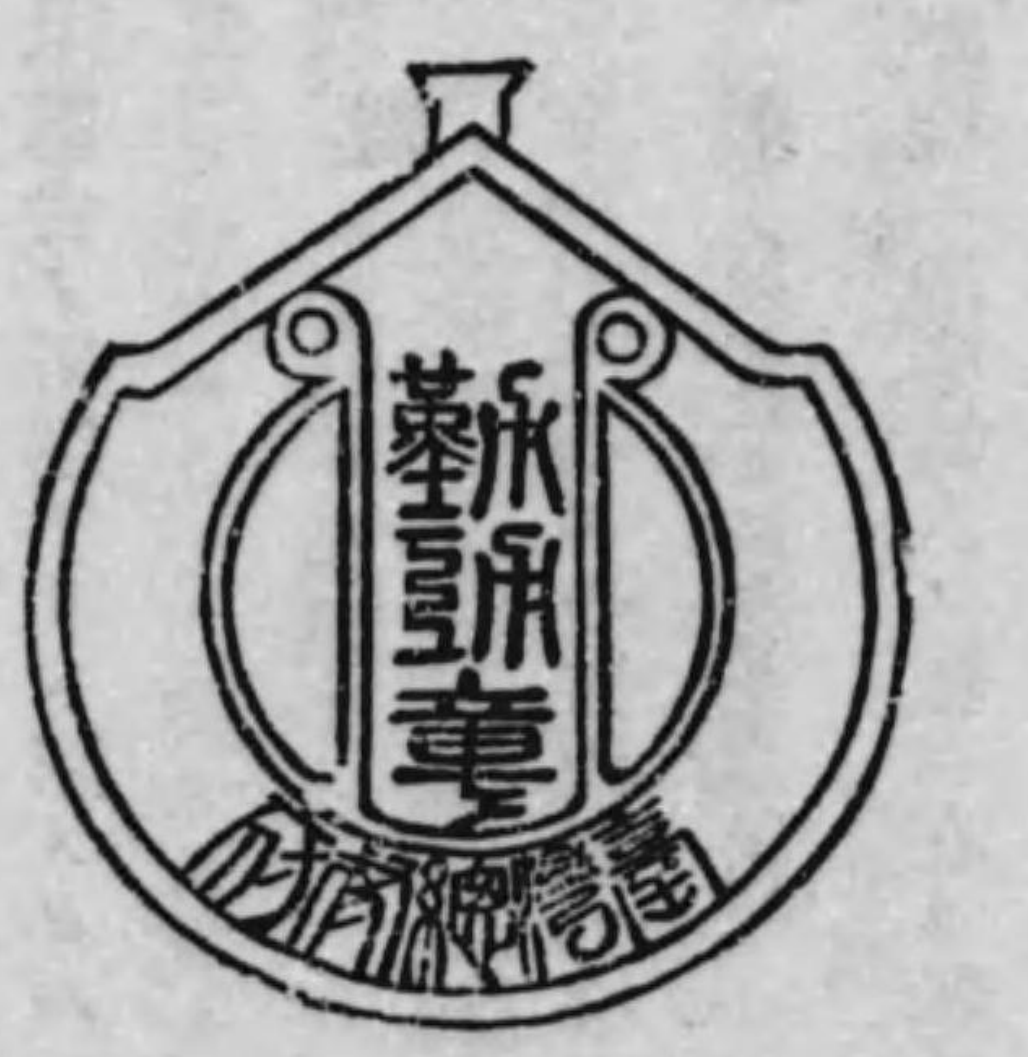
表面



基材		七寶色合	
一級	銀	中央勤字	赤
		月桂樹	綠
二級	白銅	中央勤字	紫
		月桂樹	綠
三級	銅	中央勤字	白
		月桂樹	綠

丁字及夫レニ關連シタル線ハ銀色磨其ノ他ハ「タタキ」及銀色艶消シ

裏面



文字及線ハ凸形浮出シ

●臺灣總督府醫院看護婦精勤證書竝賞狀授與規則

明治四十一年五月
臺灣總督府訓令第八十號
官房【民政部】醫院

臺灣總督府醫院看護婦精勤證書竝賞狀授與規則左ノ通相定ム

臺灣總督府醫院看護婦精勤證書竝賞狀授與規則

第一條 醫院看護婦ニハ此ノ規則ニ依リ名譽ヲ表彰スル爲精勤證書又ハ賞狀ヲ授與ス

第二條 精勤證書ハ二箇年以上臺灣總督府醫院ニ勤續シ品行方正、勤務勉勵、事務熟達ノ者ニ對シ醫院長之ヲ授與ス但シ勤續期間ニハ見習勤務中ノ期間ヲ算入セス

解職後十日以內ニ再勤シタル者ハ勤務醫院ノ異ナル場合ト雖之ヲ勤續ト看做ス

第三條 賞狀ハ精勤證書ヲ受ケタル者引續キ更ニ三箇年以上勤續シ品行方正、勤務勉勵、事務熟達ノ者ニ對シ醫院長ノ具狀ニ依リ臺灣總督之ヲ授與ス

前條第二項ハ前項ノ場合ニモ之ヲ適用ス

第四條 賞狀ヲ有スル者更ニ滿一箇年以上勤續シ退職スルトキハ醫院長ハ其ノ請求ニ因リ成績ヲ證明スル證書ヲ付與ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得ス

一　懲戒處分ヲ受ケ滿二箇年ヲ經過セサル者
二　既往二箇年間ニ十五日以上缺勤シタル者

第六條 醫院長ハ精勤證書ヲ受ケタル者ニハ銀色、賞狀ヲ受ケタル者ニハ金色ノ徽章ヲ付與スヘシ

徽章ハ看護衣ノ左胸部ニ佩用スルモノトス

第七條 精勤證書、賞狀又ハ徽章ヲ亡失毀損シタルトキハ再下付ヲ請求スルコトヲ得但シ徽章ニ限リ相當代價ヲ辨償セシム

第八條 精勤證書又ハ賞狀ヲ有スル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケタルトキハ所屬醫院長ハ精勤證書賞狀及徽章ヲ褫奪スルコトヲ得但シ賞狀ヲ褫奪スルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

亡失ニ係ルモノ後日發見シタルトキハ之ヲ返納セシム

第九條 精勤證書ヲ授與シ若ハ之ヲ褫奪シタルトキハ其ノ都度臺灣總督ニ報告スヘシ

第十條 精勤證書、賞狀ハ別記樣式ニ、徽章ハ別記雛形ニ依ル

別記

（樣式）

（精勤證書用紙鳥ノ子）

第　　號

精勤證書

看護婦　　氏　　名

滿何年間勤續品行方正勤務勉勵事務熟達ノ者ト認ム依テ此ノ證書ヲ授與ス

年　月　日

（何）醫院長位勳功爵學位氏　　名印

曲尺一尺一寸

曲尺九寸

（賞狀用紙鳥ノ子）

第　號

賞狀

臺灣總督府（何）醫院

看護婦　氏　名

滿何年間臺灣總督府醫院ニ勤續精勤證書ヲ有シ品行方正勤務勉勵事務熟達ノ者ニシテ衆ノ模範ト爲スニ足ル依テ此ノ賞狀ヲ授與ス

年　月　日

臺灣總督位勳功爵學位氏　名印

曲尺一尺五寸

曲尺一尺一寸五分

（證明書用紙鳥ノ子）

證明書

臺灣總督府（何）醫院

看護婦　氏　名

賞狀授與後滿　年以上勤續シ成績良好ナルコトヲ證明ス

年　月　日

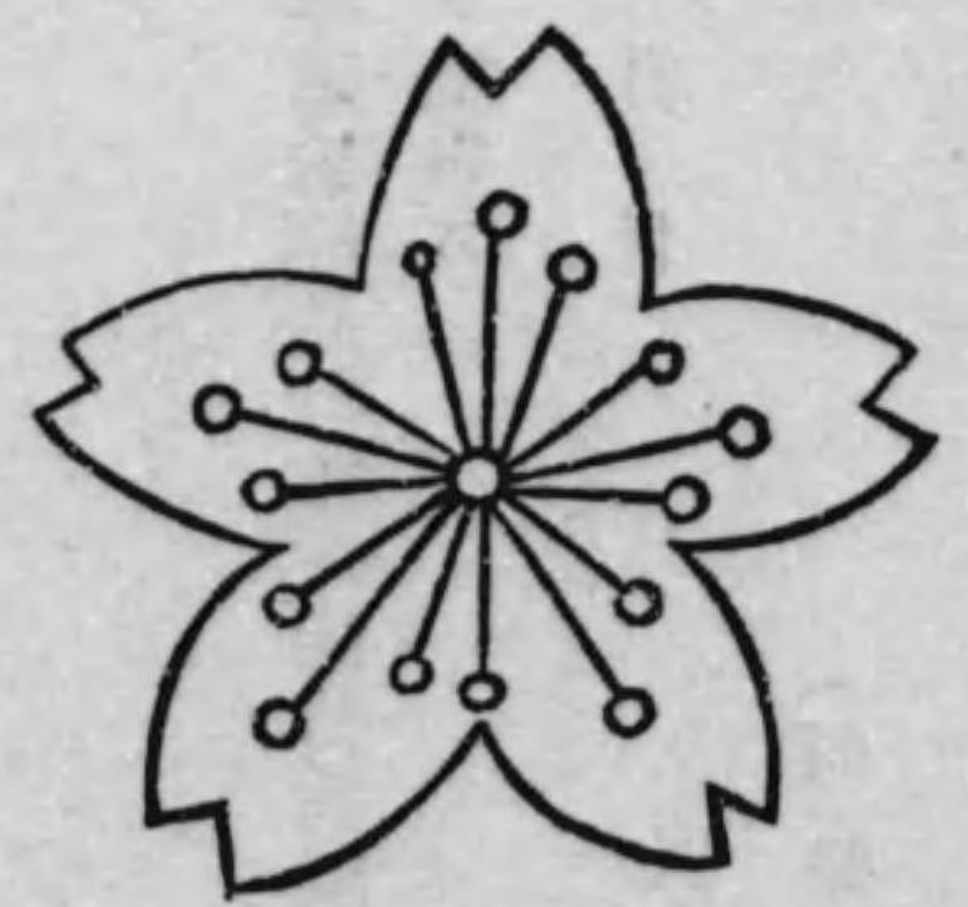
（何）醫院長位勳功爵學位氏　名印

曲尺一尺一寸

曲尺九寸

【臺轄】

（雛形）



金屬製櫻花

徑八分

●文官懲戒令

明治三十二年三月二十八日
勅令第六十三號

改正　明治三三年勅令第二一一號、三四年第二一六號、三八年第二七九號、四〇年第一〇七號、四二年第五號、四三年第四〇四號、大正一一年第一二〇號、一三年第四六四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文官懲戒令

第一章　總則

第一條　親任式ヲ以テ敍任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條　官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ內外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

【臺轄】

第三條　懲戒ハ左ノ如シ

一　免官

二　減俸

三　譴責

第四條　免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條　減俸ハ一月以上一年以下年俸月額若ハ月俸ノ三分一以下ヲ減ス

第六條　勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ內閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ內閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ

譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條　懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

第二章　懲戒委員會

第一款　總則

第八條　懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條　文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款　文官高等懲戒委員會

第十條　文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條　委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ他ノ勅任文官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十二條　委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十三條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ闕員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條　委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中闕員アリテ補闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十五條　委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一　其ノ官職ヲ失ヒタルトキ

二　委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條　委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條　幹事ハ高等官ノ中ヨリ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十八條　幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十九條 委員會ニ書記三人ヲ置ク

第二十條 書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十一條 書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三款 文官普通懲戒委員會

第二十二條 文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一內閣
一樞密院
一各省
一朝鮮總督府
一臺灣總督府
一關東廳
一樺太廳
一南洋廳
一會計檢查院
一行政裁判所
一警視廳
一北海道廳
一府縣
一朝鮮總督府道
一臺灣總督府州
一貴族院事務局
一衆議院事務局

前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得

〔臺輯〕

第二十三條 委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ內閣ニ在リテハ法制局長官、樞密院ニ在リテハ書記官長、各省ニ在リテハ次官、朝鮮總督府ニ在リテハ政務總監、臺灣總督府ニ在リテハ總務長官、關東廳ニ在リテハ內務局長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ內閣ニ在テハ賞勳局、法制局及內閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

特別ノ事情アルトキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得

第二十四條 委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第二十六條 委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條 書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十八條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三章 懲戒手續

第二十九條 本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審查ヲ要求スヘシ

第三十條 前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ召集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

第三十一條 委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ覆申スヘシ

第三十二條 委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第三十三條 委員會ノ審查手續ハ委員會之ヲ定ム

附則

第三十四條 高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス

第三十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏懲戒令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔臺輯〕

●官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件

明治四十年五月一日
勅令第百七十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官吏待遇者ノ懲戒ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ同令中判任官ニ關スル規程ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神職懲戒令及明治三十二年勅令第三百四十九號ハ之ヲ廢止ス

●懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件

昭和二年二月七日
勅令第十四號

朕懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ昭和元年十二月二十五日前ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未ダ處分ヲ受ケザル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハズ

陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ノ適用ヲ受クル者亦前項ニ同ジ

懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

停職中ノ陸海軍軍人ニシテ其ノ停職ヲ免除セラレタル者ハ待命トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●職員懲戒例

明治三十六年七月
臺灣總督府訓令第百三十一號
官房 【民政部】 法院 檢察局 廳
【所屬民政各官廳】

職員懲戒例左ノ通相定ム

職員懲戒例

第一條 本例ニ於テ職員ト稱スルハ勞役以外ノ公務ヲ奉スル官吏待遇者以下ヲ謂フ

第二條 職員ヲ懲戒スヘキ場合左ノ如シ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二 職務ノ內外ヲ問ハス職務上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ行爲アリタ

ルトキ

第三條 懲戒ノ種類左ノ如シ

一 免職

二 減給

三 譴責

第四條 免職ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ日ヨリ二年間臺灣總督府職員ニ採用スルコトヲ得ス

第五條 減給ハ一月以上一年以内其ノ給額三分ノ一以下ヲ減ス

第六條 懲戒スヘキ事件刑事裁判ニ繫屬スルトキハ判決ヲ終ルマテ其ノ處分ヲ停止ス

第七條 懲戒ニ關シ別ニ規定アルモノハ各其ノ規定ニ從フ

●臺灣總督府法院判官懲戒令

明治三十一年七月二十日
律令第十八號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣總督府法院判官懲戒令勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣總督府法院判官懲戒令

第一條 臺灣總督府法院判官ニシテ職務上ノ義務ニ違背シタルトキ又ハ官職上ノ威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキハ之ヲ懲戒ス

懲戒ハ懲戒委員會ノ決議ヲ以テスヘシ

第二條 懲罰ハ左ノ如シ

一 譴責

【臺帳】

二 罰俸

三 免官

第三條 懲戒委員會ハ各所犯ノ輕重ニ從ヒ前條中何レノ懲罰ヲ適用スヘキヤヲ定ム

懲戒委員會ハ懲罰ノ適用ヲ定ムルニ當リ平生ノ行狀ヲ斟酌スルコトヲ得

第四條 罰俸ハ一月以上一年以下俸給月額三分ノ一以内ヲ減スルモノトス

第五條 懲戒委員ハ委員長一人委員四人及豫備委員三人トス臺灣總督府法院判官ノ中ニ就キ毎年豫メ臺灣總督之ヲ命ス

委員長ハ覆審法院長ヲ以テ之ニ充ツ

委員長事故アルトキハ委員中上席判官之ヲ代理ス

豫備委員ハ委員中事故アルトキ代テ委員トナル其代理ノ順序ハ委員長豫メ之ヲ定ム

第六條 懲戒委員長ハ臺灣總督府法院書記ノ中ヨリ懲戒委員會書記ヲ命ス

第七條 懲戒委員ノ忌避囘避ニ付テハ刑事裁判ニ關スル規程ヲ準用ス

第八條 懲戒委員會ハ臺灣總督ノ申立ニ依リ之ヲ開始ス但覆審法院檢察官長ノ意見ヲ聽クヘシ

第九條 懲戒委員會ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ委員長ハ委員ノ一人又ハ數人ニ下調ヲ命スヘシ

第十條 下調ノ命ヲ受ケタル委員ハ必要ナル證據ヲ集取シ且被告ヲ呼出シテ事實ヲ陳述セシムルコトヲ得

【臺帳】

證人ハ刑事裁判ニ關スル手續ニ依リ之ヲ訊問スヘシ

第十一條 下調ノ命ヲ受ケタル委員ハ證據ノ集取ヲ便宜他ノ法院判官ニ囑託スルコトヲ得

第十二條 懲戒委員會ハ懲戒スヘキ理由ナシト認ムルトキハ直ニ免訴ノ決定ヲ爲スヘシ

第十三條 懲戒委員會ハ懲戒スヘキ理由アリト認ムルトキハ懲戒スヘキ所爲及證據ヲ被告ニ示シ期日ヲ定メテ之ニ對スル辯明書ヲ差出サシムヘシ

前項ニ依リ被告辯明書ヲ差出シタルトキハ懲戒委員會ハ一件書類ニ就キ評議決定スヘシ

第十四條 決定書ハ三日以内ニ被告ニ送達スヘシ

第十五條 懲戒委員會ノ決定アリタルトキハ委員長ハ決定書ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

臺灣總督ハ前項ノ報告ニ依リ其執行ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 職務停止及懲戒裁判手續ト刑事裁判手續トノ關係ニ付テハ判事懲戒法中第五章及第六章ノ規定ヲ準用ス

第十七條 懲戒手續ノ費用ニ付テハ刑事裁判ノ費用ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條 本令施行ノ爲必要ナル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

附 則

第十九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二十條 本令ハ本令施行前ニ於ケル所爲ニモ適用ス

●判事懲戒法（抄錄）

明治二十三年八月二十一日
法律第六十八號

第五章 職務停止

第四十九條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ當然職務ヲ停止セラルルモノトス

第一 刑事裁判手續ニ於テ勾留セラレタルトキ

第二 刑事裁判ニ依テ官職ノ喪失ニ該ル刑ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第三 懲戒裁判ニ依テ免職ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第五十條 刑事裁判ニ依テ拘留ノ刑ノ確定裁判ヲ受ケタルトキハ其ノ刑期ノ終ルマテ當然職務ヲ停止セラルルモノトス

第五十一條 懲戒裁判所ハ懲戒事件ノ轉所停職若ハ免職ニ該當スルモノト思料スルトキハ何時ニテモ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ懲戒裁判手續結了ニ至ルマテ被告ノ職務ヲ停止スルコトヲ決定スルヲ得但シ職權ヲ以テ決定ヲ爲ストキハ檢事ノ意見ヲ聽クヘシ

第五十二條 懲戒裁判所ノ決定ニ因リ又ハ當然職務ヲ停止セラレタル後刑事裁判手續中何レノ場合ニ於テモ懲戒裁判所ハ其ノ手續結了ニ至ルマテ被告ノ職務ヲ停止スルコトヲ決定スルヲ得

第五十三條 被告ハ職務停止ノ決定ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

其ノ判事ノ爲シタル職務上ノ行爲ハ無效トス

第六章 懲戒裁判手續ト刑事裁判手續トノ關係

第五十四條 刑事裁判手續中ハ同事件ニ付被告ニ對シ懲戒裁判手續ヲ開始スルコトヲ得ス

懲戒裁判所ニ於テ判決ノ言渡前同事件ニ付被告ニ對シ刑事訴追ノ始マ

リタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ懲戒裁判手續ヲ停止スヘシ

第五十五條 刑事裁判ニ依テ法律ニ觸レサルニ因リ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキト雖同一ノ所爲ニ付懲戒裁判手續ニ於テ仍ホ訴追スルヲ妨ケス

刑事裁判ニ依テ官職ノ喪失ヲ起ササル刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ懲戒裁判手續ニ於テ仍ホ訴追スルコトヲ得

●奏任待遇刑務所職員懲戒ニ關スル件

明治四十四年四月二十六日
臺灣總督府令第三十三號

改正 大正一二年府令第八七號

臺灣總督府刑務所所屬ノ職員中奏任待遇者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府臺灣總督府關東廳及南洋廳部内ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件

大正九年九月一日
勅令第三百六十二號

改正 大正一一年勅令第一二一號

朕明治四十年勅令第二百九十三號臺灣總督府朝鮮總督府及關東廳ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府部内ノ巡査、臺灣總督府部内ノ巡査關東廳部内ノ巡査若ハ判任官待遇監獄職員又ハ南洋廳部内ノ巡査ノ懲戒ニ關スル規程ハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官又ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府巡査、判任待遇刑務所職員、判任待遇街庄長、區長及區書記懲戒規程

大正十年四月二十四日
臺灣總督府令第七十六號

改正 大正一二年府令第八七號、一四年第二號、一五年第七三號

臺灣總督府巡査、判任待遇刑務所職員、判任待遇街庄長、區長及區書記懲戒規程左ノ通相定ム

臺灣總督府巡査、判任待遇刑務所職員、判任待遇街庄長、區長及區書記懲戒規程

第一條 臺灣總督府部内ノ巡査、判任待遇刑務所職員、判任待遇街庄長、區長及區書記ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二 職務ノ内外ヲ問ハス職務上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ如シ

巡査及判任待遇刑務所職員

一 免職

二 減俸 一箇月以上五箇月以下月俸百分ノ三十以內ヲ減ス

三 譴責

判任待遇街庄長、區長及區書記

一 免職

二 減俸又ハ減給 一箇月以上三箇月以下月俸又ハ月手當百分ノ三十以內ヲ減ス

三 譴責

第三條 免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

第四條 懲戒ハ懲戒委員會ノ決議ニ依リ之ヲ行フ但シ譴責ハ直ニ之ヲ行フ

第五條 懲戒委員會ハ州、廳及刑務所ニ之ヲ置キ委員長一名委員二名乃至六名ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條 委員長ハ州ニ在リテハ知事、廳ニ在リテハ廳長、刑務所ニ在リテハ典獄又ハ典獄補ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ州ニ在リテハ事務官、理事官、警視、技師、屬及警部ノ中ヨリ知事之ヲ命シ廳ニ在リテハ理事官、警視、屬及警部ノ中ヨリ廳長之ヲ命シ刑務所ニ在リテハ看守長中ヨリ典獄又ハ典獄補之ヲ命ス

第七條 委員會ハ委員長及委員二名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員事故アリテ前項ノ定數ニ滿タサルトキハ知事、廳長、典獄又ハ典獄補ニ於テ所屬高等官又ハ判任官中ヨリ臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第八條 委員會ノ議事ハ多數決トシ可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

委員長事故アルトキハ上席委員之ヲ代理ス

第九條 懲戒委員會ニ書記二名ヲ置キ所屬判任官中ヨリ委員長之ヲ命ス

第十條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條 委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第十二條 州知事、廳長、典獄又ハ典獄補ハ所屬ノ巡査、判任待遇刑務所職員、判任待遇街庄長、區長又ハ區書記ニシテ免職、減俸又ハ減給ニ當ルヘキ所爲アリト認ムルトキハ證據書類ヲ添ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第十三條 前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ隨時委員會ヲ開キ其ノ決議ノ事由ヲ書面ニテ復申スヘシ

第十四條 委員會ハ必要ト認ムルトキハ本人ヲ召喚シ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官公衙ヨリ各本職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十五條 明治三十二年勅令第四百號ニ依ル巡査及看守ノ懲戒ハ警察官及司獄官練習所長直ニ之ヲ行フ

第十六條 懲戒ハ辭令書ヲ作リ之ヲ本人ニ交付スヘシ

辭令ハ免職及減俸又ハ減給ハ官廳名譴責ハ官名ヲ以テスヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年府令第七十四號巡査、巡査補及判任待遇監獄職員懲戒規程ハ之ヲ廢止ス

●奏任待遇街長ノ懲戒ニ關スル件

大正十年四月二十四日
臺灣總督府令第七十七號

奏任待遇街長ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規程ヲ準用ス

●集配人遞送人服務規則違背處分手續

明治三十七年十一月
臺灣總督府訓令第二百八十九號

一、二、三等局

集配人遞送人服務規則違背處分手續左ノ通相定ム

集配人遞送人服務規則違背處分手續

第一條 集配人遞送人其ノ服務規則ニ違背シタルトキハ一、二等局ニ在リテハ當該局長之ヲ處分シ三等局ニ在リテハ其ノ情狀ヲ具シ臺灣總督ノ指揮ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第二條 集配人遞送人ヲ解免シタルトキハ其ノ在職中ノ所爲ニ對シ服務規則違背ノ處分ヲ爲サヽルモノトス

謝金處分ヲ受ケタル集配人遞送人ヲ解免シタルトキハ其ノ未徵收ニ係ル謝金ノ納付ヲ免スヘシ

服務規則ニ依リ命シタル辨償金ハ集配人遞送人ノ解免ニ依リ免除スルノ限ニアラス

【臺輯】

第三條 謝金徵收額ハ五錢以上トシ錢位未滿ノ端數ヲ附スヘカラス

第四條 徵收シタル謝金ハ一、二等局ニ在リテハ其ノ局ノ雜收入トシテ取扱ヒ三等局ニ在リテハ直ニ仕譯書ヲ添ヘ無料通常爲替ヲ以テ所屬分掌一、二等局ニ送付スヘシ其ノ送付ヲ受ケタル一、二等局ニ於テハ其ノ局ノ雜收入トシテ處理スヘシ

第五條 本手續ハ郵便夫船員及舸子ニ準用ス

附 則

明治三十二年十一月訓令第三百十九號ハ之ヲ廢止ス

第五章 禮式 忌服

第一節 禮式

●除服出仕者御祭典奉仕參拜憚ルニ及ハス

明治六年二月七日
太政官布告第四十二號

除服出仕 宣下候輩自今御祭典ノ節奉仕參拜不及憚候事

但忌明ノ輩同樣不及憚候事

●奏任官以上天機伺竝任敍御禮申上方

明治四年五月十四日
辨官達

自今 天機伺任敍御禮等勅任官ハ宮內省ヘ罷出申上【奏任官ハ同省面謁所ニテ可申上】候此段爲心得相達候也

明治四年八月十四日
史官達

諸御禮是迄奏任官宮內省面謁所ヘ罷出申上候處自今同省當番【大丞】ヲ以テ可申上此段相達候也

●文官大禮服著用ノ場合ニ於ケル敬禮式ニ關スル件

昭和二年一月二十四日
內閣訓令第一號

【臺輯】

各官廳

文官大禮服著用ノ場台ニ於ケル敬禮式ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 文官大禮服著用ノ場合ニ於ケル敬禮式ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 室內（室內ニ準ズル場所ヲ含ム）ニ於ケル最敬禮ハ正面シテ直立シ兩足ヲ整ヘ兩手ヲ體ノ兩側ニ垂下シ兩股ニ接著セシメ正面ニ注目シテ體ノ上部ヲ約四十五度前ニ傾ケ徐ロニ舊ニ復スベシ帽アルトキハ左手ヲ垂直ニシ其ノ指ヲ以テ之ヲ抱ヘ頂ヲ上ニシテ側章ヲ外ニシ反對側ヲ左股ニ對セシムヘシ

第三條 室內（室內ニ準ズル場所ヲ含ム）ニ於ケル敬禮ハ姿勢ヲ整ヘ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ約十五度前ニ傾クベシ

第四條 室外ニ於ケル最敬禮ハ直立シテ姿勢ヲ正シ左手ヲ垂下シテ左股ニ接著セシメ右手ヲ擧ゲ其ノ指ヲ接シテ伸バシ食指ト中指トヲ帽ノ山形ノ中央ヨリ稍前方ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略ボ其ノ高サニ齊シクシ頭ヲ向ケテ注目スベシ

第五條 室外ニ於ケル敬禮ノ姿勢ヲ正シ左手ヲ垂下シ右手ヲ擧ゲ其ノ指ヲ接シテ伸バシ食指ト中指トヲ帽ノ山形ノ中央ヨリ稍前方ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略ボ其ノ高サニ齊シクシ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目スベシ

附 則

本令ニ抵觸スル從前ノ規定ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府文官禮式

明治四十四年六月
臺灣總督府訓令第百十一號

臺灣總督府文官禮式左ノ通相定ム

官房〔民政部〕法院 檢察局
縣〔所屬民政各官廳〕

臺灣總督府文官禮式

第一章 總則

第一條 臺灣總督府文官制服ヲ著用シタルトキハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本禮式ニ依リ敬禮ヲ行フヘシ

第二條 本禮式ニ於テ上官ト稱スルハ判任官ノ奏任官以上ニ於ケル奏任官ノ勅任官ニ於ケルヲ謂フ

職務上ノ監督者ハ其ノ被監督者ニ對シ之ヲ上官ト看做ス

第三條 職務執行ノ爲止ムヲ得サル場合ノ外上官ニ對シテハ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同班者ハ互ニ敬禮ヲ交換スヘシ但シ答禮者ハ時宜ニ依リ注目ニ止ムルコトヲ得

第四條 敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ何人タルヲ問ハス之ニ答禮スヘシ

第五條 「君ケ代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ直ニ姿勢ヲ正スヘシ

第六條 皇后、太皇太后及皇太后ニ對スル敬禮ハ天皇ニ對スル敬禮ニ準ス

前項以外ノ皇族及天皇ノ御名代ニ對シテハ公式ノ場合ニ限リ前項ニ準シ敬禮ヲ行フ

外國ノ元首及皇族ニ對スル敬禮亦同シ

第七條 內閣總理大臣、各省大臣、大臣ノ禮遇ヲ受クル者又ハ外國使節ニ對スル敬禮ハ上官ニ準ス

第八條 軍旗ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ但シ上覆ヲ附シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

〔臺報〕

第九條 上官ニ隨從スルトキハ上官ニ於テ敬禮スルトキノ外敬禮スルコトナシ

第十條 敬禮ヲ分チテ室內ノ敬禮及室外ノ敬禮ノ二トス

室內トハ居室、事務室、應接室等ヲ謂ヒ廊下、階段、汽車、電車內等ハ之ヲ室外ト看做ス

第二章 室內ノ敬禮

第十一條 室內ニ入ルトキハ帽ヲ脫スヘシ

第十二條 室內ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ面シテ直立シ兩脚ヲ整ヘ左右ノ手ヲ垂下シ其ノ眼ニ注目シテ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ帽ヲ手ニスルトキハ右手ニテ其ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ內部ヲ右肢ニ對セシメ又長劍ヲ佩フルトキハ柄ヲ後ニシテ左手ヲ以テ兩環ノ間ヲ握ル短劍ヲ佩フルトキハ之ヲ鉤ヨリ外シ左手ヲ以テ其ノ柄ヲ握ルヲ例トス但シ時宜ニ依リ第十三條及第十九條ノ場合ヲ除クノ外鉤ニ掛ケタル儘左手ヲ以テ其ノ鞘ヲ握ルコトヲ得

第十三條 天皇ニ拜謁スルトキハ御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入リテ直ニ敬禮ヲ行ヒ更ニ進ミテ玉座ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ不動ノ姿勢ヲ取リ先ツ陛下ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ前約四十五度ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チテ最敬禮ヲ行フ最敬禮終リタルトキハ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スヘシ但シ特ニ式アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ敬禮ハ最敬禮ヲ除クノ外總テ體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チテ行フモノトス

第十四條 上官ノ居室ニ入ルトキハ其ノ席ヲ距ルコト五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ若上官二人以上アルトキハ先ツ其ノ高級者ニ敬禮シ次ニ他一同ニ敬禮スヘシ其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ但シ在室者ニ主客ノ別アルトキハ先ツ主タル者ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第十五條 上官ヨリ官記、位記、勳記、辭令等ノ類ヲ受クルトキハ前條ニ依リ敬禮ヲ行フノ後適宜前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ左手ヲ副ヘテ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第十六條 上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ又ハ之ヲ呈スルトキハ前條ノ法ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ之ヲ呈スヘシ

第十七條 宴會、集會等總テ公會ニ於テ上官ト同席スル場合ハ許可アルニ非サレハ上官ヨリ先ニ椅子ニ倚ルコトナク先ニ食卓ニ就クコトナク又先ニ卓ヲ離ルルコトナキヲ要ス

上官ヨリ宴會等ニ招カレタルトキハ其ノ參著及退散ノ時ハ必ス帶劍シテ挨拶スルヲ禮トス

第三章 室外ノ敬禮

第十八條 室外ノ敬禮ハ擧手注目トス其ノ法敬スヘキ人ニ面シテ直立シ兩脚ヲ整ヘ右手ヲ擧ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指トヲ帽庇ノ右側ニ當テ肘ヲ肩ニ齊シクシ掌ヲ稍外面ニ向ケ受禮者ノ眼又ハ敬スヘキモノニ注目スヘシ而シテ答禮者ノ手ヲ降シタル後ニ手ヲ降スモノトス

佩劍ノ取扱ハ第十二條ニ同シ

第十九條 行幸ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面（乘車スルトキハ下車）シ車駕約六歩前ニ近クトキ敬禮ヲ行ヒ約六歩過クル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

〔臺報〕

第二十條 上官ヨリ官記、位記、勳記、辭令等ノ類ヲ受クルトキハ第十五條書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ又ハ之ヲ呈スルトキハ第十六條ノ例ニ依ル但シ室外ノ敬禮ヲ行フモノトス

第二十一條 上官ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ頭ヲ其ノ方面ニ向ケ敬禮スヘシ

前項ノ場合ニ於テ車上ニ在ルトキハ乘車ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮スヘシ若シ其ノ後方ヨリ進ミ行拔カムトスルトキハ其ノ旨ヲ告ケ然ル後通過スヘシ

自轉車上ニ在ルトキハ單ニ注目ヲ以テ擧手注目ニ換ウルコトヲ得

第二十二條 葬列ニ對スル敬禮ハ柩ニ向ヒ之ヲ行フヘシ

第二十三條 物品ヲ攜帶シ相當ノ敬禮ヲ行フコト能ハサルトキハ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ若一手ニ攜帶スルトキハ右手ヲ擧クヘシ

第二十四條 上官ト同行スルトキハ其ノ左側或ハ兩側若ハ後方ニ就クヲ禮トス但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年四月訓令第百二十六號臺灣總督府文官禮式ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府文官及臺灣駐在陸海軍軍人交禮心得

明治三十二年四月
臺灣總督府訓令第百二十五號

臺灣總督府文官及臺灣駐在陸海軍軍人交禮心得左ノ通相定ム

官房【民政部】【陸軍幕僚】【海軍幕僚】
法院 檢察局【縣廳】【民政各官廳】
【直轄陸軍各部團隊】

臺灣總督府文官及臺灣駐在陸海軍軍人交禮心得

第一條 文官及武官制服ヲ著用シタルトキハ左ノ各條ニ從ヒ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第二條 敬禮ハ各自其規定ノ禮式ニ依リ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第三條 敬禮ハ其階級ノ下ナル者ヨリ先之ヲ行ヒ其階級判別シ難キ場合ニ於テハ相互ノ敬禮ヲ行フヘシ

第四條 文官及武官ノ對比表左ノ如シ

勅任	奏任	判任	判任以下
勅任文官	奏任文官	判任文官	判任文官以下
將官及同相當官	佐尉官及同相當官	下士官	卒

第五條 隊伍ヲ組ミタル部隊ニ對シテハ其隊長ニノミ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第六條 文官及武官職務執行中止ムヲ得サル場合ニ在テハ敬禮ヲ行ハサルモ妨ケナシ

第七條 文官ニシテ武官ノ葬儀ニ行遇ヒ又ハ武官ニシテ文官ノ葬儀ニ行遇ヒタルトキハ其柩ニ對シ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

附則

第八條 臺灣總督府警察官吏ノ交禮ハ別ニ定ムル所ニ依ル

〔臺報〕

●臺灣總督府警察禮式

大正六年七月
臺灣總督府訓令第九十五號

注意 大正九年八月訓令第百四十號ヲ以テ巡査補ニ關スル規定ヲ、第百四十三號ヲ以テ隘勇ニ關スル規定ヲ廢止ス

改正 大正七年訓令第一一六號、八年第一六九號、一〇年第七二號、一四年第二一號

臺灣總督府 州 廳

明治四十四年十一月訓令第二百三十號臺灣總督府警察禮式左ノ通改正ス

臺灣總督府警察禮式

第一章 通則

第一條 警察官吏制規ノ服裝ヲ爲シタルトキハ別ニ規定アル場合ノ外本令ニ依リ敬禮ヲ行フヘシ

第二條 本令ニ於テ上官トハ指揮監督ノ職權ヲ有スル官吏ヲ謂フ上級官職ニ在ル警察官吏及現ニ監督ノ任務ヲ行フ上級官吏ハ前項ニ準ス

第三條 職務執行ノ爲已ムヲ得サル場合ノ外上官ニ對シテハ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同班者ハ互ニ敬禮ヲ交換スヘシ但シ階級ノ識別困難ナル場合ニ於テハ上下ヲ論セス互ニ敬禮スヘシ

警察官吏各箇ノ敬禮ハ面識アル上官ニ對シテハ其ノ服裝ノ如何ニ關セス之ヲ行フヘシ

答禮ハ敬禮ニ準シ之ヲ行フヘシ但シ時宜ニ依リ單ニ注目ニ止ムルコトヲ得

〔臺報〕

第四條 正式勅使及皇族ニ對シテハ天皇ニ準スル敬禮ヲ行フヘシ但シ皇族軍職ヲ奉シ部隊ニ在ルトキハ此ノ限ニ在ラス

外國ノ元首又ハ皇族ニ對スル敬禮ハ前項ニ準ス

國務大臣、宮內大臣及大臣ノ待遇ヲ受クル者又ハ外國ノ使節ニ對シテハ上官ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ外國ノ元首又ハ皇族ニ對シ公式ノ場合ニ非サルトキ亦同シ

第五條 軍旗ニ對シテハ第十四條、第二十六條及第三十八條ノ規定ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ但シ上覆ヲ附シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 隙アル場合ニ於テ「君ケ代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ其ノ間姿勢ヲ正スヘシ

第七條 警衞、護衞、消防ニ從事スルトキ又ハ囚人、刑事被告人、被疑者ノ押送ヲ爲ストキ若ハ職務上他人ニ隨從スルトキ其ノ他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事スルトキハ敬禮ヲ行フノ限ニ在ラス

第八條 儀式祭典ニ列シタルトキハ其ノ式ノ執行中式典ノ爲ニスルノ外敬禮ヲ行フノ限ニ在ラス

第九條 敬禮ヲ別チテ室內ノ敬禮、室外ノ敬禮トス

室外ノ敬禮ハ單獨ノ敬禮、隊伍ノ敬禮、水上ノ敬禮トス

第十條 居室、事務室、應接所、食堂、喫煙室、法廷等ハ室內トシ廊下、階段、汽車電車內、甲板並端舟等ハ之ヲ室外トス但シ室內ニ於テ警備、取締等ノ職務ニ從事スル場合ハ室外ノ敬禮ヲ行ヒ宮中ニ在リテハ特ニ其ノ規定ニ從フ

室外ニ於ケル遙拜禮拜等ハ室內ノ敬禮ニ準ス

第十一條 警手ノ敬禮ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス但シ警手ノ巡査以上ニ對スルハ之ヲ上官ト看做ス

第十二條 本令ニ規定セサル事項ハ臺灣總督府文官禮式ニ依ルヘシ

第二章 室內ノ敬禮

第十三條 室內ニ入ルトキハ室外ニ於テ帽ヲ脫スヘシ但シ執銃シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 室內ノ敬禮ハ受禮者又ハ敬スヘキ物ニ面シテ姿勢ヲ正シ其ノ眼又ハ物ニ注目シ體ノ上部ヲ約十五度前ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チ之ヲ行フヘシ

帽ヲ手ニスルトキハ右手ニ其ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ內部ヲ右股ニ對セシメ刀ヲ佩フルトキハ警部補以上ニ在リテハ刀柄ヲ後ニシ兩鐶ノ間ヲ握リ巡査ニ在リテハ刀柄ヲ前ニシ拇指ヲ柄頭ニ當テ其ノ他ノ四指ニテ刀柄ヲ握ルヘシ

短刀ヲ佩フルトキハ之ヲ鈎ヨリ外ツシ（巡査ヲ除ク）左手ヲ以テ其ノ柄ノ上部ヲ握ルヲ例トス但シ第十五條ノ場合ヲ除ク外鈎ニ掛ケタル儘左手ヲ以テ其ノ鞘ヲ握ルコトヲ得

兩手ニ物品ヲ携ヘ帽ヲ脫スルコト能ハサルトキ又ハ執銃シタルトキハ（立銃シテ）其ノ儘姿勢ヲ正スヘシ

第十五條 天皇ニ拜謁スルトキハ御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入リテ直ニ敬禮ヲ行ヒ更ニ進ミテ玉座ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ最敬禮ヲ爲シ畢リテ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スヘシ

前項ノ最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ執リ先ツ天皇ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ約四十五度前ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保ツノ外前條ノ例ニ依ルヘ

シ

第十六條　御眞影ヲ拜スルトキハ御眞影ヲ距ル約六歩ノ所ニ於テ前條ノ規定ニ準シ最敬禮ヲ行ヒ其ノ儘二三歩退歩シタル後退去スルモノトス遙拜ヲ爲ストキ亦之ニ準ス

第十七條　上官ノ居室ニ入ラムトスルトキハ戶ヲ敲キテ許諾ヲ得タル後（開放ノ場合ハ許諾ノミヲ以テ足ル）室內ニ入リ上官ノ席ヲ距ルコト約三歩前ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ若上官二人以上在ルトキハ先ツ其ノ高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一同ニ敬禮スヘシ其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ但シ在室者ニ主客ノ別アルトキハ先ツ主タル者ニ敬禮ヲ行フヘシ

第十八條　上官ヨリ辭令書ノ類ヲ受クルトキハ其ノ席ヲ距ル約三歩前ニ於テ敬禮ヲ行ヒタル後適宜前ニ進ミ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ受ケ左手ヲ副ヘテ披見シ直ニ之ヲ收メ之ヲ左手ニ帽ヲ右手ニ移シ原位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第十九條　上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ若ハ上官ニ之ヲ呈スルトキハ前條ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ之ヲ呈シ若執銃シタルトキハ左手ヲ以テスヘシ其ノ受ケタル物其ノ場ニ於テ披見ヲ要スルトキハ銃ハ體ニ託シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ右手ヲ副ヘテ披見スルモノトス

返簡若ハ領證ヲ受クヘキトキハ原位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ

第二十條　上官ヨリ命令、諭告等ヲ受ケ又ハ上官ニ陳述等ヲ爲ストキハ敬禮ヲ行ヒタル後適宜ニ進ミテ之ヲ承ケ又ハ陳述シ其ノ場ヲ退去スルニ臨ミ原位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行フヘシ

第二十一條　上官室內ニ來ルトキハ各自起立シテ敬禮ヲ行フヘシ其ノ室ヲ去ルトキ亦同シ但シ時宜ニヨリ先導者又ハ監督者ニ於テ「氣ヲ付ケ」ノ注意ヲ與ヘ在室者ヲシテ一齊ニ敬禮ヲ行ハシムルコトヲ得

〔臺鮮〕

平常同一ノ場所ニ於テ執務スル上官其ノ場所ニ出入スルトキハ登廳及退廳ノ場合ノ外前項ノ敬禮ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十二條　同班又ハ下班ノ者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同班ナレハ起立シテ敬禮シ下班ナレハ其ノ儘答禮スルコトヲ得但シ下班ノ者辭令書ノ類ヲ呈示シテ廉アル挨拶ヲ爲ストキハ起立スルヲ禮トス

第二十三條　上官ト公務ヲ談スルトキハ起立シテ姿勢ヲ正スヘシ但シ上官ノ許諾ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　宴會、集會等公會ニ列スルトキハ上官ヨリ先ニ喫煙シ、椅子ニ依リ、食卓ニ就キ又ハ離レサルヲ禮トス

第二十五條　上官ヨリ廉アル饗宴等ニ招カレ參著及退散ノ挨拶ヲ爲ストキハ佩刀スルヲ禮トス

第三章　室外ノ敬禮

第一節　單獨ノ敬禮

第二十六條　室外ノ敬禮ハ擧手注目トシ受禮者又ハ敬スヘキ物ニ對シ（停止間ニ在リテハ面シテ姿勢ヲ正シ行進間ニ在リテハ頭ヲ向ケ）右手ヲ擧ケ諸指ヲ接シテ伸シ食指ト中指トヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ハ之ヲ稍前斜ノ方向ニ向ケ略其ノ高サヲ肩ニ齊クシ受禮者ノ眼又ハ敬スヘキ物ニ注目スヘシ但シ擧手スルコト能ハサルトキ又ハ竹笠ヲ用ウル場合ハ單ニ注目ニ止メ其ノ停止間ニ在リテハ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

佩刀ノ取扱ハ室內敬禮ノ例ニ依ル

執銃シタルトキハ天皇ニ對シテハ捧銃ノ禮ヲ行ヒ其ノ他ハ行進間ニ在リテハ擔銃ノ儘姿勢ヲ正シ歩調ヲ取リ第一項ノ例ニ依リ注目スヘシ其ノ停止間ニ在リテハ室內敬禮ノ例ニ依ル

〔臺鮮〕

第二十七條　行幸ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面シ車駕約六歩ノ前ニ近ツクトキ目迎シテ敬禮ヲ行ヒ約六歩過去ル迄其ノ姿勢ヲ保チ且目送スヘシ

前項ノ場合ニ於テ乘馬ノトキハ其ノ儘停止正面シ若道路ノ模樣ニ依リ正面スルコト能ハサルトキハ韁ヲ縮メテ馬首ヲ擧ケ乘車ノトキハ下車スヘシ

第二十八條　敬禮ハ通常受禮者ヲ距ル約六歩ノ所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第二十九條　行進間ノ敬禮ハ歩調ヲ取ルコトナク速歩ニテ之ヲ行フモノトス

第三十條　隊伍ヲ成セル警察官吏ニ對シテハ其ノ引率者ニ敬禮ヲ行ヒ且其ノ隊伍ニ注目スヘシ

第三十一條　上官ノ後方ヨリ進ミ先ニ行カムトスルトキハ其ノ旨ヲ通過スヘシ

乘馬ニテ行進中ハ上官ニ對シテハ已ムヲ得サル場合ノ外常歩ニテ敬禮ヲ行フヘシ

輛車ニテ行進中ハ上官ニ對シテハ其ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フヘシ但シ自轉車ニ乘リタルトキハ單ニ注目ニ止ムルコトヲ得

第三十二條　第十八條、第十九條及第二十條ノ規定ハ室外ノ敬禮ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ乘馬ノトキハ敬禮ヲ行ヒタル後下馬スルヲ禮トス但シ上官乘馬ノトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　上官ト同行スルトキハ其ノ左側又ハ後方ニ就クヲ禮トス但シ先導者ハ此ノ限ニ在ラス

上官ヲ送迎スル場合ハ上官ノ左側ニ位置シテ敬禮ヲ行フヲ禮トス但シ地形其ノ他ノ關係ニ依リ本項ニ依リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　狹隘ノ通路、橋梁又ハ廊下、階段等ニ於テ上官ニ出會シタルトキハ其ノ一側ニ停止シ上官ノ通過ヲ待ツヲ禮トス

第三十五條　船舶ニ乘リ又ハ舷梯ヲ昇ラムトスルトキハ上官ヲ先ニシ舷梯ヲ降リ又ハ端艇若ハ小蒸汽船ニ乘込マムトスルトキハ上官ニ先タツヲ禮トス

第二節　隊伍ノ敬禮

第三十六條　行幸ヲ奉送迎スルトキハ御通路ノ一側ニ停止正面シテ隊列ヲ正シ執銃シタルトキハ引率者警部補以上ハ刀ノ禮、巡査ハ捧銃ノ禮ヲ行ヒ執銃セサルトキハ總テ擧手注目ノ敬禮ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ左ノ順序ニ依リ列員一齊ニ敬禮スヘシ

一　車駕隊列ヨリ約三十歩ノ所ニ近ツキタルトキハ引率者ハ「頭右（左）」又ハ「捧ケ銃」ト號令シ列員ハ目迎目送シ次ノ號令アル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

二　車駕隊列ヲ距ルコト十五歩ノ所ニ至リタルトキハ引率者ハ「直レ」ト號令シ列員ハ一齊ニ不動ノ姿勢ニ復スヘシ但シ執銃ノ場合ニ於テハ「立テ銃」ト號令シ頭ヲ正面ニ復シタル後立銃（警部補以上ハ肩刀）ヲ爲シ不動ノ姿勢ニ復スヘシ

第三十七條　御眞影ヲ拜スルトキ及遙拜、禮拜ノ場合ニハ適當ノ位置ニ横隊又ハ縱隊ニ整列シ執銃ノ場合ハ前條ニ準シ執銃セサルトキハ室內

ノ敬禮ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第三十八條 停止間ニ於ケル上官ニ對スル敬禮ハ「氣ヲ付ケ」ノ號令ニテ一同不動ノ姿勢ヲ取リ引率者ノミ擧手注目ノ敬禮ヲ行フヘシ

行進間ニ於ケル上官ニ對スル敬禮ハ先ツ歩調ヲ取ラシメ受禮者隊列ヨリ約六歩ノ所ニ近ツキタルトキ「頭右（左）」ノ號令ニテ列員ハ一齊ニ頭ヲ受禮者ノ方向ニ向ケ引率者ノミ擧手注目ノ敬禮ヲ行ヒ受禮者隊列ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ至リテ「直レ」ノ號令ニテ列員ハ一齊ニ頭ヲ復スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ引率者ハ拔刀又ハ執銃ノトキハ單ニ注目ニ止ムヘシ

第三十九條 隊伍相遇フトキハ其ノ引率者ノ階級ニ從ヒ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

同班又ハ下班ノ者ヨリ隊伍ニ對シ敬禮ヲ受ケタルトキハ引率者ノミ擧手注目シテ答禮ヲ行フヘシ但シ引率者拔刀又ハ執銃ノ場合ハ單ニ注目ニ止ムヘシ

第三節 水上ノ敬禮

第四十條 乘御ノ舟艇ニ對シテハ端艇ニ在リテハ橈手一齊ニ橈ヲ立テ、小蒸汽船ニ在リテハ進行ヲ止メ船員ハ甲板上適宜ノ場所ニ整列シ、帆走中ノ船ハ總帆ヲ下シ、櫓舟ハ進行ヲ止メ總員起立シテ敬禮ヲ行フヘシ但シ一人ニシテ二挺ノ橈ヲ操ルトキハ乘御ノ舟艇ニ面セサル方ノ橈ヲ收メテ他方ノ橈ヲ立テ起立シテ敬禮ヲ行フモノトス

「クラッチ」ヲ具備シタル端艇ニ在リテハ橈ヲ上ケ橈手ノ外總員起立シテ敬禮ヲ行フモノトス

〔臺輯〕

第四十一條 端艇ニ在リテハ前條ノ敬禮ヲ行フトキハ左ノ號令ヲ用ウヘシ

一 橈立テ方用意
二 立テ（橈ノ平面ヲ左右ニ向ケ兩手ヲ以テ之ヲ把持ス）
三 下セ

「クラッチ」ヲ具備シタル端艇ニ在リテハ左ノ號令ヲ用ウヘシ

一 橈上ケ方用意
二 上ケ（橈ヲ舷ト平線ニ保ツ）
三 下セ

一人ニテ二挺ノ橈ヲ操ルトキハ前各項ノ號令ノ前ニ左ノ號令ヲ加フヘシ

右（左）舷收メー

號令ハ舵ヲ掌ル者又ハ指揮者之ヲ爲スヘシ

第四十二條 上官ニ對シテハ指揮者ノミ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ其ノ同班者ニ對スルトキ亦同シ

第四十三條 削除

第四十四條 削除

第四十五條 乘御ノ舟艇ニ遇フトキハ其ノ舟艇ヲ距ル約三十米突ノ所ニ於テ敬禮ヲ始メ約十米突ヲ過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

第四十六條 上官ノ乘組ミタル船ヲ乘越エ又ハ其ノ前ヲ横過スル必要アルトキハ適宜ノ敬禮ヲ行フヘシ

第四十七條 削除

第四十八條 水上ノ敬禮ハ特ニ命令アル場合ノ外夜間之ヲ行ハサルモノトス

第四十九條 至急ノ用務ヲ帶ヒタルトキ又ハ風雨ノ際敬禮ヲ行フコト能ハサル狀況ニ在ルトキ竝貨物ヲ積載シタル船又ハ他船ニ曳カレタル船ニシテ相當ノ敬禮ヲ行フコト能ハサルトキハ之ヲ略スルコトヲ得

附則

本令ハ大正六年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●警察稱呼例

明治四十四年十一月
臺灣總督府訓令第二百三十一號
【民政部】【廳】

警察稱呼例左ノ通相定ム

警察稱呼例

第一條 上官ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ敬稱ヲ用ウヘシ

一 勅任官ニ對シテハ閣下
二 奏任官以下ニ對シテハ殿

第二條 上官ヨリ下官ニ對シ又ハ同僚間ニ在リテハ氏及官名（若ハ職名）ヲ呼フモノトス但シ時宜ニ依リ氏ノミヲ呼フモ妨ケナシ

第三條 本例ノ上官トハ警察禮式ニ稱スル上官ヲ云フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣駐在陸軍軍人及臺灣總督府警察官吏交禮心得

明治二十九年十二月
臺灣總督府訓令第百六十號

〔臺警〕

臺灣駐在陸軍軍人及臺灣總督府警察官吏交禮心得左ノ通相定ム

陸軍官衙團隊【縣廳】【島廳】

臺灣駐在陸軍軍人及臺灣總督府警察官吏交禮心得

第一條 陸軍軍人警察官吏制裝ヲ爲シタルトキハ左ノ各條ニ從ヒ各規定ノ禮式ニ據リ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第二條 陸軍將校同相當官竝准士官【警部長】警視ハ其階級ノ下ナル者ヨリ先ツ敬禮ヲ行ヒ階級判別シ難キ場合ニ在テハ相互ノ敬禮ヲ行フヘシ

第三條 陸軍下士同相當官警部ハ相互ノ敬禮ヲ行フヘシ

第四條 陸軍下士同相當官ハ【警部長】警視ニ對シ將校相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第五條 陸軍上等兵以下巡査ハ相互ノ敬禮ヲ行フヘシ

第六條 陸軍上等兵以下ハ【警部長】警視ニ對シテハ將校警部ニ對シテハ下士相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第七條 警部ハ陸軍將校同相當官竝准士官ニ對シテハ【警部長】警視ト相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第八條 巡査ハ陸軍將校同相當官竝准士官ニ對シテハ【警部長】警視下士竝相當官ニ對シテハ警部相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第九條 軍隊及隊列ヲ組ミタル警察官吏相遇ヒタルトキハ前各條ニ據リ互ニ隊長ノミ敬禮ヲ行フヘシ

第十條 陸軍軍人ノ警察官吏隊列ニ對シ又ハ警察官吏ノ軍隊ニ對スル敬禮ハ前各條ニ據リ其隊長ニノミ之ヲ行フヘシ

第十一條 軍人警察官吏職務執行ノ爲止ヲ得サル場合ニ在テハ敬禮ヲ行ハサルモ妨ナシ

第十二條　陸軍軍人ニシテ警察官吏ノ葬儀ニ行遇ヒタルトキ又ハ警察官吏ニシテ陸軍軍人ノ葬儀ニ行遇ヒタルトキハ其柩ニ對シ亦本交禮心得ヲ適用スルモノトス

●臺灣駐在海軍軍人及臺灣總督府警察官吏交禮心得

明治三十二年五月
臺灣總督府訓令第百五十四號
警務局保安課

臺灣駐在海軍軍人及臺灣總督府警察官吏ノ交禮ハ明治二十九年十二月訓令第百六十號臺灣駐在陸軍軍人及臺灣總督府警察官吏交禮心得ノ例ニ依ル

●臺灣總督府刑務所職員禮式及稱呼例

大正十四年二月一日
臺灣總督府訓令第八號
刑務所

改正　昭和三年訓令第二二號

臺灣總督府刑務所職員禮式及稱呼例左ノ通相定ム

臺灣總督府刑務所職員禮式及稱呼例

第一條　臺灣總督府刑務所職員ノ禮式ハ本令ニ規定スルモノノ外大正六年訓令第九十五號臺灣總督府警察禮式ヲ準用ス但シ同禮式中警部補トアルハ看守長、巡査トアルハ看守トス

臺灣總督府刑務所職員ノ稱呼ニ關シテハ明治四十四年訓令第二百三十一號稱呼例ヲ準用ス

【臺鮮】

第二條　刀ヲ佩フルトキハ刀柄ヲ前ニシ拇指ヲ柄頭ニ當テ其ノ他ノ四指ニテ刀柄ヲ握ルヘシ

第三條　居室、事務室、應接所、食堂、喫煙室、敎誨場、敎場、法廷竝民事爭訟調停室等ハ室內トシ廊下、階段、炊事場、居房、工場、調所、汽車電車內、甲板竝端舟等ハ室外トス但シ敎誨場、敎場、法廷、民事爭訟調停室ニ於テ職務ヲ行フ場合ハ之ヲ室外ト看做ス

第四條　女監取締ハ室ノ內外ヲ問ハス總テ著帽ノ儘兩手ヲ垂下シテ敬禮ヲ行フモノトス

第五條　制規ノ服裝ヲ用キサル刑務所職員及押丁ハ本令ニ準シ適宜ノ敬禮ヲ行フヘシ稱呼ニ就キ亦同シ

附則

大正八年訓令第百十六號臺灣總督府司獄官禮式及稱呼例ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府稅關職員禮式

大正二年十月
臺灣總督府訓令第二百二十三號
稅關

臺灣總督府稅關職員禮式左ノ通相定ム

臺灣總督府稅關職員禮式

第一條　臺灣總督府稅關職員制服ヲ著用シタルトキハ本禮式ニ依ルノ外明治四十四年六月訓令第百十一號臺灣總督府文官禮式ニ依リ敬禮ヲ行フヘシ

第二條　本禮式ニ於テ上官ト稱スルハ判任官ノ奏任官ニ對スルヲ謂フ職務上ノ被監督者ハ其ノ監督官ニ對シ又ハ監吏ノ屬、監視、鑑定官補及技手ニ對スルハ之ヲ上官ト看做ス

第三條　乘御ノ艦船若ハ舟艇ニ行遇ヒ又ハ海岸近傍ニ在リテ車駕ノ過クルヲ望見スルトキハ稅關所屬ノ汽艇ニ在リテハ進行ヲ止メ甲板上ニ起立シテ敬禮ヲ行ヒ端舟ニ在リテハ一齊ニ橈ヲ立テ橈手ハ座シタル儘姿勢ヲ正シ注目シ橈手ニ非サル者ハ總テ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年十月訓令第百三十二號臺灣總督府稅關官吏禮式心得ハ之ヲ廢止ス

【臺鮮】

第二節　忌服

●服忌令武家ノ制ヲ用ヰ京家ノ制及產穢混穢廢止

明治七年十月十七日
太政官布告第百八號

服忌ノ儀追テ被　仰出ノ品モ可有之候得共差向京家ノ制武家ノ制兩樣ニ相成居候テハ法律上不都合有之ニ付自今京家ノ制被廢候條此旨布告候事

自今產穢不及憚候事

明治五年二月二十五日
太政官布告第五十六號

自今混穢ノ制被廢候事

明治六年二月二十日
太政官布告第六十一號

（參考）

明治七年十一月十八日（京都府伺）

服忌令ノ儀ハ追テ被仰出ノ品モ可有之云々本年第百八號ヲ以テ御布告相成右武家制服忌令ノ儀ハ元祿年中改正元文年中增補ノ別册相用ヒ可然哉爲念伺

（別册）

服忌令

一父母　忌五十日　服十三月（閏月ヲカソヘス）

一養父母　忌三十日　服百五十日

遺跡相續【或ハ分地配當】ノ養子ハ實父母ノ如シ同姓ニテモ異姓ニテモ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類ハ服忌無之遺跡相續セス【或ハ分地配當】セサル養子ハ同姓ニテモ異姓ニテモ養父母ハ定式ノ通忌服可受之養方ノ兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之實方ノ親類ハ定式ノ通相互ニ服忌可受之

一嫡母　忌十日　服三十日

對面無之候ハヽ不可受服忌通路致シ候ハヽ對面無之共服忌可受之父死去ノ後他ヘ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ【妾ノ子】不可受服忌　但シ嫡母ノ親類ハ服忌無之

一繼父母　忌十日　服三十日

初メヨリ同居セサレハ無服忌

父死去ノ所繼母他ヘ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ不可受服忌　但シ繼父母ノ親類ニハ服忌無之

一離別之母　忌五十日　服十三月（閏月ヲカゾヘス）

一夫　忌三十日　服十三月（閏月ヲカゾヘス）

一妻　忌二十日　服九十日

一嫡子　忌二十日　服九十日

家督ト定メサル時ハ末子ノ服忌可受之女子ハ最初ニ生レテモ末子ニ准ス

一末子　忌十日　服三十日

養子ニ遣シ候テモ服忌差別ナシ家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之

一養子　忌十日　服三十日

家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之

一夫之父母　忌三十日　服百五十日

一祖父母　忌三十日　服百五十日

母方　忌二十日　服九十日

離別セラレ候祖母モ服忌無別儀

一曾祖父母　忌二十日　服九十日

母方ニハ服忌無之　但シ遠慮一日

【參輯】

一高祖父母　忌十日　服三十日

母方ニハ服忌無之　但シ遠慮一日

一伯叔父姑　忌二十日　服九十日

一母方　忌十日　服三十日

父母種替リノ兄弟姉妹ハ半減ノ服忌可受之

一兄弟姉妹　忌二十日　服九十日

別腹タリトイフトモ服忌ニ無差別

一異父母兄弟姉妹　忌十日　服三十日

一嫡孫　忌十日　服三十日

嫡孫承祖タル時ハ嫡子ノ服忌可受之祖父母死去ノ時モ嫡孫ノ方ヘモ五十日十三月ノ服忌可受之此外ノ親類服忌差別ナシ曾孫玄孫タリトイフヿ同例也

一末孫　忌三日　服七日

女子ハ最初ニ生レテモ末孫ニ准ス娵方ノ孫服忌同前

一曾孫玄孫　忌三日　服七日

娵方ニハ曾孫玄孫共ニ服忌無之

一從父兄弟姉妹　忌三日　服七日

父ノ姉妹ノ子並母方モ服忌同前

一甥姪　忌三日　服七日

姉妹ノ子モ服忌同前

異父兄弟姉妹ノ子ハ半減ノ服忌可受之

一七歲未滿ノ小兒ハ無服忌

父母ハ三日遠慮其外ノ親類ハ同姓ニテモ異姓ニテモ一日遠慮日數過承候ハヽ追テ不及遠慮　但シ八歲ヨリ定式ノ服忌可受之

附七歲未滿ノ小兒ノ方ヘモ服忌無之父母死去ノ時ハ五十日遠慮其外ノ親類ハ一日遠慮父母ハ年月ヲ經テ承候共聞付ル日ヨリ五十日遠慮スヘシ

一聞忌之事

遠國ニオヰテ死去年月ヲ經テ告來ルトイフトモ父母ハ聞付ル日ヨリ忌五十日服十三月其外ノ親類ハ聞付ル日ヨリ服忌殘ル日數可受之忌ノ日數過テ告來ラハ一日遠慮服明候トモ同前

一重ル服忌之事

父ノ服忌イマタ不明内母ノ服忌有之ハ母ノ死去ノ日ヨリ五十日十三月ノ服忌可受之オモキ服忌ノ内カロキ服忌アリテ日數終ラハ追テ不及受服忌日數アマラハ殘ル服忌ノ日數可受之

【穢之事】

一【產穢】　【夫七日】　【婦三十五日】

【遠國ヨリ告來七日過キ候ハヽ穢無之七日ノ内承リ候ハヽ殘ル日數ノ穢タル可シ血荒流產同斷尤妾ノ產穢ノ時モ同例】

一【血荒】　【夫七日】　【婦十日】

一【流產】　【夫五日】　【婦十日】

【形體有之ハ可爲流產形體無之ハ可爲血荒】

一【死穢】　【一日】

【家ノ内ニテ人死候時一間ニ居合候ハヽ死穢可受之數居ヲ隔候ヘハ穢無之一間ニ居合候トモ不存候ヘハ穢無之二階ニテモ揚リ口數居ノ外ニ有之候ヘハ穢無之候家ナキ所ニ死人有之時ハ其骸有之地計リ穢候家主

【參輯】

死去候テモ死穢ノ儀差別無之死後其所ヘ參リ候者ハ骸有之候其踏合ノ穢也】

一【踏合】　【行水次第】

一【改葬】　【遠慮一日】

【子ハ不殘遠慮　但シ不承候ハヽ追テ不及遠慮候忌掛リ候親類改葬ノ場ヘ出候者ハ遠慮ス可シ忌不掛親類ハ其場ヘ出候共不及遠慮候改葬ノ主ニナリ候ハヽ他人ニテモ一日遠慮ス可シ】

【附堀起シ候日ヨリ葬候迄日數有之候ハヽ子ハ不殘堀オコシ候日ト葬儀日ト二日ノ遠慮ナリ他人ニテ改葬ノ主ニナリ候者ハ同斷但シ堀起シ候翌日ヨリ葬リ候前日マテハ幾日ニテモ不及遠慮候】

【改葬ノ儀遠所ニテ申付日限存候ハヽ其日遠慮スヘシ日限不存相濟候後承候ハヽ追テ不及遠慮候】

元祿六年十二月二十一日

追加

一養父死去以後養母同居セストイフトモ他ヘ不嫁候ヘハ服忌可受之他ヘ嫁スルニ於テハ服忌無之

一養父ノ妻養ハレサル以前ニ死去候ハヽ嫡母ニ准シ其親類忌無之

一父ノ後妻ト通路イタシ候ハヽ對面無之トモ繼母ノ服忌可受之

一義絕ノ嫡子ノ服忌ハ末子ニ可准之此外ノ親類義絕トイフトモ服忌別儀ナシ

一女子婚儀以前ヨリ養ハレ或ハ入聟ヲ取家督相續ノ時ハ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之

一婚儀イマタ相調ハサル内ニテモ祝儀取カハシ候ヘハ夫婦相互ニ定式ノ

忌ノ日數可遠慮但シ服無之

一【父ノ妾服忌無之】

一【妾ハ服忌無之　但シ子出生ニオイテハ三日遠慮血荒流産有之計リテハ妾死去ノ時遠慮無之】

一遺跡相續セス【或ハ分地配當】セサル養子養方ノ兄弟姉妹他家ヘ養ハル、者ニハ相互ニ服忌無之

一同姓ニテモ異姓ニテモ一人ヘ兩様ノ續有之ハ重キ方ノ服忌可受之

一名字ヲ授候計ニテハ相互ニ服忌無之本姓ノ方ノ親類定式ノ通服忌可受之

一離別ノ女ハタトヒ實子有之他ヘ不嫁候トモ夫婦ノ緣キレ候故相互ニ服忌無之

一子無之死去候者名跡相續ノタメ新規ニ家督相續ノ時ハ養父ノ如ク服忌可受之死去候者ノ妻ハ養母ニ可准之死去候者七歳未滿ニ候ハ、服忌無之五十日可遠慮死去候者ノ親類ハ父母ニ定式ノ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之

一養子願書差出之【老中】請取之其以後死去候ハ、家督不定内ニテモ養父母計リ五十日十三月　服忌可受之

一半減ノ日數三十日ハ十五日ナリ餘ハ准之

但シ七日ハ四日也三日ハ二日也

一一日ト有之ハ當夜ノ九ツ時ヨリ明ル夜ノ九ツ時マテ也九ツ前ニ候ヘハタトヒ四ツ半過ニテモ一日ノ積也

右十六箇條元祿六年追加ノ内也

【臺帳】

今般聊省略而書載之

一【妾腹ノ子】其父嫡母繼母ヲ以テ養母ニ定ムルトキハ忌五十日服十三月可受之母方ノ親類ノ服忌養實ノ差別家督相續ノ養子ノ如クタル可シ嫡母ノ子繼母ノ服忌ニ於テモ父ノ極メ次第右ニ同シ　但シ繼母方ノ親類ニハ服忌無之

一家督相續ノ養子タル者實方ノ養母嫡母繼母服忌無之【分地配當】セサル養子ハ右ノ服忌可受之

一養方ノ伯叔父姑兄弟姉妹人ニ養ハル、者ハ半減ノ服忌可受之實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹他家ヨリ養ハル、者モ服忌無差別

一其身養子ニ參リ實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹ノ内人ニ養ハル、トイフトモ其儘半減ノ服忌タル可シ

一父養子ニテ其子人ノ養子ニ參リ候時ハ父ノ父母兄弟姉妹養實トモニ半減ノ服忌可受之或ハ父モ養子其身モ養子ノ時ハ養父ノ實方服忌無之若シ實方ニ付テ半減ノ服忌可受續有之ハ服忌可受之

一半減ノ服忌ニ祖父母伯叔父姑兄弟姉妹ト有之ハ母方ノ祖父母伯叔父姑異父兄弟姉妹モ同例

一嫡子ヲ人ノ養子ニ遣ハス時ハ服忌末子ノ如クタル可シ

右七箇條更增補之

元文元年九月十五日

(太政官指令)明治八年一月七日

伺之通

但産穢及ヒ混穢不及憚儀ハ明治五年第五十六號同六年第六十一號布告之通可相心得事

●忌濟ノ節除服出仕宣下ヲ止メ忌濟ノ日ヨリ出仕セシムルノ件

明治三年正月二十九日
第六十五號太政官布告

【臺帳】

從來著服之輩忌濟之節除服出仕　宣下有之候處自今前以忌服何日迄ト相屆置忌濟之日ニ相當リ候ヘハ勝手ニ出仕可致事

【但忌濟當日御神事中ニ候得ハ可相憚於重服者御神事竝御　吉日トモ可相憚事】

●各省奏任官除服出仕達方

明治六年二月十四日
太政官布告第五十二號

諸省

奏任官ノ輩御用ノ都合ニ付除服出仕ノ儀ハ是迄宣下相成候處自今其管轄長官ニテ相達シ【其時々可屆出】事

●遠地出張在勤官吏忌服中出仕方

明治六年十月十五日
太政官布告第三百四十七號

省、使、府縣

遠地出張在勤ノ勅奏官員忌服ヲ受ケ御用差支已ムヲ得サルノ節ハ除服宣下又ハ該長官差圖ニ及ヒ候迄忌服ノ儘出仕被差許候條此旨相達候事

但判任官員之レニ准シ候場合ニ於テハ勿論同様ノ儀ト可相心得事

●地方官員除服出仕方

明治八年一月十八日
太政官達第十號

【使、府縣】

地方官員除服出仕ノ儀辛未十二月中相達候趣モ有之候處自今左ノ通相定候條此旨相達候事

一奏任以上ノ官員忌服中事務差支有之節ハ其長官ヨリ忌日數半減ニテ除服出仕相達長官同様ノ節ハ代理ノ者ヨリ相達【其旨屆出ヘシ】

但差懸リタル事務有之不得止節ハ半減内ト雖トモ本文ノ通取計苦シカラス

一同上在東京ノ節ハ【出張所】ヨリ【正院】ヘ申立ヘシ

一同上出張ノ節ハ明治六年第三百四十七號達ノ通タルヘシ

明治三十一年八月十二日
閣令第四號

明治八年太政官第十號達ニ依リ除服出仕ヲ命シタルトキハ自今屆出ニ及ハス

第六章　服制　徽章

第一節　服制

●臺灣總督府文官服制

明治三十二年二月十八日
勅令第三十九號

〔臺報〕

（改正　明治四四年勅令第一四三號、大正二年第一七號、八年第四三〇號、九年第九二號）

朕臺灣總督府文官服制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府文官ノ服制左ノ通定ム但シ別ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム（明治三十二年三月臺灣總督府令第十七號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

種別		勅任	奏任	判任
上衣	地質	紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白地リンネル	同上	同上
	製式	竪襟長ジヤケツト形、扣鈕ヲ以テ留メ幅六分ノ七子織黒毛線ヲ付テ縁ヲ取リ表隠シ左右下部各一箇幅三分ノ七子織黒毛線ヲ以テ縁ヲ取ル但シ夏服ニ於テハ滌ヲ白色線トス	同上	同上
	袖章	幅六分ノ七子織黒毛線一條ヲ半面ニ繡フ但シ夏服ニ於テハ白色線トス	同上	同上
	肩章	長サ五寸五分總サ座幅四寸一分總テ金線製總サ座ヘ斜徑七分ノ金色台字章三箇ヲ附シ總サ金籠子目線前總サ長サ三寸三分徑三分ノモノ二十一條裏總サ長サ二寸七分徑二分五厘ノモノ十九條ヲ附シ金色無地徑四分ノ釦一箇ヲ附ス肩章差込座ハ幅五分ノ七子織黒毛線一條トシ夏服ニ於テハ白色線トス	台字章二箇ヲ附シ前總サ長サ二寸徑三分ノ金籠子目線二十一條ヲ附シ裏總サヲ附セス餘ハ同上	台字章一箇ヲ附シ前總サ及裏總サヲ附セス餘ハ同上
袴	地質	紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白地リンネル	同上	同上
	製式	普通長袴	同上	同上
正	地質	紺又ハ黒羅紗	同上	同上
	製式	圓形ニシテ黒色ノ前庇及幅四分ノ支革ヲ附シ支革ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ台字章ヲ附シタル徑四分ノ金釦各一箇ヲ以テ留ム	同上	同上

帽	帽	徽章	前章ハ全徑一寸五分、黑天鵞絨製ノ臺上ニ斜徑七分ノ金色合字章ヲモール製九重桐ニテ抱キタルモノ（葉ハ金モール、花ハ銀モール）ヲ附シ又帽ノ周圍ニ幅四分ノ無地織金線三條ヲ纏フ	帽ノ周圍ニ幅四分ノ無地織金線二條ヲ纏フ餘ハ同上	帽ノ周圍ニ幅四分ノ無地織金線一條ヲ纏フ餘ハ同上
	略帽	地質	正帽ニ同シ	同上	同上
		製式	正帽ニ同シ	同上	同上
		徽章	帽ノ周圍ニ幅一寸二分ノ七子織黑毛線一條ヲ纏フ餘ハ正帽ニ同シ	同上	同上
劍			柄白鮫長サ五寸鞘黑革包長サ二尺三寸柄頭金具ニ櫻花一輪柄鍔胴輪及小尻金具ニ葉付櫻花二輪宛ヲ附シ又柄ニ合字章ヲ附ス全具總テ金色	柄鍔胴輪及小尻金具ニ葉付櫻花一輪宛ヲ附ス餘ハ同上	柄黑鮫柄鍔胴輪及小尻金具ニ花葉ヲ附セス餘ハ同上
劍帶			幅一寸一分黑革製鈎革七分前革長サ八寸後革二尺五分前章徑一寸三分周圍葉櫻唐草模樣ヲ附シ中央ニ斜徑六分ノ合字章ヲ附ス金具總テ金色	同上	同上
劍緒			總サ頭莖付鞠形緒金絲丸組紐徑二分莖ノ長サ一寸鞠ノ長サ一寸四分橫徑一寸一分	莖ヲ附セス長サ一寸五分橫徑九分餘ハ同上	總サ頭茶壺形長サ一寸一分橫徑八分總テ銀絲製餘ハ同上

備考

一此ノ制服ハ臺灣ニ於テ大禮服又ハ通常禮服ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ正帽ヲ著用ス

一此ノ制服ニ肩章ヲ附セス劍ヲ佩用セス略帽ヲ著用スルモノヲ通常服トス

一臺灣總督ハ服務上必要ト認ムル場合ニ於テハ夏衣夏袴ノ地質ヲ鼠色羅紗又ハ鼠色麻布トナスコトヲ得

一帽ハ通常服ノ場合ニ限リ白色ヘルメット形帽ヲ代用スルコトヲ得

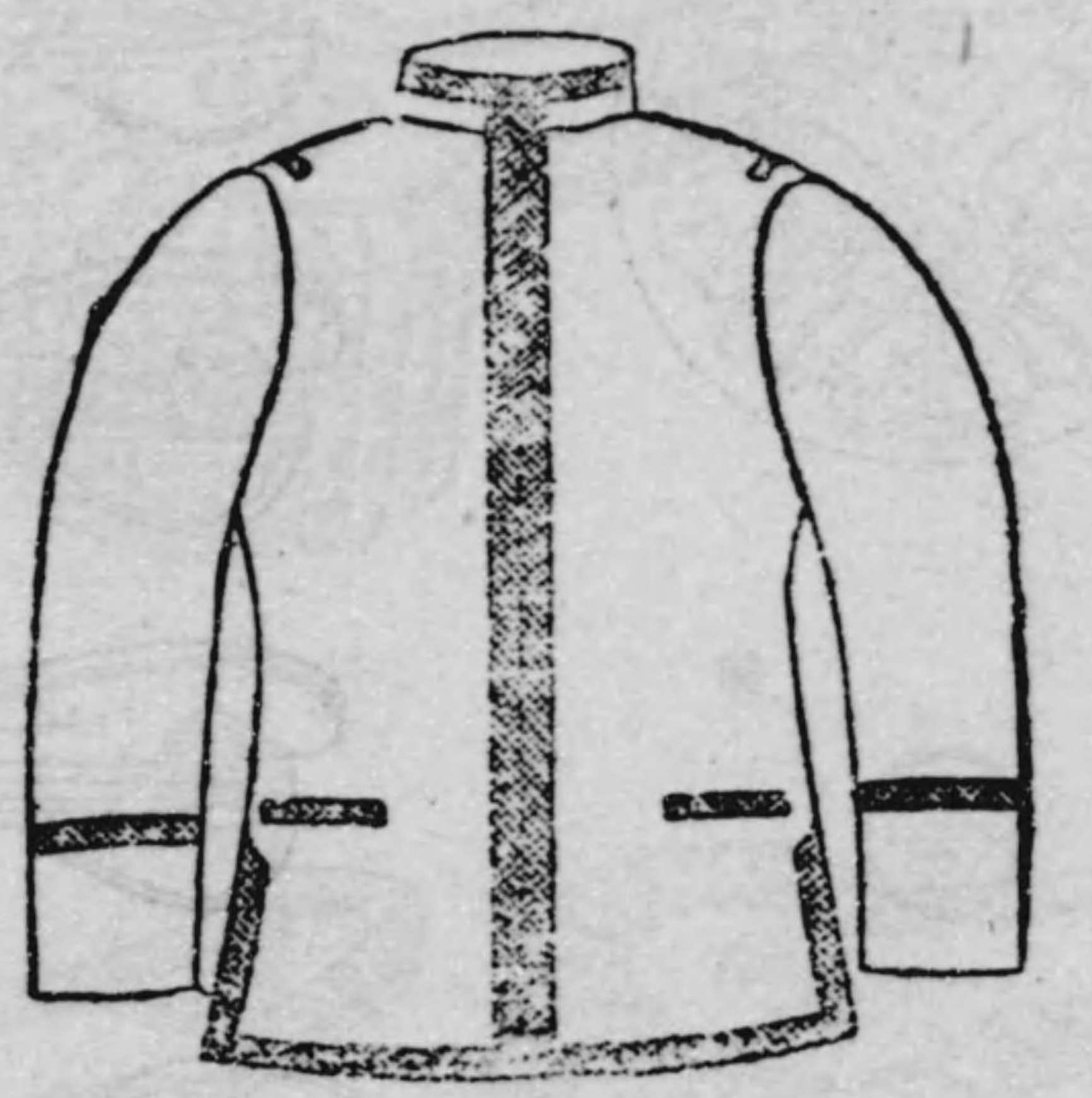
一夏ハ帽ニ白色ノ日覆ヲ附ス

一此ノ服制ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ官吏待遇職員ニ適用スルコトヲ得

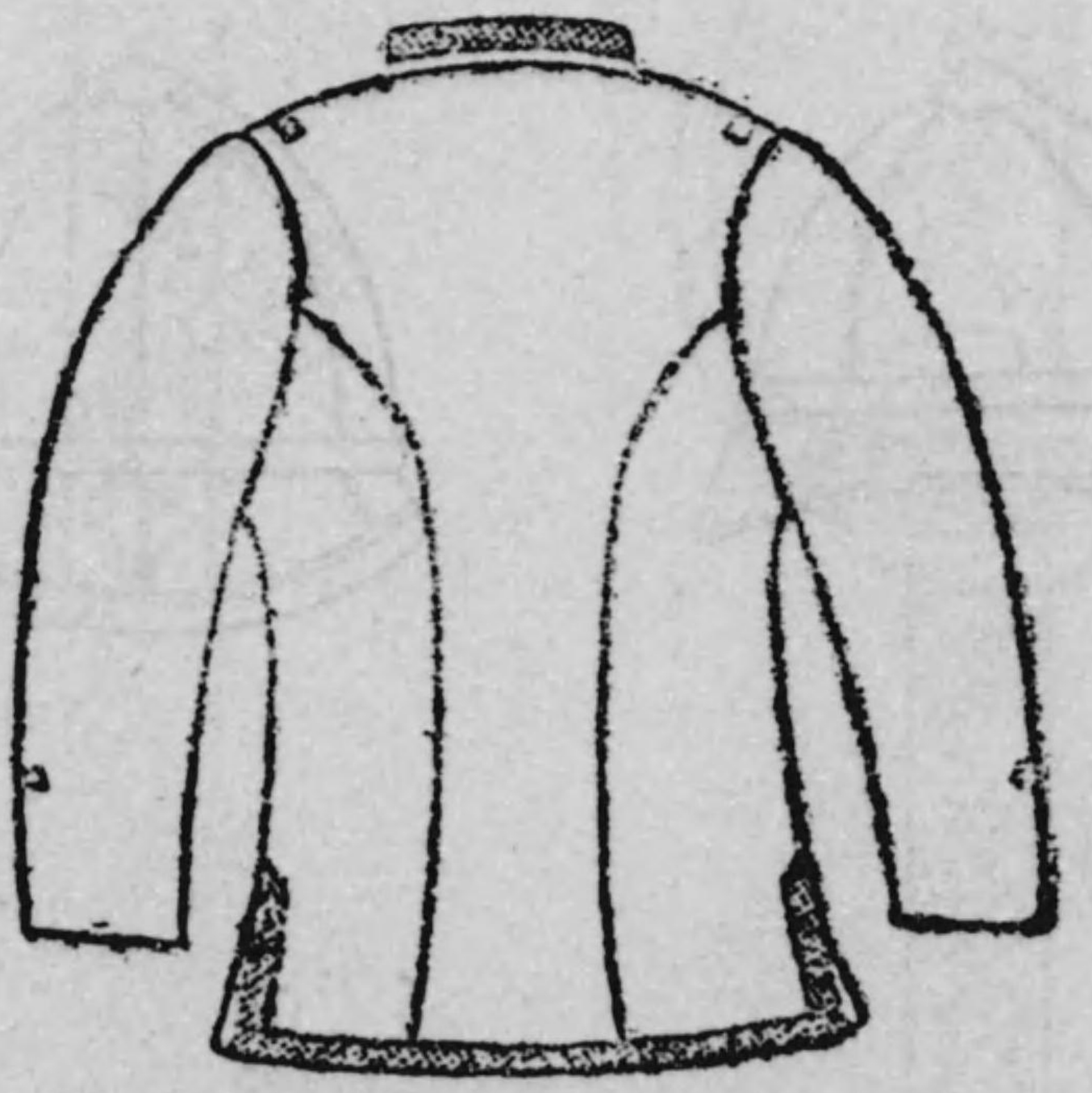
一臺灣總督府所屬官署ノ職員ニシテ現業ニ從事スル者ノ略服ハ臺灣總督之ヲ定ムルコトヲ得

上衣

前面



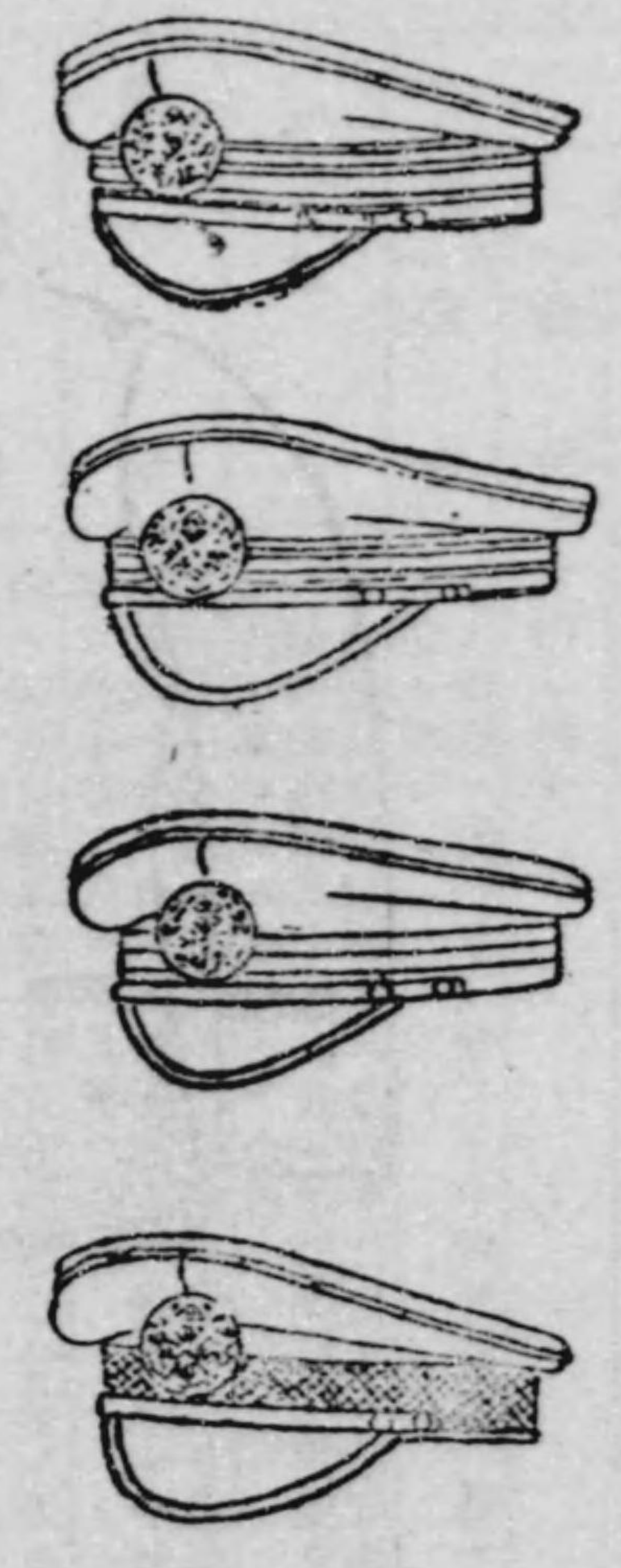
後面



帽

正帽

勅任

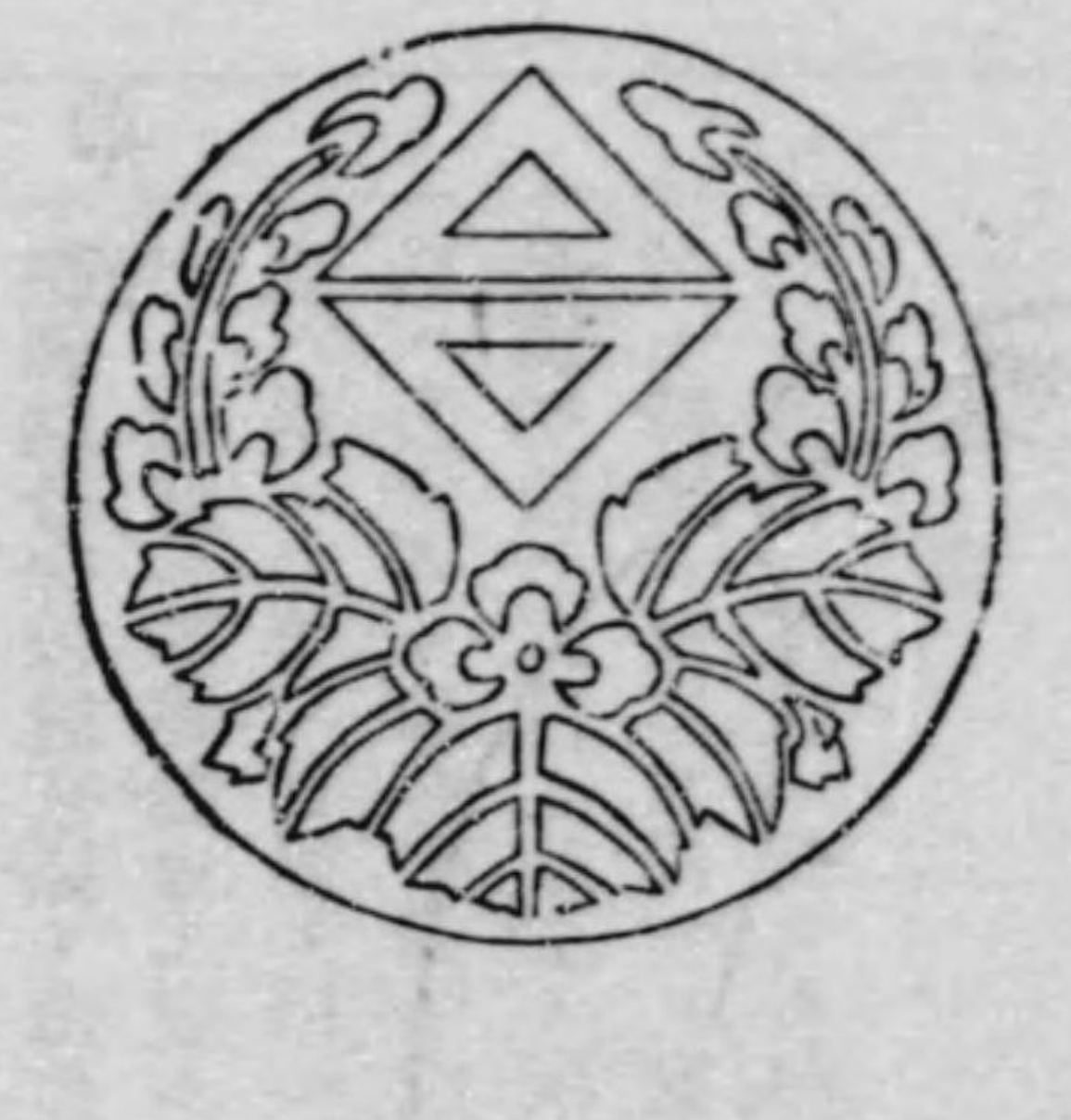


奏任

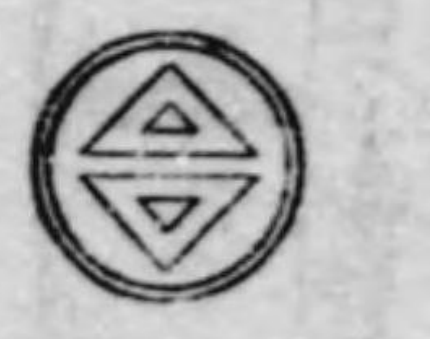
判任

略帽

前章

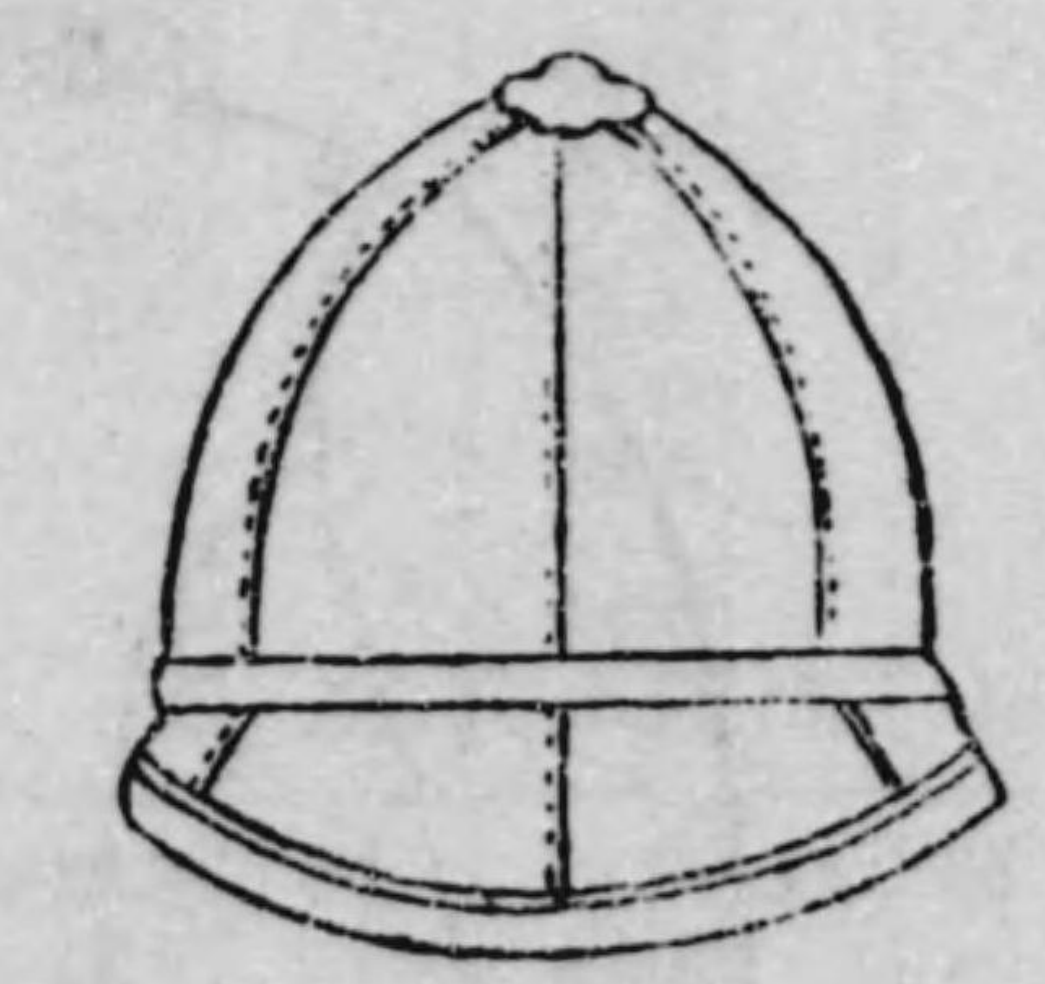


釦

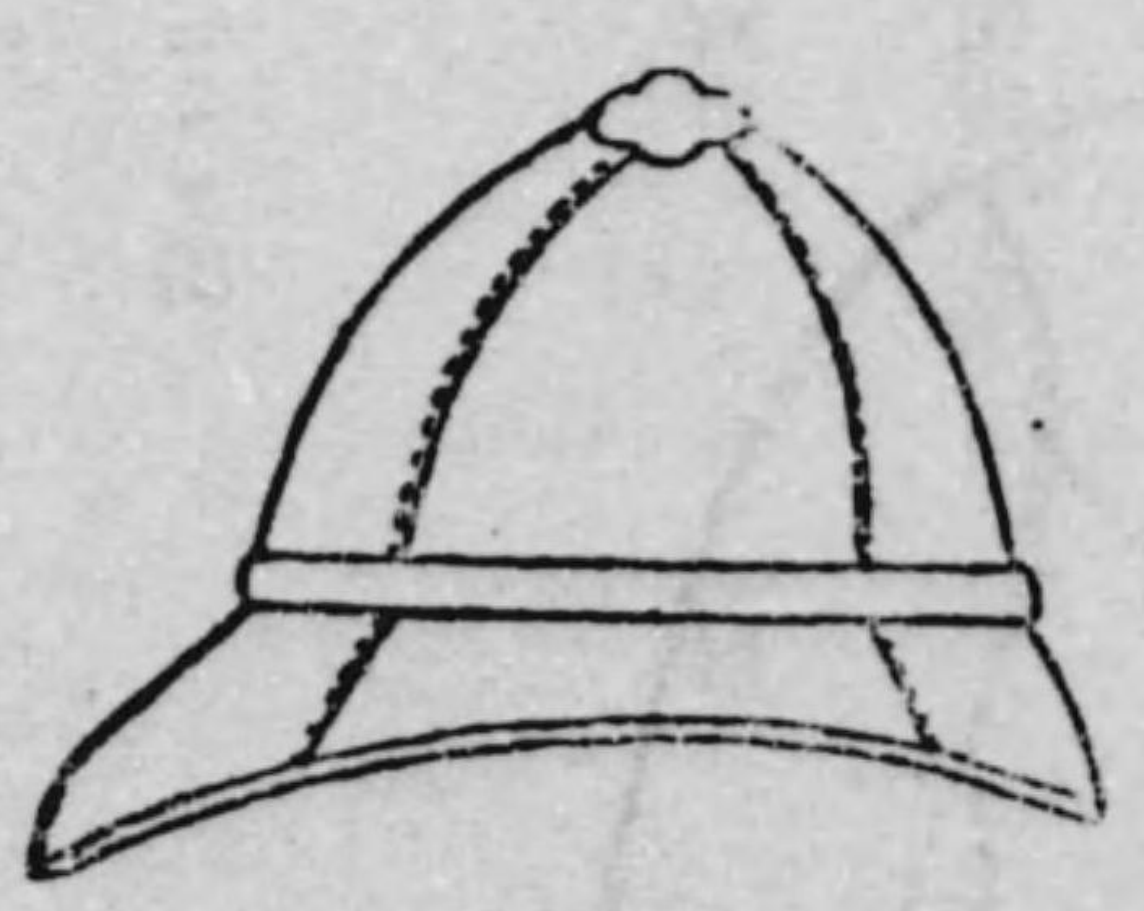


ヘルメット帽

正面

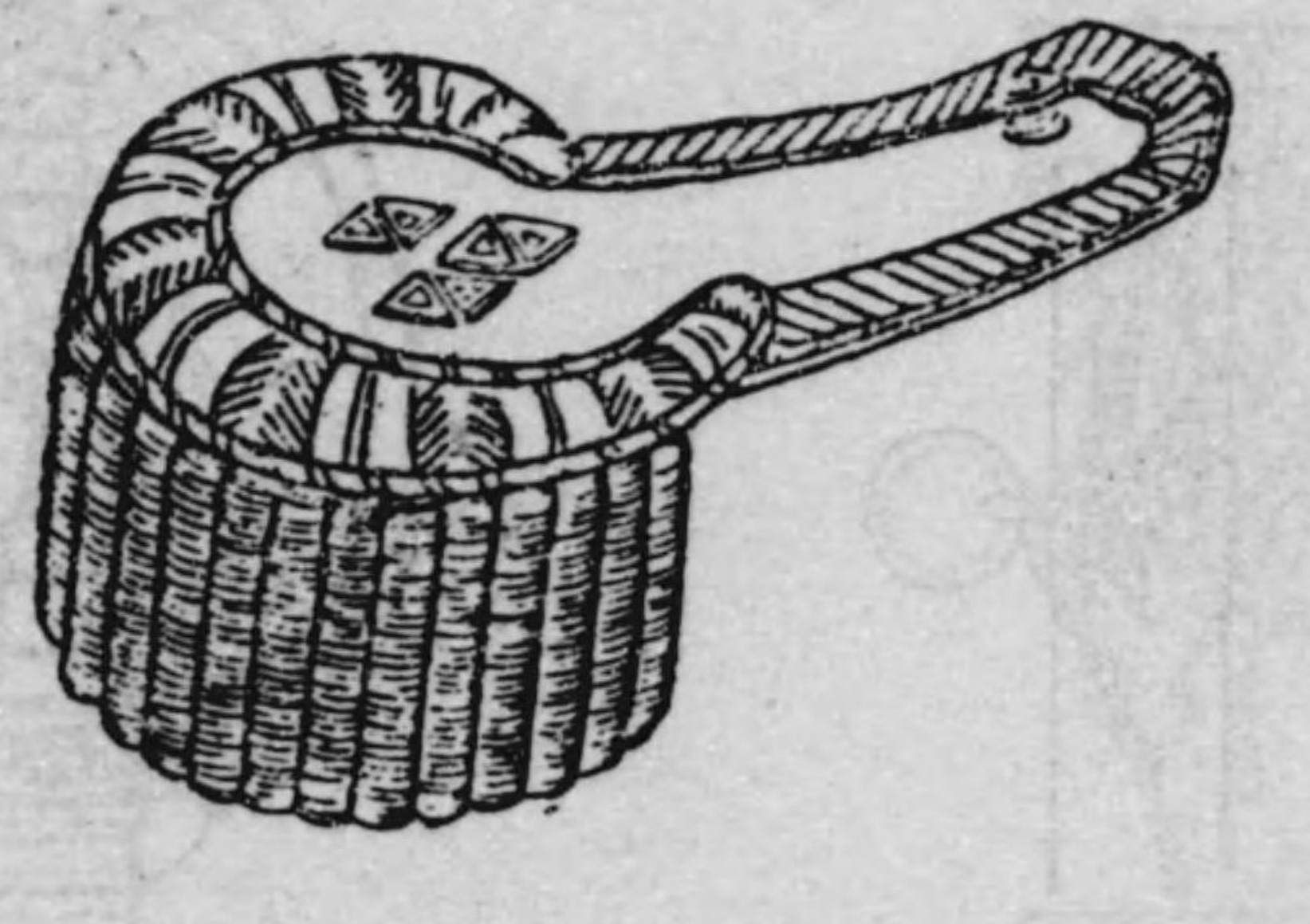


側面

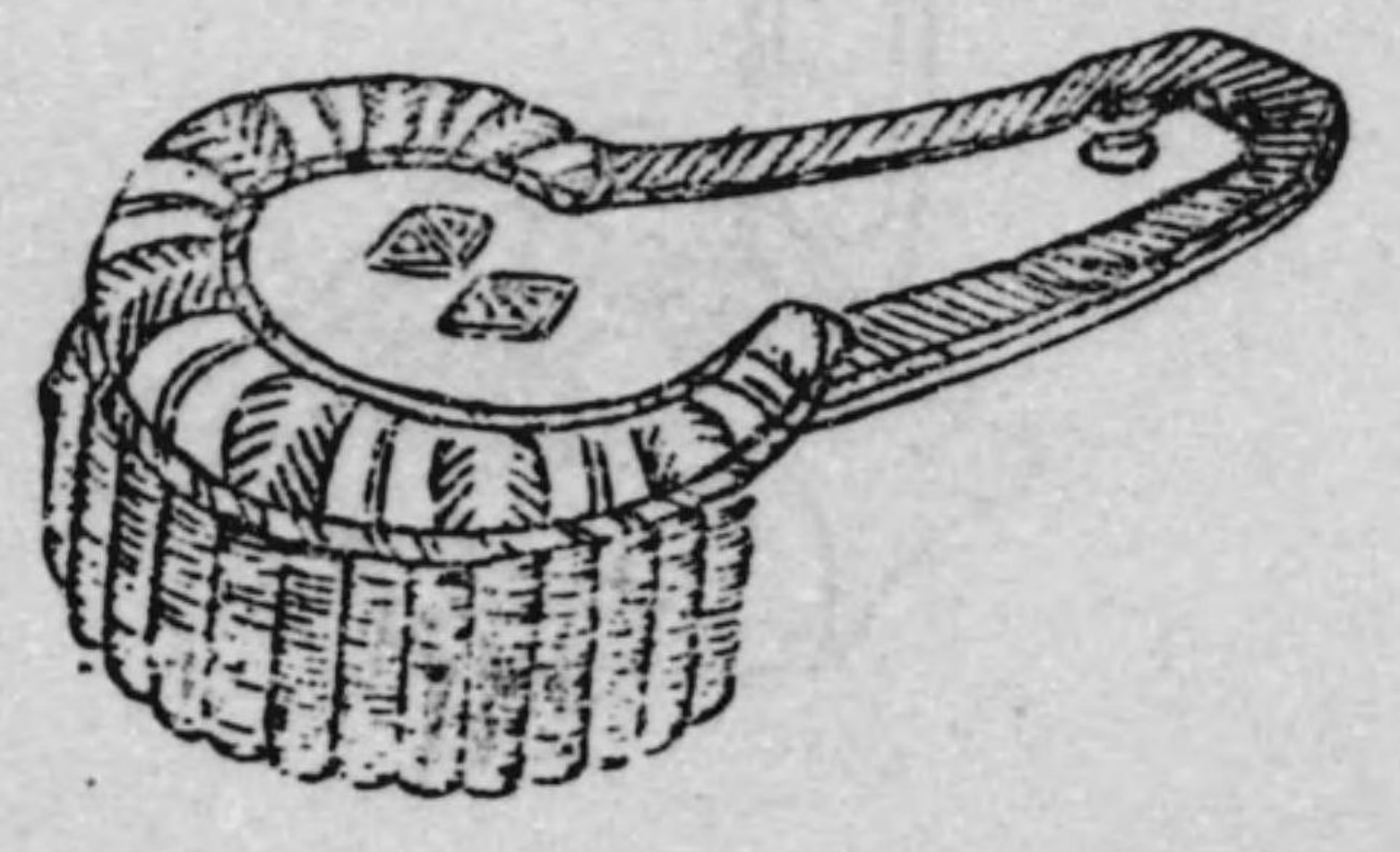


肩章

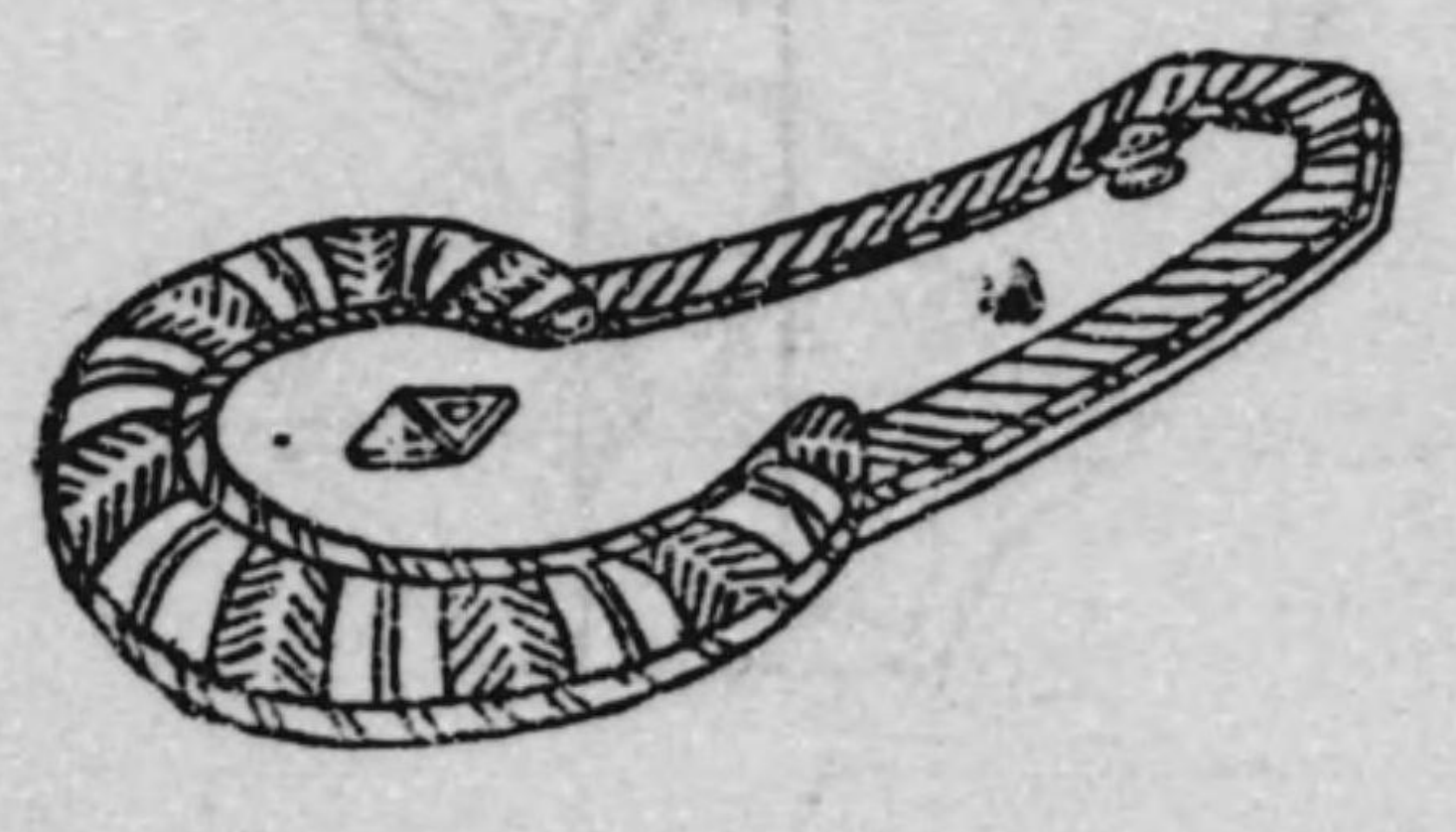
勅任



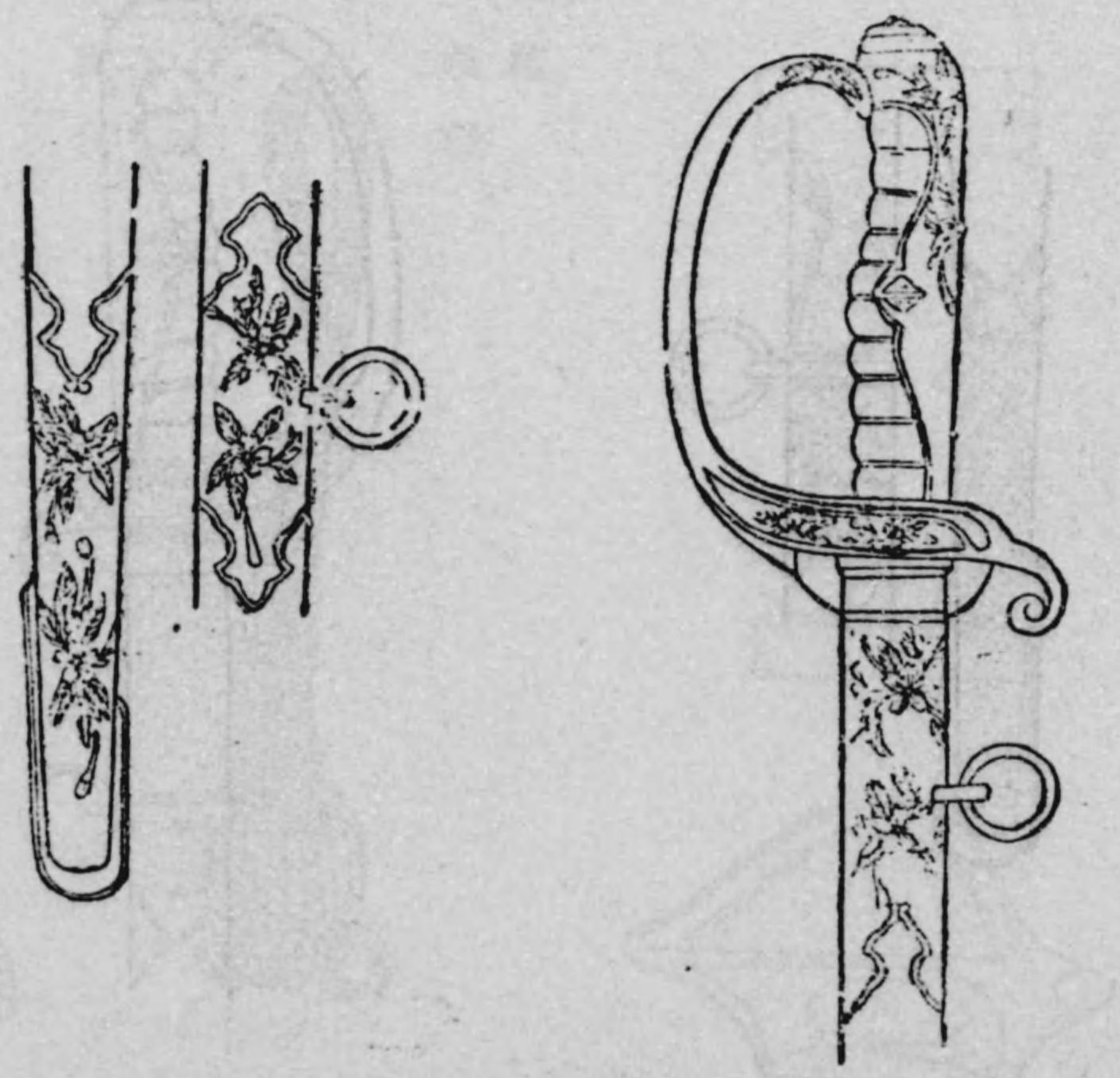
奏任



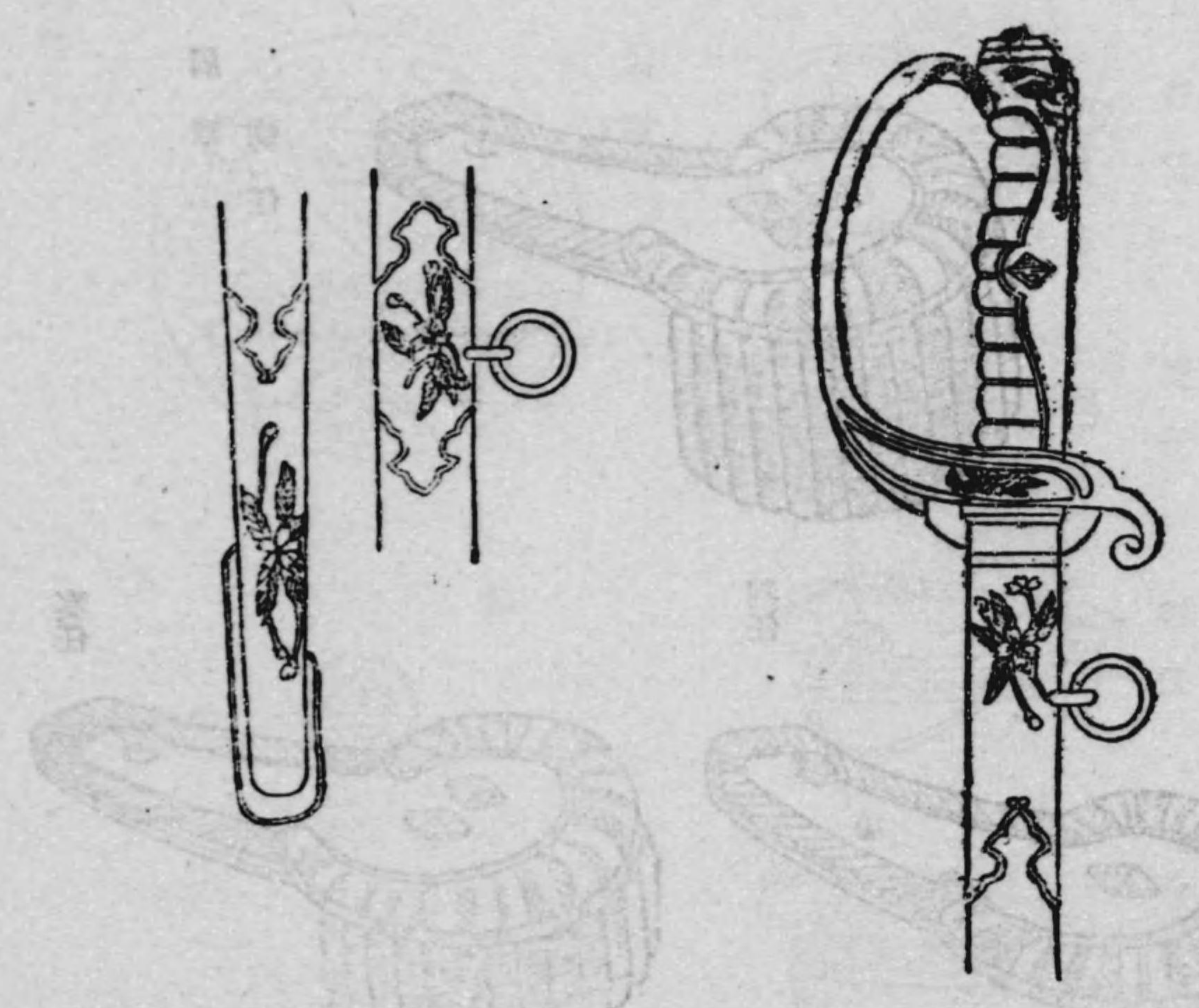
判任



勅任

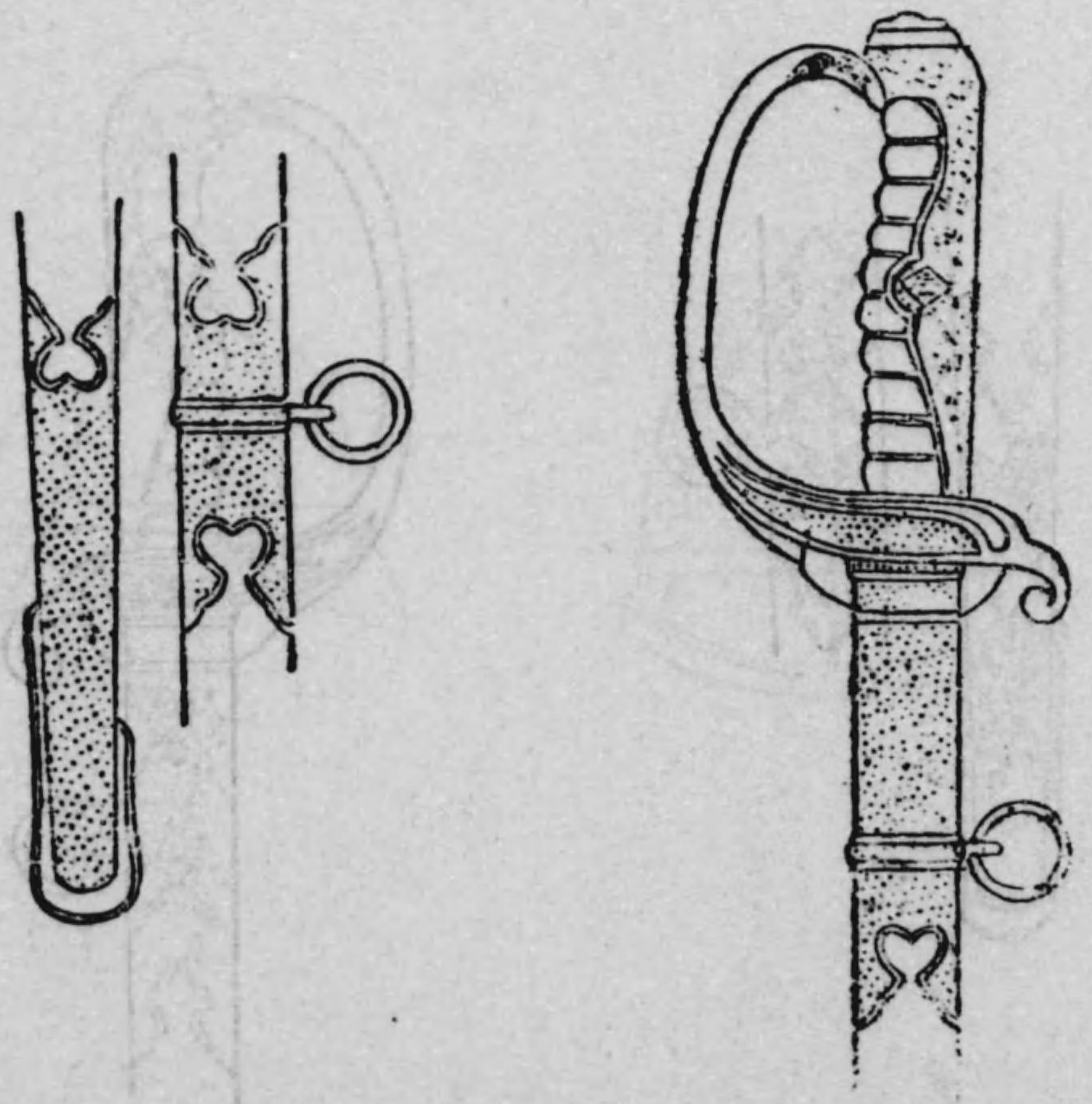


奏任



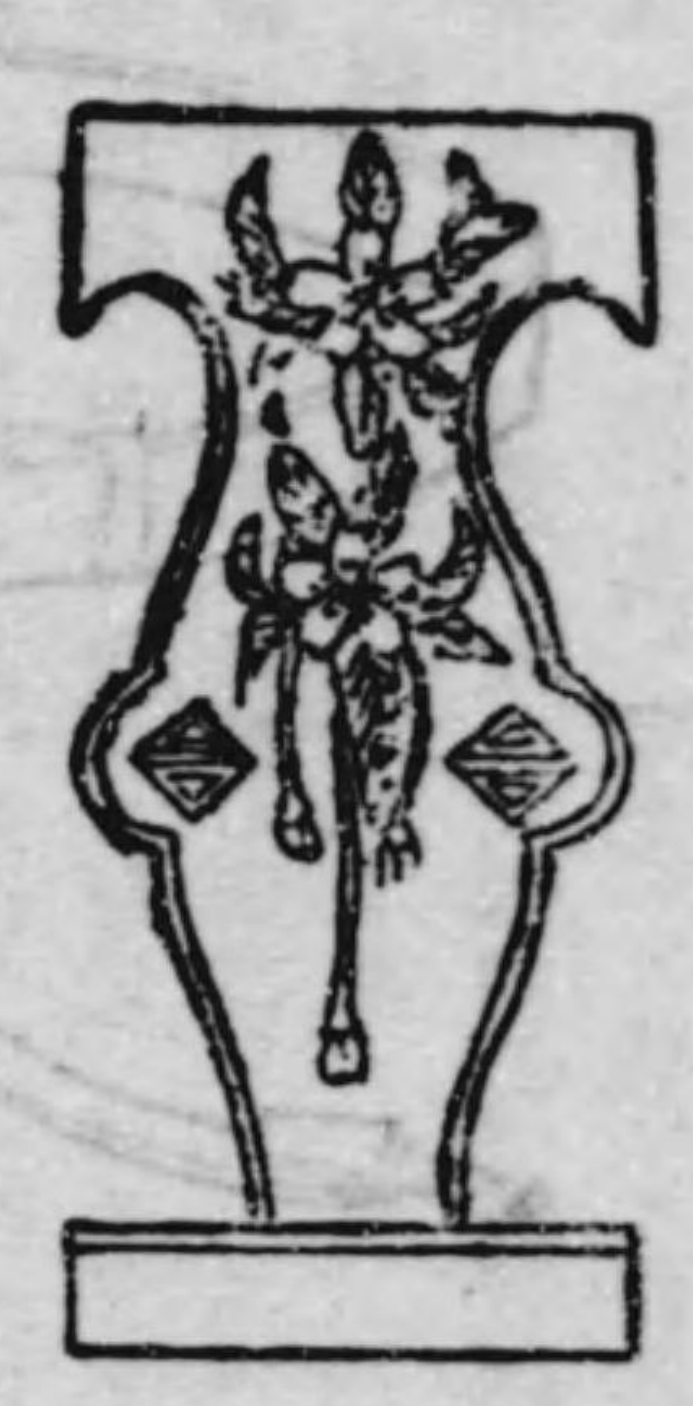
〔奏轄〕

判任

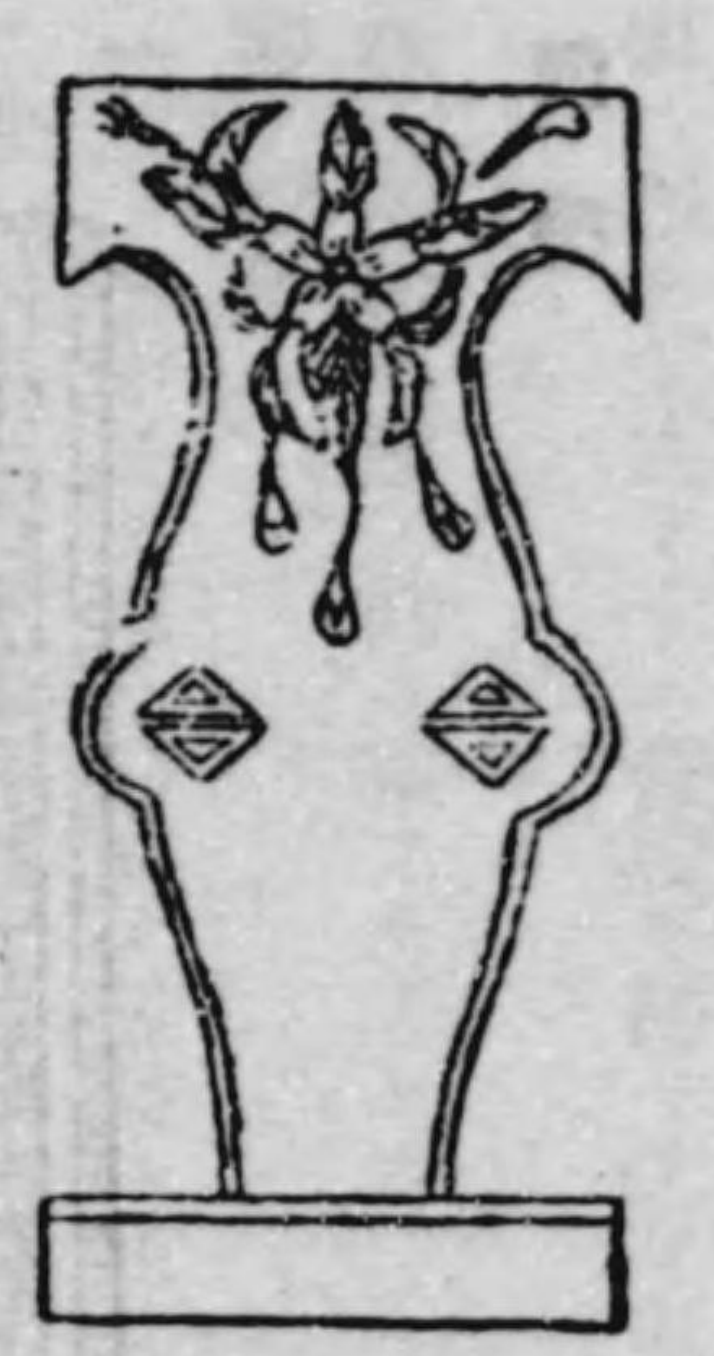


柄

勅任

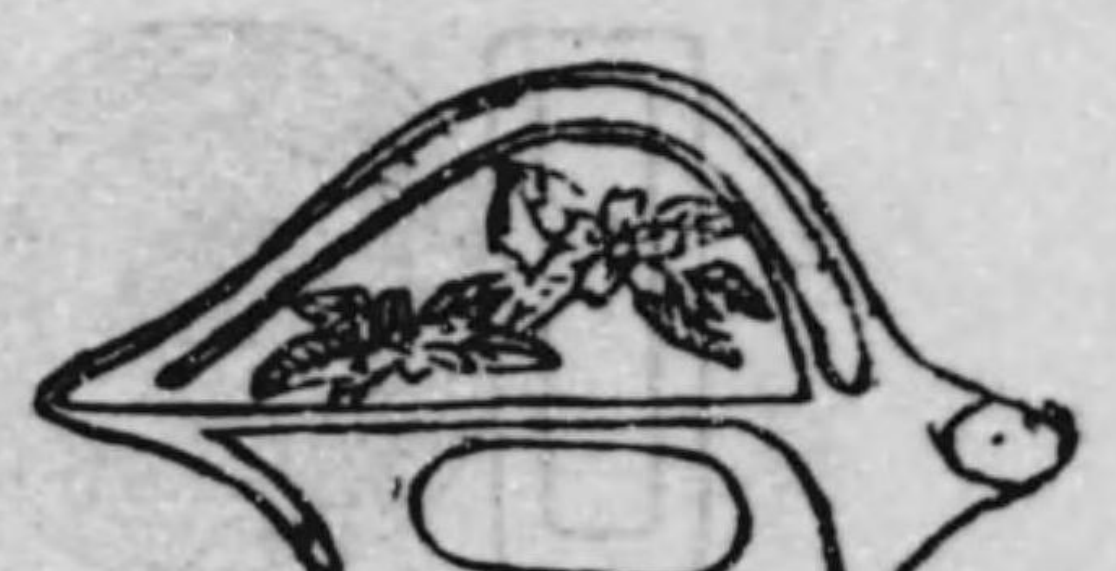


奏任

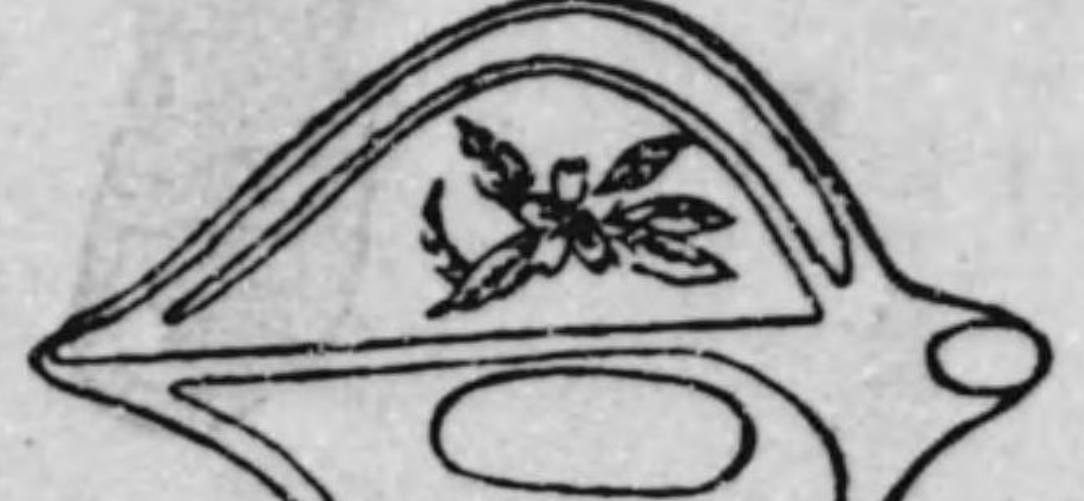


鍔

勅任

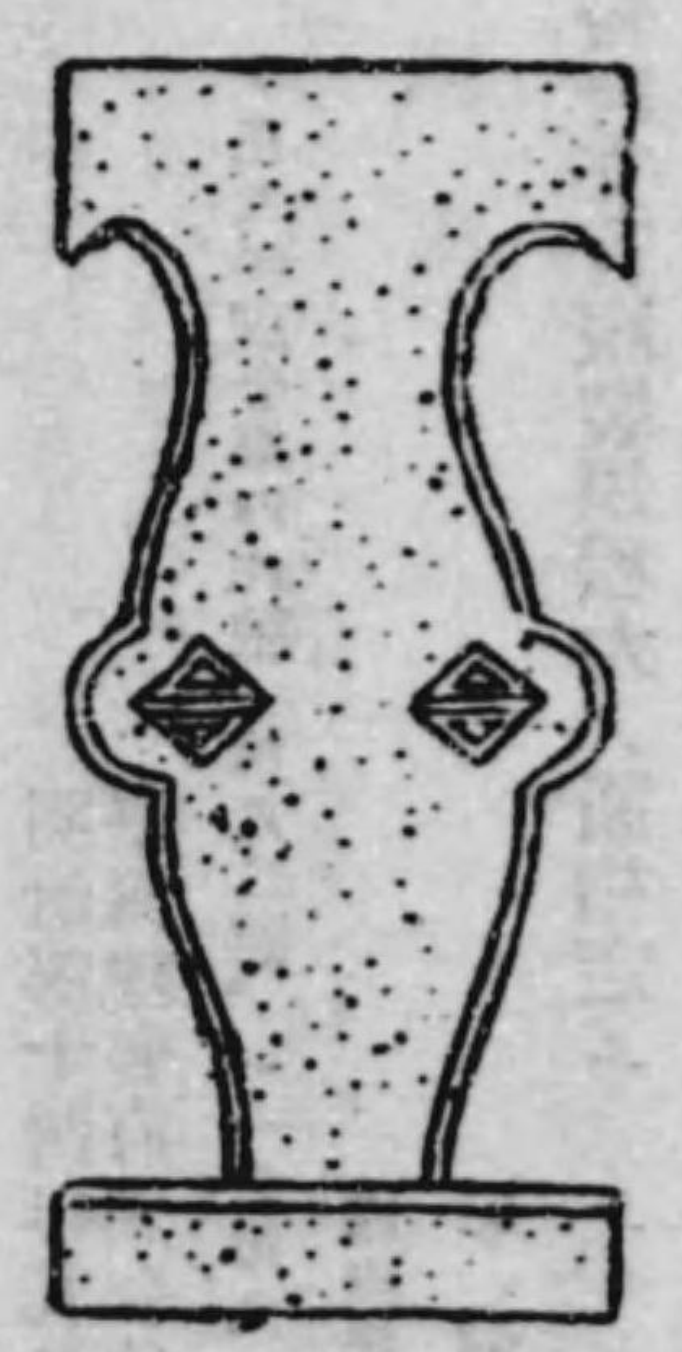


奏任

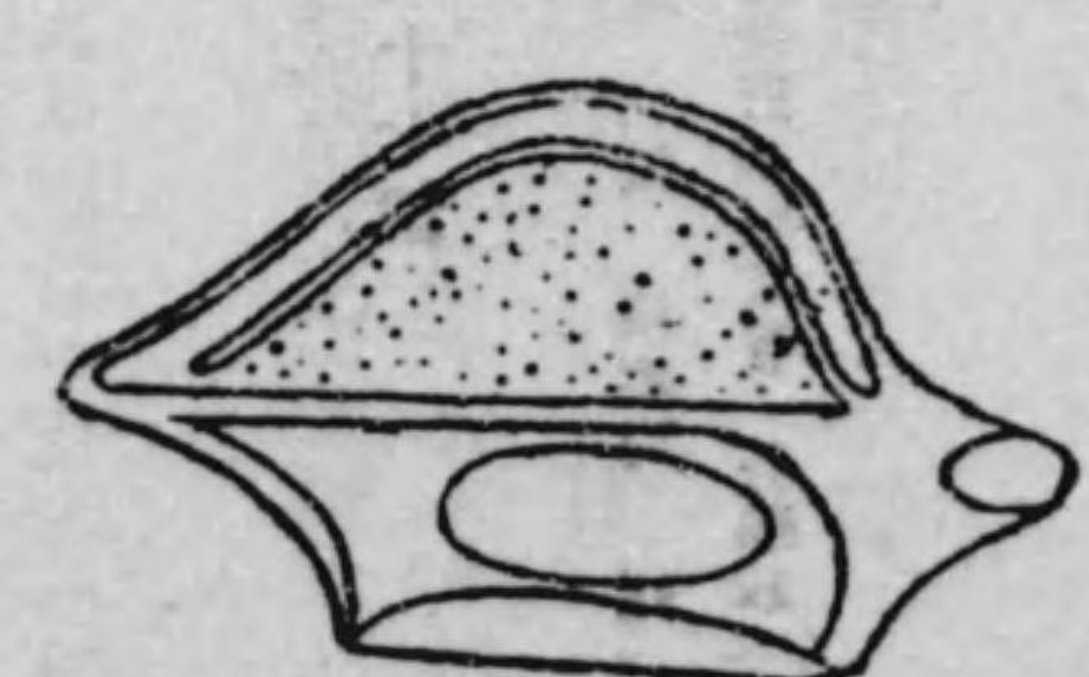


〔奏轄〕

判任

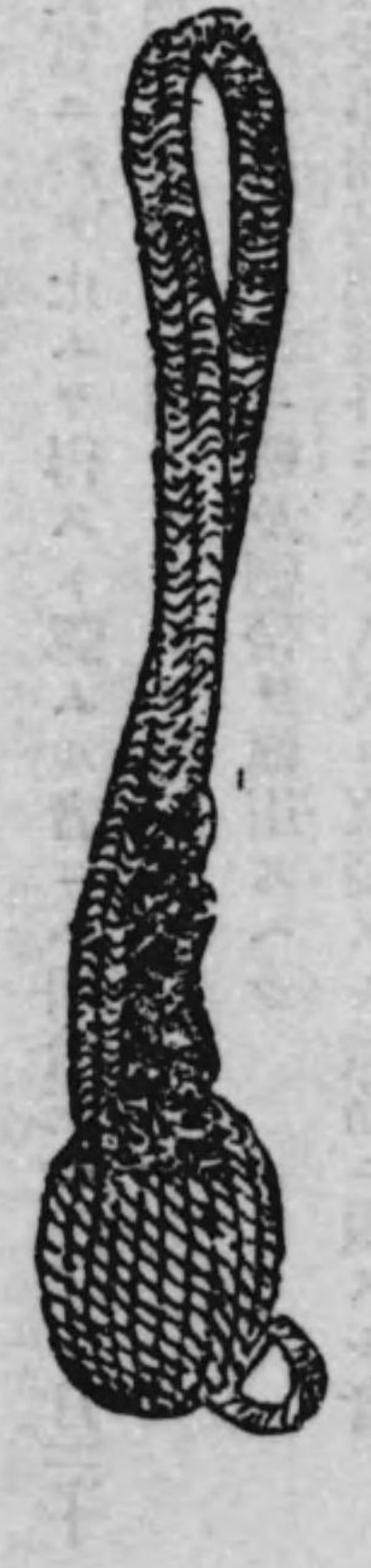


判任

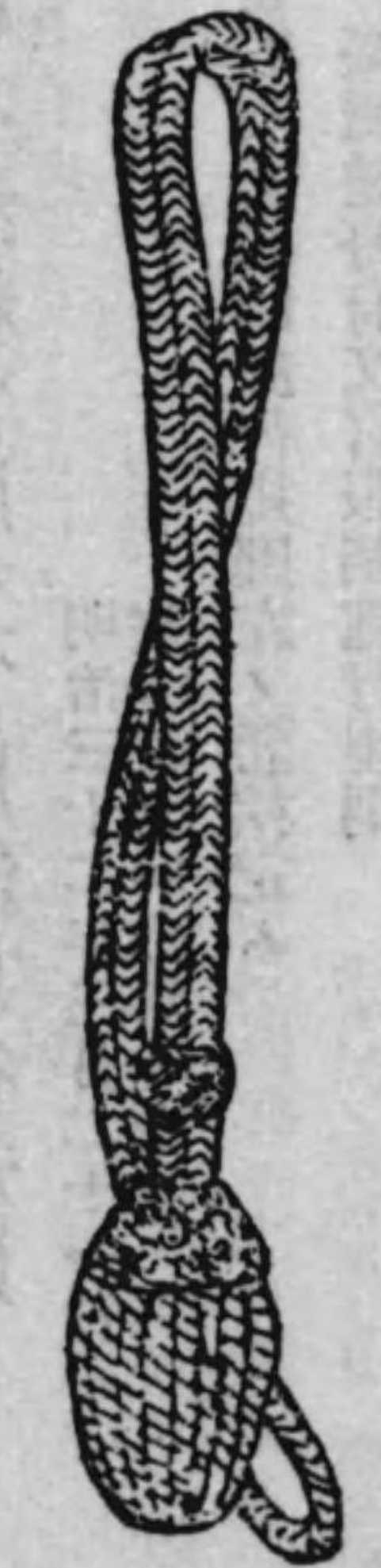


刀緒

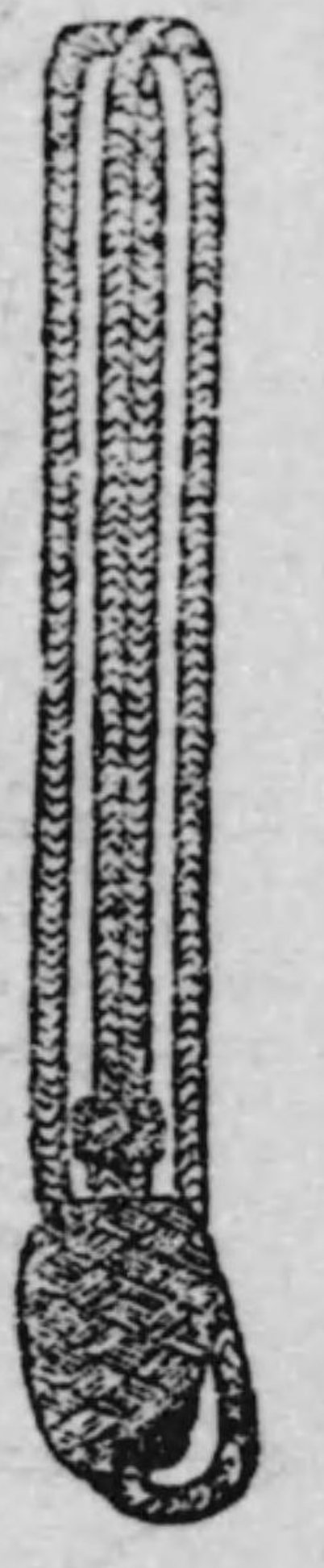
勅任

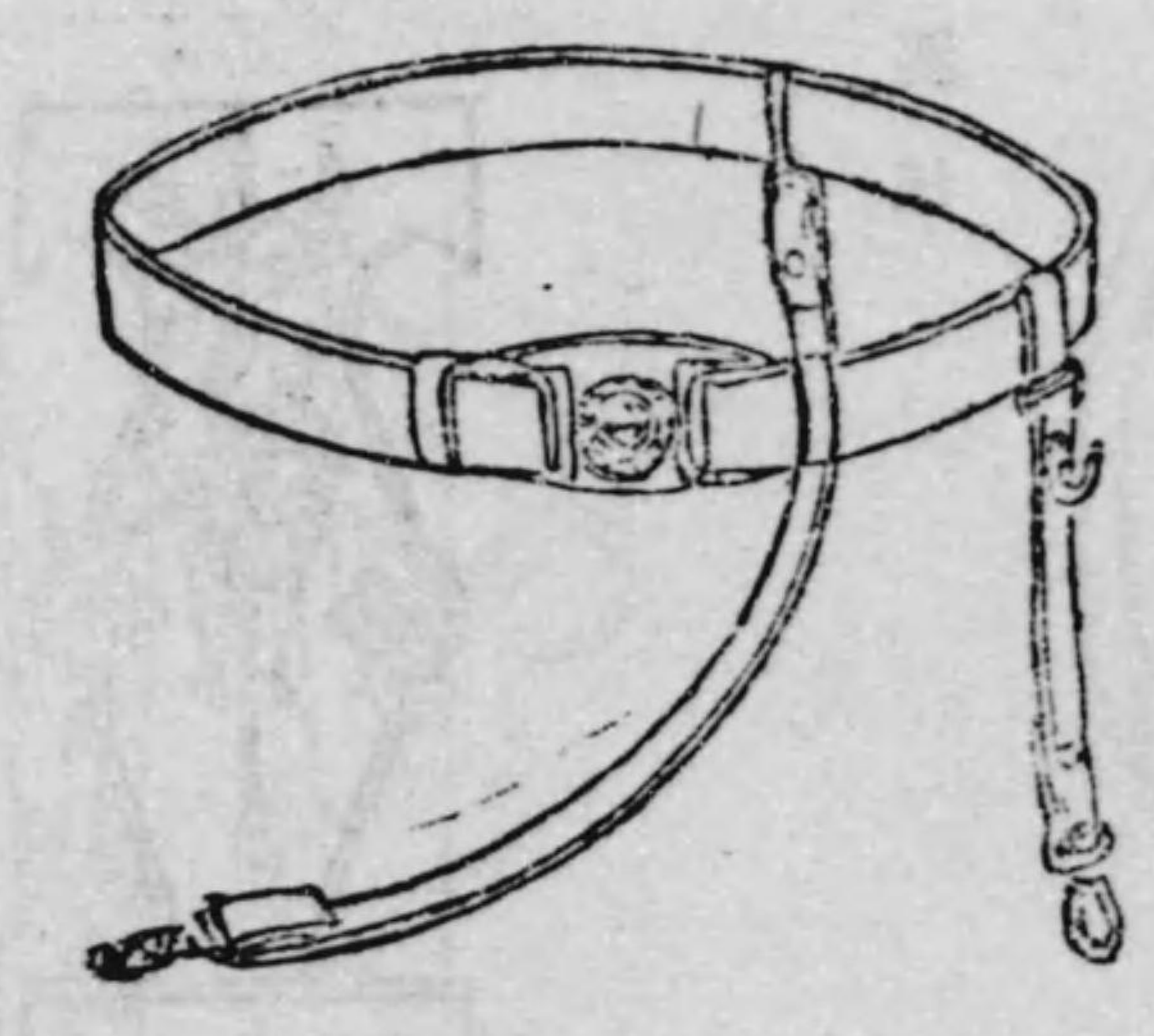


奏任

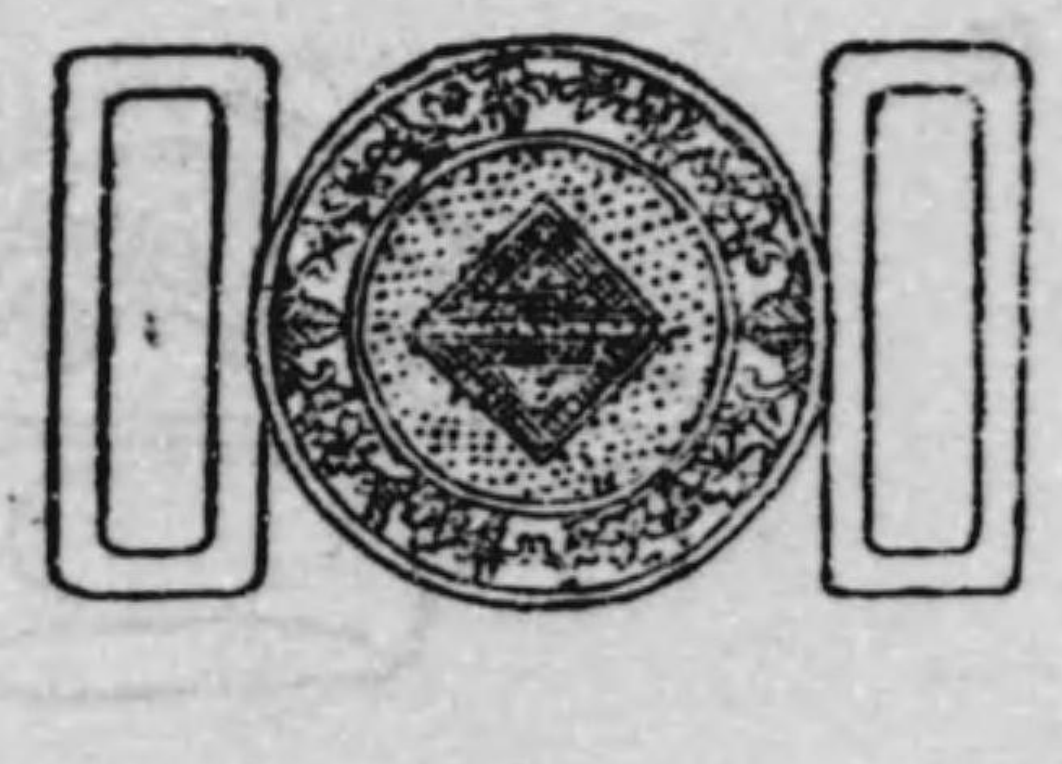


判任





劍帶



前章

●臺灣總督府文官服制施行規則

明治三十二年三月二十一日
臺灣總督府令第十七號

臺灣總督府文官服制施行規則左ノ通相定ム

臺灣總督府文官服制施行規則

第一條 明治三十二年勅令第三十九號臺灣總督府文官服制ハ明治三十二年五月一日ヨリ施行ス

本屬長官ニ於テ止ムヲ得スト認ムル者ニハ明治三十二年十月三十一日マテ服制ノ著用ヲ猶豫スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル者ニ劍及劍帶ヲ佩用スヘシ

一 收税事務其他廳外ニ於テ人民ニ直接スル職務ニ服スル者

二 其他本屬長官ニ於テ必要トスル職務ニ服スル者

●臺灣總督府文官服裝規程

明治四十四年五月
臺灣總督府訓令第八十七號

改正 大正九年訓令第四四號、第八二號、一一年第九一號

臺灣總督府　法院　檢察局　州
廳　臺灣總督府所屬官署　各學校

臺灣總督府文官服裝規程左ノ通相定ム

臺灣總督府文官服裝規程

第一條 臺灣總督府文官ノ服裝ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依ル

第二條 服裝ヲ分チテ禮裝、常裝ノ二種トス其ノ著裝具左ノ如シ

禮裝 正帽、上衣、袴、肩章、劍、劍帶、劍緒、手套、下襟、下袖及短靴

常裝 帽、上衣、袴、手套、下襟、下袖及靴

第三條 禮裝ハ臺灣ニ於テ大禮服又ハ通常禮服著用ノ場合常裝ハ通常勤務ノ場合ニ之ヲ用ウルモノトス

第四條 夏衣及夏袴ハ炎暑ノ際之ヲ著用スルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ何レノ服裝ニ在リテモ帽ニ日覆ヲ附スルモノトス

第五條 「ヘルメツト」帽ハ炎暑ノ際常裝ニ限リ之ヲ用ウルモノトス但シ鼠色ノ夏衣夏袴ヲ著用スルトキハ鼠色ノ日覆ヲ附スルモノトス

第六條 前二條ノ炎暑ノ期間ハ凡ソ四月一日ヨリ十一月三十日迄トス

炎暑期間内ニシテ寒暑定マリナキ場合ハ冬衣ニ限リ著用スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ帽ニ日覆ヲ附スルモノトス

第七條 常裝ニ限リ鼠色ノ夏衣夏袴ヲ著用スルコトヲ得

第八條 劍ハ上衣ノ下ニ劍帶ヲ締メ之ヲ佩用シ上部ノ環ヲ劍帶ノ鈎ニ掛クルヲ法トス

第九條 劍緒ハ劍ノ柄ニ纒フモノトス

第十條 削除

第十一條 勳章及記章ハ何レノ服裝ニ在リテモ之ヲ佩用スルコトヲ得

第十二條 手套ハ白色トス但シ常裝ニ限リ茶色又ハ鼠色ヲ用ウルコトヲ得

第十三條 下襟及下袖ハ何レノ服裝ニ在リテモ白色トシ下襟ハ立襟ヲ用ウルモノトス

第十四條 靴ハ黑色革製トス但シ常裝ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

白色ノ靴ハ夏衣夏袴ヲ著用シタル場合ニ限リ之ヲ用ウルコトヲ得

雨天ノ際ハ常裝ニ限リ長靴ヲ用ウルコトヲ得

旅行又ハ職務執行上必要ノ場合ハ草鞋、脚袢ヲ用ウルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ佩劍ハ明治四十四年八月三日「ヘルメツト」形帽ハ明治四十四年十一月三十日迄從前ノ例ニ依ルコトヲ得

明治三十二年三月訓令第五十七號臺灣總督府文官服裝規則ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正九年訓令第四十四號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ舊制服ヲ著用スル場合ニ於テハ仍從前ノ例ニ依ル

●服制ヲ適用スヘキ官吏待遇者

大正二年三月
臺灣總督府訓令第五十三號

改正 大正八年訓令第四〇號、九年第七六號、一〇年第一七七號、一一年第九八號、一二年第一〇七號、一三年第二三號

臺灣總督府　法院　州　廳
臺灣總督府所屬官署　師範學校

臺灣總督府文官服制ハ左ノ臺灣總督府官吏待遇者ニ之ヲ適用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【廳】警察醫

大正十年勅令第四百六號ニ依ル地方待遇職員

保健技師
保健技手
刑務所教師
作業技手
小學校准訓導
公學校准訓導
判任官見習

●臺灣總督府警察官服制

明治四十一年八月三十一日
勅令第二百六號

改正　明治四二年勅令第二八九號、大正四年第一七一號、七年第三〇九號、八年第三一七號、九年第三六〇號、一〇年第三六八號、一一年第五〇九號

朕臺灣總督府警察官服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府警察官服制別表ノ通之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ當分ノ内舊制服ヲ用ウルコトヲ得

附　則（大正九年勅令第三百六十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正九年九月一日ヨリ施行）

蕃務警視州警視及廳警視、警部州警部及廳警部、州警部補及廳警部補又ハ巡査ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内各從前ノ規定ニ依ル蕃務警視、警部、警部補又ハ巡査ノ制服ヲ用ヰルコトヲ得

附　則（大正十一年勅令第五百九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内從前ノ規定ニ依ル制服ヲ用ヰルコトヲ得（大正十一年十二月府令第百七十八號ヲ以テ同十二年十一月三十日迄仍之ヲ用ウルコトヲ得）

（別表）

【臺轄】

臺灣總督府警察官服制圖例　第一

	上衣					肩章		袴		短袴		帽				
	地質	製式	袖章	釦鈕	襟章	金具	製式	地質	製式	地質	製式	地質	地質	製式	徽章	地質
州警務部長	黑又ハ濃紺絨夏ハ鼠色綾又ハ鼠色麻布	立襟一行鈕釦長「ジヤケツト」前面ノ左右ニ各二箇ノ物入ヲ附ス	徑五分金色略日章三箇ヲ附シ幅一分五厘蛇腹組金絲一條幅一寸黑色縞織縁一條ヲ半面ニ縫フ但シ夏ハ徑五分銀色略日章三箇ヲ附シ白色二分線一條ヲ縫フ	金色（夏ハ銀色）圓形内ニ略日章ヲ附シタル徑七分五厘ノモノ五箇ヲ前部ニ附ス	長サ二寸三分幅一寸三分地質黑羅紗縁ハ幅一分五厘ノ闘套金線繩目繡ヲ施シ其ノ中間ニ幅二分ノ平織金線三條ヲ横ニ附シ徑四分ノ銀色略日章三箇ヲ附ス夏ハ襟ノ左右ニ徑四分銀色略日章各一箇ヲ附ス	略日章銀色中心ヨリ尖頭ニ至ル三分五厘釦金色徑五分	金線丸打徑二分五厘十二條ヲ鎖狀組トシ之ニ略日章三箇及上端釦一箇ヲ附ス長サ凡五寸トス	黑又ハ濃紺絨夏ハ鼠色絨又ハ鼠色麻布	長サ靴踵ノ上際ニ止マル、物入ハ兩股ニ各一箇ヲ附ス	袴ニ同シ	長サ膝關節ヨリ下ルコト二寸五分裾口ヲ裂クコト五寸之ニ鈕釦三箇ヲ附ス物入ハ兩股ニ各一箇ヲ附ス	上部黑又ハ濃紺絨下部緋絨	黑又ハ濃紺絨	圓形黑革製前庇及幅四分ノ黑革製顎紐ヲ附シ顎紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ圓形内略日章金色鈕各一箇ヲ以テ留ム天井喰出ハ幅一分トス夏ハ鼠色布ヲ覆フ	徑八分ノ金色日章ヲモール製金色櫻ヲ以テ抱擁ス其ノ縱徑一寸七分横徑二寸二分トス帽ノ周圍ニ幅五分平織金線二條ヲ纏フ	黑又ハ濃紺絨夏ハ鼠色絨又ハ鼠色麻布
警視州警視及廳警視	同上	同上	金色略日章二箇ヲ附ス但シ夏ハ銀色略日章二箇ヲ附ス餘ハ同上	同上	中間ニ平織金線二條、略日章二箇ヲ附ス餘ハ同上	同上	金線八條略日章三箇餘ハ同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	幅五分ノ平織金線一條幅三分同一條ヲ纏フ餘ハ同上	同上
警部州警部及廳警部	同上	同上	金色略日章一箇ヲ附ス但シ夏ハ銀色略日章一箇ヲ附ス餘ハ同上	同上	中間ニ平織金線一條、略日章一箇ヲ附ス餘ハ同上	同上	金線四條略日章二箇餘ハ同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	幅五分平織金線一條ヲ纏フ餘ハ同上	同上
州警部補及廳警部補	同上	同上	略日章ヲ附セス餘ハ同上	同上	中間ニ平織金線ヲ附セス餘ハ同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	幅五分平織銀線一條ヲ纏フ餘ハ同上	同上
形狀		如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖		如圖		如圖			如圖	如圖	

【臺轄】

略帽	製式	庇紐ハ幅三分柔革帽ノ内側ニ附ス帽ハ兜形ニシテ黒又ハ濃紺(夏ハ鼠色)ノ繞帯ヲ附ス幅六分、前庇ハ繞帯ノ下端ヨリ前面ニ出ツルコト二寸二分後庇ハ三寸横庇ハ一寸高サハ繞帯ノ下端ヨリ四寸三分	同上	同上	同上	如圖
	徽章	前章ノミヲ附ス帽ニ同シ夏ハ銀色トス	同上	同上	同上	
刀		柄ハ鼈甲絲金線ヲ纏フ背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色地ハ石目櫻唐草ヲ置ク鍔ハ金色櫻唐草鞘ハ「ニツケル」鍍トシ兩箇ノ釣環ヲ附ス中身ハ錬鐵	柄ハ藍鮫餘ハ同上	同上	同上	如圖
短刀				柄ハ白鮫線ハ刀ニ同シ鞘ハ總鐵磨兩箇ノ釣環ヲ附ス中身ハ錬鐵	同上	如圖
刀帯		表ハ黒護謨革裏ハ紅革製トシ長サ凡三尺五寸幅一寸釣革ノ長サ第一ノ分八寸第二ノ分二尺二寸ニシテ幅七分其ノ下端ニ茄子環ヲ附ス締輪幅五分前金具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス前金具ハ徑一寸三分五厘中央ニ日章ヲ置キ其ノ周圍ハ櫻唐草トス金具ハ總テ金色	表ハ黒護謨革裏ハ藍革製トス餘ハ同上	同上	同上	如圖
短刀帯				釣革長サ六寸五分餘ハ刀帯ニ同シ	同上	如圖
刀緒	正緒	總金線長サ二寸五分圓形中央ニテ一寸緒ハ金線丸打紐徑一分五厘長サ三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總ヲ附ス緒締金線丸組紐幅三分五厘圓形四分五厘	總圓形中央ニテ九分トス餘ハ同上	總銀線長サ一寸三分圓形中央ニテ八分緒ハ銀線丸打紐緒締ハ銀線丸組紐餘ハ同上	同上	如圖
	常緒	總黒絹絲長サ一寸三分圓形中央ニテ九分緒及緒締ハ黒絹絲餘ハ正緒ニ同シ	總圓形中央ニテ八分トス餘ハ同上	同上	同上	如圖
外套 甲種	地質	表黒又ハ濃紺絨又ハ防水布裏適宜	同上	同上	同上	
	製式	長サハ靴踵ノ上際ヲ距ルコト約八寸襟幅二寸袖ノ長サハ腕關節ヨリ延ルコト五分胸部ニ徑七分五厘金色圓形内ニ略日章ヲ鏤刻セル鈕六箇二行側部ニ同各三箇收紐同二箇ヲ附スル覆面留徑五分五厘黒角鈕三箇襟部紐留二箇後裂留四箇ヲ附ス左右ノ腰部ニ物入各一箇ヲ設ク	同上	同上	同上	如圖

外套 甲種	袖章	幅一分ノ蛇腹組金線一條ヲ袖口ヨリ六寸ヲ上リ周環ニ纏フ徑五分ノ金色日章三箇ヲ環章ノ下方ニ滑ヒ表半面ニ附ス	金色略日章二箇ヲ附ス餘ハ同上	幅一分ノ黄絨線ヲ周環ニ纏ヒ金色略日章一箇ヲ附ス餘ハ同上	金色略日章ヲ附セス餘ハ同上	如圖
外套 乙種	地質	甲種ニ同シ	同上	同上	同上	
	製式	長サ膝ニ達スルヲ限度トス襟幅二寸胸部ニ徑五分五厘黒角鈕三箇ヲ附ス	同上	同上	同上	如圖

備考

一 略帽ハ常裝ニ限リ用フルコトヲ得

二 短刀ハ水上勤務其ノ他臺灣總督ノ指定シタル者ニ限リ佩用スルモノトス

三 短袴ハ長靴脚胖又ハ「ゲートル」ヲ用フルトキ之ヲ著用スルモノトス

四 刀帯中第二ノ釣革ハ常裝ニ限リ之ヲ用ヰサルコトヲ得乘馬ノトキ亦同シ

臺灣總督府警察官服制圖例 第二

		巡査部長	巡査	形狀
上衣	地質	黒又ハ濃紺絨夏ハ鼠色麻布	同上	
	製式	第一圖例ニ同シ	同上	
	袖章	幅一分五厘蛇腹組銀絲一條幅五分無地ノ黒色線一條ヲ半面ニ纏フ但シ夏ハ袖口ヨリ上二寸ノ所ニ徑五分銀色星章二箇ヲ附ス	銀絲ヲ附セス夏ハ銀色星章一箇ヲ附ス餘ハ同上	如圖
	鈕釦	徑六分五厘ノ無地金色(夏ハ銀色)鈕釦五箇ヲ前部ニ附ス	同上	如圖
	襟章	長サ二寸三分幅一寸三分地質黒羅紗縁ハ幅一分ノ赤色線ヲ附シ徑四分ノ銀色略日章一箇ヲ附ス夏ハ襟ノ左右ニ同章各一箇ヲ附ス	同上	如圖
肩章	製式	徑三分ノ丸打黄毛絲線八條ヲ鎖狀組トシ上端ニ徑五分ノ眞鍮略日章釦一箇ヲ附ス	同上	如圖

袴		地質夏ハ鼠色麻布餘ハ第一圖例ニ同シ	同上	
短袴	地質	袴ニ同シ	同上	
	製式	裾口ヲ裂クコト四寸之ニ鈕釦二箇ヲ附ス餘ハ第一圖例ニ同シ	同上	
帽	地質	第一圖例ニ同シ	同上	
	製式	第一圖例ニ同シ	同上	
	徽章	徑八分ノ略日章ヲ櫻ヲ以テ抱擁シ共ニ眞鍮製打出シト爲ス其ノ縱徑一寸三分横徑二寸トス帽ノ周圍ニ幅一分蛇腹組金絲ヲ纏フ	同上	如圖
略帽		地質夏ハ鼠色麻布餘ハ第一圖例ニ同シ	同上	
刀		柄ハ黒革眞鍮線卷背面ヲ覆ヒタル金具ハ眞鍮長サ四寸乃至六寸鍔ハ眞鍮鞘ハ洋銀長サ一尺六寸乃至二尺兩箇ノ釣環ヲ附ス中身ハ日本刀緒ハ茶色革トス	同上	如圖
短刀		柄ハ黒革眞鍮線卷背面ヲ覆ヒタル金具ハ眞鍮長サ三寸三分鍔ハ眞鍮鞘ハ洋銀長サ一尺乃至一尺二寸中身ハ日本刀	同上	如圖
刀帶		黒象皮長サ適宜幅一寸二分釣革長サ第一ノ分一寸五分第二ノ分七寸五分幅六分五厘締輪幅五分前金具ノ右方ニ一箇ヲ附ス金具ハ圓形徑一寸四分金具ハ總テ眞鍮	同上	如圖
短刀帶		釣革長サ五寸五分餘ハ刀帶ニ同シ	同上	如圖
外套 甲種	地質	黒又ハ濃紺絨又ハ防水布	同上	
	製式	長サハ靴踵ノ上際ヲ距ルコト約八寸襟幅二寸袖ノ長サハ腕關節ヨリ各延ルコト五分胸部ニ徑七分五厘眞鍮圓形内ニ略日章ヲ鏤刻セル鈕釦六箇二行背面腰部ニ同一覆面留黒角鈕徑四分五厘三箇襟部ニ同五箇後裂ニ同四箇ヲ附ス左右ノ腰部ニ物入各一箇ヲ附ス	同上	如圖
	袖章	袖口ヨリ上ル二寸ノ所ニ徑五分銀色星章二箇ヲ附ス	銀色星章一箇ヲ附ス餘ハ同上	如圖
外套 乙種	地質	甲種ニ同シ	同上	
	製式	通常マント形長サ前面襟下ヨリ約二尺背面約二尺二寸襟幅二寸胸部ニ黒角鈕徑七分五厘三箇襟部ニ同徑四分五厘五箇ヲ附ス	同上	如圖

臺灣總督府警察官服制圖 第一

備考

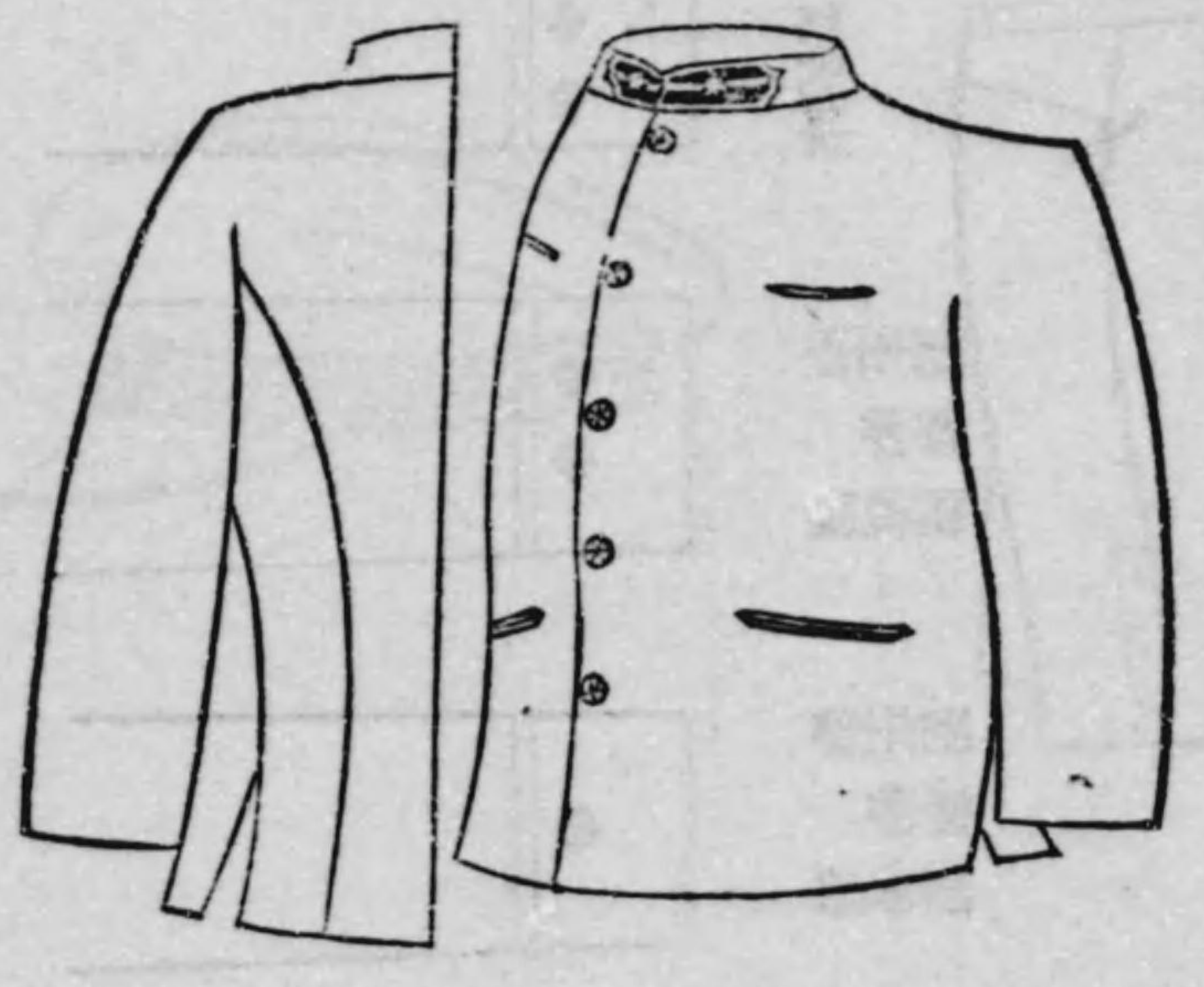
一 巡査部長及巡査ニハ冬期ノ略帽ヲ給セサルコトヲ得

二 短刀ハ水上勤務其ノ他臺灣總督ノ指定シタル者ニ限リ佩用スルモノトス

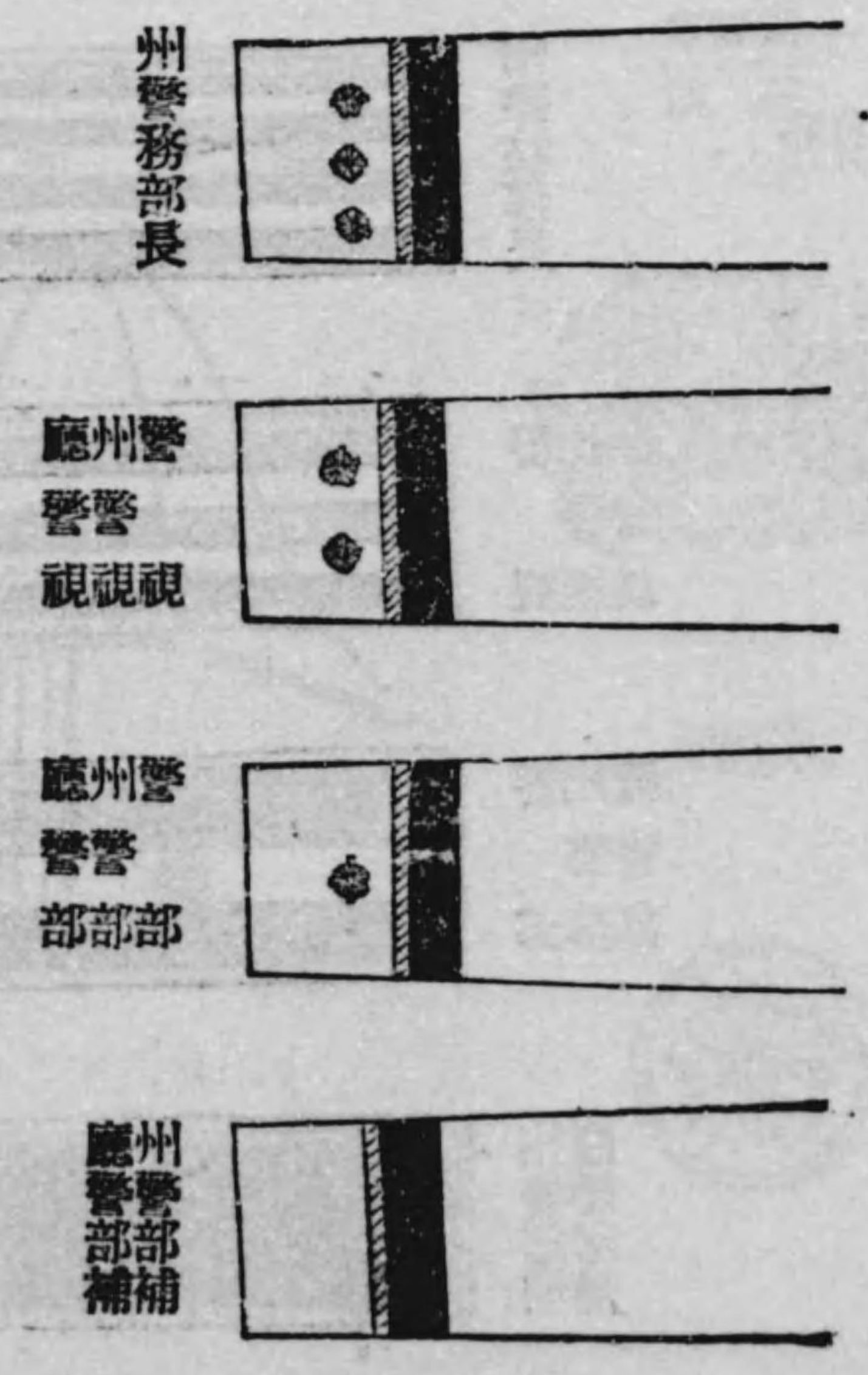
三 短袴ハ長靴脚袢又ハ「ゲートル」ヲ用ウルトキ之ヲ著用スルモノトス

四 刀帶中第二ノ釣革ハ常裝ニ限リ之ヲ用井サルコトヲ得乘馬ノトキ亦同シ

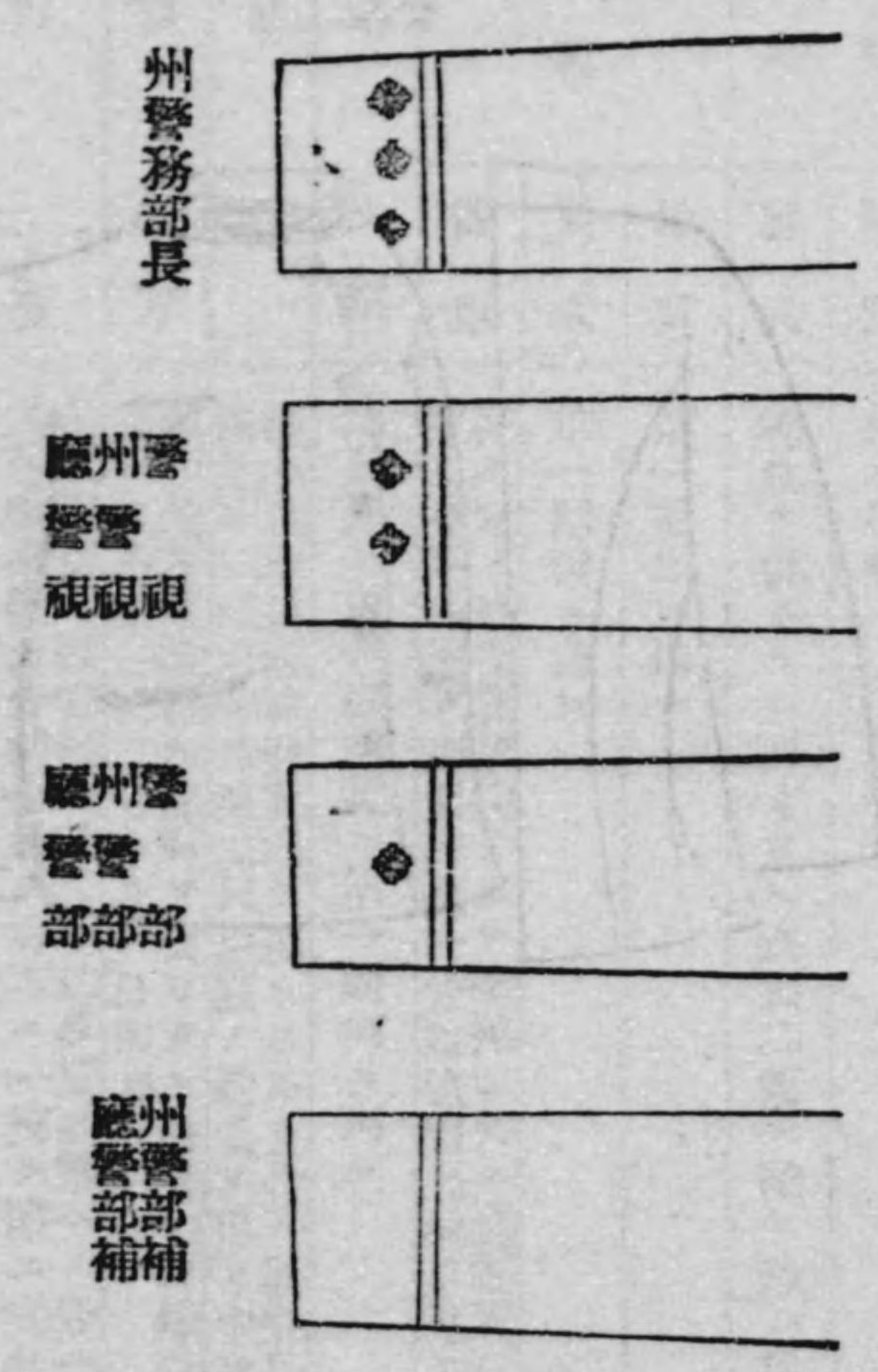
上衣



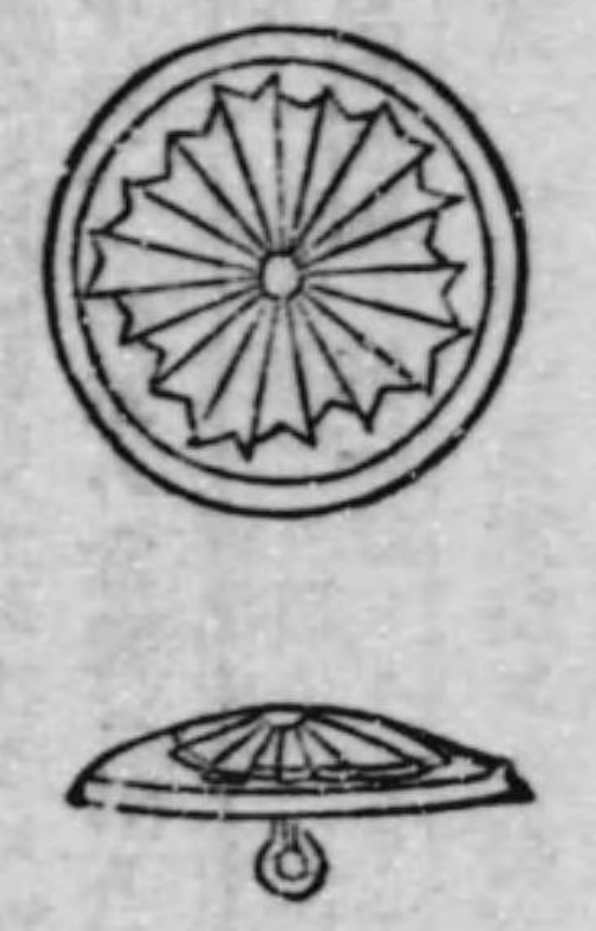
袖章



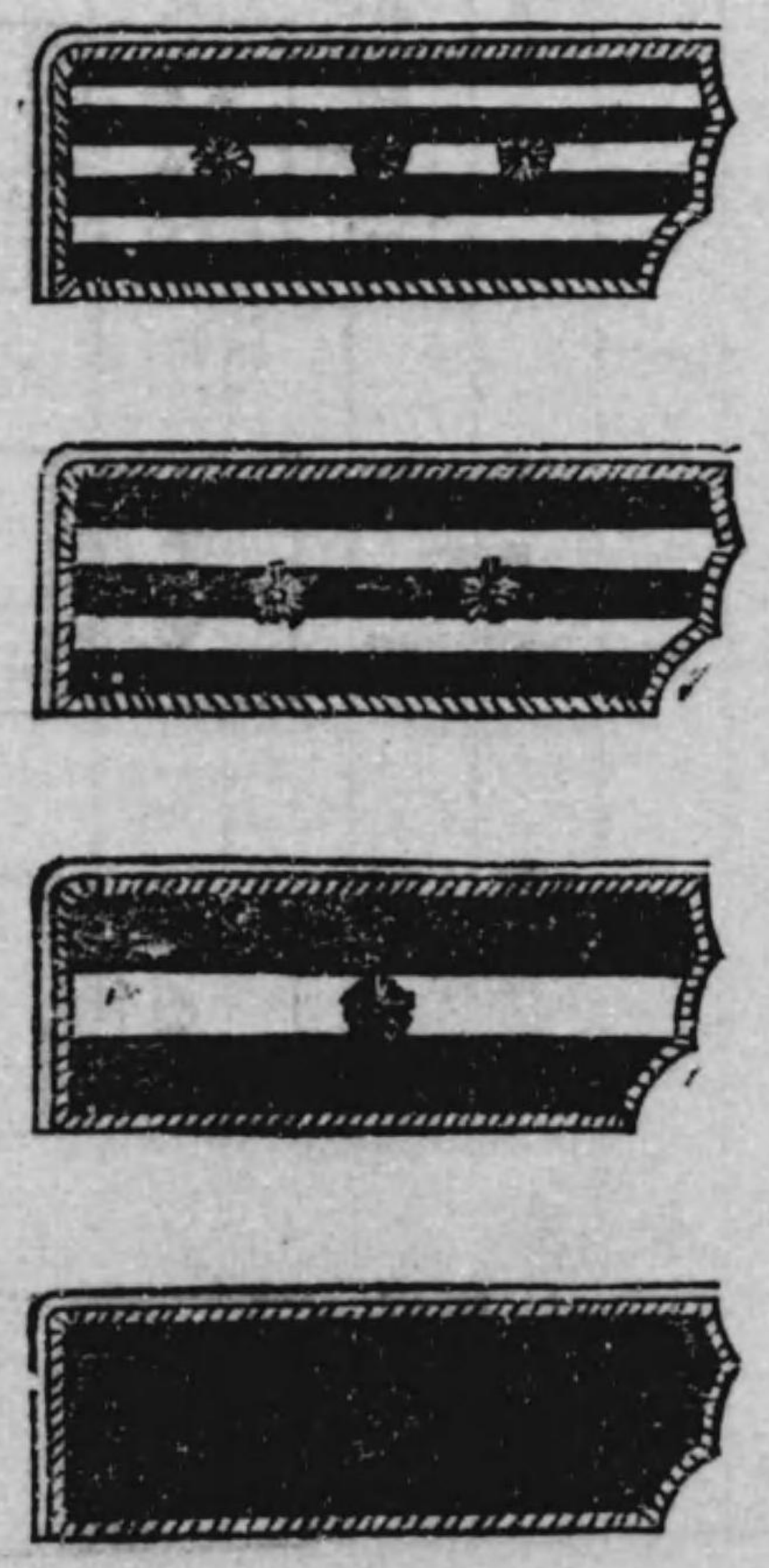
同夏衣


州警務部長
警視
州警視
廳警視
警部
州警部
廳警部
州警部補
廳警部補

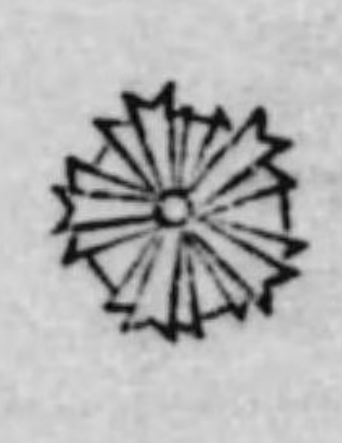
鈕釦



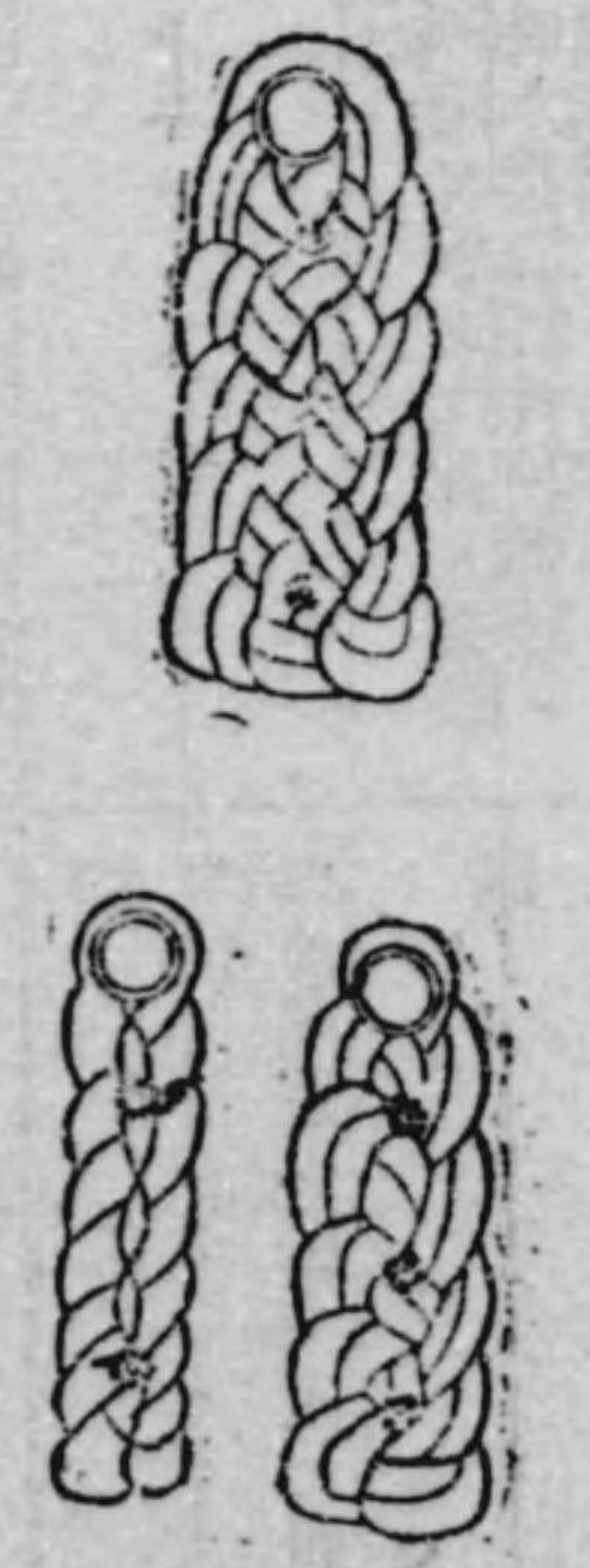
襟章


州警務部長
警視
州警視
廳警視
警部
州警部
廳警部
州警部補
廳警部補

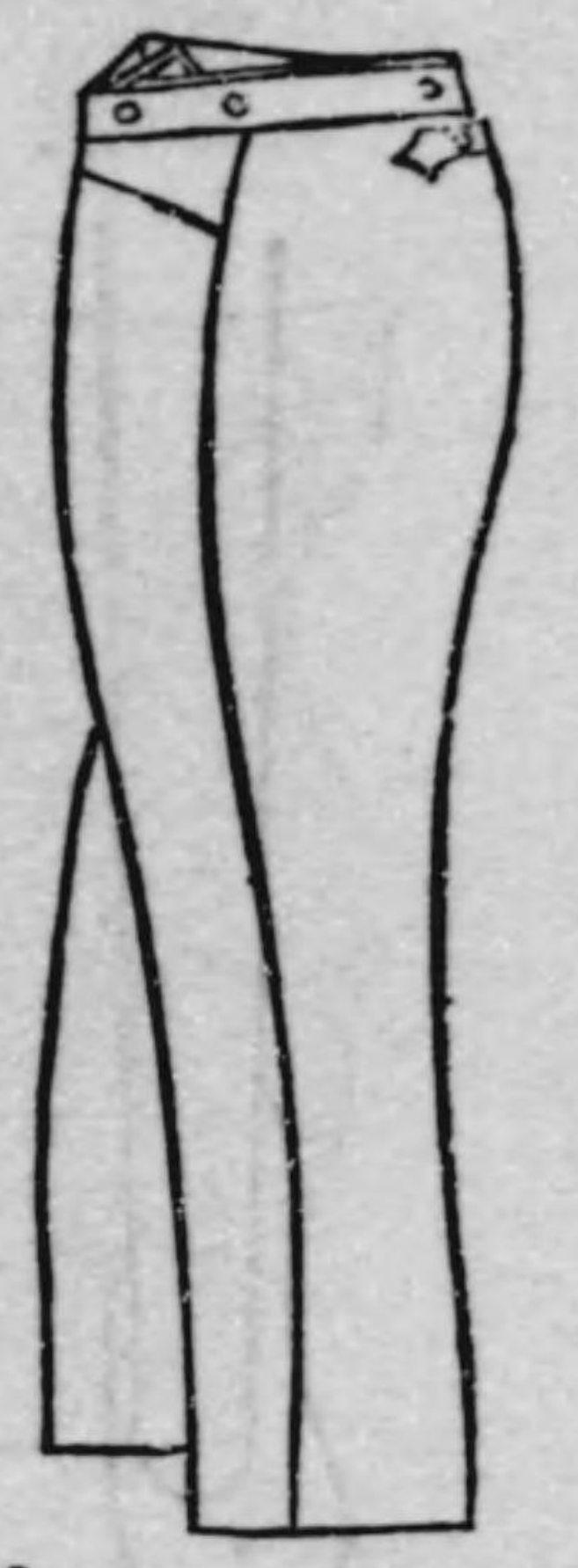
略日章



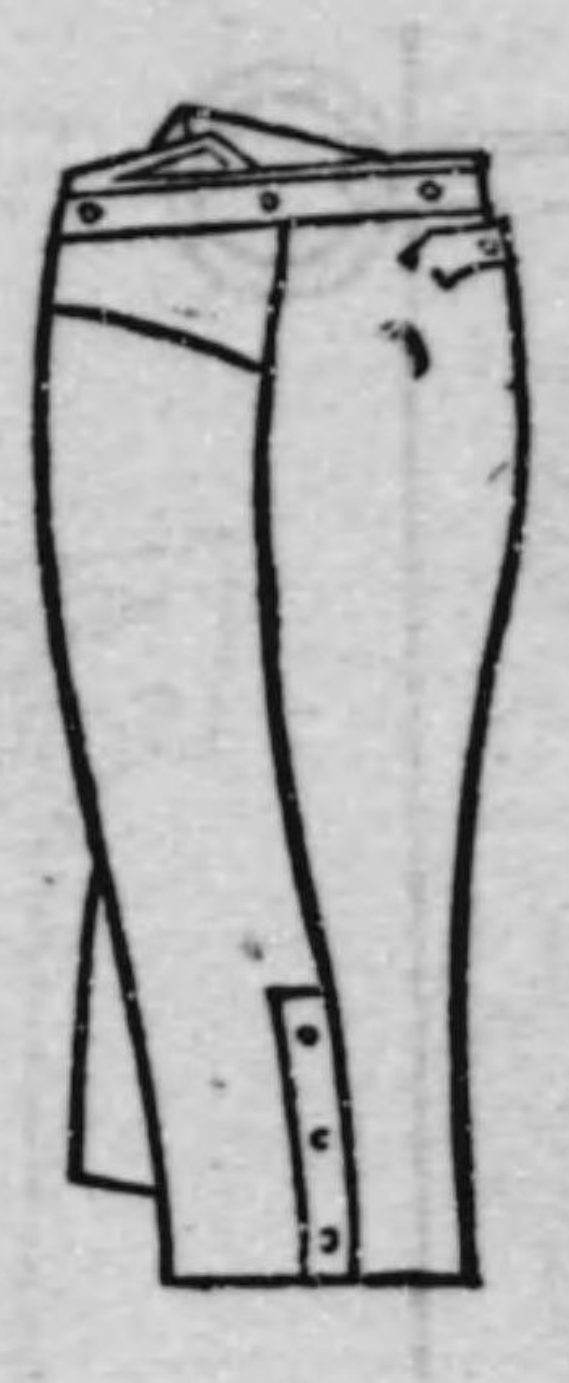
肩章


州警務部長
警視州警視及廳警視
警部州警部及廳警部州警部補及廳警部補

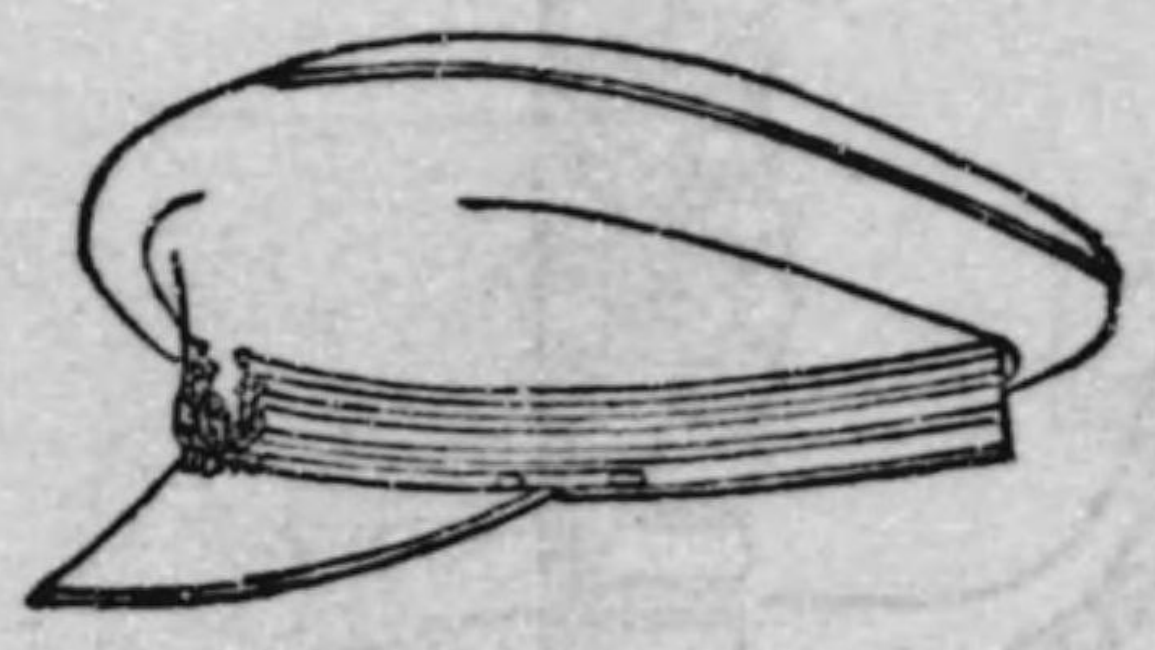
袴



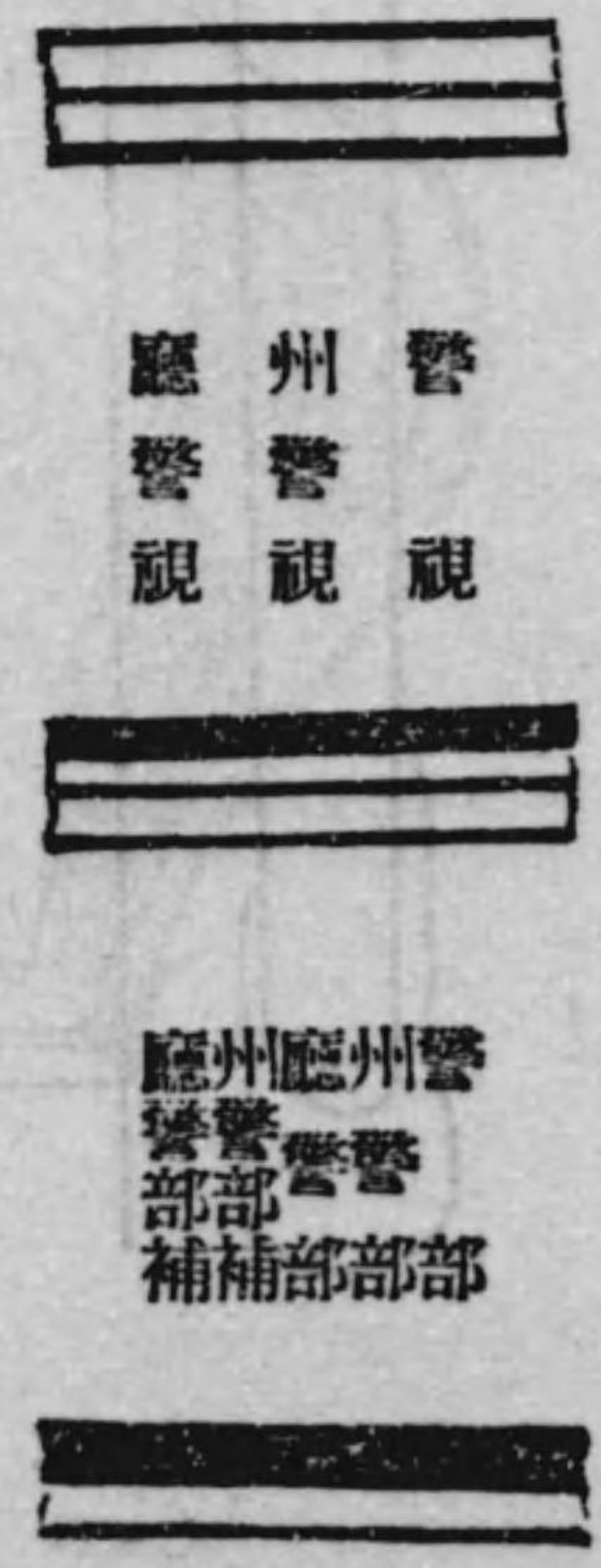
短袴



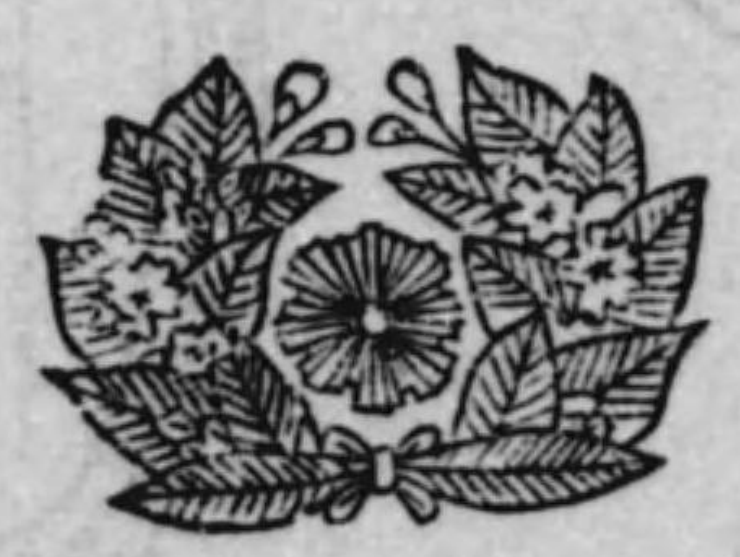
帽



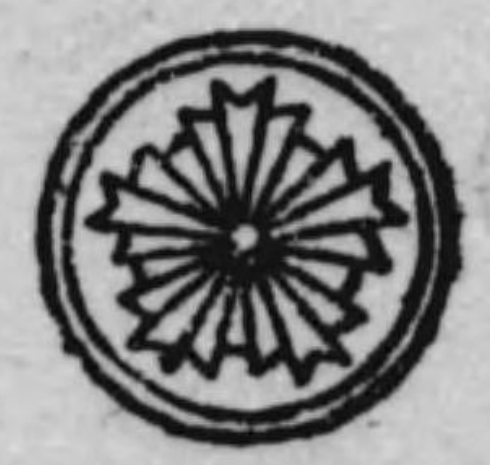
袖章


州警務部長
警視
州警視
廳警視
警部
州警部
廳警部
州警部補
廳警部補

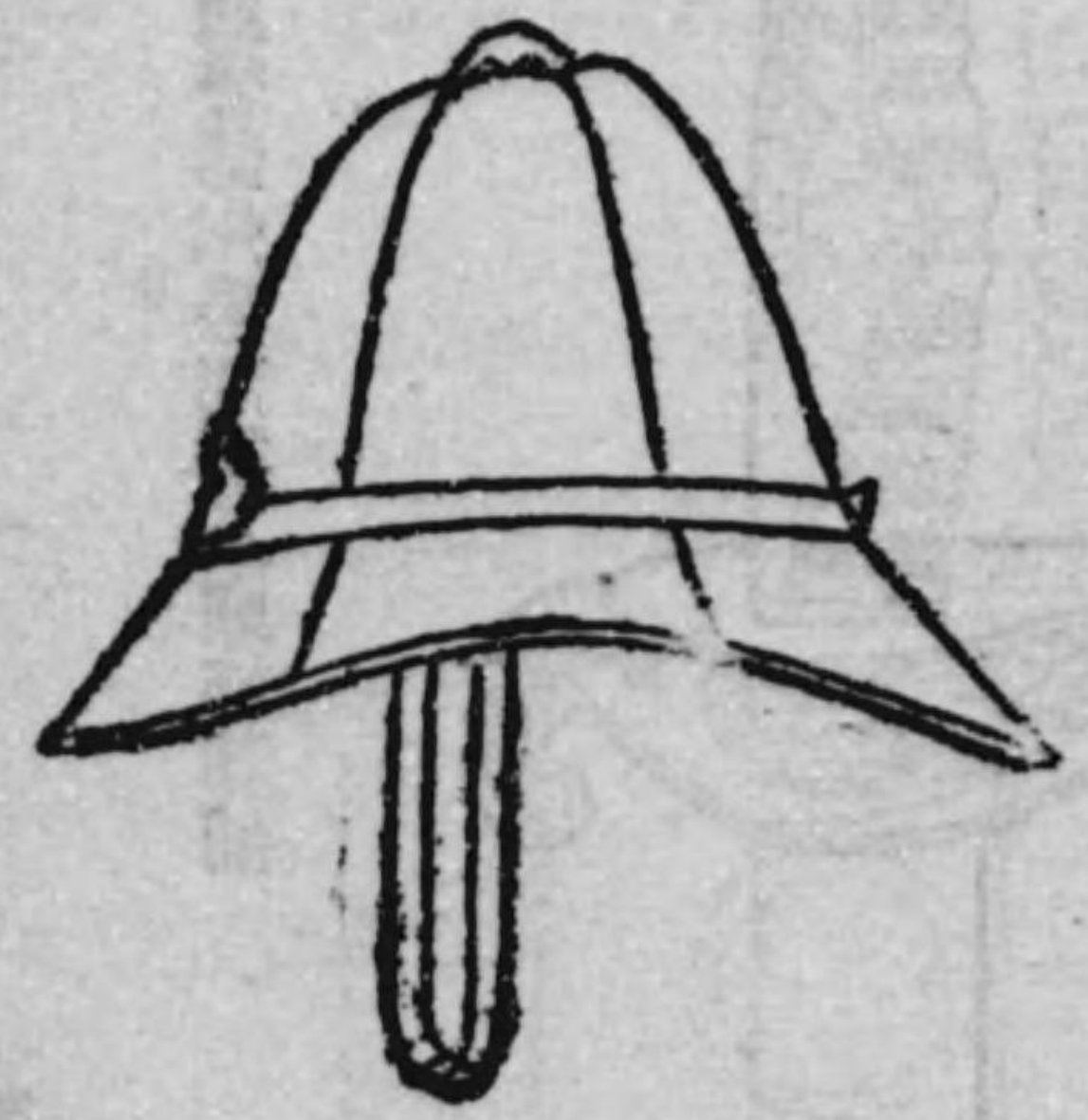
帽徽章
前章



頤鈕釦

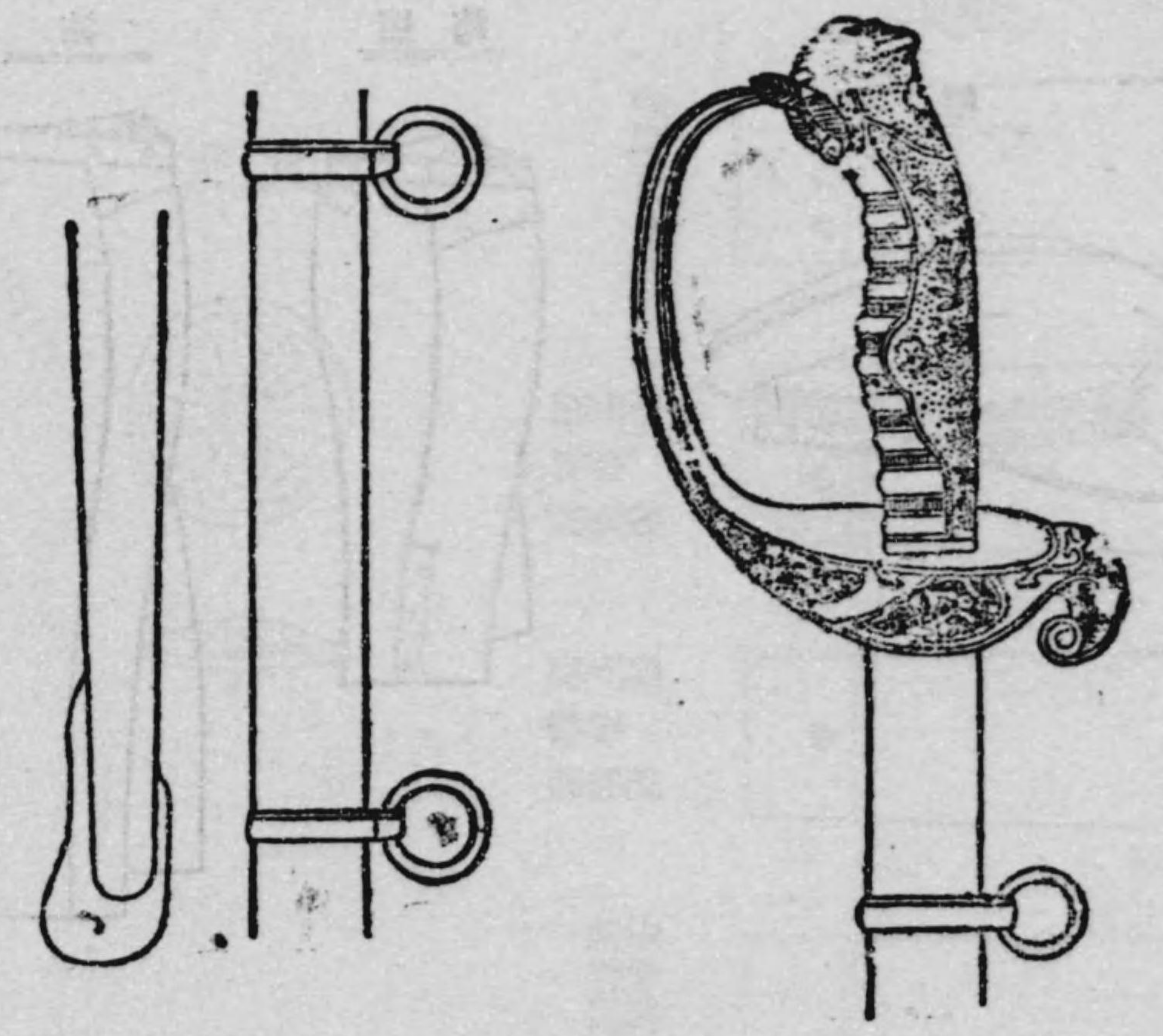


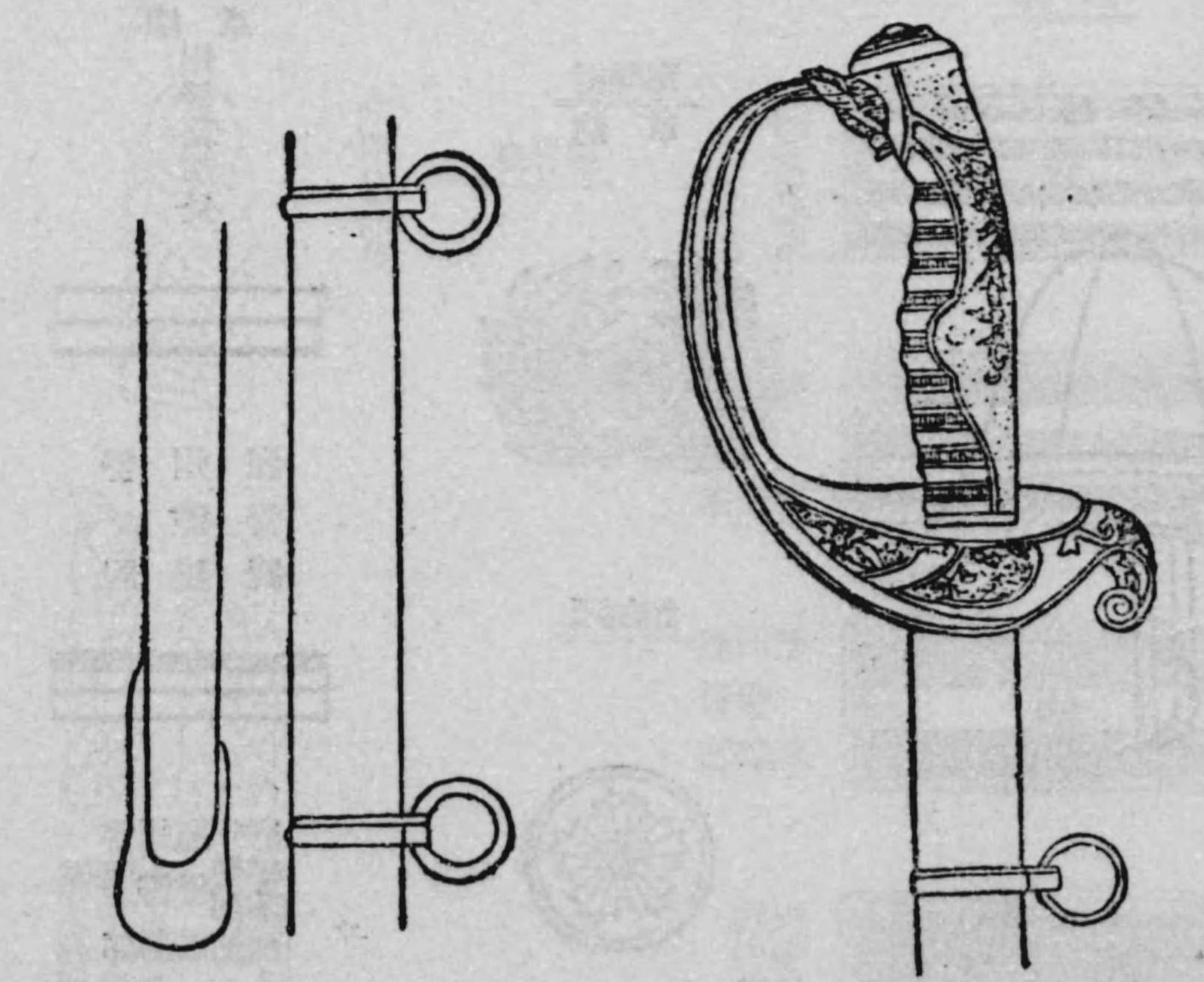
略帽



刀

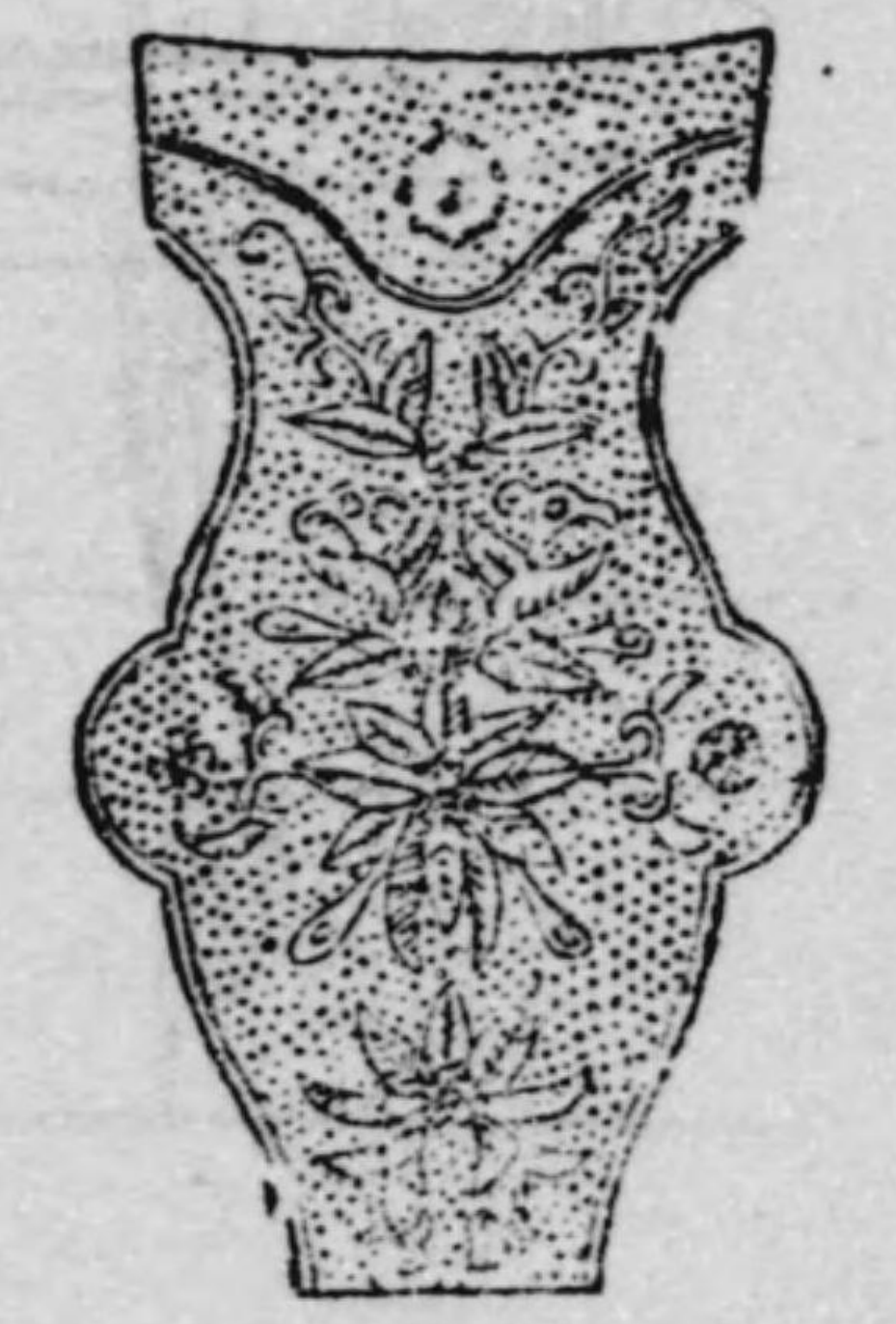
州警務部長警視州警視及廳警視



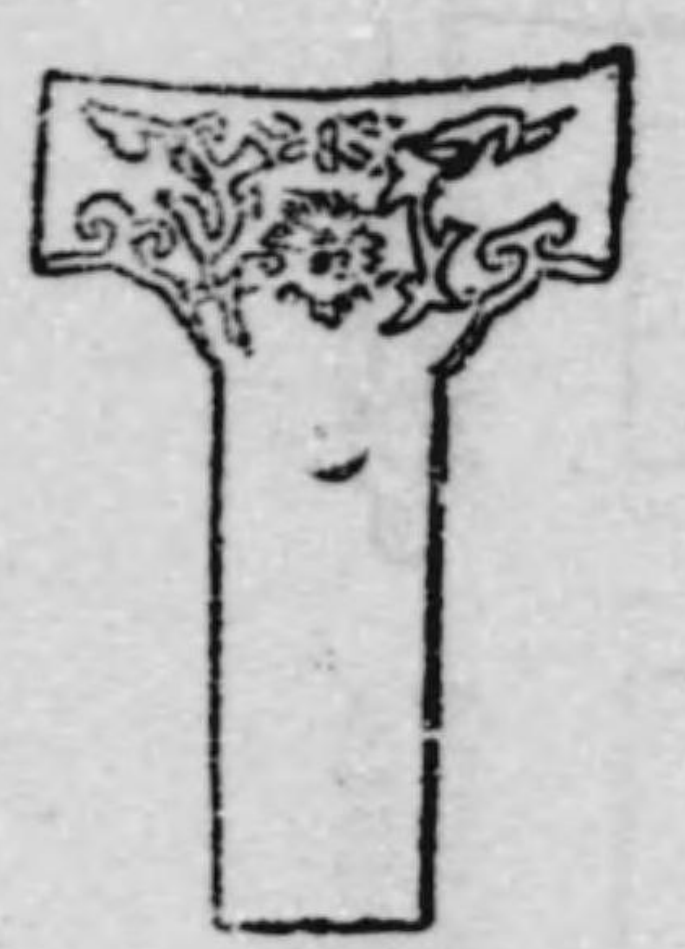


警部州警部及廳警部州警部補及廳警部補

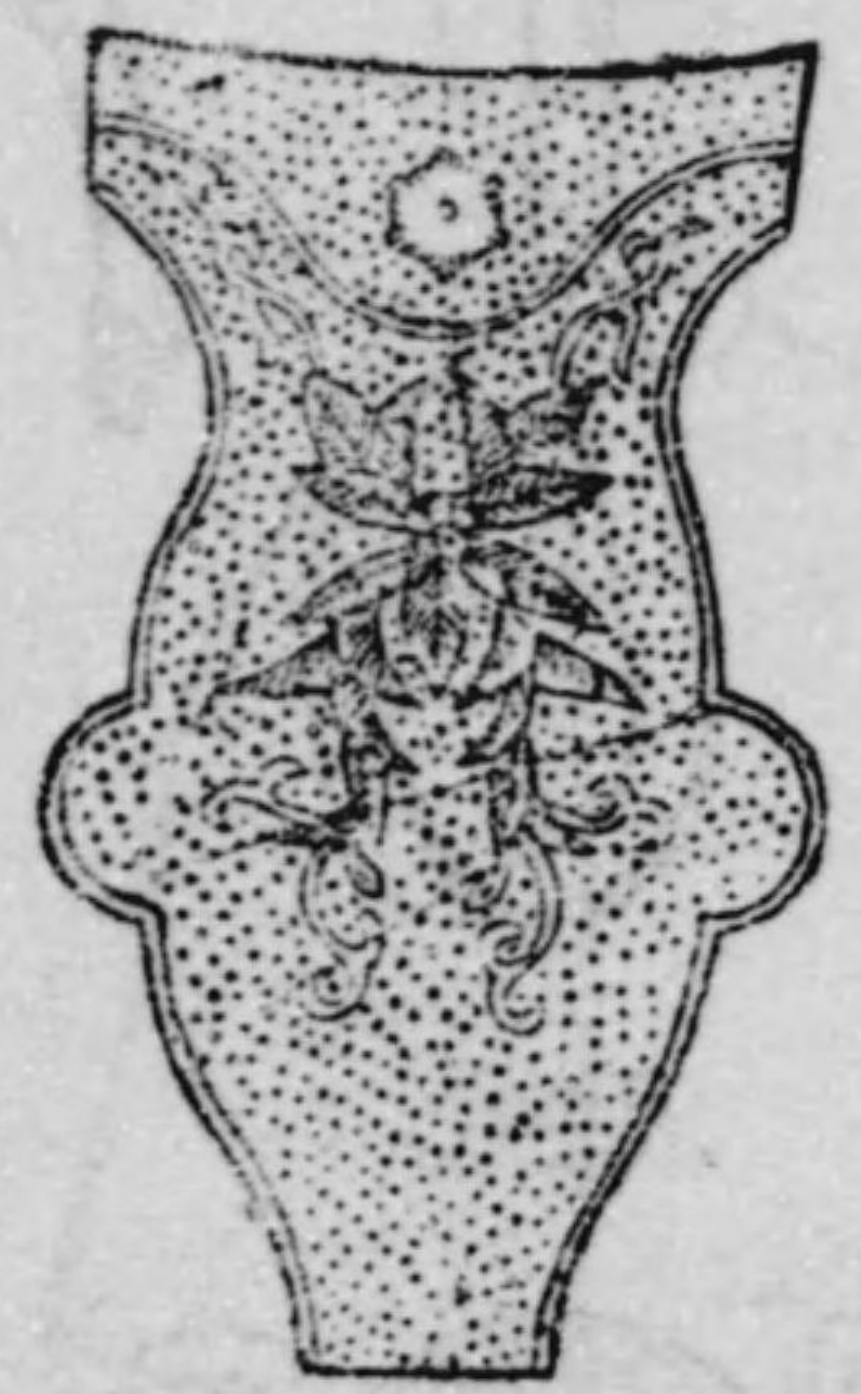
州警務部長警視州警視及廳警視



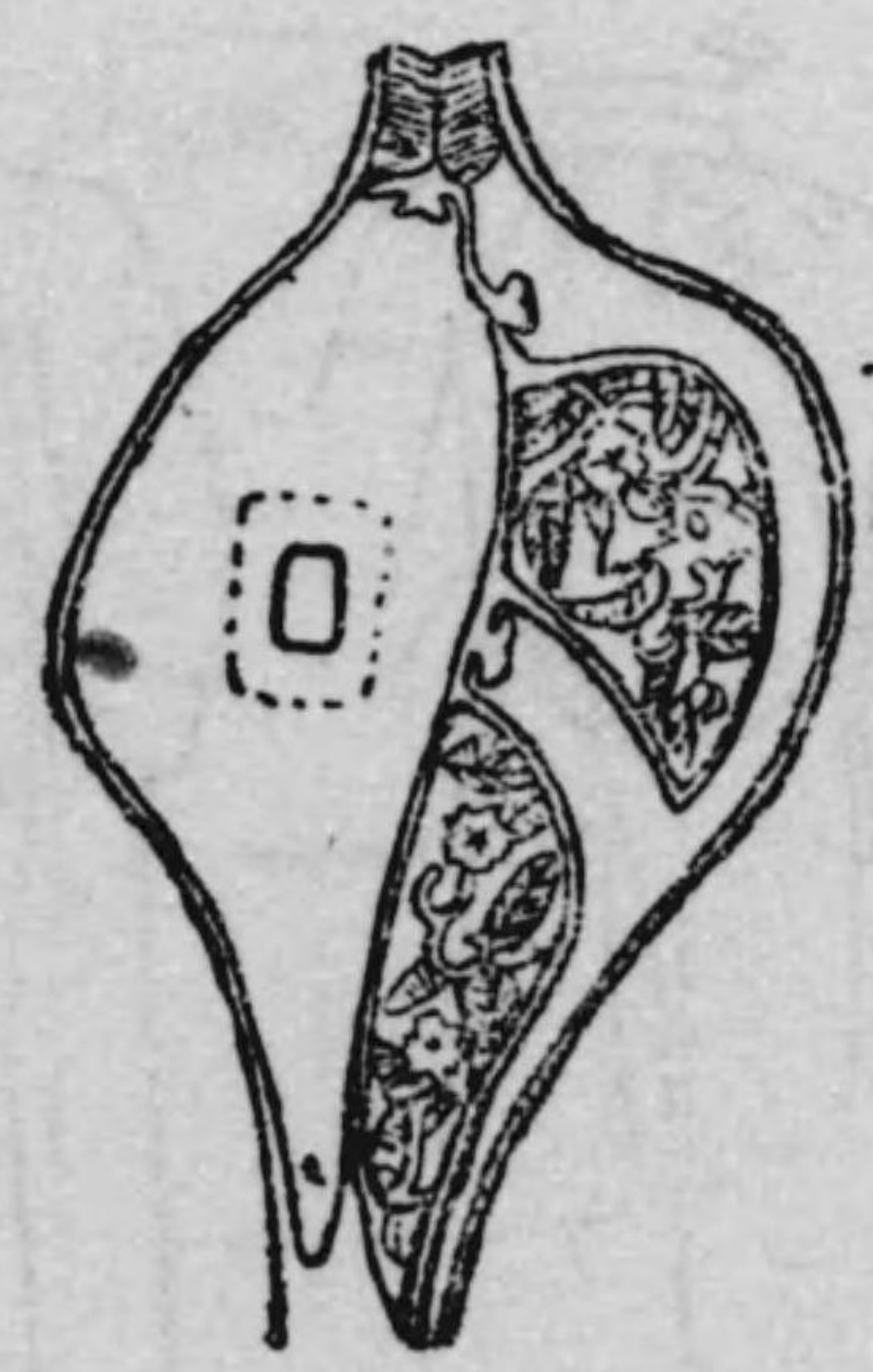
柄



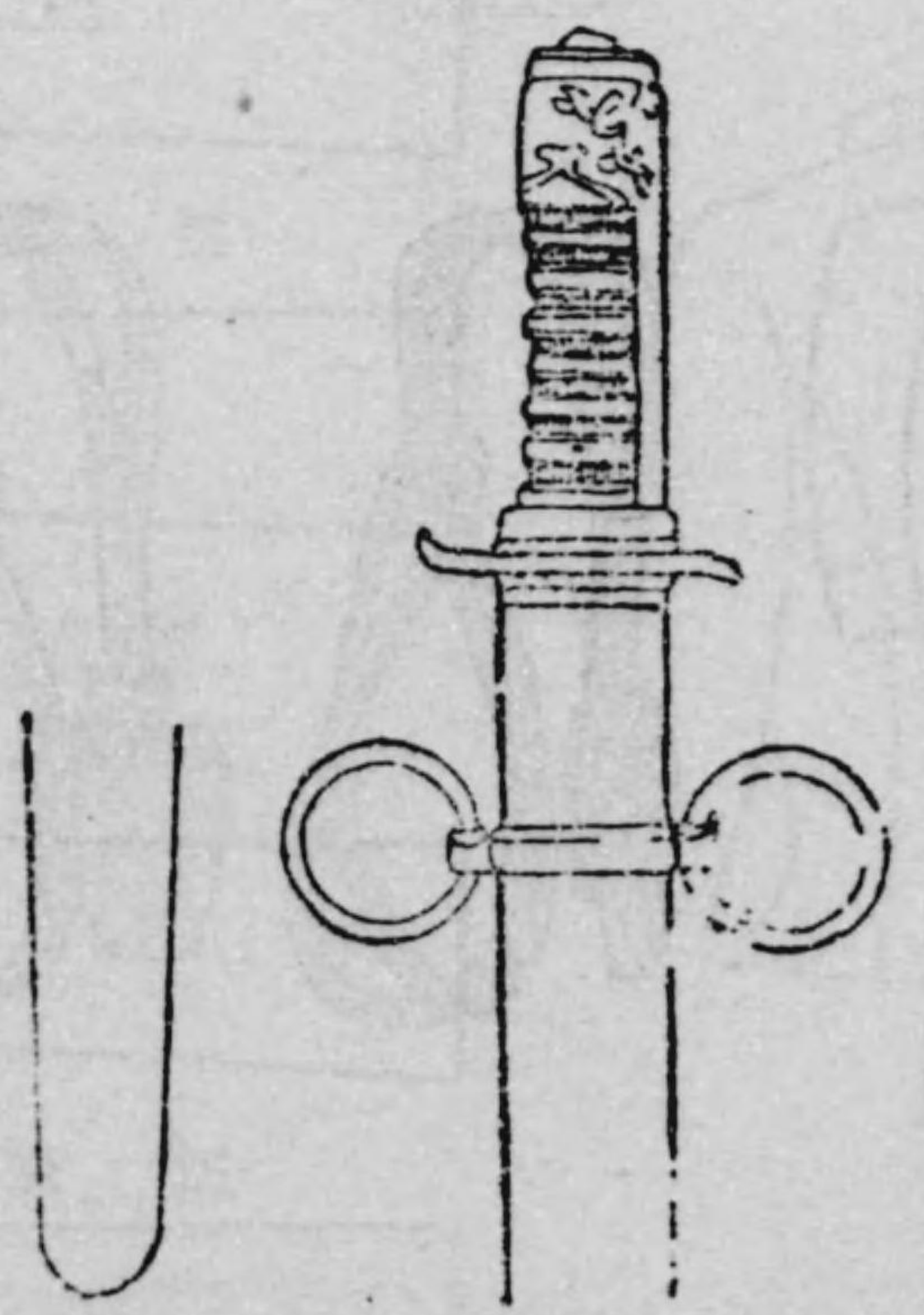
警部州警部及廳警部州警部補及廳警部補



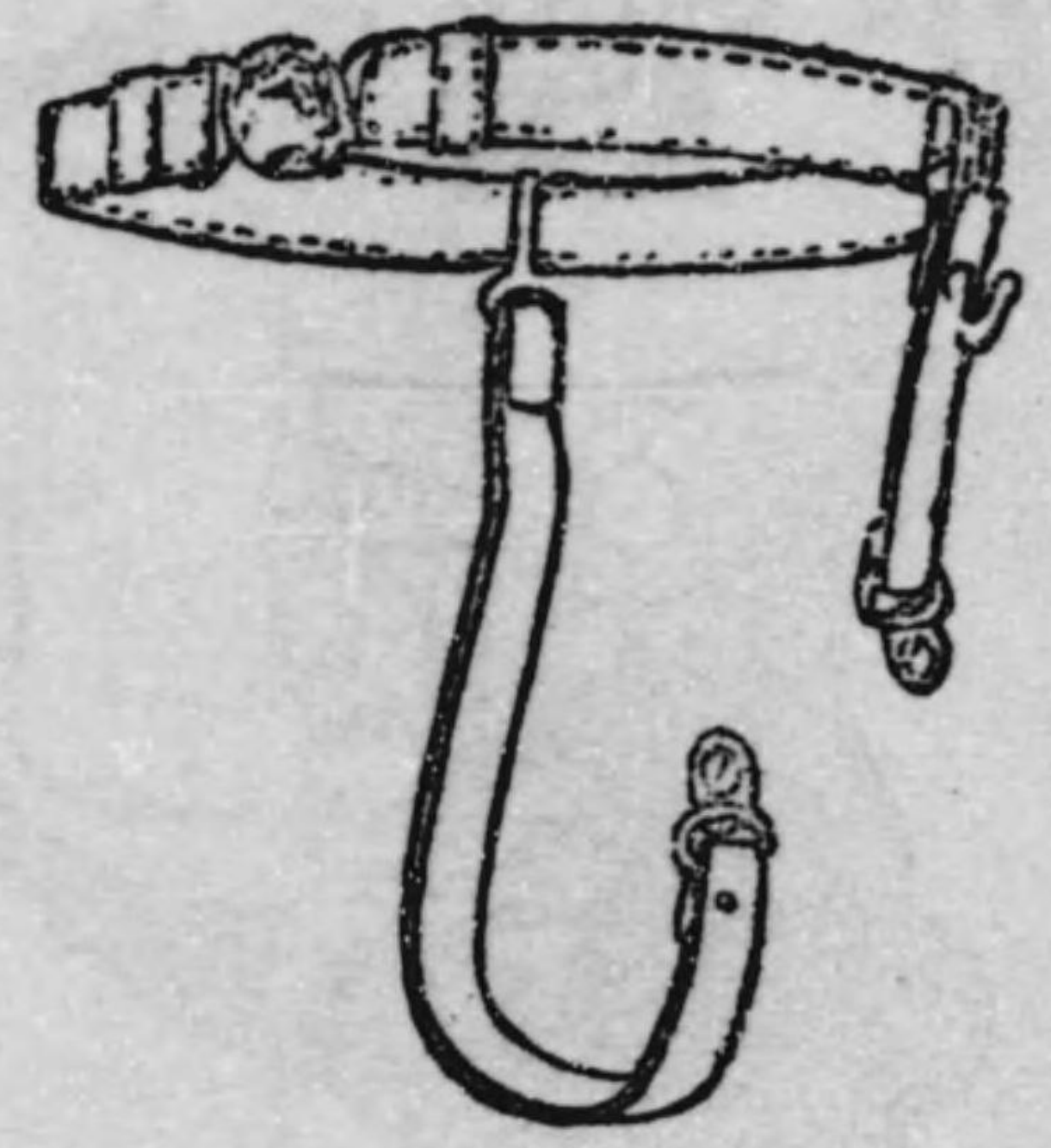
鍔



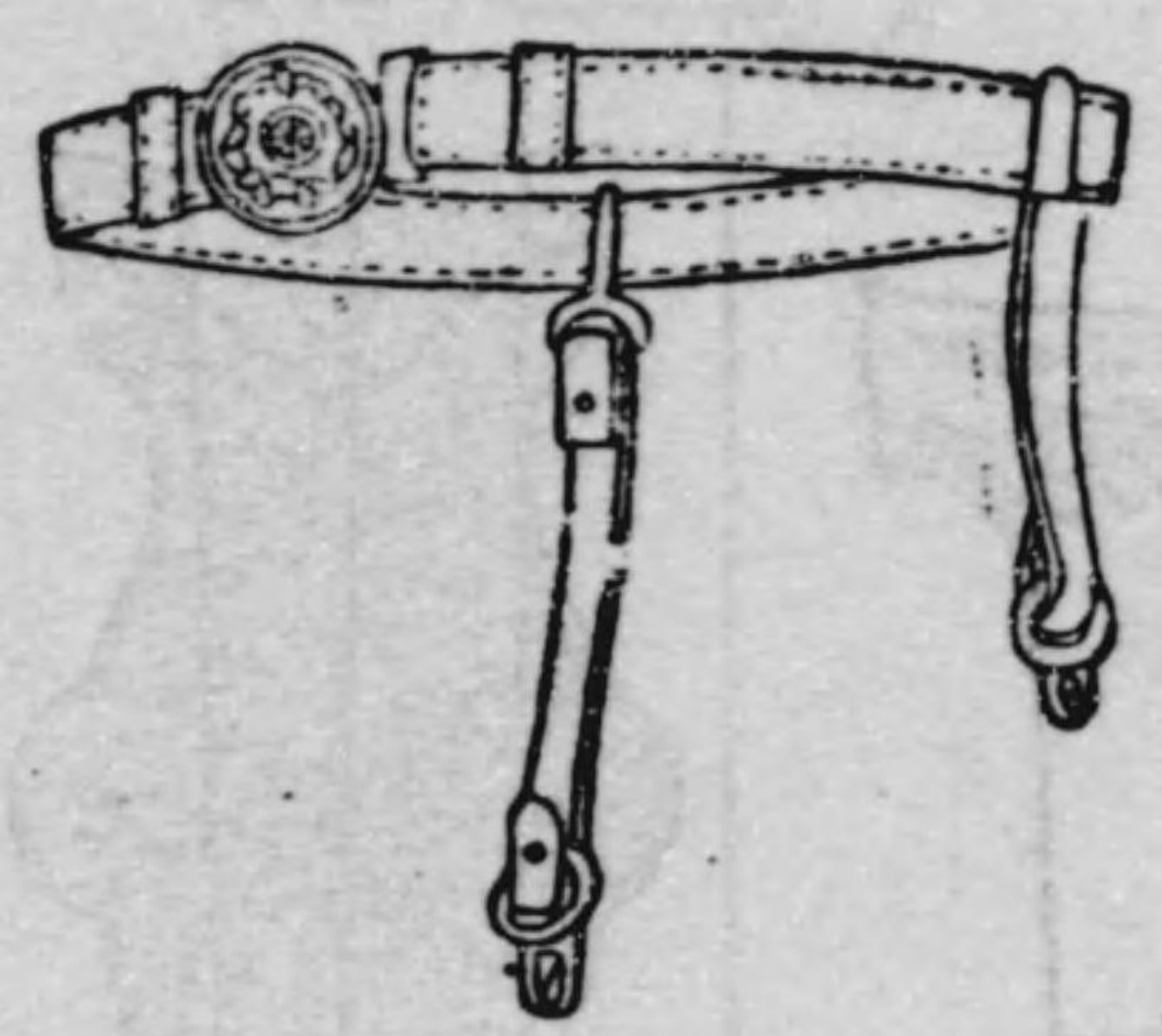
短刀



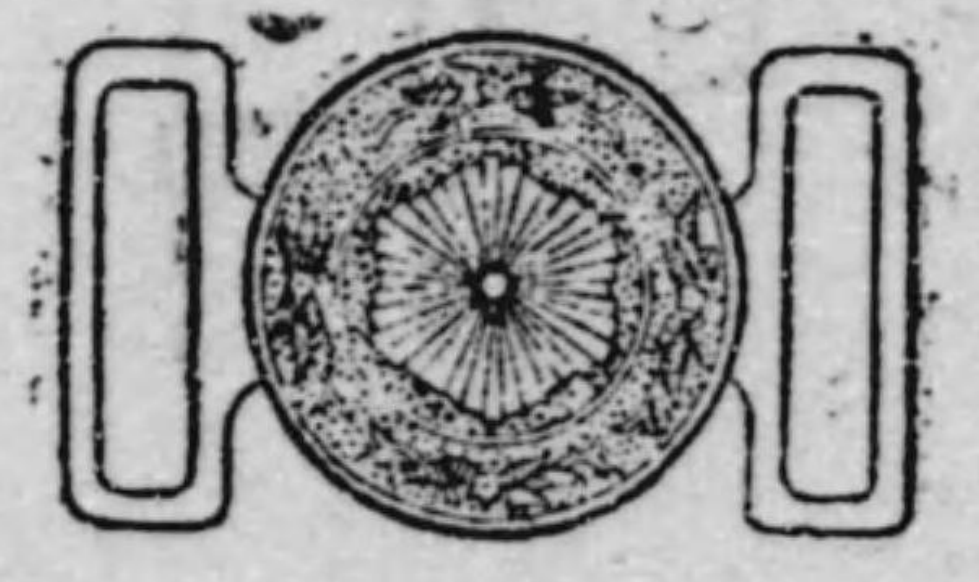
刀帶

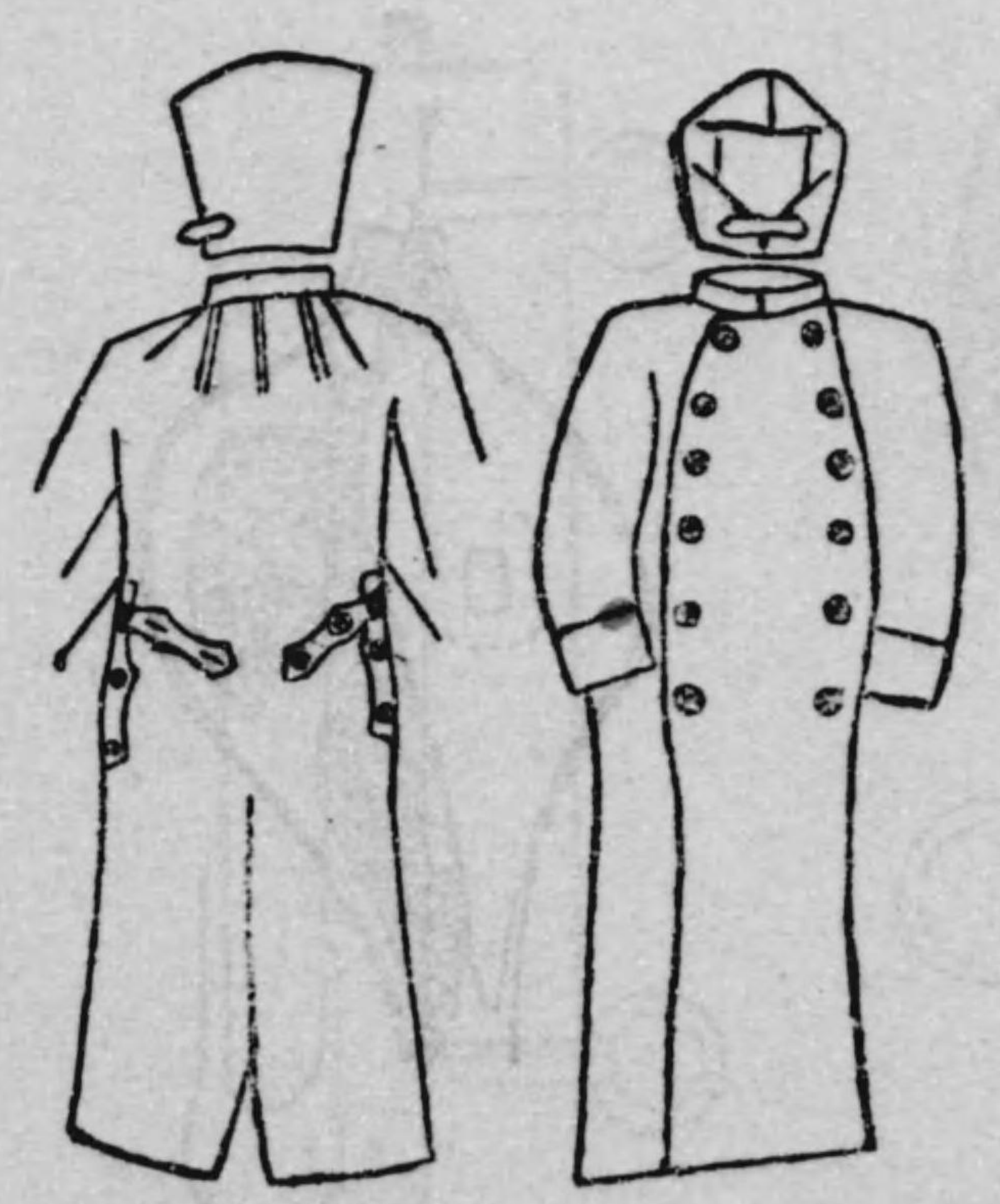


短刀帶



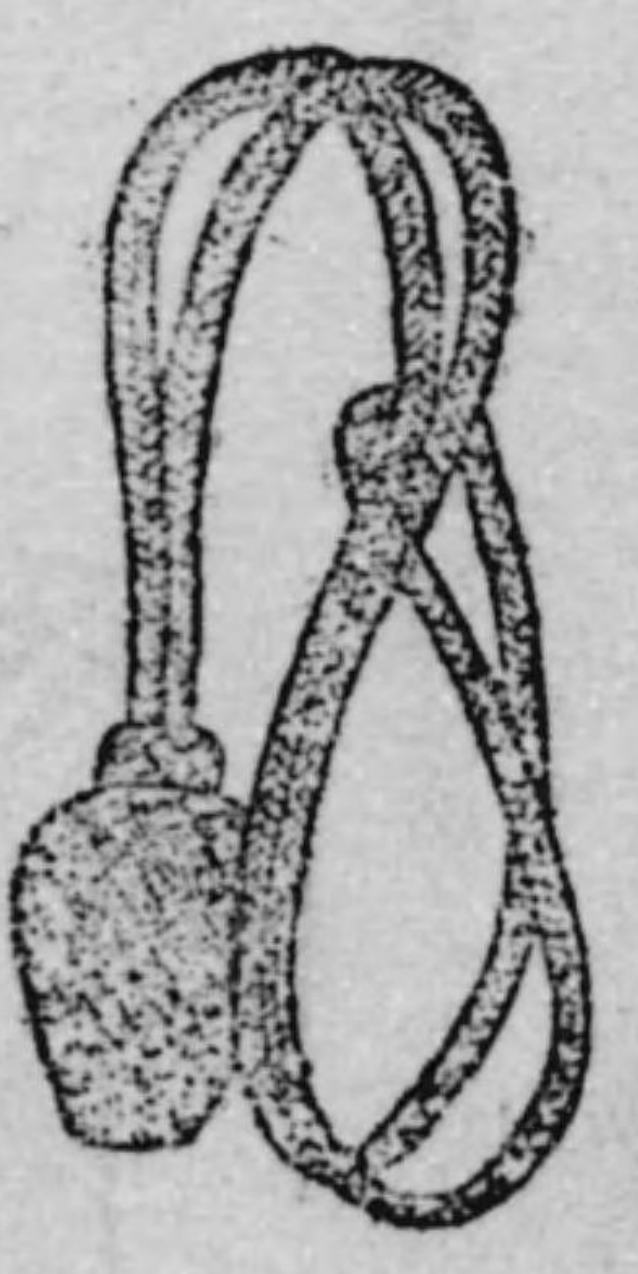
前金具



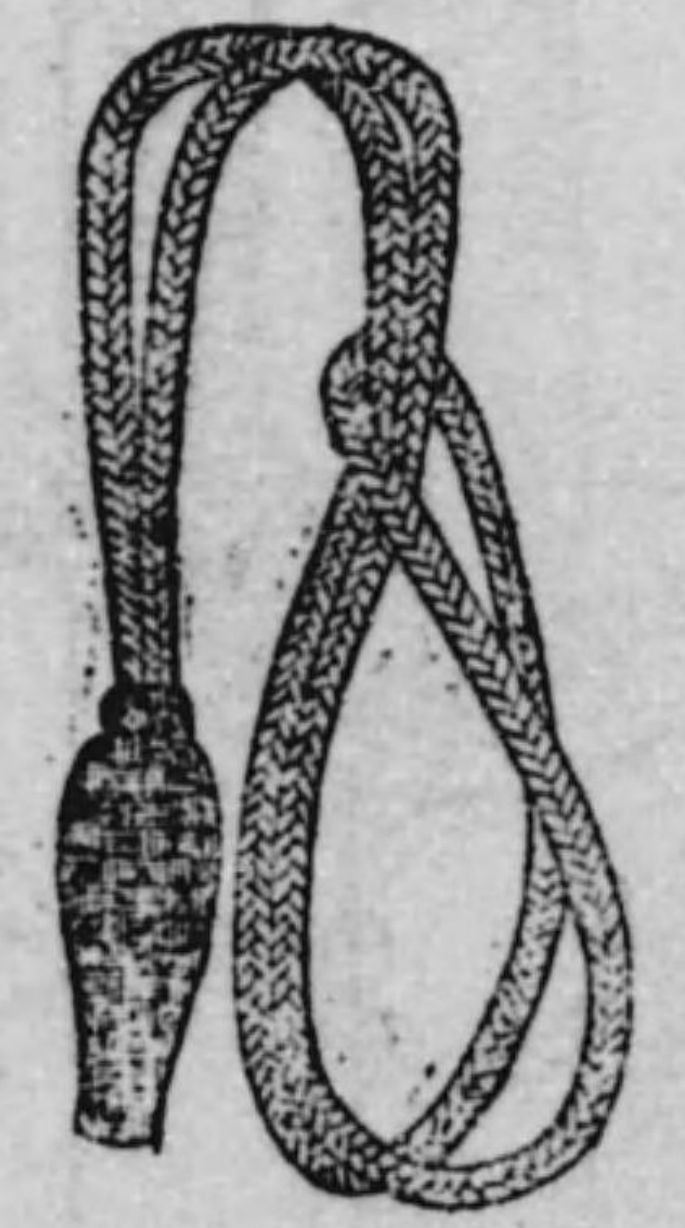


刀緒

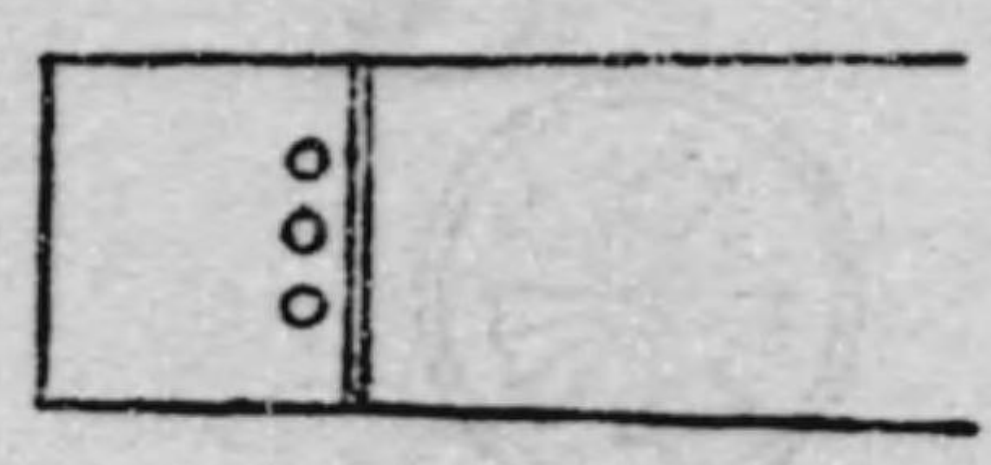
正緒



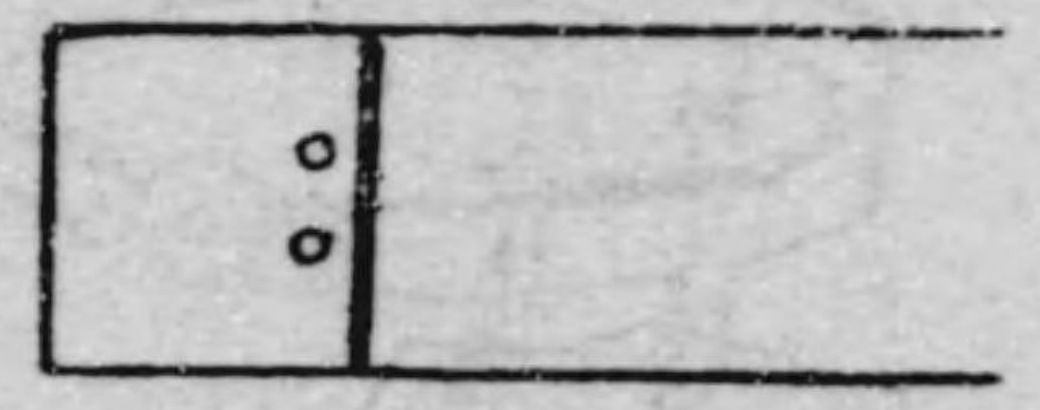
常緒



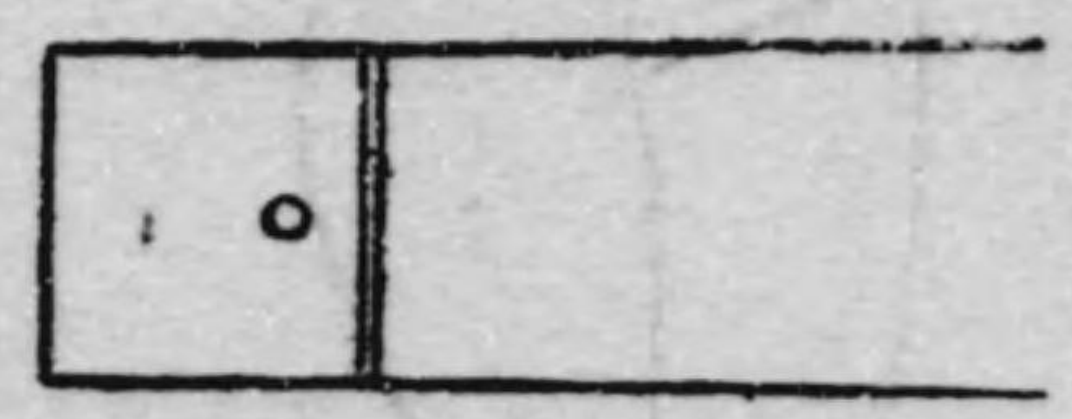
外套袖章



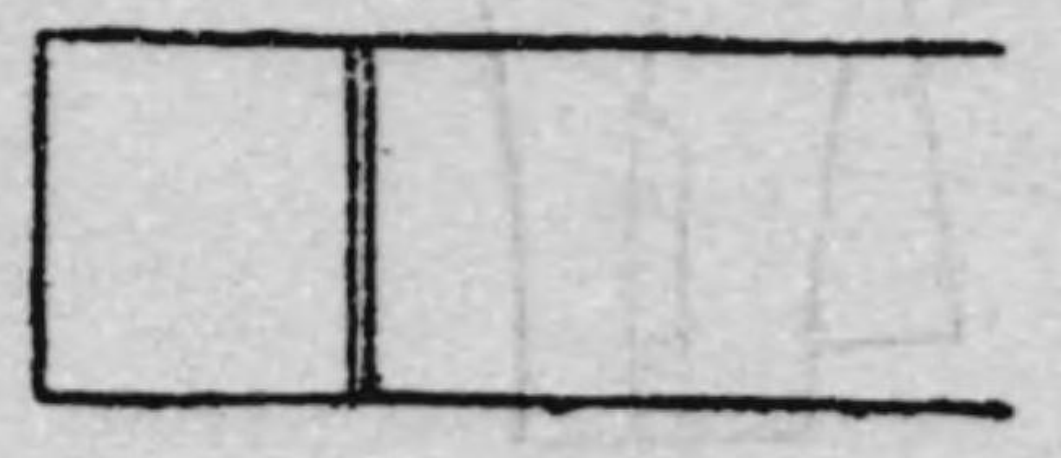
州警務部長



警視州警視及廳警視

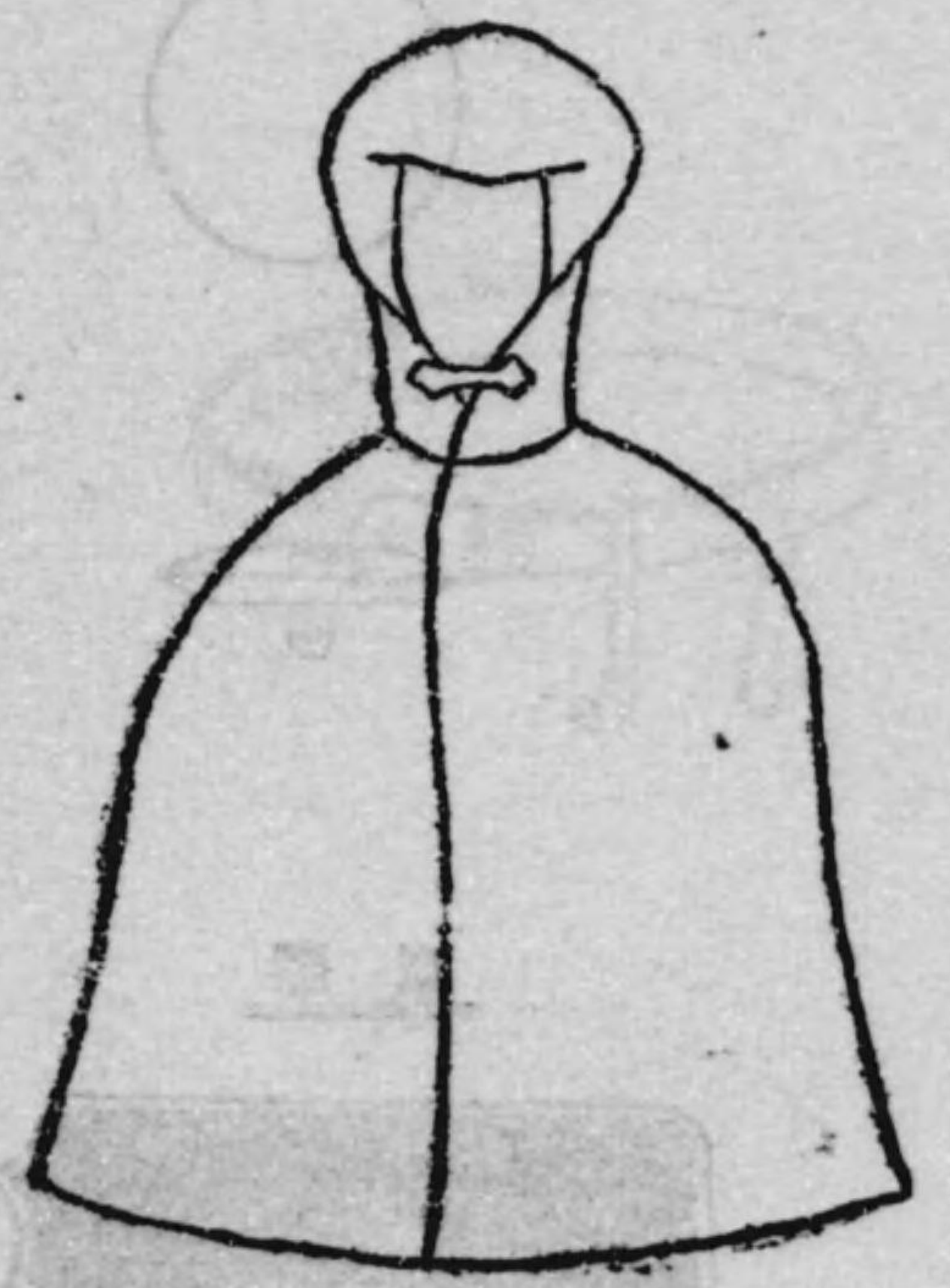


警部州警部及廳警部



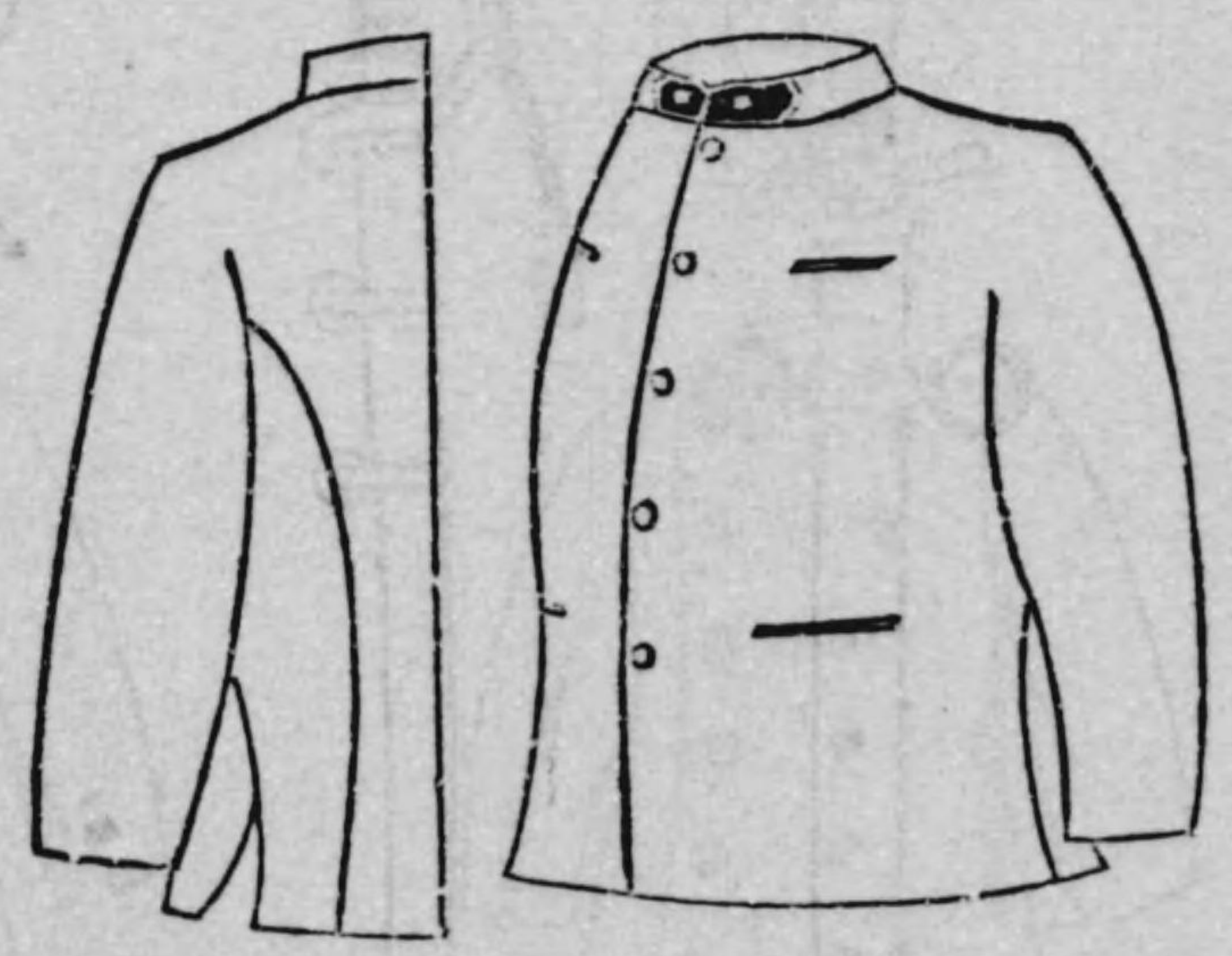
州警部補及廳警部補

乙種外套



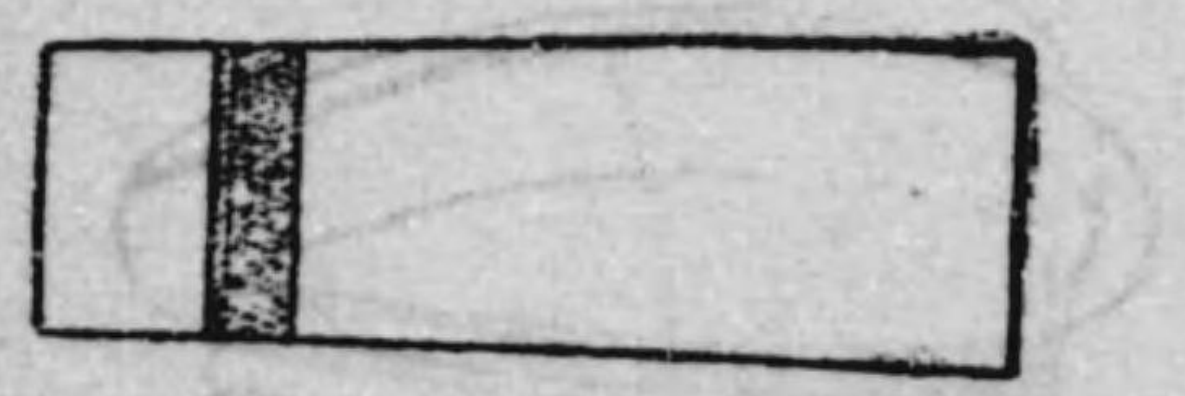
臺灣總督府警察官服制圖　第二

上衣

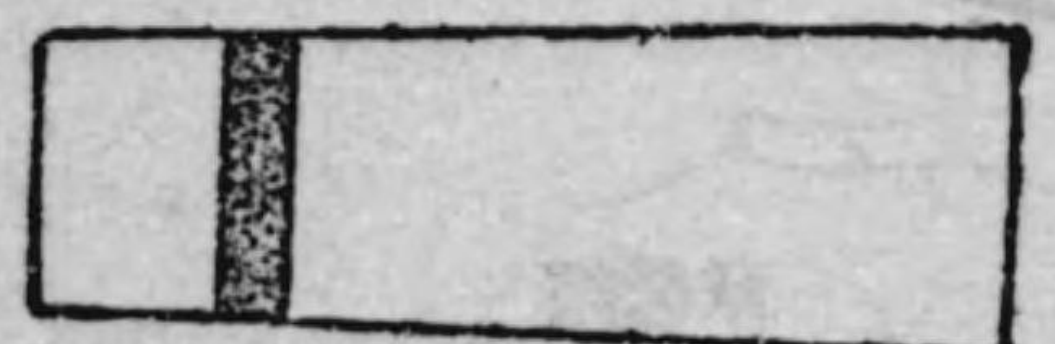


袖章

巡査部長

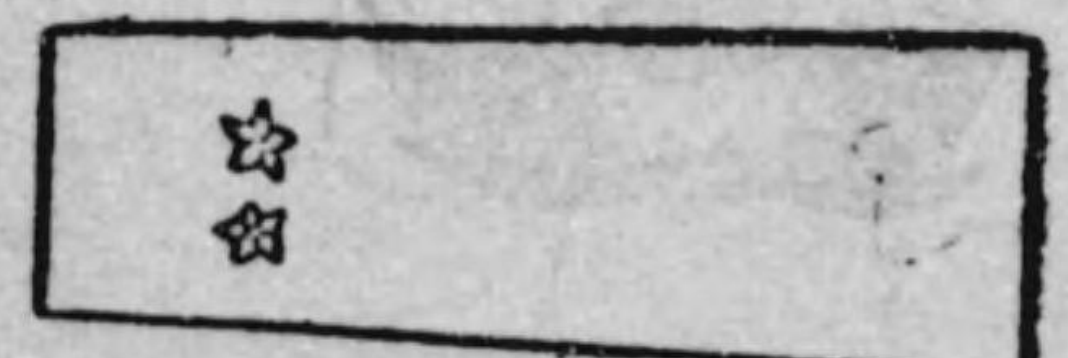


巡査

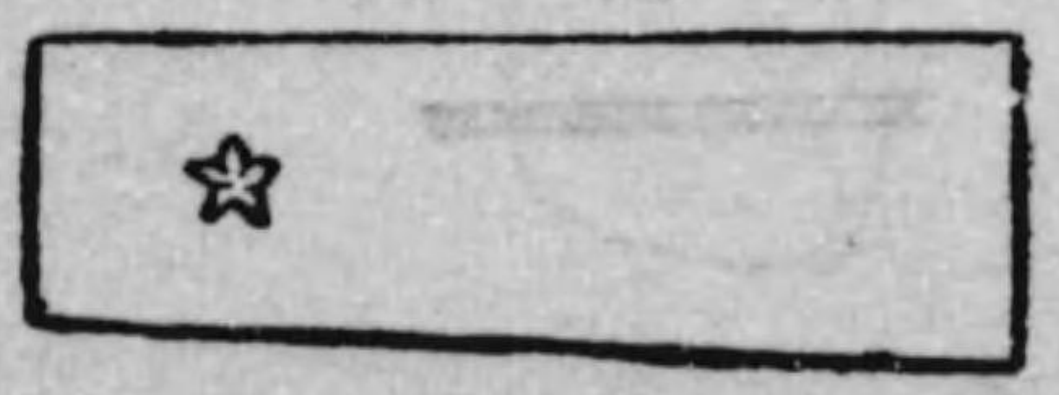


同夏衣

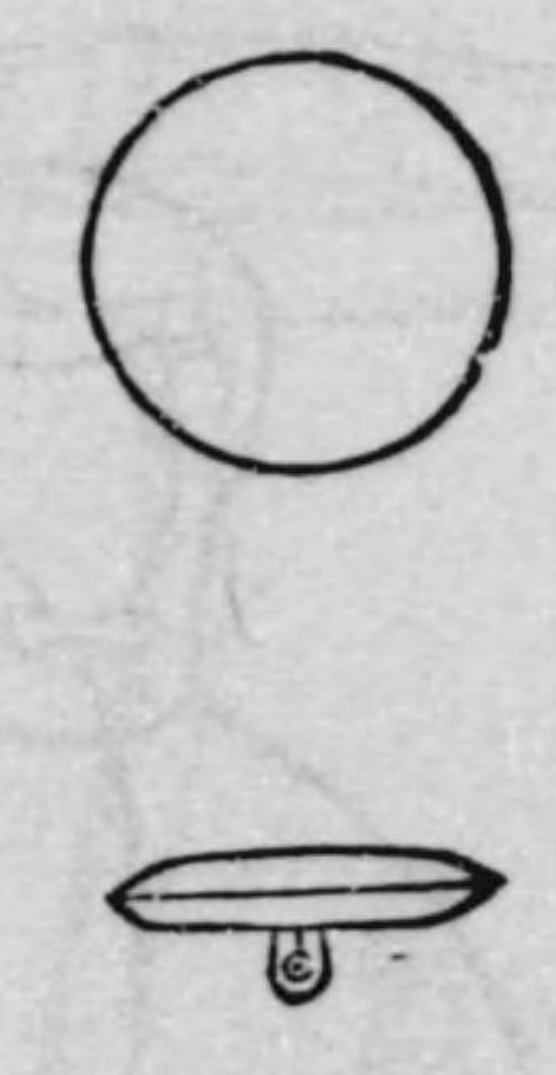
巡査部長



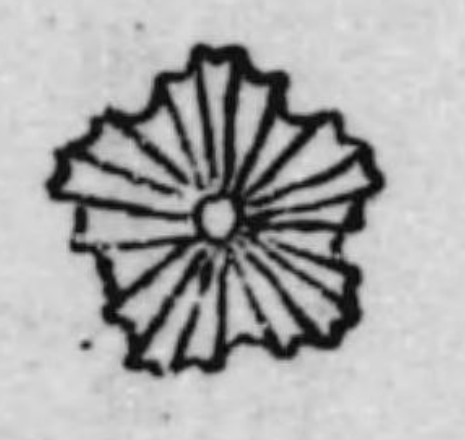
巡査



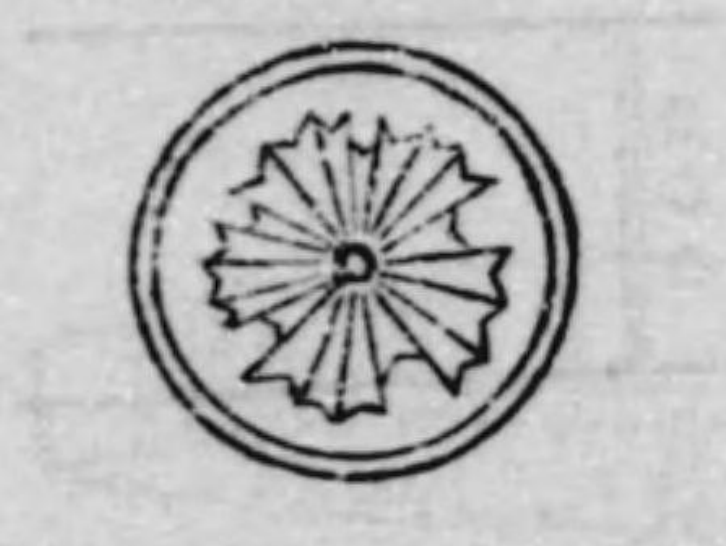
鈕釦



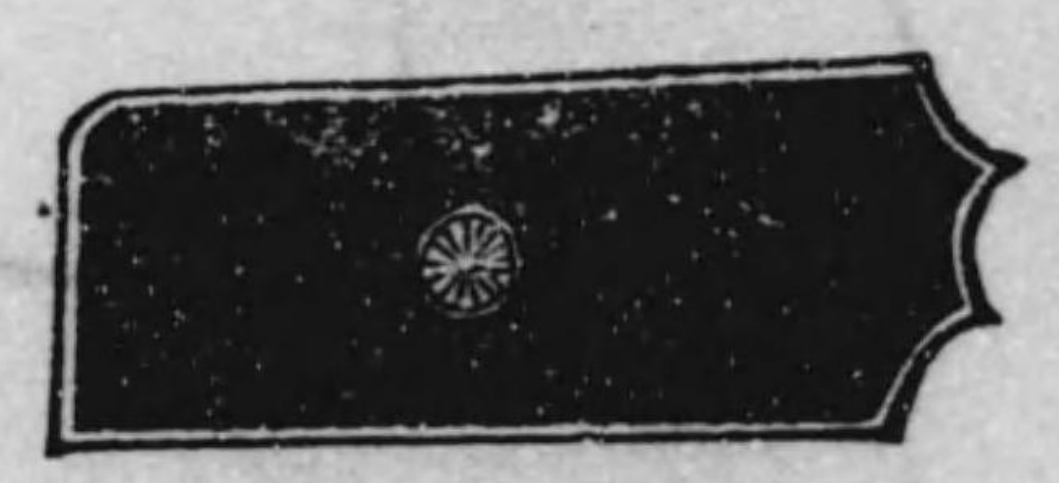
略日章



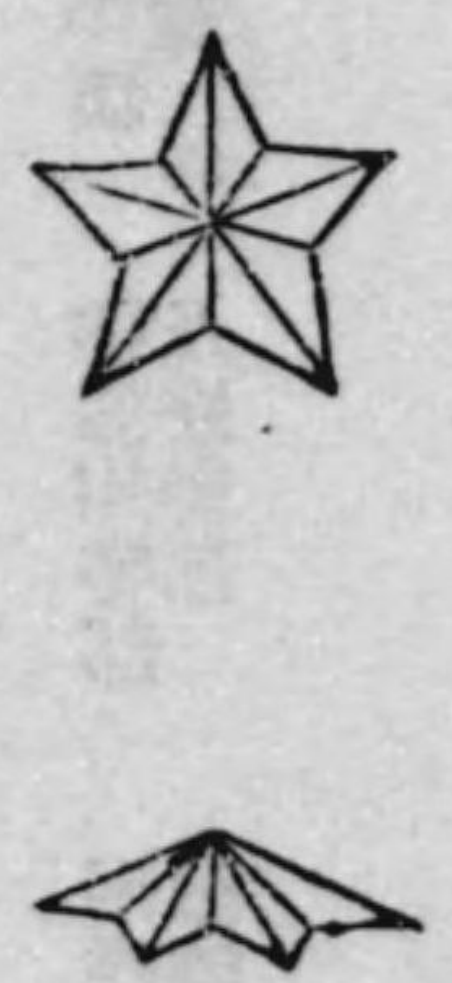
肩章釦



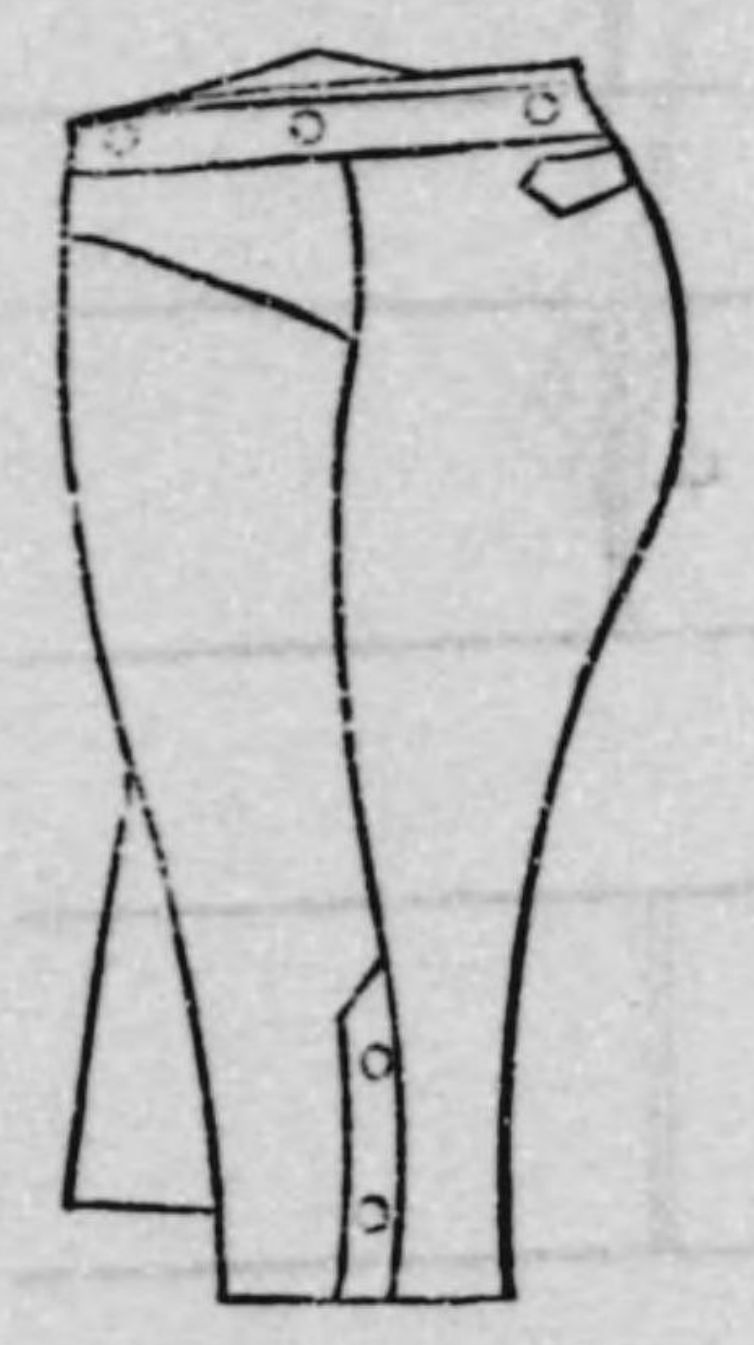
襟章



星章

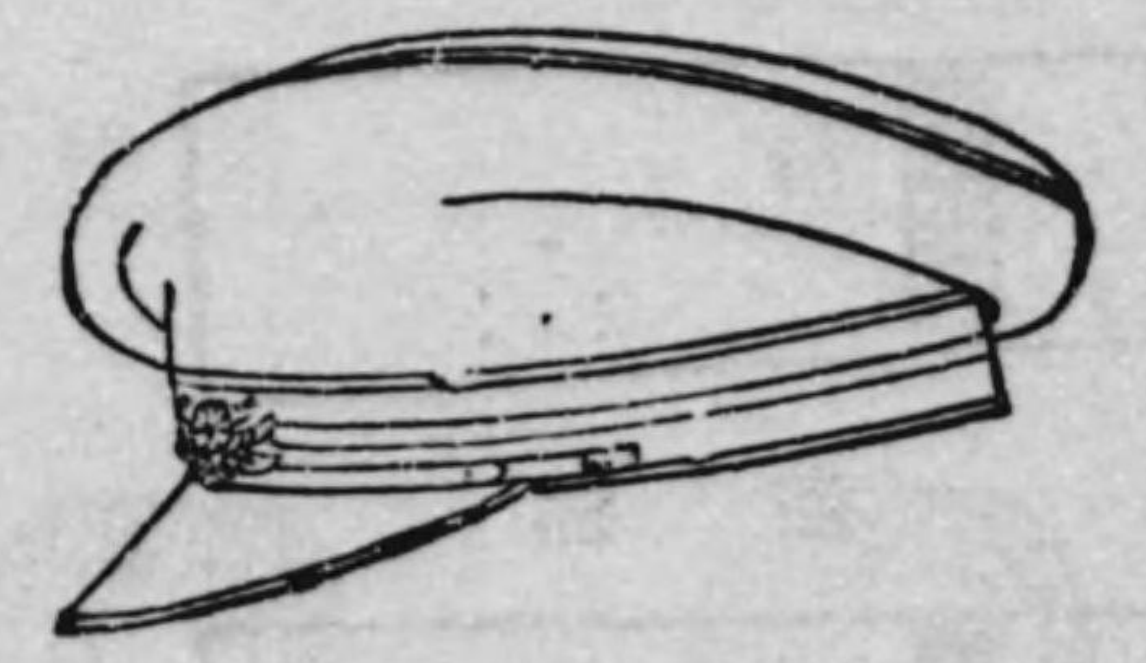


短袴



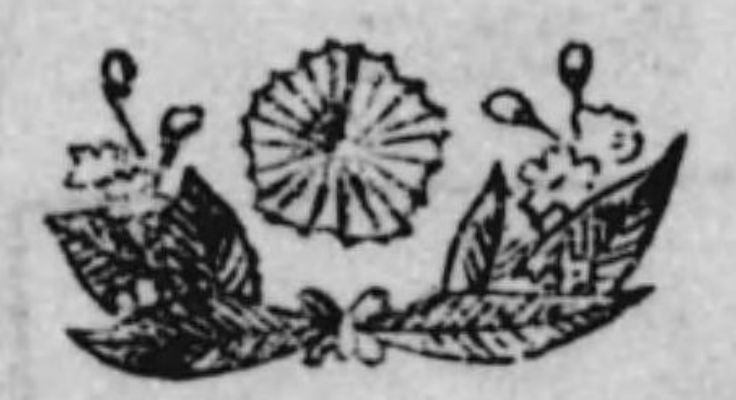
【看守】

帽

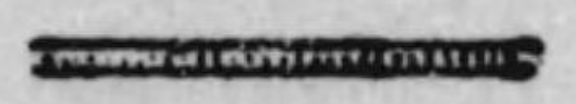


帽徽章

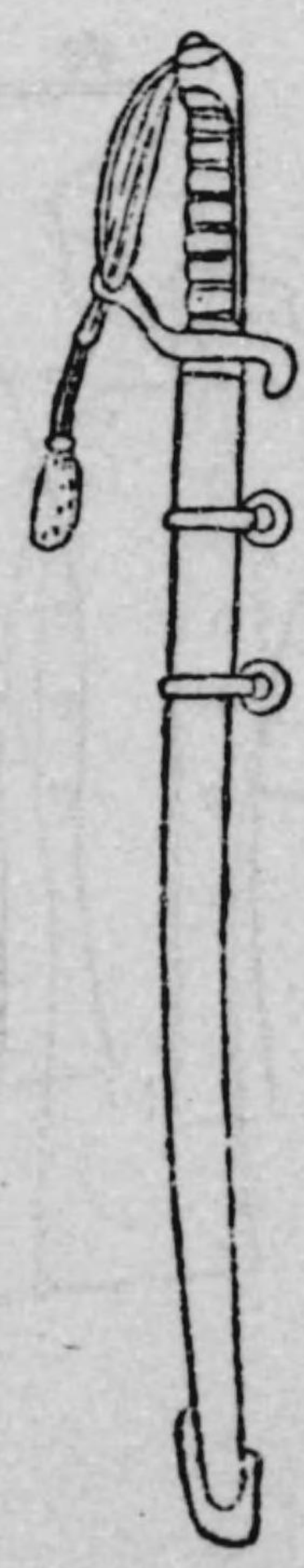
前章



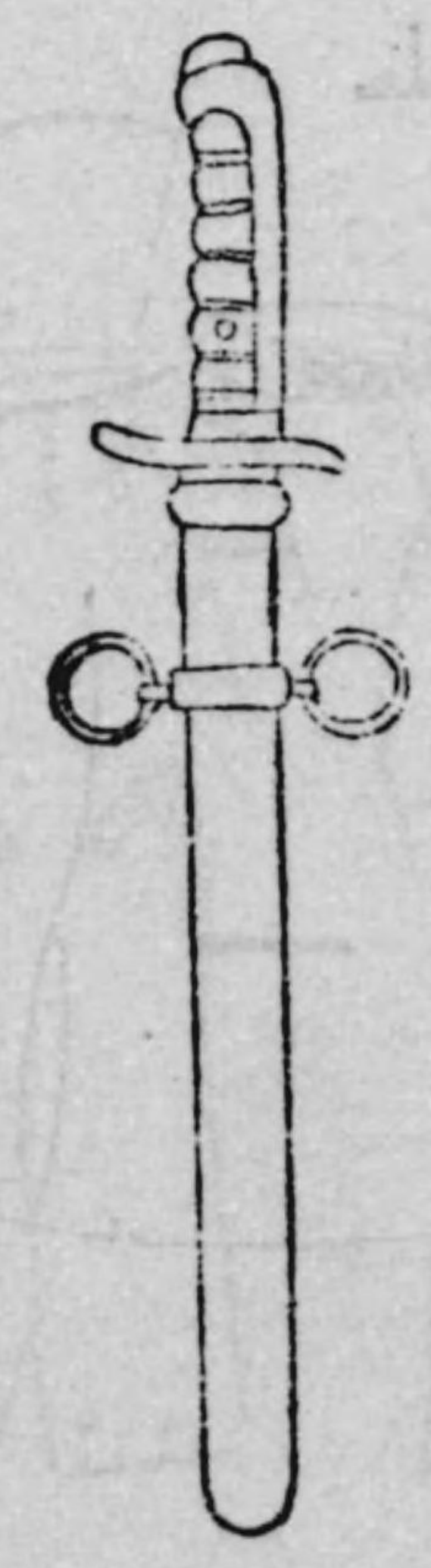
横章



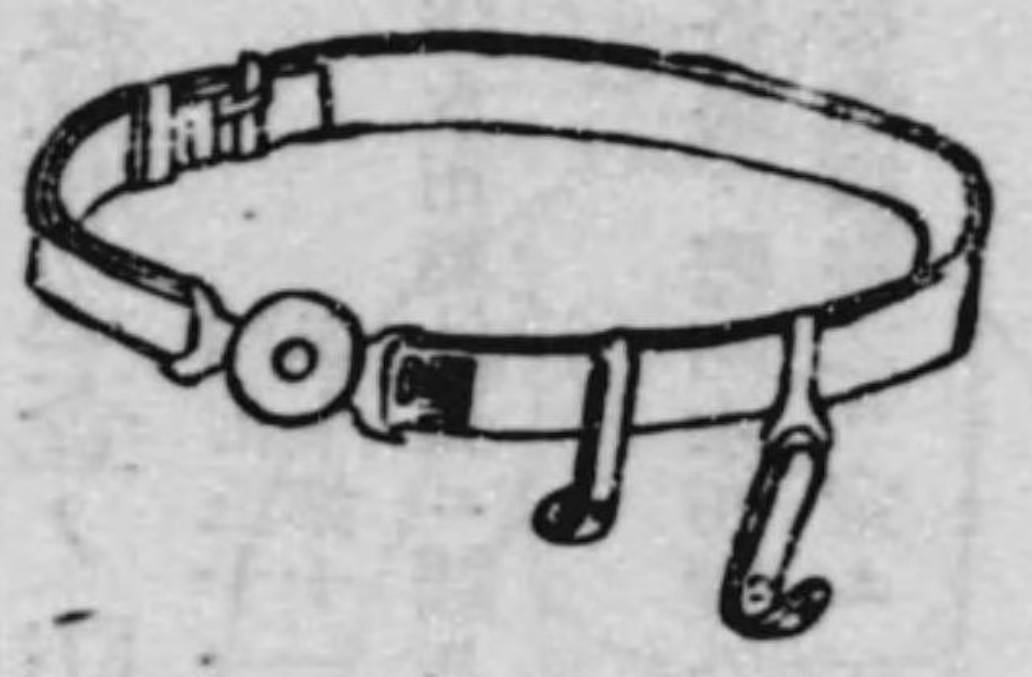
刀



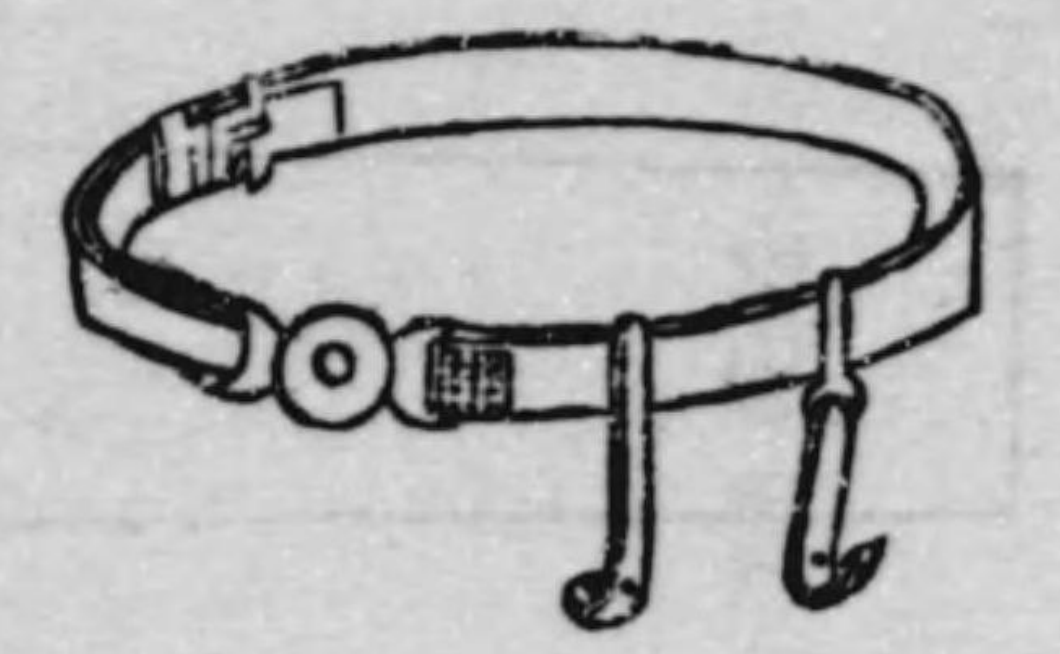
短刀



刀帶

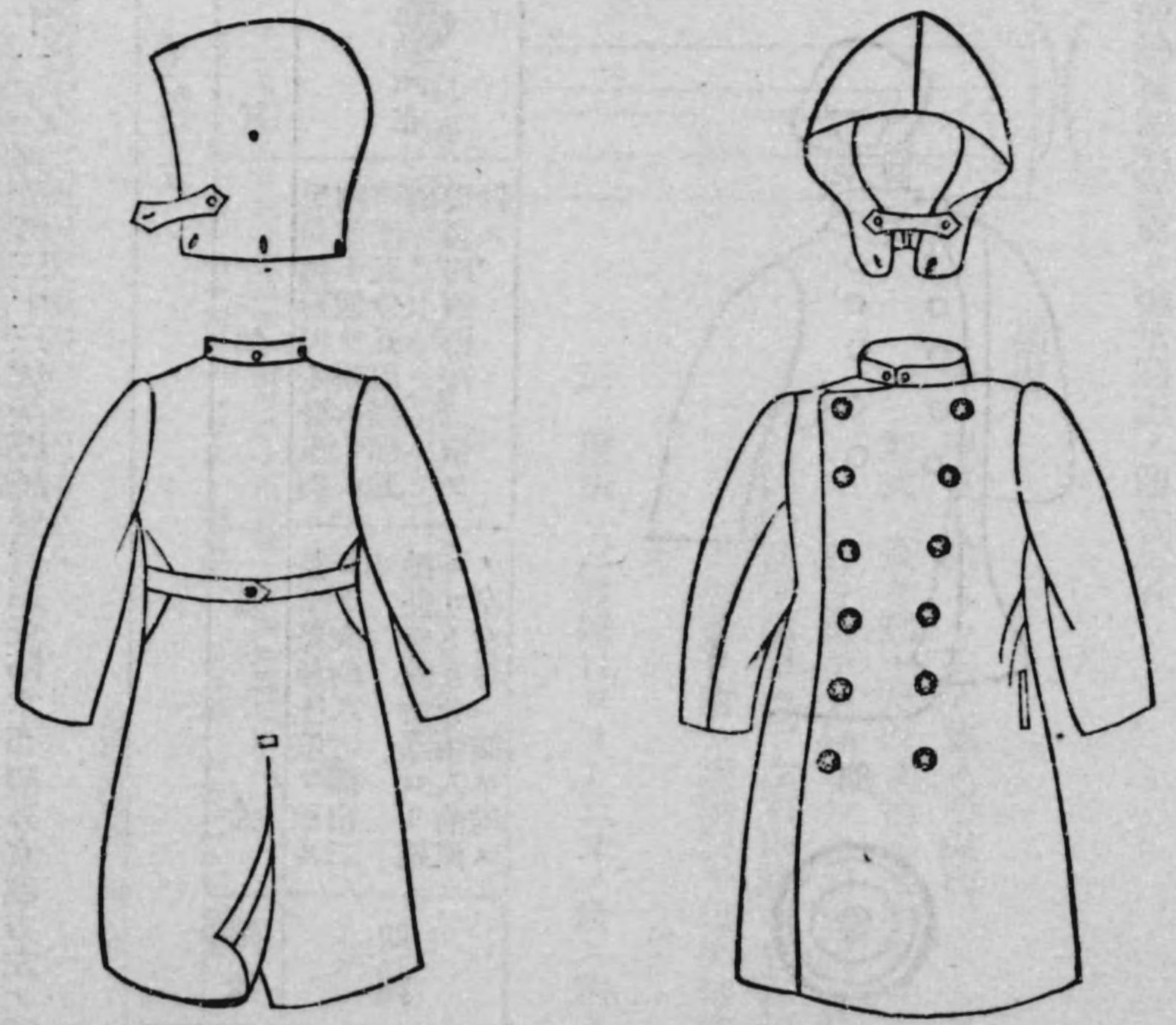


短刀帶

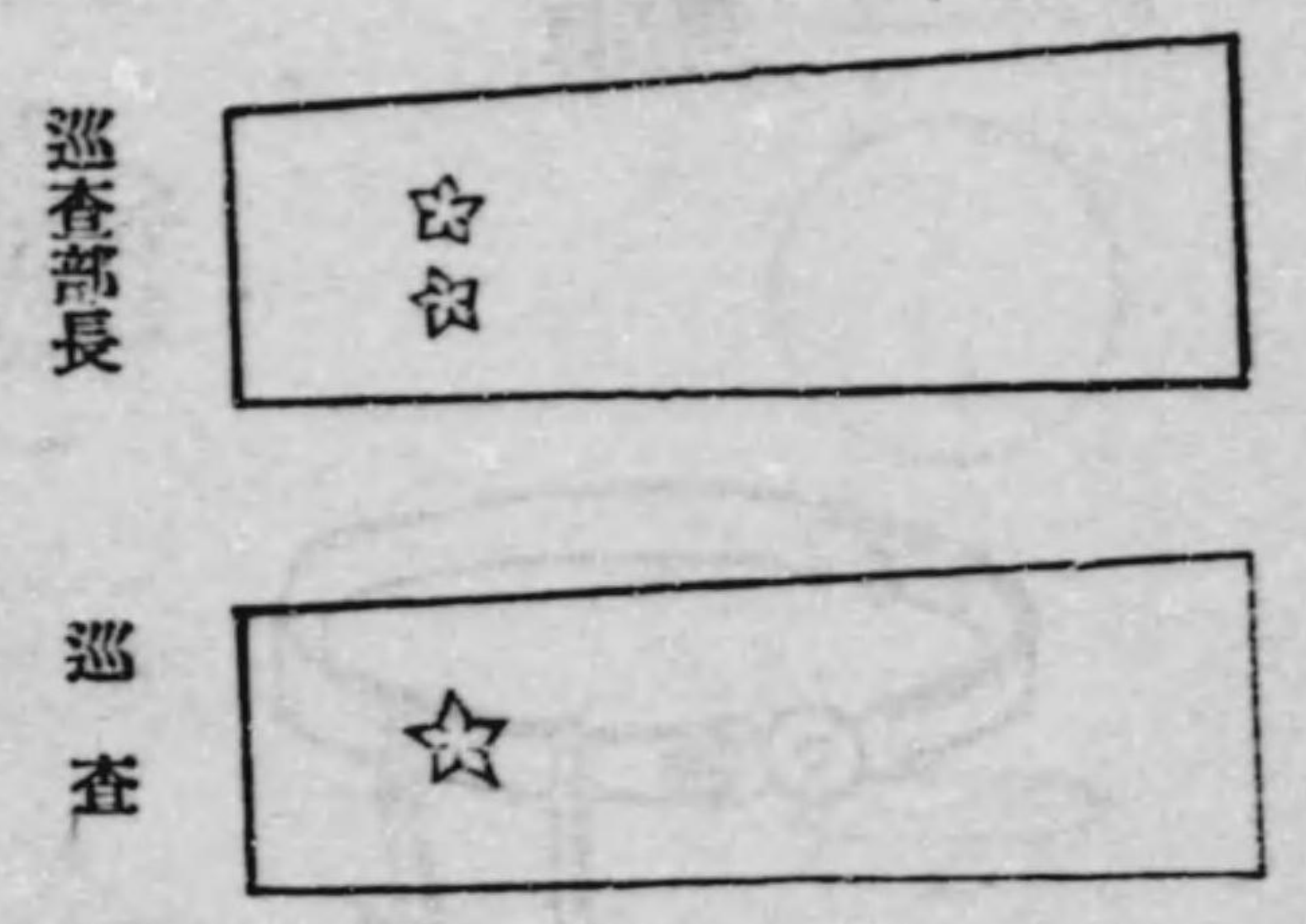


【看守】

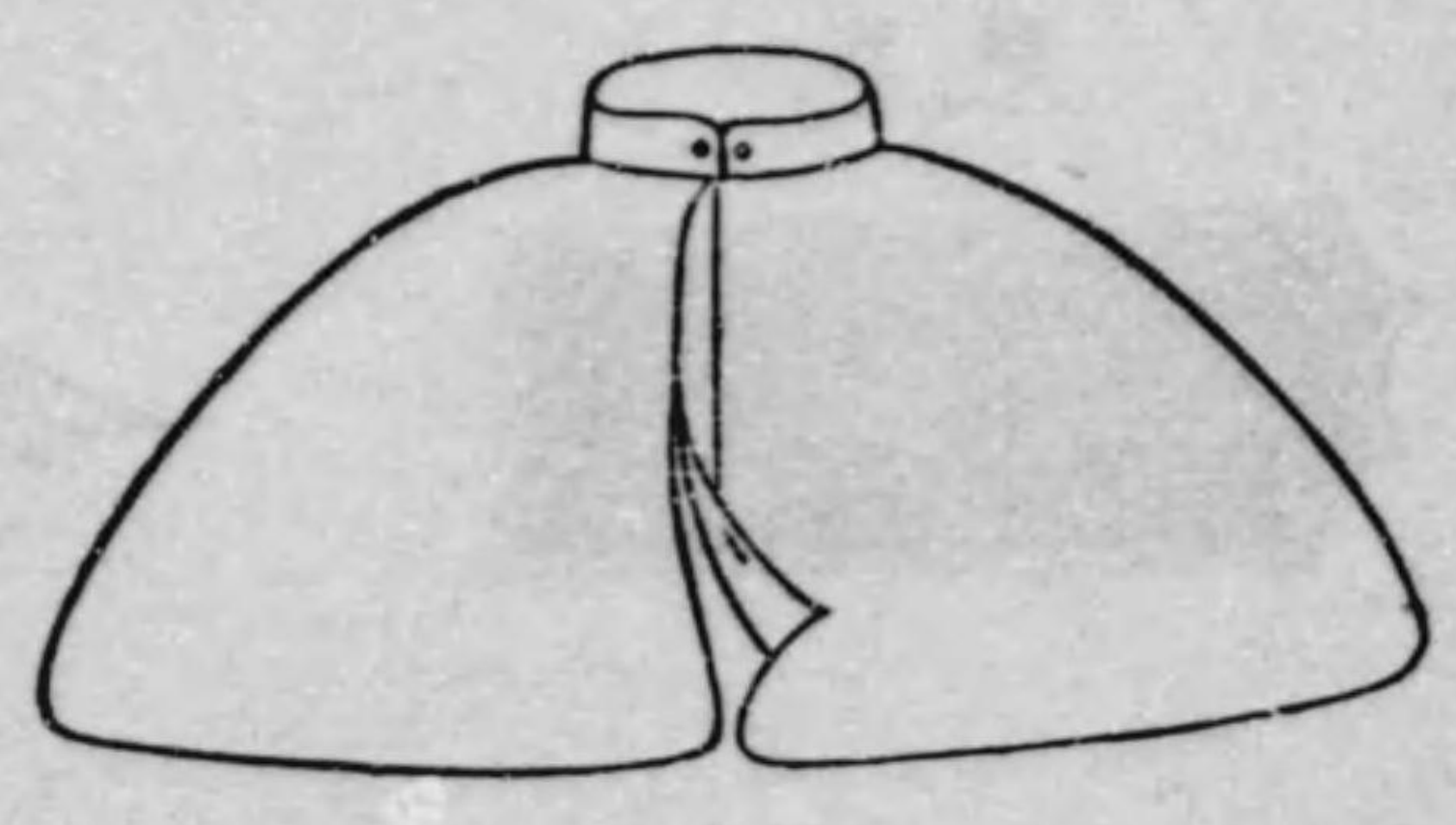
甲種外套



外套袖章



乙種外套



●臺灣總督府巡査ノ防水布製外套ニ關スル件

明治三十一年一月二十五日
勅令第十一號

朕臺灣總督府巡査ノ防水布製外套ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府巡査ニハ炎暑ノ際防水布製外套ヲ著用セシムルコトヲ得其ノ製方及ヒ著用期限ハ臺灣總督之ヲ定ム

●臺灣總督府巡査防水布製外套制方

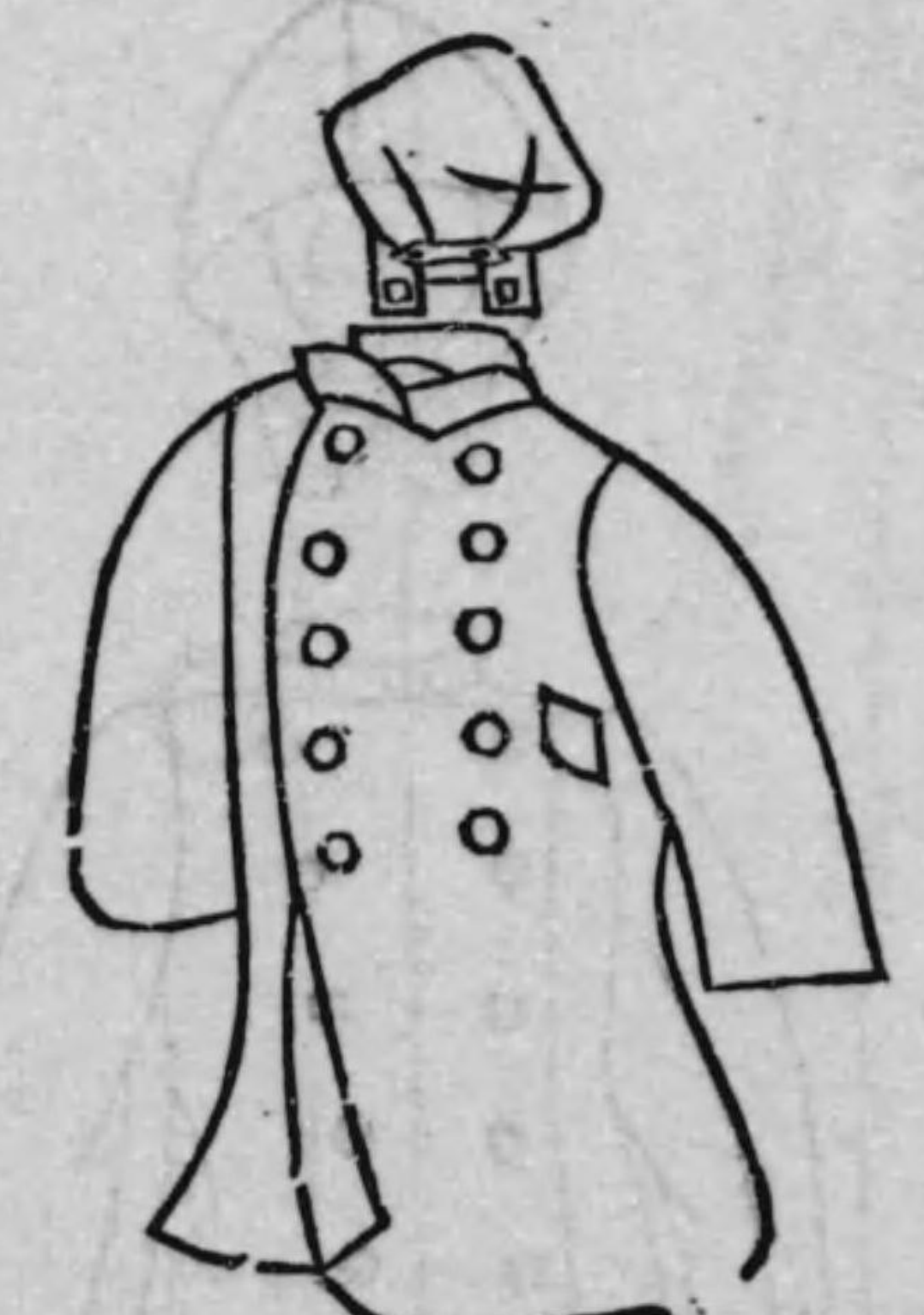
【臺報】

明治三十二年八月
臺灣總督府訓令第二百四十四號
【縣】【廳】

明治三十一年二月訓令第三十三號臺灣總督府巡査防水布製外套制方左ノ通改正ス

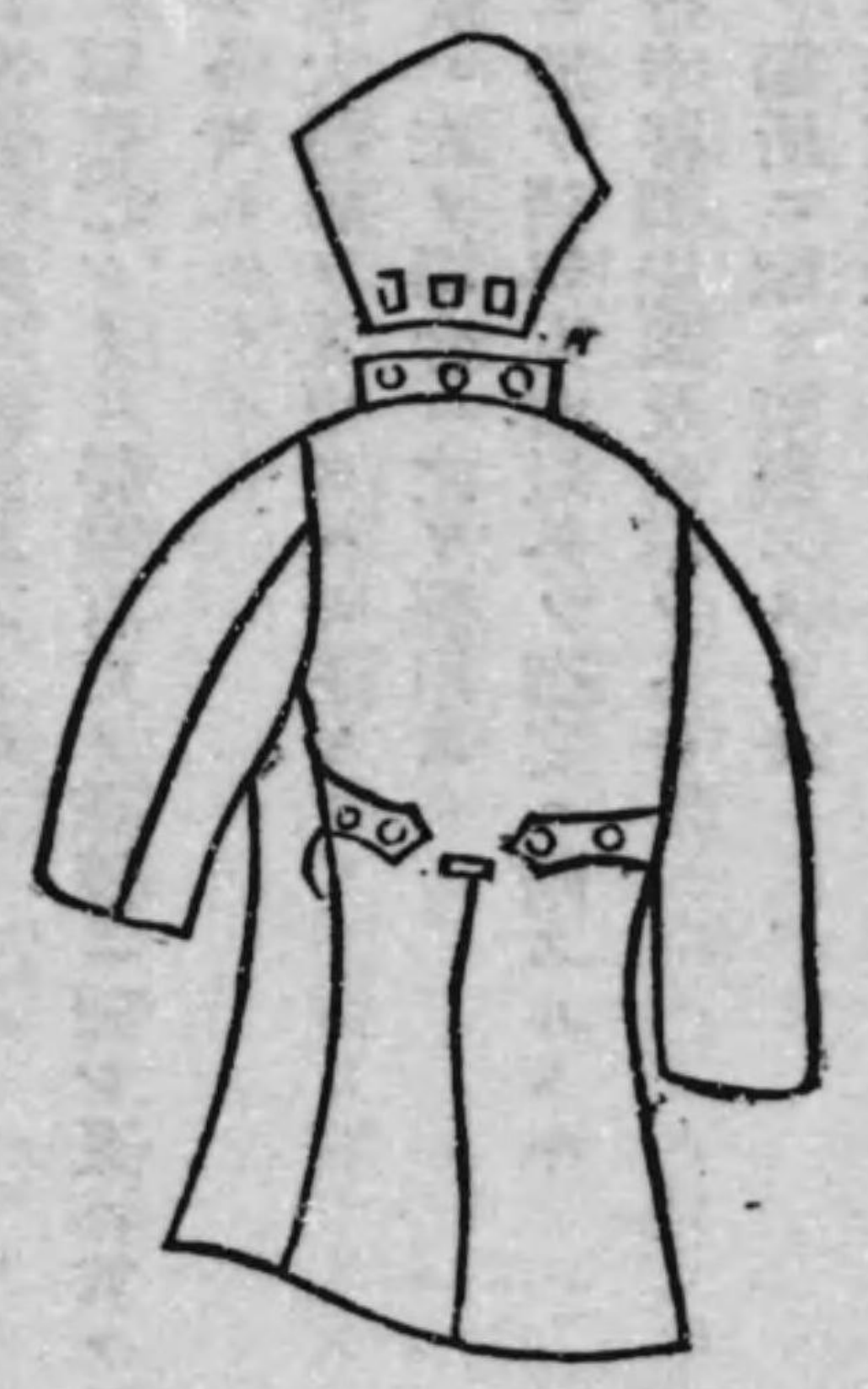
製方			
地質	鈕	製式	形狀
鼠色防水布	黒角圓形徑七分五厘胸部十個ヲ附ス同徑五分五厘襟部五個後裂四個雨覆二個ヲ附ス	長サ靴踵上際ヲ距ルコト大約八寸襟巾二寸袖長サ腕關節ヨリ延ルコト五分物入前面ノ左右各一個ヲ附ス	如圖

前面



鈕

背面



【臺報】

●短刀ヲ佩用スル警察官吏指定

大正十一年十二月二十四日
臺灣總督府訓令第二百二十一號

改正 大正一三年訓令第一九號

臺灣總督府 州 廳

臺灣總督府警察官服制ニ依リ短刀ヲ佩用スル者水上勤務ノ外左ノ通之ヲ指定ス

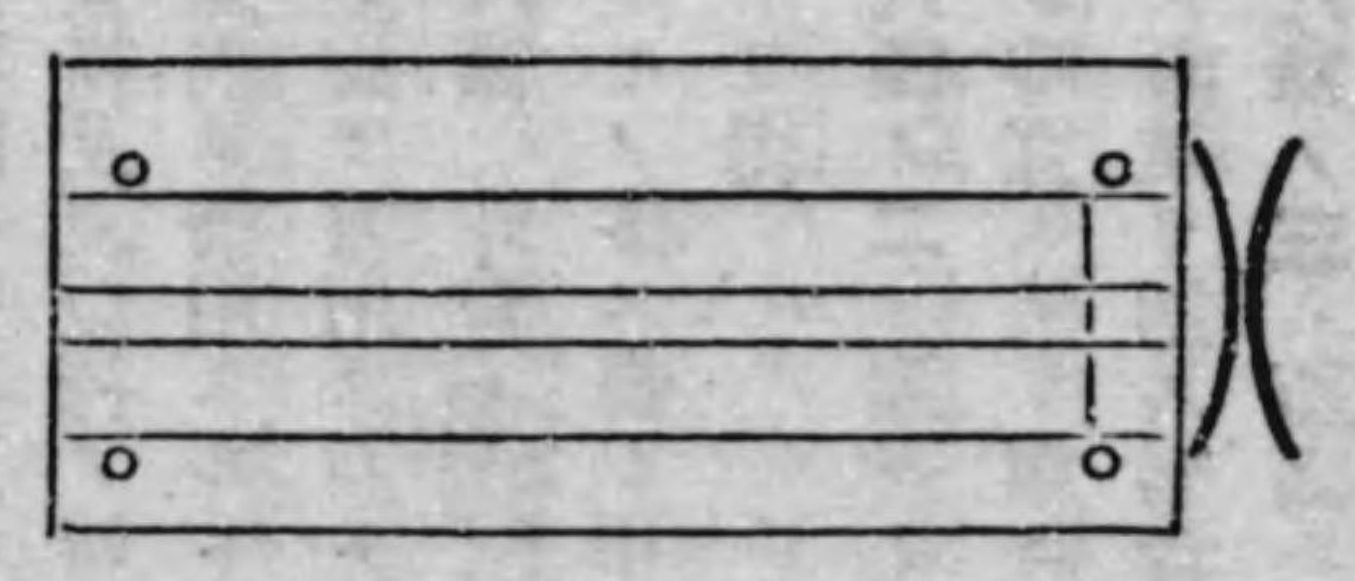
一 消防勤務者
二 交通整理勤務者
三 航空勤務者

●交通整理勤務警察官吏ノ腕章

大正十四年二月十七日
臺灣總督府訓令第十四號

州廳

交通整理勤務警察官吏ノ腕章別記ノ通相定ム



備考

一 地質 絨又ハ其ノ他ノ毛織物
二 製式 長サ約一尺四寸幅三寸中央ニ二分ヲ劃シテ幅四分ノ白色線二條其ノ他青色、左右兩絲ニ各二箇ノ鳩目ヲ附シ護謨紐ヲ以テ結合ス
三 用法 左肩縫目ヨリ下三寸ノ所ニ附ス

●臺灣總督府警察官吏服裝規程

大正六年六月
臺灣總督府訓令第八十一號

注意 大正九年八月訓令第百四十號ヲ以テ巡査補ニ關スル規定廢止
改正 大正九年訓令第一一一號、一一年第一六七號、一二年第一六號、一三年第五九號

臺灣總督府 州 廳

臺灣總督府警察官吏服裝規程左ノ通相定ム

臺灣總督府警察官吏服裝規程

第一條 警察官吏ノ服裝ハ本令ニ依ルヘシ但シ衛生、刑事其ノ他特種ノ事務ニ從事スル者ノ服裝ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 服裝ヲ分チテ正裝、禮裝及常裝ノ三種トス

第三條 正裝ハ帽、衣（黑又ハ濃紺）、袴（同上）、肩章、刀、刀帶、正緒、手套、下襟、下袖及短靴ヲ著裝スルヲ謂ヒ禮裝ハ帽、衣、袴、肩章、刀、刀帶、常緒、手套、下襟、下袖及短靴ヲ著裝スルヲ謂ヒ常裝ハ帽（又ハ略帽）、衣、袴、刀、刀帶、常緒、手套、下襟、下袖（巡査ハ之ヲ除ク）及靴ヲ著裝スルヲ謂フ但シ正裝又ハ禮裝ノ場合ト雖乘馬勤務ノトキ若ハ降雨泥濘等ノ際ニ於テ職務執行ノトキハ長靴ヲ、第四條第四號乃至第八號ノ場合ニシテ炎暑ノ際ハ夏衣及夏袴ヲ用ウルコトヲ得

第四條 正裝ハ概ネ左ノ場合ニ之ヲ著用ス

一 三大節參賀ノトキ

二 天機伺其ノ他拜謁ノ爲參內スルトキ

三 任官、敍位、敍勳等ニ付參內スルトキ

四 始政記念式ニ參列ノトキ

五 臺灣神社及靖國神社大祭參拜ノトキ

六 公式行幸啓御先驅並供奉ノトキ

七 職務ノ爲死亡シタル警察官吏ノ葬儀ニ列シ又ハ其ノ祇ノ警衞ニ從事スルトキ

八 其ノ他大禮服ヲ著用スヘキトキ

第五條 禮裝ハ左ノ場合ニ之ヲ著用ス

一 宮中ニ於テ新年宴會以外ノ御宴ニ陪スルトキ

二 通常行幸啓御先驅及供奉ノトキ

三 天覽ノ場所ニ臨ミ陪觀スルトキ

四 行幸啓奉迎奉送ノトキ

五 正式勅使警衞ノトキ

六 皇族警衞ノトキ

七 幣帛供進使警衞ノトキ

八 歲暮參賀ノトキ

九 任官、敍位、敍勳等ニ付御禮ノ爲參內スルトキ

十 職務ノ爲ニ非スシテ死亡シタル警察官吏ノ葬儀ニ列シ又ハ其ノ祇ノ警衞ニ從事スルトキ

十一 夜會其ノ他儀アル集會ニ臨ムトキ

第六條 常裝ハ通常勤務ノ場合ニ之ヲ著用ス

第七條 夏衣ハ寒冷ノ時季ノ外之ヲ著用スルモノトス但シ巡査ノ夏衣著用期間ハ知事又ハ廳長之ヲ定ム

夏袴及夏短袴ノ時季ニ拘ラス著用スルコトヲ得

夏衣ヲ著用スルトキハ帽ニ日覆ヲ附スヘシ

夏衣ヲ著用スルトキハ黑又ハ濃紺色ノ袴ヲ著用スルコトヲ得ス

第八條 外套（巡査ノ乙種外套ハ之ヲ含マス）ハ雨天ノ際又ハ防寒ノ爲室外ニ於テ著用スルモノトス但シ甲種外套ハ夜間室內ニ於テモ防寒ノ爲之ヲ著用スルコトヲ得

第八條ノ二 巡査ノ乙種外套ハ雨天ノ際甲種外套ノ上ニ著用スルヲ例トシ時宜ニ依リ單ニ乙種外套ノミヲ著用スルコトヲ得但シ銃器ヲ携帶シテ隊伍ヲ爲ス場合ハ之ヲ著用スルコトヲ得ス

第八條ノ三 覆面ハ雨天ノ際甲種又ハ乙種ノ外套ニ附著シテ用ウルモノトス

第九條 刀ヲ佩フルトキハ上衣ノ下ニ刀帶ヲ締メ警部補以上ニ在リテハ

上部ノ鎖ヲ刀帶ノ鉤金ニ掛ケ刀柄ヲ後ロニシ乘馬ノトキハ之ヲ掛ケサルモノトス巡査ニ在リテハ刀柄ヲ前ニスヘシ

第十條 下襟ハ白色立襟トシ下袖及手套ハ白色トス但シ手套ハ常裝ニ限リ茶褐色ノモノヲ用ウルコトヲ得

第十一條 靴ハ長短ヲ問ハス黑色革製トス

乘馬ノトキハ長短靴共ニ拍車ヲ附シ其ノ短靴ヲ穿チタルトキハ「スーピエー」ヲ附スルモノトス

操練、長途ノ旅行、犯人護送其ノ他職務執行上必要アル場合ニ於テハ警部補以上ハ卷脚絆、「ゲートル」（黑又ハ茶褐色）巡査ハ「ゲートル」（生麻布製）及短靴又ハ脚絆（紺）、紺足袋、草鞋ヲ用ウルコトヲ得

第十二條 儀式、操練其ノ他隊伍ヲ爲ス場合ニ於テハ各員齊一ノ服裝ヲ爲スヘシ巡査二人以上同一ノ場所ニ於テ勤務ニ服スルトキモ亦成ルヘク齊一ノ服裝ヲ爲スヘシ

第十三條 外套ヲ携帶スルトキハ附屬品ヲ其ノ內ニ納メ適宜捲收シ乘馬ノトキハ後鞍ニ附ケ徒歩ノトキハ兩端ヲ結束シテ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス

第十四條 巡査ノ手帖ハ上衣ノ左上隱ニ、警笛ハ其ノ右下隱ニ、捕繩ハ袴ノ右隱ニ、名刺ハ手帖ノ名刺入ニ納メ置クモノトス

甲種外套ヲ著シタルトキハ手帖及警笛ハ其ノ右隱ニ納メ置クモノトス

警笛ノ紐ハ服地ト同色ノモノヲ用ヰ隱（外皮）ノ內面左上部ニ小鉤ヲ附シテ之ニ掛ケ長サハ口ニ達スルヲ度トス

時計其ノ他ノ鎖、紐ハ服地同色ノモノノ外隱外ニ之ヲ露出スヘカラス

第十五條 執銃スルトキハ彈藥盒ハ衣又ハ甲種外套ノ上ニ之ヲ帶フヘシ

第十六條 蕃地ニ在リテハ常裝ニ於テ短袴、脚絆、草鞋ヲ袴及靴ニ、防水布外套ヲ衣ニ代用スルコトヲ得但シ外套ヲ衣ニ代用スル場合ハ下襟、下袖及手套ヲ用ヰサルモノトス

第十七條 蕃地ニ在リテハ必要ニ應シ竹笠ヲ用ヰ、執銃スルトキハ刀ヲ佩ヒサルコトヲ得

第十八條 蕃地ニ在リテハ銃劍又ハ蕃刀ヲ以テ刀ニ、彈差ヲ以テ彈藥盒ニ代用スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十月訓令第二百三號臺灣總督府警察官吏服裝規則及大正二年九月訓令第二百四號蕃地警察官吏服裝規程ハ之ヲ廢止ス

●蕃地警察官吏服裝規程

大正四年十月
臺灣總督府訓令第百四十六號

【民政部】【照】警察官及司獄官練習所

大正二年九月訓令第二百四號蕃地警察官吏服裝規程左ノ通改正ス

蕃地警察官吏服裝規程

第一條 蕃地ニ勤務スル警察官吏ノ服裝ハ明治四十四年十月訓令第二百三號臺灣總督府警察官吏服裝規則ニ依ルノ外本令ニ依ルヘシ

第二條 蕃地勤務ニハ常裝ノミトシ短袴、草鞋、脚絆ヲ袴及靴ニ乙種防水布外套ヲ衣ニ代用スルコトヲ得但シ外套ヲ衣ニ代用スル場合ニハ下襟、手套ヲ用ヰサルモノトス

第三條　蕃地勤務ニ在リテハ竹笠ヲ用ウルコトヲ得

第四條　蕃地勤務ニ在リテ執銃スルトキハ佩刀ヲ爲ササルコトヲ得

必要ノ場合ニ在リテハ銃劍又ハ蕃刀ヲ携帶スルモ妨ケナシ

第五條　執銃ノ場合ニハ彈差ヲ以テ彈藥盒ニ代用スルコトヲ得

第六條　蕃地ニ出張シタル場合ハ蕃地勤務ト看做ス

第七條　【廳長】ハ必要ト認ムルトキハ部下ノ警察官吏ヲシテ第二條乃至第五條ノ規定ニ依ラシメサルコトヲ得他ヨリ應援ノ者ハ其ノ部下ト看做ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府法院判官檢察官及書記服制

明治三十二年七月五日
勅令第三百二十四號

朕臺灣總督府法院判官檢察官及書記ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　臺灣總督府法院判官檢察官及書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

第二條　判官檢察官及書記ノ服制ハ明治二十三年勅令第二百六十號ニ依ル但シ覆審法院判官及檢察官ハ控訴院判事及檢事ノ制服地方法院判官及檢察官ハ地方裁判所區裁判所判事及檢事ノ制服ヲ著スヘシ

附　則

本令ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム（明治三十二年七月府令第六十號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

【臺轄】

●判事檢事及裁判所書記制服

明治二十三年十月二十三日
勅令第二百六十號

改正　大正三年勅令第五六號

朕判事檢事及裁判所書記制服ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

判事、檢事及裁判所書記制服左ノ圖表ノ通定ム

但明治二十三年十二月三十一日迄ハ「フロックコート」又ハ羽織袴ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

判事制服表

種目／裁判所別	上衣			帽		
	地質	飾	製式	地質	飾	製式
大審院判事	黒地	桐花七個及唐草深紫	雛形第一圖	黒地	雲紋	雛形第二圖
控訴院判事	同上	桐花五個及唐草深紫	雛形第三圖	同上	同上	雛形第四圖
地方裁判所區裁判所判事	同上	桐花三個及唐草深紫	雛形第五圖	同上	同上	雛形第六圖

檢事制服表

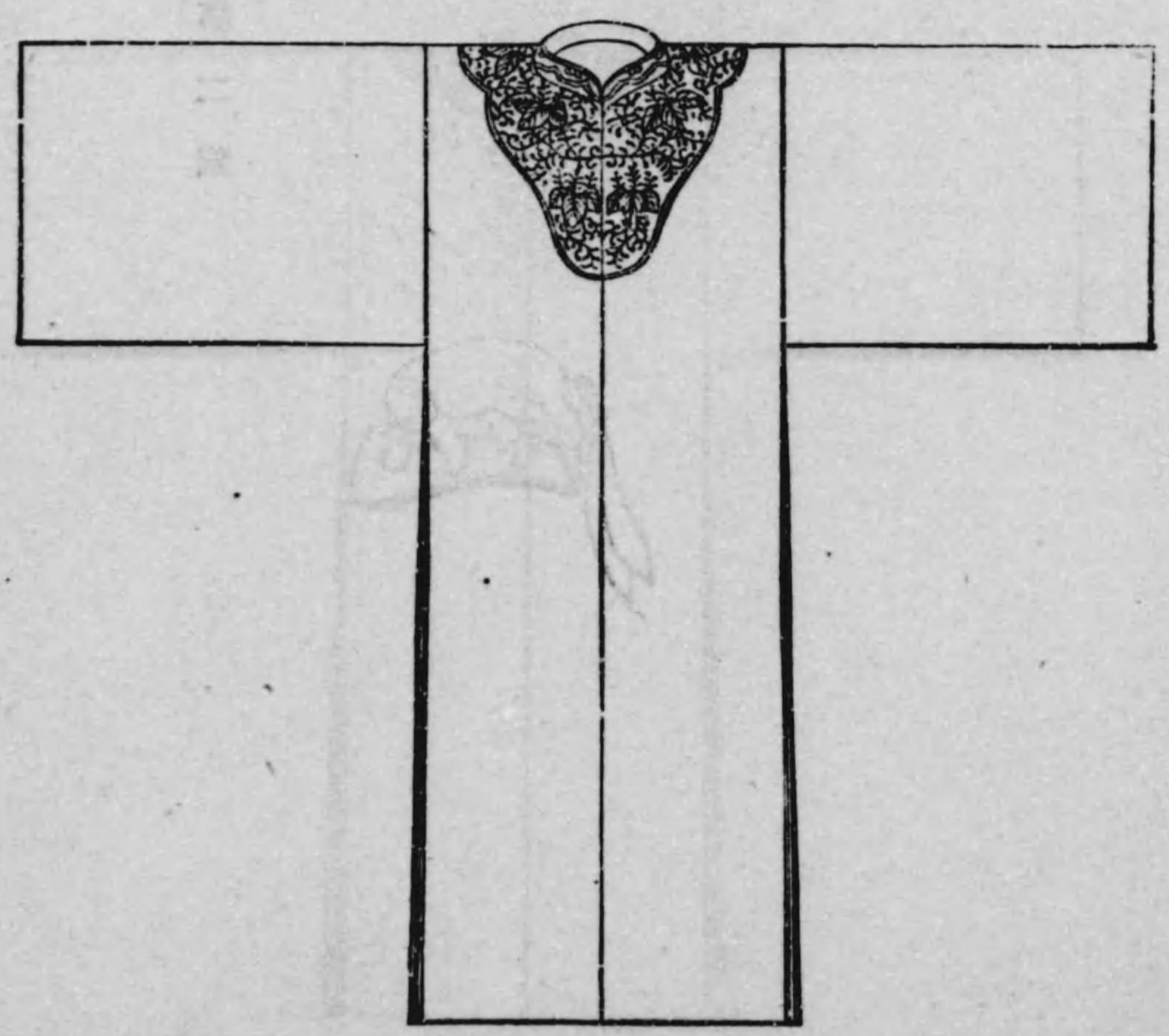
【臺轄】

種目／裁判所別	上衣			帽		
	地質	飾	製式	地質	飾	製式
大審院檢事	黒地	桐花七個及唐草深緋	雛形第一圖	黒地	雲紋	雛形第二圖
控訴院檢事	同上	桐花五個及唐草深緋	雛形第三圖	同上	同上	雛形第四圖
地方裁判所區裁判所檢事	同上	桐花三個及唐草深緋	雛形第五圖	同上	同上	雛形第六圖

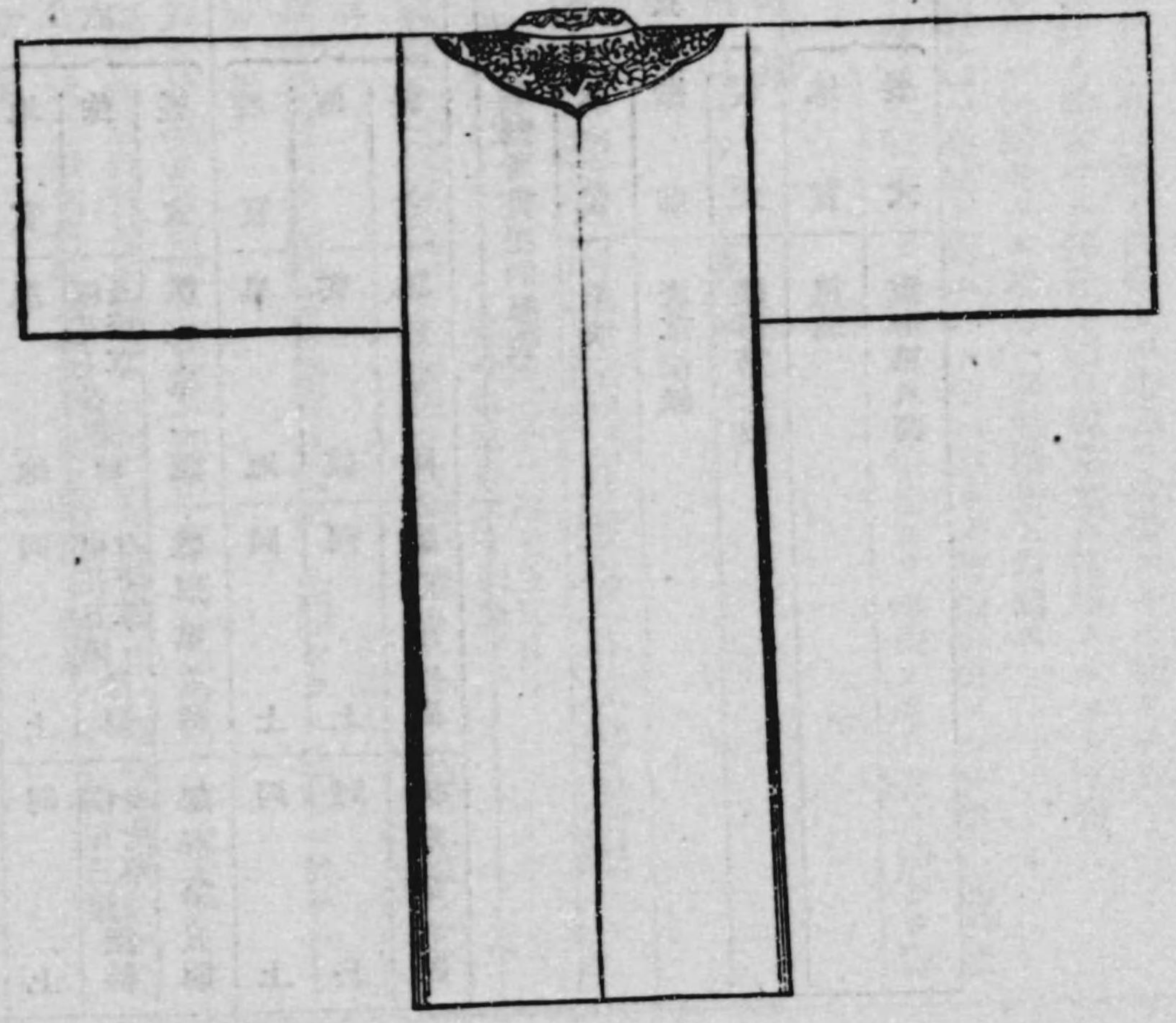
裁判所書記制服表

上衣			帽	
地質	襟飾	製式	地質	製式
黒地	唐草深綠	雛形第七圖	黒地	雛形第八圖

第一圖前面

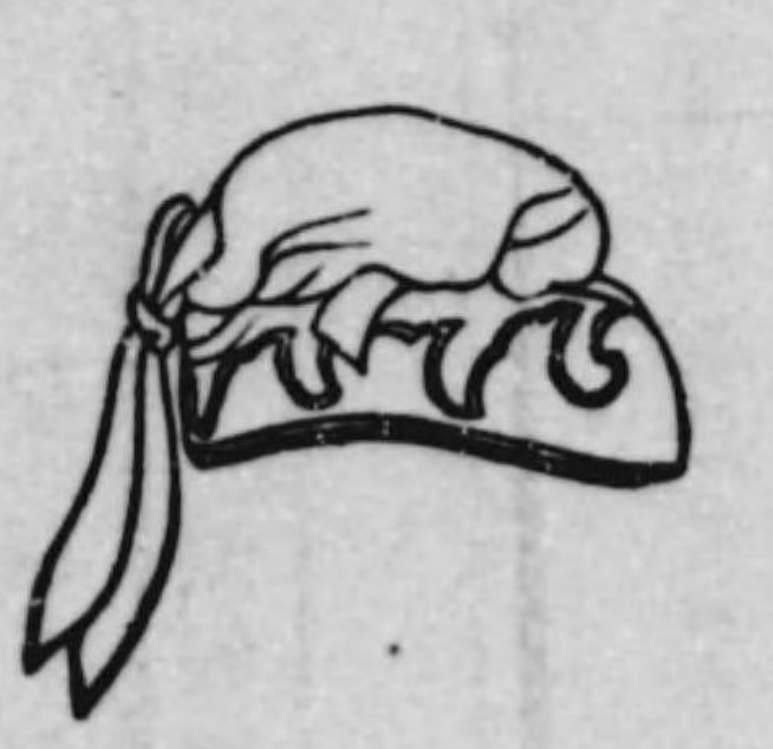


第一圖後面

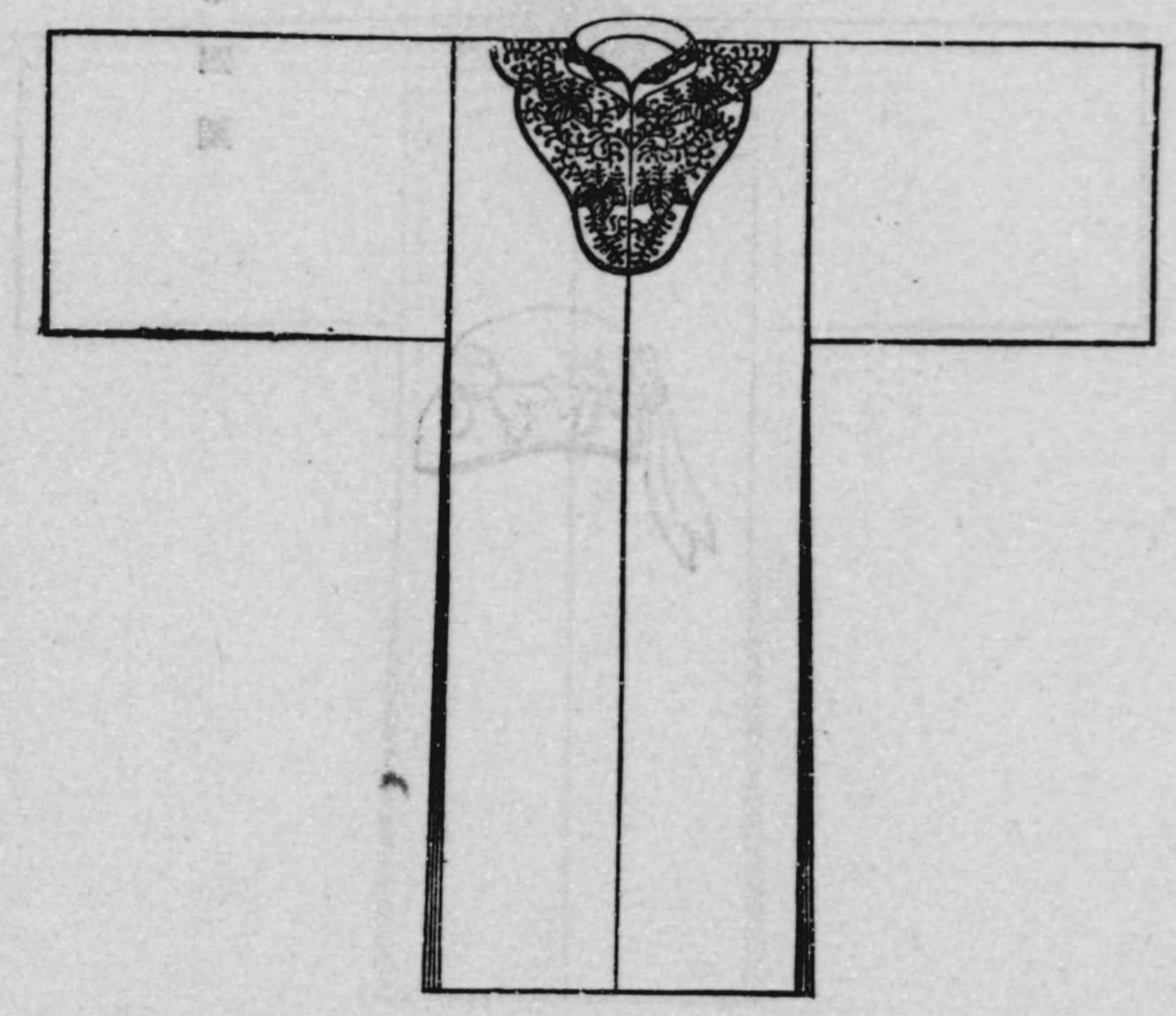


【奎韓】

第二圖

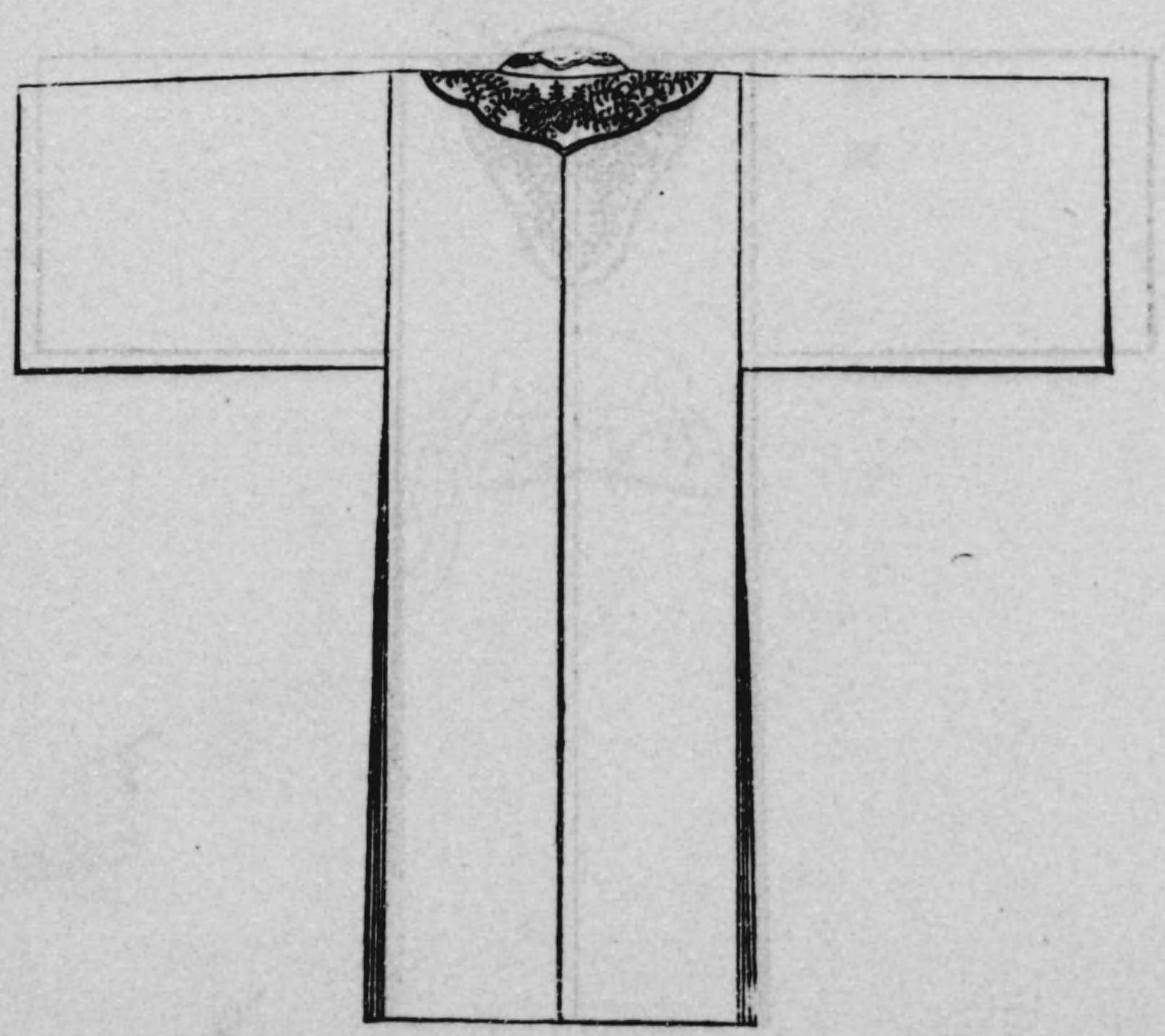


第三圖前面

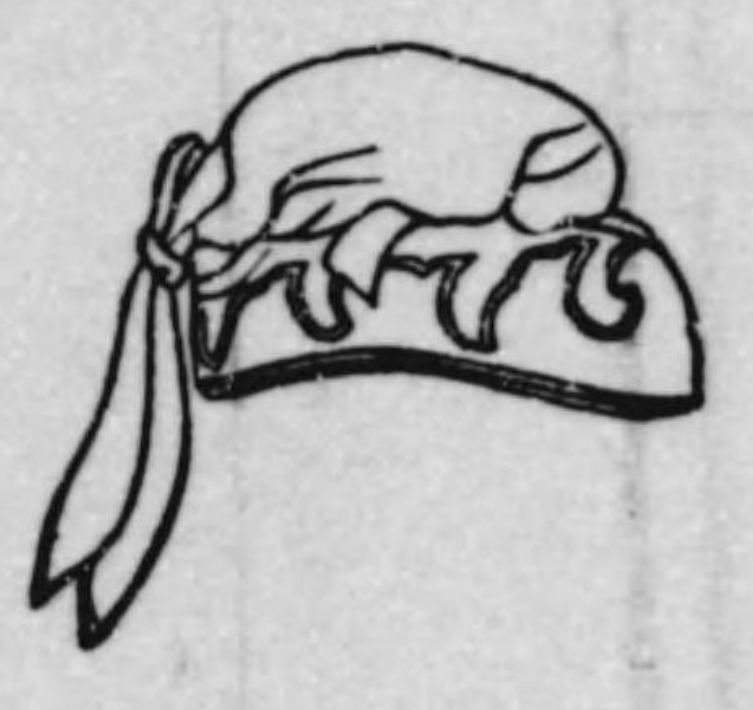


【奎韓】

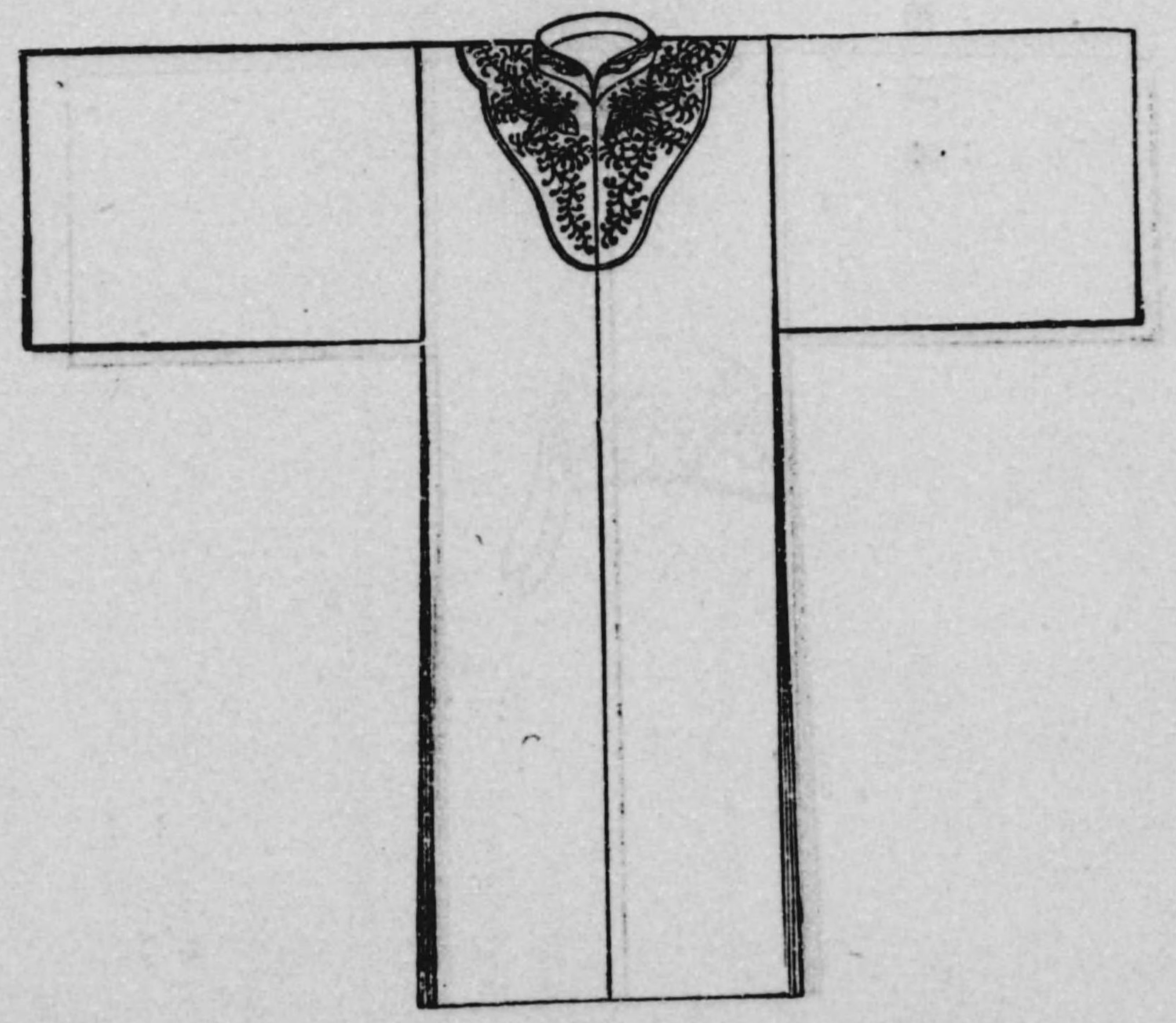
第三圖後面



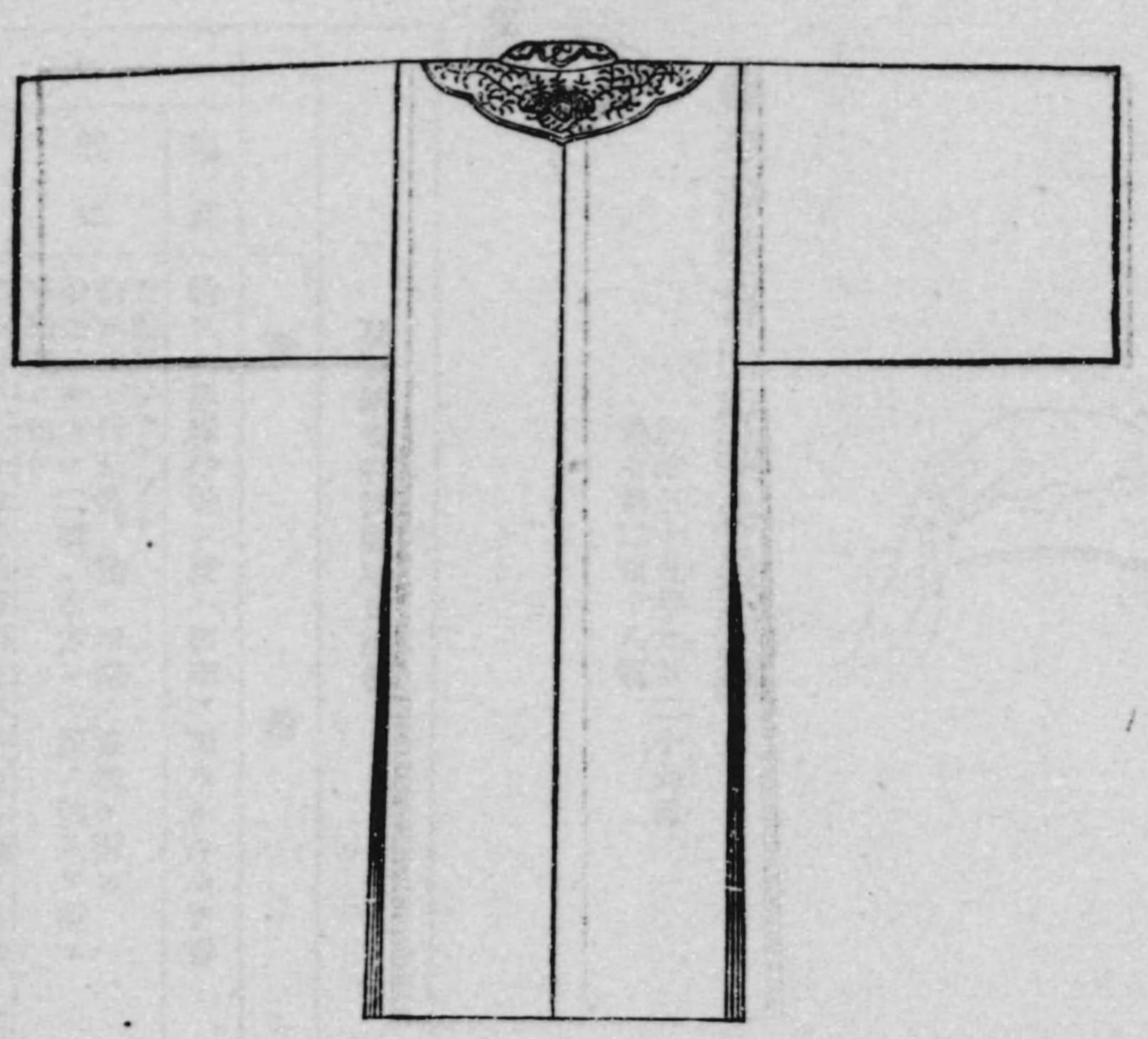
第四圖



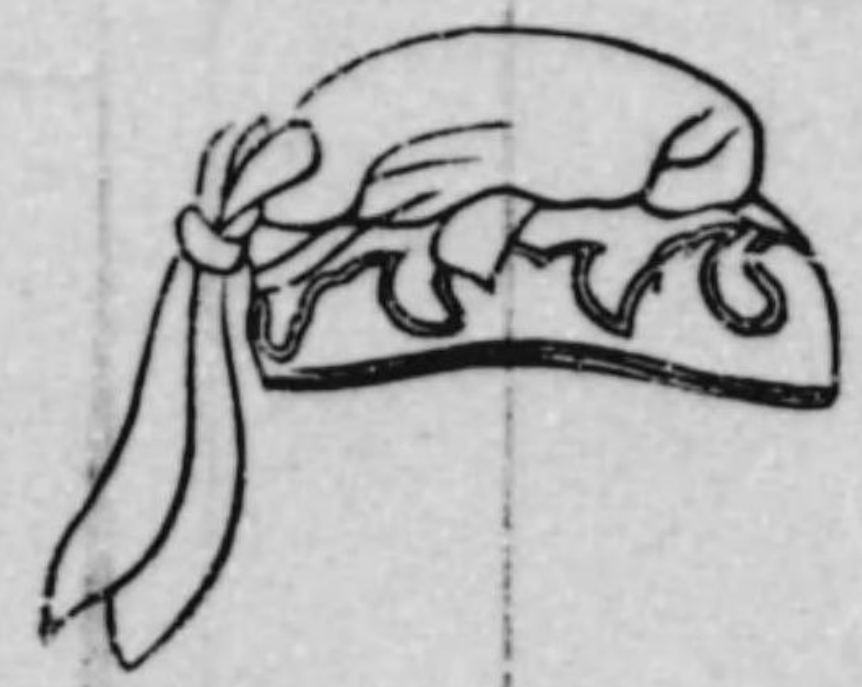
第五圖前面



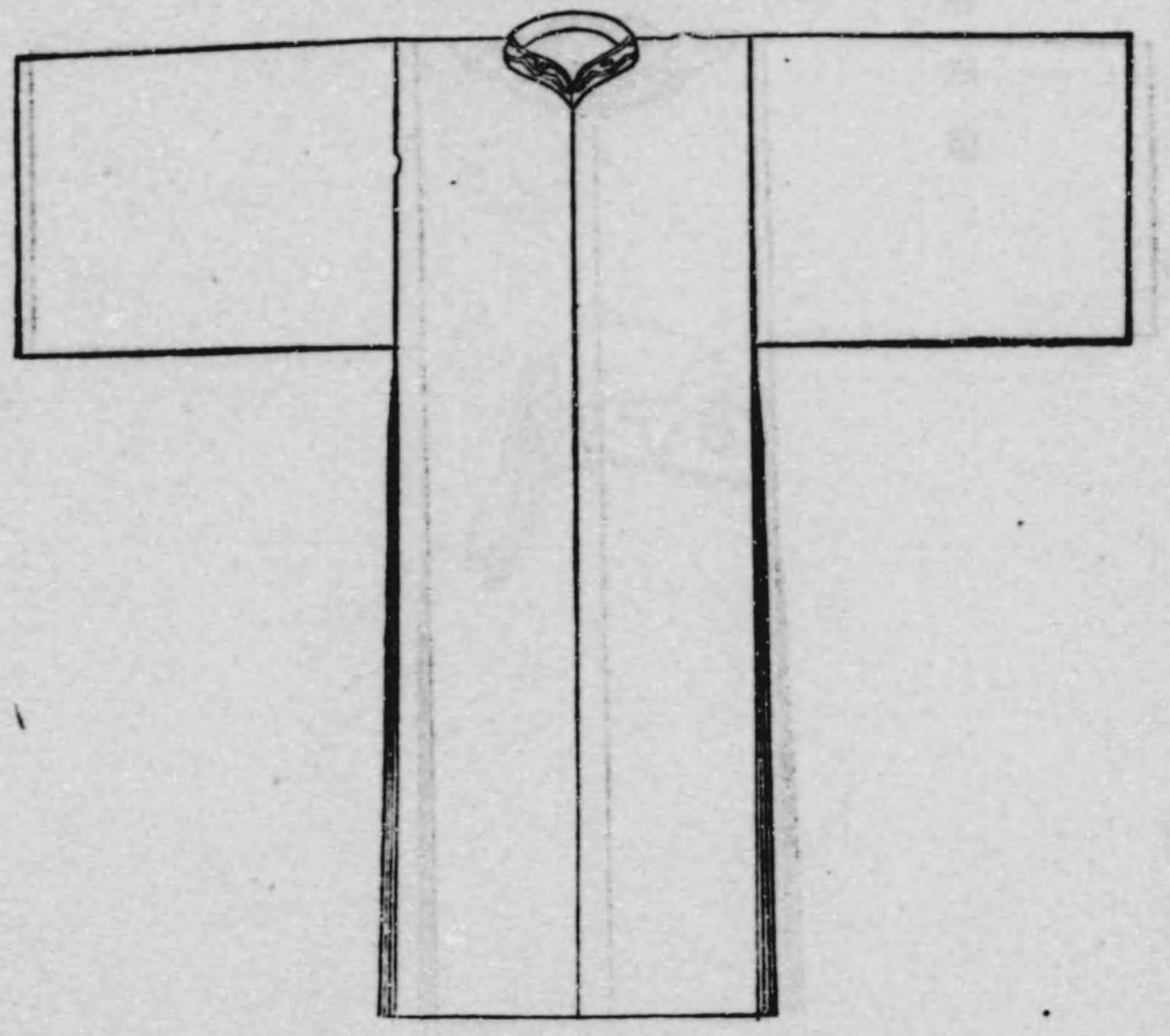
第五圖後面



第六圖

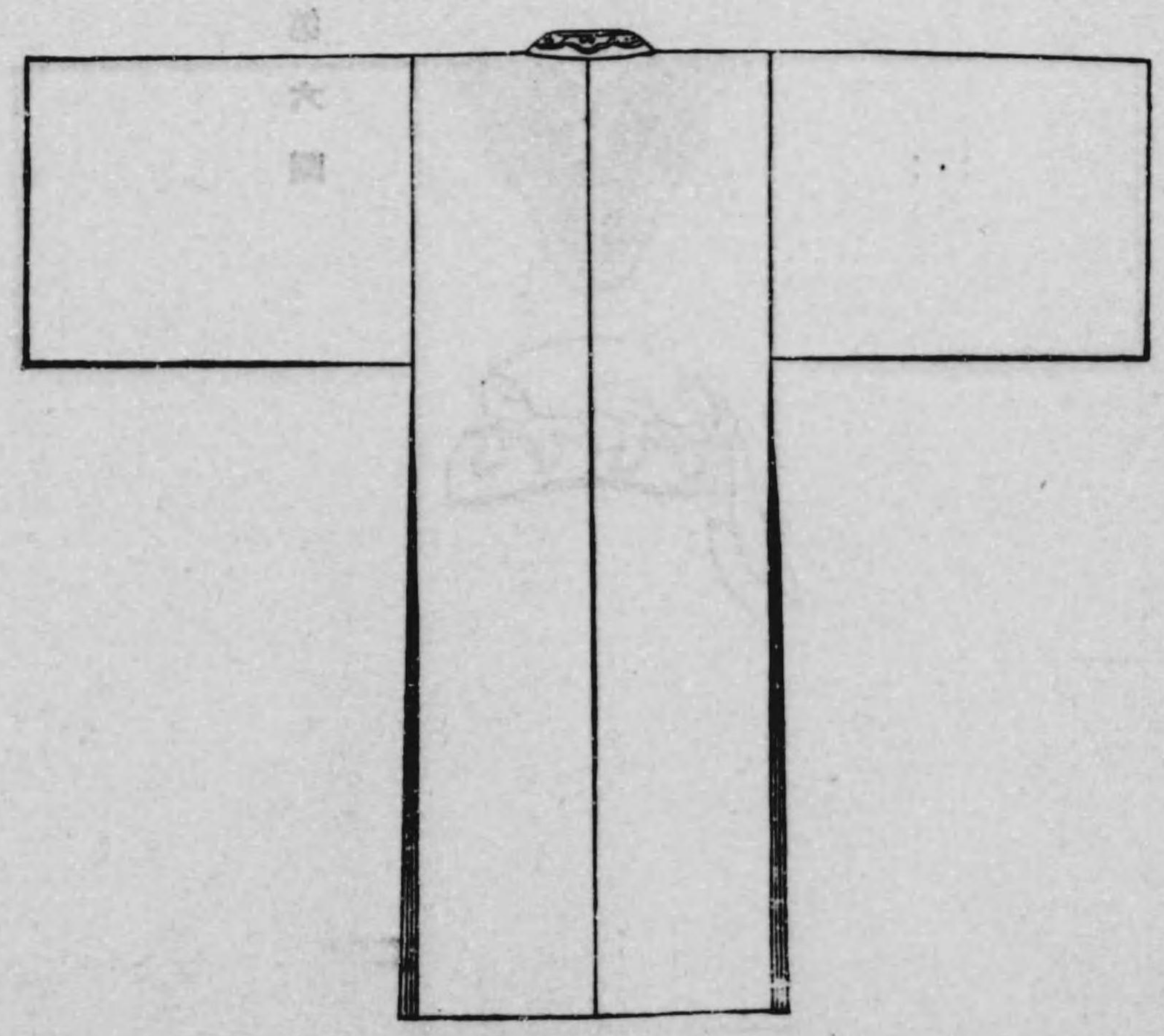


第七圖前面

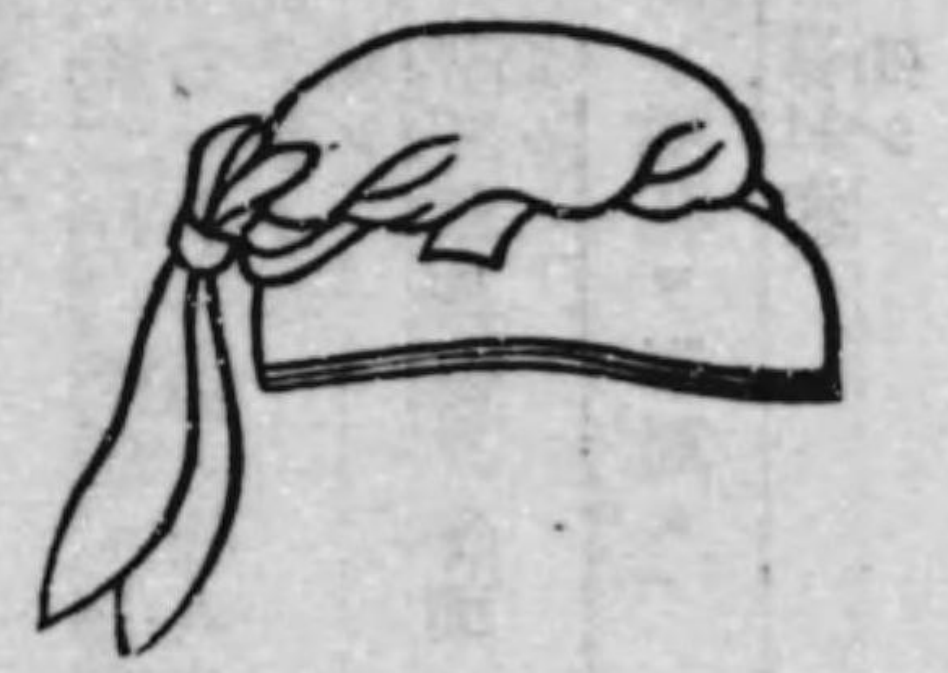


【臺灣】

第七圖後面



第八圖



【臺灣】

●臺灣總督府稅關職員服制

明治三十五年九月二十九日
勅令第二百十八號

改正 大正二年勅令第二九五號、一〇年第四五二號

朕臺灣總督府稅關長、稅關事務官、稅關監視官、稅關鑑定官、稅關屬、稅關監視、稅關鑑定官補及稅關監吏ノ服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府稅關長、稅關事務官、稅關監視官、稅關鑑定官、稅關屬、稅關監視、稅關鑑定官補及稅關監吏服制別表ノ通定ム

附則

本令ハ明治三十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ稅關長、稅關事務官、稅關鑑定官、稅關屬、稅關監視、稅關鑑定官補及稅關監吏ハ當分ノ內從前ノ服ヲ用ウルコトヲ得

（別表）

臺灣總督府稅關職員服制		稅關長	事務官、監視官及鑑定官	屬、監視及鑑定官補	監吏
上衣	地質	紺又ハ黑羅紗但シ夏ハ白布ヲ用キルコトヲ得	同上	同上	同上
	製式	立襟長ジャケット 前面ニ一行五箇、袖ニ四箇ノ鈕釦ヲ附ス 前面ノ左方ニ二個、右方ニ一箇ノ物入ヲ附ス 形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上
	袖章	幅四分ノ七子織黑毛線四條ヲ半面ニ纏フ各線ノ間隔ハ二分トス但シ夏衣ニハ白線トス 形狀圖ノ如シ	七子織黑毛線三條ヲ纏フ餘ハ同上	七子織黑毛線二條ヲ纏フ餘ハ同上	七子織黑毛線一條ヲ纏フ餘ハ同上

【臺灣】

衣	肩章	地質紺羅紗長四寸幅一寸七分兩緣ハ幅二分ノ金線縄目繍二條ヲ施シ其ノ中間ニ幅八分ノ平織金線ヲ縱ニ附シ徑三分ノ金色釦一箇及縱橫四分ノ銀色櫻花章三箇ヲ附ス肩章差込座ハ幅五分ノ七子織黒毛線一條トス但シ夏衣ニハ白線トス形狀圖ノ如シ	同上	長三寸五分幅一寸二分金線縄目繍一條ヲ施シ櫻花章二箇ヲ附ス餘ハ同上	金線ハ銀線トシ櫻花章ヲ金色トス餘ハ同上
	鈕釦	金色金屬ニ櫻花ヲ彫刻ス	同上	同上	同上
袴	地質	上衣ニ同シ	同上	同上	同上
	製式	普通長袴兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上
帽	地質	紺又ハ黒羅紗	同上	同上	同上
	製式	圓形黒革製前庇及頤紐ヲ附シ頤紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ小形櫻花ノ鈕釦各一箇ヲ以テ留ム天上喰出ハ幅一分トス帽ノ周圍ニ幅一寸二分ノ七子織黒毛線一條ヲ繍フ形狀圖ノ如シ	帽ノ周圍ニ幅三分ノ七子織黒毛線三條ヲ繍フ餘ハ同上	帽ノ周圍ニ幅三分ノ七子織黒毛線二條ヲ繍フ餘ハ同上	帽ノ周圍ニ幅三分ノ七子織黒毛線一條ヲ繍フ餘ハ同上
	徽章	金色櫻葉五枚抱合セ中央ニ金色關ノ字及金色ノ櫻花ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上
外套	地質	紺又ハ黒羅紗	同上	同上	同上
	製式	胸部ニ六箇二行、腰部ニ七箇ノ鈕釦ヲ附ス前面ノ左右ニ各一箇ノ物入ヲ附ス後面ハ裾ヲ裂ク形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上
	袖章	幅一分ノ黒毛線四條ヲ半面ニ繍フ各線ノ間隔ハ一分トス形狀圖ノ如シ	黒毛線三條ヲ繍フ餘ハ同上	黒毛線二條ヲ繍フ餘ハ同上	黒毛線一條ヲ繍フ餘ハ同上
	鈕釦	金色金屬ニ櫻花ヲ彫刻ス	同上	同上	同上
	雨覆	紺又ハ黒羅紗製形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上
雨衣	地質	黒護謨織布	同上	同上	黒色護謨引大竺木綿
	製式	二重引廻合羽製前面一行四箇ノ鈕釦ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上
	鈕釦	黒圓形	同上	同上	同上
	雨覆	黒護謨織布製形狀圖ノ如シ	同上	同上	黒色護謨引天竺木綿製餘ハ同上
劍		柄ハ白鮫、長三寸五分鞘ハ黒革包長一尺、胴輪及小尻金具ニ葉附櫻花ヲ附ス柄頭及柄ニハ櫻花ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	柄ハ黒鮫胴輪及小尻ニ花葉ヲ附セス餘ハ同上	鞘ハ長一尺二寸、中身日本刀トス餘ハ同上
劍帶		黒革製、幅一寸釣革ハ幅七分、前革ノ長八寸、後革ノ長二尺トス金色ノ金具ヲ附ス前章ハ徑一寸二分、金色、周圍ニ葉附櫻唐草模樣ヲ附シ中央ニ櫻花ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上

【臺灣】

備考

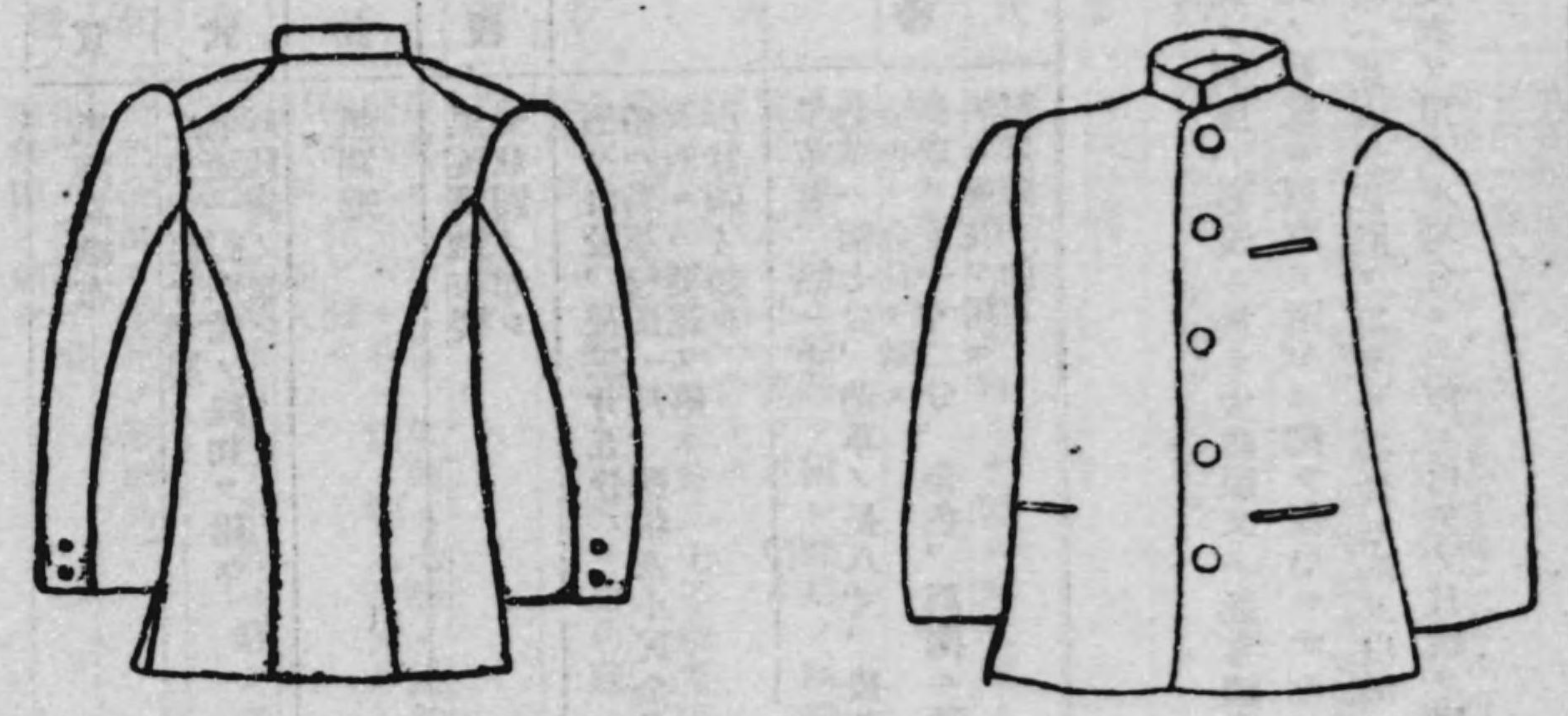
一　此ノ制服ハ臺灣ニ於テ大禮服又ハ通常禮服ニ代用スルコトヲ得

二　此ノ制服ニ肩章ヲ附セス劍ヲ佩用セサルモノヲ通常服トス

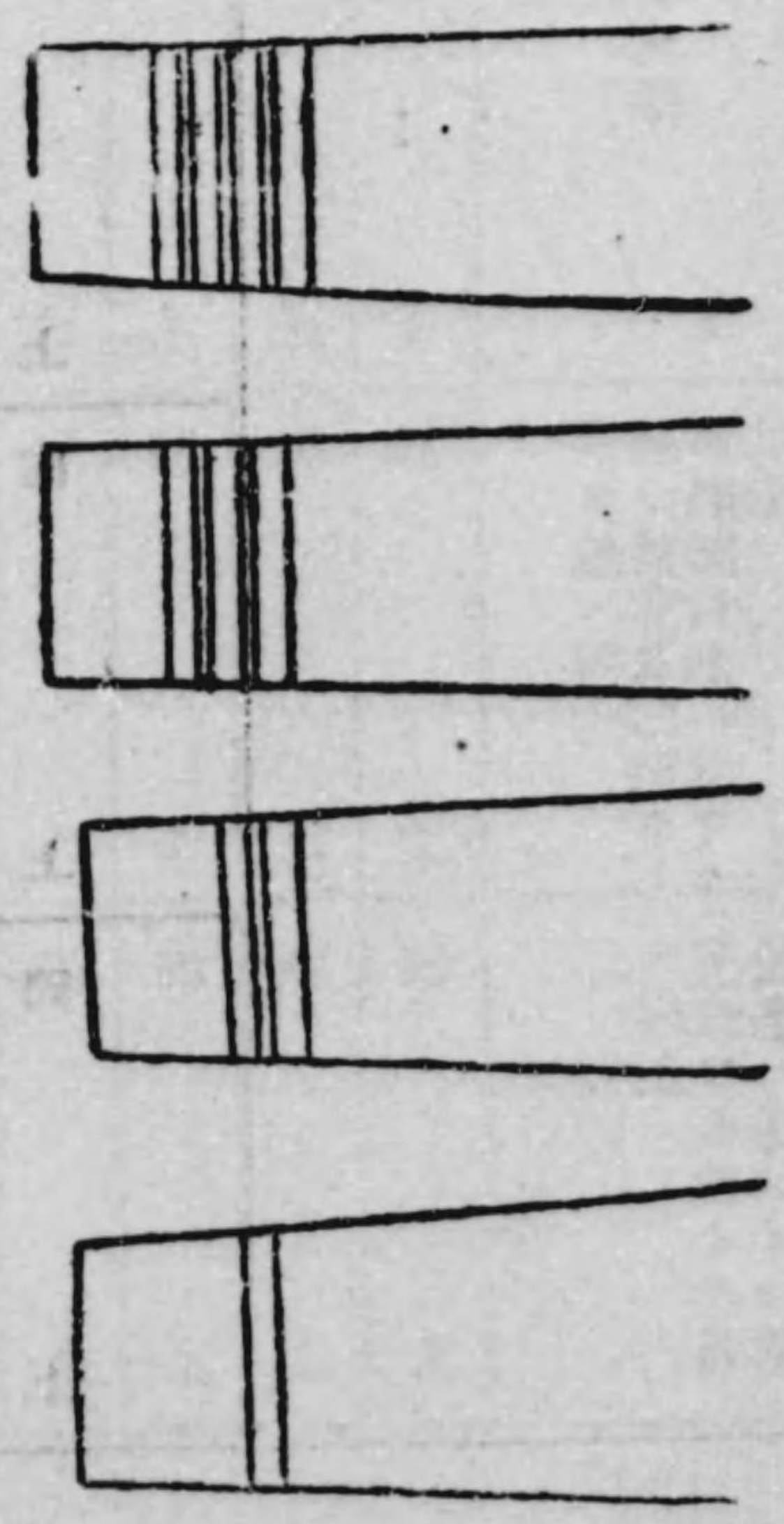
三　帽ハ夏衣通常服ヲ用ヰル場合ニ限リ白地ヘルメット形帽ヲ代用スルコトヲ得

四　夏衣ヲ用ヰル場合ニハ帽ニ白色ノ日覆ヲ附ス

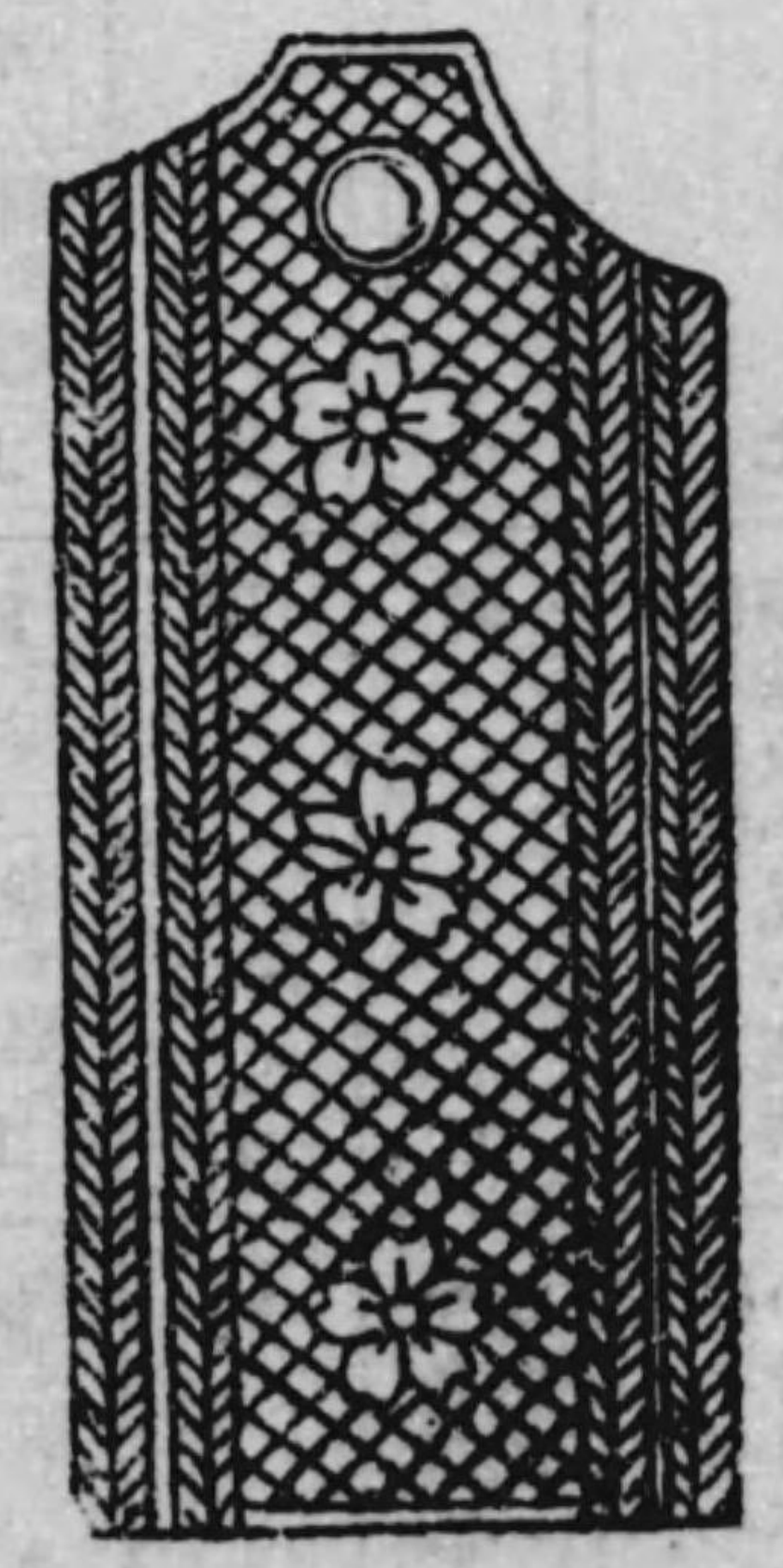
上衣



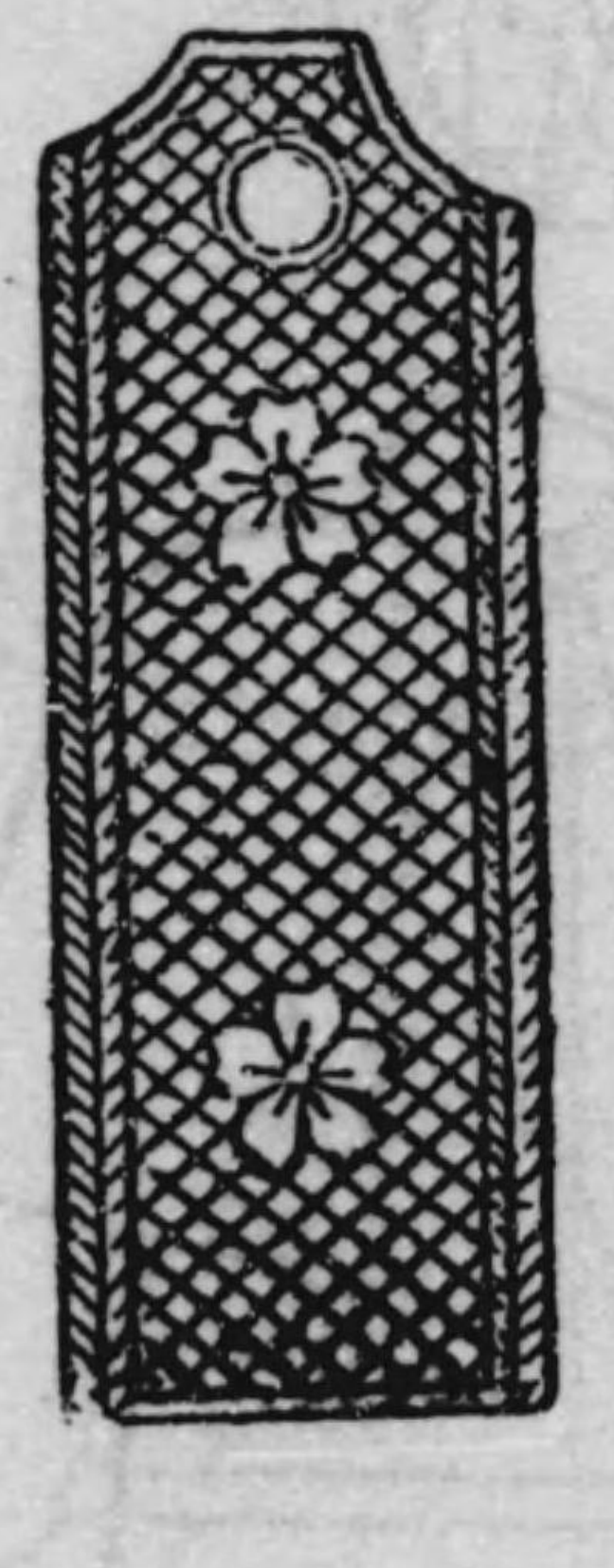
上衣袖章


稅關長
事務官、監視官、鑑定官
屬、監視、鑑定官補
監吏

肩章

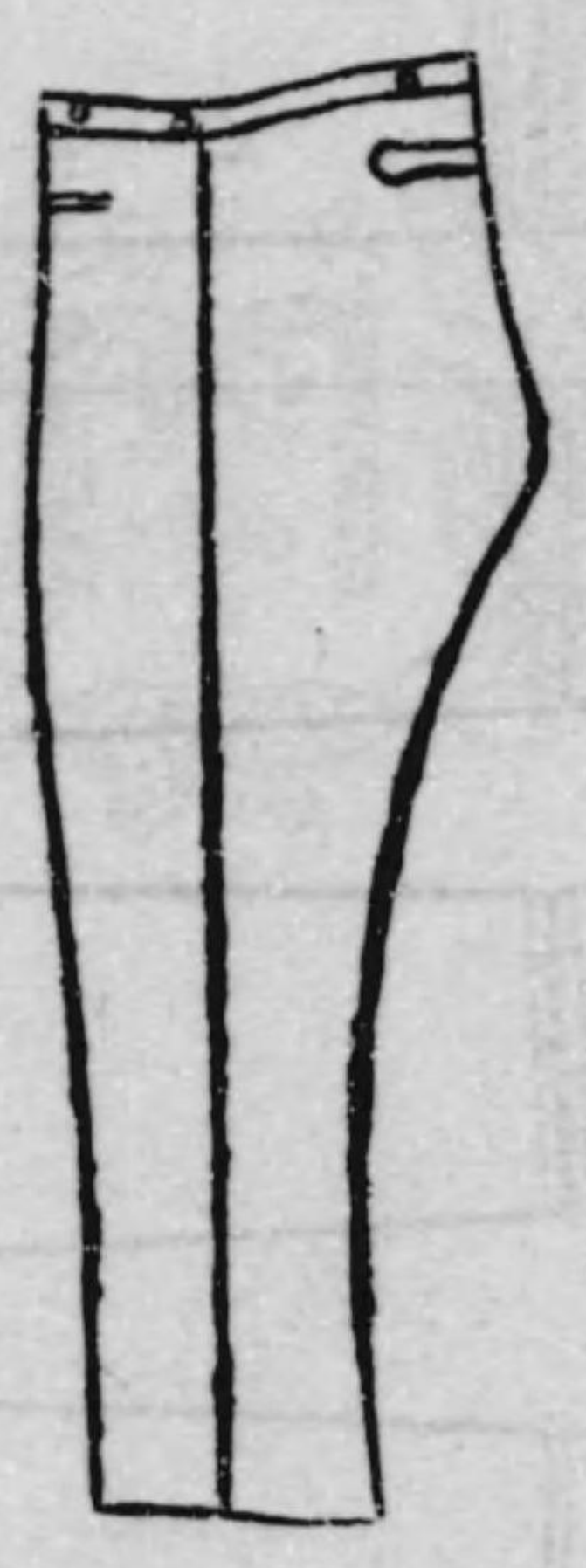


稅關長、事務官、監視官、鑑定官



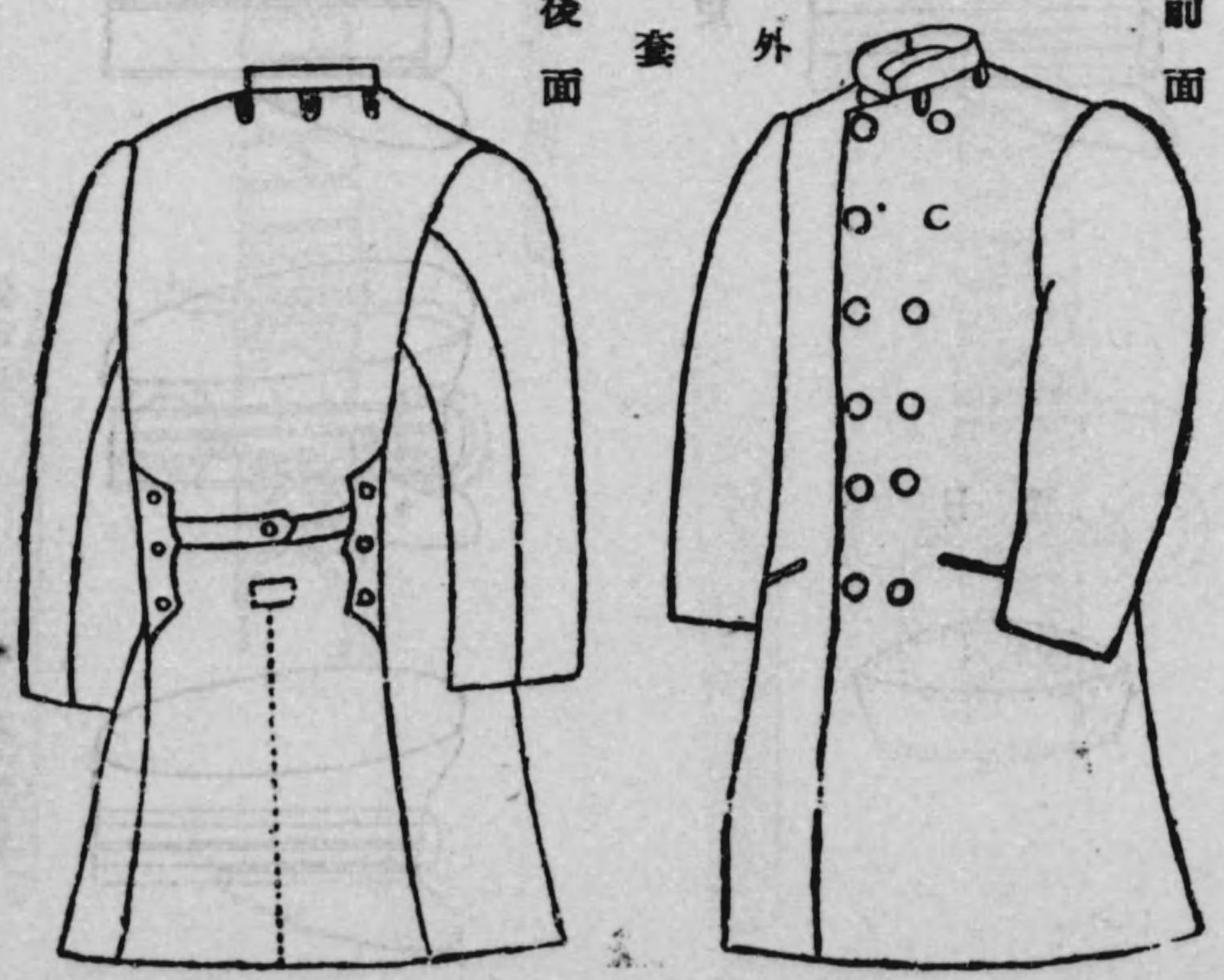
屬、監視、鑑定官補、監吏

袴

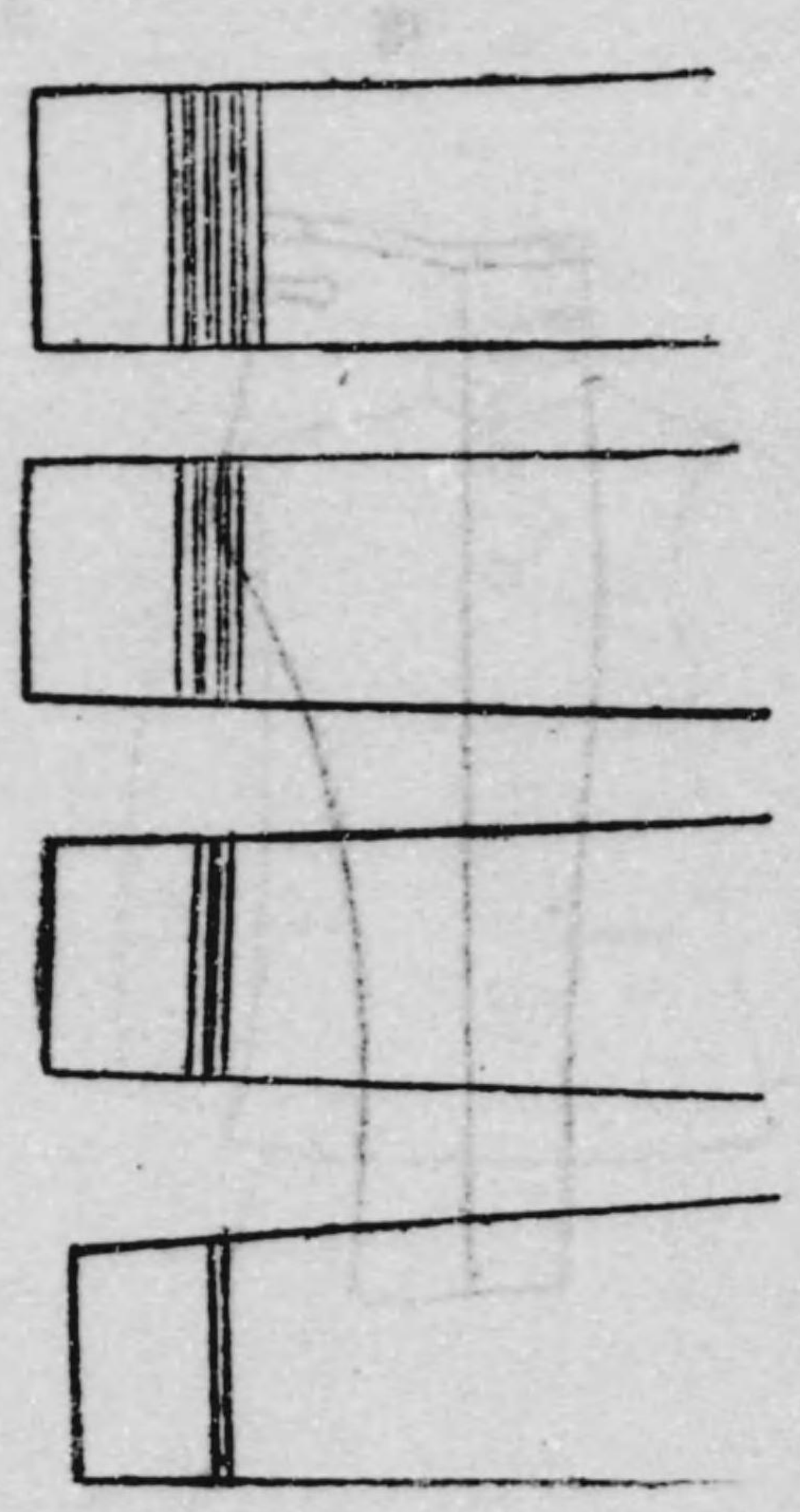


雨覆

外套



外套袖章



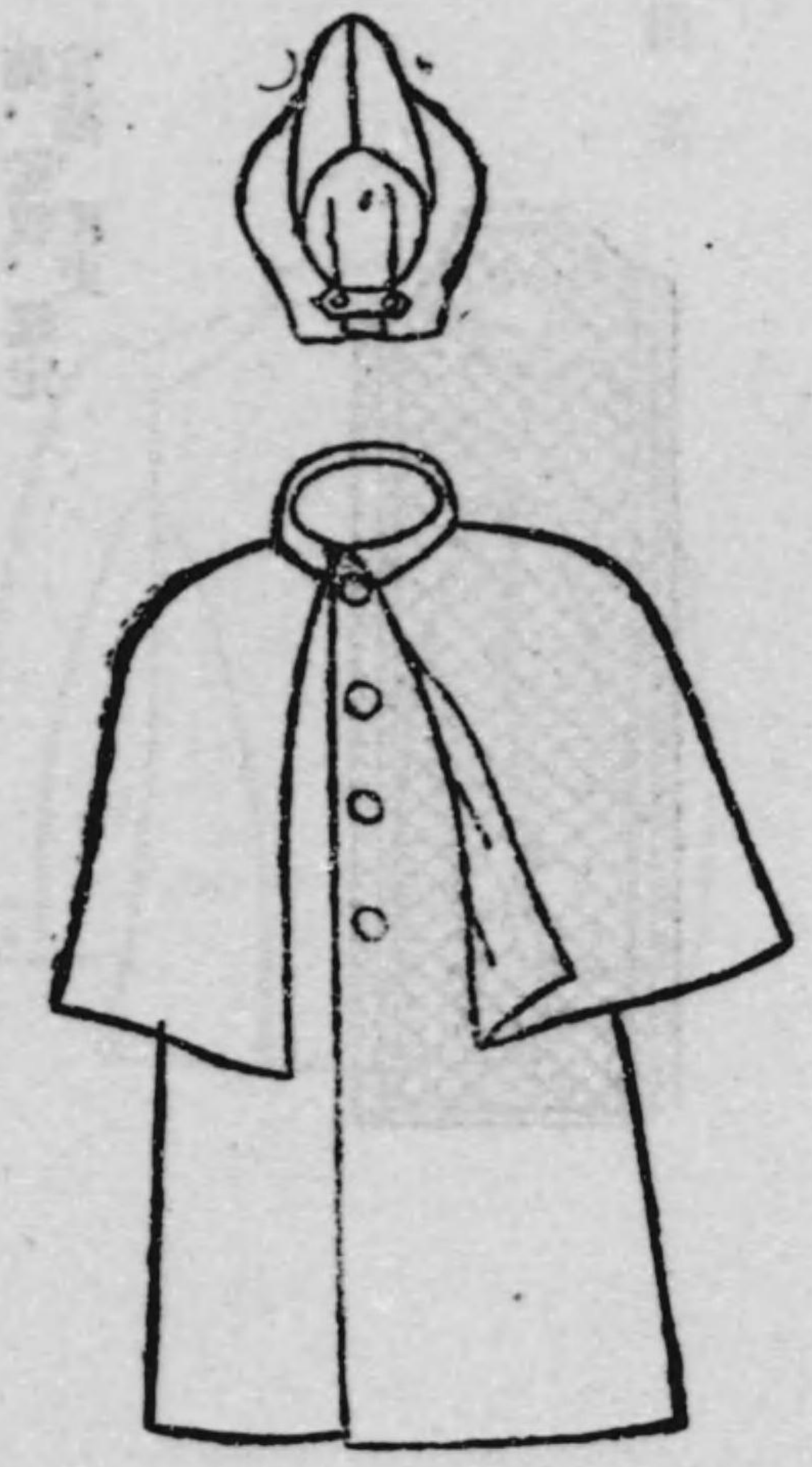
稅關長

事務官、監視官、鑑定官

屬、監視、鑑定官補

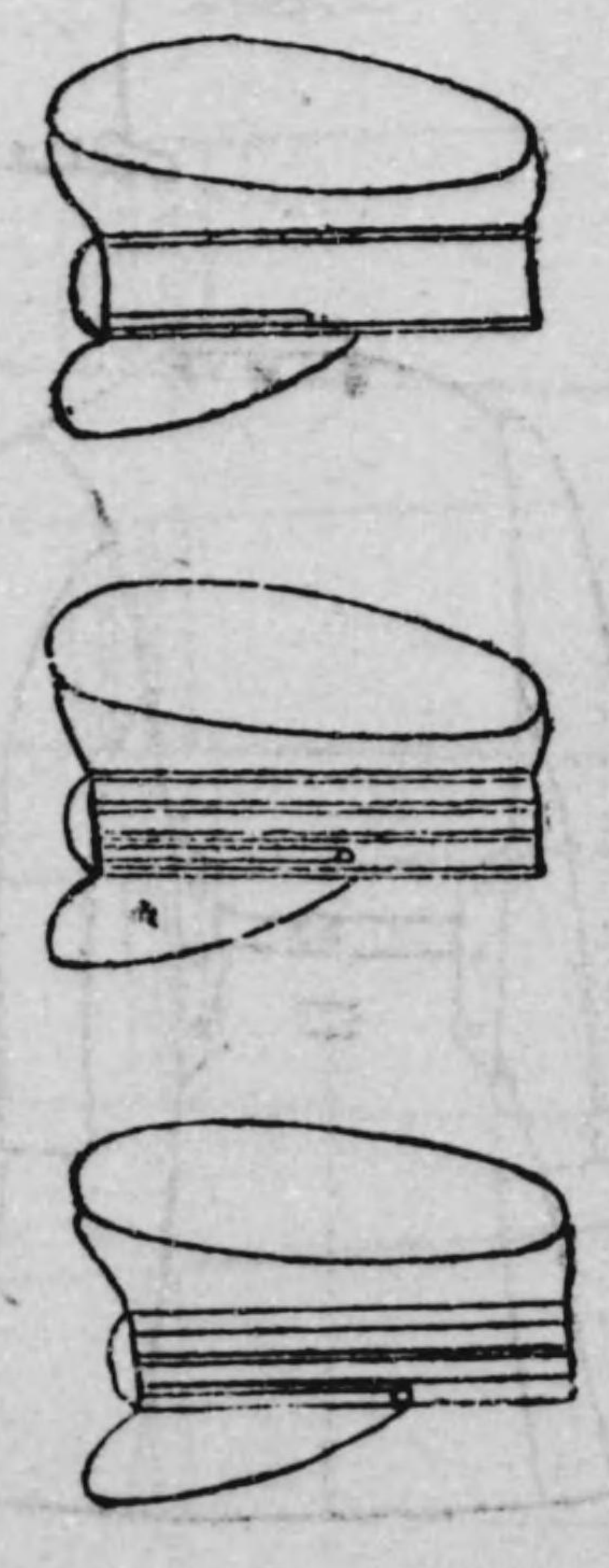
監吏

雨衣



【參考】

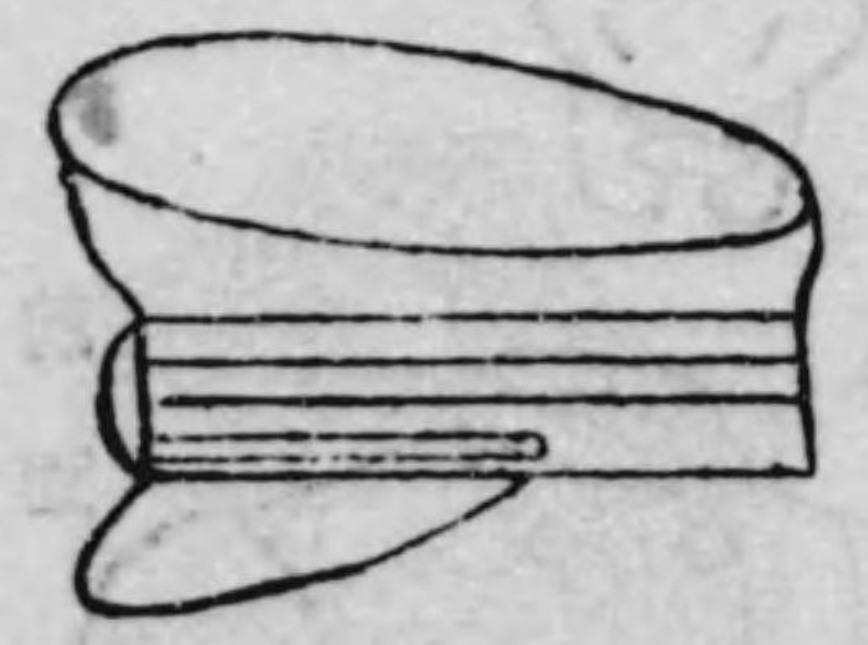
帽



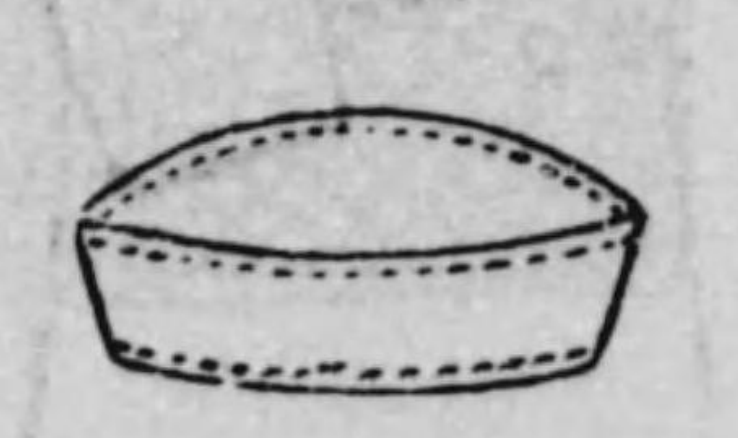
稅關長

事務官、監視官、鑑定官、

屬、監視、鑑定官補

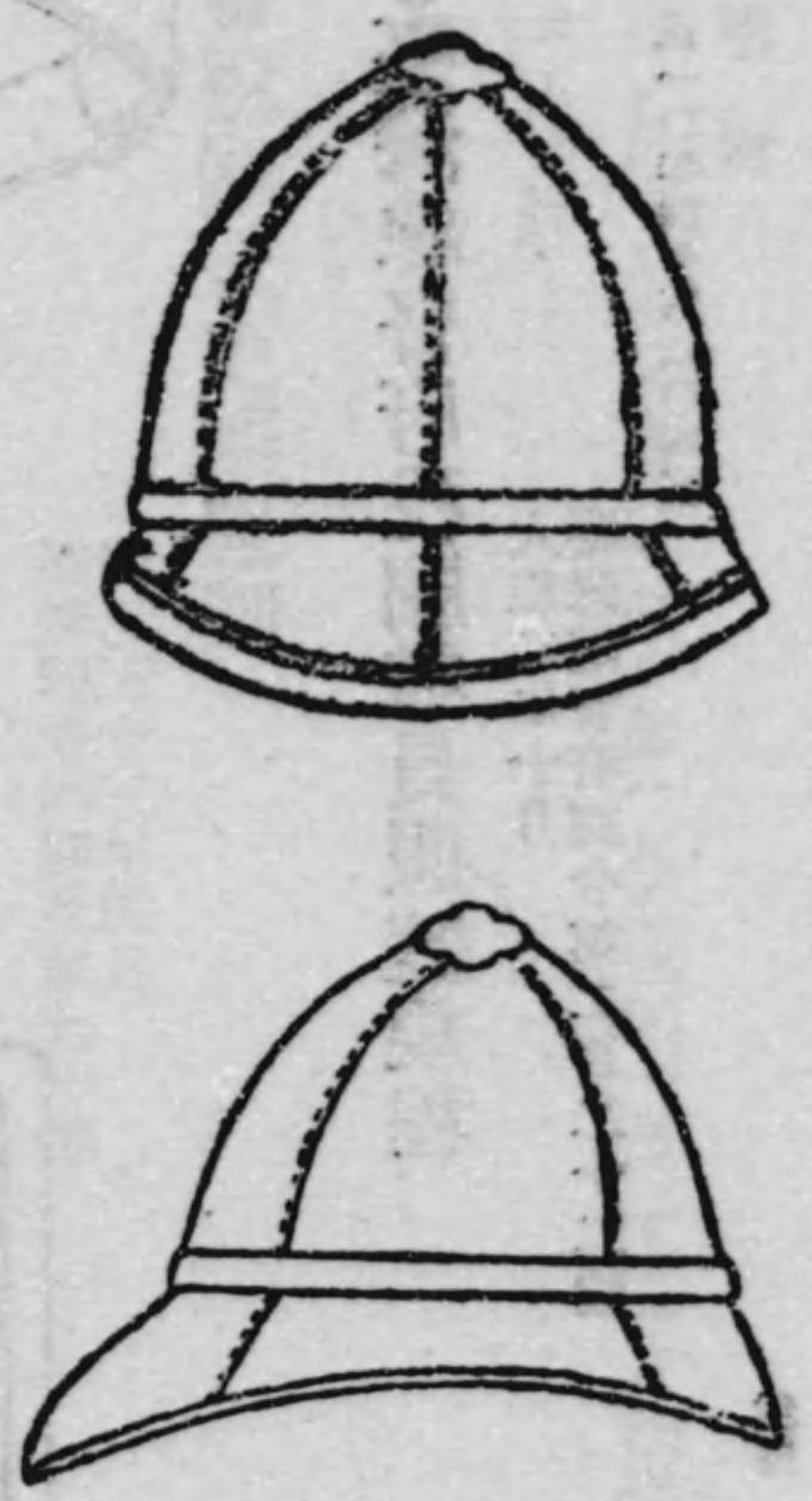


監吏



日覆

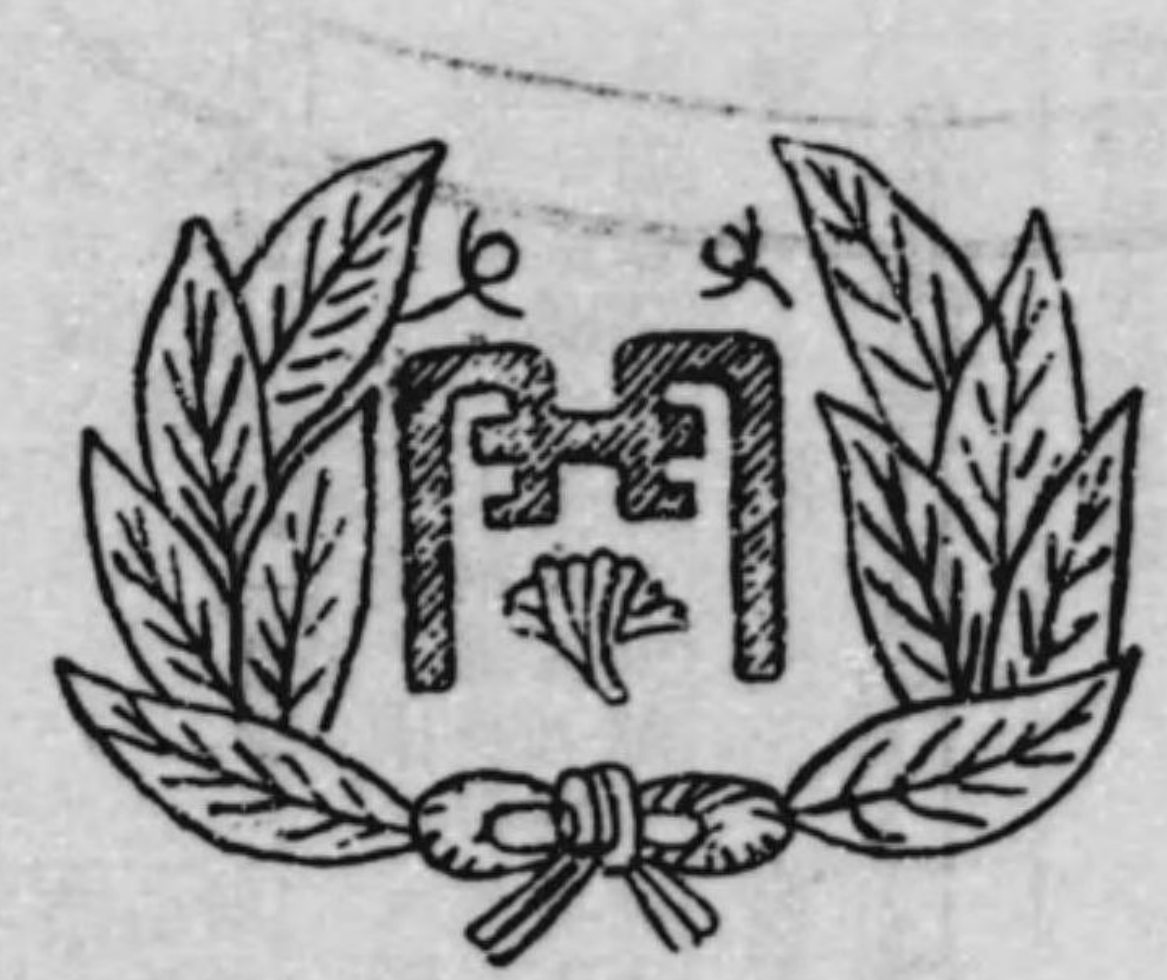
ヘルメット帽



正面

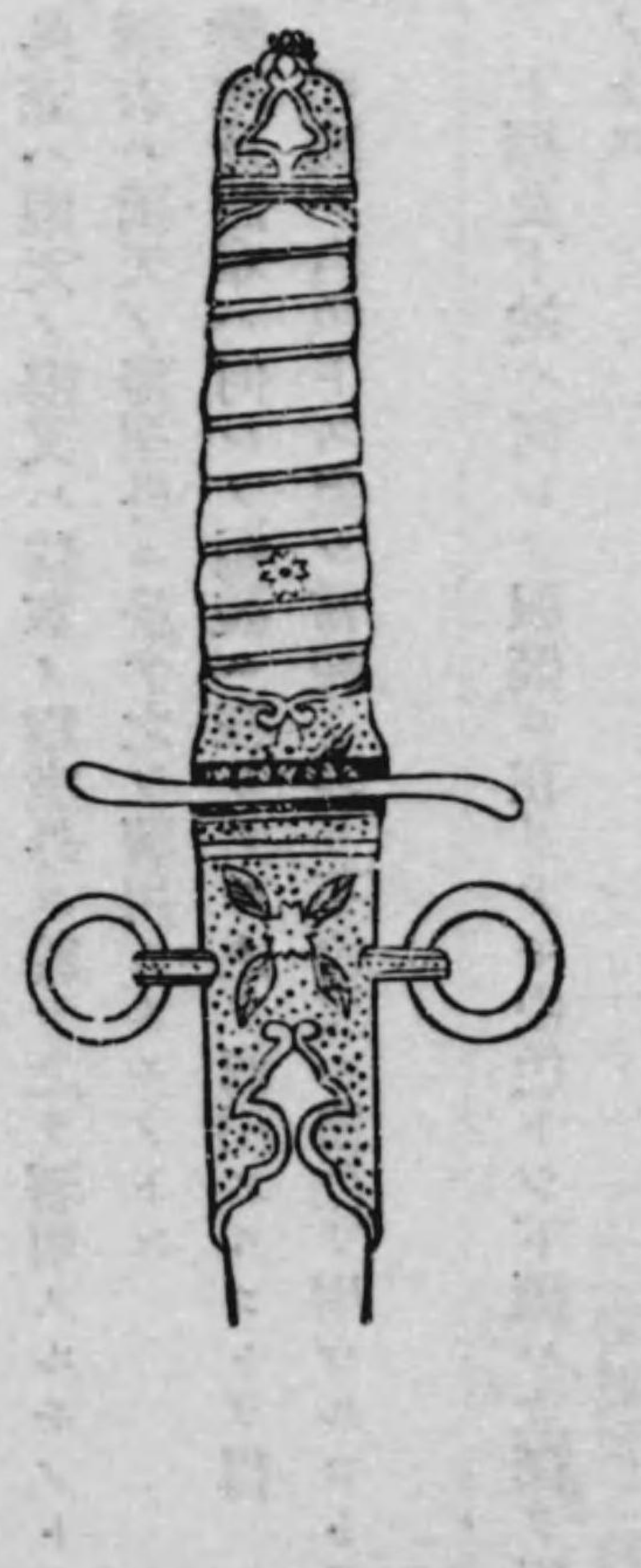
側面

徽章

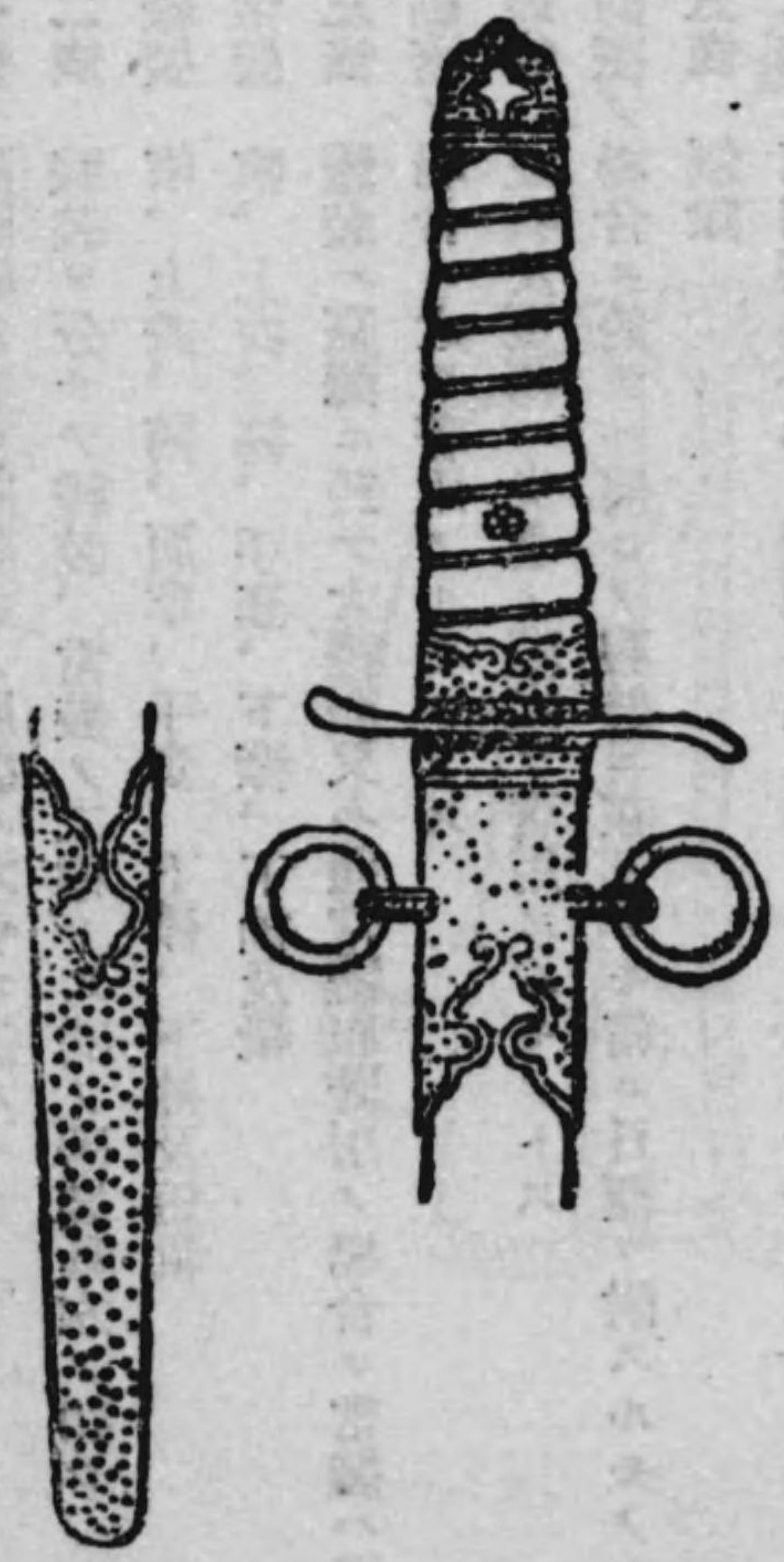


【參考】

劍

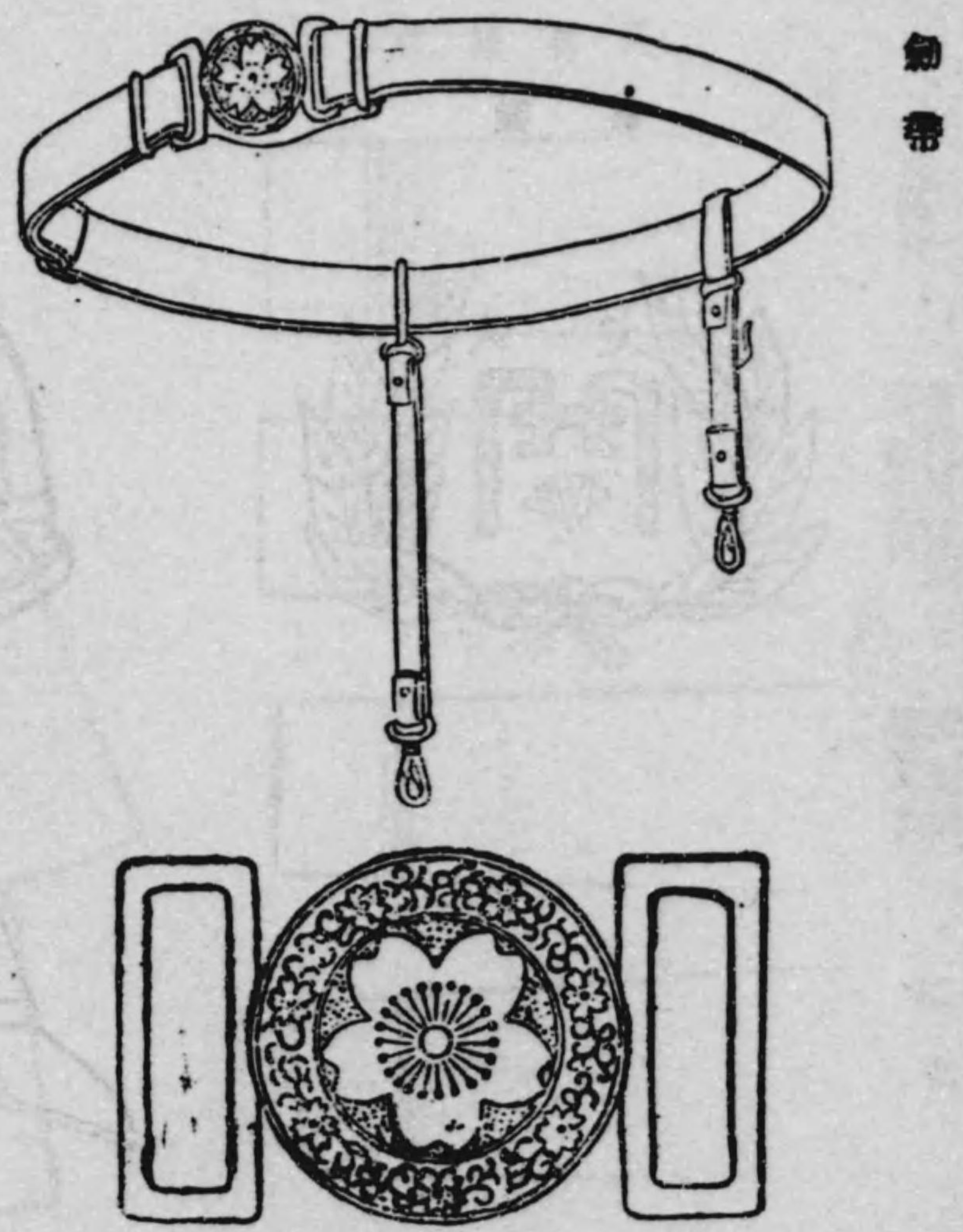


稅關長、事務官、監視官、鑑定官



屬、監視、鑑定官補、監吏

劍帶



●臺灣總督府稅關職員服裝規程

大正二年十月
臺灣總督府訓令第二百二十二號

改正 大正一〇年訓令第二〇四號

稅關

臺灣總督府稅關職員服裝規程左ノ通相定ム

臺灣總督府稅關職員服裝規程

第一條 臺灣總督府稅關職員ノ服裝ハ本令ニ依ルヘシ

第二條 服裝ヲ分チテ禮裝、常裝ノ二種トス其ノ著裝具左ノ如シ

禮裝 帽、上衣、袴、肩章、手套、下襟、下袖及短靴

常裝 帽、上衣、袴、手套、下襟、下袖及靴

第三條 禮裝ハ臺灣ニ於テ大禮服又ハ通常禮服著用ノ場合ニ常裝ハ通常勤務ノ場合ニ之ヲ著用スルモノトス

第四條 夏衣及夏袴ハ炎暑ノ際之ヲ著用スルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ何レノ服裝ニ在リテモ帽ニ日覆ヲ附スルモノトス

第五條 削除

第六條 第四條ノ炎暑ノ期間ハ凡ソ四月一日ヨリ十一月三十日迄トス

炎暑期間内ニシテ寒暑定マリナキ場合ハ冬衣ニ限リ著用スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ帽ニ日覆ヲ附スルモノトス

第七條 劍ハ上衣ノ下ニ劍帶ヲ締メ之ヲ佩用シ上部ノ環ヲ劍帶ノ鉤ニ掛ルモノトス

第八條 外套ハ雨天ノ際又ハ防寒ノ爲室外ニ於テ之ヲ著用スルモノトス

第九條 雨衣ハ雨天ノ際室外ニ於テ之ヲ著用スルモノトス

第十條 勳章及記章ハ何レノ服裝ニ在リテモ之ヲ佩用スルコトヲ得

第十一條 手套ハ白色トス但シ常裝ニ限リ茶色又ハ鼠色ヲ用ウルコトヲ得

第十二條 下襟及下袖ハ何レノ服裝ニ在リテモ白色トシ下襟ハ立襟ヲ用キルモノトス

第十三條 靴ハ黑色革製トス但シ常裝ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

白色ノ靴ハ白色ノ常裝ヲ著用シタル場合ニ限リ之ヲ用ウルコトヲ得

雨天ノ際ハ常裝ニ限リ長靴ヲ用ウルコトヲ得

旅行又ハ職務執行上必要ノ場合ハ草鞋、脚袢ヲ用ウルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ劍ハ大正三年一月二十一日迄從前ノ例ニ依ルコトヲ得

●稅關監吏補服制

明治三十三年四月
臺灣總督府訓令第九十號

稅關

稅關監吏補服制左ノ通相定ム

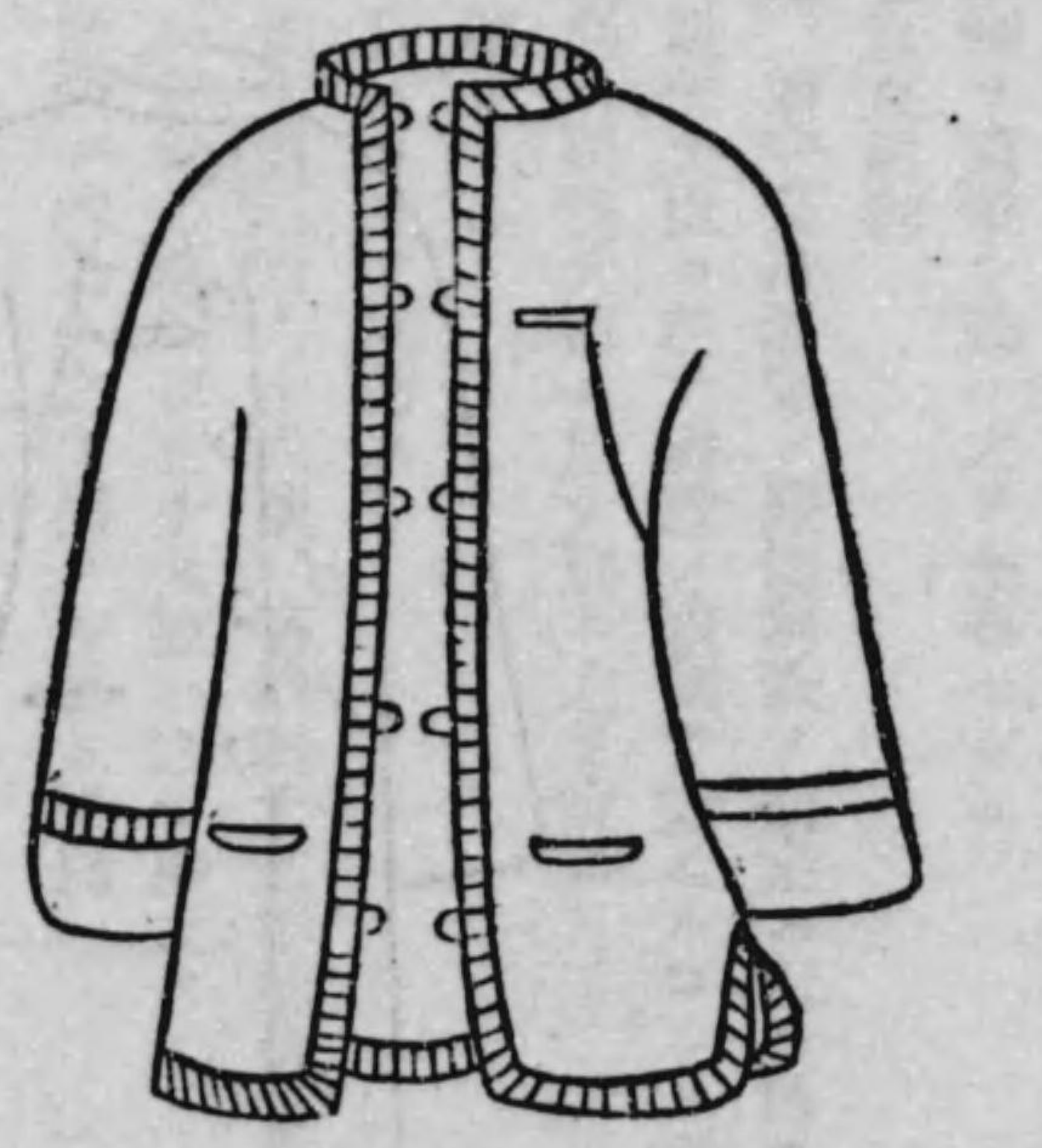
稅關監吏補服制

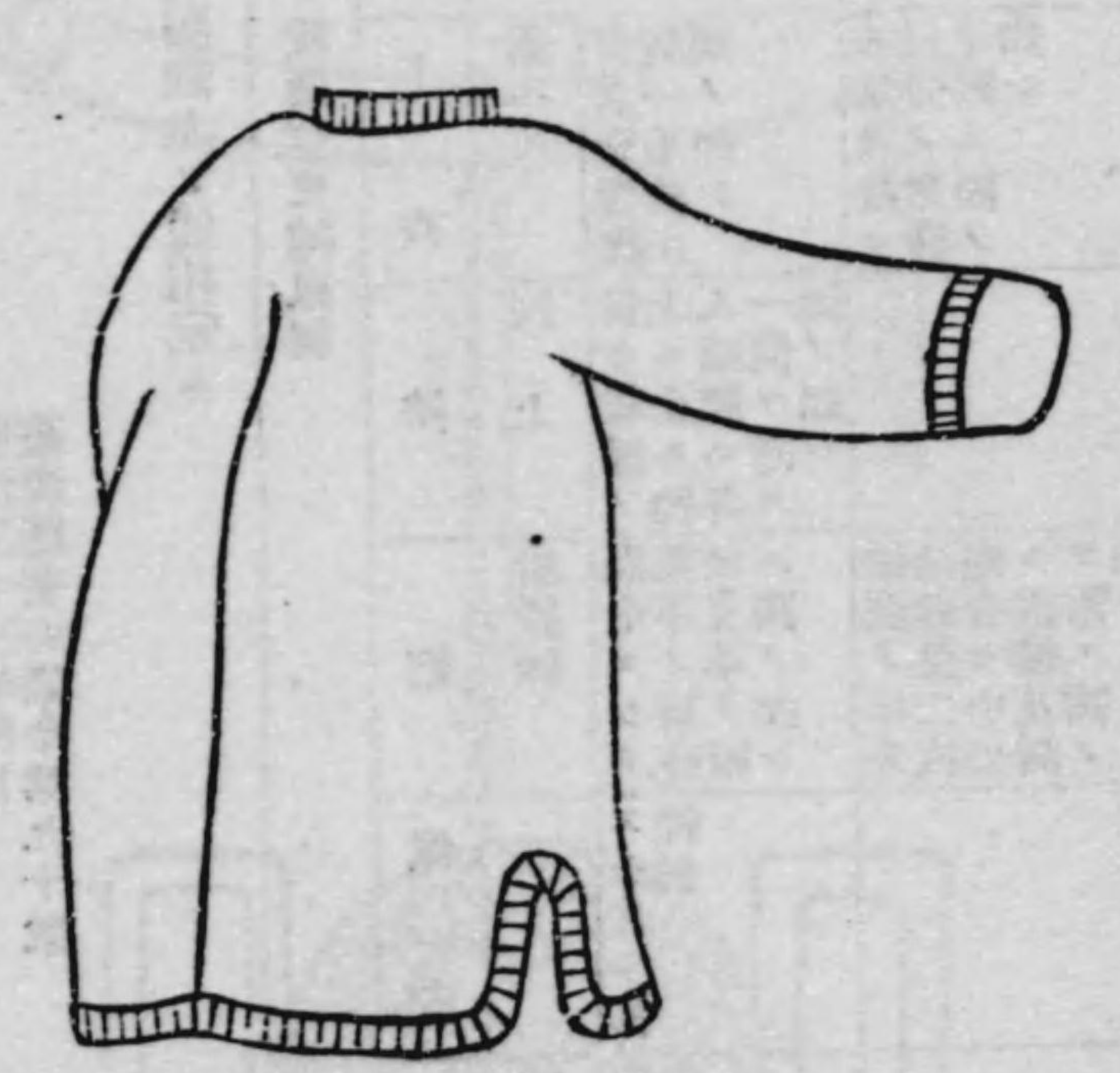
種類	上衣	袴	帽	佩劍	外套
地質	紺ヘル	同上	紺羅紗		鼠色防水布
製式	背廣製竪襟胸一重鈎止圖ノ如シ	長サ靴踵ノ上ニ止ル物入兩股ニ各一箇ヲ附ス圖ノ如シ	圓形ニシテ黑革ノ眉庇及支革ヲ附ス圖ノ如シ	スナイドル銃劍	竪襟胸一重圖ノ如シ
徽章	衣端及袖ニ三分ノ黑緣ヲ附ス圖ノ如シ		銀關ノ字及金櫻葉二枚抱合セ中央ニ銀櫻花瓣ヲ附ス圖ノ如シ		

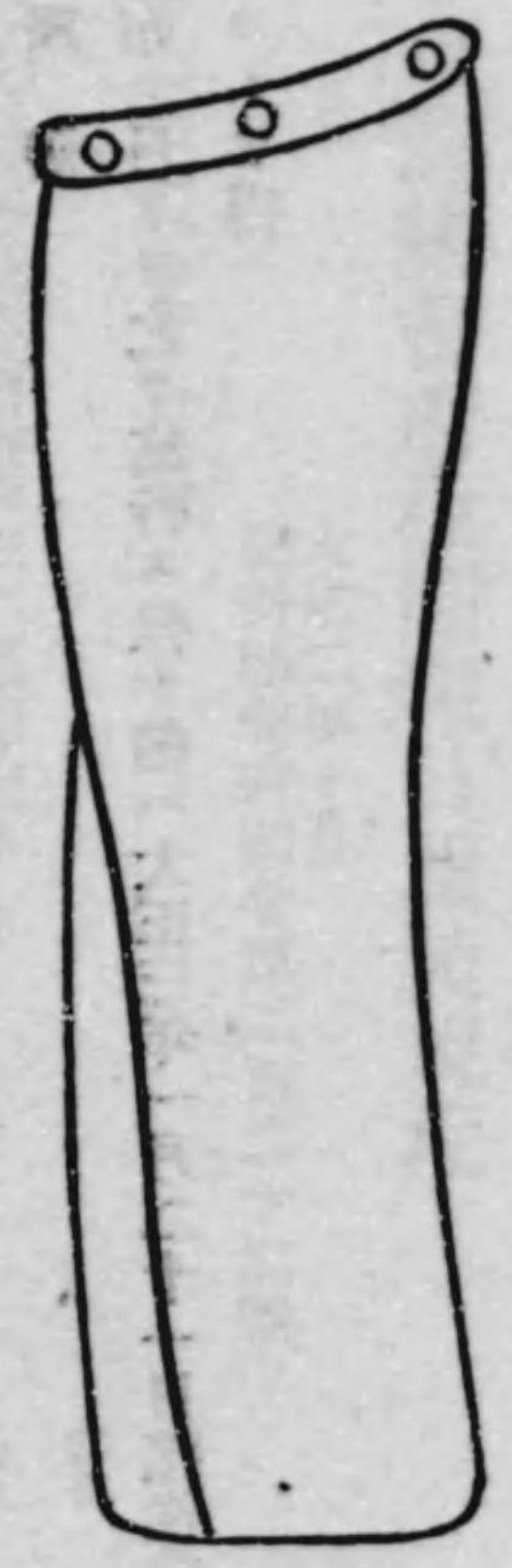
釦
黑色丸製胸部一行五個後面腰部一個覆面二個ヲ附ス圖ノ如シ

上衣

前面

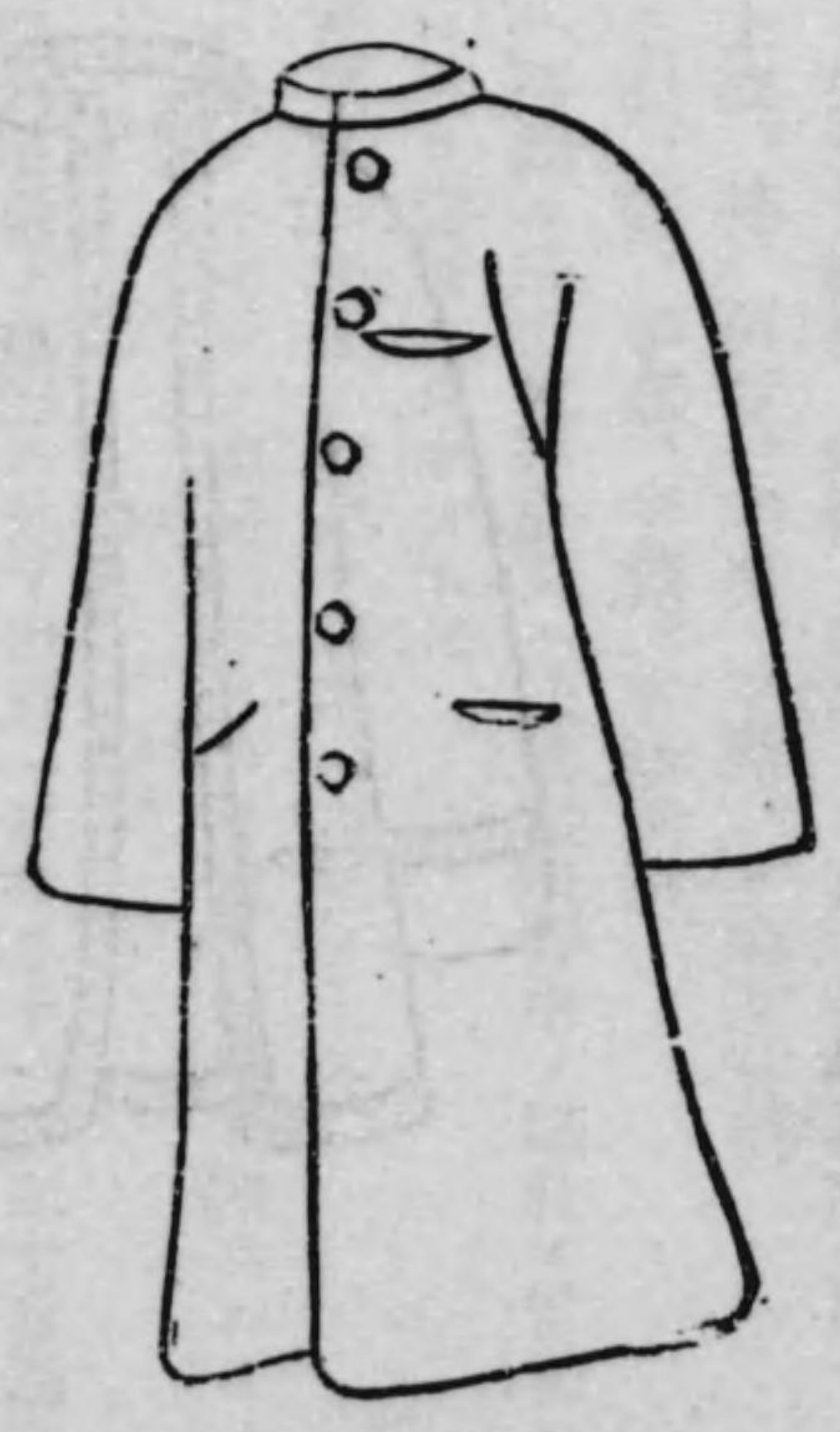


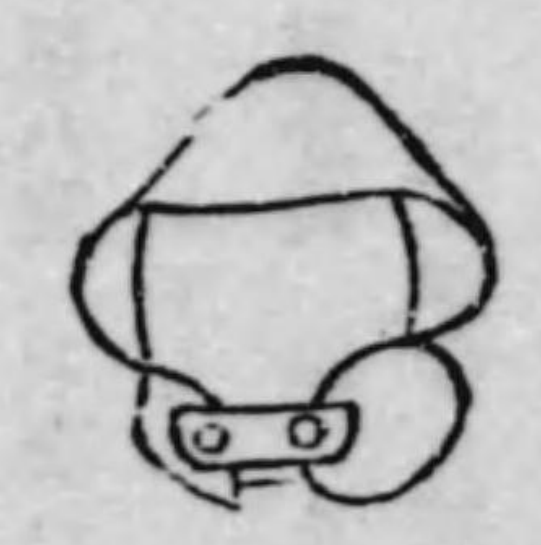

後面

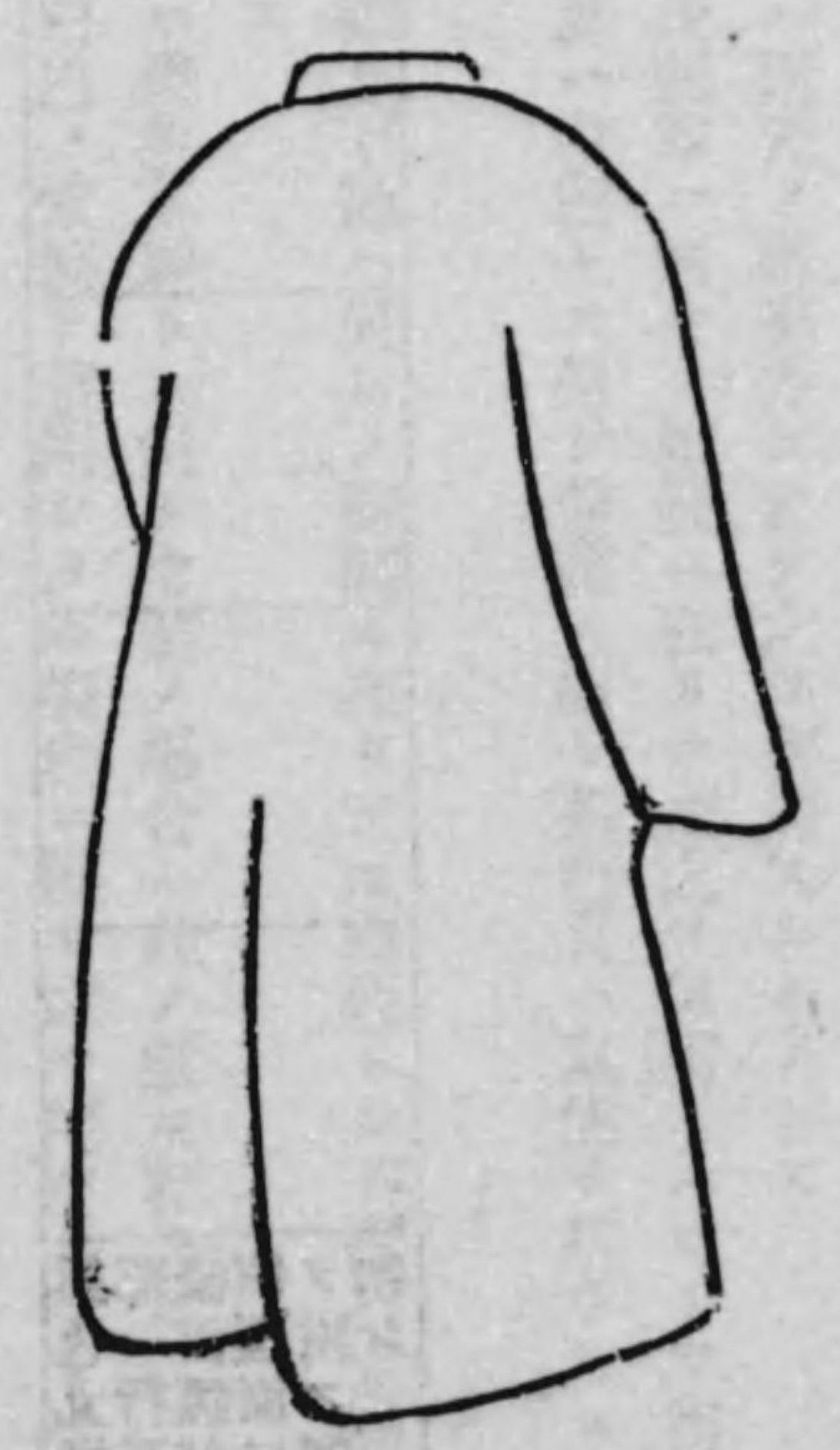

袴

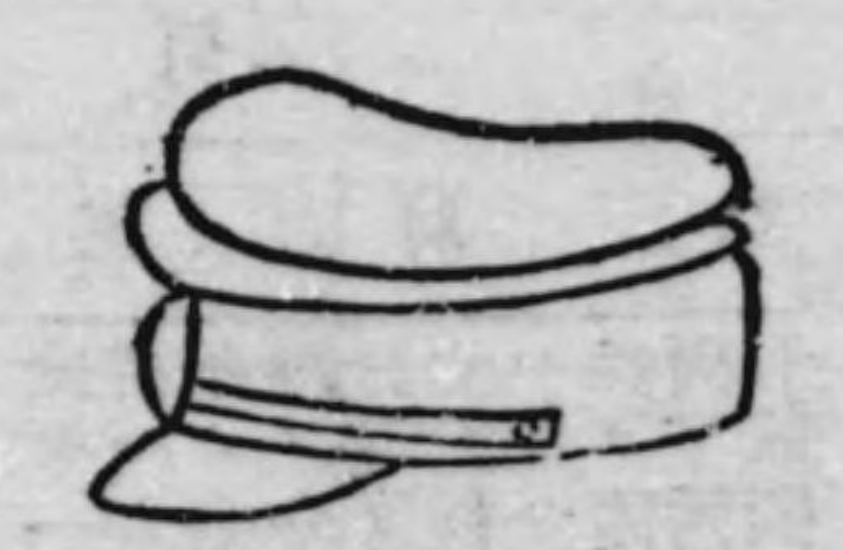
【臺灣】

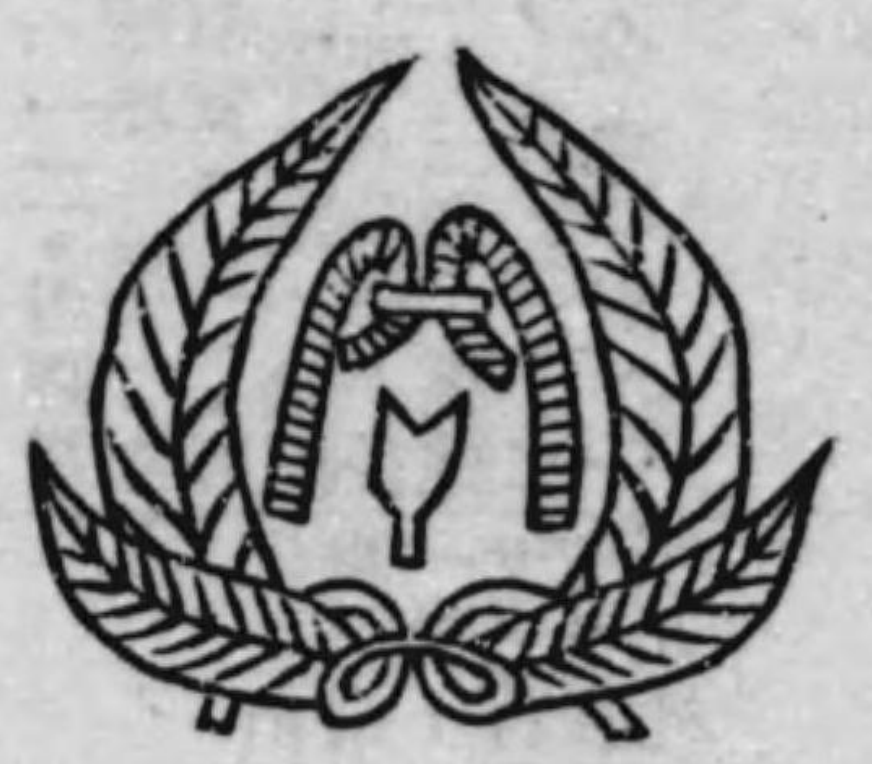
外套


前面




後面


帽


徽章

●臺灣總督府監獄職員服制提燈徽章ニ關スル件

大正八年七月四日
勅令第三百三十號

朕臺灣總督府監獄職員服制提燈徽章ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府ノ典獄、典獄補、看守長及看守ノ服制並提燈徽章ニ關シテハ【明治二十九年勅令第三百六十六號、明治四十二年勅令第百七十號及同年勅令第百七十一號】ヲ準用ス

臺灣總督ハ防暑又ハ防水ノ爲必要アリト認ムルトキハ夏衣夏袴ノ地質ヲ鼠色麻布トシ又ハ特別ノ外套及帽ヲ著用セシムルコトヲ得其ノ製式ハ臺灣總督之ヲ定ム

【臺灣】

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第十六號、明治三十三年勅令第三百六十二號及明治四十三年勅令第二百六十號ハ之ヲ廢止ス

●監獄官吏服制

昭和三年七月三十日
勅令第百七十四號

朕監獄官吏服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄官吏服制

典獄、典獄補、看守長及看守ノ服制別表ノ通定ム但シ特設監獄ニ勤務スル者ニ付テハ司法大臣ニ於テ別段ノ服制ヲ定ムルコトヲ得

女監取締ノ服制ハ司法大臣ニ於テ別ニ之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年勅令第三百六十六號、明治四十二年勅令第百七十號、看守服制及大正十一年勅令第四百三十九號ハ之ヲ廢止ス

從前ノ制服ハ當分ノ內仍ホ之ヲ用フルコトヲ得

監獄官吏服制圖例

典獄	典獄補	看守長（男 女）	看守部長	看守

上			
地質	製式	袖章	肩
			正肩章
濃紺又ハ黒羅紗但シ夏衣ハ白布	立襟一行ボタン、長ジャケット、前面ノ左右ニ各二箇ノポケットヲ附ス左右各上部ノポケットニハ蓋及ボタンヲ附ス 形狀圖ノ如シ	幅五粍ノ蛇腹組金線一條ヲ纏ヒ其ノ上部ニ幅五粍ノ黒蛇腹組線三條ヲ連ネタルモノヲ三粍ノ間隔ヲ以テ三通平列セシメ其ノ上部ニ三粍ヲ隔テ同蛇腹組線一條ヲ纏ヒ其ノ中央ヲ徑三糎ノ輪狀ト爲ス各線何レモ表半面ニ纏フモノトス但シ夏衣ハ白色一糎線四條ヲ三粍ノ間隔ヲ以テ四通平列セシメテ纏フ 形狀圖ノ如シ	長サ一六・七糎幅總座ハ一二・四糎肩當ハ六糎、金銀線製、總座ニ徑二・四糎ノ金色櫻花章一箇肩當ニ徑一・五糎ノ金色櫻花章二箇ヲ附ス總ハ金籠目線ノ間ニ銀籠目線ヲ配ス前總ハ長サ六糎徑一糎ノモノ二十三條、裏總ハ長サ五・五糎徑五粍ノモノ二十二條ヲ附シ徑一・二糎ノ金色ボタン一箇ヲ附ス 形狀圖ノ如シ
同上	同上	同上但シ黒蛇腹組線ハ二通、白色線ハ三條トス	同上但シ徑一・五糎ノ金色櫻花章ハ一箇トシ前總ハ長サ三糎徑一糎、裏總ハ長サ一・四糎徑五粍トス
同上 紺サージ但シ夏衣ハ薄藍鼠ポーラー又ハ白布	同上 折襟白覆附一行ボタン、左胸ニポケット一箇蓋及ボタンヲ附シ左右ノ腰ニ各一箇ノポケット及蓋ヲ附スバンド通二箇、袖口ハ割ニ見セ二箇ノボタンヲ附ス襟幅前八・二糎後七糎トス 形狀圖ノ如シ	同上但シ黒蛇腹組線ハ一通、白色線ハ二條トス	同上但シ徑一・五糎ノ金色櫻花章ヲ缺ク
同上	同上	同上但シ蛇腹組金線ハ同銀線トシ黒蛇腹組線ハ一條トス夏衣ハ白色一糎線一條及同五粍線一條ヲ纏フ	長サ一二糎幅五糎、地質濃紺又ハ黒羅紗、兩縁及上端縁ニ幅一糎ノ半織銀線、中間ニ幅三粍ノ平織金線一條ヲ縦ニ附シ徑一・二糎ノ金色ボタン一箇及徑一・五糎ノ金色櫻花章一箇ヲ附ス 形狀圖ノ如シ
同上	同上	同上但シ蛇腹組銀線、黒蛇腹組線及白色五粍線ヲ缺ク	同上但シ平織金線ヲ缺ク

章	衣				
略肩章	バンド		ボタン	襟章	地質
	正バンド	略バンド			
長サ一二糎幅五糎、地質濃紺又ハ黒羅紗、兩縁及上端縁ニ幅五粍ノ圏套銀線縄目繍ヲ施シ中間ニ幅一糎ノ平織金線三條ヲ縦ニ附シ徑一・二糎ノ金色ボタン一箇及徑一・五糎ノ金色櫻花章三箇ヲ附ス 形狀圖ノ如シ			金色梨地金屬製、前部ニ附スルモノハ五箇徑一・八糎、ポケットニ附スルモノハ左右各一箇徑一・五糎トス 形狀圖ノ如シ	左右各一箇、徑一糎ノ金色櫻花章トス 形狀圖ノ如シ	濃紺又ハ黒羅紗但シ夏ズボンハ白布
同上但シ平織金線ハ幅一・二糎二條、金色櫻花章ハ二箇トス			同上	同上	同上
同上但シ平織金線ハ一條、金色櫻花章ハ一箇トス	幅四・六糎紺サージ、前金具ハ金色、徑五・五糎中央ニ櫻花章其ノ周圍ニ櫻唐草ヲ置ク 形狀圖ノ如シ	幅四・六糎紺サージ、銀色尾錠留トス但シ夏ハ薄藍鼠ポーラー又ハ白布 形狀圖ノ如シ	同上 黒色貝製、前部ニ附スルモノハ四箇徑二・四糎、ポケットニ附スルモノハ一箇徑一・五糎、袖口ニ附スルモノハ各二箇徑一・五糎トス 形狀圖ノ如シ	同上	同上 紺サージ但シ夏スカートハ薄藍鼠ポーラー又ハ白布
同上但シ圏套銀線縄目繍ヲ缺キ平織金線ハ幅一・五糎ノ黒臙脂羅紗線トス			同上但シ無地トス	同上	同上
同上但シ金色櫻花章ヲ缺ク			同上	同上	同上

袴	短袴	短袴	帽	帽	帽	帽	帽	刀	刀帶
				正帽	正帽	略帽	略帽		
製式	地質	製式	地質	製式	徽章	製式	徽章		
普通長ズボン、左右ニ各一箇ノポケットヲ附ス 形狀圖ノ如シ	袴ニ同ジ	長サ膝上ニ止ム、裾口ヲ裂クコト一五糎之ニ左右各徑一・五糎ノ貝ボタン四箇及ポケット一箇ヲ附ス 形狀圖ノ如シ	濃紺又ハ黒羅紗 鉢卷ハ黒臙脂羅紗	圓形、黒革製前庇及幅一・二糎ノ黒革製顋紐ヲ附ス顋紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑一・二糎ノ圓形内ニ櫻花章アル金色ボタン各一箇ヲ以テ留ム周圍ニハ幅一・五糎ノ平織電紋金線二條ヲ纏フ 形狀圖ノ如シ	縱徑五・二糎橫徑六・七糎トシ徑二・六糎ノ黒天鵞絨製ノ臺ニ徑二・四糎ノ銀色略日章ヲ附シ臺ノ周圍ハ金色織線二條ヲ以テ纏ヒ其ノ周圍ヲモール製金色櫻（蕾ハ銀色）ヲ以テ抱擁ス 形狀圖ノ如シ	正帽ニ同ジ但シ周圍ニハ平織電紋金線ヲ缺キ幅三・六糎ニシテ隆起線三條ヲ織出シタル黒縞織絲ヲ纏フ夏ハ白布ヲ覆フ 形狀圖ノ如シ	正帽ニ同ジ但シ縱徑ハ四糎、橫徑ハ六糎トシ黒天鵞絨製ノ臺ハ徑二糎、略日章ハ徑一・八糎トス	柄ハ藍鮫、絲金線三條卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地ニ略日章、石目及櫻唐草ヲ置ク長サ九糎乃至一五糎、鍔ハ金色櫻唐草、鞘ハ鐵ニッケル鍍長サ四五糎乃至六〇糎、二箇ノ釣鐶ヲ附ス中身ハ日本刀 形狀圖ノ如シ	表ハ黒護謨革、裏ハ赤革製トシ幅三糎、釣革ノ長サ第一ノ分二四糎第二ノ分六七糎ニシテ幅二糎、其ノ下端ニ茄子鐶ヲ附ス締輪ハ幅一・五糎前金具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス前金具ハ金色、徑四糎、中央ニ櫻花章其ノ周圍ニ櫻唐草ヲ置ク 形狀圖ノ如シ
同上	同上	同上	同上	同上但シ周圍ニハ幅一・五糎ノ平織電紋金線一條及幅一糎ノ同一條ヲ纏フ	同上	同上但シ隆起線ハ二條、黒縞織絲ノ幅ハ二・四糎トス	同上	同上	同上
同上 スカート、裾上リ二一糎、襞ハ二十、左右ニ各一箇ノポケットヲ附ス 形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上 紺ポプリン但シ夏帽ハ薄藍鼠色麥稈	同上但シ幅一糎ノ平織電紋金線ヲ缺ク 鍔ノ幅三・六糎、高サ鍔ヨリ上縁迄七糎・幅二・四糎ノ黒リボンヲ附シ蝶形ニ結ブ但シ夏ハ薄藍鼠色リボントス 形狀圖ノ如シ	同上	同上但シ隆起線ハ一條、黒縞織絲ノ幅ハ一・二糎トス 正帽ニ同ジ	同上	同上	同上但シ裏ハ藍革製トス
同上	同上	同上	同上	同上但シ平織電紋金線ヲ缺ク	縱徑三・七糎、橫徑四・六糎トシ徑一・八糎ノ略日章ヲ櫻ヲ以テ抱擁シ共ニ眞鍮製打出トス 形狀圖ノ如シ	同上但シ黒縞織絲ヲ缺ク	正帽ニ同ジ	柄ハ黒革、眞鍮線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ眞鍮、長サ一二糎乃至一八糎、鍔ハ眞鍮、鞘ハ磨鐵、長サ四八糎乃至六〇糎、二箇ノ釣鐶ヲ附ス中身ハ日本刀但シ乘馬勤務ノ者ニ限リ柄ノ背面ヲ覆ヒタル金具ハ鐵、長サ一二糎乃至一八糎、鍔ハ鐵ニッケル鍍、鞘ハ長サ八二糎迄トシ一箇ノ釣鐶ヲ附ス 形狀圖ノ如シ	黒象皮、幅三・六糎、釣革ノ長サ第一ノ分六糎第二ノ分三・六糎以内ニシテ幅二糎、其ノ下端ニ茄子鐶ヲ附ス締輪ハ幅一・五糎前金具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス前金具ハ眞鍮、徑四・三糎トス但シ乘馬勤務ノ者ニ限リ釣革ハ長サ三六糎以内一本トシ革ヲ鎖ニ代フルコトヲ得釣鎖ハニッケル鍍鋼 形狀圖ノ如シ
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

短刀			柄ハ白鮫、線ハ刀ニ同ジ背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地ニ略日章及唐草ヲ置ク長サ一一糎、鞘ハ黒革、鞘口ニ櫻花章及唐草ヲ、鐺ニ唐草ヲ置ク長サ三〇糎乃至三六糎、金具ハ金色、二箇ノ釣鐶ヲ附ス中身ハ日本刀形狀圖ノ如シ	同上	同上但シ鞘ハ總磨鐵トシ鞘口ノ櫻花章及唐草並ニ鐺ノ唐草ヲ缺ク	柄ハ黒革、眞鍮線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ眞鍮、長サ一一糎、鍔ハ眞鍮、鞘ハ磨鐵、長サ三〇糎乃至三六糎、二箇ノ釣鐶ヲ附ス中身ハ日本刀形狀圖ノ如シ	同上
短刀帶			刀帶ニ同ジ但シ釣革ノ長サ二四糎トス	同上	同上	刀帶ニ同ジ但シ釣革ノ長サ二〇糎トス	同上
刀緒	正緒		總附金線製楕圓壺形、莖ノ長サ三糎、壺ノ長サ四・六糎徑二・七糎、緒ハ金線製丸打紐徑五粍長サ九七糎ヲ折返シ兩端ヲ合シ總ヲ附ス緒締ハ金綫製丸組紐幅一糎圓徑一・四糎トス形狀圖ノ如シ	同上但シ莖ヲ缺ク	同上但シ總ハ銀線製長サ四糎徑二・四糎、緒及緒締ハ銀線製トス	黒革製、總及緒締ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上但シ茶色革製トス
	常緒		正緒ニ同ジ但シ總ハ黒絹絲製壺形、長サ四糎徑二・四糎緒及緒締ハ黒絹絲製トシ莖ヲ缺ク形狀圖ノ如シ	同上	同上	正緒ニ同ジ	同上
外套	地質		濃紺又ハ黒羅紗	同上	同上 濃紺羅紗	同上	同上
	甲種	製式	頭巾附、長サ靴ノ踵ノ上際ヲ距ルコト約二四糎、袖ノ長サ腕ノ關節ヨリ延ルコト一・五糎、襟幅七・六糎折襟、胸二重徑二・三糎ノ金色圓形内ニ櫻花章ヲ鏤刻セルボタン六箇ヅツ二行、腰部ニ帶緒ヲ設ケ其ノ側部ニ同ボタン各三箇、收紐ニ同二箇ヲ附シ左脇下ニ長サ約二三糎ノ裂目ヲ附ス覆面留ハ徑一・七糎ノ黒角ボタン三箇、襟部ニ紐留同二箇、後面ハ裾ヲ裂キ同四箇ヲ附ス前面ノ左右ニポケット各一箇ヲ附ス形狀圖ノ如シ	同上	同上	同上但シ襟幅六糎立襟、襟部ニ附スルボタン五箇、收紐ニ附スルボタンハ一箇トス	同上
		袖章	幅三粍ノ蛇腹組金線三條ヲ袖口ヨリ一二糎ヲ經テ山形ニ附ス形狀圖ノ如シ	同上但シ金線ハ二條トス	同上但シ金線ハ一條トス	袖口ヨリ約六糎ノ部ニ徑一糎ノ眞鍮櫻花章二箇ヲ表半面ニ附ス形狀圖ノ如シ	同上但シ櫻花章ハ一箇トス
	乙種	製式	マント形頭巾附、長サ膝蓋ノ中央迄トス襟幅七・六糎折襟、胸部ニ徑二・八糎ノ黒角ボタン四箇ヲ附ス覆面留ハ徑一・七糎ノ黒角ボタン三箇、襟部ニハ紐留同二箇ヲ附ス裏黒形狀圖ノ如シ	同上	同上 同上但シ長サスカートノ裾迄トシ裏ニポケット一箇及手出ヲ附ス裏薄藍鼠	同上但シ長サ前面襟下ヨリ約四八糎背面約五六糎、胸部ニ附スルボタンハ三箇、襟部ニ付スルボタンハ五箇トス	同上

備考

一夏衣ニハ肩章ヲ裝著セザルモノトス

一平常勤務ノ場合ニ於テハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ肩章ヲ裝著セザルコトヲ得

一平常勤務ノ場合ニ於テハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ刀又ハ短刀ヲ佩用セザルコトヲ得

一勤務ノ性質ニ依リ必要アルトキハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ制服ヲ著用セザルコトヲ得

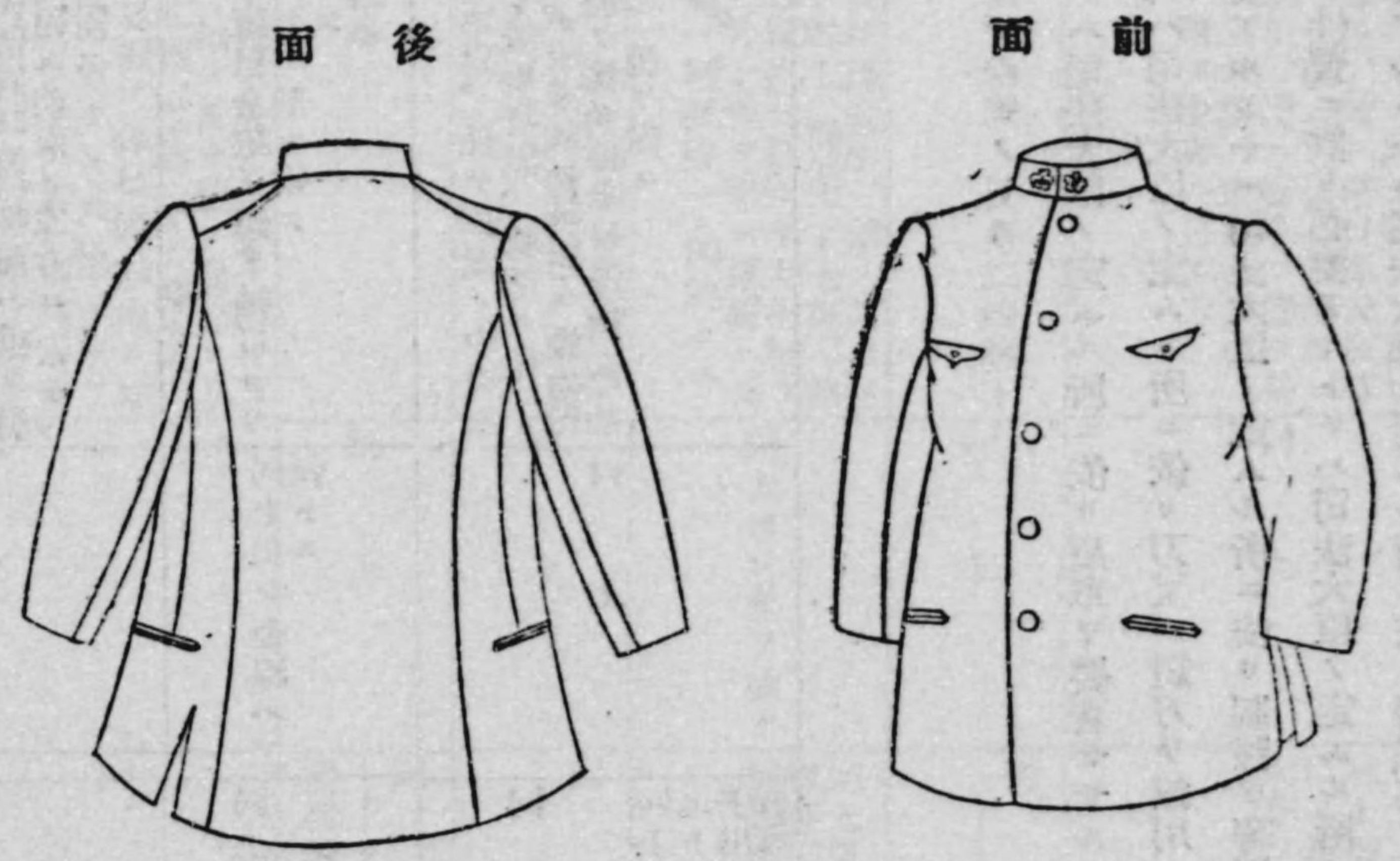
一土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ必要アルトキハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ特殊ノ帽、防寒具又ハ防水具ヲ著用スルコトヲ得

一勤務ノ性質ニ依リ必要アルトキハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ臂章其ノ他ノ徽章ヲ附著スルコトヲ得

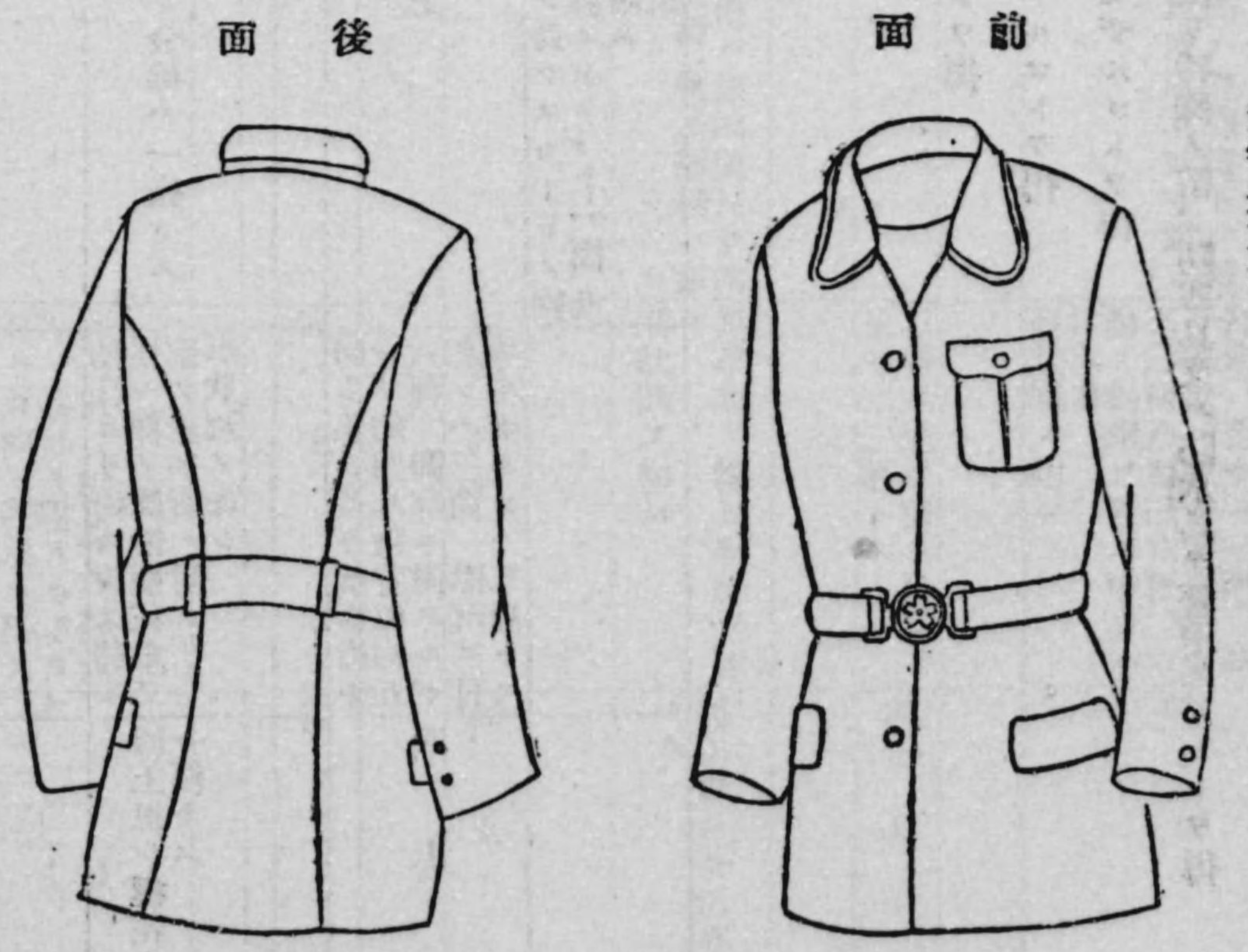
上衣

製式

典獄
典獄補
看守部長
看守長(男)



看守長(女)

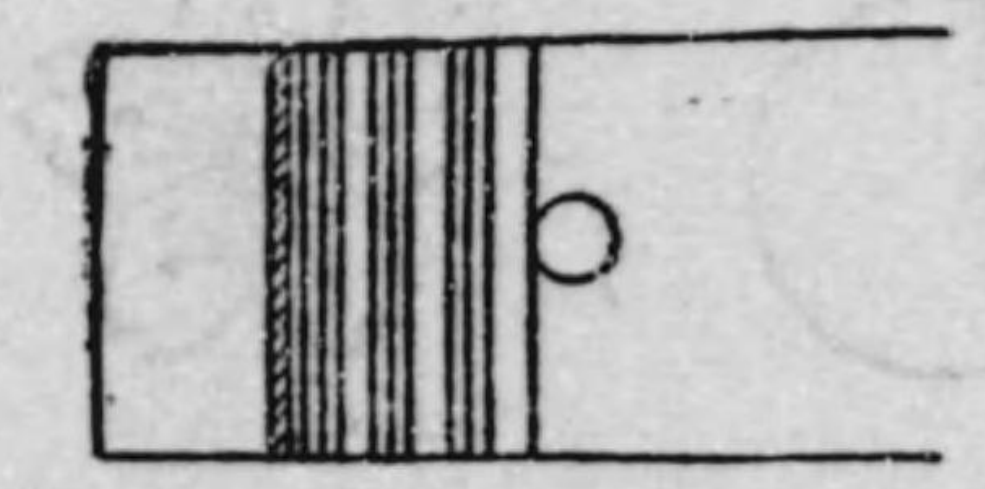


【臺轄】

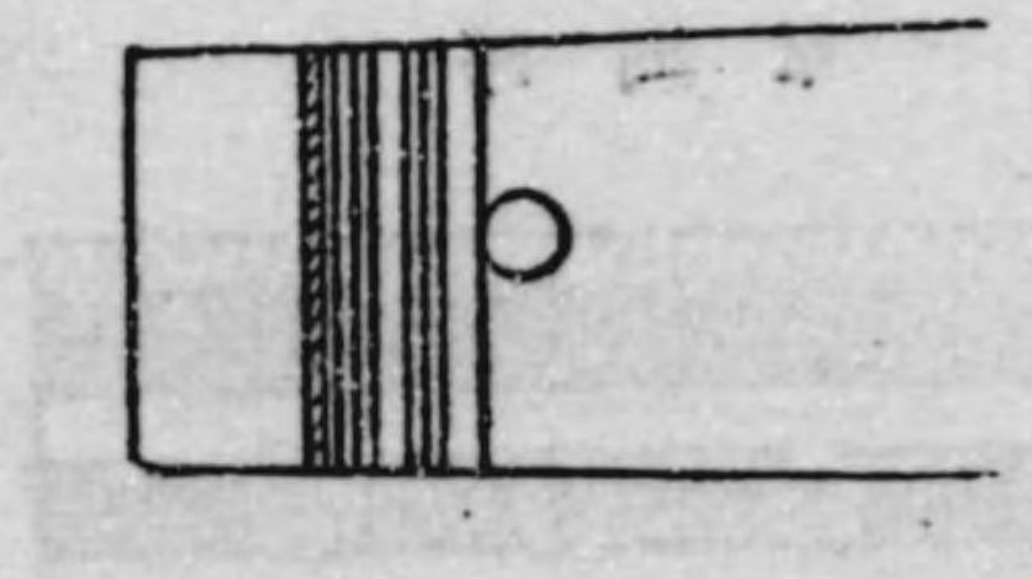
袖章

【臺轄】

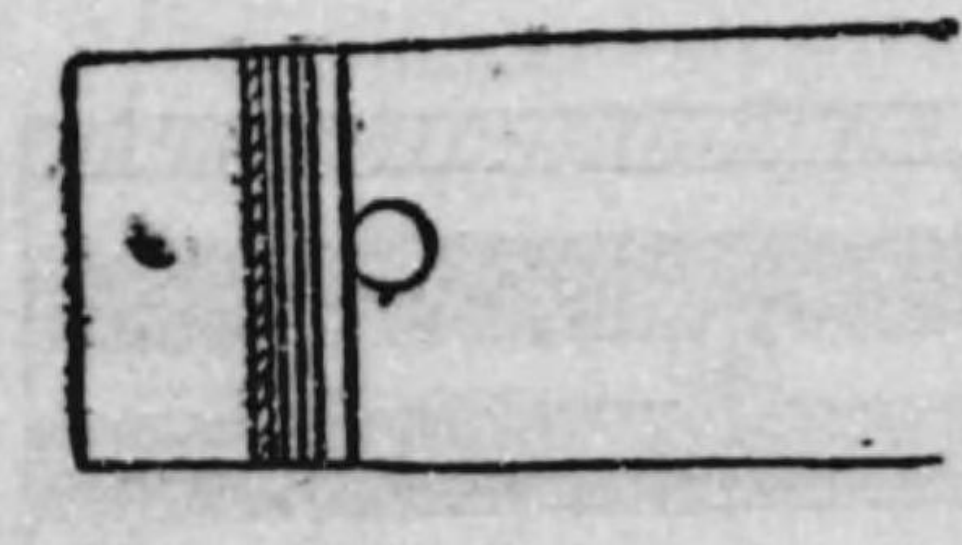
典獄



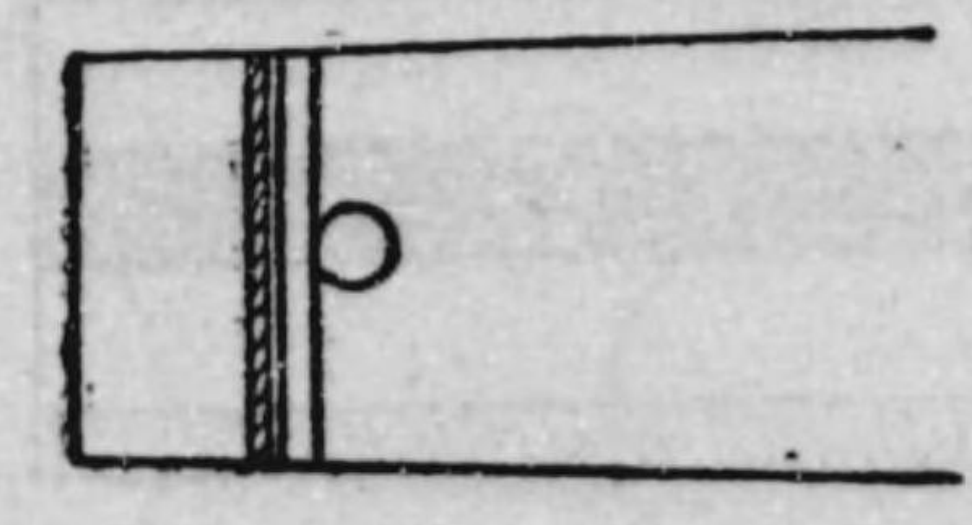
典獄補



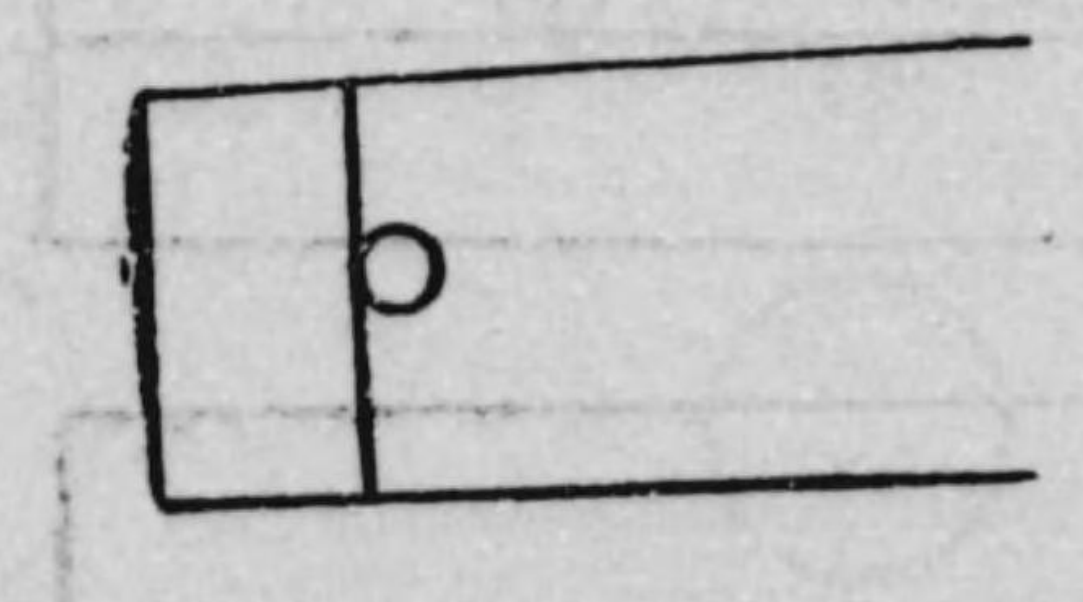
看守長(男)



看守部長

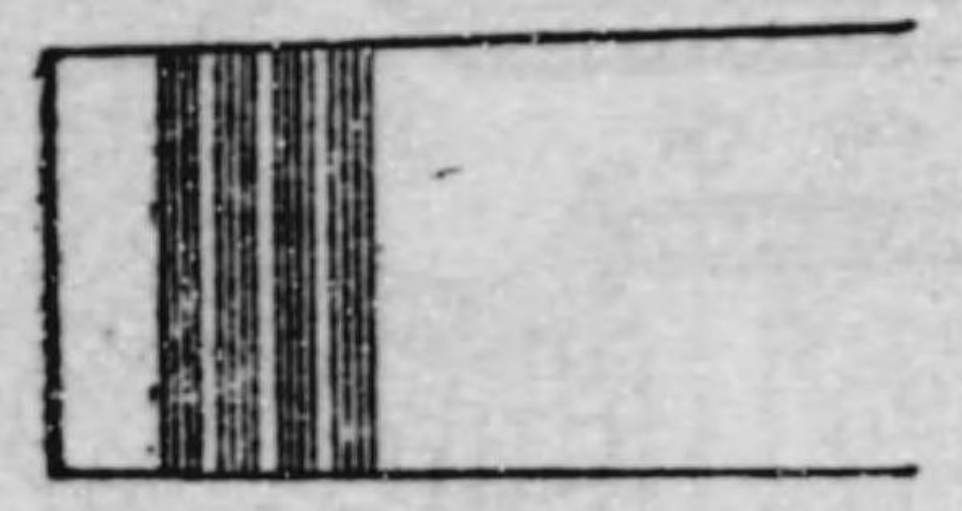


看守

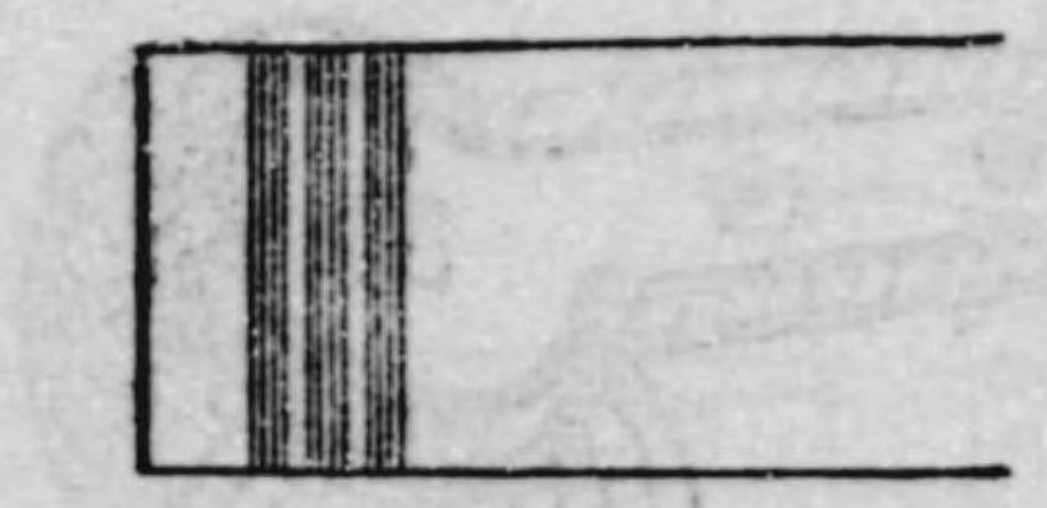


夏衣

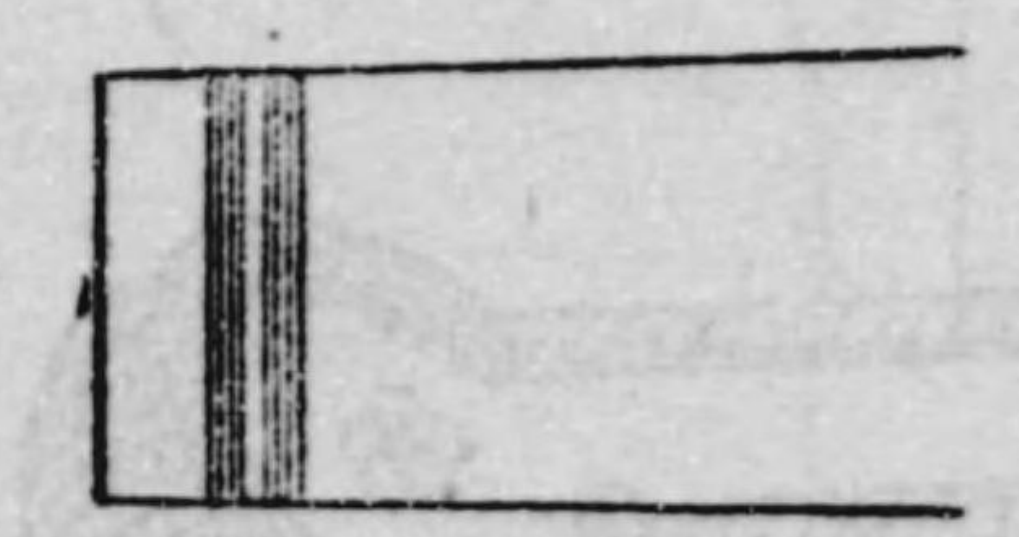
典獄



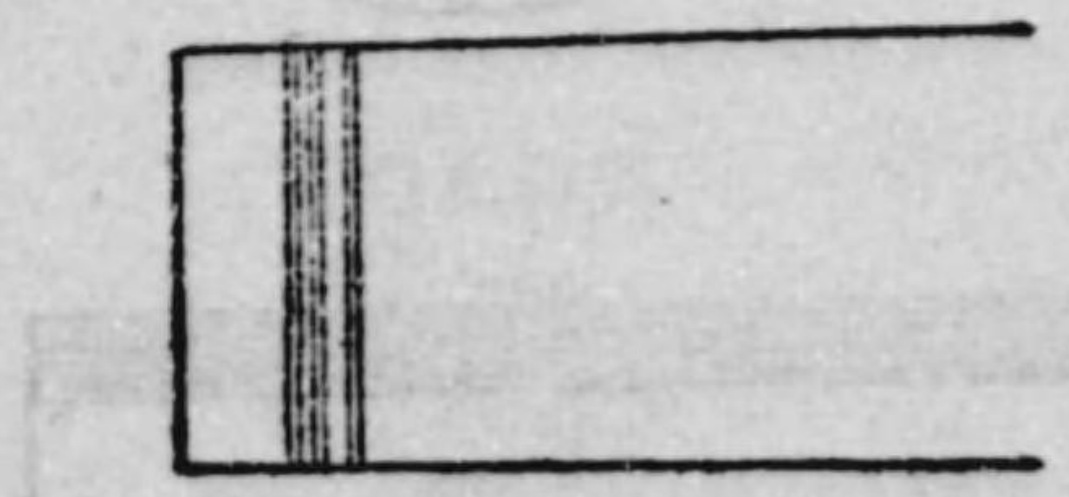
典獄補



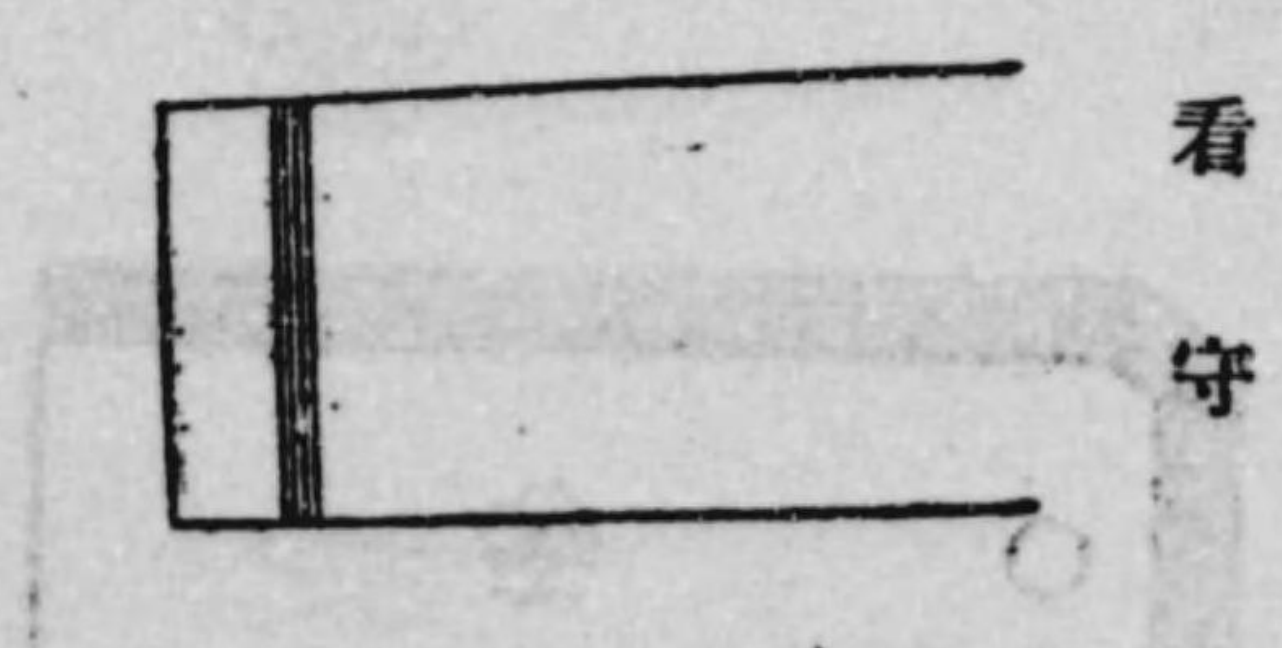
看守長(男)



看守部長

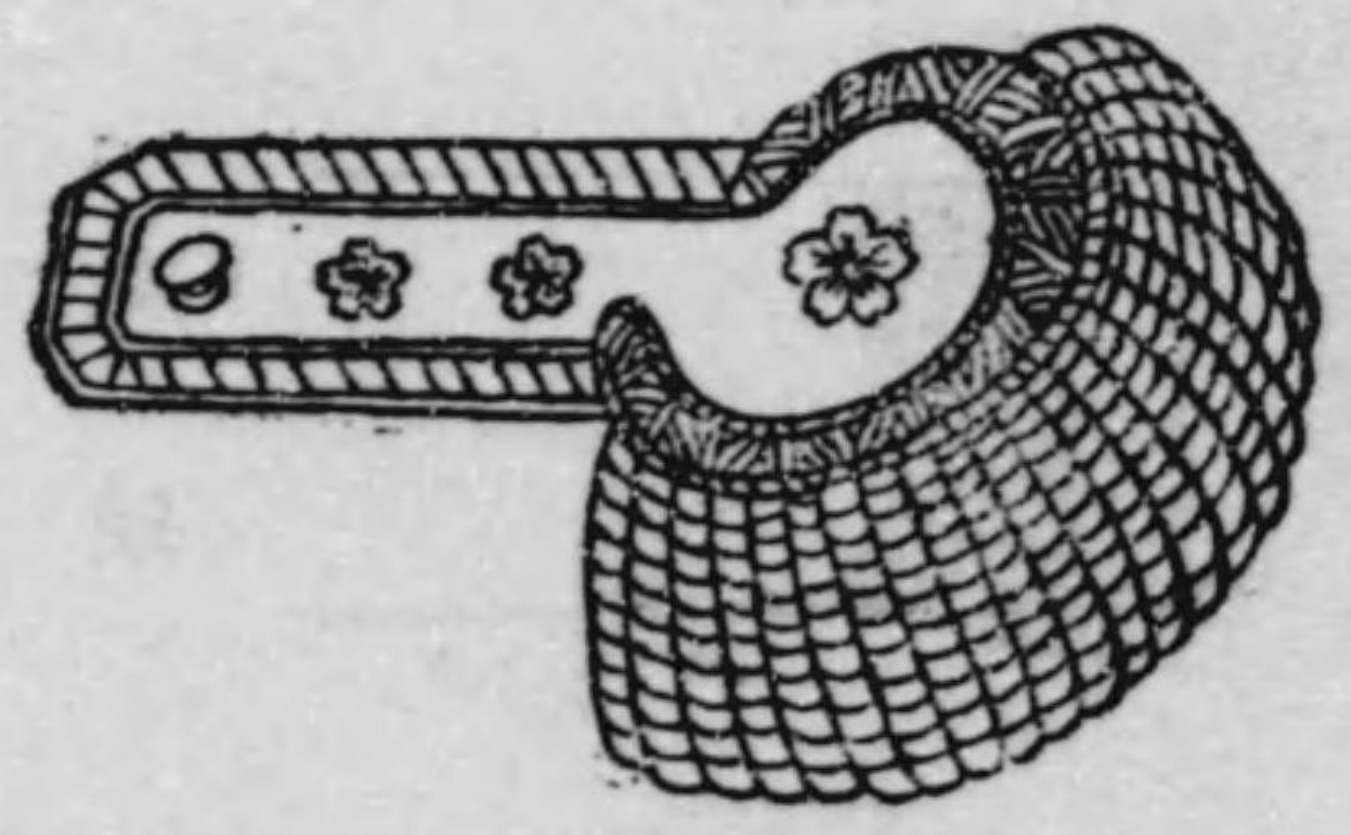


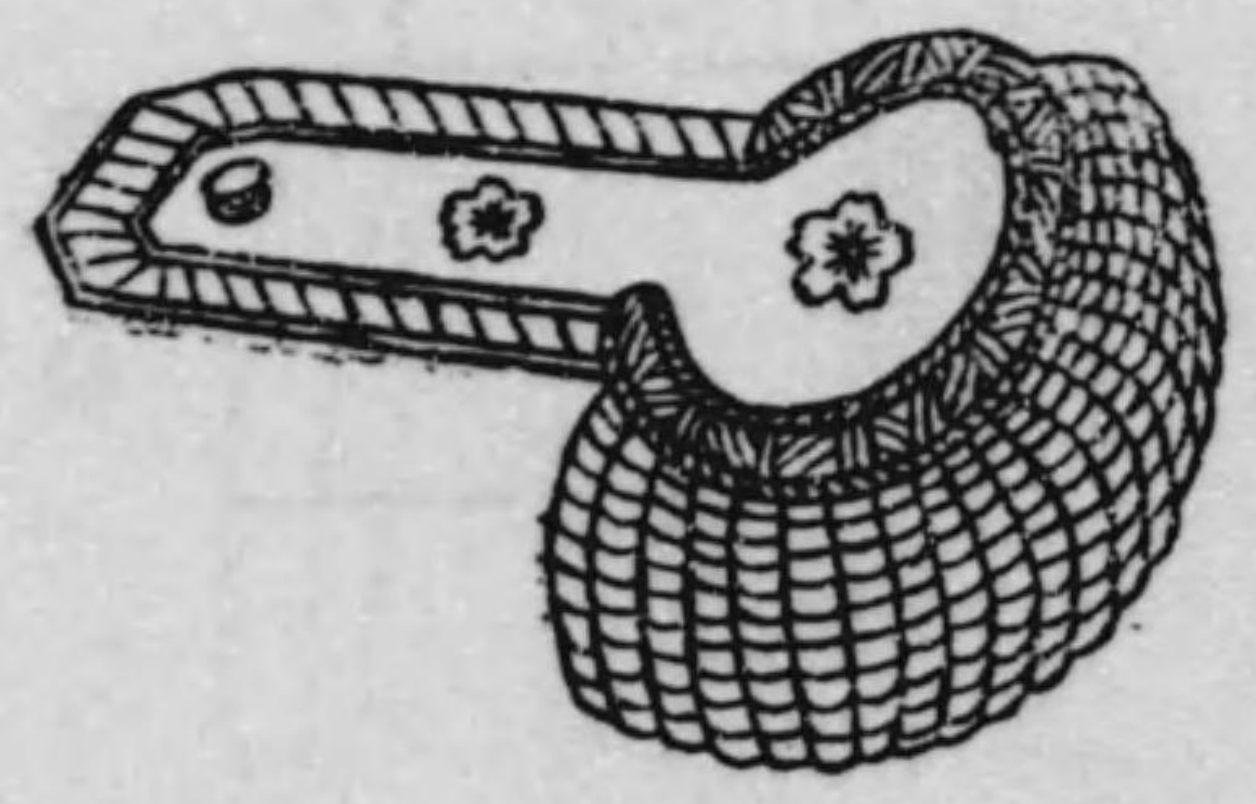
看守

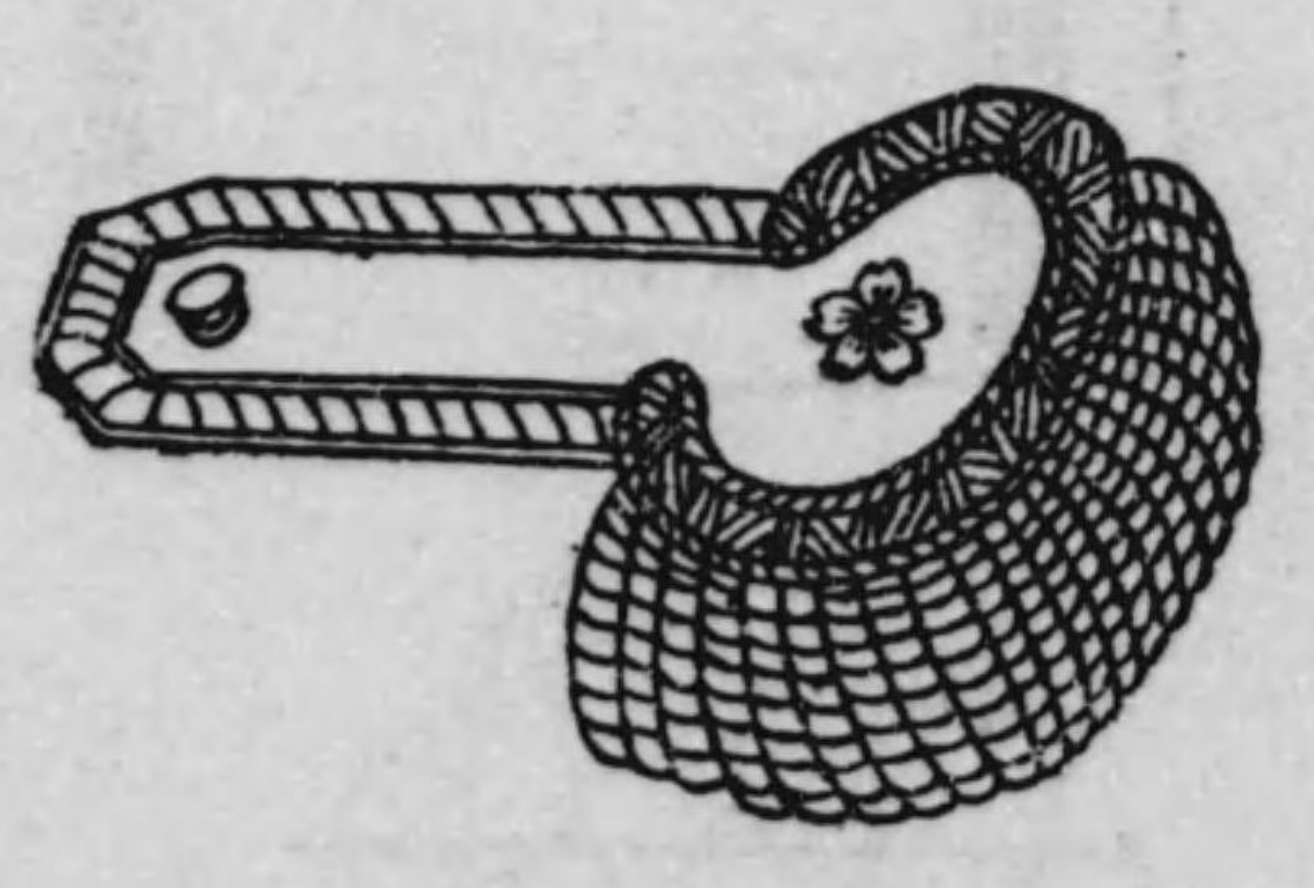


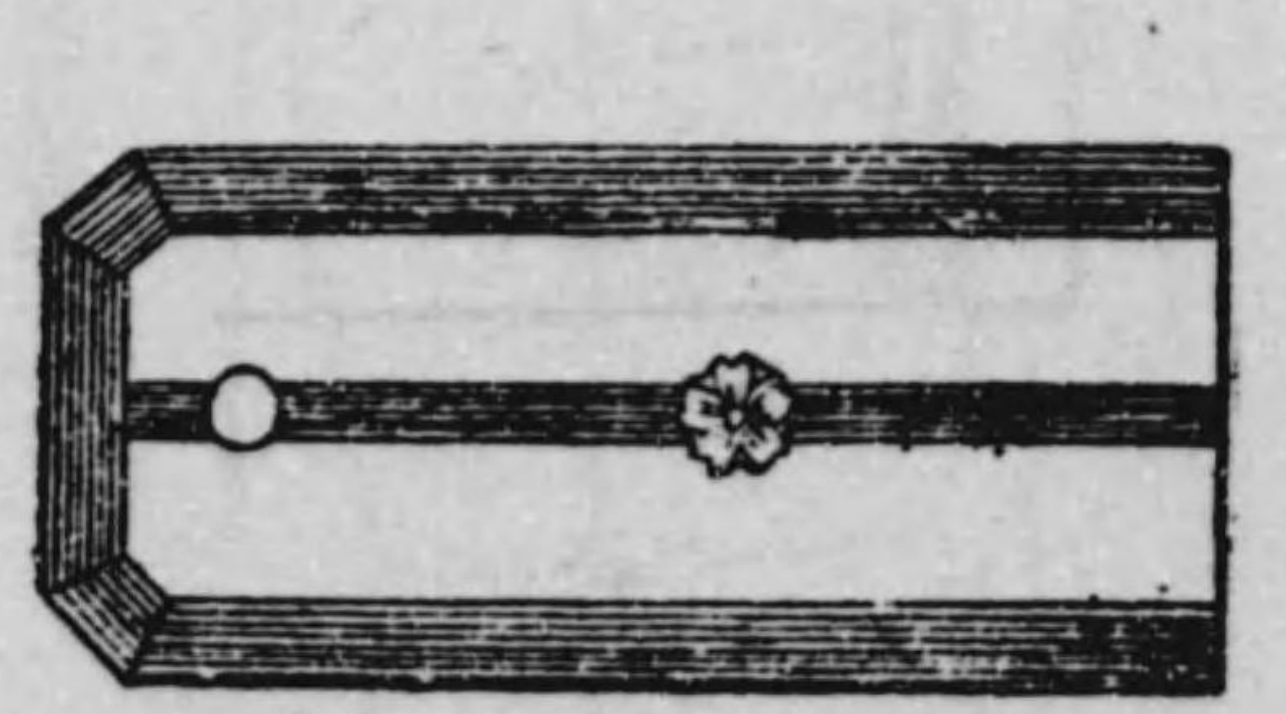
肩章

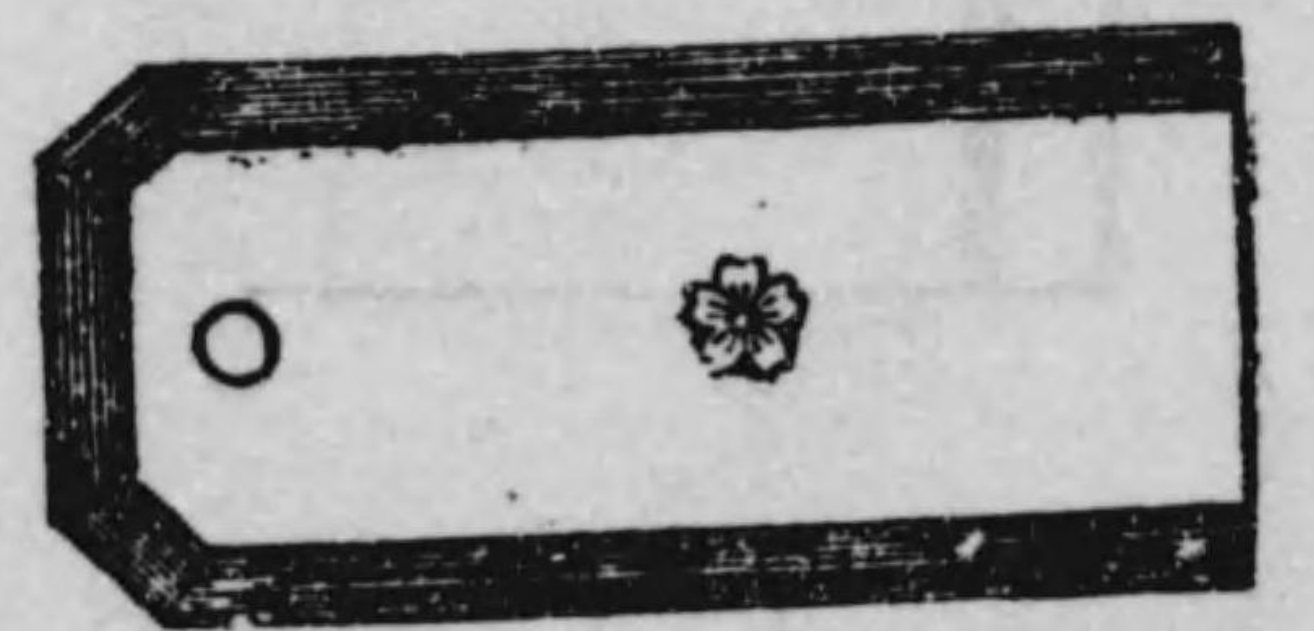
正肩章


典獄

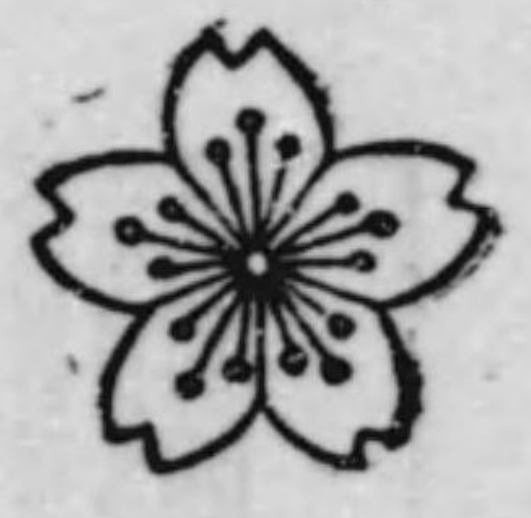

典獄補


看守長（男）


看守部長

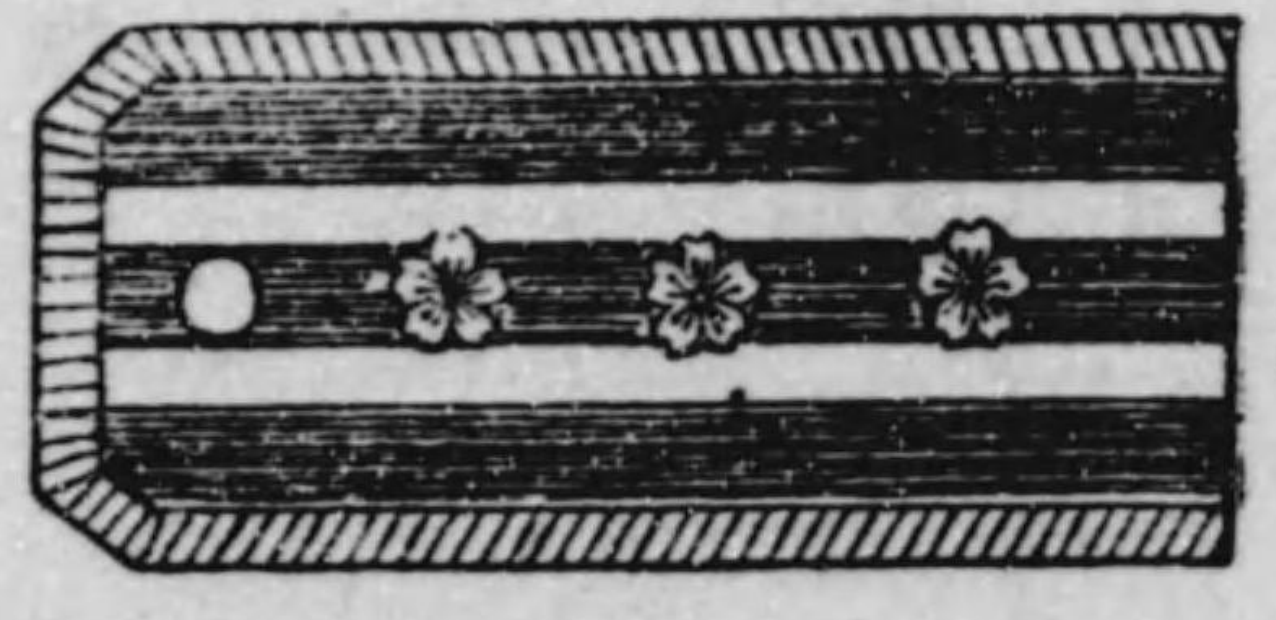

看守

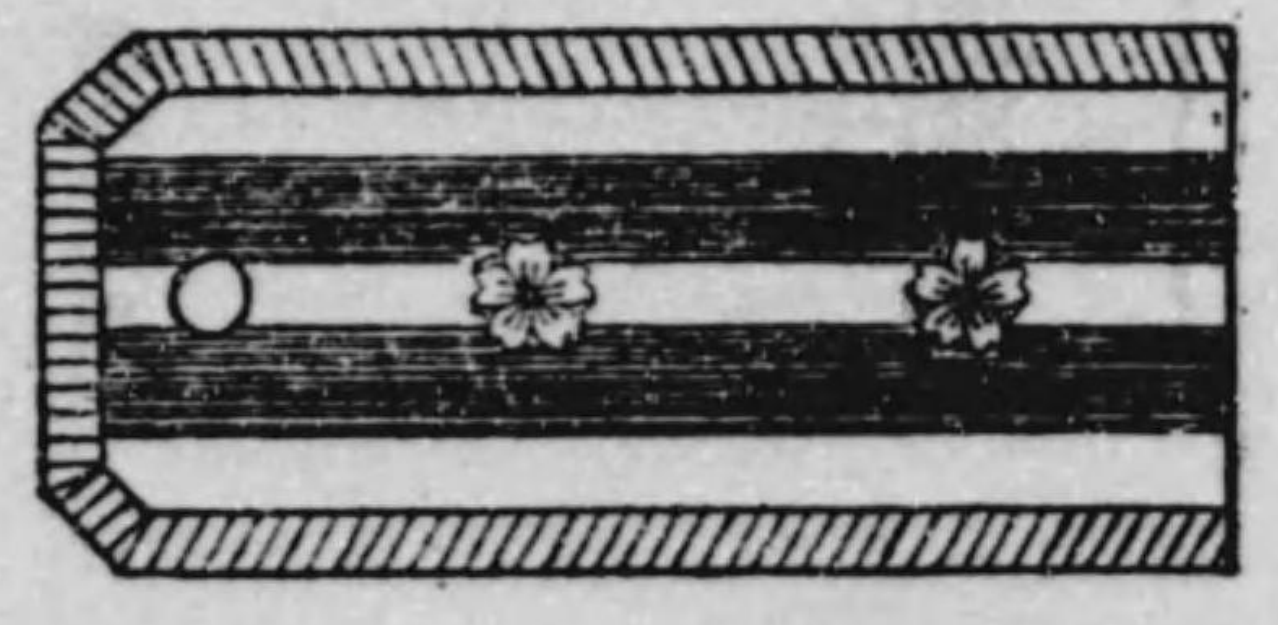
櫻花章

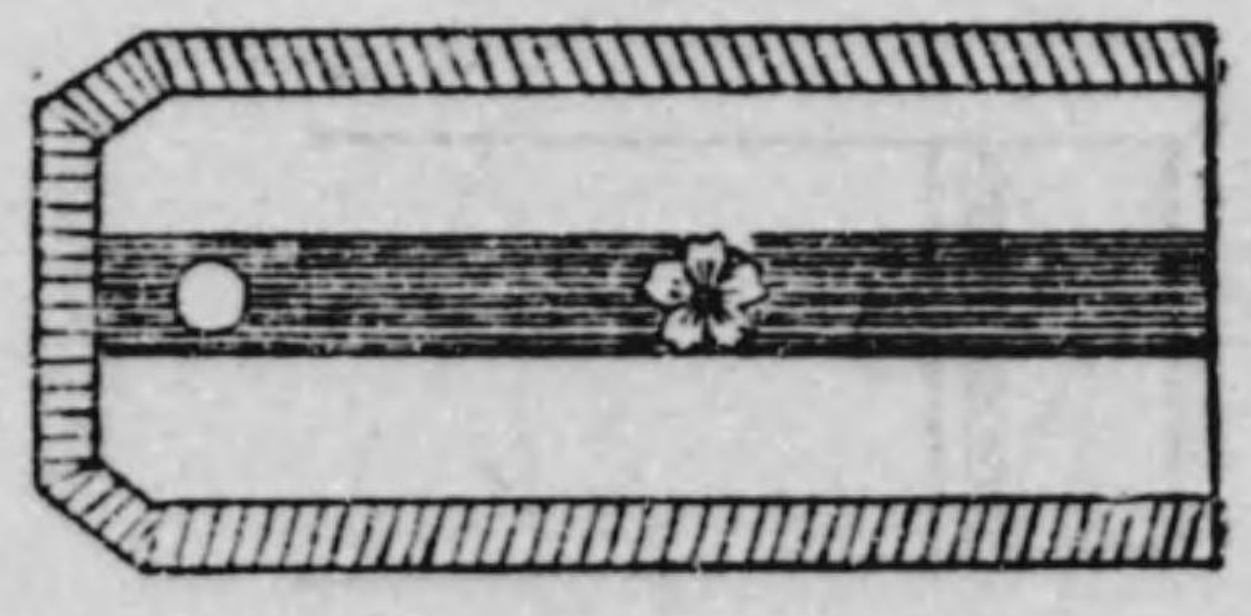


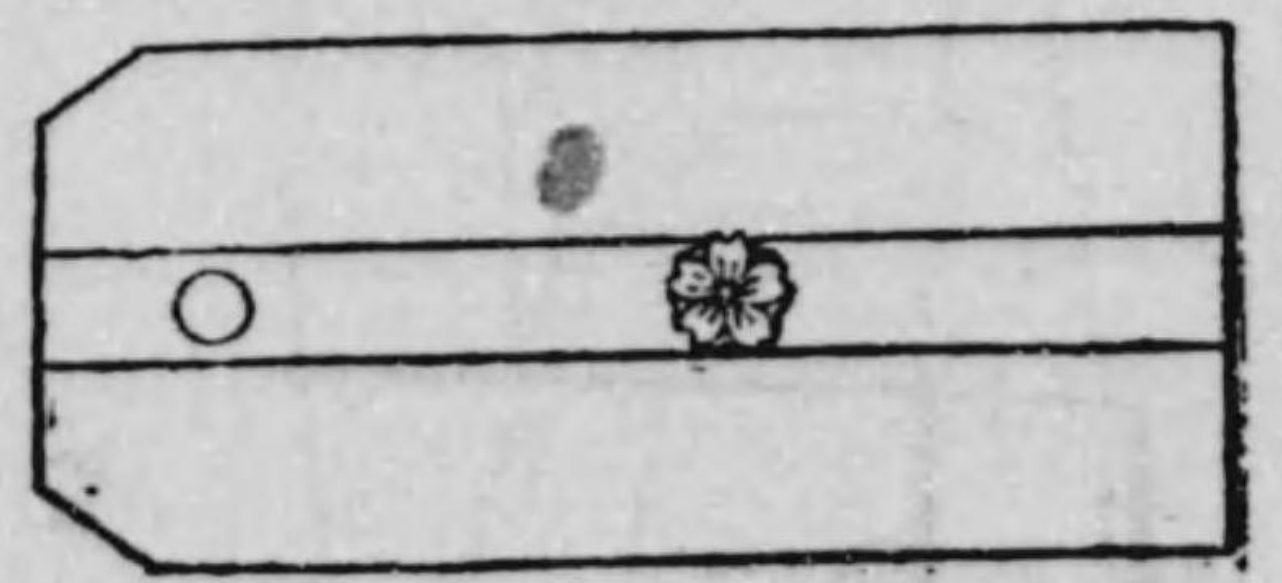
ボタン

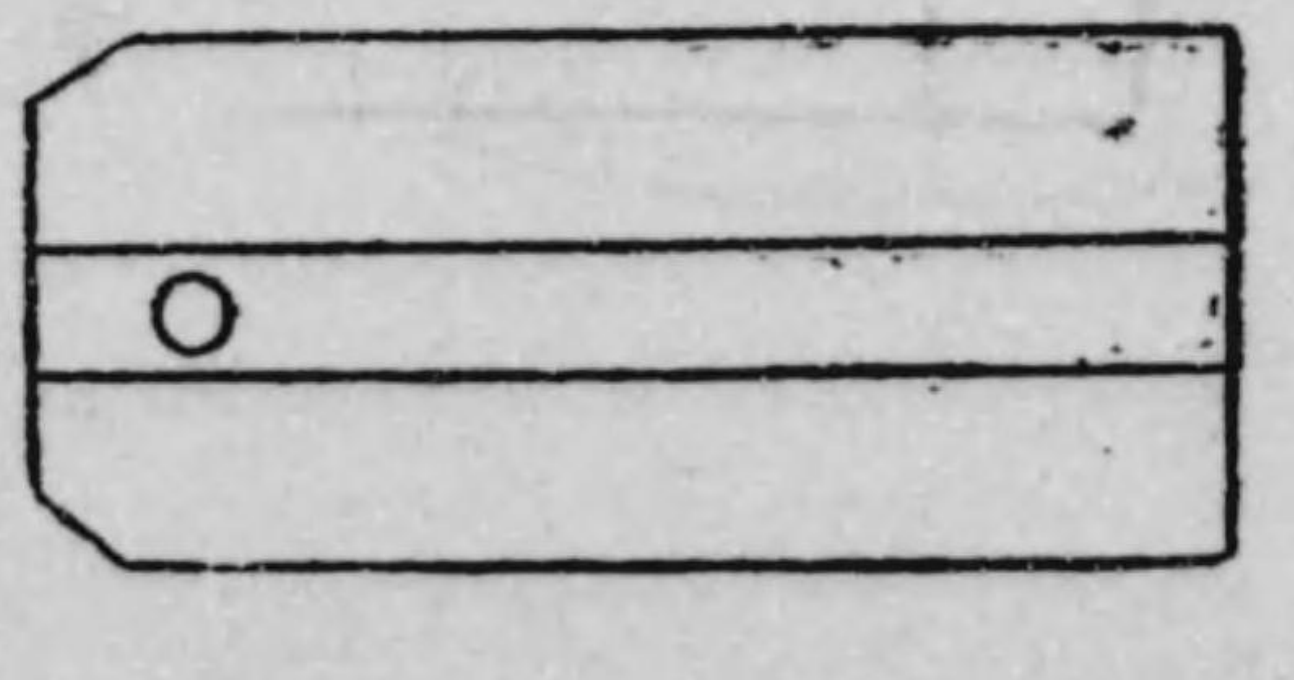
略肩章


典獄


典獄補


看守長（男）

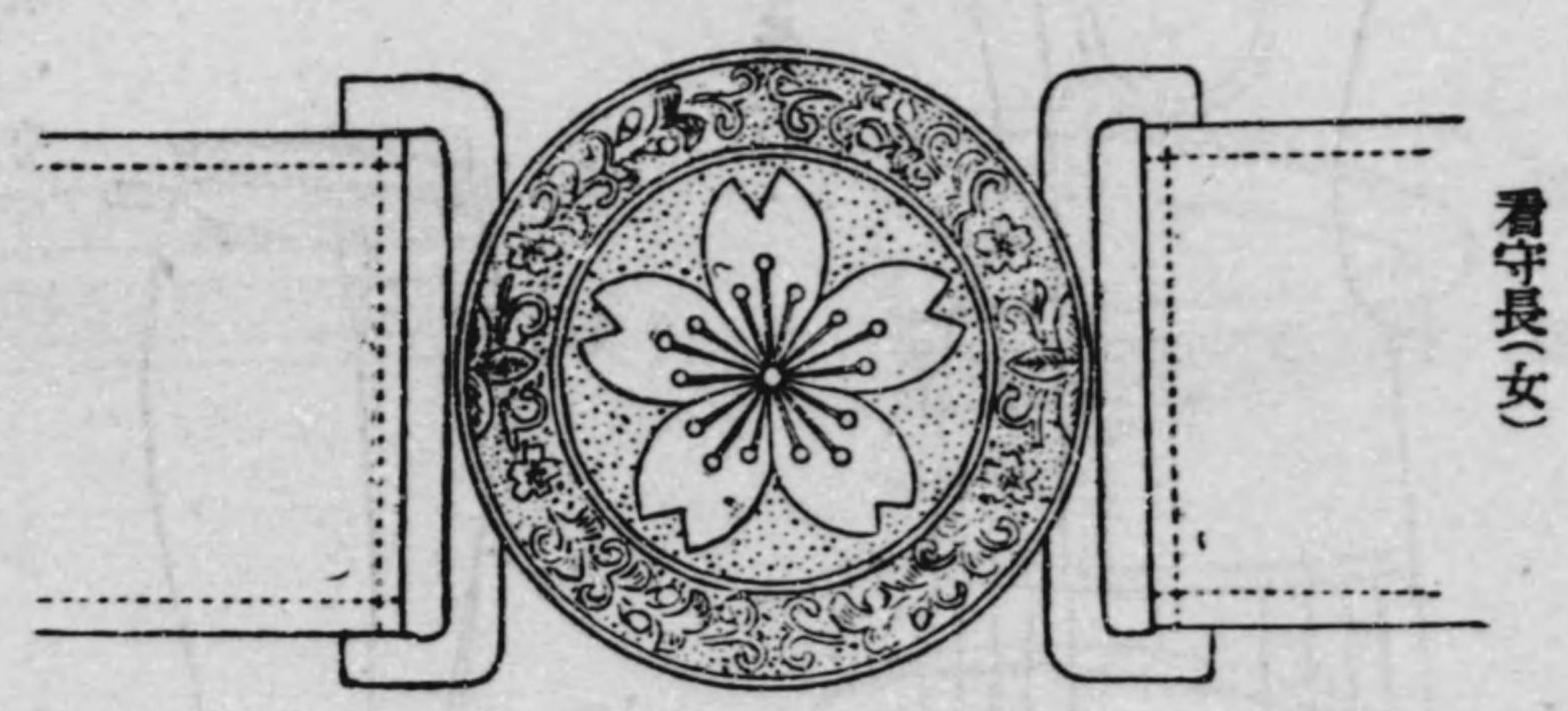

看守部長


看守

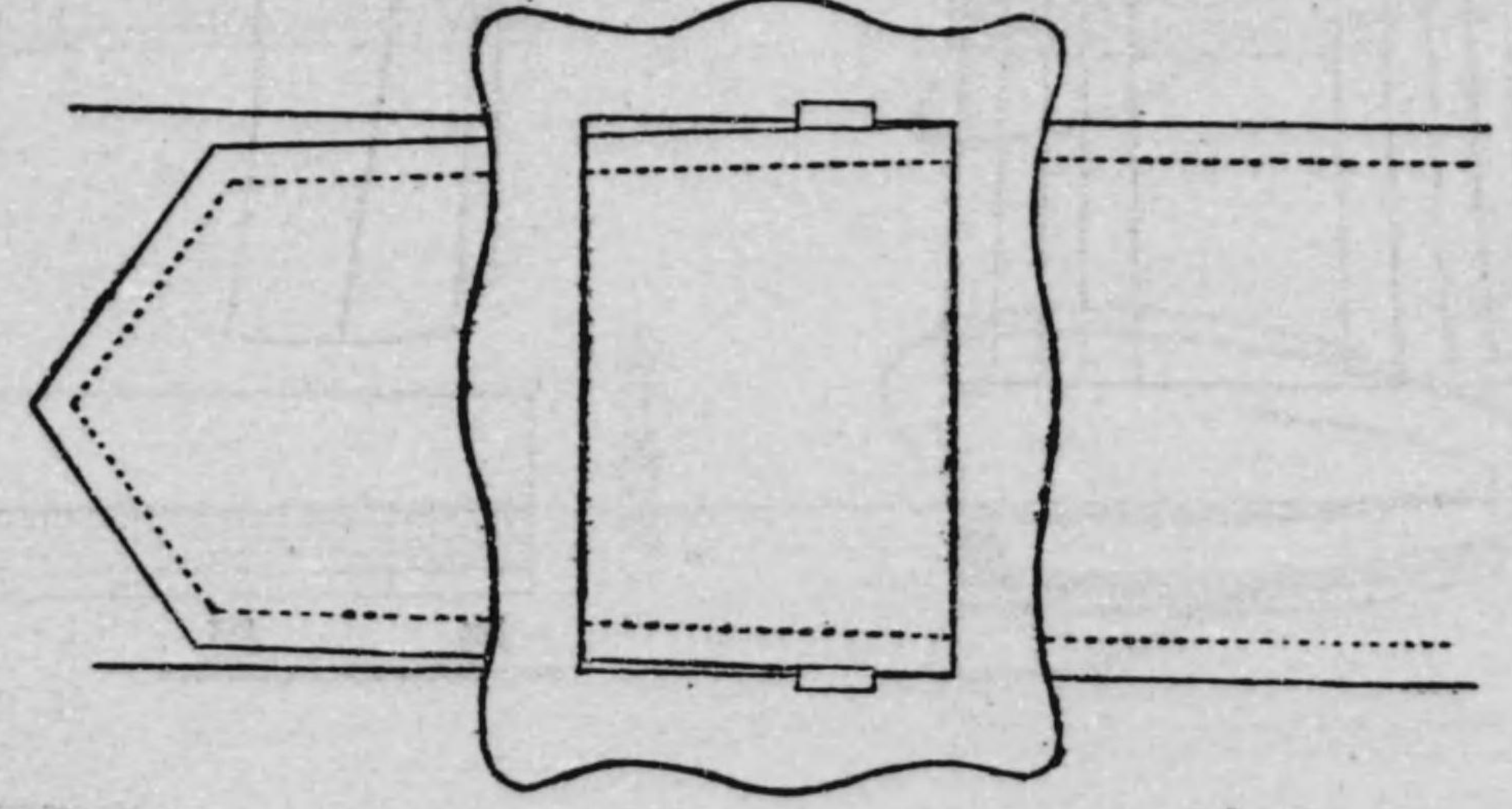
〔參考〕

バンド

正バンド


看守長（女）

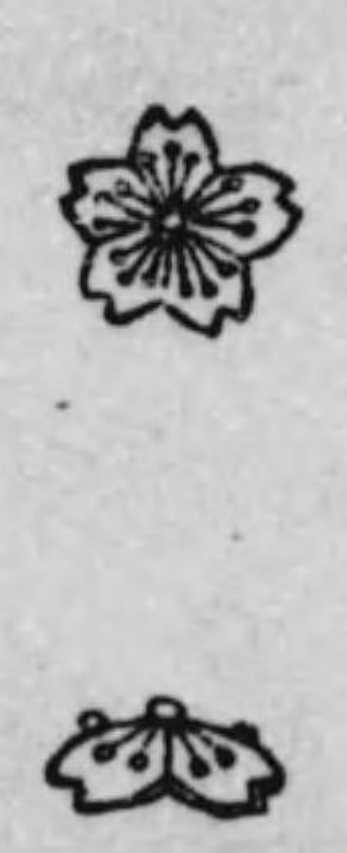
略バンド


看守長（女）

〔參考〕

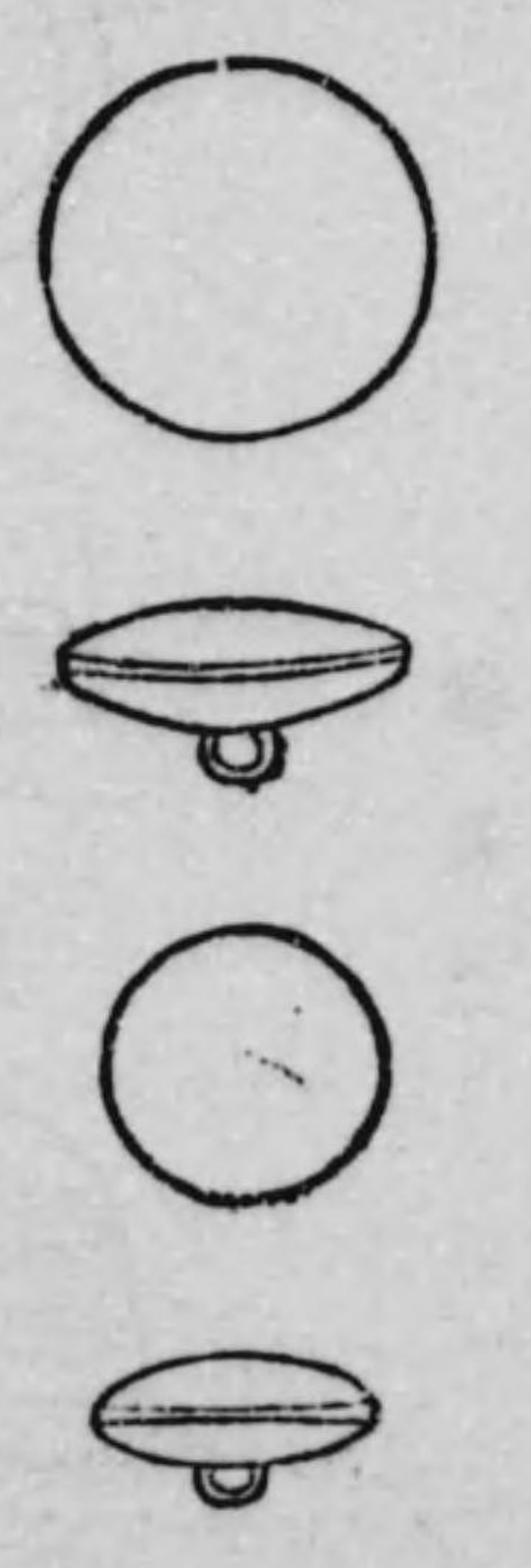
襟章

典獄
典獄補
看守長
看守部長
看守（男）

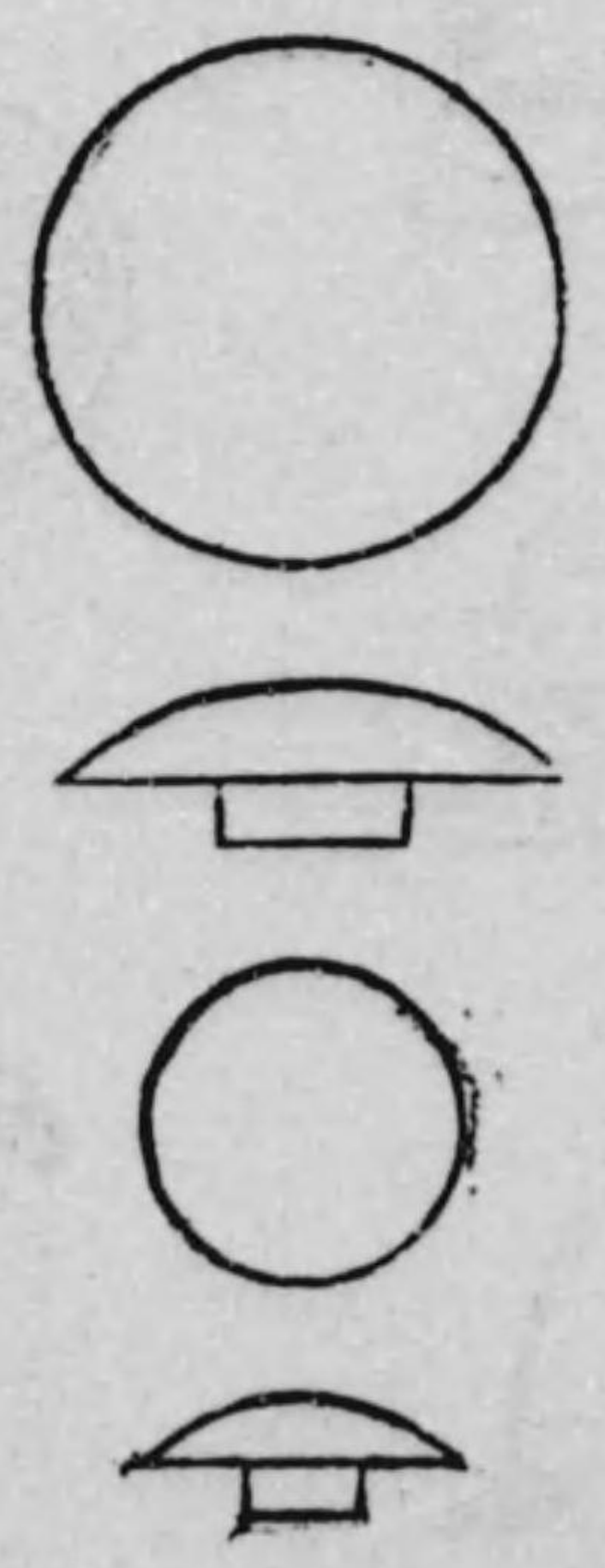


ボタン

金屬製

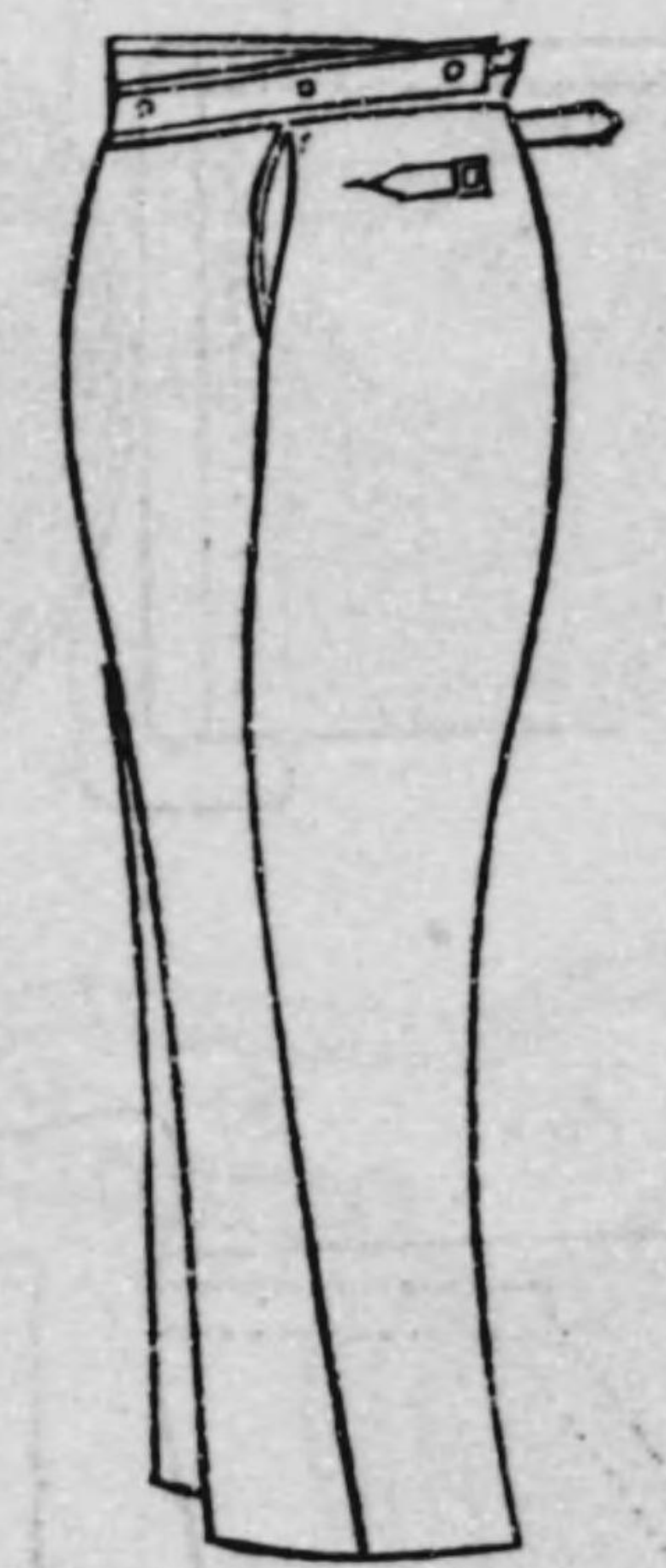


貝製



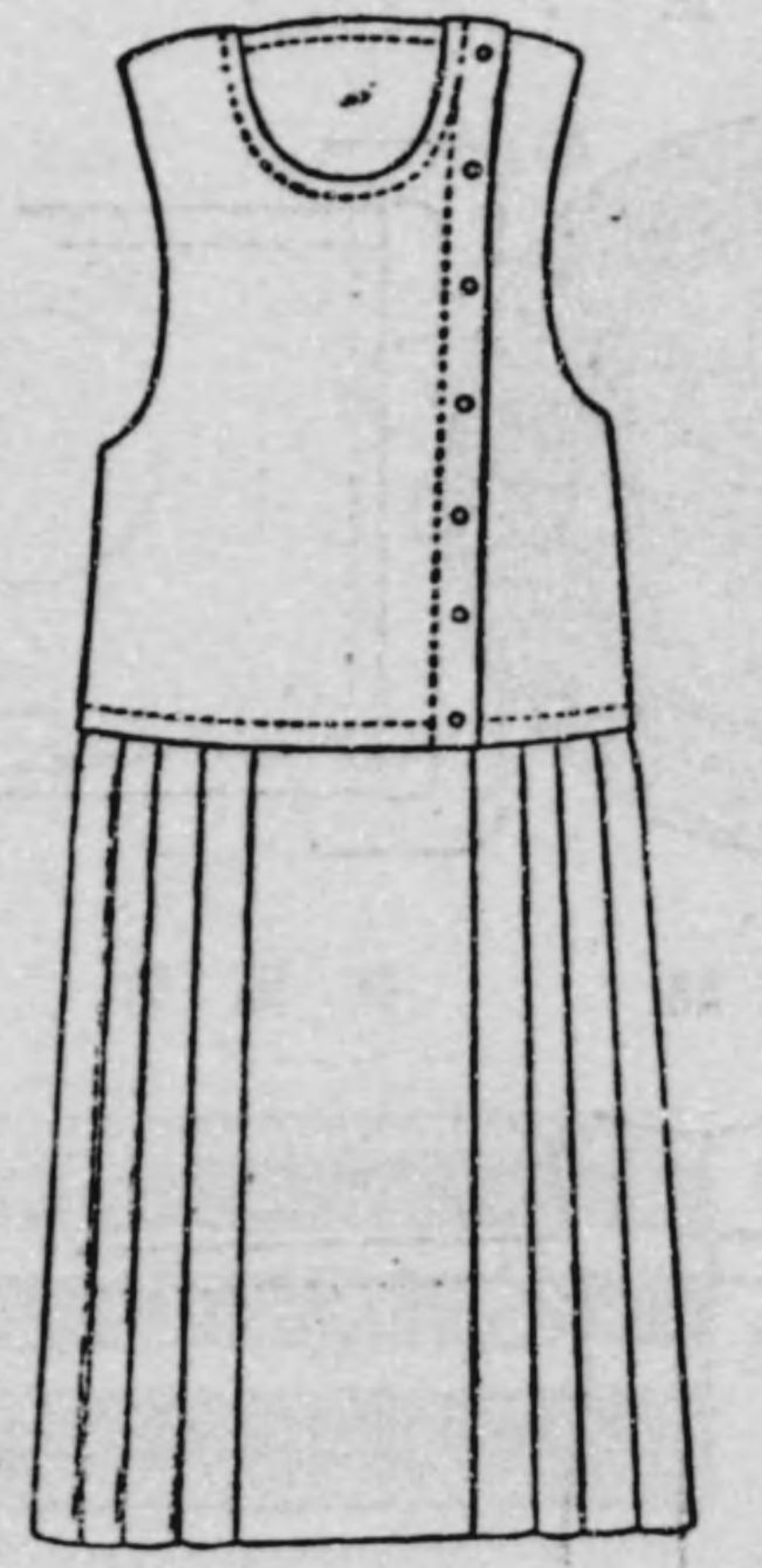
袴

ズボン



典獄
典獄補
看守長（男）
看守部長
看守

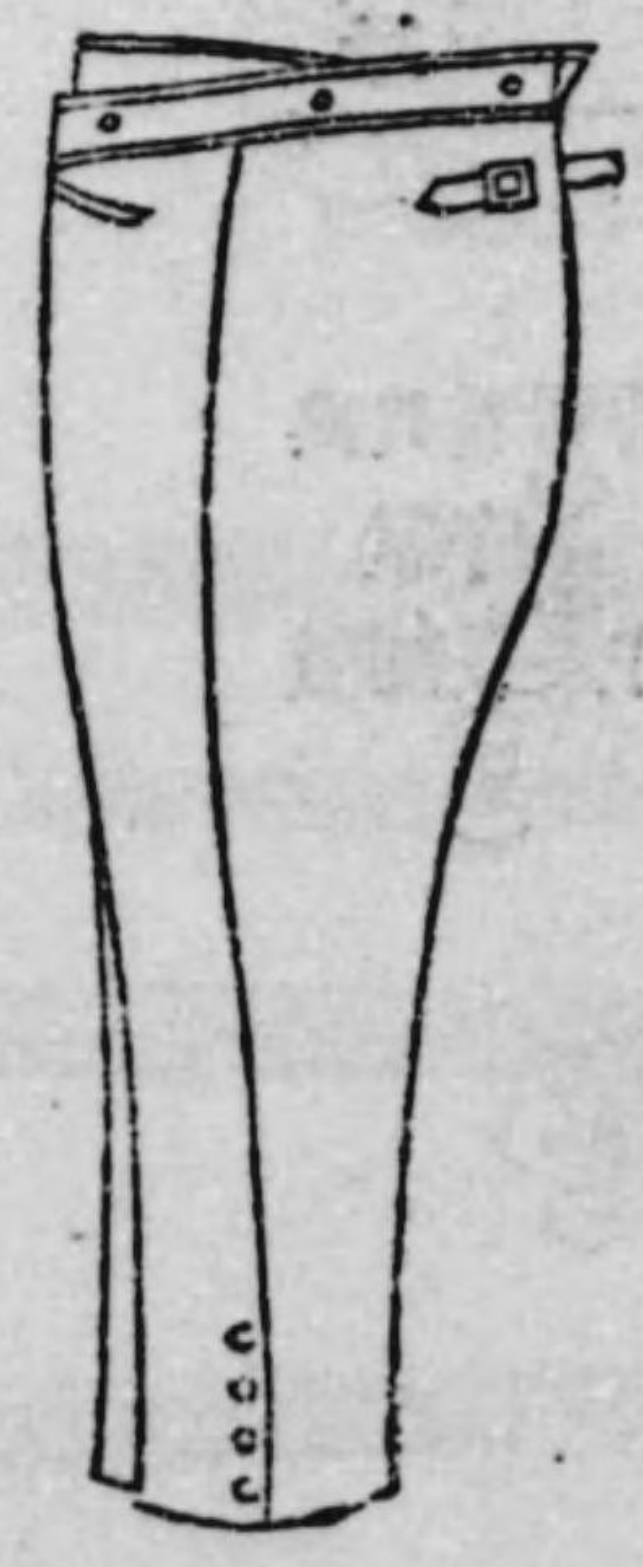
スカート



看守長（女）

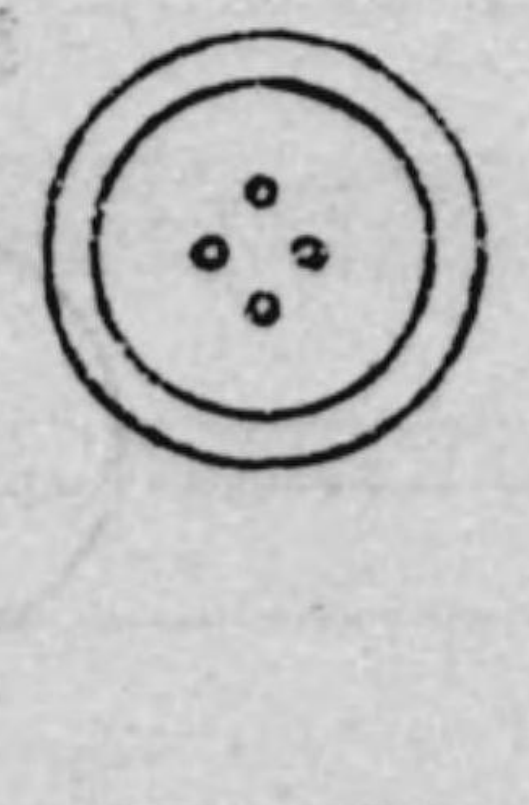
【參考】

短袴



典獄
典獄補
看守長（男）
看守部長
看守

貝ボタン

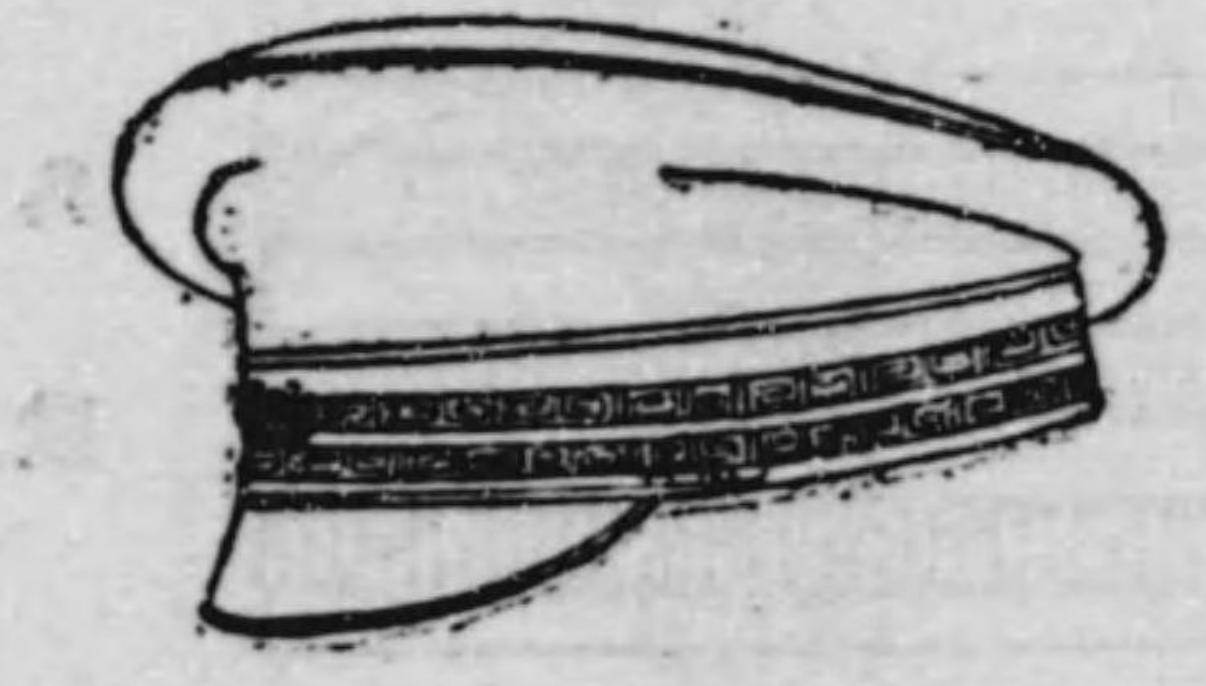


帽

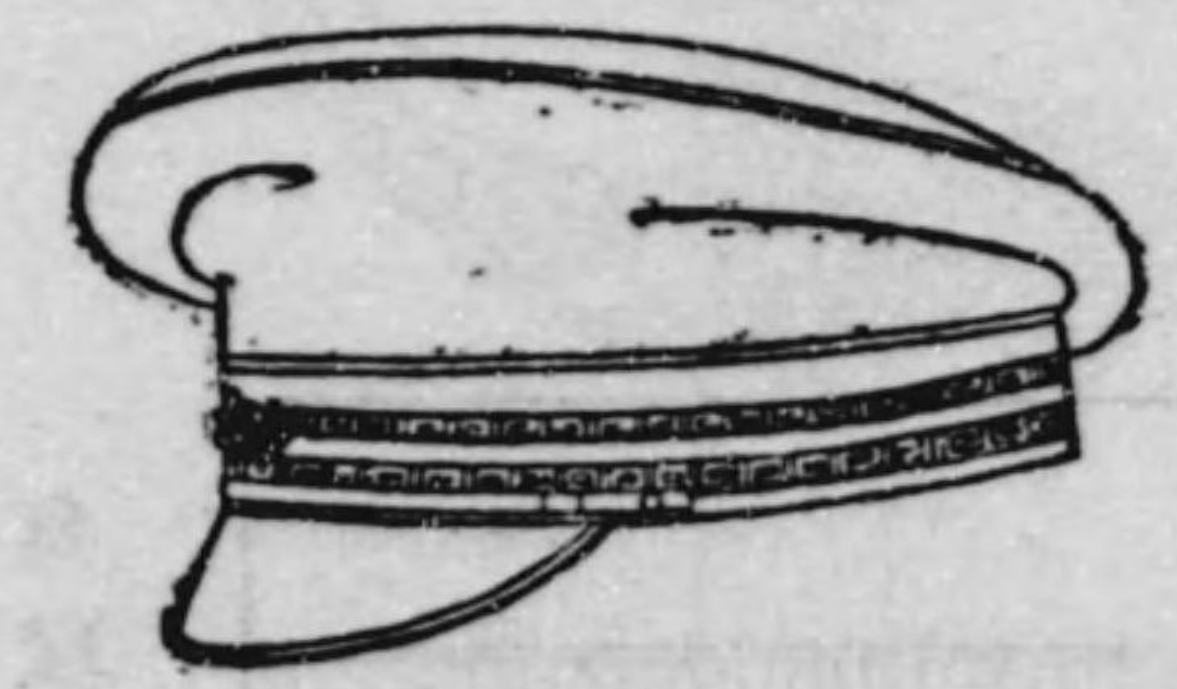
正帽

【參考】

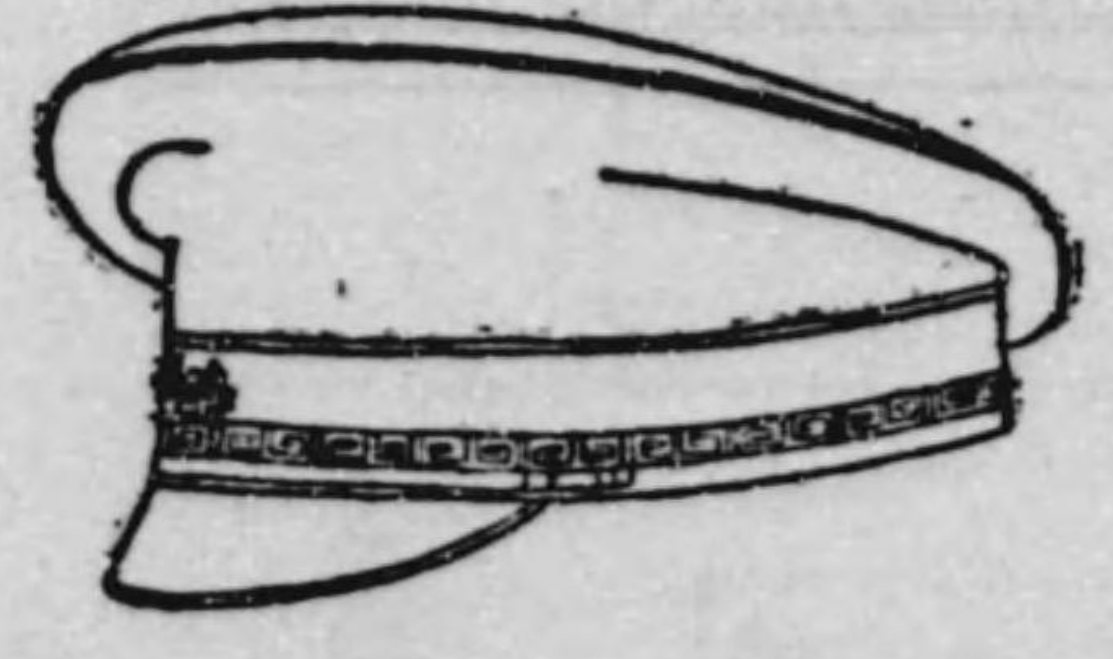
典獄



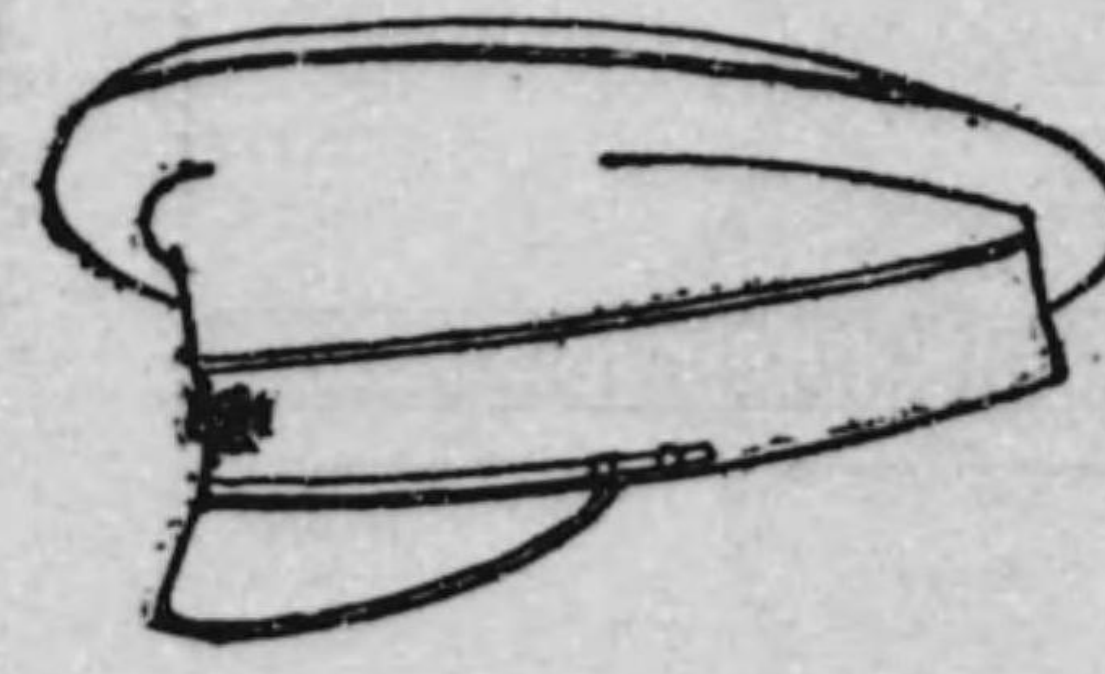
典獄補



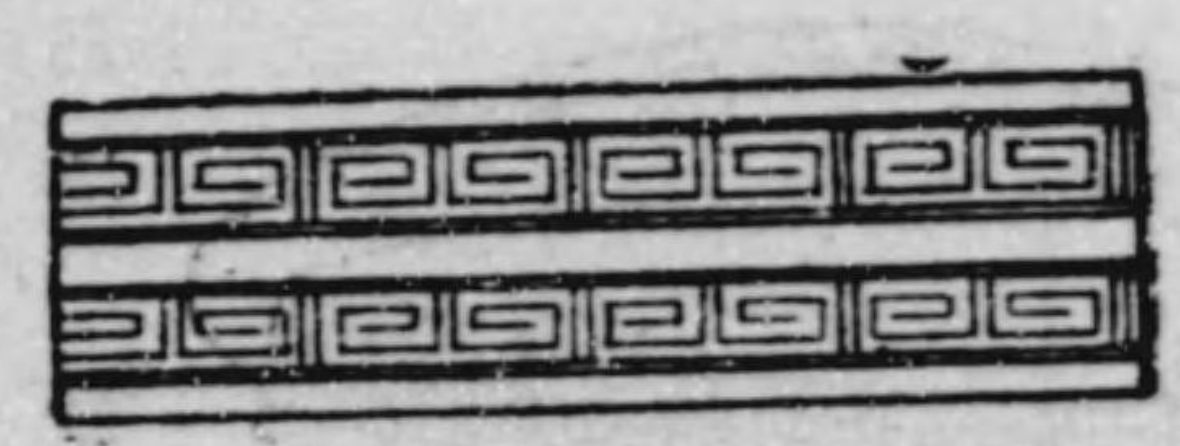
看守長（男）



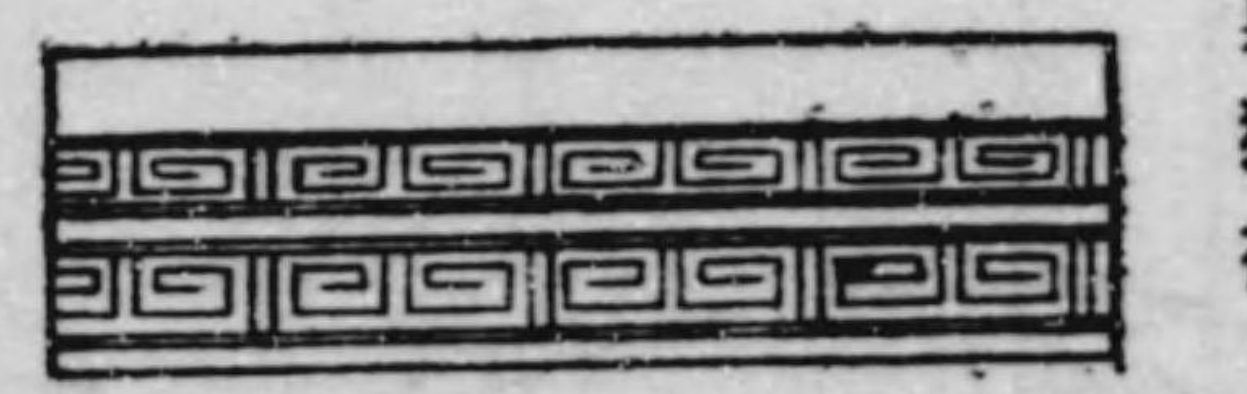
看守部長
看守



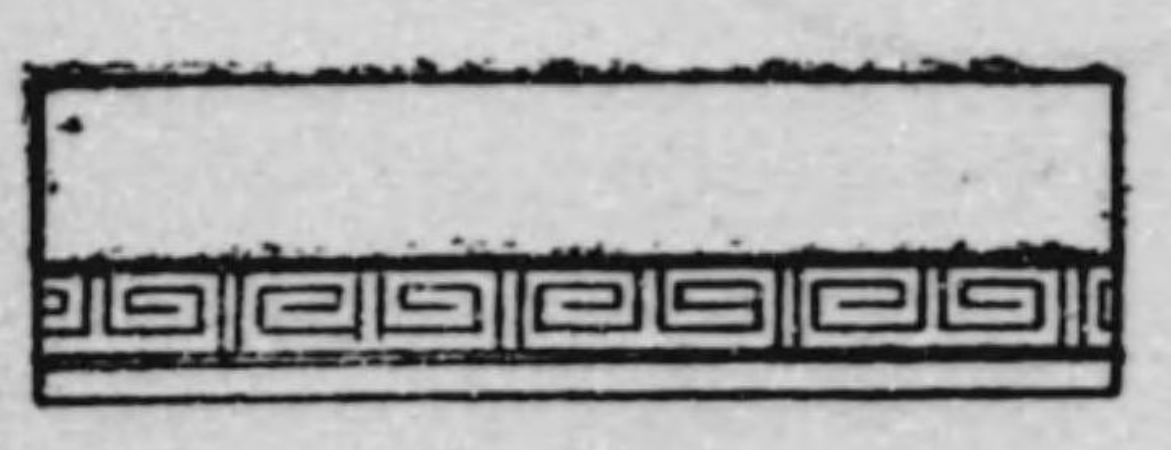
典獄



典獄補

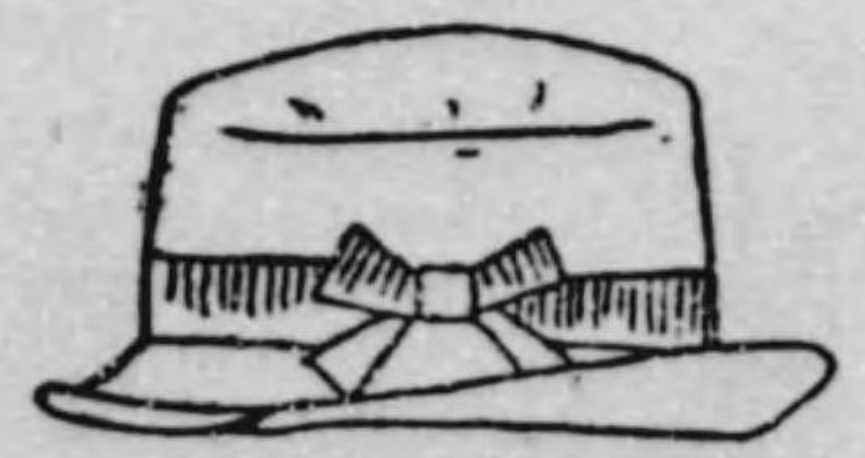


看守長（男）

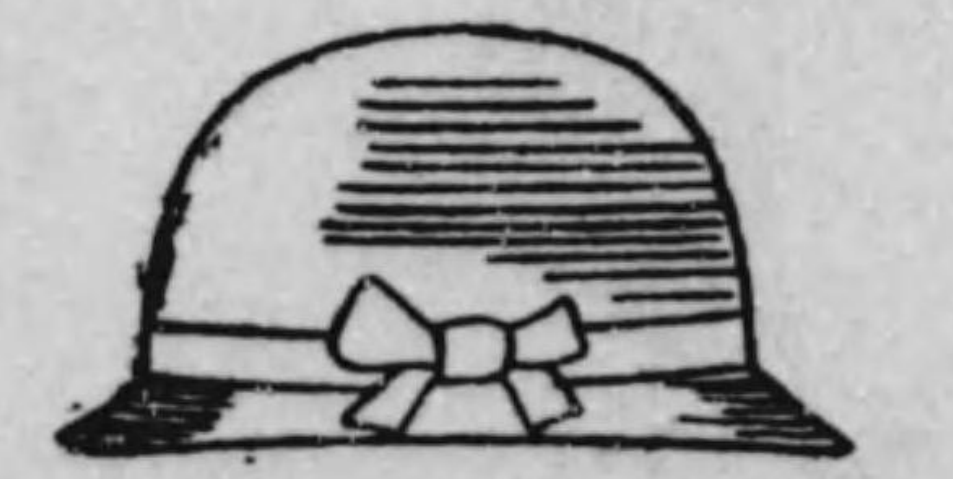


帽

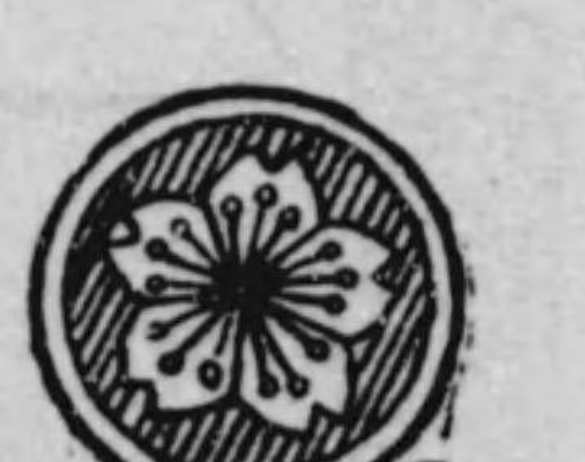
看守長（女）

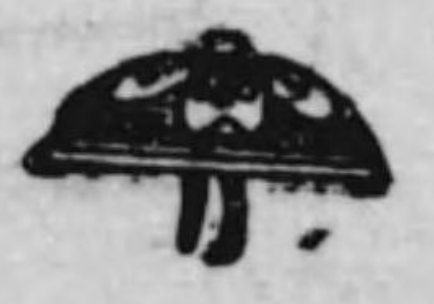


夏帽



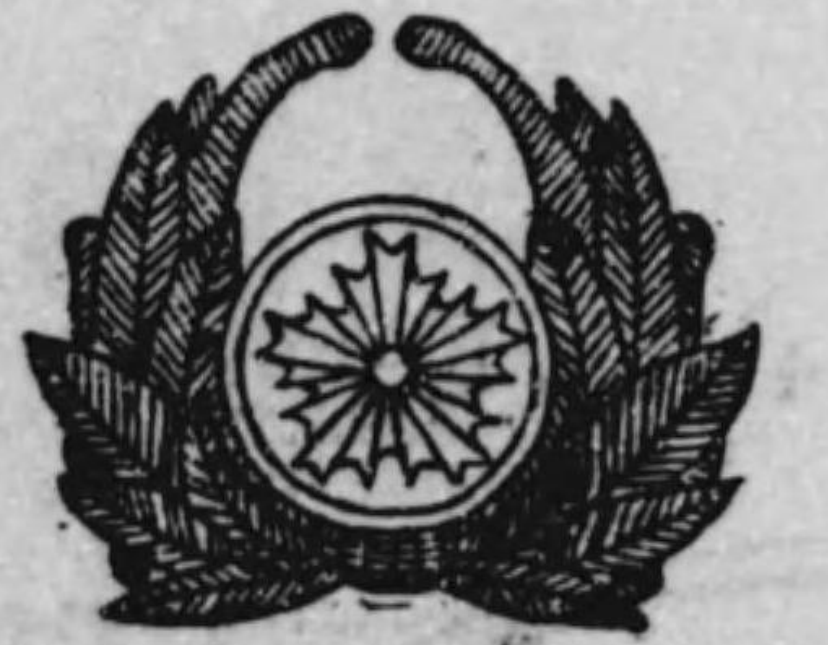
ボタン



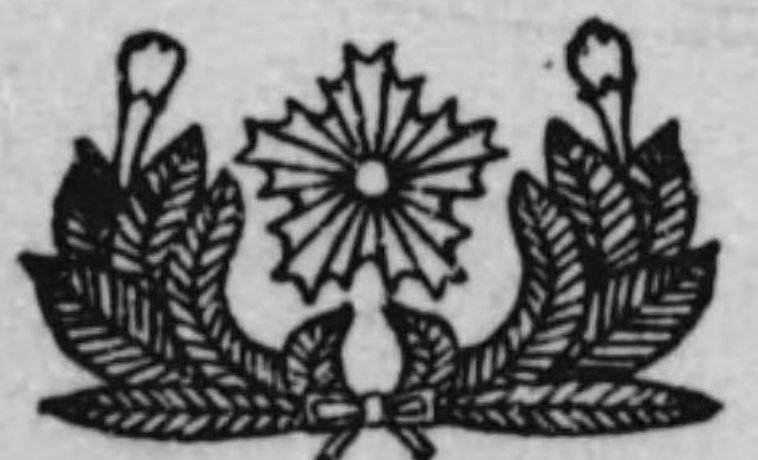


徽章

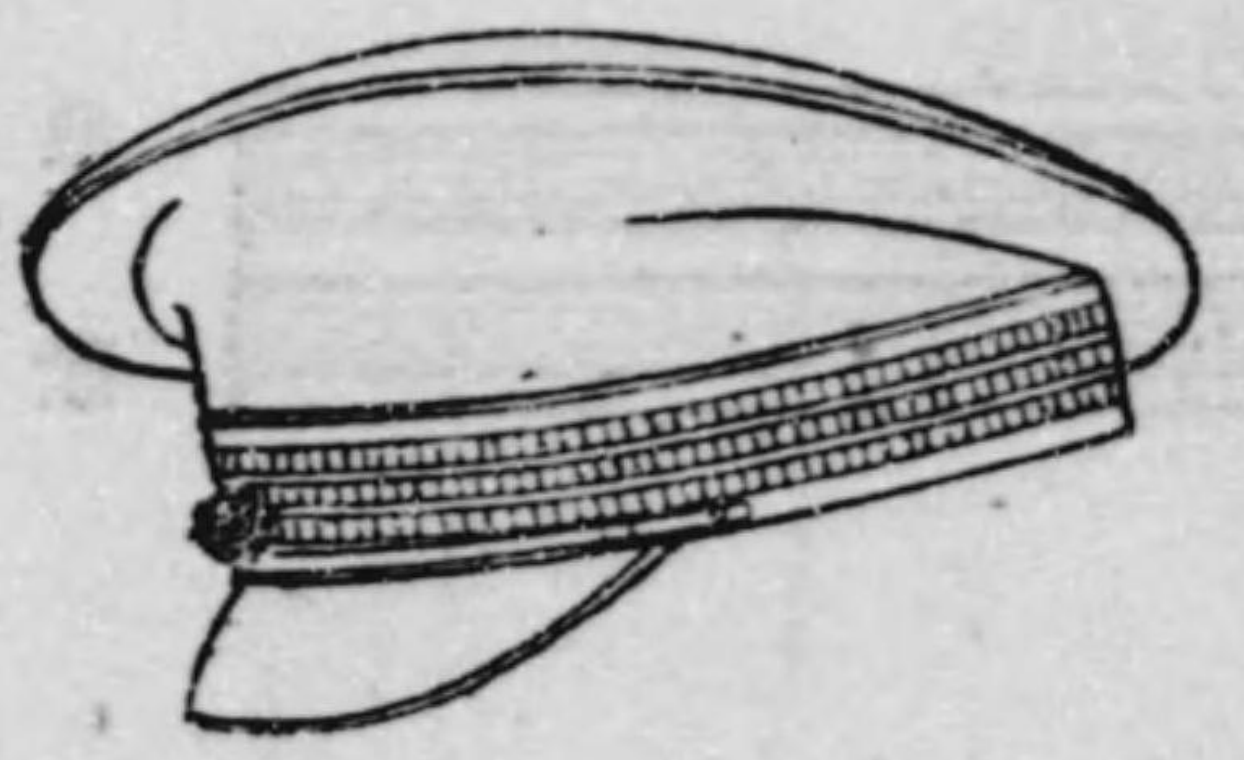
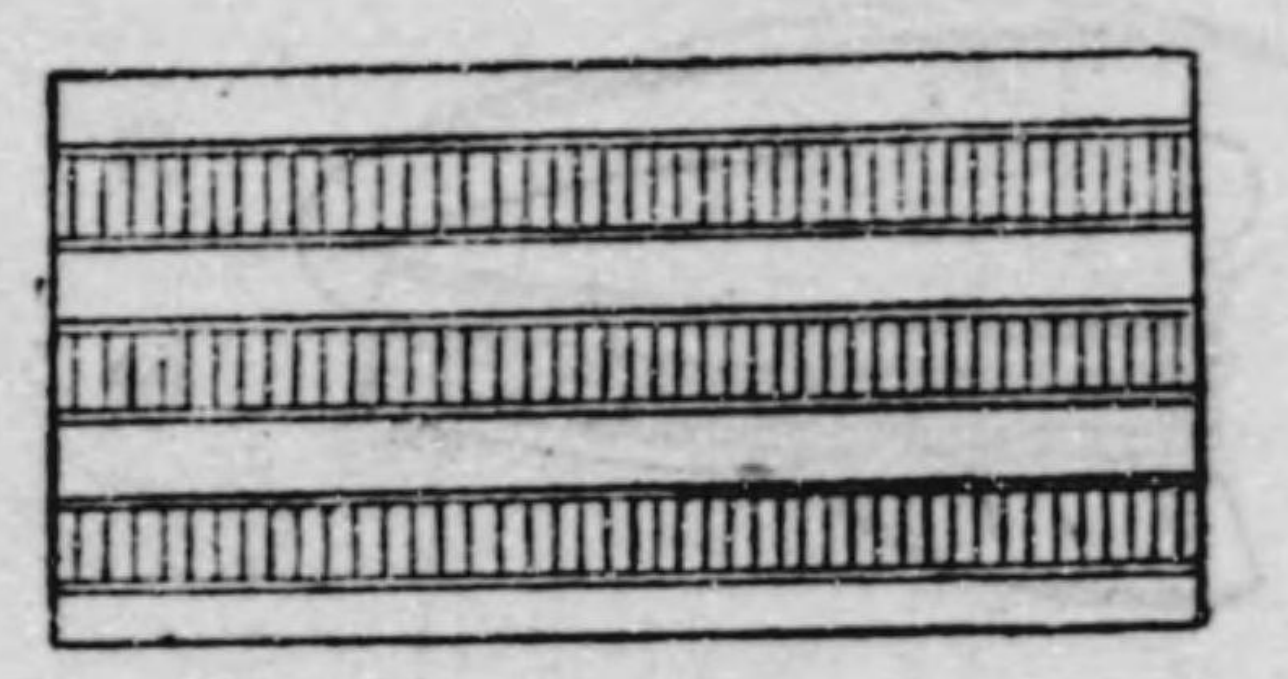
典獄
典獄補
看守長（男）

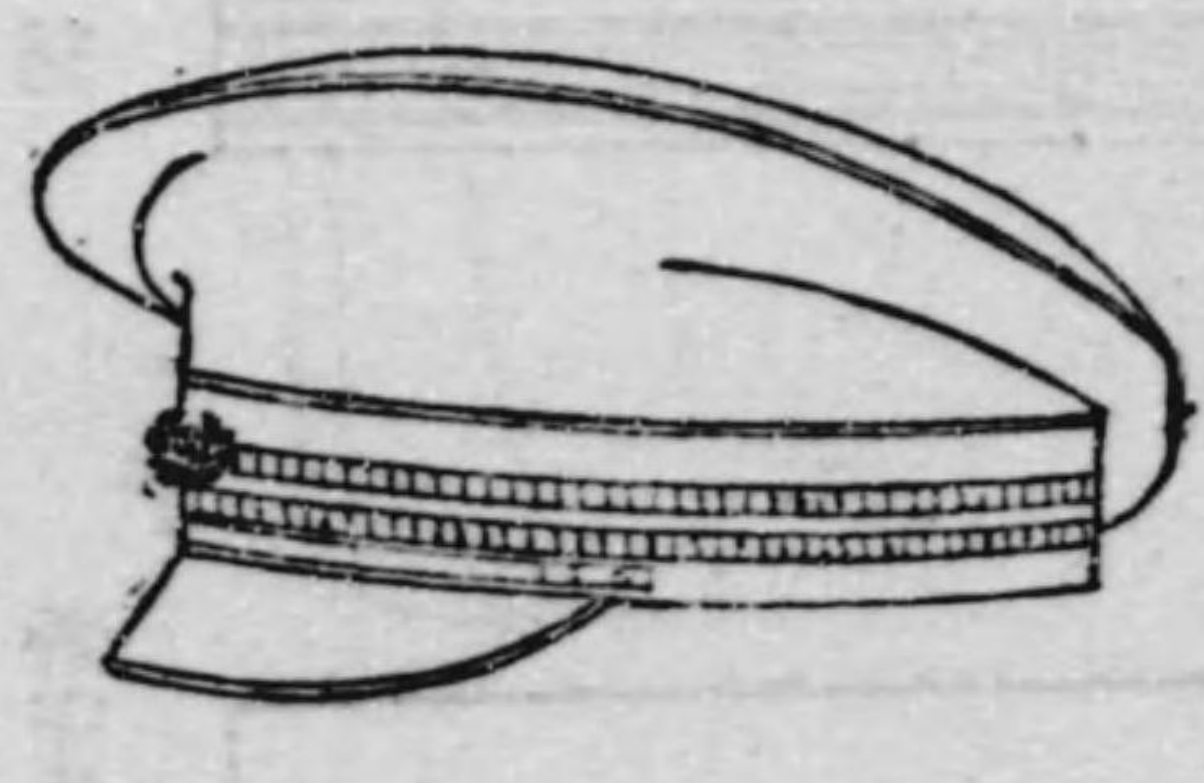
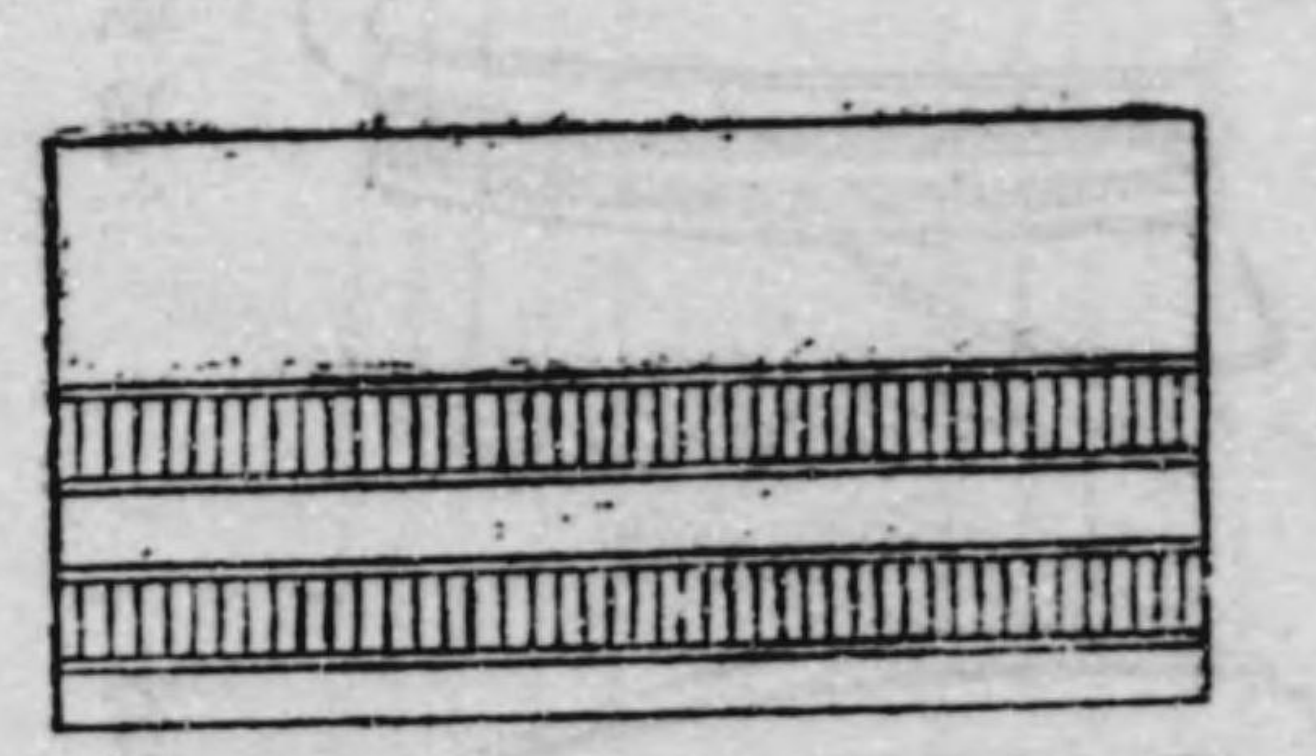


看守部長
看守

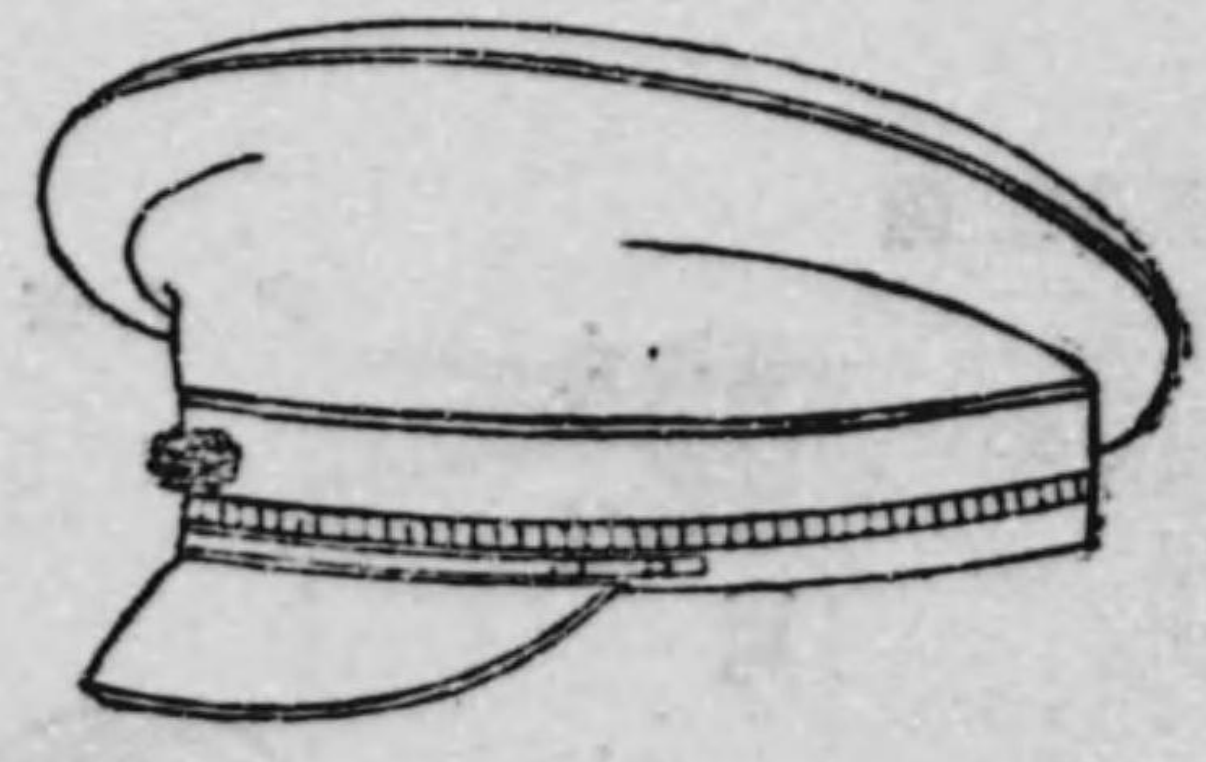
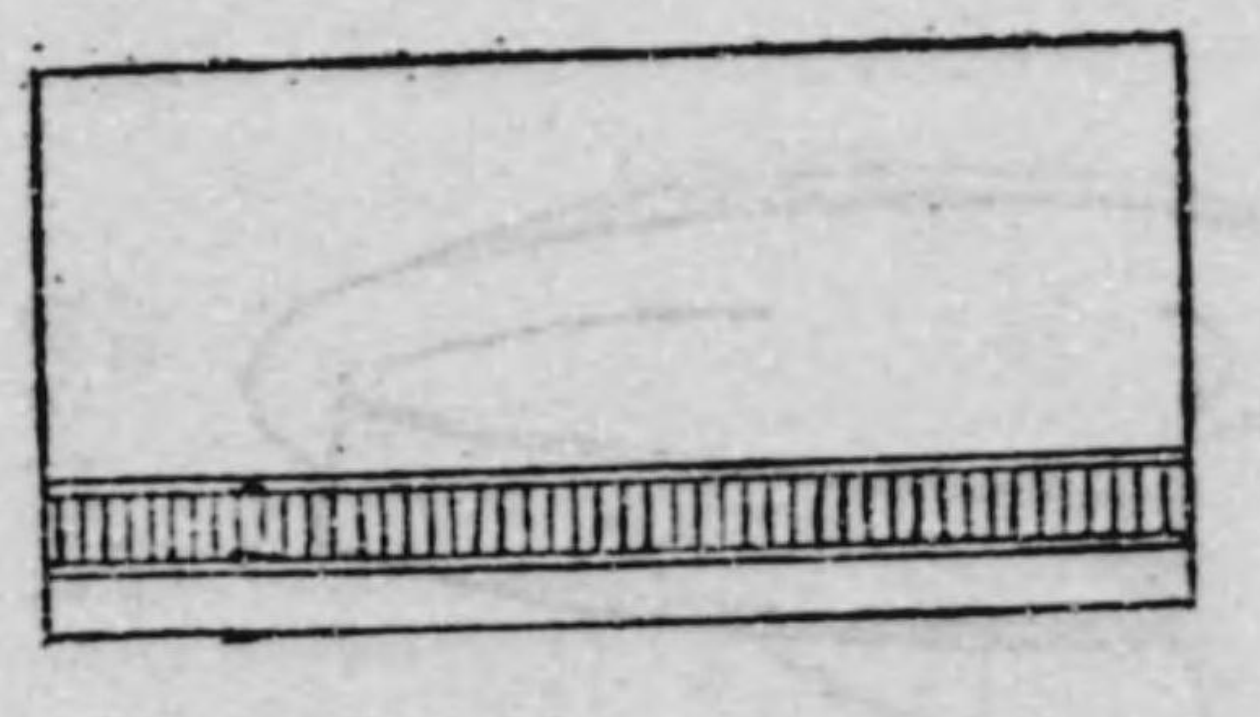


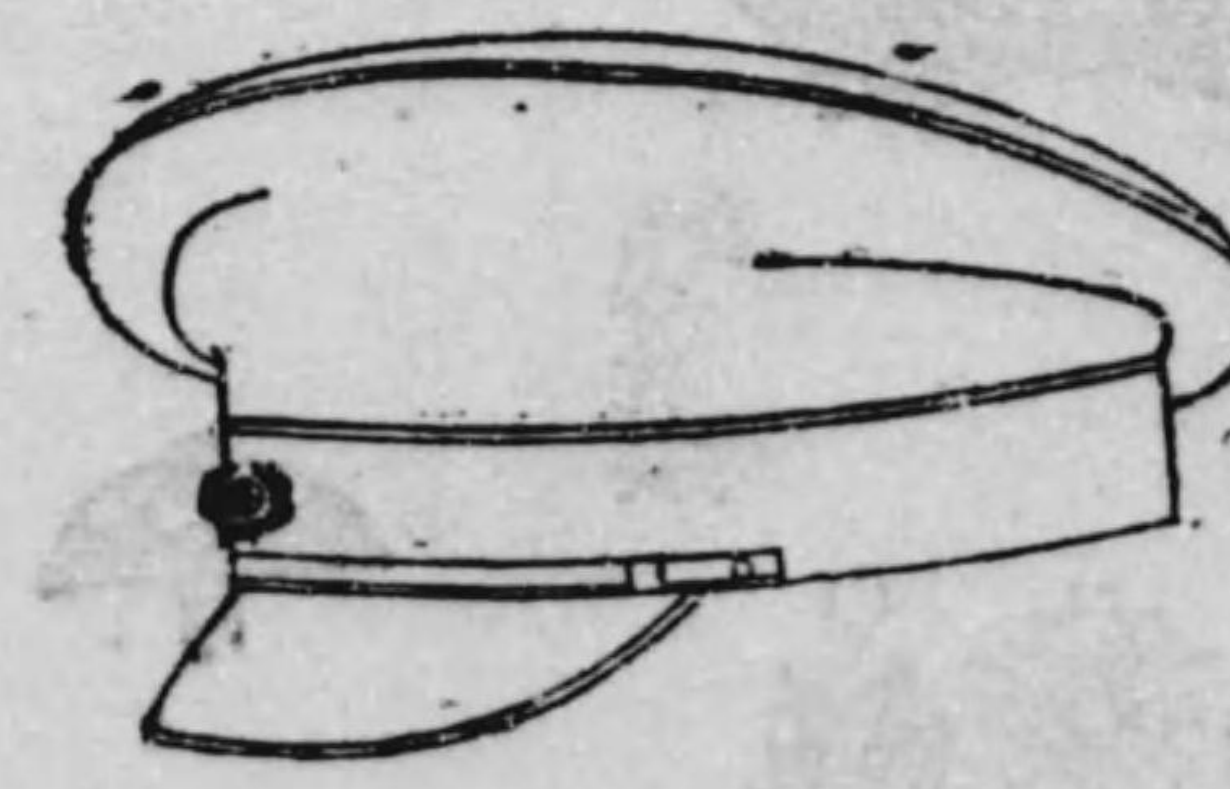
略帽



典獄

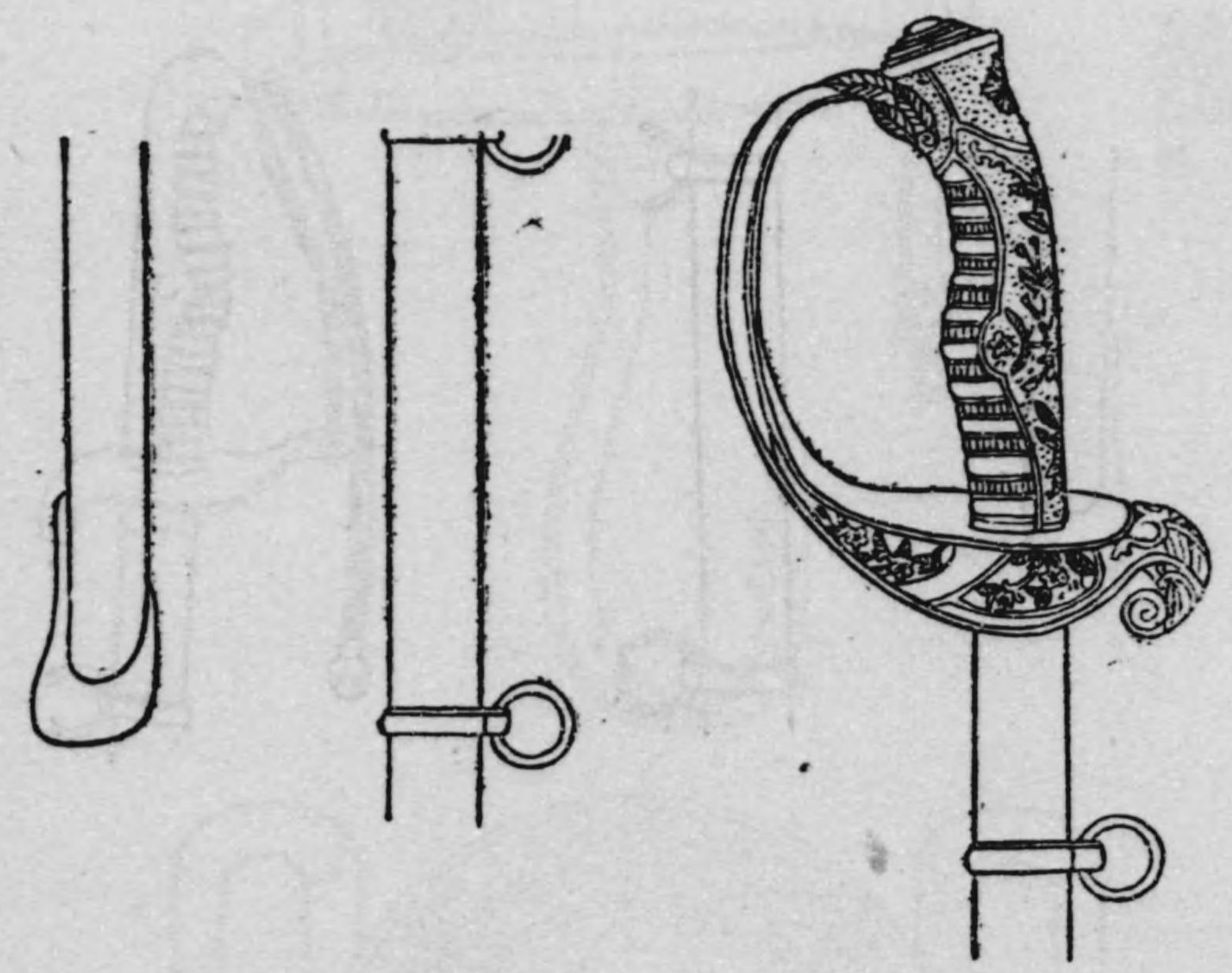


典獄補

【參考】

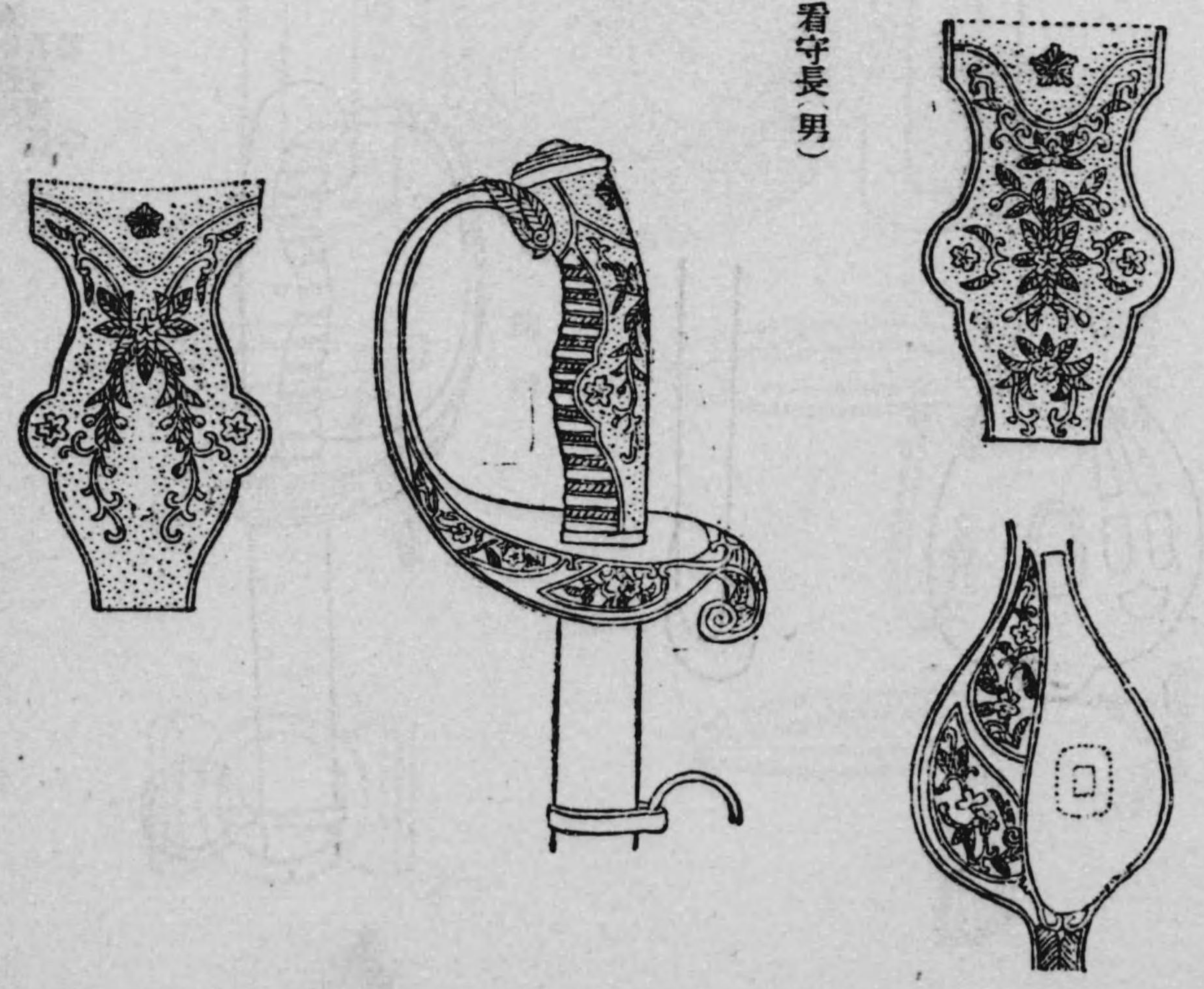


看守長（男）


看守部長
看守

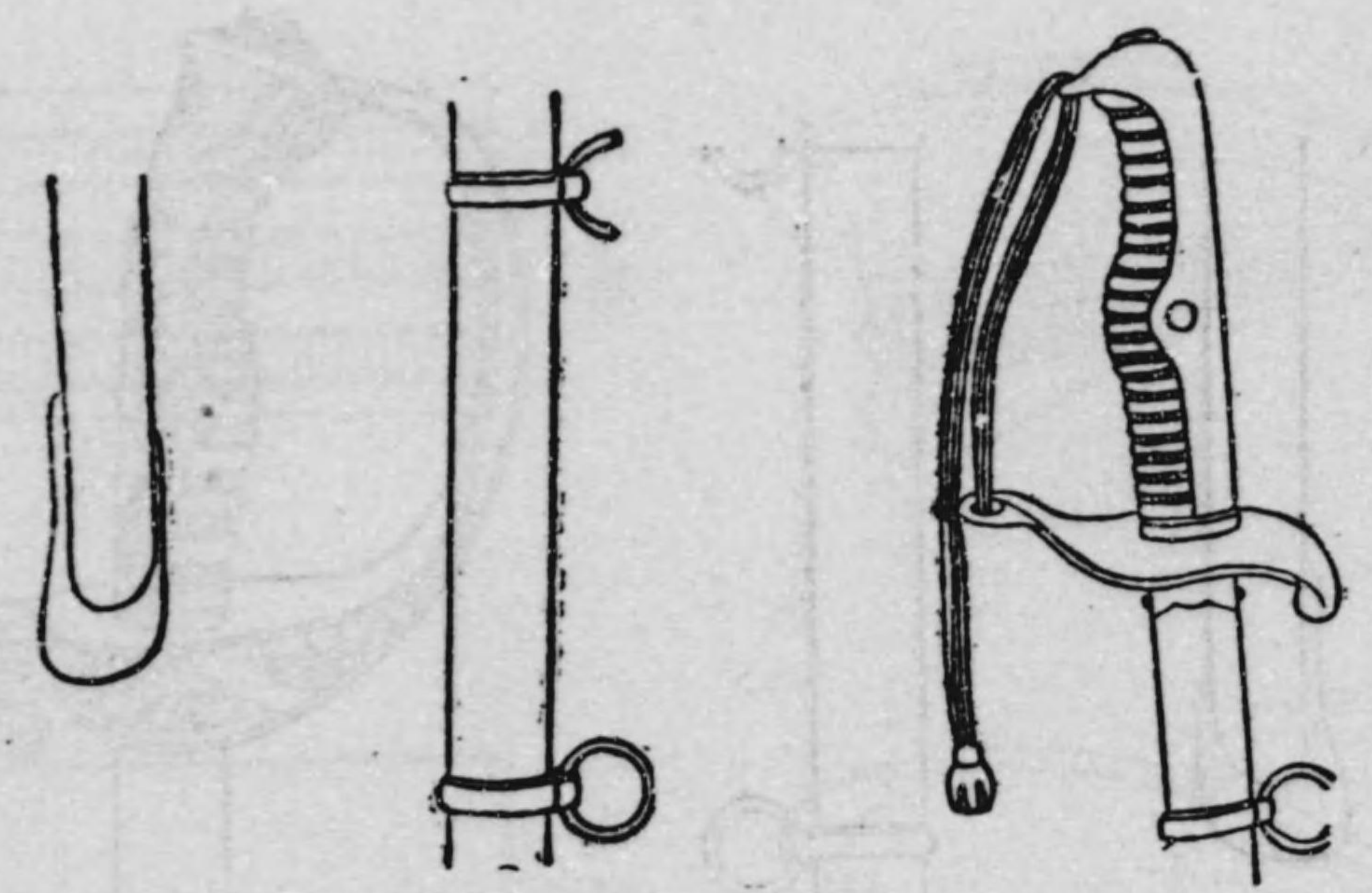
刀


典獄
典獄補

【參考】

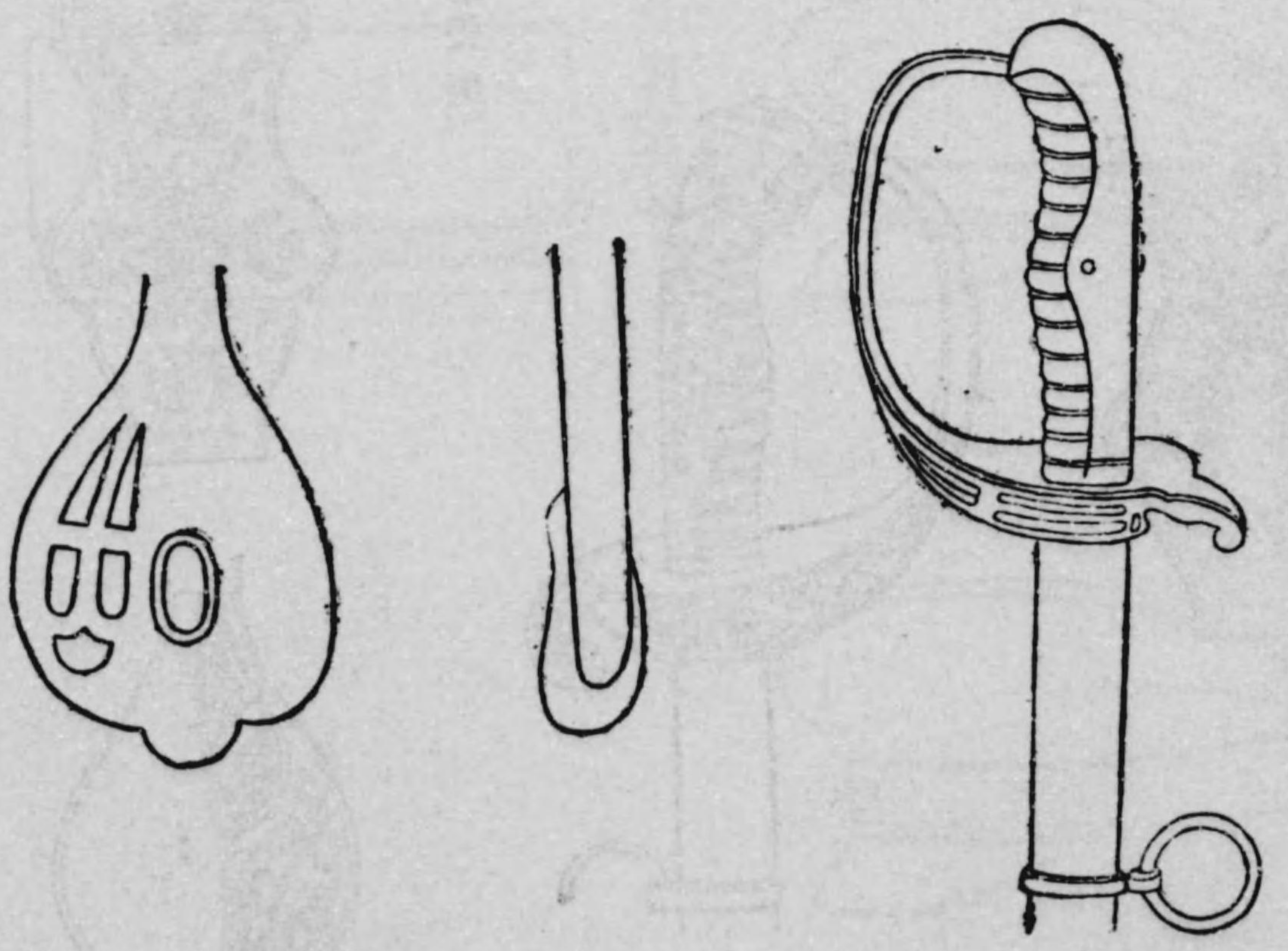

看守長（男）

看守部長
看守



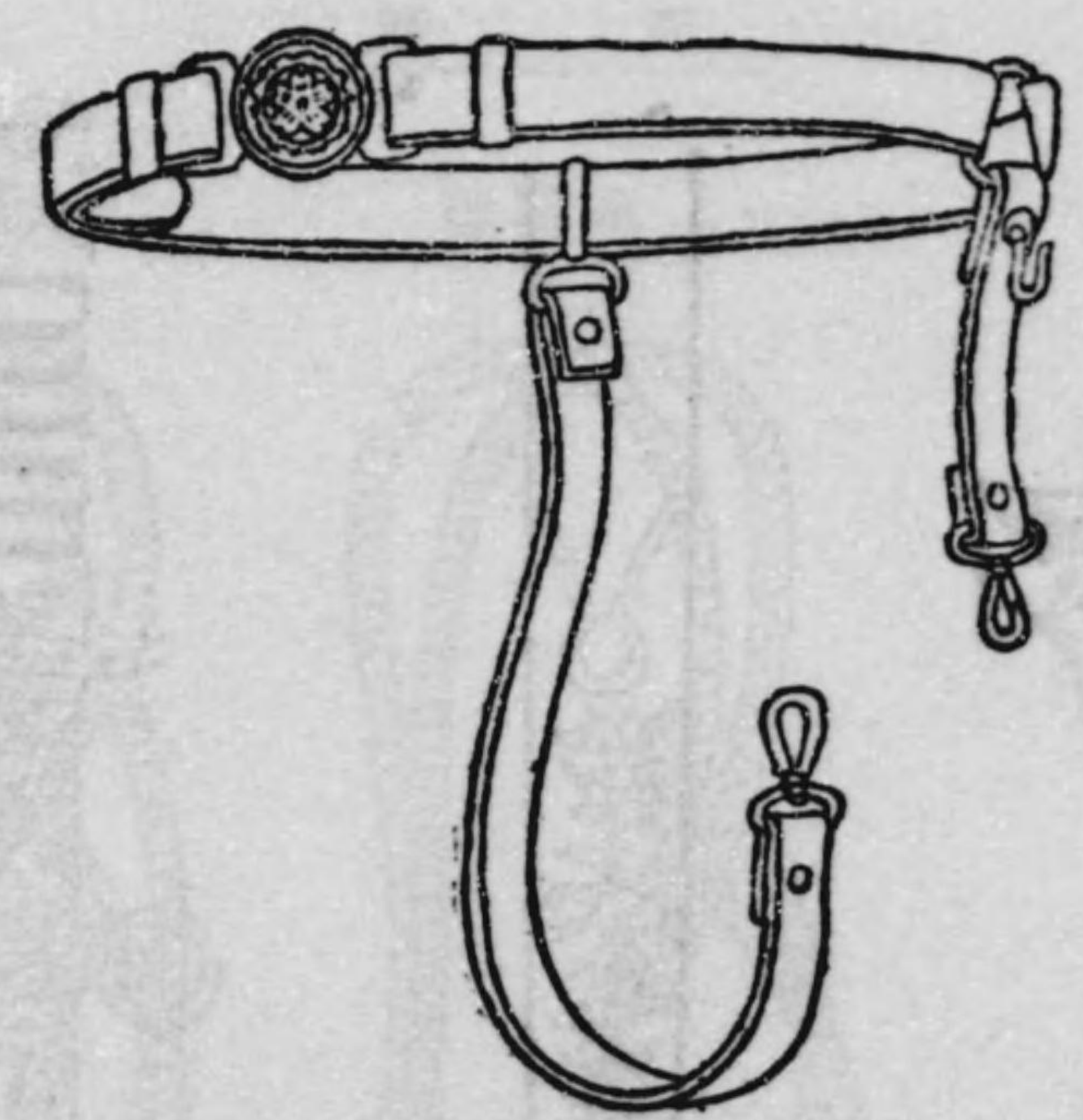
〔差替〕

乘馬勤務看守部長
看守

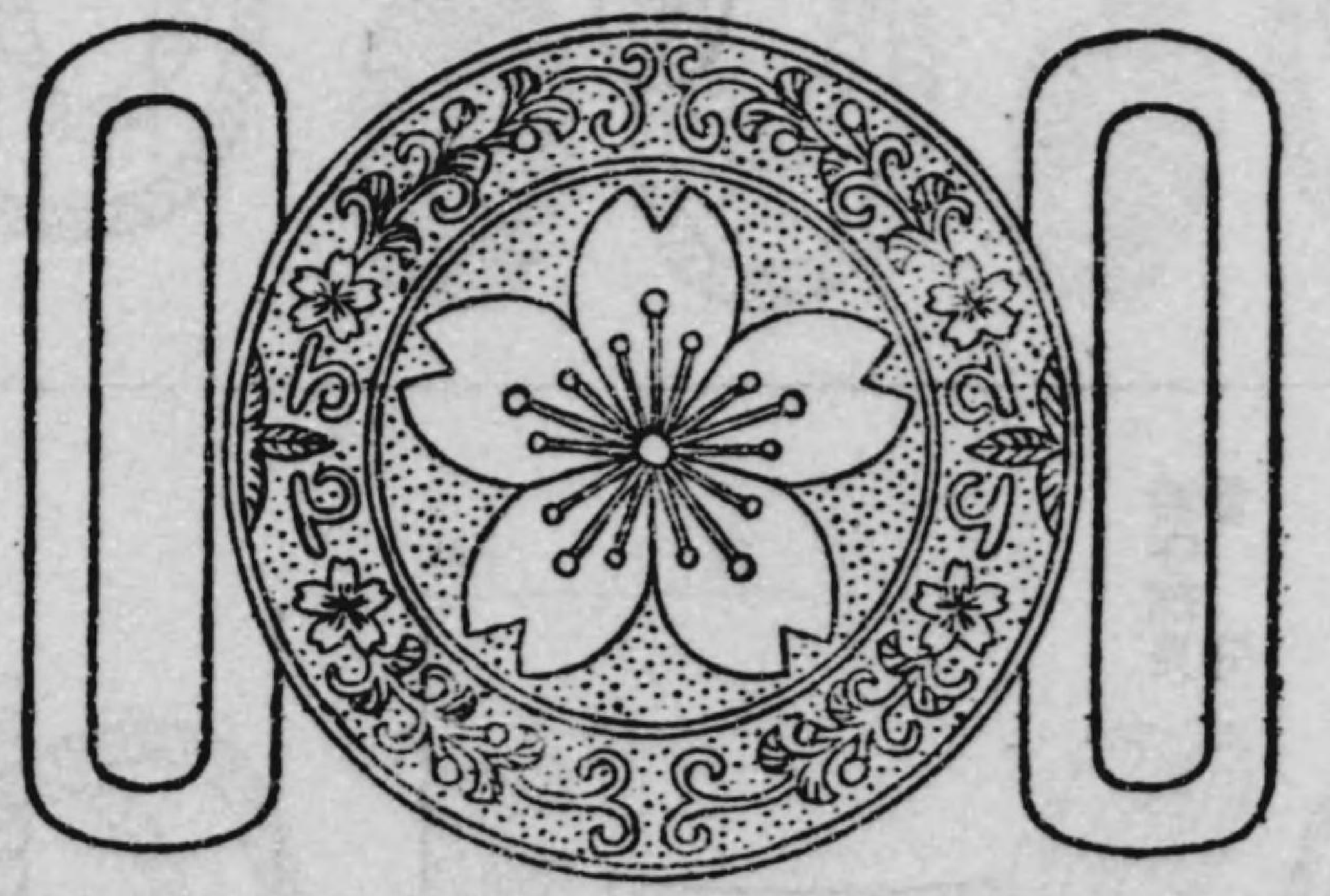


刀帶

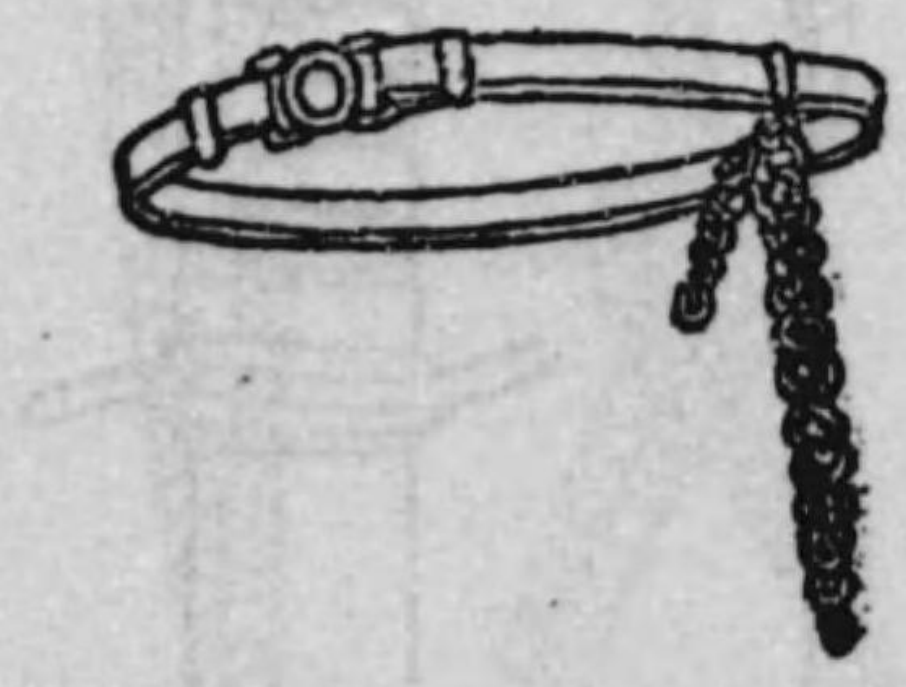
典獄
典獄補
看守長（男）



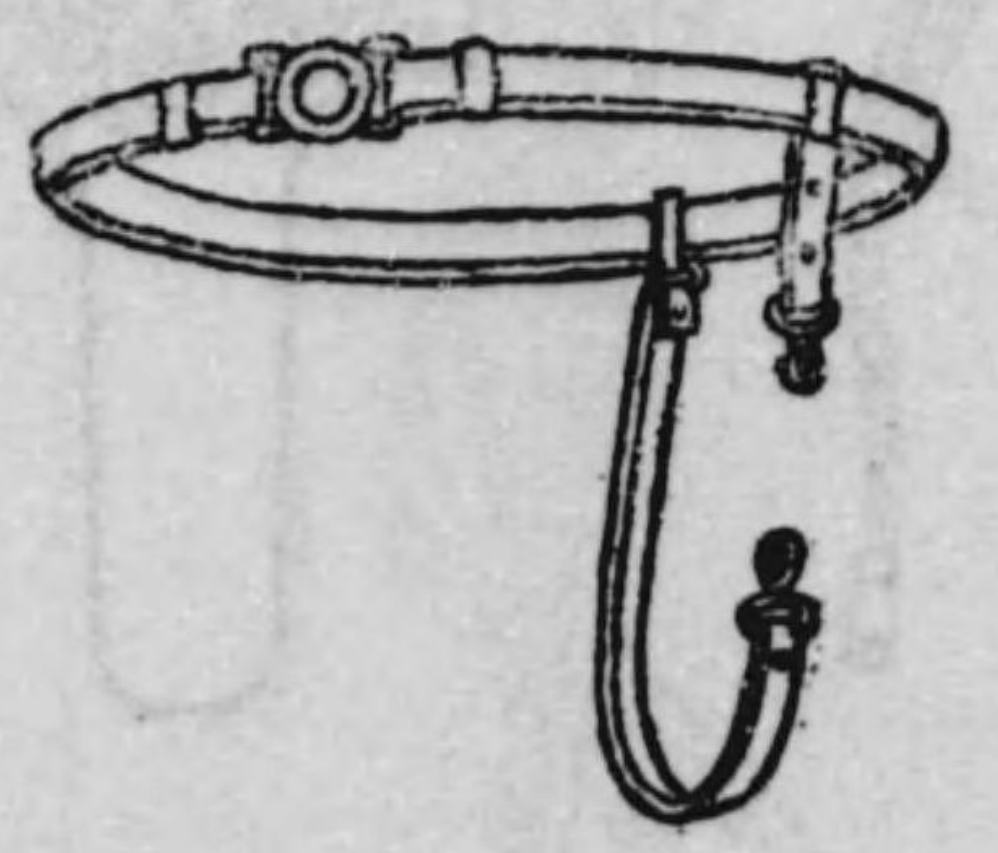
〔差替〕



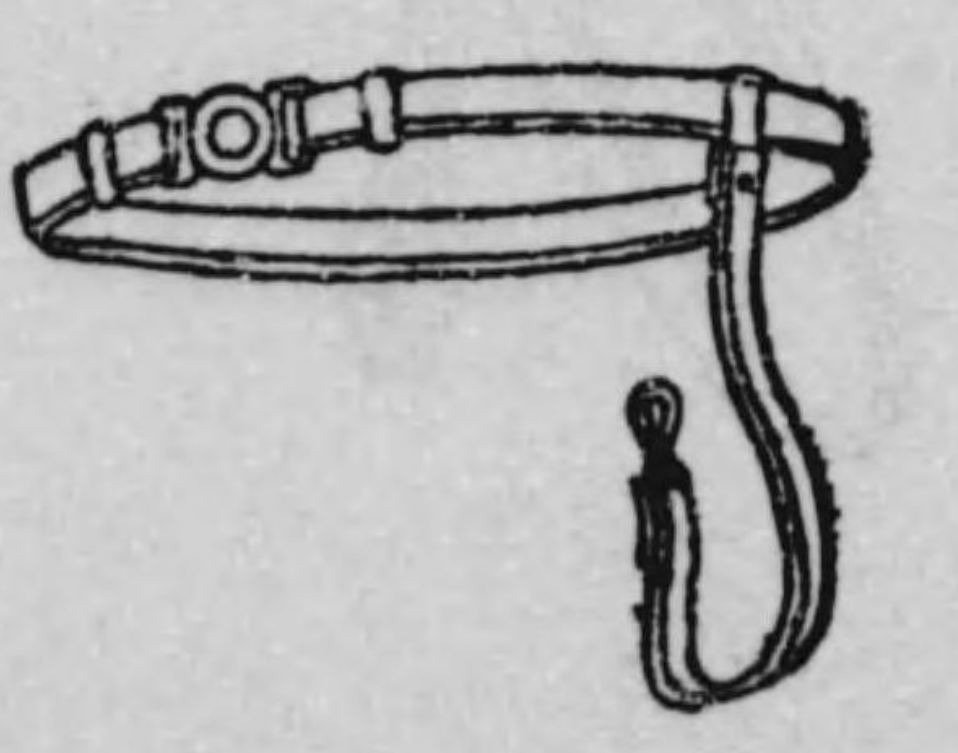
鉤鎖



看守部長
看守

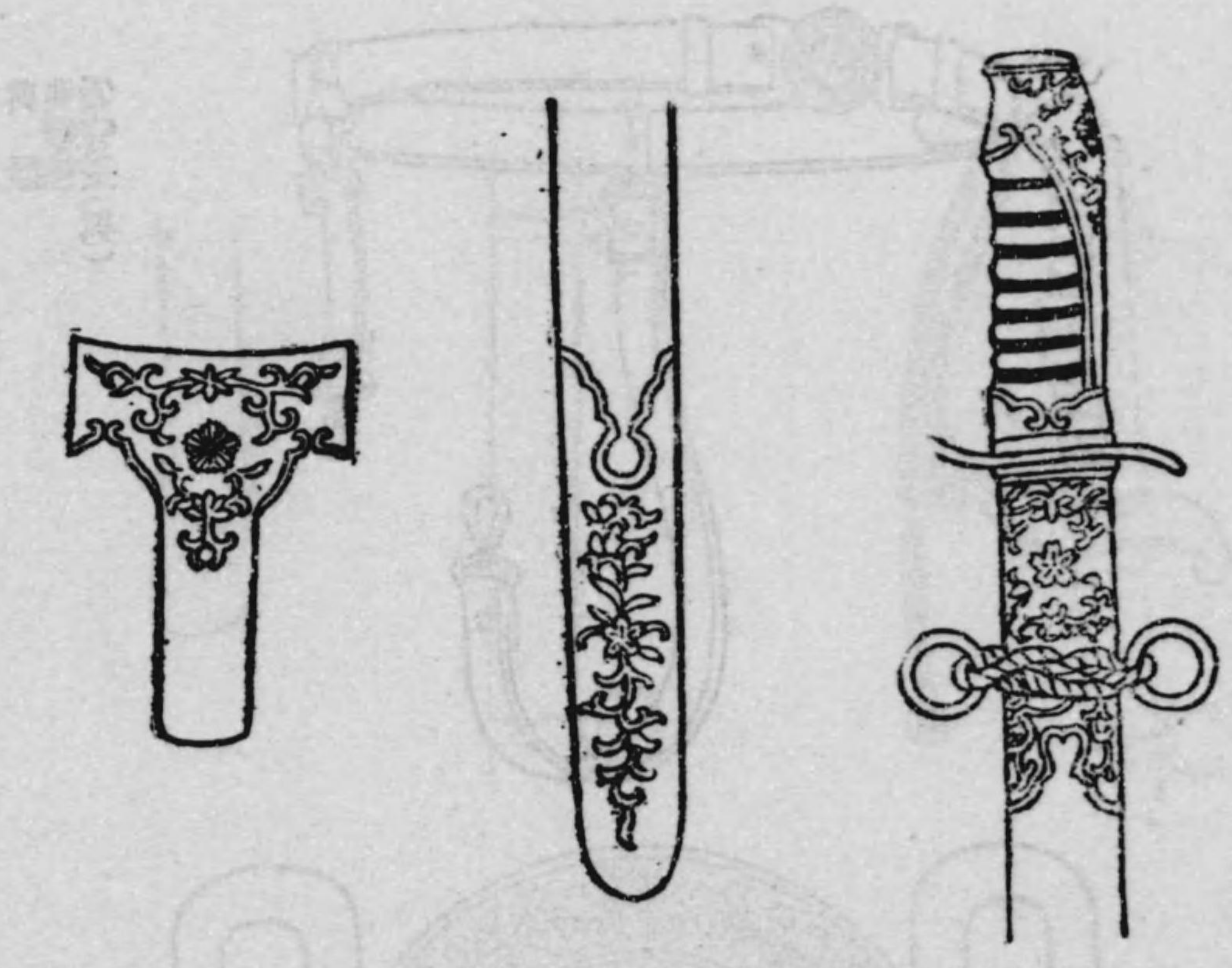


乘馬勤務看守部長
看守

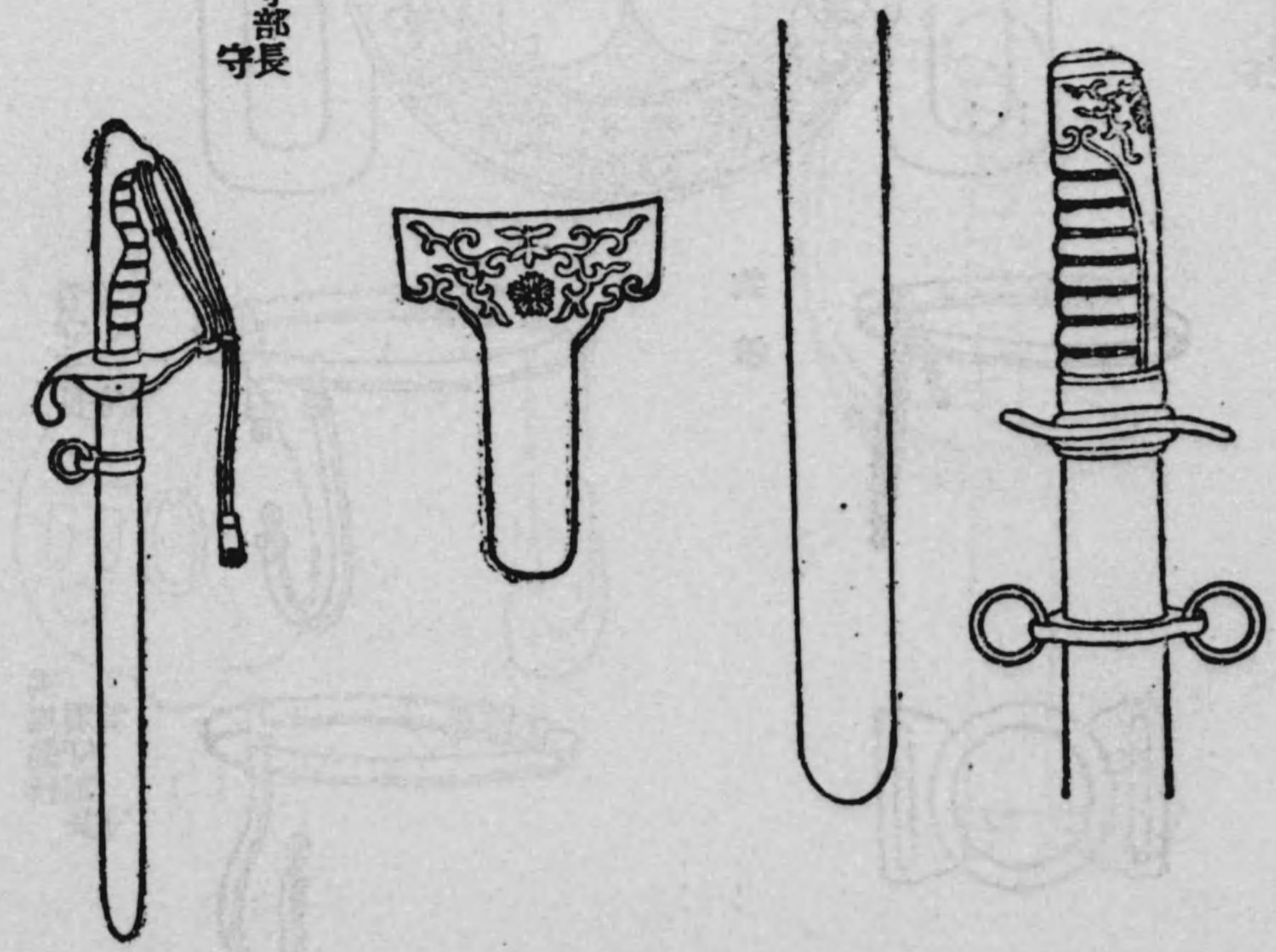


短刀

典獄
典獄補



看守長（男）

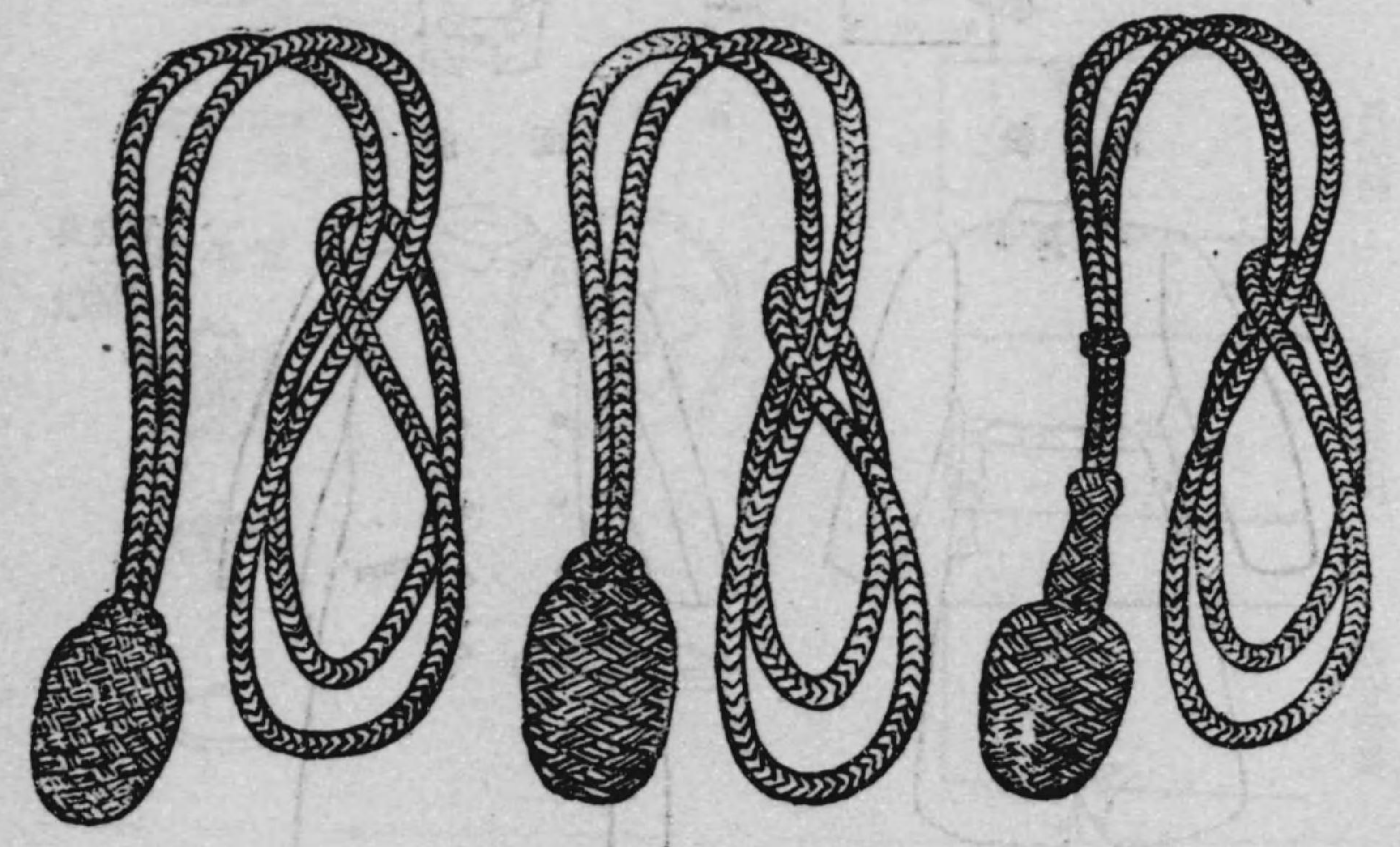


看守部長
看守

刀緒

正緒

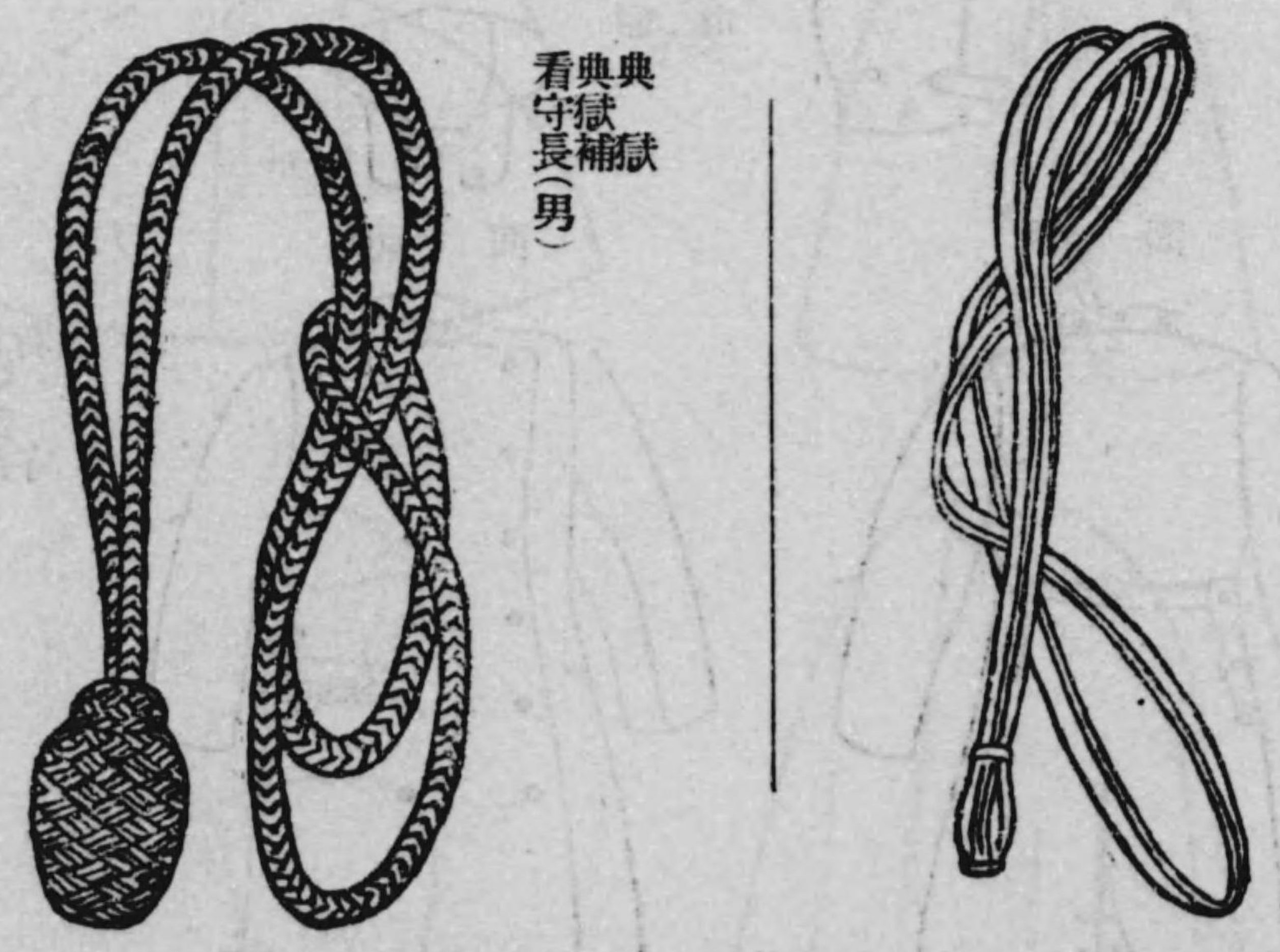
典獄　典獄補　看守長（男）



常緒

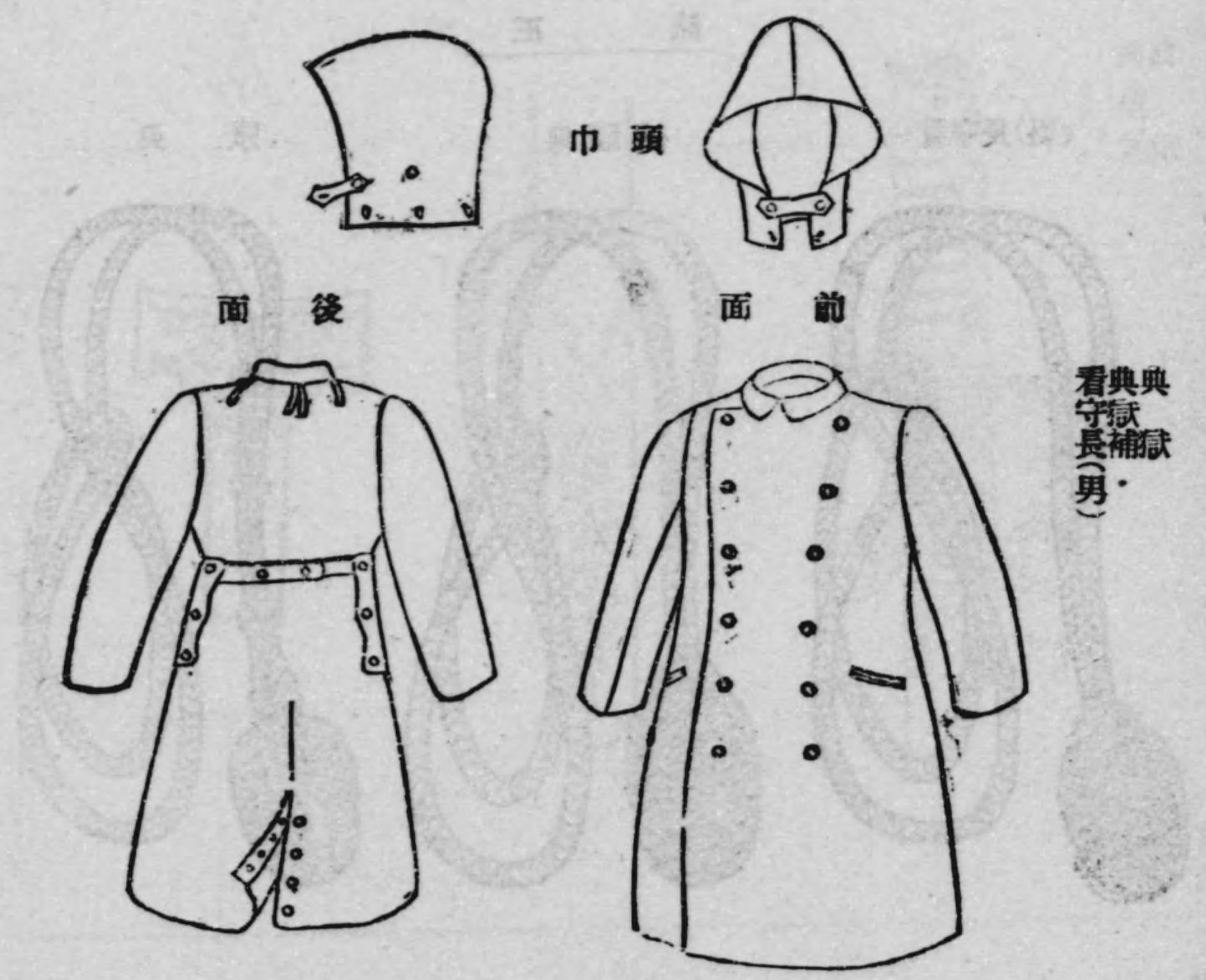
看守部長
看守

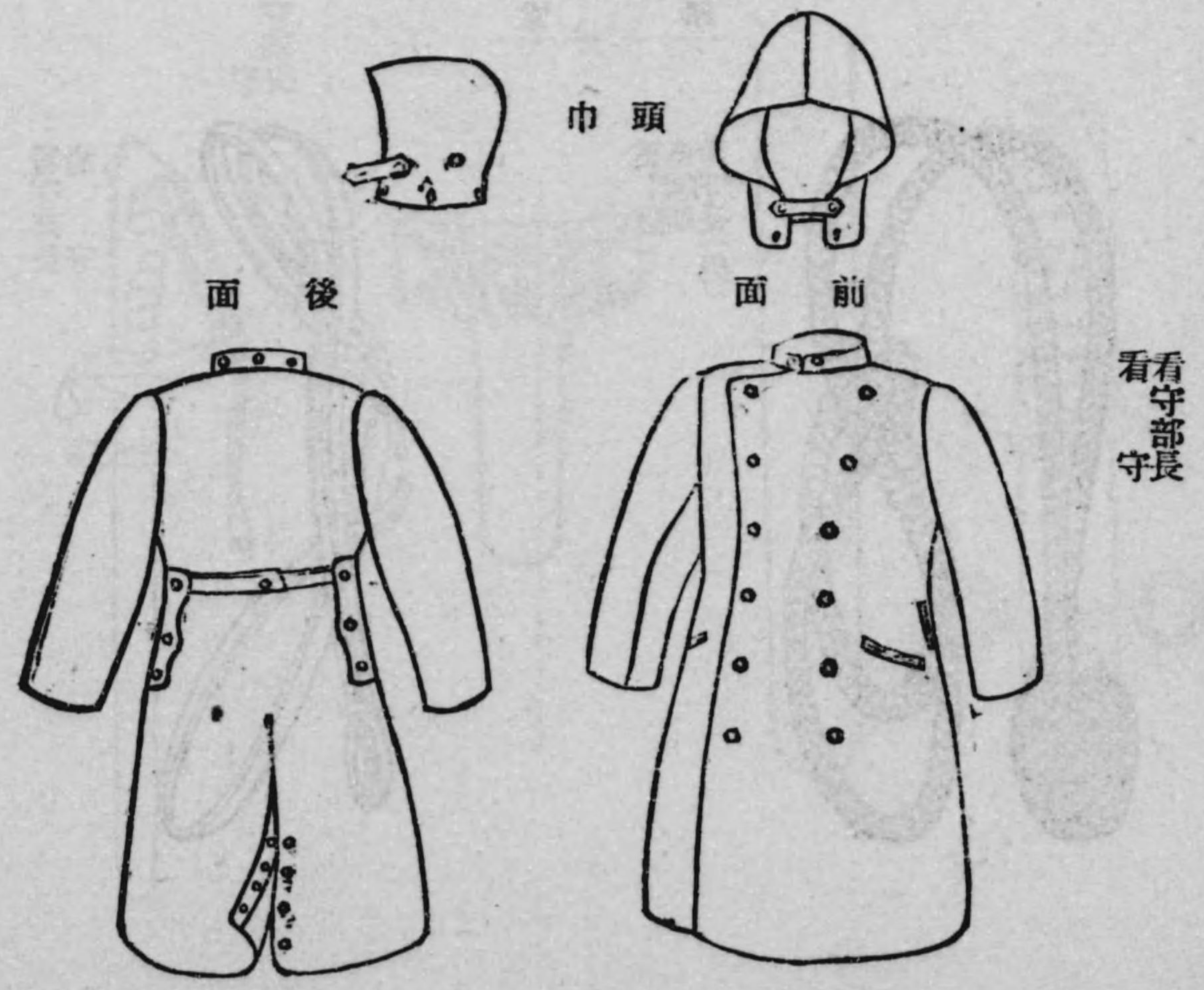
典獄
典獄補
看守長（男）



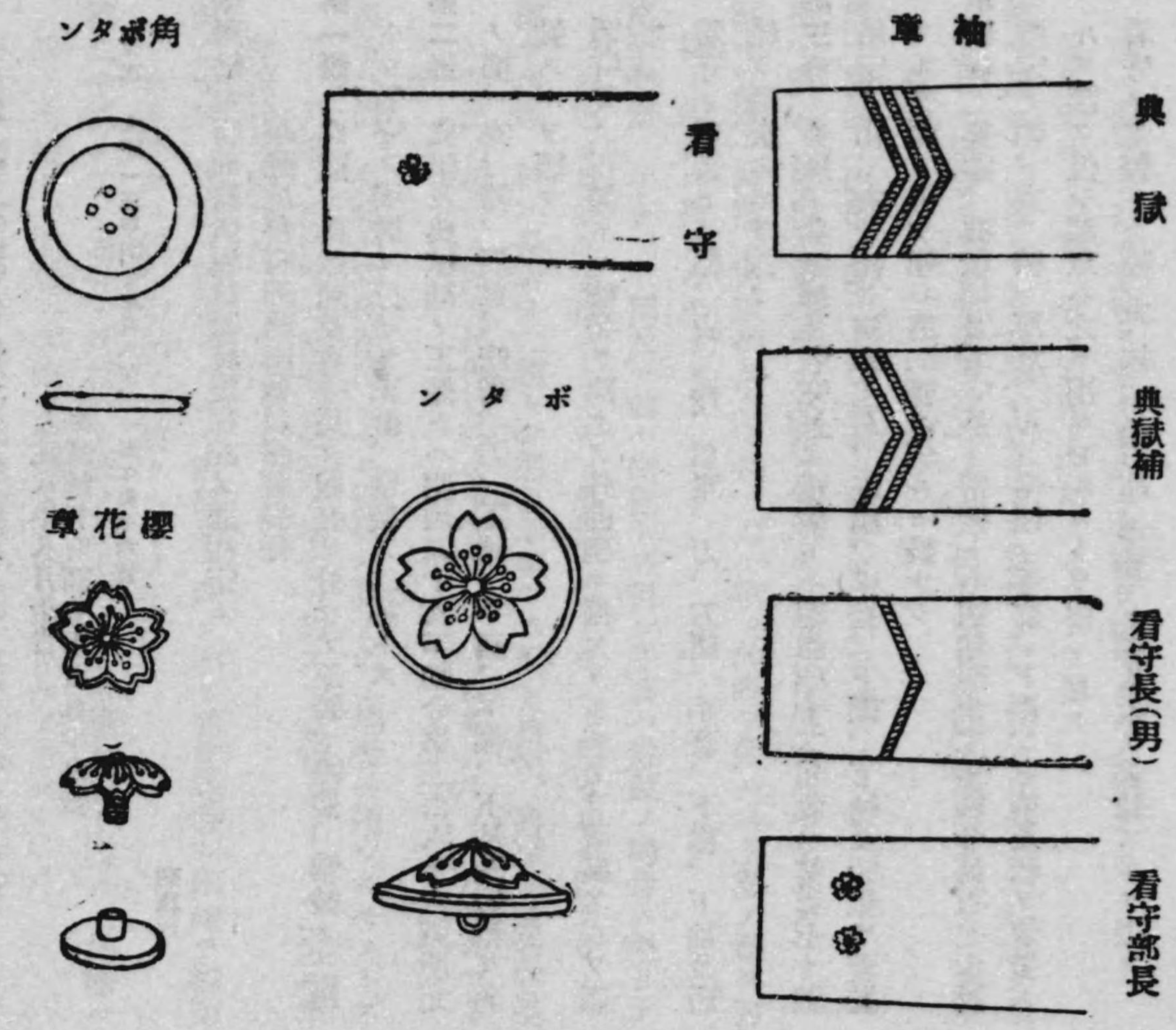
外套

甲種


頭巾
後面
前面
典獄
典獄補
看守長（男）

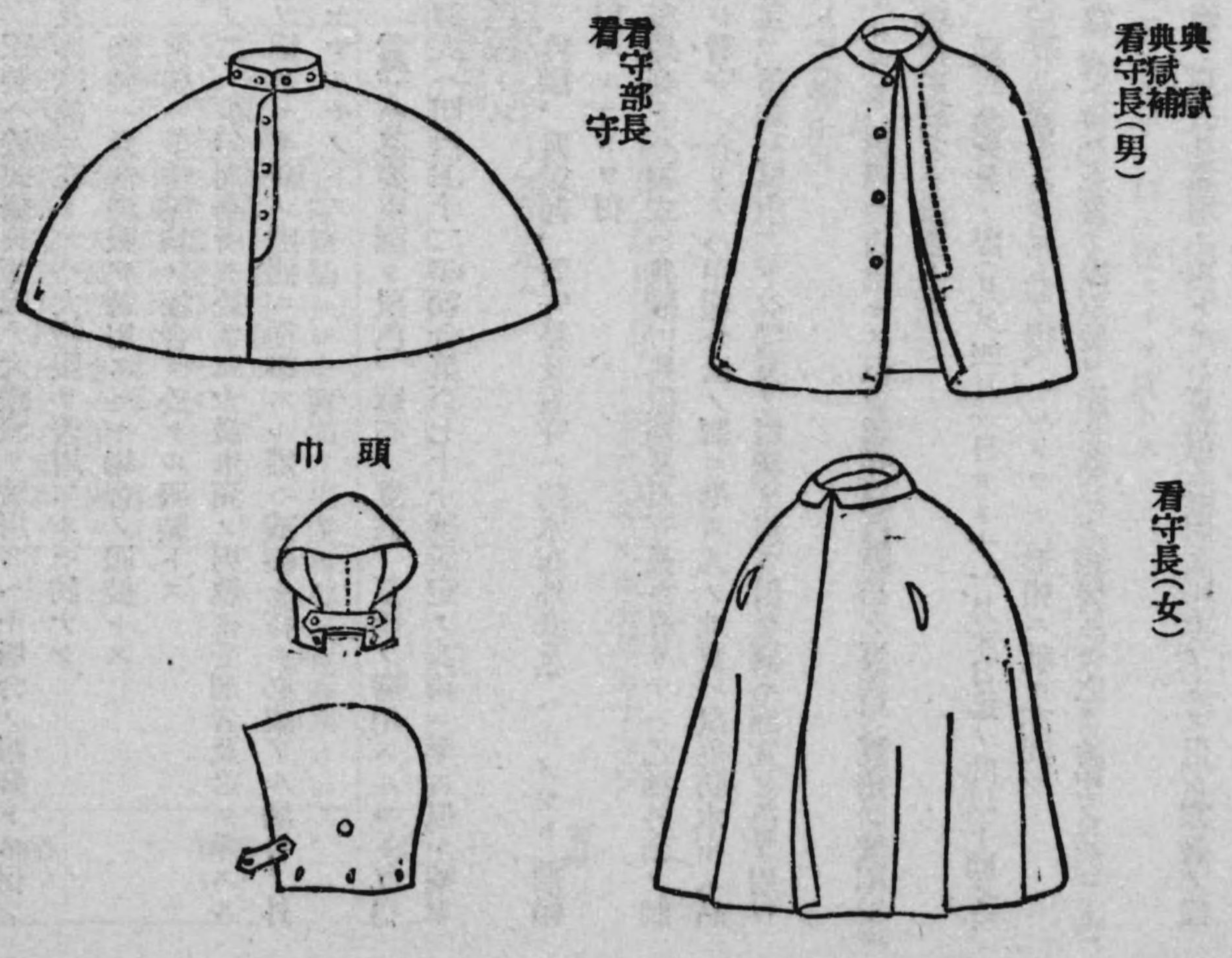

頭巾
後面
前面
看守部長
看守

〔臺灣〕


袖章
典獄
典獄補
看守長（男）
看守部長
看守
ボタン
角ボタン
櫻花章

〔臺灣〕

乙種


典獄
典獄補
看守長（男）
看守部長
看守
看守長（女）
頭巾

●臺灣總督府刑務所職員服裝規程

大正八年八月十日
臺灣總督府訓令第百五十九號
刑務所

改正 大正一三年訓令第九八號、一五年第七六號

臺灣總督府刑務所職員服裝規程左ノ通相定ム

臺灣總督府刑務所職員服裝規程

第一條 典獄、典獄補及看守長ノ服裝ヲ分チテ正裝、禮裝、常裝ノ三種トシ看守ノ服裝ヲ分チテ正裝、常裝ノ二種トス

第二條 典獄及典獄補ノ正裝トハ明治二十九年勅令第三百六十六號所定ノ帽、衣、袴、肩章、飾帶、刀、正緒、手套、下襟、下袖及短靴ヲ著裝スルヲ謂フ

看守長ノ正裝トハ飾帶ヲ除クノ外前項ニ揭ケタルモノヲ著裝スルヲ謂フ

看守ノ正裝トハ帽、衣、袴、肩章、刀、刀緒、手套、下襟、下袖及短靴ヲ著裝スルヲ謂フ

第三條 典獄、典獄補及看守長ノ禮裝トハ明治四十二年勅令第百七十號所定ノ帽、衣、袴、肩章、刀、正緒、手套、下襟、下袖及短靴ヲ著裝スルヲ謂フ但シ帽ハ第二條ニ依ルモ妨ナシ

第四條 典獄、典獄補及看守長ノ常裝トハ明治四十二年勅令第百七十號所定ノ帽、衣、袴、肩章、刀、常緒、手套、下襟、下袖及靴ヲ著裝スルヲ謂フ但シ肩章ハ之ヲ用ヰサルコトヲ得

看守ノ常裝トハ帽、衣、袴、刀、刀緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ謂フ

第五條 正裝ハ儀式祭典等總テ大禮服ヲ著用スヘキ場合ノ服裝トス但シ典獄及典獄補ニ在リテハ大禮服ヲ著用スルモ妨ナシ

第六條 禮裝ハ通常禮服ヲ著用スヘキ場合ノ服裝トス

第七條 常裝ハ平常勤務ノ場合ニ於ケル服裝トス

第七條ノ二 少年刑務所ニ於テ二十歲未滿ノ男懲役受刑者及之ニ準スル處遇ヲ爲スヘキ者ノ處遇ニ從事スル際ハ戒護上特ニ必要アル場合ノ外帶劍セサルモノトス

第八條 看守ハ必要ニ應シ鼠色、麻布ノ夏衣、夏袴ヲ著用スルコトヲ得其ノ製式ハ明治四十二年勅令第百七十一號所定ノ衣袴ニ準ス但シ袖章ハ鼠色線トス

第九條 典獄、典獄補、看守長及看守ハ防水布外套及「ヘルメツト」形帽ヲ著用スルコトヲ得

防水布外套トハ製式ハ典獄、典獄補及看守長ニ在リテハ乙種外套ノ制ニ準シ看守、ニ在リテハ甲種外套ノ制ニ準ス其ノ地質ハ鼠色防水布（品質適宜、角釦ハ鼠色）トシ同質ノ雨覆ヲ附ス但シ裏ハ適宜ノ色ヲ用ウルコトヲ得

「ヘルメツト」形帽ハ白色トス但シ看守鼠色麻布ノ夏衣、夏袴ヲ著用シタル場合ニ於テハ鼠色トス

第十條 夏衣ハ炎暑ノ際（凡ソ四月一日ヨリ十一月末日迄ノ間以下同シ）常裝ニ限リ著用スルコトヲ得「ヘルメツト」形帽ニ就キ亦同シ

第十一條 夏袴ハ炎暑ノ際正裝ヲ除キ孰レノ服裝ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第十二條 夏衣ヲ著用スルトキハ夏袴ヲ著用スルモノトス但シ寒暑ノ程度ニ應シ多衣ニ夏袴ヲ若ハ夏衣ニ多袴ヲ混用スルモ妨ナシ

鼠色麻布ノ衣袴ハ他ノ衣袴ト混用スルコトヲ得ス

第十三條 甲種及乙種外套ハ防水又ハ防寒ノ爲、防水布外套ハ防水ノ爲孰レモ室外ニ於テ著用スルモノトス但シ儀式典禮ノ場所ニ於テハ著用スルコトヲ得ス

第十四條 雨覆ハ防水ノ爲外套ニ附著シテ用ウルモノトス

第十五條 日覆ハ夏衣又ハ夏袴ヲ著用スル場合ニ用ウルモノトス

第十六條 典獄、典獄補及看守長ノ刀ハ室ノ內外ヲ問ハス上部ノ鐶ヲ刀帶ノ釣金ニ掛クルモノトス

第十七條 手套、下襟及下袖ハ白色トス但シ手套ハ常裝ノ場合ニ在リテハ白色ノ夏衣ヲ著用スルトキノ外他ノ色ノモノヲ用ウルモ妨ナシ

第十八條 靴ハ長短ノ二種トシ黑色革製トス但シ典獄、典獄補及看守長ハ常裝ノ場合ニ限リ黑色以外ノ革若ハ「ズツク」製ノモノヲ用ウルコトヲ得

第十九條 長靴ハ降雨泥濘ノトキ短靴ハ其ノ他ノ場合ニ用ウルモノトス但シ長途ノ旅行又ハ戒護上必要ノ場合ニ於テハ短靴「ゲートル」又ハ草鞋脚絆ヲ用ウルコトヲ得

第二十條 外套ヲ携帶スルニハ附屬品ヲ內ニ納メ適宜捲收シ兩端ヲ結束シテ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス

第二十條ノ二 看守ノ手帳ハ上衣ノ左上隱ニ呼子笛ハ右下隱ニ、捕繩ハ袴ノ右隱ニ、名刺ハ手帳ノ名刺入ニ納メ置クモノトス

甲種外套ヲ著シタルトキハ手帳及呼子笛ハ其ノ右隱ニ納メ置クモノトス

呼子笛ノ紐ハ服地ト同色ノモノヲ用ヰ隱ノ內面左上部ニ小釦ヲ附シテ之ニ掛ケ長サハ口ニ達スルヲ度トス

第二十一條 看守銃器ヲ携帶スルトキハ彈藥盒ハ衣又ハ外套ノ外部ニ帶ヒ銃劍ハ携帶セサルモ妨ナシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年七月訓令第百四十六號臺灣總督府典獄、監獄監吏及看守服裝規則ハ之ヲ廢止ス

看守ハ當分ノ內乙種外套ノ制ニ準スル防水布外套ヲ著用スルコトヲ得

●女監取締服制

明治三十五年三月
臺灣總督府訓令第五十九號
監獄

女監取締服制左ノ通相定ム

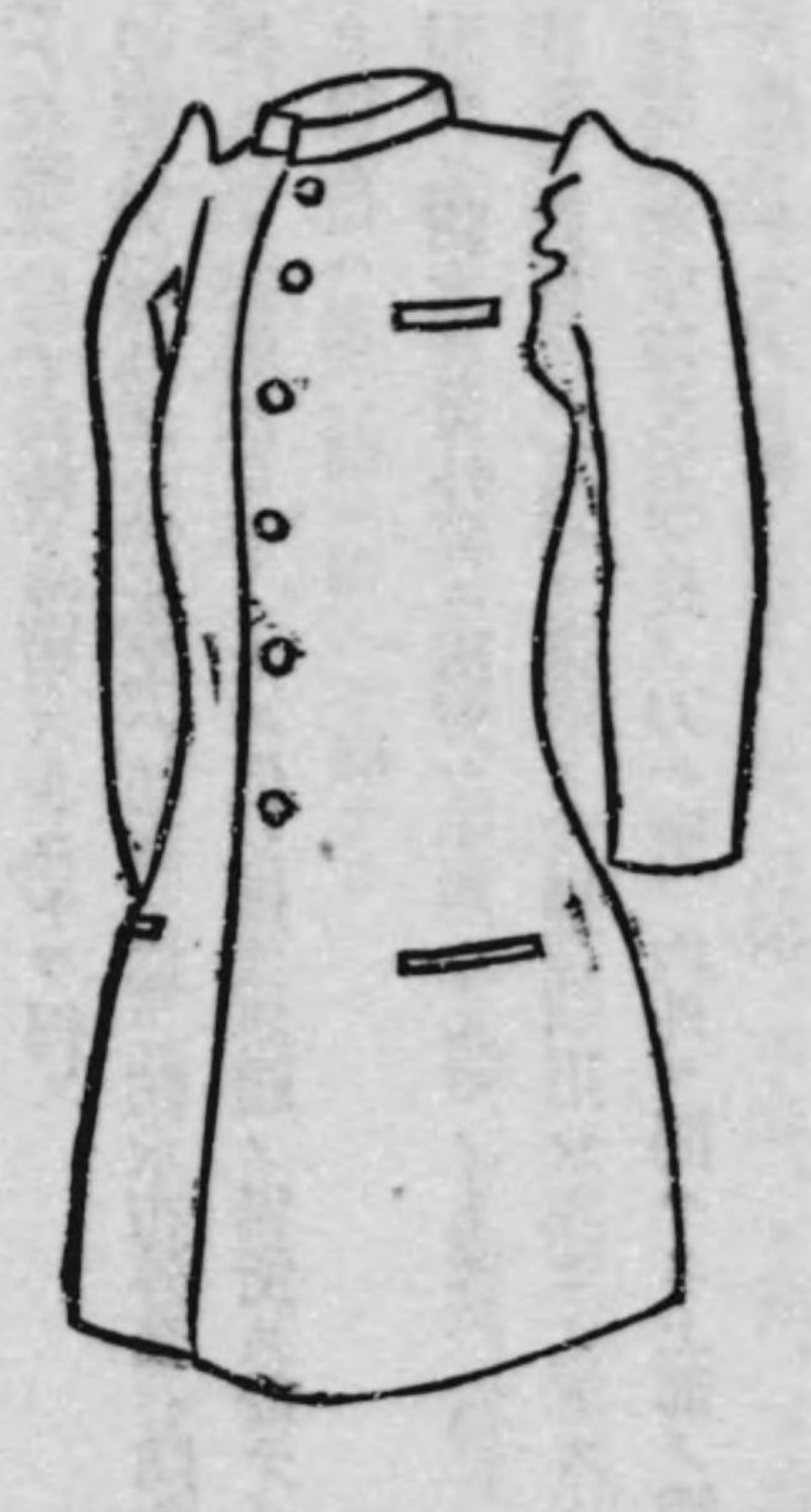
女監取締服則

	衣	袴
地質	黑色毛繻子但夏ハ黑色毛繻子若ハ鼠色麻布	黑色毛繻子
製式	立襟筒袖ニシテ胸圍ヲ稍廣濶ニス 襟幅一寸四分 袖長サ腕關節ニ止マル 長サ膝關節ニ止マル 釦胸部ニ六箇 物入前面ノ左胸部ニ一箇左右ノ大腿部ニ各一箇ヲ附ス	普通襠無シ袴ニシテ前面ノ襞積六
釦	角製黑色圓形ニシテ徑七分五厘	
形狀	圖ノ如シ	圖ノ如シ

甲種外套	乙種外套	帽	
黒絨	黒絨	地質	黒紗又ハ黒絽
折襟二重胸ニシテ腰部ヨリ以下ニ至ルニ随ヒ漸次廣濶ニシ後面ノ裾ヲ縦割ス長サ靴踵上際ヲ距ル約四寸袖長サ腕関節ヲ延ルコト約一寸物入前面ノ左方大腿外側ノ上三分ノ一ノ部ニ一箇	肩掛製ニシテ長サ前面ハ襟下ヨリ約一尺三寸背面ハ約一尺四寸七分雨覆ハ額面ヲ表ハス部ニ紐ヲ通シテ開縮ヲ自在ナラシム	前章	打出銀色日章徑六分五厘
角製黒色圓形徑七分五厘ノモノ十二箇ヲ胸部ニ二列ニ附シ二箇ヲ後面腰部ニ附ス同徑五分五厘ノモノ四箇ヲ後面縦割ノ部ニ附ス	同徑五分五厘ノモノ五箇ヲ襟部ニ附シ三箇ヲ胸部ニ附ス	製式	前面ノ襞積ヲ六箇トシ下部ノ周縁ハ後頭ニ於テ紐絞トス
圖ノ如シ	圖ノ如シ	形狀	圖ノ如シ

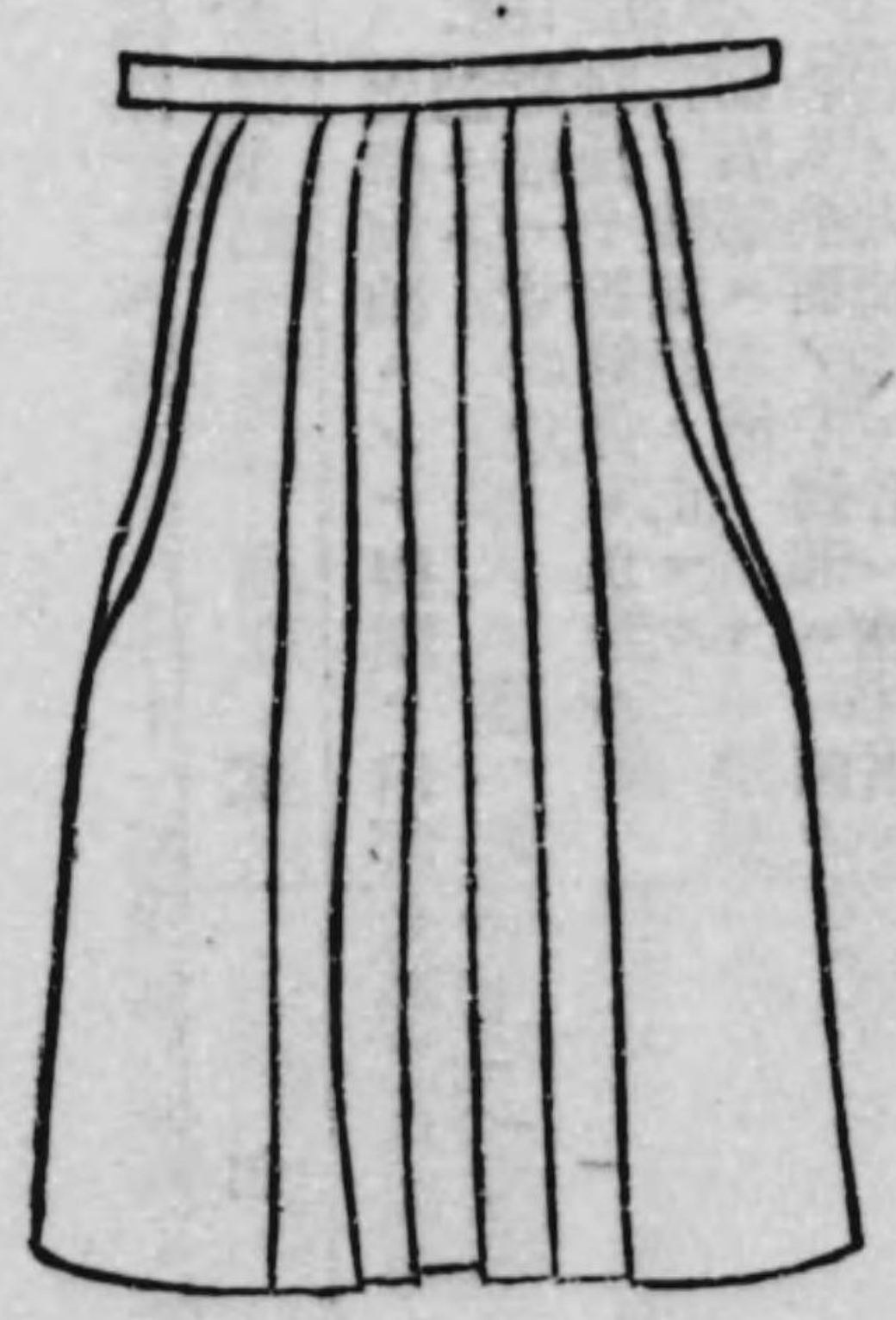
服圖

衣

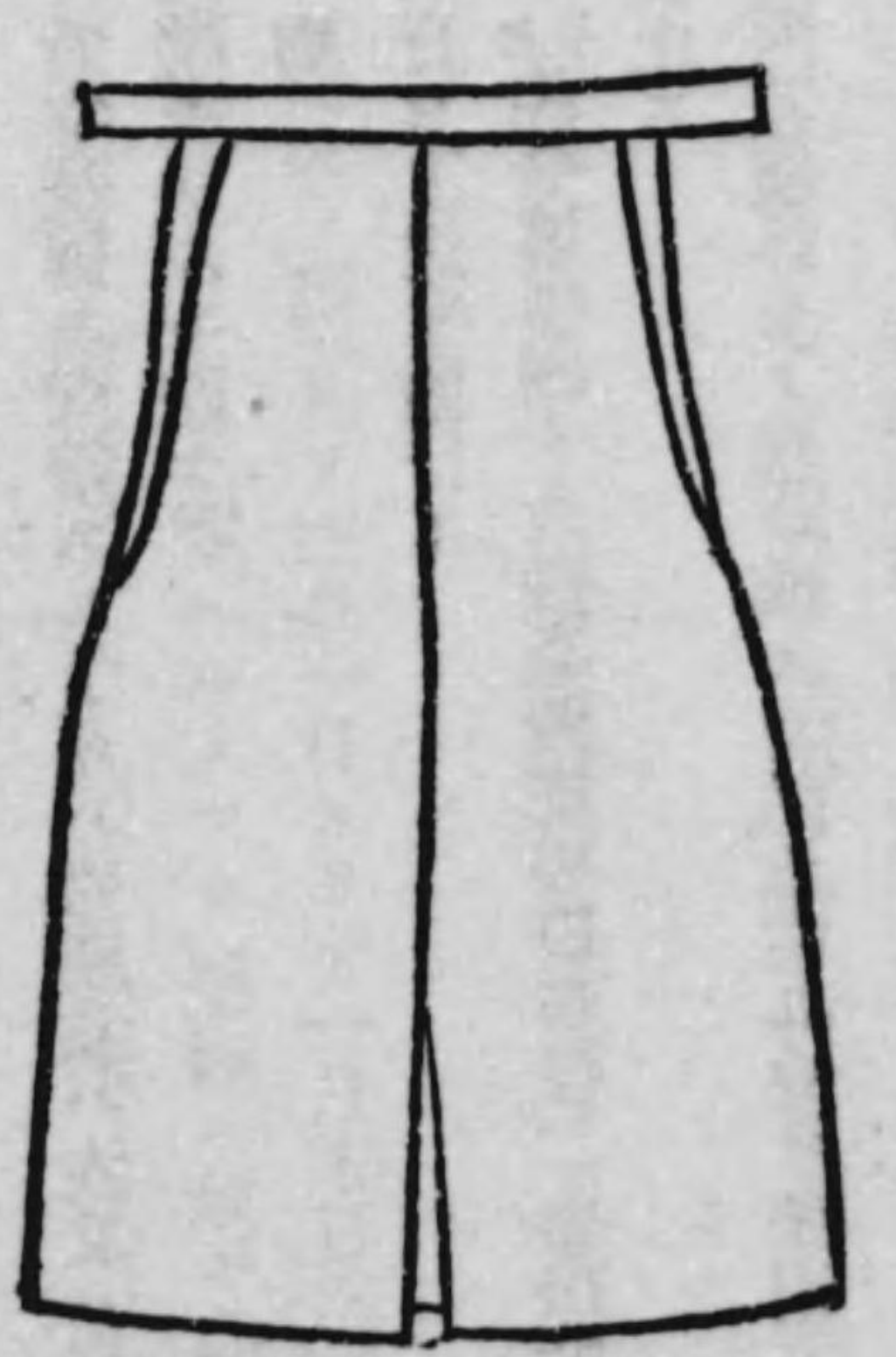


【差替】

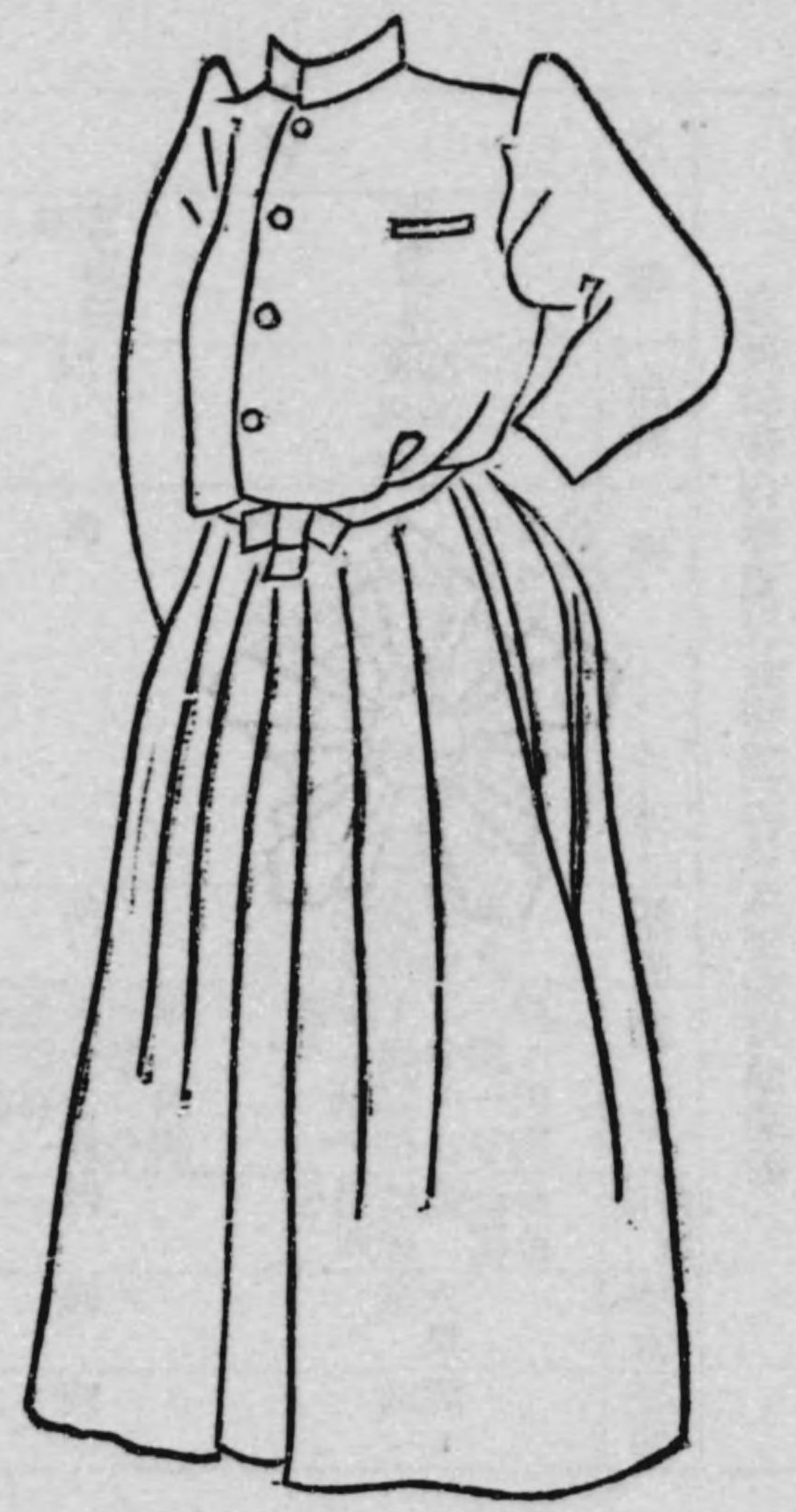
袴



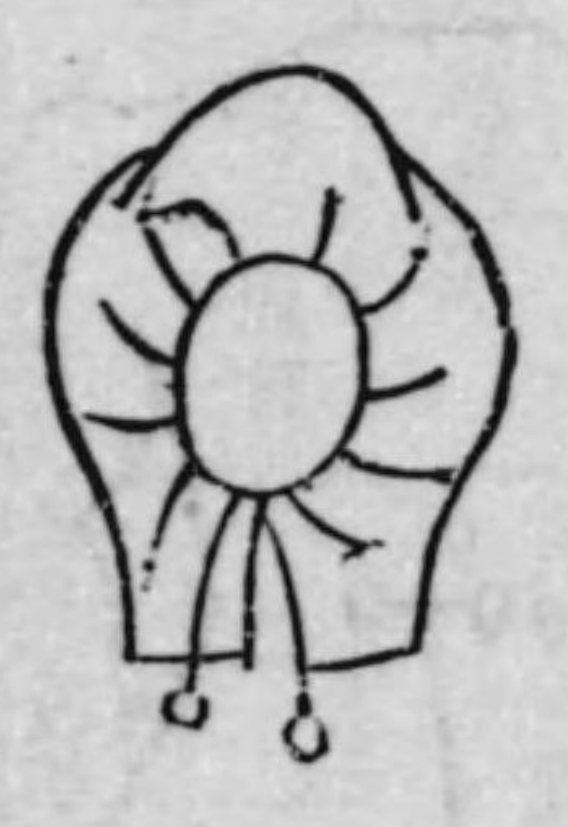
同後



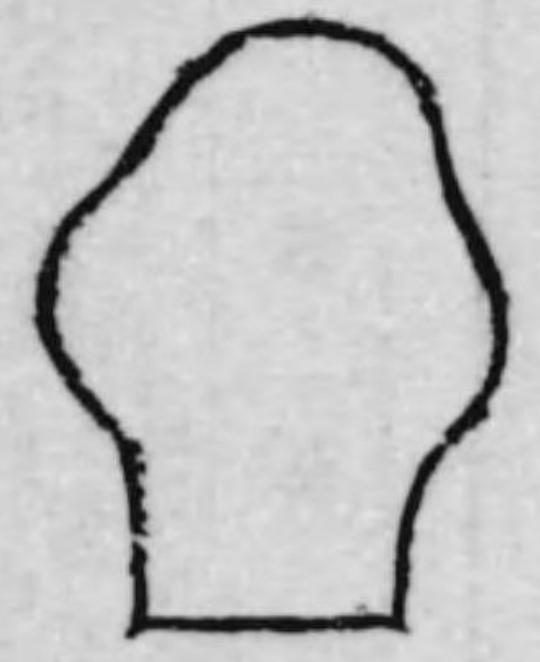
服裝圖



雨覆前面

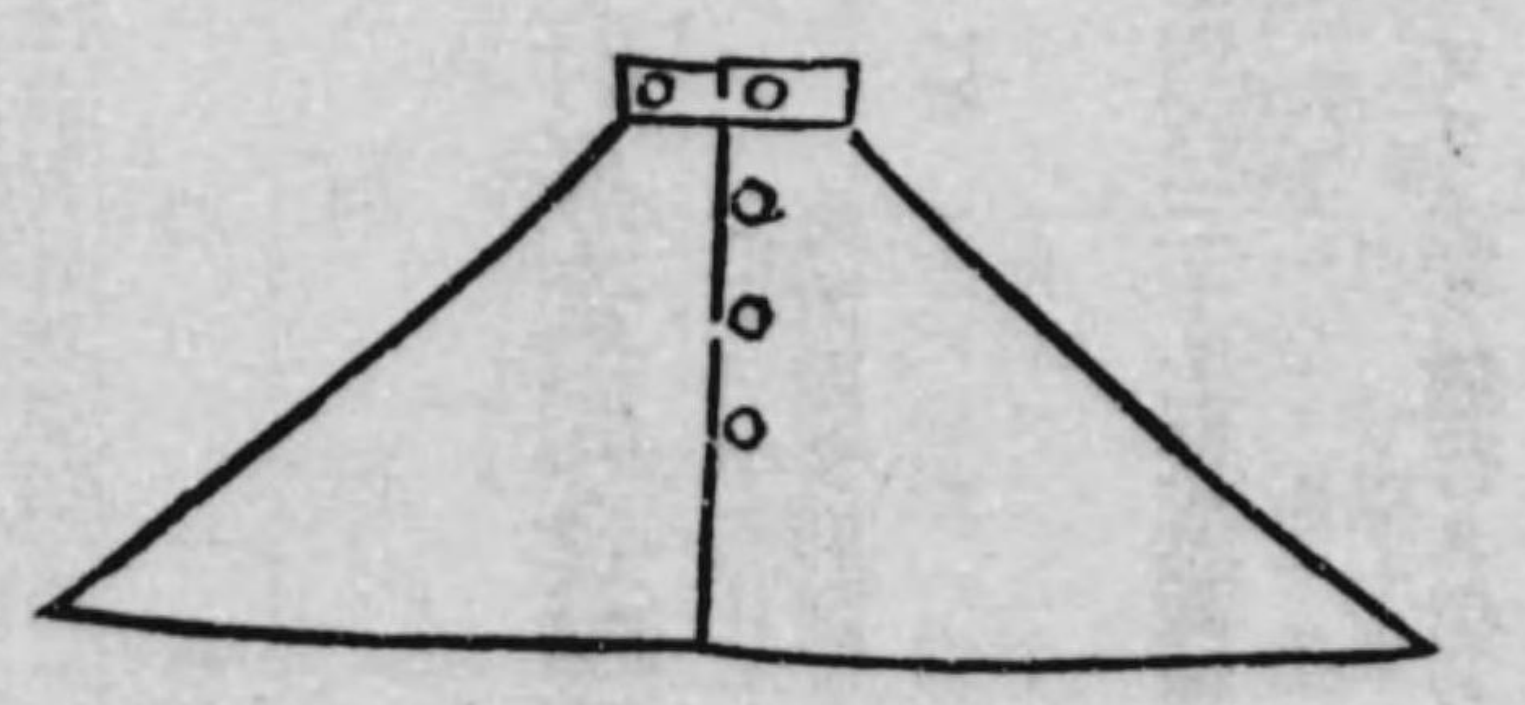


同後面

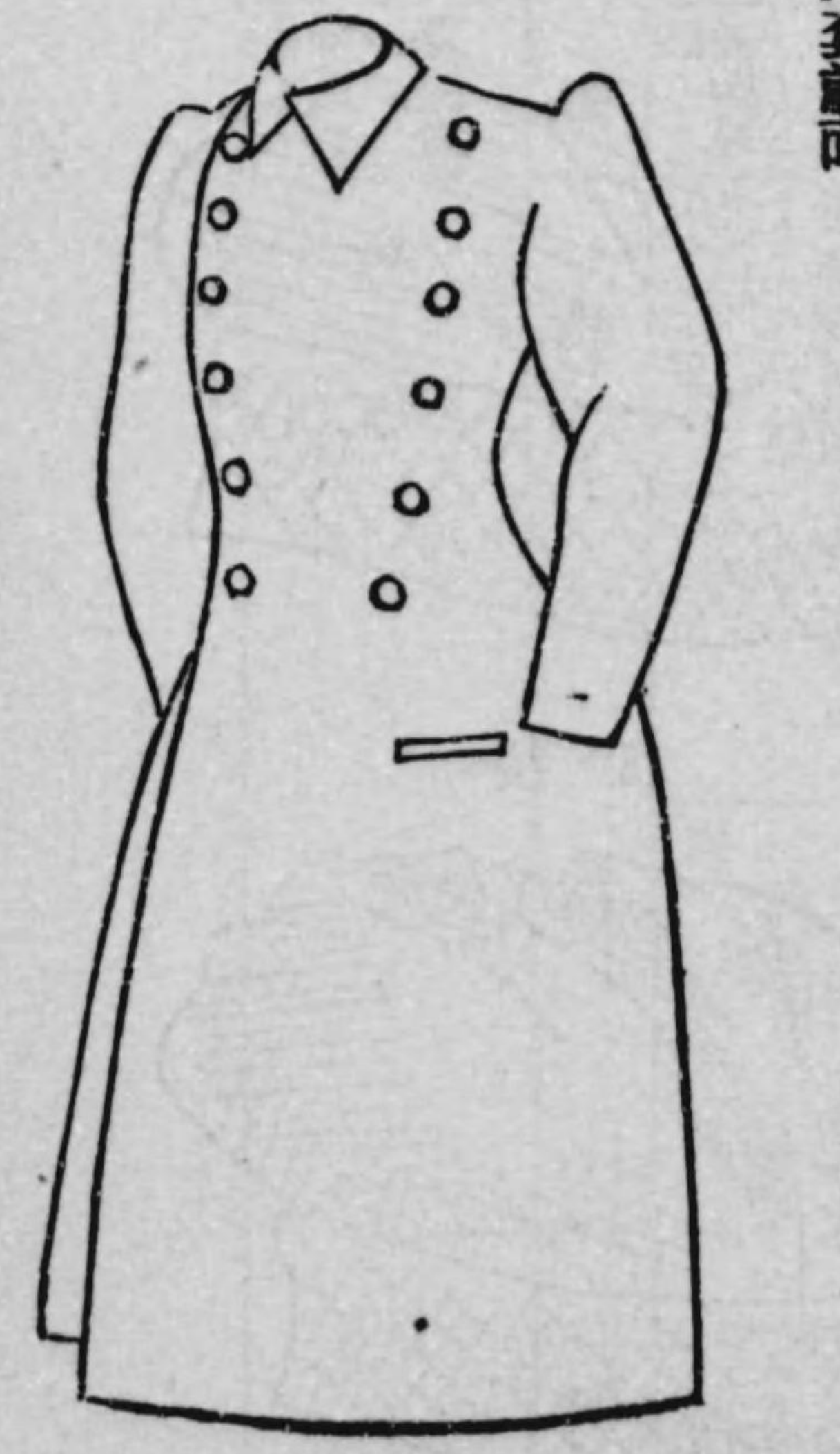


【差替】

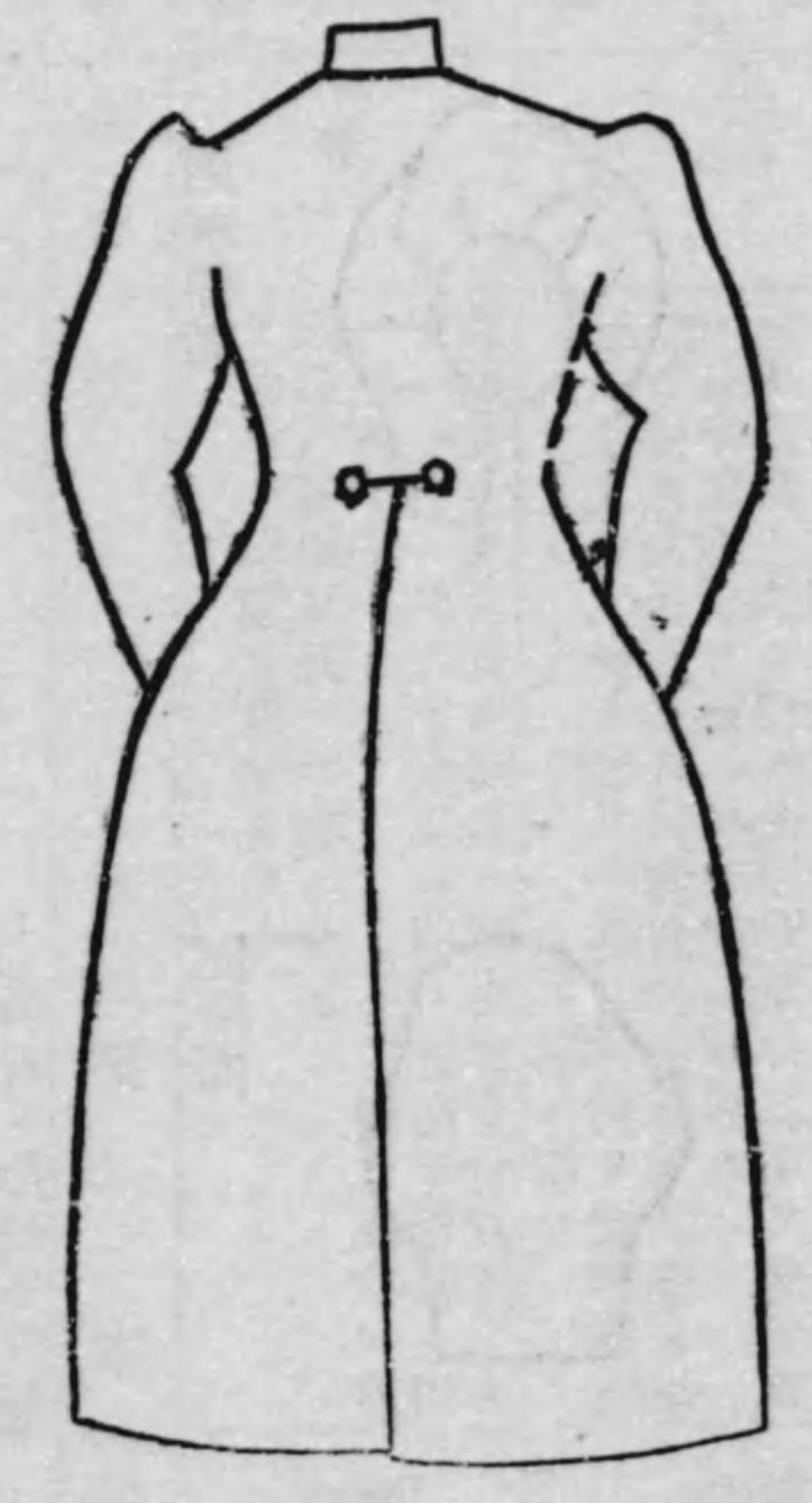
乙種外套前面



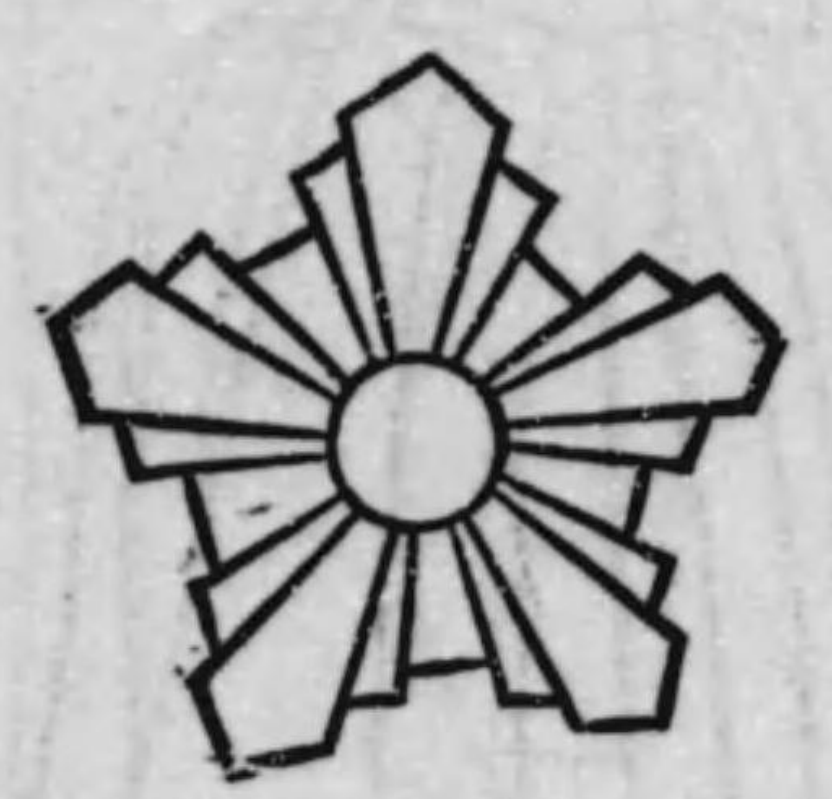
甲種外套前面



同後面

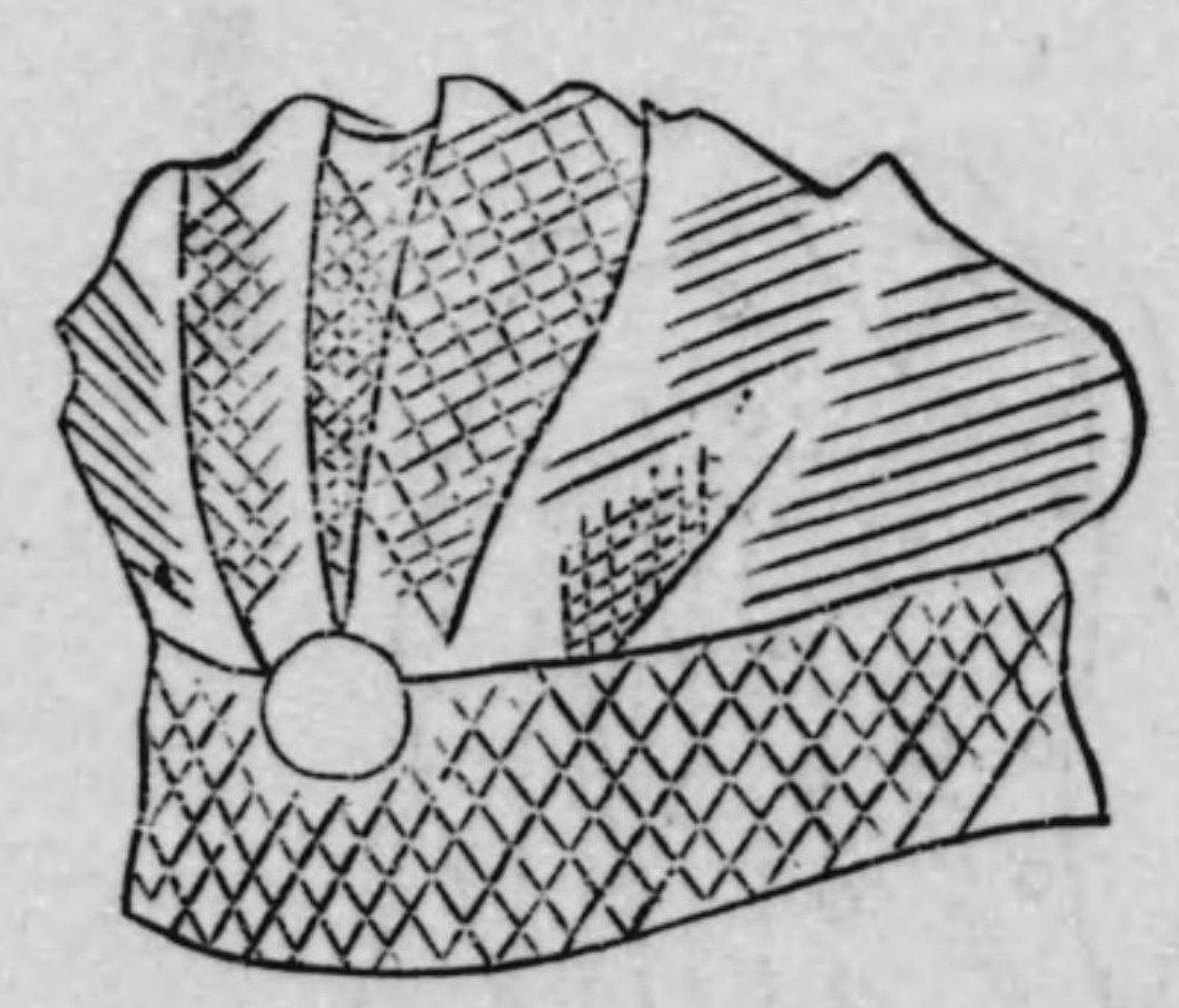


日章

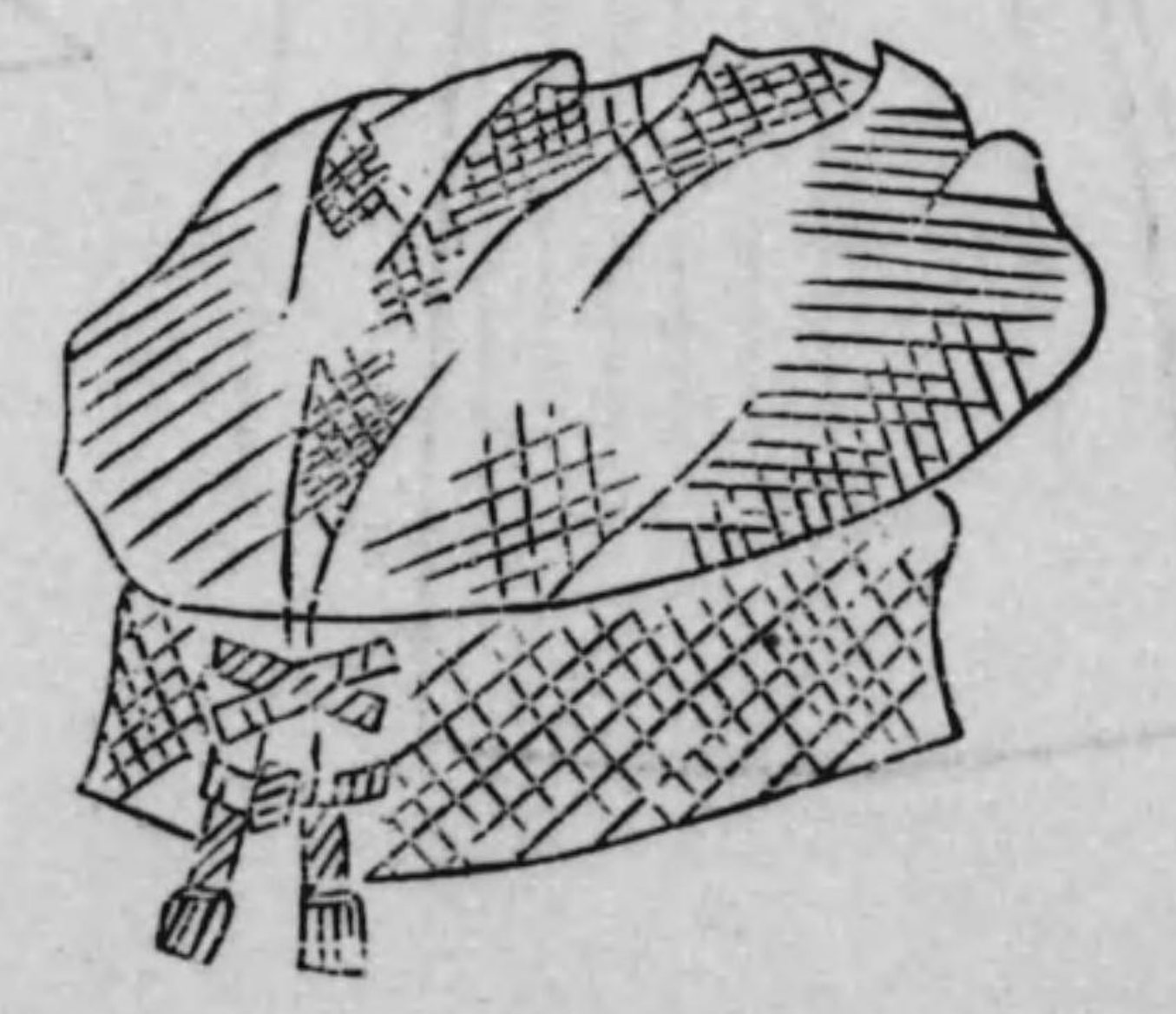


帽

前面



後面



●臺灣總督府專賣局食鹽監視員及監視員補服制

大正三年三月十日
臺灣總督府訓令第二十號
專賣局

改正　大正一五年訓令第六一號

明治三十四年十二月訓令第四百三十七號臺灣總督府專賣局食鹽監視員及監視員補服制左ノ通改正ス

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正三年十二月三十一日迄舊制服ヲ用ウルコトヲ得

臺灣總督府專賣局食鹽監視員及監視員補服制

名稱	帽	
	監視員	監視員補
地質	黒又ハ濃紺絨	同
前章	金色金屬製ニシテ菊ト桐トノ抱合セ中央ニ英字TトSトノ組合セタルモノヲ附シ其ノ他ノ部ハ打抜キトス徑一寸二分裏面二本ノ足ヲ附ス	同
眼庇	革丸形表裏共黒色	同
横章	帽ノ周圍ニ幅一寸二分ノ七子織黒毛線一條ヲ縫フ	帽ノ周圍ニ幅六分ノ七子織黒毛線一條ヲ縫フ
顎紐釦	金色金屬製無地徑四分	同
製式	大黒形	同
形狀	圖ノ如シ	同

名稱	略帽	
	監視員	監視員補
地質	鼠色麻布	同
製式	兜形ニシテ携帶幅五分五厘前庇ハ繞帶ノ下端ヨリ前面ニ出ルコト二寸三分後庇ハ三寸横庇ハ一寸高サハ繞帶ノ下端ヨリ四寸四分內側ニ顎紐ヲ附ス	同
形狀	圖ノ如シ	同

名稱	夏衣	
	監視員	監視員補
地質	鼠色麻布	同
釦	金色金屬製無地徑七分五厘	同
袖章	袖口ヨリ三寸ヲ隔テ白色一分線一條其ノ上部一分ヲ隔テ白色四分線一條ヲ附ス	袖口ヨリ三寸ヲ隔テ白色四分線一條ヲ附ス
製式	長ジヤケツト製釦五箇、物入左二箇、右一箇	同
形狀	圖ノ如シ	同

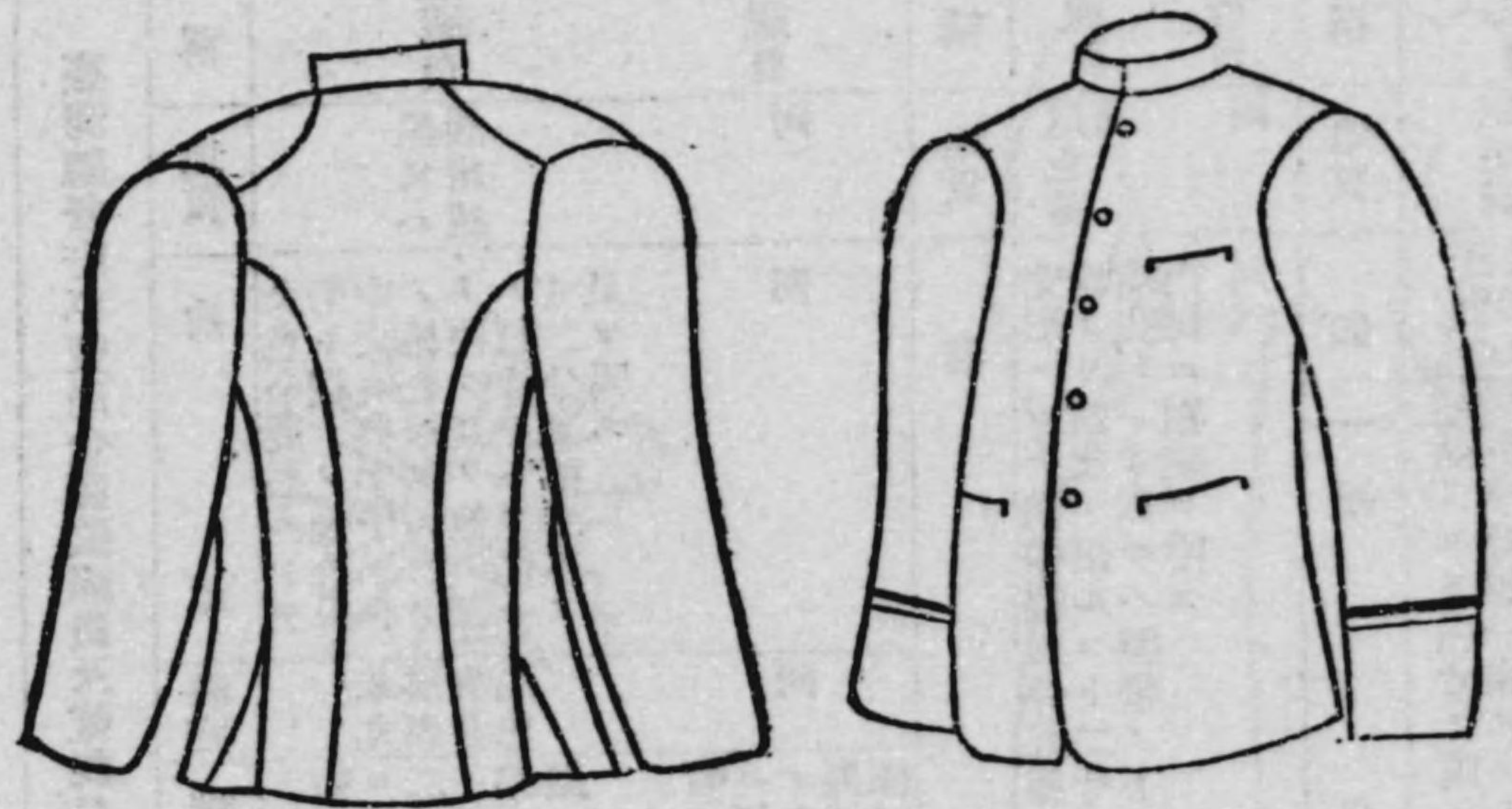
名稱	冬衣	
	監視員	監視員補
地質	黒又ハ濃紺絨	同
	金色金屬製無地徑七分五厘	同
	袖口ヨリ三寸ヲ隔テ黒色一分線一條其ノ上部一分ヲ隔テ黒色四分線一條ヲ附ス	袖口ヨリ三寸ヲ隔テ黒色四分線一條ヲ附ス
製式	長ジヤケツト製釦五箇、物入左二箇、右一箇及右前ノ裏面ニ一箇	同
形狀	圖ノ如シ	同

名稱	袴	
	監視員	監視員補
地質	夏	
	鼠色麻布	同
	冬	
	黒又ハ濃紺絨	同
製式	長サ靴踵ノ上際ニ止マル、物入左右兩股ニ各一箇ヲ附ス	同
形狀	圖シ如シ	同

名稱	外套	
	監視員	監視員補
地質	黒又ハ濃紺絨	同
釦	金色金屬製無地徑七分五厘胸部ニ六箇宛二行、背面ニ三箇	同
製式	長サ靴踵ノ上際ヲ距ル大約八寸物入前面左右ニ各一箇ヲ附ス同地質ノ雨覆一箇ヲ附ス	同
形狀	圖ノ如シ	同

名稱	日覆	
	監視員	監視員補
地質	白布	

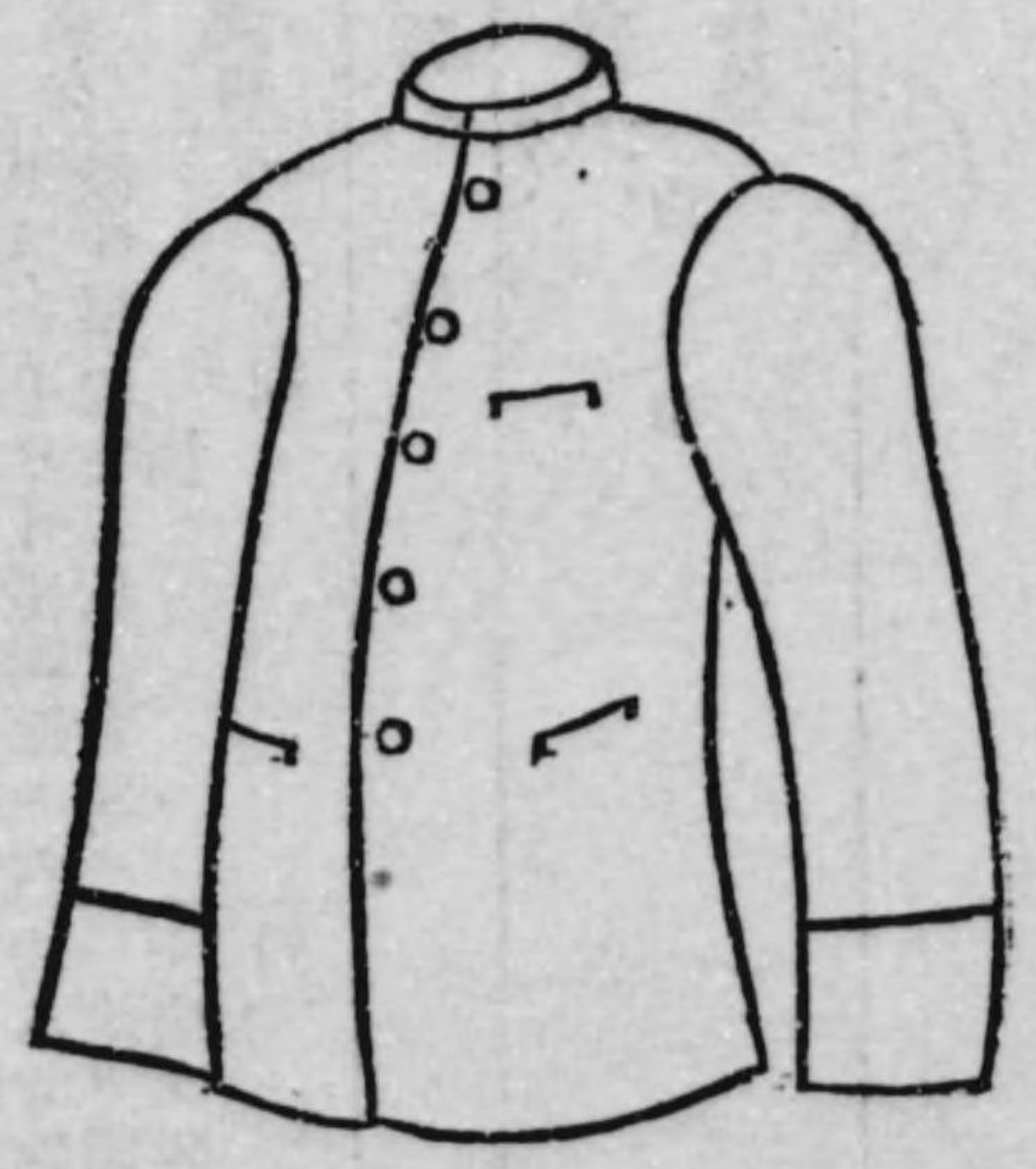
監視員



（夏衣白色／冬衣黒色）四分線一條

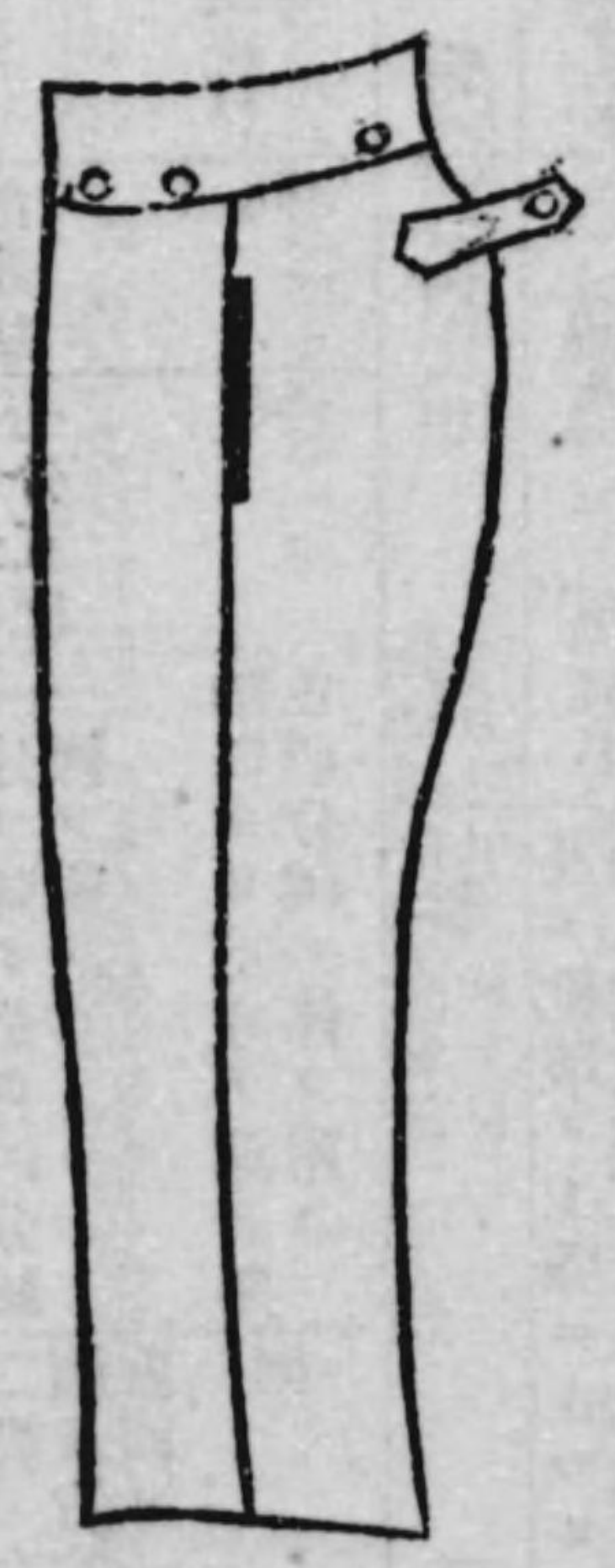
（夏衣白色／冬衣黒色）一分線一條

監視員補

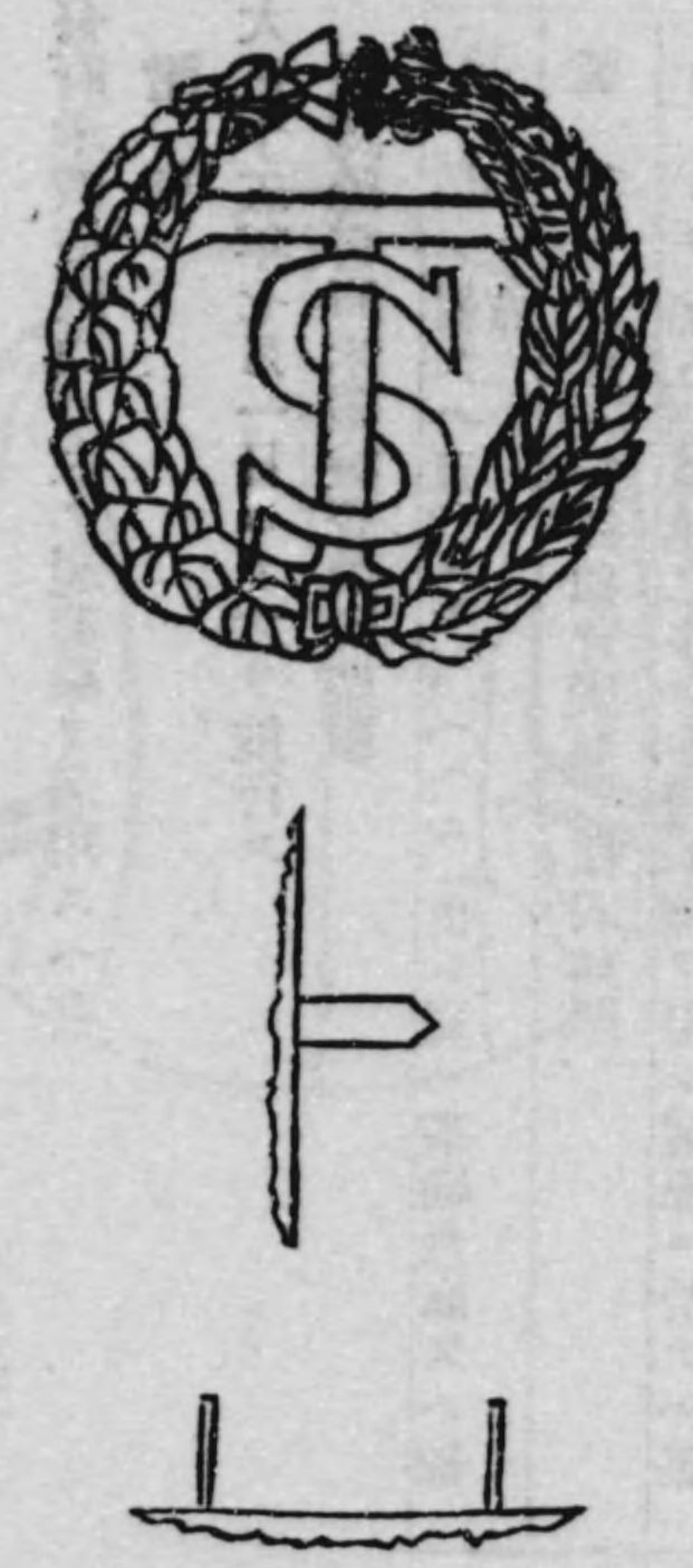


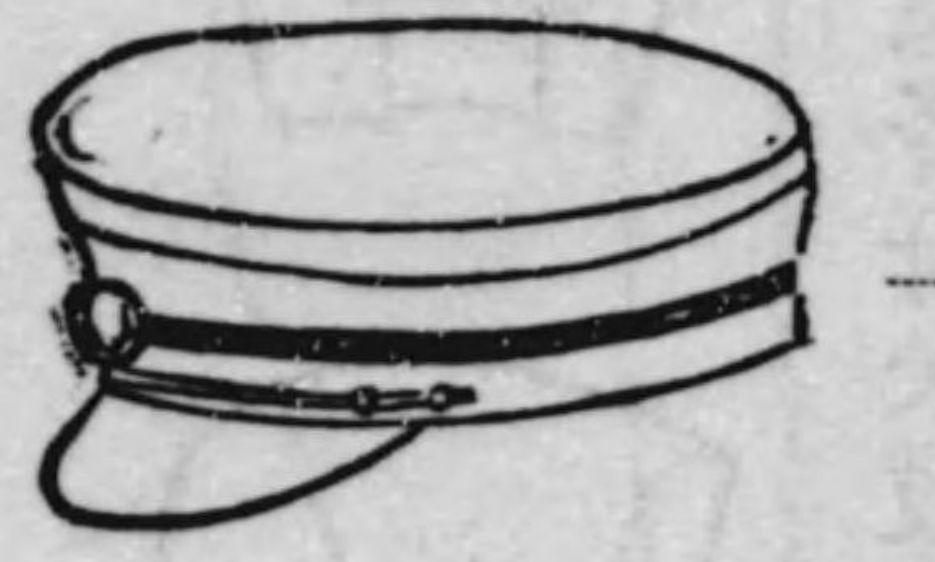
（夏衣白色／冬衣黒色）四分線一條

袴



帽前章



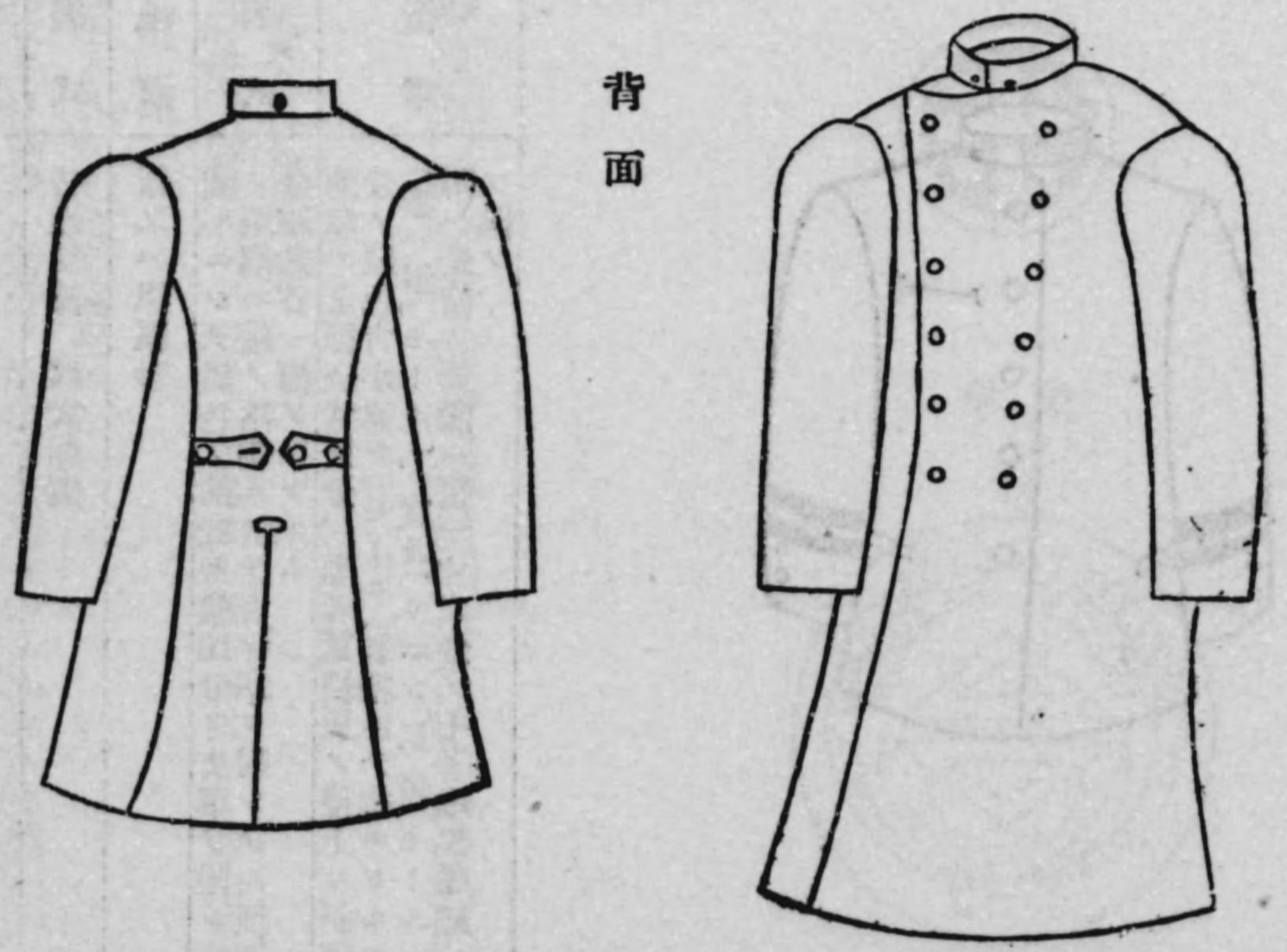


七子織黒毛線

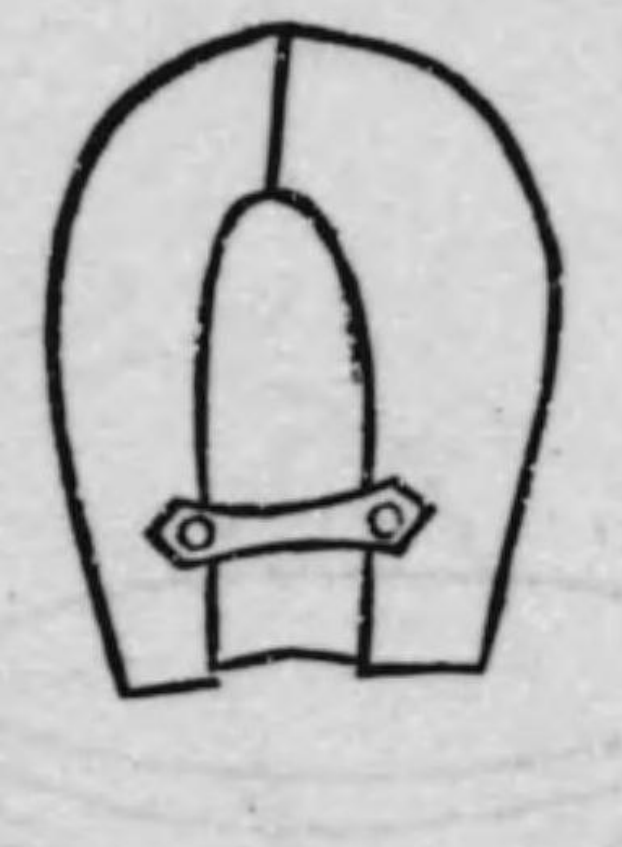
監視員 幅一寸二分

監視員補 幅六分

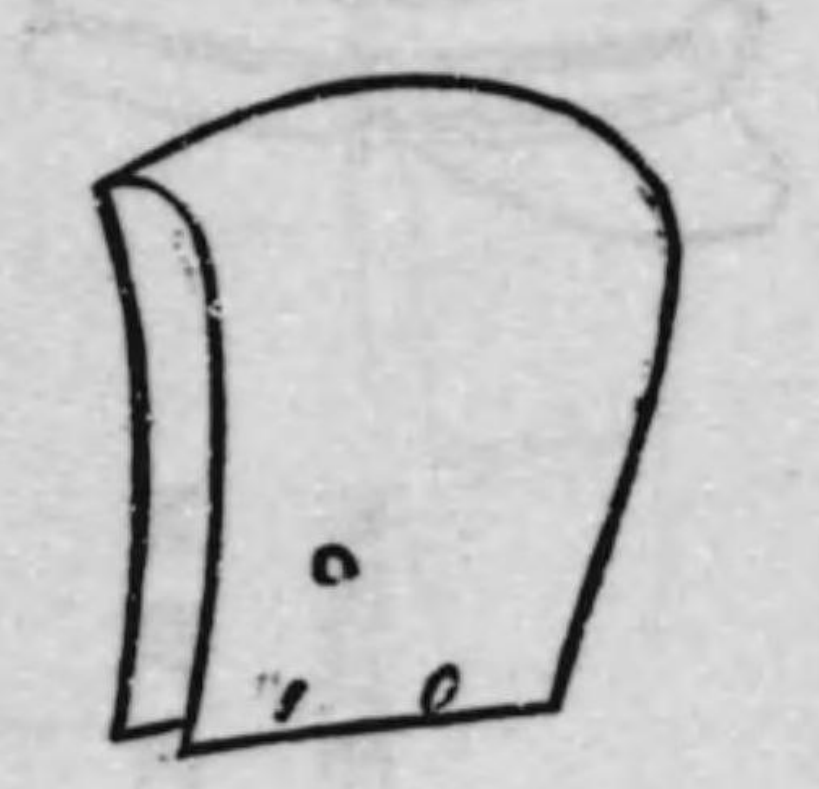
外套



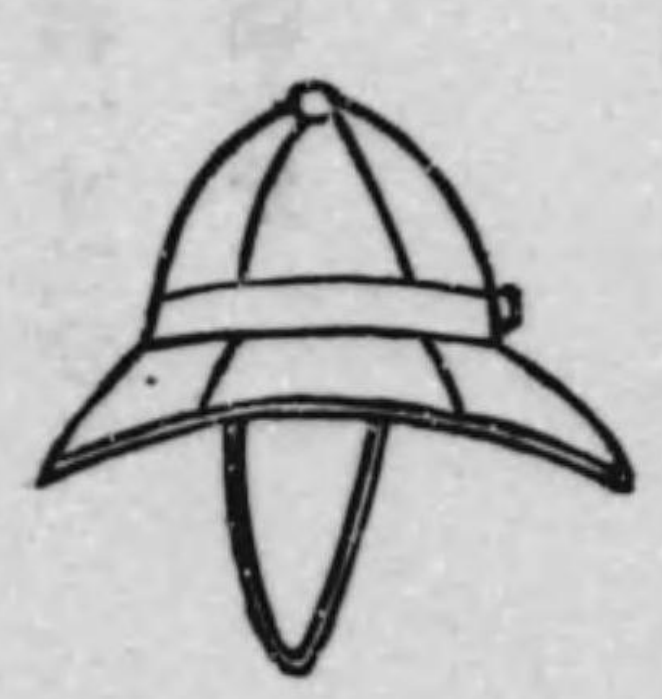
雨覆



正面



側面



略帽

●臺灣總督府米穀檢査員現業服

大正十五年六月三十日
臺灣總督府訓令第五十七號

改正　昭和二年訓令第三八號

臺灣總督府

臺灣總督府米穀檢査員ハ左ノ現業服ヲ著用スヘシ

附則

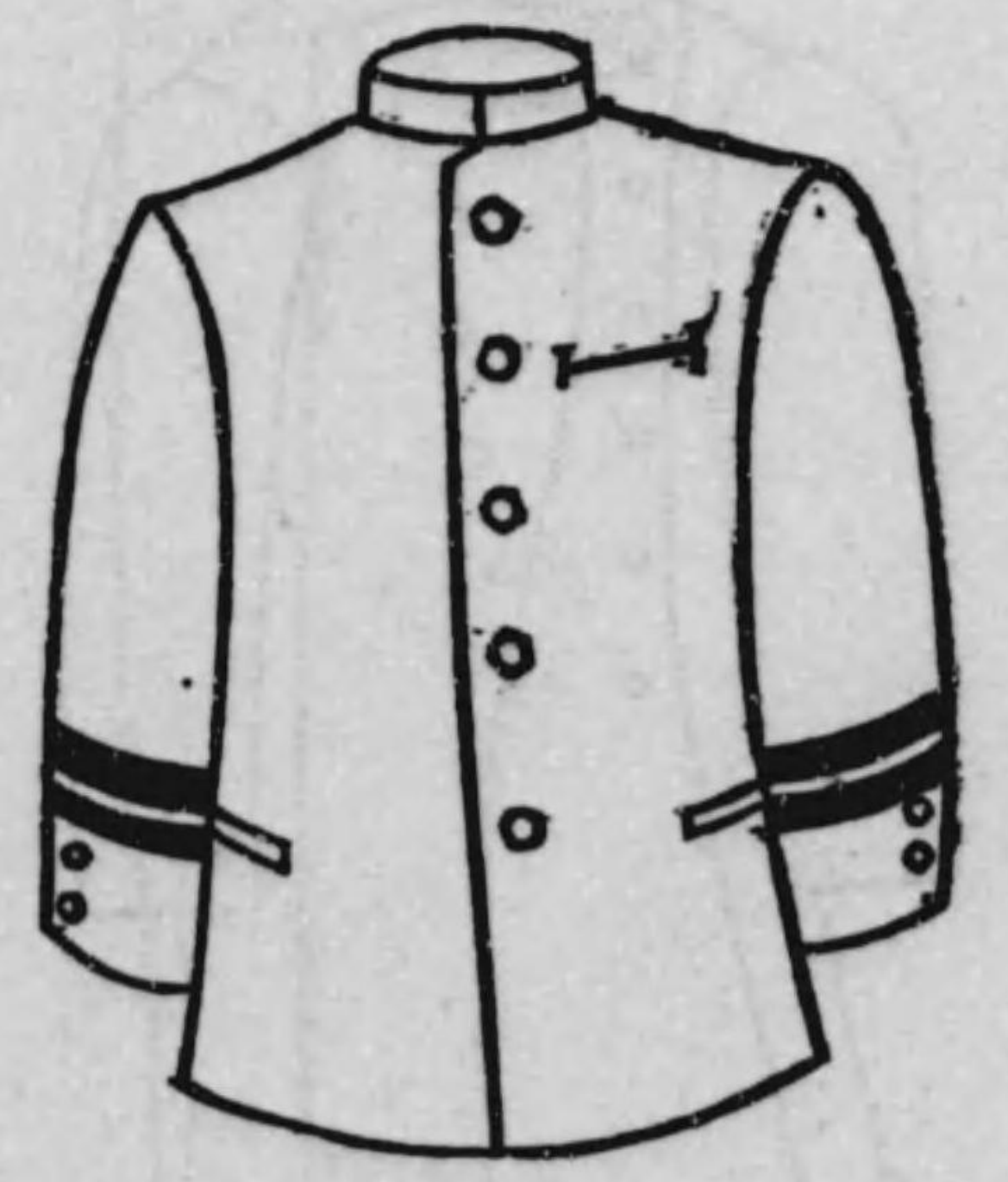
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府米穀檢査員現業服

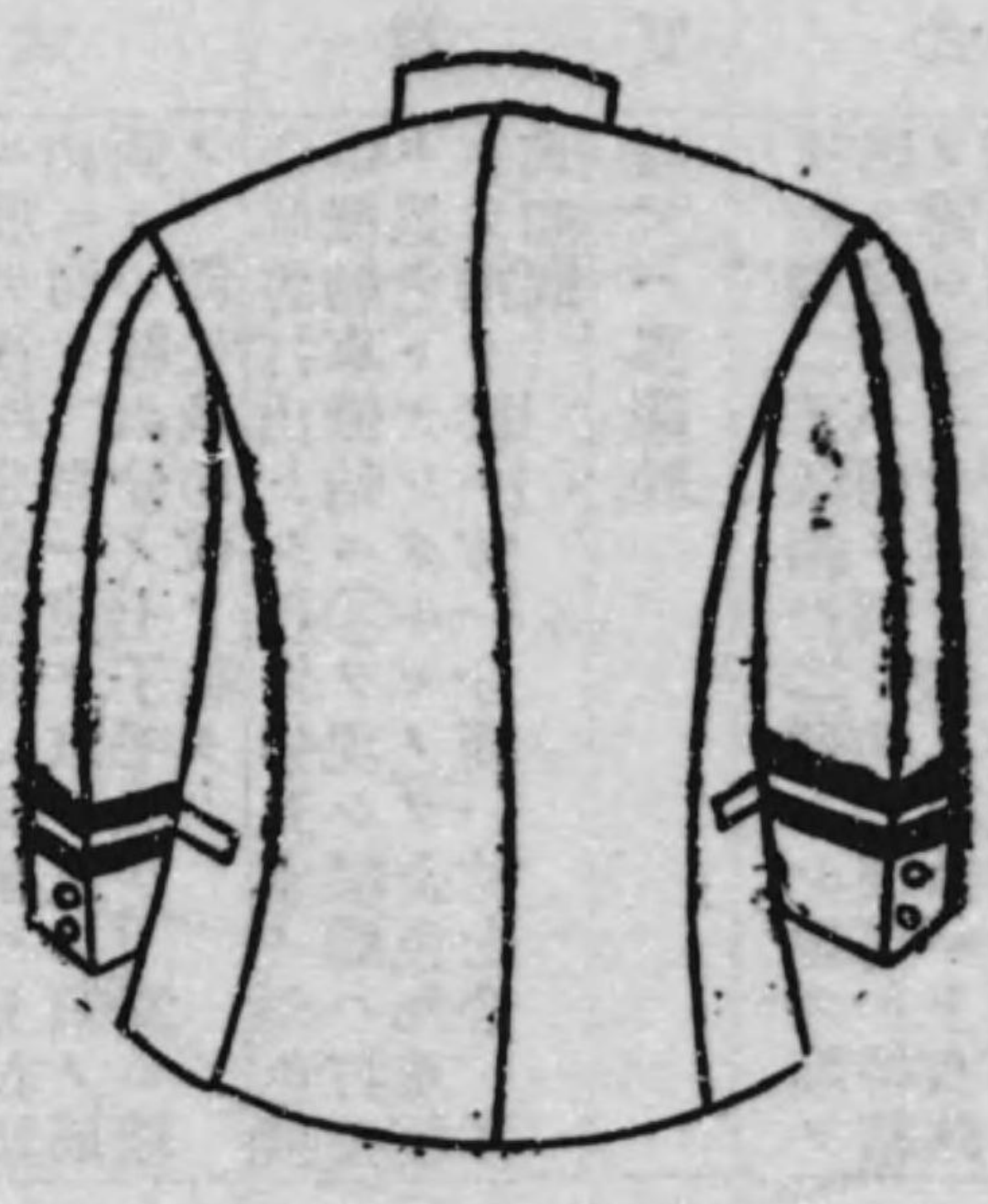
上衣	地質	紺又ハ黑「セル」、「ヘル」但シ夏ハ茶褐色麻又ハ綿布
	製式	立襟一行鈕釦背廣形　樣式如圖
	袖章	幅五分黑線二條ヲ半面ニ纏フ但シ夏服ニ於テハ茶褐色線トス　樣式如圖
	鈕釦	徑六分金地ニ押出米字形模樣ヲ附ス　樣式如圖
袴	地質	上衣ニ同シ
	製式	普通長袴　樣式如圖
帽	地質	紺又ハ黑羅紗
	製式	圓形ニシテ黑色ノ前庇及幅四分ノ支革ヲ附シ支革ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ台字章ヲ附シタル徑四分金鈕釦各一箇ヲ以テ止ム
	徽章	前章ハ全徑一寸五分、黑天鵞絨製ノ臺上ニ斜徑七分ノ銀色台字章ヲ「モール」製稻ニテ抱キタルモノ（葉ハ銀「モール」、實及「リボン」ハ金「モール」）ヲ附シ又帽ノ周圍ニ幅一寸二分ノ七子織黑毛線一條ヲ纏フ

上衣

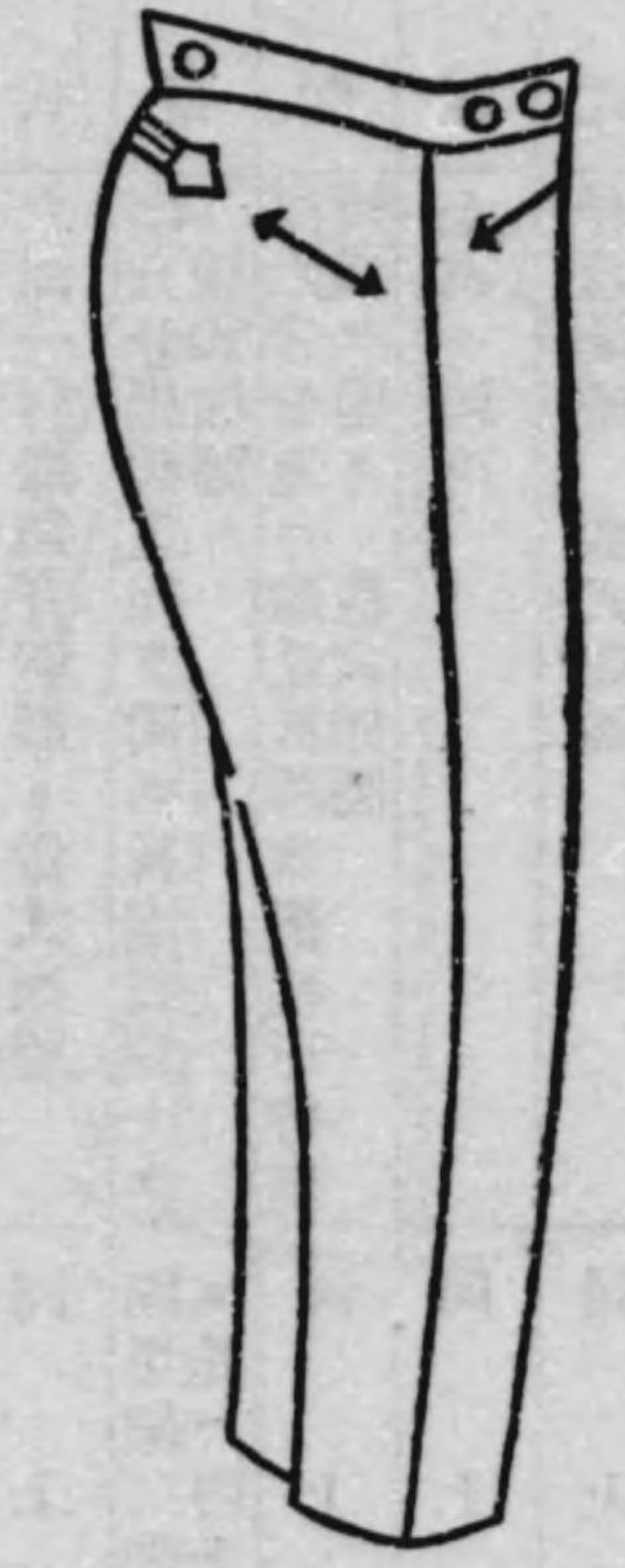
前面



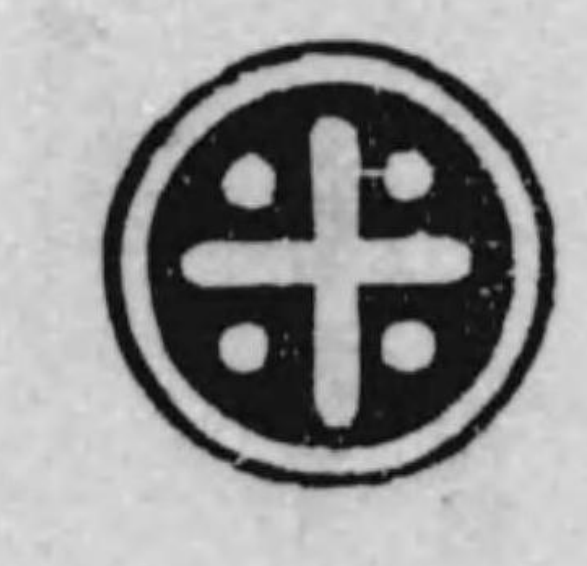
後面



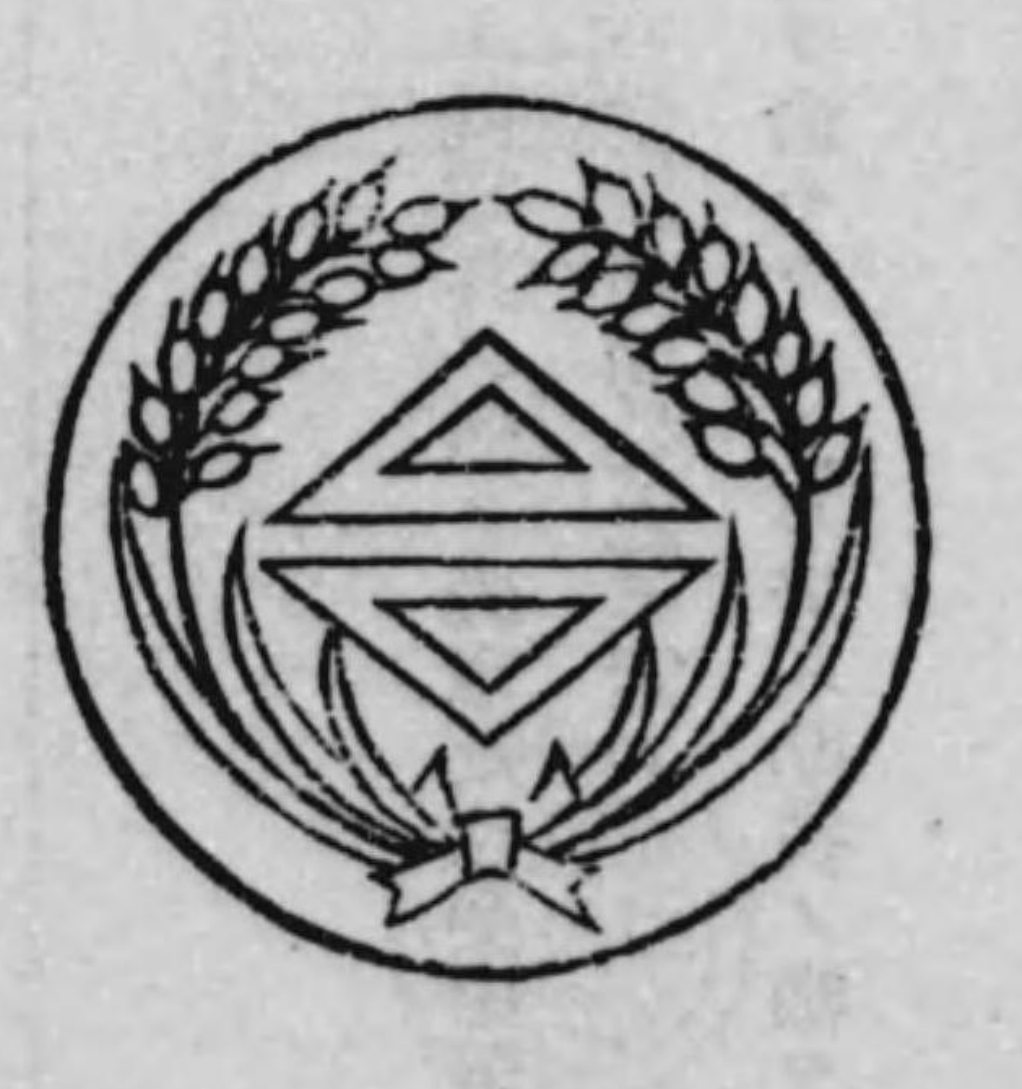
袴



鈕釦



徽章



●臺灣總督府鐵道職員現業從事者略服

大正九年一月二十八日
臺灣總督府令第二號

改正　大正九年府令第九八號

臺灣總督府鐵道職員ニシテ現業ニ從事スル者ノ略服左ノ通相定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來貸與シタル制服ハ當分ノ內之ヲ著用セシムルコトヲ得

臺灣總督府鐵道職員現業從事者略服

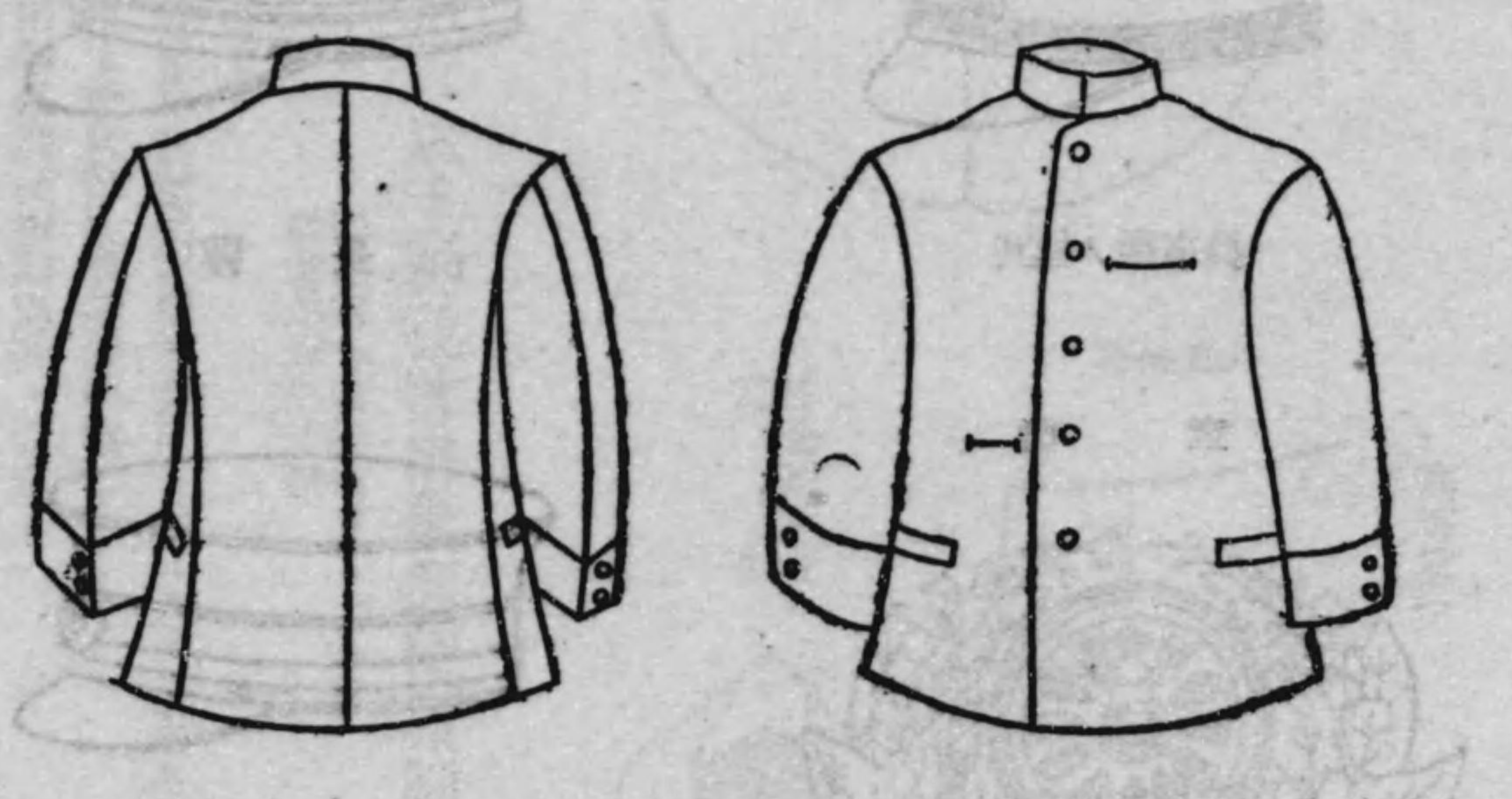
種別／官別		奏任	判任
上衣	地質	紺若ハ黒羅紗又ハ紺若ハ黒「ヘル」、「セル」	同上
	製式	立襟一行鈕釦背廣形　樣式如圖	同上
	袖章	幅五分黒線三條ヲ附ス線間二分トス樣式如圖	同黒線二條ヲ附ス餘ハ同上
	鈕釦	徑六分金地ニ鐵道機關車働輪形押出模樣ヲ附ス　樣式如圖	同上
袴	地質	上衣ニ同シ	同上
	製式	普通長袴　樣式如圖	同上
帽	地質	濃紺又ハ黒羅紗	同上
	製式	圓形ニシテ黒革製前庇及幅四分ノ黒色支革ヲ附シ支革ノ兩端ヲ帽ノ兩側ニ於テ徑四分金色鈕釦（模樣ハ上衣鈕釦ニ同シ）各一箇ヲ以テ止メ帽ノ周圍ニハ幅六分ノ七子毛織ヲ下端ニ纏フ、驛長及助役ヲ除ク	同上
	徽章	金屬製打出トシ徑六分五厘ノ金色鐵道機關車働輪ニ㋓ヲ現シ幅間ハ金打拔キ黒色トナシタルモノヲ金色九重桐ニテ抱ク縱一寸一分橫一寸七分樣式如圖	同上
外套	地質	紺又ハ黒羅紗	同上
	製式	折襟胸二重鈕釦ハ二列トシ各六箇ヲ附ス後面ハ裾ヲ割キ其ノ腰部ニ帶紐ヲ附シ之ニ七箇ノ鈕釦（模樣ハ上衣鈕釦ニ同シ）ヲ附ス又前左右ノ腰部ニ各一箇ノ物入ヲ附ス　樣式如圖	同上
	袖章	金色ノ鈕釦（模樣ハ上衣鈕釦ニ同シ）二箇ヲ附ス　樣式如圖	金色ノ釦一箇ヲ附ス餘ハ同上
	頭巾	紺又ハ黒羅紗　樣式如圖	同上
雨衣	地質	黒防水布	同上
	製式	立襟頭巾肩掛附、鈕釦（模樣ハ上衣鈕釦ニ同シ）ハ二列ニ各五箇ヲ附ス　樣式外套ニ同シ但シ帶紐ヲ附セス	同上
	頭巾	黒防水布　樣式外套ニ同シ	同上
驛長及助役制服ニ特殊ナル事項	帽　驛長	鉢巻ヲ緋羅紗トシ下端ヨリ順次ニ幅四分縞織金線一條、二分縞織金線一條ヲ纏フ、線間各二分トス其ノ他帽ノ製式ニ同シ　樣式如圖	
	帽　助役	鉢巻ニ纏フヘキ縞織金線ハ四分ノモノ一條トシ其ノ他ハ同前	

備考

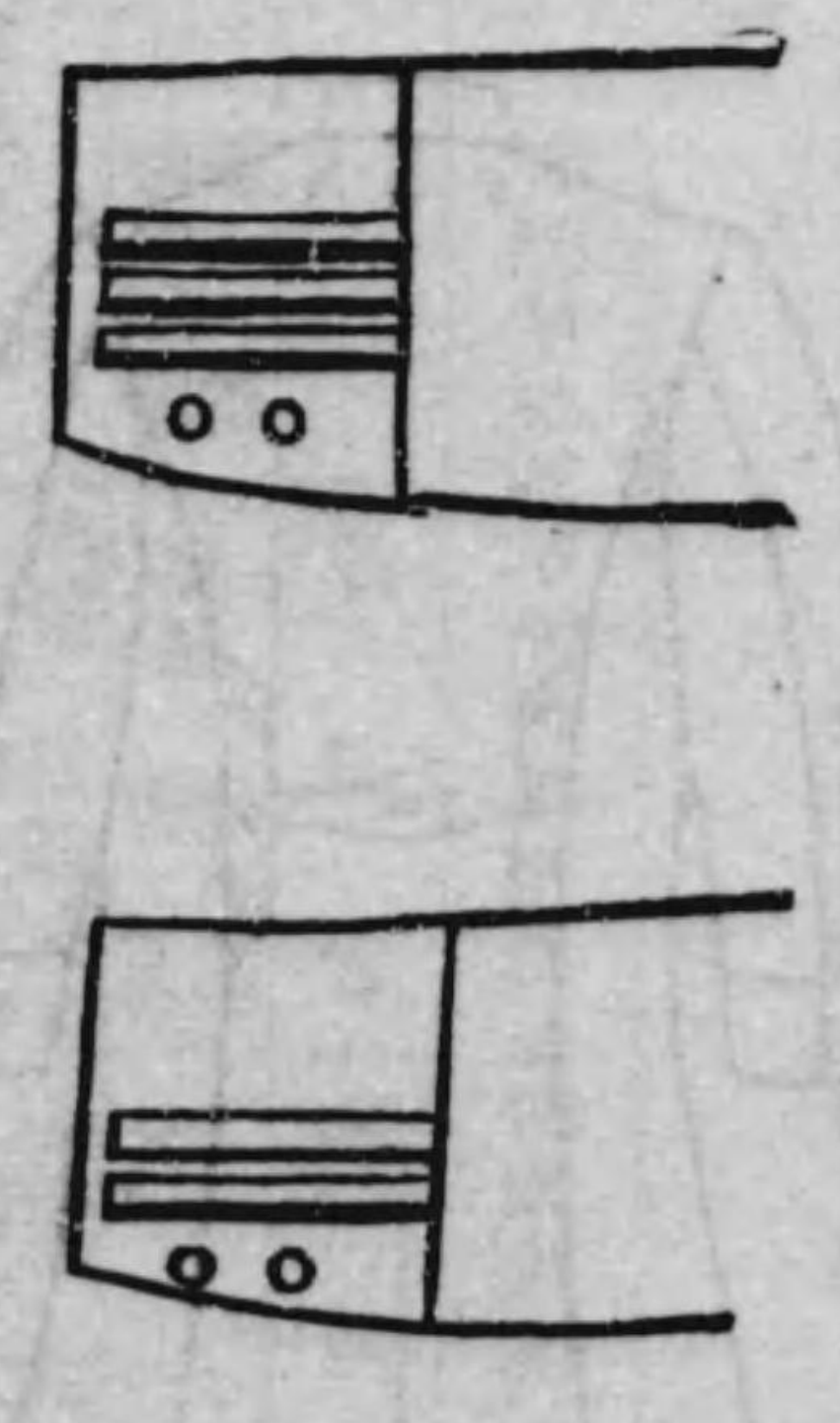
一　職務ヲ識別スル爲ニ要スル腕章其ノ他ノ表章及仕業中著用セシムヘキ作業衣、上覆等ハ當該部局長之ヲ定ム

二　臨時驛長又ハ助役ノ代務ヲ命セラレタル者ハ助役ノ帽ヲ用ウルコトヲ得

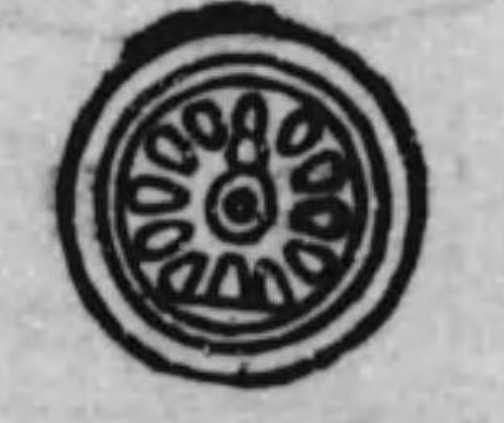
上衣



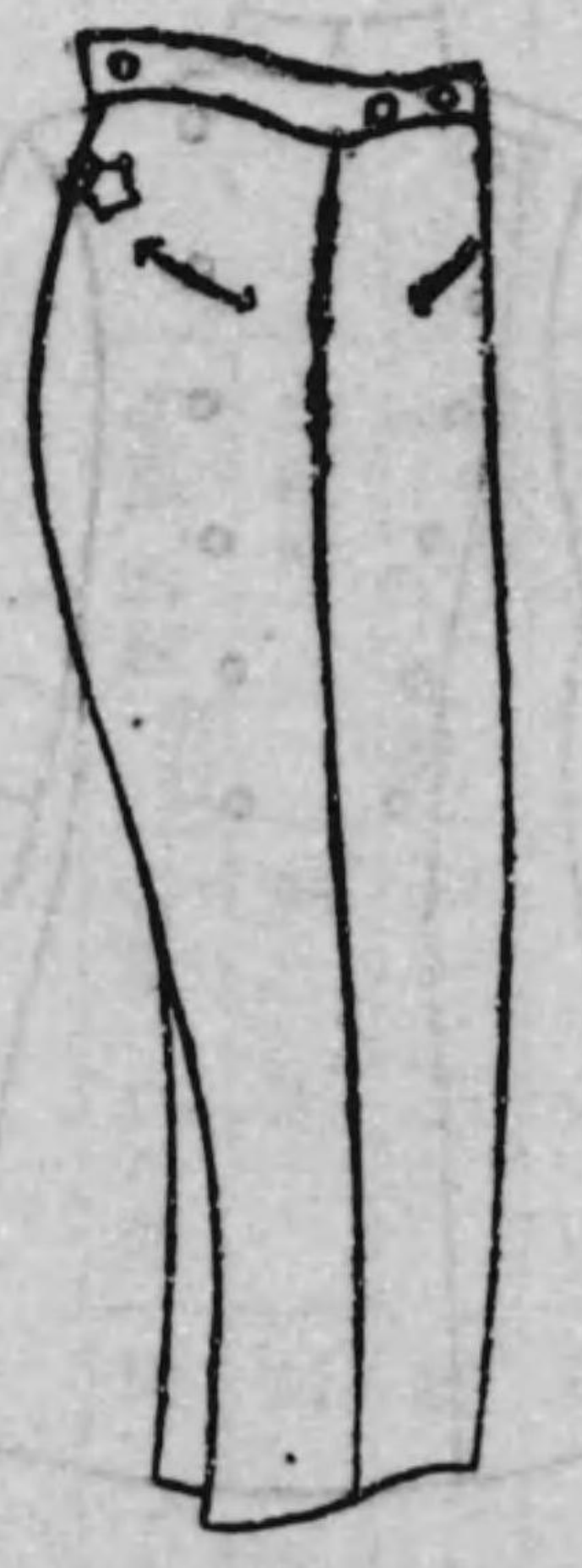
袖章



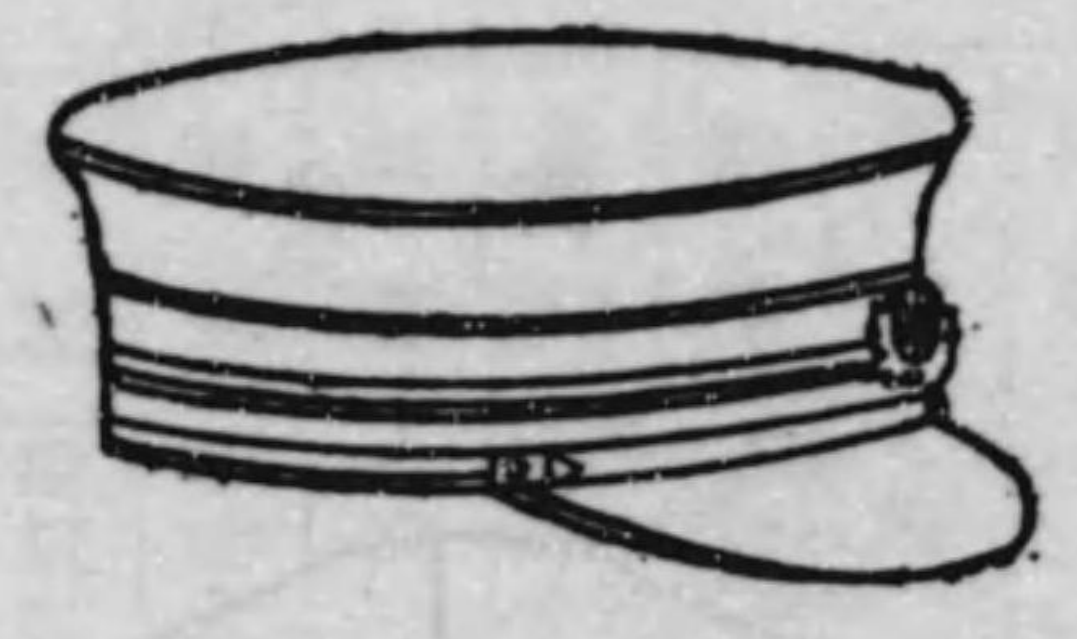
鈕釦

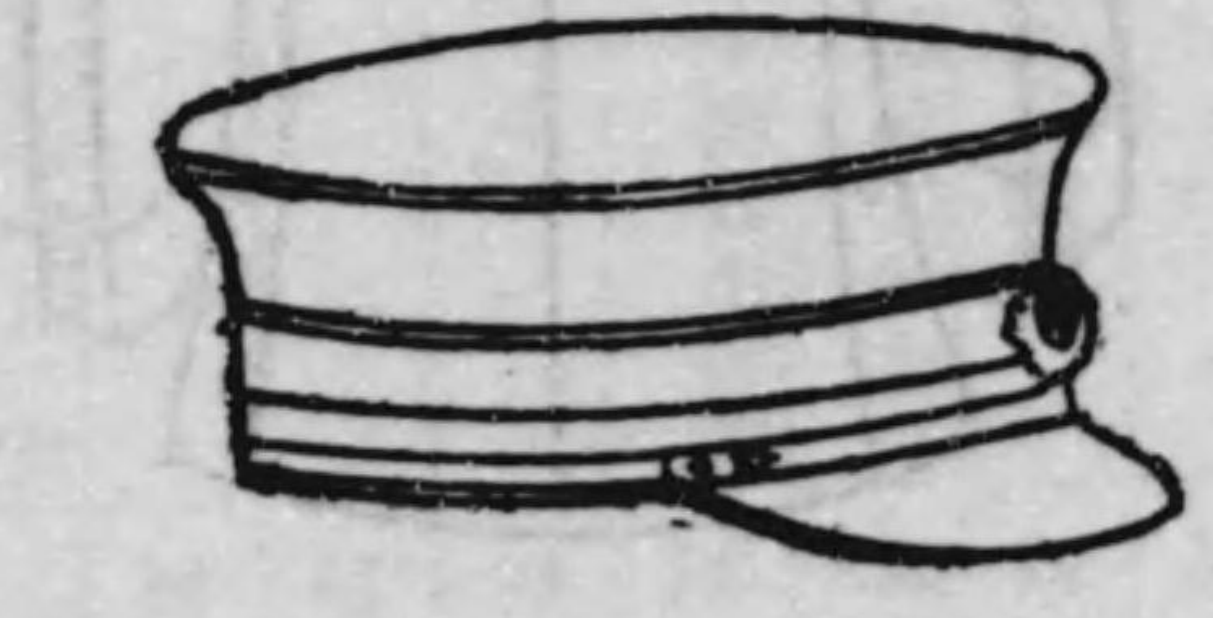


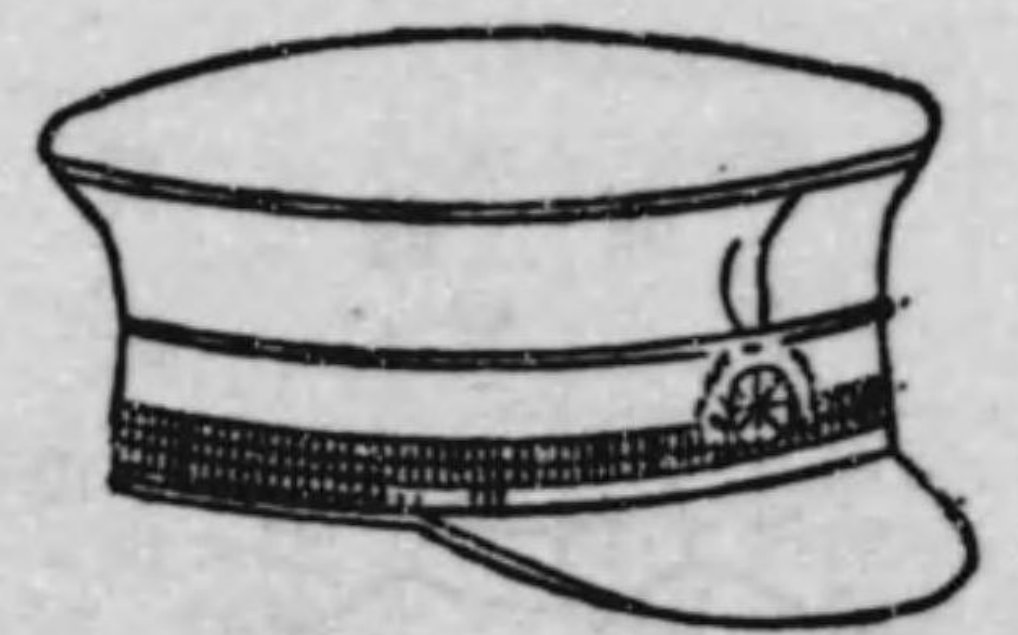
袴



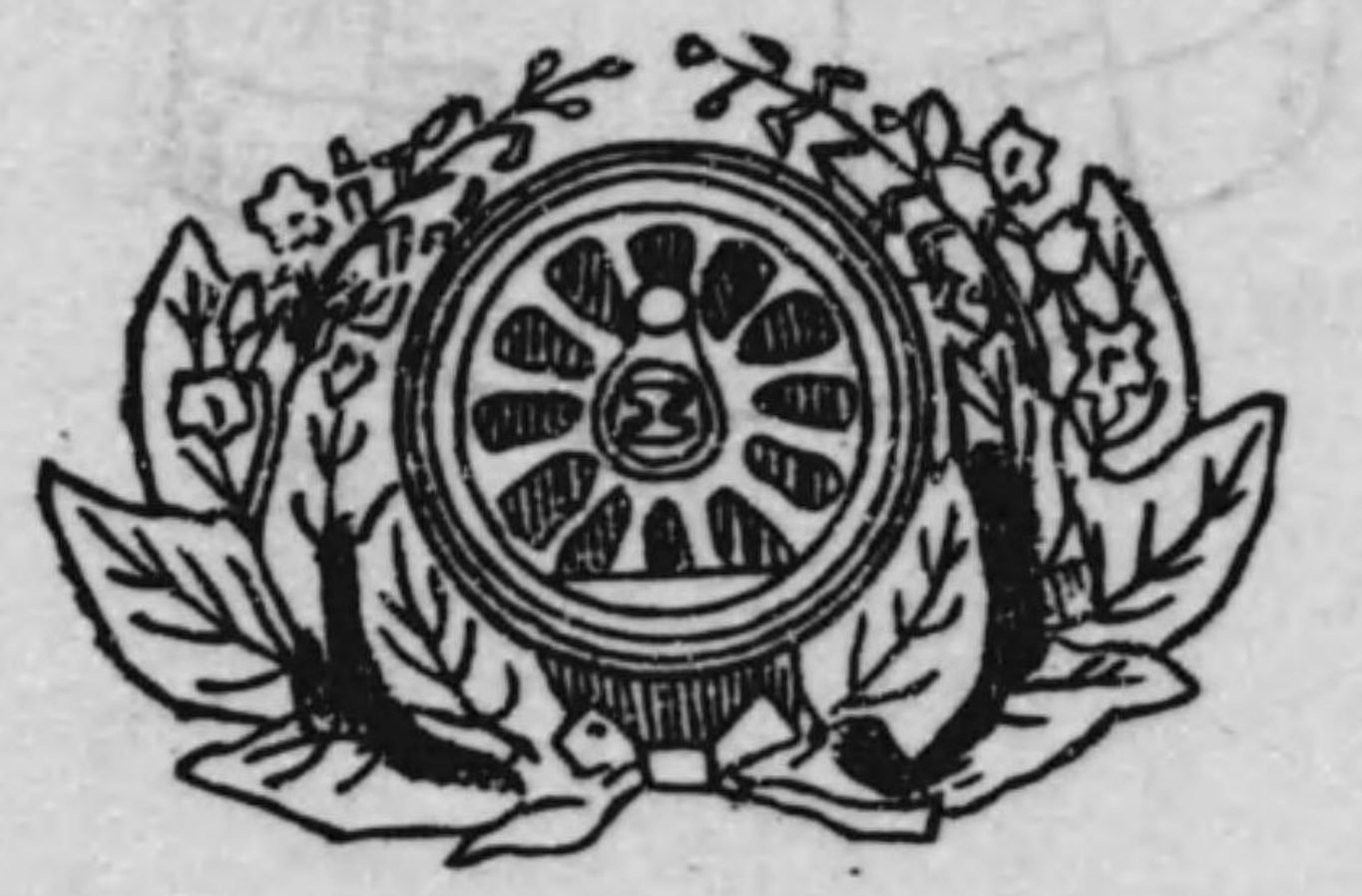
帽


驛長


助役

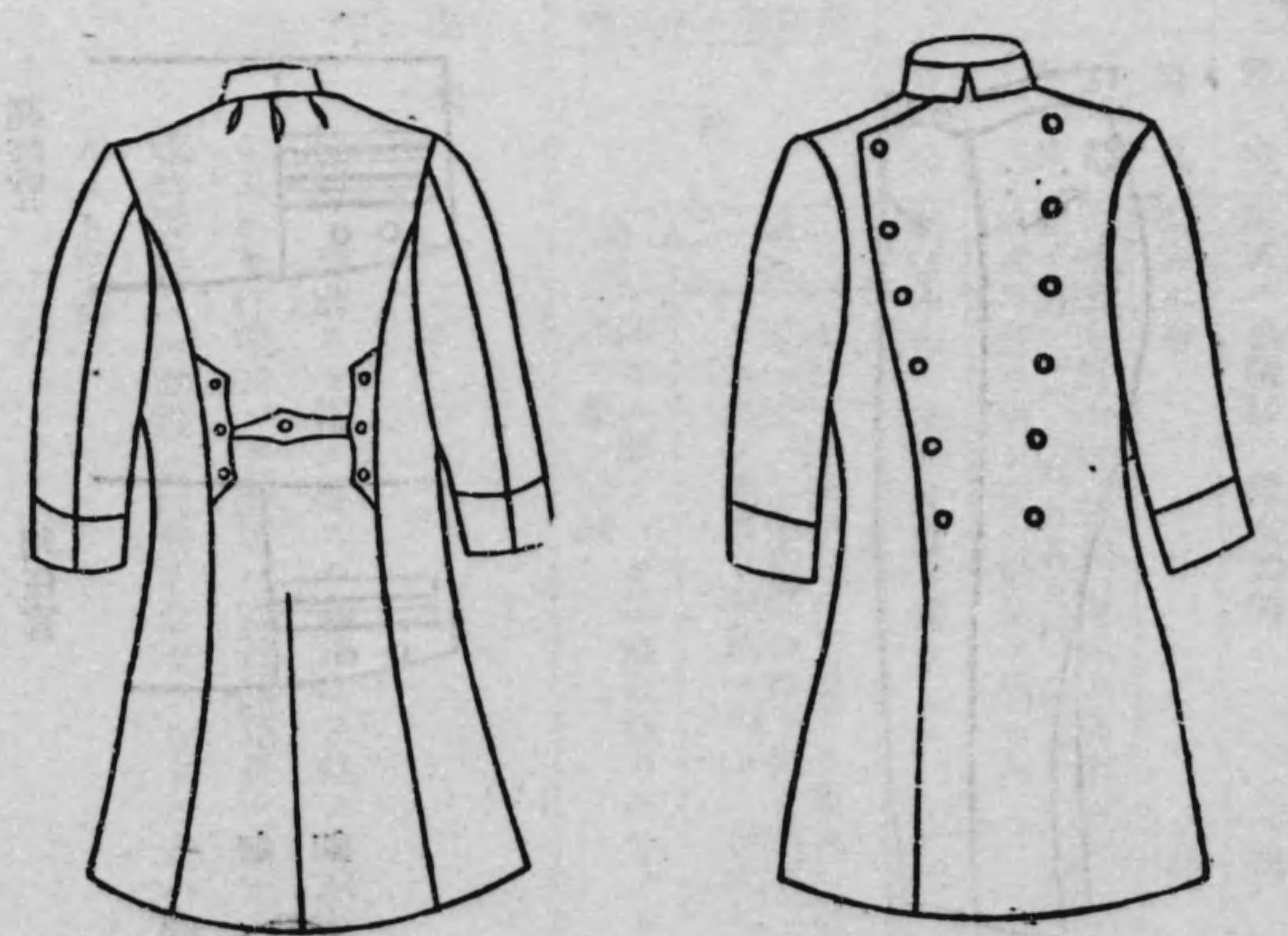

其他ノ從事員

徽章



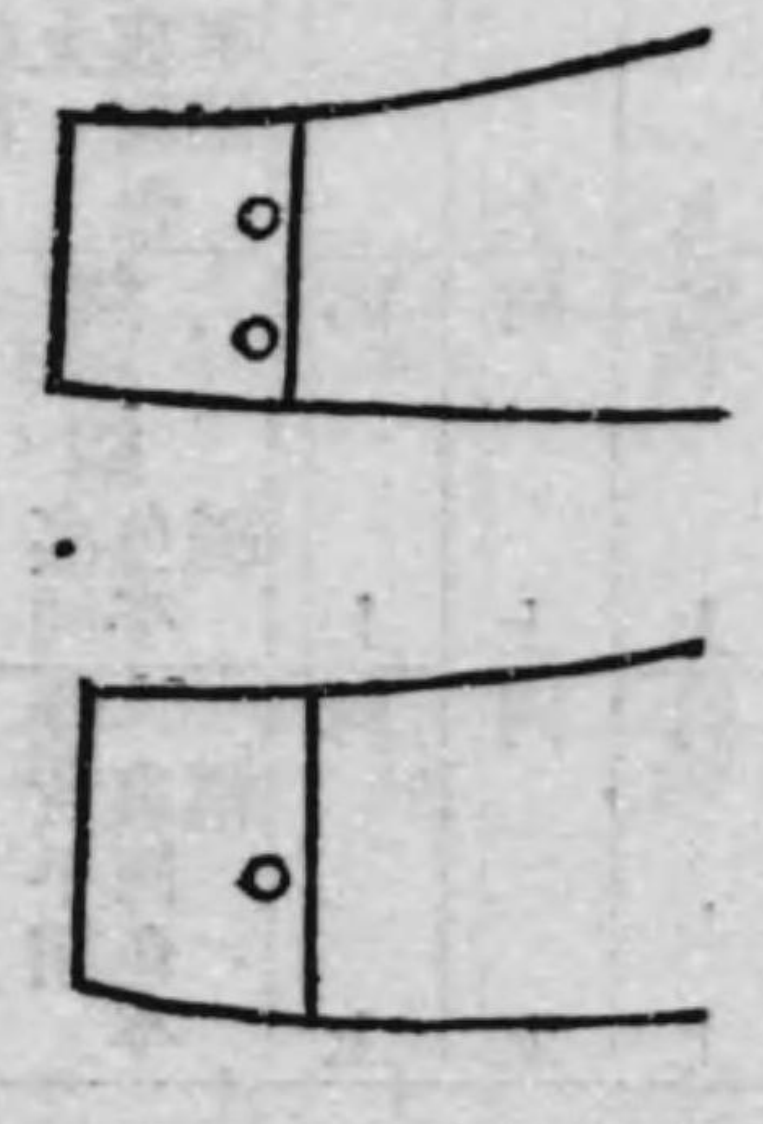
【參照】

外套

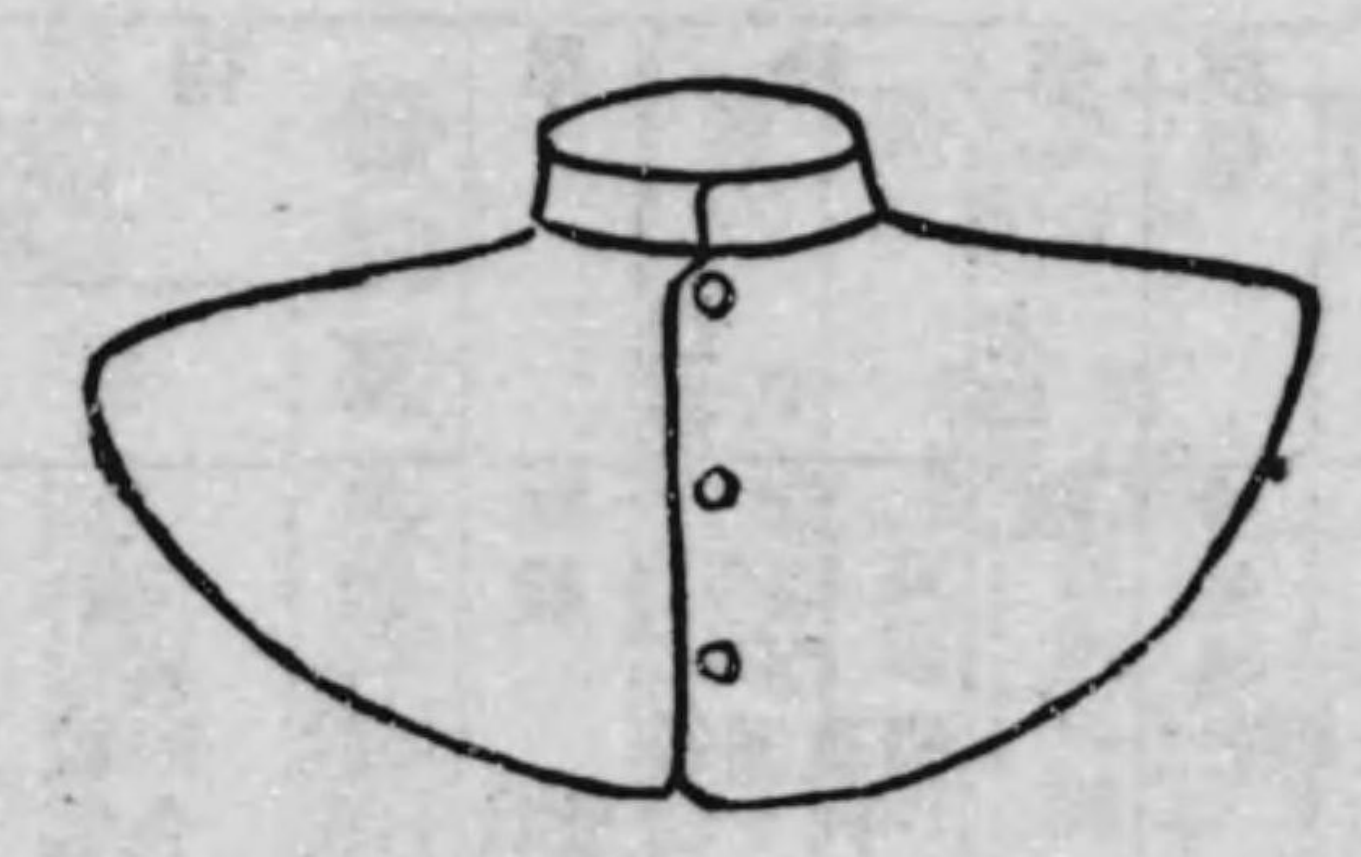

前面
後面

【參照】

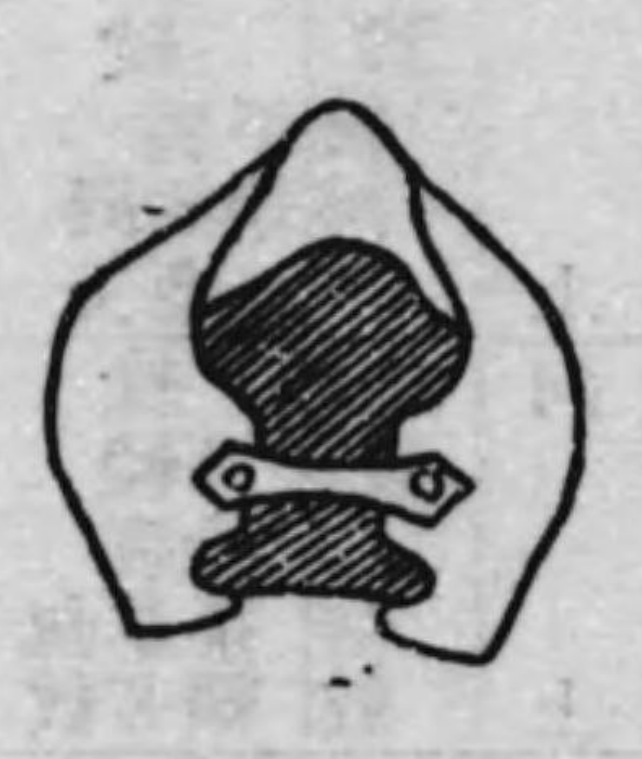
外套袖章


高等官
判任官

雨衣肩掛



外套及雨衣頭巾



●官國幣社以下神社幣帛供進使服制

明治四十四年四月二十九日
勅令第百三十號

改正 大正九年勅令第三號

朕官國幣社以下神社幣帛供進使服制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官國幣社以下神社幣帛供進使服制

官國幣社以下神社幣帛供進使服制別表ノ通定ム

市長（北海道ニ在リテハ區長）ハ奏任官ノ制ニ準シ町村長又ハ之ニ準スヘキ者ハ判任官ノ制ニ準ス其ノ代理者ニ付亦同シ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ府縣社以下神社幣帛供進使ニ限リ本令ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

（別表）

官國幣社以下神社幣帛供進使服制表

		勅任官	奏任官	判任官
冠	垂纓 掛緒紙捻	黒羅 紋小菱繁文	同上	黒羅 遠文
袍 縫腋	冬	黒綾 紋輪ナシ 裏同色平絹	赤綾 紋同上 裏同色平絹	緑綾 無紋 裏蘇芳染平絹
	夏	黒穀 紋輪ナシ	赤穀 紋同上	緑穀 無紋
單		紅綾 紋横菱繁文	同上	同上
袴	奴袴	紫固織 紋藤ノ丸 裏同色平絹	紫平絹 裏同色平絹	淺黄平絹 裏同色平絹
笏	木笏	櫟	同上	同上
檜扇		檜無地 二十五橋	同上	同上
帖紙		白檀紙	同上	同上
履	淺沓	沓敷、白綾有紋	沓敷、白平絹	同上

●神官神職服制

大正元年十二月七日
勅令第五十三號

改正 大正九年勅令第四號

朕神官神職服制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神官神職服制

神官神職服制別表ノ通定ム

附　則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

神官神職服制表

		皇族	勅任官及同待遇	奏任官及同待遇	判任官及同待遇
衣冠	冠 垂纓 掛緒紙捻	黒羅 紋小菱繁文	同上	同上	黒羅 遠文
	袍 縫腋 冬	黒綾 紋雲鶴 裏同色絹	黒綾 紋輪ナシ 裏同色平絹	赤綾 紋同上 裏同色平絹	緑綾 無紋 裏蘇芳染平絹
	袍 縫腋 夏	黒縠 紋雲鶴	黒縠 紋輪ナシ	赤縠 紋同上	緑縠 無紋
	單	紅綾 紋菱繁文	紅綾 紋横菱繁文	同上	同上
	袴 奴袴	紫織物 紋雲立涌 裏同色絹	紫固織 紋藤ノ丸 裏同色平絹	紫平絹 裏同色平絹	淺黄平絹 裏同色平絹
	笏 木笏	櫟ノ類	櫟	同上	同上
	檜扇	檜無地二十五橋	同上	同上	同上
	帖紙	白檀紙	同上	同上	同上
	履 淺沓	沓敷、白綾有紋	同上	沓敷、白平絹	同上

〔臺灣〕

齋服	冠 垂纓 掛緒紙捻	黒羅 遠文	同上	同上	同上
	袍 縫腋	白絹 裏ナシ但シ冬ハ白平絹ノ裏ヲ用ヰルコトヲ得	同上	同上	同上 裏ナシ
	單	白絹	同上	同上	同上
	袴 差袴	白 裏白平絹	同上	同上	同上
	笏 木笏	衣冠ニ同シ	同上	同上	同上
	帖紙	衣冠ニ同シ	同上	同上	同上
	履 淺沓	衣冠ニ同シ	同上	同上	同上
狩衣	烏帽子 掛緒紙捻	立	同上	同上	同上
	狩衣 直衣 親王、王ハ小直衣	綾、練薄、縫取、顯文紗、平絹ノ類 裏冬ハ平絹夏ハ生絹ヲ附スルコトヲ得	同上	綾、練薄、顯文紗、平絹ノ類 裏冬ハ平絹夏ハ生絹ヲ附スルコトヲ得	顯文紗、平絹ノ類 裏ナシ
	袴 差袴	衣冠ニ同シ	同上	同上	同上
	笏 木笏	衣冠ニ同シ	同上	同上	同上
	履 淺沓	衣冠ニ同シ	同上	同上	同上
	烏帽子 掛緒紙捻	立	同上	同上	同上
淨衣	淨衣	白絹 裏ナシ但シ冬ハ白平絹ノ裏ヲ用ヰルコトヲ得	同上	同上	同上
	袴 差袴	齋服ニ同シ	同上	同上	同上
	笏 木笏	衣冠ニ同シ	同上	同上	同上
	履 淺沓	衣冠ニ同シ	同上	同上	同上

〔臺灣〕

●神職服裝規程

昭和二年六月三日
臺灣總督府訓令第三十號

神職

神職服裝規程左ノ通相定ム

神職服裝規程

第一條　神職服裝ヲ分チテ正裝、禮裝、常裝ノ三種トス

第二條　正裝トハ衣冠ヲ著用スルヲ云フ

第三條　禮裝トハ齋服ヲ著用スルヲ云フ

第四條　常裝トハ狩衣又ハ淨衣ヲ著用スルヲ云フ

第五條　正裝ハ左ノ場合ニ著用スルモノトス

一　天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫御參拜ノトキ

二　大祭ノトキ

第六條　禮裝ハ左ノ場合ニ著用スルモノトス

一　皇族御參拜ノトキ

二　中祭ノトキ

第七條　常裝ハ小祭、日拜、恒例トシテ行フ式等ノ場合ニ著用スルモノトス

●制服ヲ著用セサル遞送人集配人鑑札携帶ノ件

明治三十五年三月
臺灣總督府訓令第八十八號

郵便局

遞送人集配人ニシテ制服ヲ著用セサル者ニハ左記雛形ノ鑑札ヲ携帶セシムヘシ但シ鑑札ハ各局經費ヲ以テ調製スヘシ

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十一年十一月訓令第三百十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

鑑札雛形木實適宜

表面

横曲尺二寸

竪曲尺二寸五分

第　號

○

何郵便（電信）局

集配人（又ハ遞送人）

何ノ誰

厚曲尺二分五厘

裏面

○

明治　年　月　日

局印

●服制ノ地質ニ關スル件

明治三十八年二月十四日
勅令第三十一號

朕服制ノ地質ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

諸服制中地質ニ絨ヲ用ウヘキモノハ當分ノ內適宜ノ地質ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地質、給與員數、使用期限等ニ關シ特別ノ規定ヲ要スルモノハ主務大臣之ヲ定ム

第二節　徽章

●臺灣總督府文官特別徽章ニ關スル件

明治三十三年八月三十一日
勅令第三百五十一號

朕【臨時臺灣土地調査局職員】其ノ他文官ノ特別徽章ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府文官中【臨時臺灣土地調査局職員】其ノ他臺灣總督ニ於テ必要ト認ムル文官ニハ特別ノ徽章ヲ附スルコトヲ得其ノ徽章ハ臺灣總督之ヲ定ム

●臺灣總督府警察旗章及警察官提燈徽章

明治三十四年十二月
臺灣總督府訓令第四百二十三號

臺灣總督府（官房ヲ除ク）　州　廳

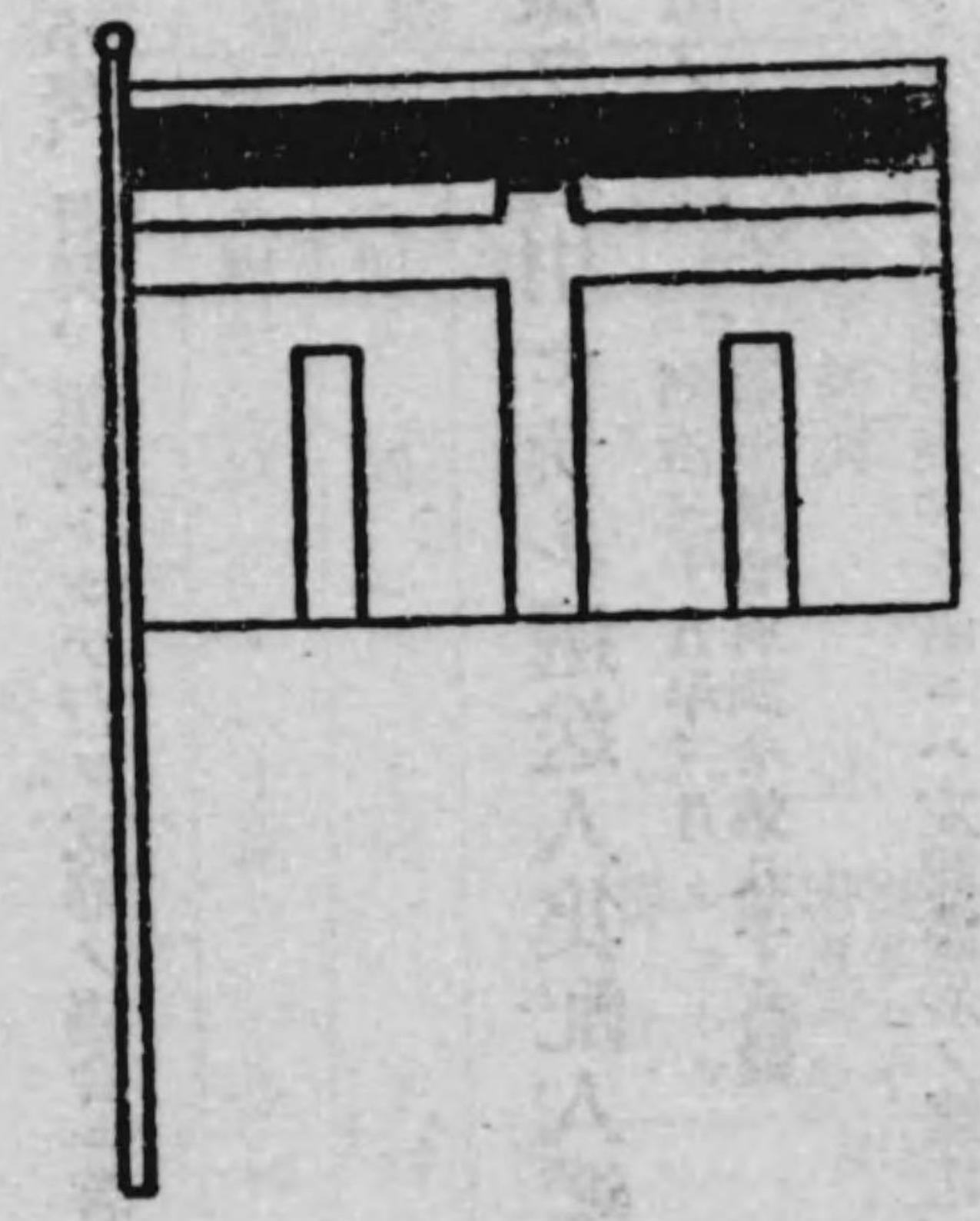
改正　大正九年訓令第一八六號

臺灣總督府警察旗章及警察官提燈徽章別記圖式ノ通相定ム

明治三十年十二月訓令第百六十九號ハ廢止ス

（別記圖式）

警察旗章



制式

一　地白

二　縱二尺五寸橫三尺五寸

三　最上ノ橫線ハ黑トシ其ノ他ノ線ヲ赤トス

四　最上黑線ノ上位ニ一寸ノ白地ヲ有タシム

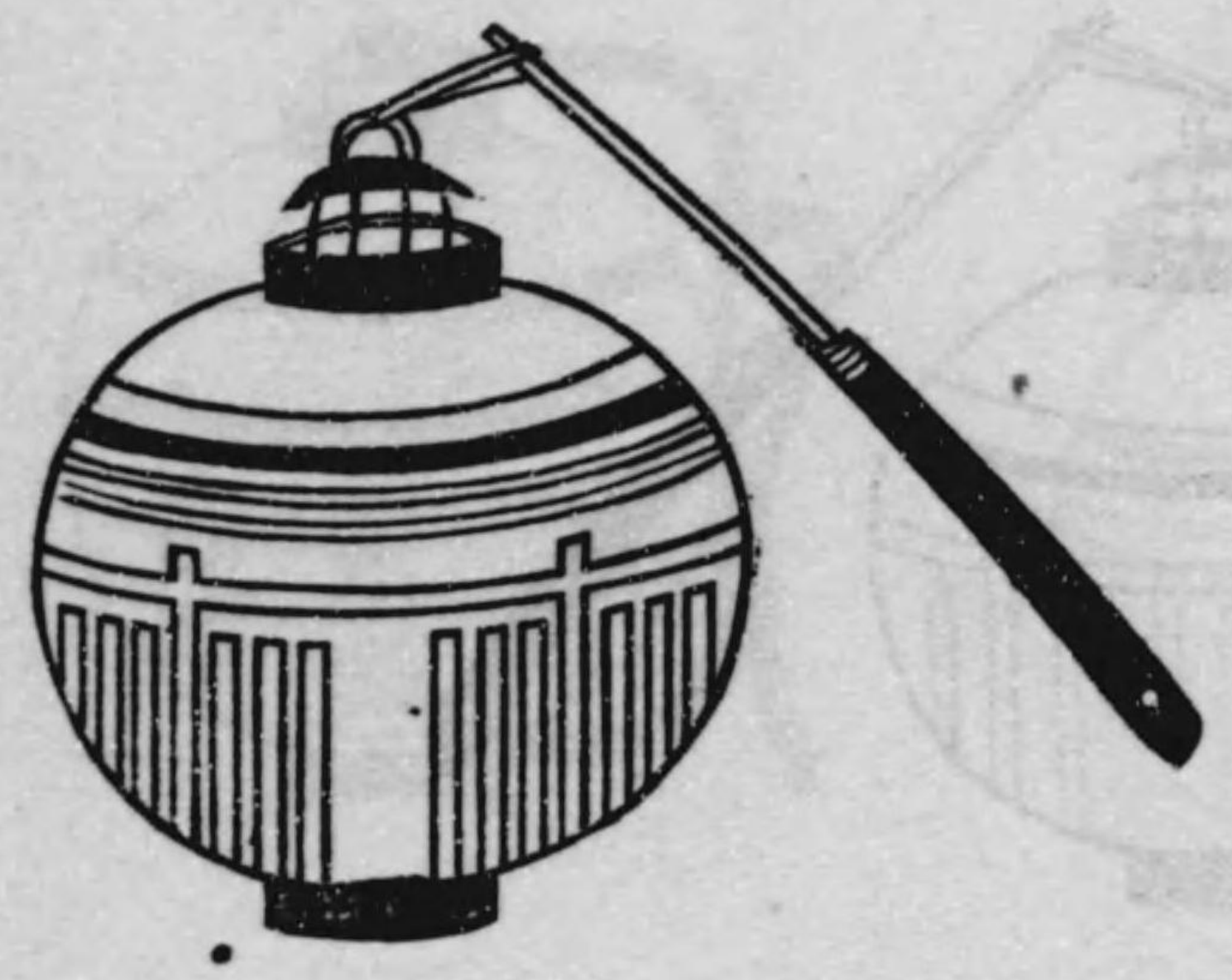
五　線ノ幅及線ト線トノ間隔ハ二寸五分トス

六　縱短線ノ長サハ六寸トシ中央縱線トノ間隔ハ六寸五分トス

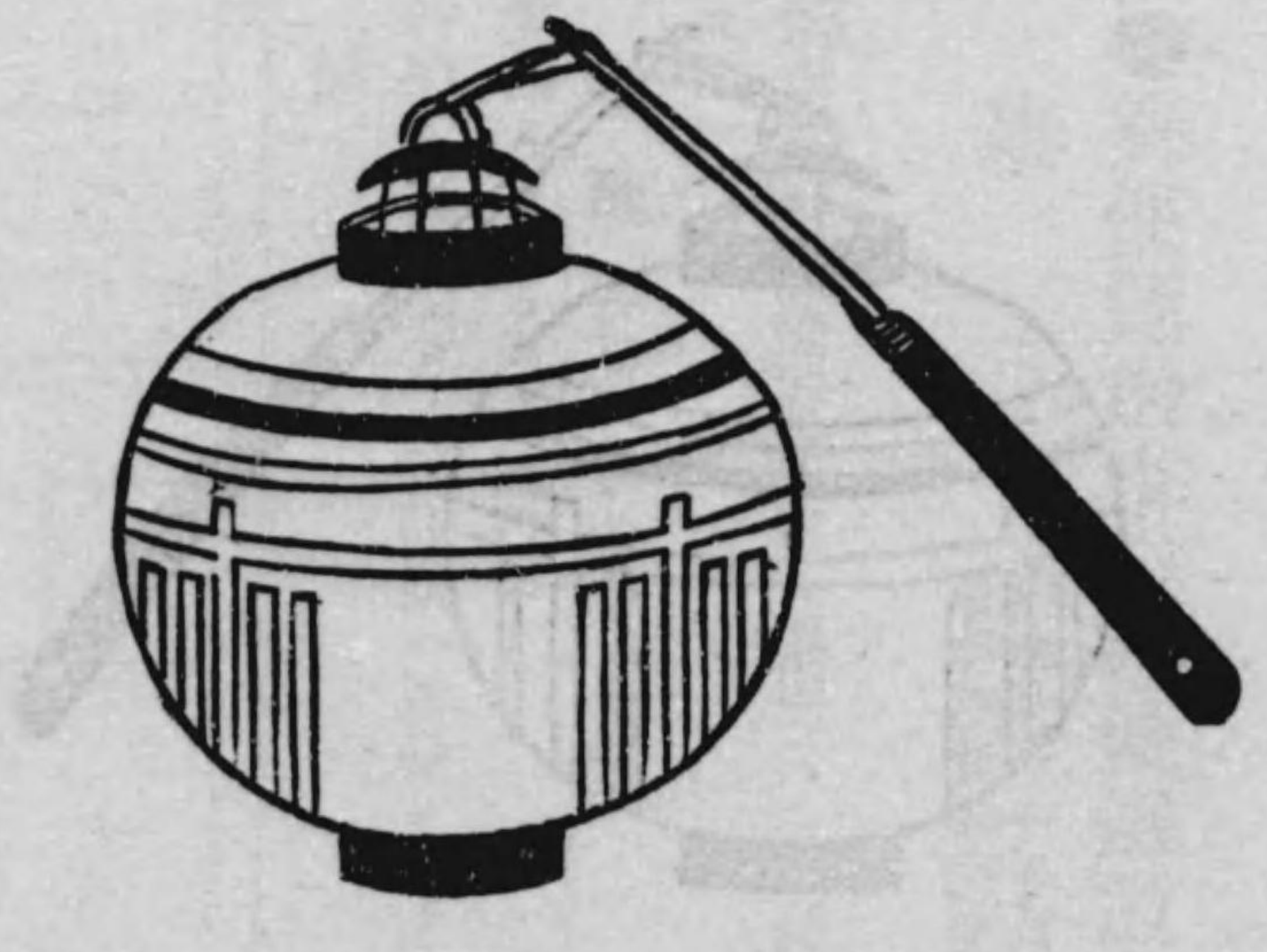
七　水上用其他特別ノ必要アル場合ニ適宜斟酌スルコトヲ得

警察官提灯徽章

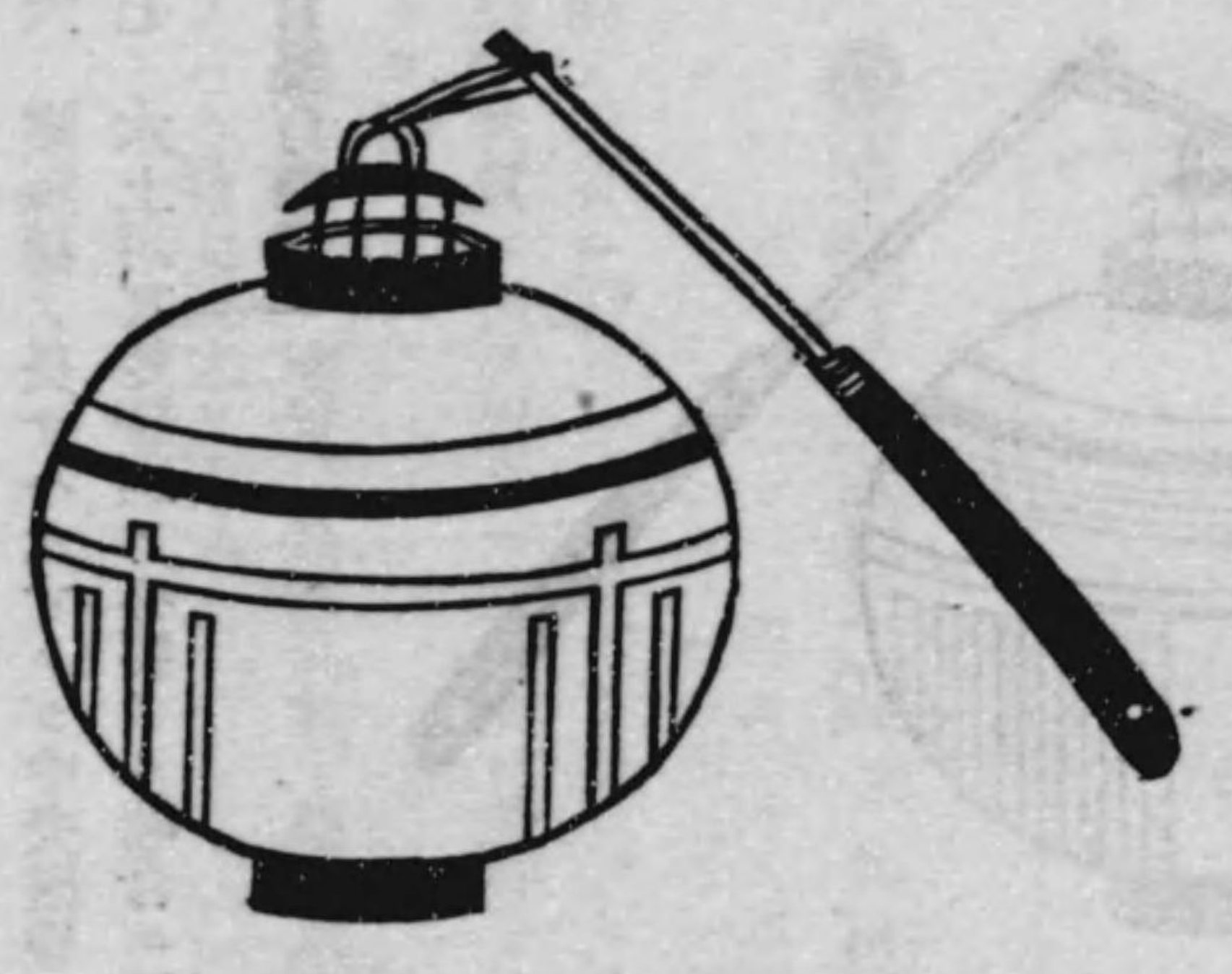
警務局長



州警務部長



警視



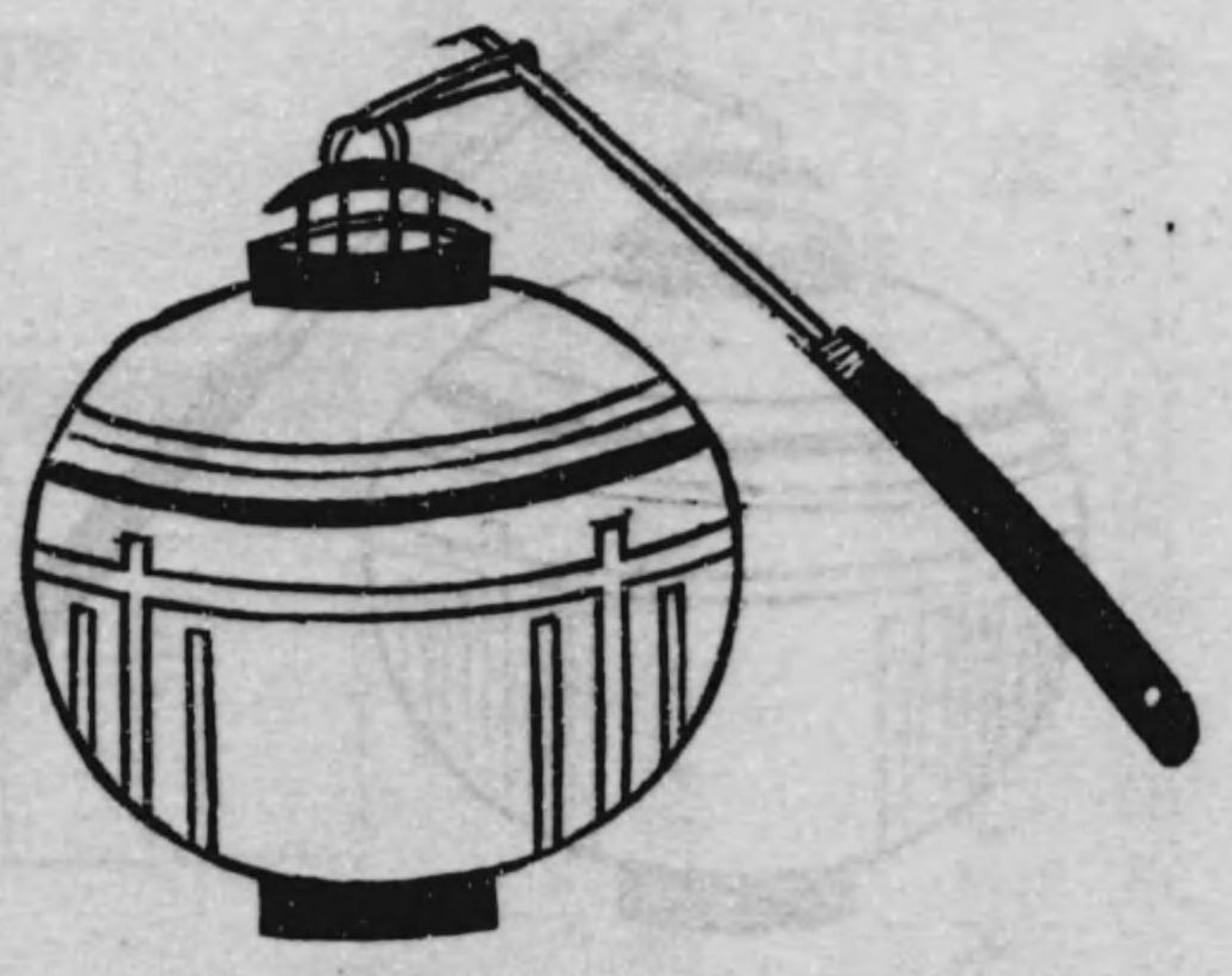
竪線赤色幅一寸三條

横線赤色幅六分一條 黑色幅六分一條

上部同上

【臺灣】

警部警部補

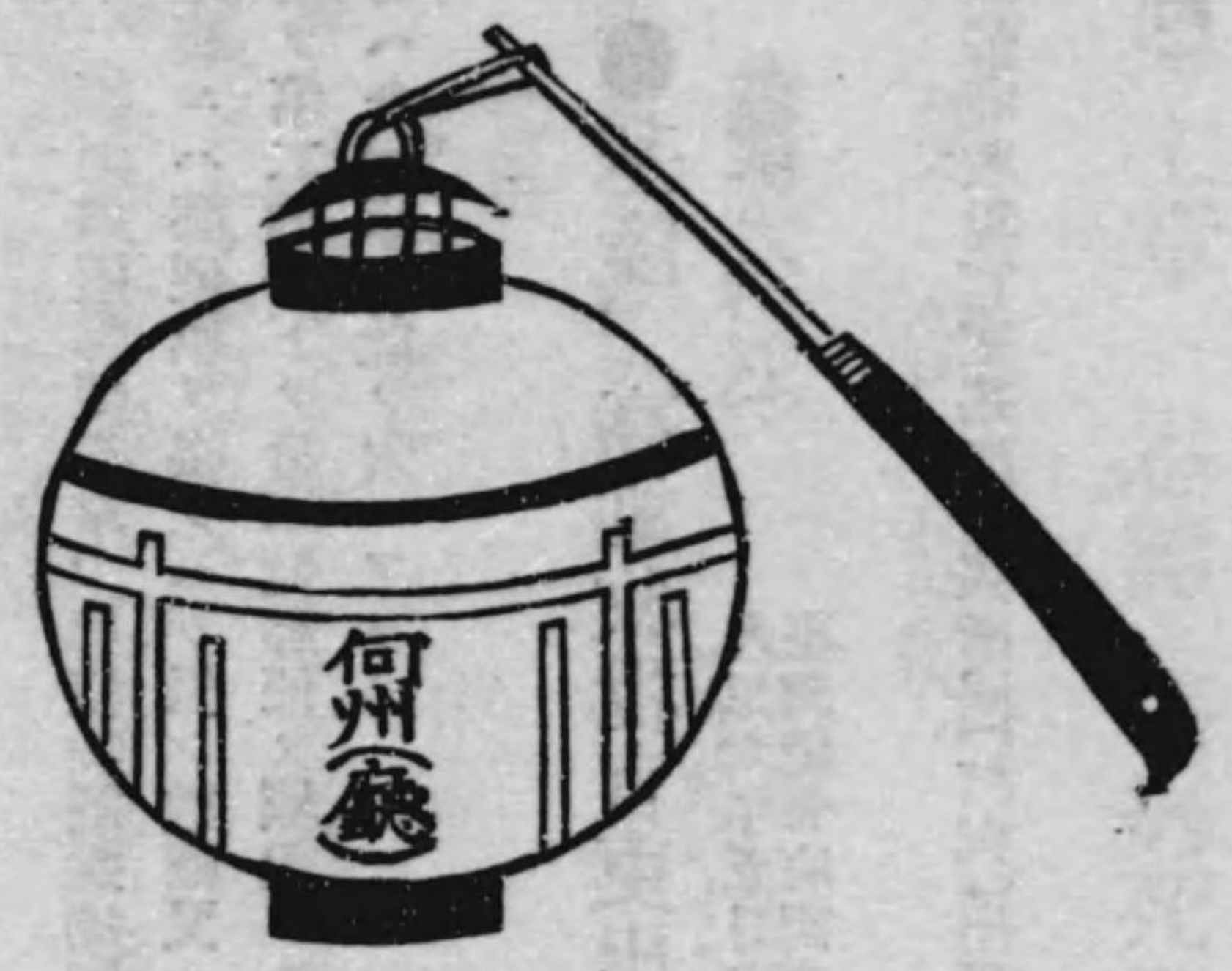


竪線同上

横線赤色幅六分二條 黑色幅六分一條

廳警務課長、支廳長、郡警察課長、警察署長、警察分署長ハ警視又ハ警部警部補ノ徽章中竪線ヲ斜線トス

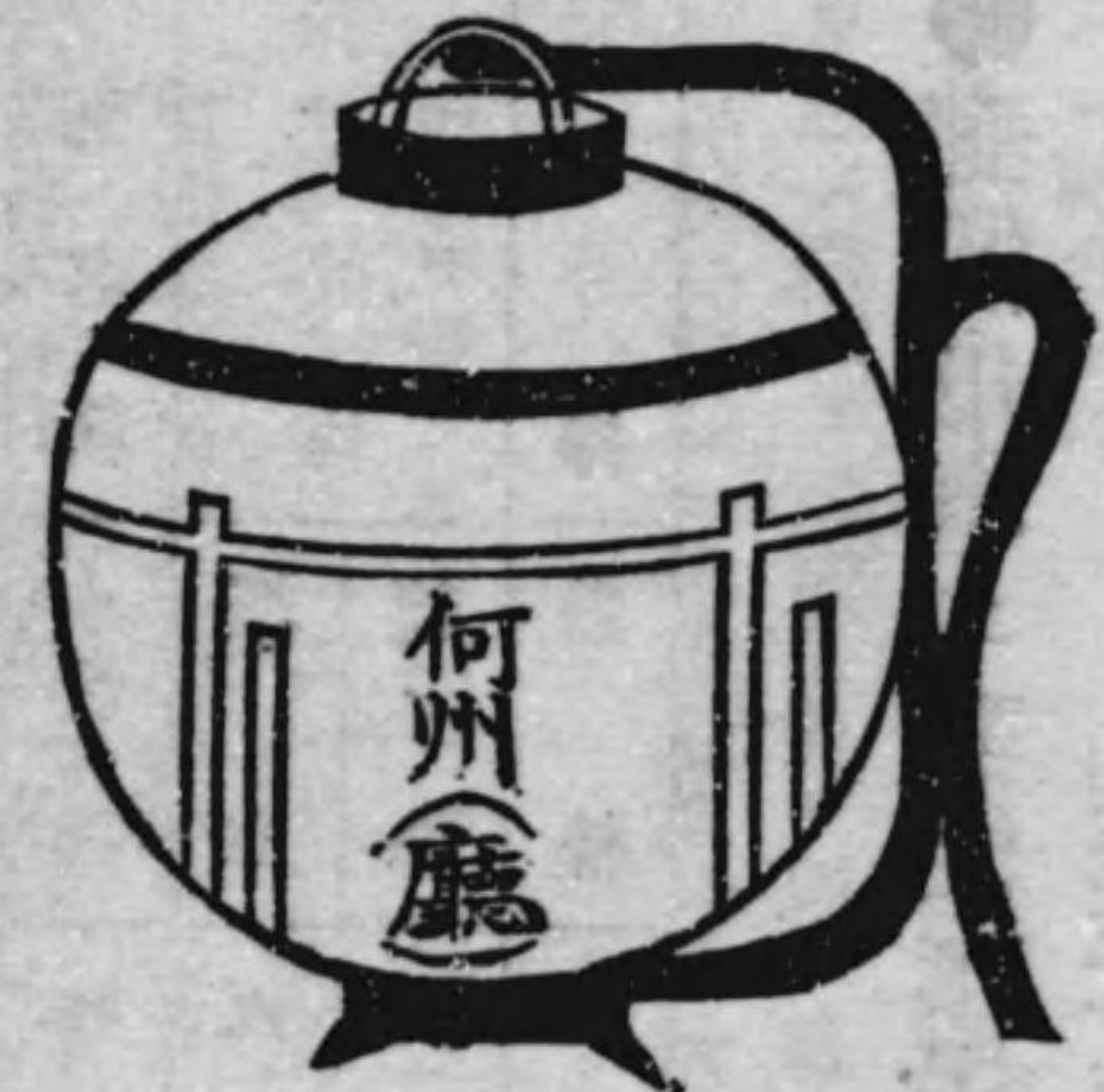
巡査部長



竪線同上

横線赤黒共幅一寸

巡査



竪線幅一寸

横線赤黑色共幅一寸

【臺灣】

●臺灣總督府郵便電信徽章

明治二十九年九月一日
臺灣總督府告示第十號

臺灣總督府郵便電信ノ徽章ハ明治二十年遞信省告示第十一號(〒)字形ヲ以テ徽章トス

●郵便遞送車竝輕便鐵道郵便車ノ郵便旗

明治三十一年六月
臺灣總督府訓令第百三十四號
（郵便局）

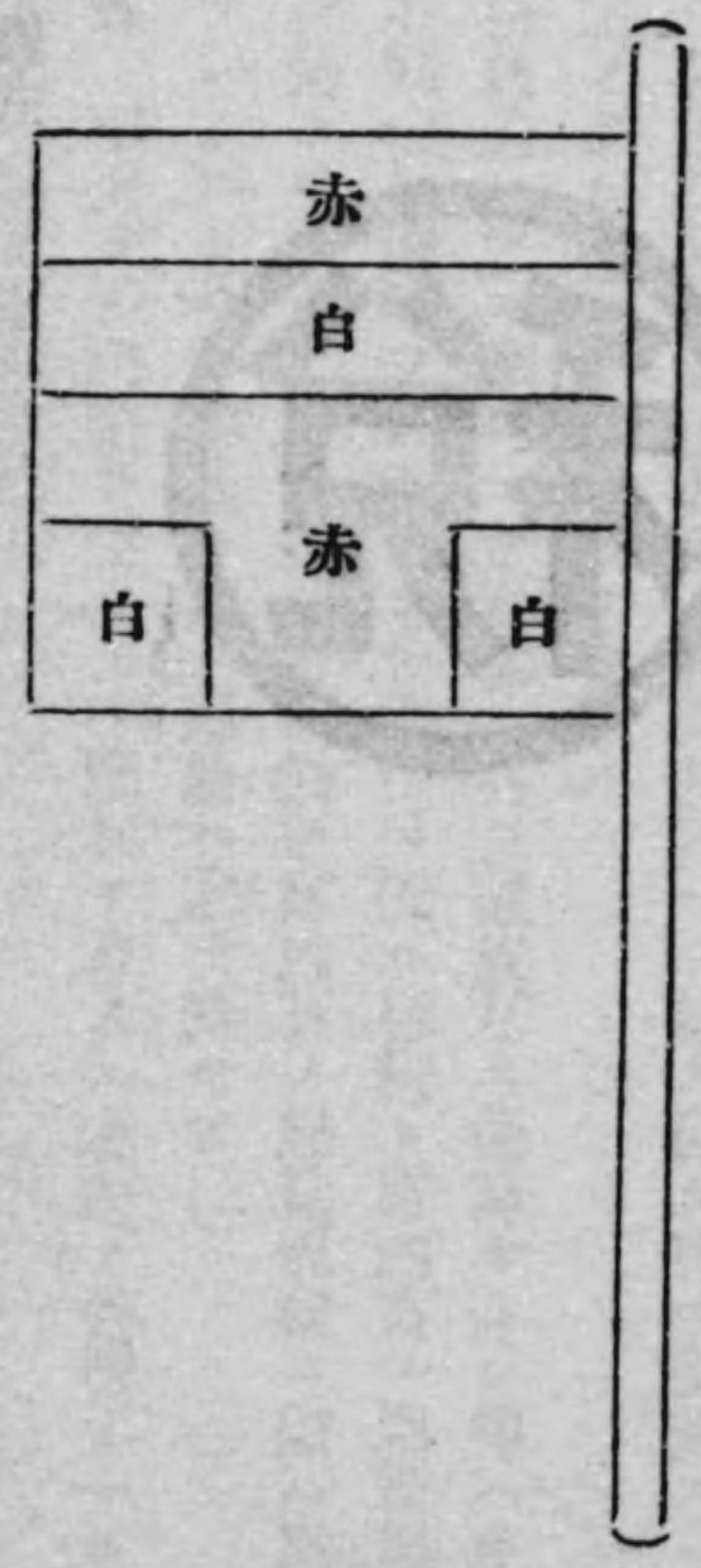
郵便遞送車竝輕便鐵道郵便車ニ掲用スル郵便旗ハ左ノ雛形及仕様法ニ準シ調製スヘシ

附 則（大正五年訓令第百十六號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ調製シタル郵便旗ハ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

雛 形



仕樣法

大部名稱	小部名稱	物質	寸法	
旗地	徽章	天布	幅	二寸四分
			明キ	一寸二分
	旗地	天布	横	一尺八寸
			竪	一尺二寸
旗棒	差棒	適宜	長	三尺八寸
			徑	六分五厘

●郵便舟車ニ郵便旗掲揚ノ件

明治三十五年九月
臺灣總督府訓令第二百四十一號
一、二、三等局

郵便車、輕便鐵道郵便臺車、郵便物遞送集配用電報配達用小蒸汽船、艀舟及端艇ニハ郵便旗ヲ揭クヘシ但シ數輛又ハ數艘連接使用スル郵便臺車及艀舟ノ第二列以下ノ舟車竝郵便ノ標記アル等其ノ郵便車タルコトヲ識別シ得ヘキ函車ハ此ノ限ニアラス

【臺報】

●基隆、高雄收稅官吏出張所汽船ノ徽章

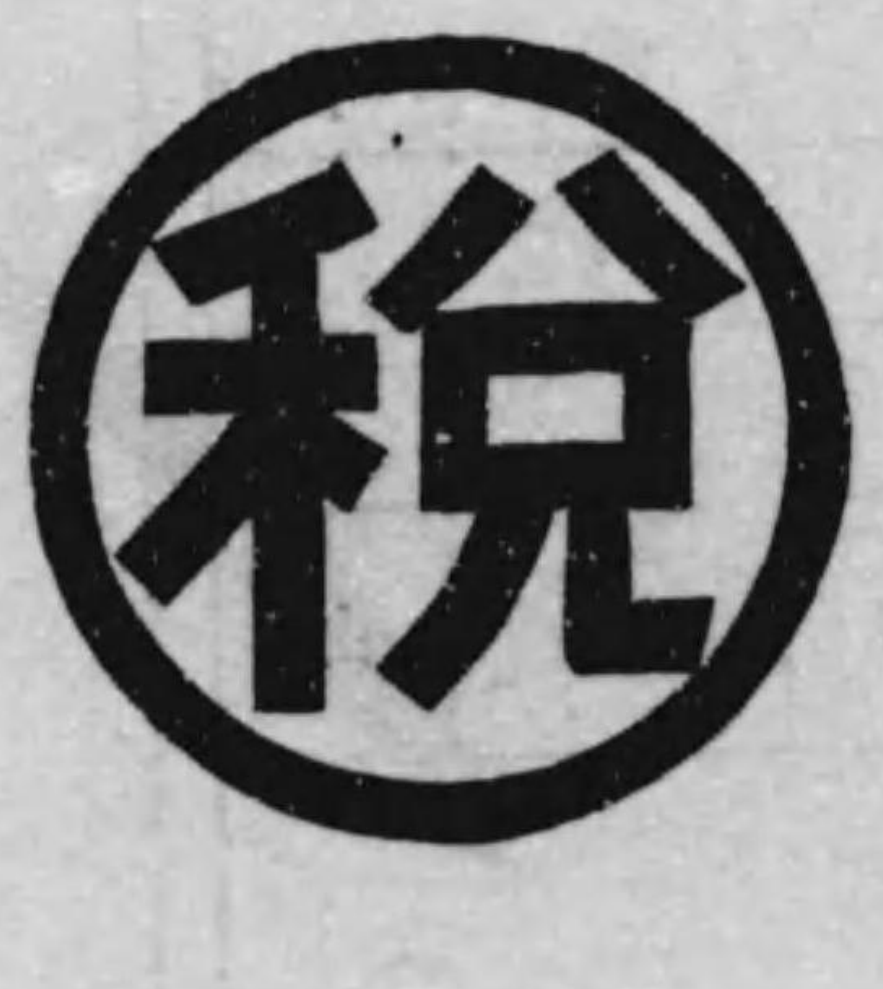
大正六年五月三十一日
臺灣總督府訓令第七十五號
【民政部】

臺灣總督府收稅官吏基隆出張所同【打狗】出張所汽船ノ徽章別記圖式ノ通相定ム

（別記）

【臺報】

圖式



第七章 恩給 疾病死傷手當

第一節 恩給

●恩給法

大正十二年四月十三日
法律第四十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル恩給法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

【臺報】

恩給法

第一章 總則

第一條 公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條 年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利ノ消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條 恩給年額竝一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條 時效期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時效完成セス

時效期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時效完成セス

時效期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時效期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時效期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條 公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ倂給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ倂給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　國籍ヲ失ヒタルトキ

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外內閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條　行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ內閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ內閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　內閣總理大臣及內閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條　內閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査會ニ諮問スヘシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

一　文官及準文官竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

二　軍人及準軍人竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

三　朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス

四　前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

五　警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

六　待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條　前條第一號、第二號又ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年中ニ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得

前條第三號、第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ國庫以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受タルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄內ニ於テ在職シタル第三號ニ揭クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第四號若ハ第五號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

第十八條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二章　公務員

第一節　通則

第十九條　本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員竝第二十四條ニ揭クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條　文官トハ武官又ハ宮內官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條　軍人トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者

二　國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者

準軍人トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生

二　勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條　教育職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　公立ノ學校若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
二　府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條　警察監獄職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　警部補、巡査、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衞及衆議院守衞
二　看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守
三　判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條　待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職
二　判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技手、感化院職員及矯正院職員
三　地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
四　前三號ニ揭クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條　本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職
二　現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト
三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命
四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
五　待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條　本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
二　現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職
三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職
四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス
五　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條　第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ戰務、戒嚴地境內ノ勤務又ハ外國ノ鎭戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條　公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條　公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テノ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條　軍人ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十一年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ四分ノ三ニ當ル年月數ヲ以テ計算ス

第三十一條　警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十年ニ達スル迄ハ警察監獄職員又ハ軍人以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ三分ノ二ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一　戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二　戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　公務員戒嚴地境內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ內國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條　公務員外國鎭戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第三十六條　航空機乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以內ヲ加算ス

第三十七條　潛水艦乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潛水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條　公務員其ノ職務ヲ以テ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以內ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十一條 左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年
二 第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年
三 在職中六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數
四 公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數
五 宮內職員トシテノ在職年月數ニシテ宮內官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ

第四十二條 左ニ掲クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一 宮內官ノ恩給規程ニ依リ宮內官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮內職員トシテノ在職年月數
二 準軍人ノ在職年月數
三 高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數
四 準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條第二十九條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ、第三十條ノ規定ハ前項第一號第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十三條 第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十一條ノ規定ハ前條第一項第二號乃至第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條 公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條 公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖恩給審査會ニ於テ不具癈疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十七條 前條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ
二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ
三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具癈疾ノ程度竝教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ
二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スル

モノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ
二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ退職シタルトキ
三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具廢疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

【差替】

一　後ノ傷痍又ハ疾病カ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ基因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス
二　後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ基因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第五十六條　前二條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條　前三條ノ規定ハ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一　公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵卒トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス
二　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項第二號ノ規定ハ增加恩給ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ此ノ限ニ在ラス

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ其ノ俸給又ハ給料ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二節　恩給金額

第六十條　文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

〔差替〕

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十一條　軍人在職年十一年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ準軍人在職年十一年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等及其ノ在職年數ニ依リ定メタル別表第一號表ノ金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ軍人ノ階等ニ應シ別表第一號表ノ十一年ノ額ト十二年ノ額トノ差額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ之ニ加給ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十一年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十一年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條　教育職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園又ハ盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第一項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十三條　警察監獄職員在職年十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十年以上十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條　待遇職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項及第四項竝第六十二條第六項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十五條　公務員ノ増加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ増加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條　下士以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年內ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等竝傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條　文官在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條　下士以上ノ軍人在職年十一年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ、此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

第六十九條　教育職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十條　警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條　待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章　遺族

第七十二條　本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二 普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條 未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ道ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

【[illegible]】

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第七十六條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條 扶助料ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

【[illegible]】

第七十八條 扶助料ヲ給セラルヘキ者ノ一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子、ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三 不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條 文官、教育職員若ハ待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ在職中死亡シ又ハ警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

下士以上ノ軍人在職年一年以上十一年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ死亡者ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

附則

第八十三條 本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一官吏恩給法

一官吏遺族扶助法

一軍人恩給法

一市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

一府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

一明治二十四年法律第四號

一明治二十九年法律第十三號

一官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

一明治二十九年法律第七十八號

一明治三十三年法律第七十五號

一明治三十三年法律第七十六號

一明治三十三年法律第七十七號

一巡査看守退隱料及遺族扶助料法
一明治三十五年法律第二十九號
一在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法
一明治四十年法律第四十八號
一明治四十年法律第四十九號
一明治四十一年法律第三十五號
一明治四十三年法律第三十號
一明治四十四年法律第六十一號
一明治四十四年法律第六十七號
一明治四十五年法律第十一號
一明治四十五年法律第十二號
一大正七年法律第三十號
一大正十年法律第三十五號
一大正十年法律第九十四號
一大正十一年法律第十八號
一大正十一年法律第十九號
一明治二十二年勅令第百三十三號
一明治二十三年勅令第九十八號
一明治二十五年勅令第十八號
一明治二十五年勅令第三十二號
一明治三十二年勅令第百九十六號
一明治三十八年勅令第二百二十九號
一明治四十年勅令第百八十八號

【參照】

一明治四十年勅令第百八十九號
一明治四十一年勅令第七十一號
一明治四十五年勅令第七十號
一大正七年勅令第六十二號
一大正十年勅令第二百六十八號
一大正十一年勅令第八十七號
一大正十一年勅令第二百八十四號
一明治九年第九十九號達陸軍恩給令
一明治十五年第四十一號達巡査看守給助例
一明治十六年第三十八號達海軍恩給令
一明治十七年第一號達官吏恩給令

第八十五條　本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條　第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

【參照】

第八十七條　第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條　從前ノ規定ニ依リ內閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル內閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條　府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條　內地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ六月、警察監獄職員ニ在リテハ二年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ三年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域內ニ勤務シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條　海軍警吏補ヨリ海軍巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡査ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條　朝鮮總督府巡査補ヨリ朝鮮總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本

法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡査補及朝鮮總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條 臺灣總督府巡査補ヨリ臺灣總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條 大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條 第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十八條 第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條 第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ付テハ當分ノ内之ヲ適用セス其ノ退隱料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ關スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ公務員ノ在職年トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依ル教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ掲クル在職年トノ間ニ付亦同シ但シ學習院ノ職員トシテノ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ轉任シタル者失格原因ナクシテ退職シ年金タル恩給ヲ受ケサル場合ニ於テハ文官ノ在職年數ニ應シ之ニ一時恩給ヲ給ス

教育職員ヨリ文官ニ轉シタル者教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ文官トシテ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官トシテノ在職最終ノ俸給額ニ基キ之ニ恩給ヲ給ス

第百條 本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本條ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ增額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ俟タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ增額セラレタルモノト看做ス

第百一條 本條施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ增給ス

第百二條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警查、海軍警查、貴族院守衞若ハ衆議院守衞又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ增額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

第百三條 北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百四條 第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（別表）

第一號表

階等	將官及相當官	將官及相當官	將官及相當官	佐尉官及相當官	佐尉官及相當官	佐尉官及相當官	佐尉官及相當官	佐尉官及相當官	佐尉官及相當官	准士官	下士	下士	下士	兵卒	兵卒	兵卒	兵卒
	親任	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	判任官	判任官	判任官	判任官				
在職年數	親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	一等	二等	三等	四等	海軍一等兵	陸軍上等兵 海軍二等兵	陸軍一等卒 海軍三等兵	陸軍二等卒 海軍四等兵
十一年	二、五〇〇圓	二、一六七圓	一、八六七圓	一、五三四圓	一、三一七圓	一、〇八四圓	七八四圓	五六七圓	四六七圓	四〇〇圓	二八五圓	二五五圓	二二五圓	二〇〇圓	一八〇圓	一六五圓	一五〇圓
十二年	二、五五〇	二、二一〇	一、九〇四	一、五六四	一、三四三	一、一〇五	七九九	五七八	四七六	四〇八	二九二	二六二	二三二	二〇六	一八六	一七一	一五六
十三年	二、六〇〇	二、二五四	一、九四二	一、五九五	一、三七〇	一、一二七	八一五	五九〇	四八六	四一六	二九九	二六九	二三九	二一二	一九二	一七七	一六二

十四年	二、六五〇	二、二九七	一、九七九	一、六二五	一、三九六	一、一四八	八三〇	六〇二	四九五	四二四	三〇六	二七六	二四六	二一八	一九八	一八三	一六八
十五年	二、七〇〇	二、三四一	二、〇一七	一、六五六	一、四三三	一、一七〇	八四六	六一三	五〇五	四三二	三一三	二八三	二五三	二二四	二〇四	一八九	一七四
十六年	二、七五〇	二、三八四	二、〇五四	一、六八六	一、四四九	一、一九一	八六一	六二四	五一四	四四〇	三二〇	二九〇	二六〇	二三〇	二一〇	一九五	一八〇
十七年	二、八〇〇	二、四二八	二、〇九二	一、七一七	一、四七六	一、二一三	八七七	六三六	五二四	四四八	三二七	二九七	二六七	二三六	二一六	二〇一	一八六
十八年	二、八五〇	二、四七一	二、一二九	一、七四七	一、五〇二	一、二三四	八九二	六四七	五三三	四五六	三三四	三〇四	二七四	二四二	二二二	二〇七	一九二
十九年	二、九〇〇	二、五一五	二、一六七	一、七七八	一、五二九	一、二五六	九〇八	六五九	五四三	四六四	三四一	三一一	二八一	二四八	二二八	二一三	一九八
二十年	二、九五〇	二、五五八	二、二〇四	一、八〇八	一、五五五	一、二七七	九二三	六七〇	五五二	四七二	三四八	三一八	二八八	二五四	二三四	二一九	二〇四
二十一年	三、〇〇〇	二、六〇二	二、二四二	一、八三九	一、五八二	一、二九九	九三九	六八二	五六二	四八〇	三五五	三二五	二九五	二六〇	二四〇	二二五	二一〇
二十二年	三、〇五〇	二、六四五	二、二七九	一、八六九	一、六〇八	一、三二〇	九五四	六九三	五七一	四八八	三六二	三三二	三〇二	二六六	二四六	二三一	二一六
二十三年	三、一〇〇	二、六八九	二、三一七	一、九〇〇	一、六三五	一、三四二	九七〇	七〇五	五八一	四九六	三六九	三三九	三〇九	二七二	二五二	二三七	二二二
二十四年	三、一五〇	二、七三二	二、三五四	一、九三〇	一、六六一	一、三六三	九八五	七一六	五九〇	五〇四	三七六	三四六	三一六	二七八	二五八	二四三	二二八
二十五年	三、二〇〇	二、七七六	二、三九二	一、九六一	一、六八八	一、三八五	一、〇〇一	七二八	六〇〇	五一二	三八三	三五三	三二三	二八四	二六四	二四九	二三四
二十六年	三、二五〇	二、八一九	二、四二九	一、九九一	一、七一四	一、四〇六	一、〇一六	七三九	六〇九	五二〇	三九〇	三六〇	三三〇	二九〇	二七〇	二五五	二四〇
二十七年	三、三〇〇	二、八六三	二、四六七	二、〇二二	一、七四一	一、四二八	一、〇三二	七五一	六一九	五二八	三九七	三六七	三三七	二九六	二七六	二六一	二四六
二十八年	三、三五〇	二、九〇六	二、五〇四	二、〇五三	一、七六七	一、四四九	一、〇四七	七六二	六二八	五三六	四〇四	三七四	三四四	三〇二	二八二	二六七	二五二
二十九年	三、四〇〇	二、九五〇	二、五四二	二、〇八三	一、七九四	一、四七一	一、〇六三	七七四	六三八	五四四	四一一	三八一	三五一	三〇八	二八八	二七三	二五八
三十年	三、四五〇	二、九九三	二、五七九	二、一一三	一、八二〇	一、四九二	一、〇七八	七八五	六四七	五五二	四一八	三八八	三五八	三一四	二九四	二七九	二六四
三十一年	三、五〇〇	三、〇三七	二、六一七	二、一四四	一、八四七	一、五一四	一、〇九四	七九七	六五七	五六〇	四二五	三九五	三六五	三二〇	三〇〇	二八五	二七〇
三十二年	三、五五〇	三、〇八〇	二、六五四	二、一七四	一、八七三	一、五三五	一、一〇九	八〇八	六六六	五六八	四三二	四〇二	三七二	三二六	三〇六	二九一	二七六
三十三年	三、六〇〇	三、一二四	二、六九二	二、二〇五	一、九〇〇	一、五五七	一、一二五	八二〇	六七六	五七六	四三九	四〇九	三七九	三三二	三一二	二九七	二八二
三十四年	三、六五〇	三、一六七	二、七二九	二、二三五	一、九二六	一、五七八	一、一四〇	八三一	六八五	五八四	四四六	四一六	三八六	三三八	三一八	三〇三	二八八
三十五年	三、七〇〇	三、二一一	二、七六七	二、二六六	一、九五三	一、六〇〇	一、一五六	八四三	六九五	五九二	四五三	四二三	三九三	三四四	三二四	三〇九	二九四
三十六年	三、七五〇	三、二五四	二、八〇四	二、二九六	一、九七九	一、六二一	一、一七一	八五四	七〇四	六〇〇	四六〇	四三〇	四〇〇	三五〇	三三〇	三一五	三〇〇
三十七年	三、八〇〇	三、二九八	二、八四二	二、三二七	二、〇〇六	一、六四三	一、一八七	八六六	七一四	六〇八	四六七	四三七	四〇七	三五六	三三六	三二一	三〇六
三十八年	三、八五〇	三、三四一	二、八七九	二、三五七	二、〇三二	一、六六四	一、二〇二	八七七	七二三	六一六	四七四	四四四	四一四	三六二	三四二	三二七	三一二
三十九年	三、九〇〇	三、三八五	二、九一七	二、三八八	二、〇五九	一、六八六	一、二一八	八八九	七三三	六二四	四八一	四五一	四二一	三六八	三四八	三三三	三一八
四十年	三、九五〇	三、四二八	二、九五四	二、四一八	二、〇八五	一、七〇七	一、二三三	九〇〇	七四二	六三二	四八八	四五八	四二八	三七四	三五四	三三九	三二四
四十一年	四、〇〇〇	三、四七二	二、九九二	二、四四九	二、一一二	一、七二九	一、二四九	九一二	七五二	六四〇	四九五	四六五	四三五	三八〇	三六〇	三四五	三三〇
四十二年	四、〇五〇	三、五一五	三、〇二九	二、四七九	二、一三八	一、七五〇	一、二六四	九二三	七六一	六四八	五〇二	四七二	四四二	三八六	三六六	三五一	三三六
四十三年	四、一〇〇	三、五五九	三、〇六七	二、五一〇	二、一六五	一、七七二	一、二八〇	九三五	七七一	六五六	五〇九	四七九	四四九	三九二	三七二	三五七	三四二
四十四年	四、一五〇	三、六〇二	三、一〇四	二、五四〇	二、一九一	一、七九三	一、二九五	九四六	七八〇	六六四	五一六	四八六	四五六	三九八	三七八	三六三	三四八
四十五年	四、二〇〇	三、六四六	三、一四二	二、五七一	二、二一八	一、八一五	一、三一一	九五八	七九〇	六七二	五二三	四九三	四六三	四〇四	三八四	三六九	三五四
四十六年	四、二五〇	三、六八九	三、一七九	二、六〇一	二、二四四	一、八三六	一、三二六	九六九	七九九	六八〇	五三〇	五〇〇	四七〇	四一〇	三九〇	三七五	三六〇
四十七年	四、三〇〇	三、七三三	三、二一七	二、六三二	二、二七一	一、八五八	一、三四二	九八一	八〇九	六八八	五三七	五〇七	四七七	四一六	三九六	三八一	三六六
四十八年	四、三五〇	三、七七六	三、二五四	二、六六二	二、二九七	一、八七九	一、三五七	九九二	八一八	六九六	五四四	五一四	四八四	四二二	四〇二	三八七	三七二
四十九年	四、四〇〇	三、八二〇	三、二九二	二、六九三	二、三二四	一、九〇一	一、三七三	一、〇〇四	八二八	七〇四	五五一	五二一	四九一	四二八	四〇八	三九三	三七八
五十年	四、四五〇	三、八六三	三、三二九	二、七二三	二、三五〇	一、九二二	一、三八八	一、〇一五	八三七	七一二	五五八	五二八	四九八	四三四	四一四	三九九	三八四

第二號表

階等 ＼ 症狀等差 ＼ 傷病原因	甲 職闘又ハ戰闘ニ準 特別項	甲 職闘又ハ戰闘ニ準 第一項	甲 職闘又ハ戰闘ニ準 第二項
親任 勅任 勅任待遇 將官	圓	二、四〇〇	二、〇〇〇
奏任 三等乃至五等 奏任待遇 佐官	圓	一、八〇〇	一、五〇〇
奏任 六等乃至九等 奏任待遇 尉官	圓	一、二〇〇	一、〇〇〇
判任 一等 判任待遇 准士官	圓	一、〇八〇	九〇〇
判任 二等三等 判任待遇 下士	圓	九九〇	八二五
判任 四等 判任待遇 兵卒	圓	九〇〇	七五〇

號	スヘキ公務	第三項	一、六〇〇	一、二〇〇	八〇〇	七二〇	六六〇	六〇〇
		第四項	一、二八〇	九六〇	六四〇	五七六	五二八	四八〇
		第五項	一、〇〇〇	七五〇	五〇〇	四五〇	四一三	三七五
		第六項	八〇〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇
乙號	普通公務	特別項	圓	圓	圓	圓	圓	圓
		第一項	一、九二〇	一、四四〇	九六〇	八六四	七九二	七二〇
		第二項	一、六〇〇	一、二〇〇	八〇〇	七二〇	六六〇	六〇〇
		第三項	一、二八〇	九六〇	六四〇	五七六	五二八	四八〇
		第四項	一、〇二四	七六八	五一二	四六一	四二三	三八四
		第五項	八〇〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇
		第六項	六四〇	四八〇	三二〇	二八八	二六四	二四〇

備考 特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

傷病原因	症狀等差	下士	兵卒
甲號 戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	第一款	一、六五〇圓	一、五〇〇圓
	第二款	一、四八五	一、三五〇
	第三款	一、三二〇	一、二〇〇
	第四款	一、一五五	一、〇五〇
	第五款	九九〇	九〇〇
	第六款	八二五	七五〇
	第七款	六六〇	六〇〇
	第八款	四九五	四五〇
	第九款	三三〇	三〇〇
	第十款	一六五	一五〇
乙號 普通公務	第一款	一、三二〇圓	一、二〇〇圓
	第二款	一、一八八	一、〇八〇
	第三款	一、〇五六	九六〇
	第四款	九二四	八四〇
	第五款	七九二	七二〇
	第六款	六六〇	六〇〇
	第七款	五二八	四八〇
	第八款	三九六	三六〇
	第九款	二六四	二四〇
	第十款	一三二	一二〇

【臺轄】

【臺轄】

第四號表

階等		在職年數		一年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年
將官及相當官	高等官	親任	圓							四、三七五	五、〇〇〇	五、六二五	六、二五〇
		一等	圓						三、二五〇	三、七九二	四、三三三	四、八七五	五、四一七
		二等	圓					二、三三三	二、八〇〇	三、二六七	三、七三三	四、二〇〇	四、六六七
佐尉官及相當官		三等	圓				一、五三三	一、九一七	二、三〇〇	二、六八三	三、〇六七	三、四五〇	三、八三三
		四等	圓			九八八	一、三一七	一、六四六	一、九七五	二、三〇四	二、六三三	二、九六三	三、二九二
		五等	圓		五四二	八一三	一、〇八三	一、三五四	一、六二五	一、八九六	二、一六七	二、四三八	二、七〇八
		六等	圓	一九六	三九二	五八八	七八四	九八〇	一、一七六	一、三七二	一、五六八	一、七六四	一、九六〇
		七等	圓	一四二	二八三	四二五	五六七	七〇八	八五〇	九九二	一、一三三	一、二七五	一、四一七
		八等	圓	一一七	二三三	三五〇	四六七	五八三	七〇〇	八一七	九三三	一、〇五〇	一、一六七
准士官	判任官	一等	圓	一〇〇	二〇〇	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	八〇〇	九〇〇	一、〇〇〇
下士		二等	圓	七一	一四三	二一四	二八五	三五六	四二八	四九九	五七〇	六四一	七一三
		三等	圓	六四	一二八	一九一	二五五	三一九	三八三	四四六	五一〇	五七四	六三八
		四等	圓	五六	一一三	一六九	二二五	二八一	三三八	三九四	四五〇	五〇六	五六三

●恩給法施行令

（大正十二年八月十七日 勅令第三百六十七號）

改正 大正一二年勅令第五二〇號、一三年第五一號、第四〇七號、一四年第五三號、一五年第二四四號、第三〇四號、昭和二年第三六二號、三年第七三號

朕恩給法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

恩給法施行令

第一條 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戸籍內ニ在リタルコトヲ要ス

第二條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三條 恩給法第十二條ノ規定ニ依リ內閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

一 內地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

二 前號ニ揭クルモノヲ除クノ外內地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

【臺灣】

三 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州（南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以下同シ）又ハ南洋群島ニ於テ國庫ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員（陸海軍ニ屬スルモノ及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督（道ノ警部補、巡査及消防手竝其ノ遺族ノ恩給ハ道知事）、臺灣ニ在リテハ臺灣總督（州又ハ廳ノ警部補及巡査竝其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五 內地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）之ヲ裁定ス

六 恩給法第二十四條第三號ニ揭クル待遇職員（國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ裁定ス

第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給及扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキ二種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ最終ノ俸給年額（下士以下ノ軍人及之ニ相當スル準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ金額ヲ俸給年額ト看做ス）ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ屬スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付一年

二 恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤續ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付六月

前三項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條 恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第六條 左ニ揭クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

【臺灣】

一 地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二 都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三 神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四 朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條 恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍戸山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍ノ士官候補生、海軍豫備生徒竝海軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第八條 恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官之ヲ定ム

第九條 恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保姆ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第十條 恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一 道路管理職員制ニ依ル職員

二 地方土木職員制ニ依ル職員

三 地方産業職員制ニ依ル職員（市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）

四 地方測候所職員制ニ依ル職員

五 地方學校衞生職員制ニ依ル職員

六 地方社會教育職員制ニ依ル職員

七 地方社會事業職員制ニ依ル職員

八 地方建築職員制ニ依ル職員